

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7507371号
(P7507371)

(45)発行日 令和6年6月28日(2024.6.28)

(24)登録日 令和6年6月20日(2024.6.20)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 5/04 6 1 1 A

A 6 3 F 5/04 6 6 1

請求項の数 1 (全271頁)

(21)出願番号	特願2021-71246(P2021-71246)	(73)特許権者	390031783
(22)出願日	令和3年4月20日(2021.4.20)		サミー株式会社
(65)公開番号	特開2022-165761(P2022-165761 A)		東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー
(43)公開日	令和4年11月1日(2022.11.1)	(72)発明者	林 英司
審査請求日	令和6年3月29日(2024.3.29)		東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
早期審査対象出願		(72)発明者	西口 僚太
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
		(72)発明者	棚田 龍平
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社 最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

スタートスイッチと、
複数のリールと、
ストップスイッチと、
画像表示手段と、
内部抽せん手段と
を備え、

ストップスイッチに関する全ての押し順において、正解押し順が均等に割り振られていない所定の条件装置グループを有し、

所定の演出として、所定の条件装置グループのうち何れかの条件装置が内部抽せん手段によって決定されたことは報知するが、正解押し順は報知しない演出を有し、

所定の条件装置グループのうち所定の条件装置が内部抽せん手段によって決定されて前記所定の演出を実行する場合は、指示モニタに所定情報が出力可能であるよう構成されており、

所定の条件装置グループのうち所定の条件装置が内部抽せん手段によって決定されて正解押し順の報知を実行する場合は、指示モニタに前記所定情報とは異なる特定情報が出力可能であるよう構成されており、

前記所定情報は、所定リールに対応するストップスイッチを第1停止操作させることが正解押し順でない押し順に関する情報であり、

前記特定情報は、正解押し順に関する情報であり、

内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技では、ストップスイッチが正解押し順で停止操作された場合に遊技者にとって有利となる図柄組合せを停止表示可能であり、

内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技では、画像表示手段に正解押し順に対応する停止操作情報を表示可能であり、

停止操作情報として、第1停止操作に関する情報である第1停止操作情報と、第2停止操作に関する情報である第2停止操作情報と、第3停止操作に関する情報である第3停止操作情報と、を表示可能であり、

前記第1停止操作情報の表示態様として、通常態様と成功態様とを少なくとも有しており、

前記第2停止操作情報の表示態様として、通常態様と成功態様とを少なくとも有しており、

成功態様は、ストップスイッチが操作されたことに基づいて表示され得る表示態様であり、

スタートスイッチが操作され、内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技であって、画像表示手段に正解押し順に対応する停止操作情報が表示されているときに、第1停止操作として前記第1停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第1停止操作情報が成功態様で表示されてから非表示になっており、且つ前記第2停止操作情報が表示されているときに、第2停止操作として前記第2停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第2停止操作情報が成功態様で表示されてから非表示になっており、且つ前記第3停止操作情報が表示されている状況にて、電源断が発生し、電源復帰した後は、少なくとも、画像表示手段に前記第2停止操作情報が成功態様で再表示可能であり、

スタートスイッチが操作され、内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技であって、画像表示手段に正解押し順に対応する停止操作情報が表示されているときに、第1停止操作として前記第1停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第1停止操作情報が成功態様で表示されてから非表示になっており、且つ前記第2停止操作情報が表示されているときに、第2停止操作として前記第3停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第2停止操作情報が非表示になっている状況にて、電源断が発生し、電源復帰した後は、少なくとも、画像表示手段に前記第2停止操作情報が再表示されない

遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

回胴式遊技機（スロットマシン）は、所定数の遊技メダルを投入後に遊技開始指示装置（スタートレバー）が操作されたことを契機として遊技が開始されて、複数の図柄が外周上に配置された複数列の回胴（リール）が回転動作し、当該回転動作を停止させるための回胴停止装置（ストップボタン）を駆使して回胴を停止させた結果、有効ライン上に所定の図柄の組合せ（例えば「777」等の入賞役）が並んだ場合には、通常遊技状態よりも遊技者にとって利益状態の高い特別遊技状態（通常時よりも小役等の抽選確率が上昇する遊技状態）に移行するタイプのものが一般的である。ここで、回胴式遊技機においては、このような基本的な遊技に加えて各種演出を行うことにより、全体として趣向性の向上が図られている。また、遊技メダルの払出しに併せて払出音の出力、獲得枚数の表示やバックランプ演出を行うことで遊技メダルが適切に払い出されたことを認識できるようになっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2015-181620号公報

【文献】特開2004-215803号公報

【文献】特開2014-171710号公報

【文献】特開2006-263138号公報

【文献】特開2013-244086号公報

【文献】特開2016-016256号公報

【文献】特開2017-079878号公報

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

この種の遊技機においては、その性能の向上が望まれている。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は、スタートスイッチと、

複数のリールと、

ストップスイッチと、

画像表示手段と、

内部抽せん手段と

を備え、

ストップスイッチに関する全ての押し順において、正解押し順が均等に割り振られていない所定の条件装置グループを有し、

所定の演出として、所定の条件装置グループのうち何れかの条件装置が内部抽せん手段によって決定されたことは報知するが、正解押し順は報知しない演出を有し、

所定の条件装置グループのうち所定の条件装置が内部抽せん手段によって決定されて前記所定の演出を実行する場合は、指示モニタに所定情報が出力可能であるよう構成されており、

所定の条件装置グループのうち所定の条件装置が内部抽せん手段によって決定されて正解押し順の報知を実行する場合は、指示モニタに前記所定情報とは異なる特定情報が出力可能であるよう構成されており、

30

前記所定情報は、所定リールに対応するストップスイッチを第1停止操作させることが正解押し順でない押し順に関する情報であり、

前記特定情報は、正解押し順に関する情報であり、

内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技では、ストップスイッチが正解押し順で停止操作された場合に遊技者にとって有利となる図柄組合せを停止表示可能であり、

内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技では、画像表示手段に正解押し順に対応する停止操作情報を表示可能であり、

40

停止操作情報として、第1停止操作に関する情報である第1停止操作情報と、第2停止操作に関する情報である第2停止操作情報と、第3停止操作に関する情報である第3停止操作情報と、を表示可能であり、

前記第1停止操作情報の表示態様として、通常態様と成功態様とを少なくとも有しており、

前記第2停止操作情報の表示態様として、通常態様と成功態様とを少なくとも有しており、

成功態様は、ストップスイッチが操作されたことに基づいて表示され得る表示態様であり、

スタートスイッチが操作され、内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊

50

技であって、画像表示手段に正解押し順に対応する停止操作情報が表示されているときに、第1停止操作として前記第1停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第1停止操作情報が成功態様で表示されてから非表示になっており、且つ前記第2停止操作情報が表示されているときに、第2停止操作として前記第2停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第2停止操作情報が成功態様で表示されてから非表示になっており、且つ前記第3停止操作情報が表示されている状況にて、電源断が発生し、電源復帰した後は、少なくとも、画像表示手段に前記第2停止操作情報が成功態様で再表示可能であり、

スタートスイッチが操作され、内部抽せん手段によって特定の条件装置が決定された遊技であって、画像表示手段に正解押し順に対応する停止操作情報が表示されているときに、第1停止操作として前記第1停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第1停止操作情報が成功態様で表示されてから非表示になっており、且つ前記第2停止操作情報が表示されているときに、第2停止操作として前記第3停止操作情報に対応したストップスイッチが操作され、前記第2停止操作情報が非表示になっている状況にて、電源断が発生し、電源復帰した後は、少なくとも、画像表示手段に前記第2停止操作情報が再表示されない

遊技機。

また、本発明は、ストップスイッチの停止操作タイミングに応じて有効ラインに停止する図柄が異なる所定の条件装置を備え、

所定の条件装置が決定された状況において、所定のリールにおける第一図柄を有効ラインに停止可能なストップスイッチの第1の停止操作タイミングと、所定のリールにおける第二図柄を有効ラインに停止可能なストップスイッチの第2の停止操作タイミングと、を有し、

第1の停止操作タイミングで停止操作されて第一図柄が有効ラインに停止するまで移動する最大移動距離Aよりも、第2の停止操作タイミングで停止操作されて第二図柄が有効ラインに停止するまで移動する最大移動距離Bの方が、移動距離が長くなっており、

所定の条件装置が決定された状況において、所定のリールにおける有効ラインに第一図柄が停止したときの全リール停止後に停止される第一図柄組合せに基づいた利益付与の期待値は、所定のリールにおける有効ラインに第二図柄が停止したときの全リール停止後に停止される第二図柄組合せに基づいた利益付与の期待値よりも、高くなっている

遊技機であってもよい。

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、遊技機の性能を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】スロットマシンPS1の筐体外斜視を示す図である。

【図2】フロントパネルPS2の裏面を示す図である。

【図3】キャビネットPS3の内面を示す図である。

【図4】機能ブロックを示す図である。

【図5】プログラム開始処理を示すフローチャートである。

【図6】電源断処理を示すフローチャートである。

【図7】タイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図8】電源断復帰処理を示すフローチャートである。

【図9】遊技進行メインを示すフローチャートである。

【図10】設定変更処理を示すフローチャートである。

【図11】有利区間クリアカウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【図12】プッシュボタン演出の一例である。

【図13】プッシュボタン演出実行時の表示装置の表示態様の一例である。

- 【図 1 4】通常演出状態におけるステップアップ予告の一例である。
- 【図 1 5】通常演出状態におけるセリフ予告の一例である。
- 【図 1 6】連続演出中におけるセリフ予告の一例である。
- 【図 1 7】フロントパネル P S 2 が開放している状況での演出用スイッチ画像の一例である。
- 【図 1 8】デモ画面中の演出用スイッチ画像の一例である。
- 【図 1 9】デモ画面中の演出用スイッチ画像の一例である。
- 【図 2 0】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関するリール配列を示す図である。
- 【図 2 1】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する図柄組合せ 1 / 4 を示す図である。
- 【図 2 2】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する図柄組合せ 2 / 4 を示す図である。
- 【図 2 3】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する図柄組合せ 3 / 4 を示す図である。
- 【図 2 4】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する図柄組合せ 4 / 4 を示す図である。
- 【図 2 5】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する条件装置 1 / 4 を示す図である。
- 【図 2 6】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する条件装置 2 / 4 を示す図である。
- 【図 2 7】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する条件装置 3 / 4 を示す図である。
- 【図 2 8】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する条件装置 4 / 4 を示す図である。
- 【図 2 9】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する非 R T の内部抽せん置数 1 / 3 を示す図である。
- 【図 3 0】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する非 R T の内部抽せん置数 2 / 3 を示す図である。
- 【図 3 1】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する非 R T の内部抽せん置数 3 / 3 を示す図である。
- 【図 3 2】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する R T 変動契機を示す図である。
- 【図 3 3】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する R T の内部抽せん置数 1 / 3 を示す図である。
- 【図 3 4】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する R T の内部抽せん置数 2 / 3 を示す図である。
- 【図 3 5】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する R T の内部抽せん置数 3 / 3 を示す図である。
- 【図 3 6】本発明に係る遊技機の仕様 1 に関する有利区間遷移を示す図である。
- 【図 3 7】払出処理終了後に M A X ベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合を説明する図である。
- 【図 3 8】払出処理終了後に M A X ベットスイッチによる投入操作を行った場合を説明する図である。
- 【図 3 9】払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合を説明する図である。
- 【図 4 0】精算処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合を説明する図である。
- 【図 4 1】精算処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合を説明する図である。
- 【図 4 2】正常に払出が行われた場合を説明する図である。
- 【図 4 3】正常に払出が行われなかった場合（ホッパエンptyエラー発生時）を説明する図である。
- 【図 4 4】正常に払出が行われなかった場合（ホッパ滞留エラー発生時）を説明する図である。
- 【図 4 5】正常に払出が行われた場合の表示画面の一例を示す図である。
- 【図 4 6】正常に払出が行われなかった場合（ホッパエンptyエラー発生時）の表示画面の一例を示す図である。
- 【図 4 7】正常に払出が行われなかった場合（ホッパ滞留エラー発生時）の表示画面の一例を示す図である。
- 【図 4 8】割込み禁止、割込み許可を示すプログラム例を示す図である。
- 【図 4 9】8ビットカウンタとタイマ割込み処理のタイムチャートを示す図である。

10

20

30

40

50

- 【図 5 0】 タイマ割込み処理の実行タイミングを示す図である。
- 【図 5 1】 本発明に係る遊技機に関するリール配列を示す図である。
- 【図 5 2】 本発明に係る遊技機に関する図柄組合せを示す図である。
- 【図 5 3】 本発明に係る遊技機に関する図柄組合せを示す図である。
- 【図 5 4】 本発明に係る遊技機に関する図柄組合せを示す図である。
- 【図 5 5】 本発明に係る遊技機に関する図柄組合せを示す図である。
- 【図 5 6】 本発明に係る遊技機に関する図柄組合せを示す図である。
- 【図 5 7】 本発明に係る遊技機に関する図柄組合せを示す図である。
- 【図 5 8】 本発明に係る遊技機に関するボーナスに係る条件装置一覧表及びボーナス終了条件一覧表である。
- 【図 5 9】 本発明に係る遊技機に関する入賞又は再遊技に係る条件装置一覧表である。
- 【図 6 0】 本発明に係る遊技機に関する入賞又は再遊技に係る条件装置に対応する制御を示す説明図である。
- 【図 6 1】 本発明に係る遊技機に関する入賞又は再遊技に係る条件装置に対応する制御を示す説明図である。
- 【図 6 2】 本発明に係る遊技機に関する入賞又は再遊技に係る条件装置に対応する制御を示す説明図である。
- 【図 6 3】 本発明に係る遊技機に関する入賞又は再遊技に係る条件装置に対応する制御を示す説明図である。
- 【図 6 4】 本発明に係る遊技機に関する入賞又は再遊技に係る条件装置に対応する制御を示す説明図である。
- 【図 6 5】 本発明に係る遊技機に関する非 R T（通常時）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 6 6】 本発明に係る遊技機に関する非 R T（通常時）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 6 7】 本発明に係る遊技機に関する R T 4（通常時）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 6 8】 本発明に係る遊技機に関する R T 4（通常時）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 6 9】 本発明に係る遊技機に関する非 R T（1 種 B B - D 作動時非内部中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 0】 本発明に係る遊技機に関する非 R T（1 種 B B - D 作動時非内部中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 1】 本発明に係る遊技機に関する R T 4（1 種 B B - D 作動時非内部中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 2】 本発明に係る遊技機に関する R T 4（1 種 B B - D 作動時非内部中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 3】 本発明に係る遊技機に関する非 R T（S B - A、B 作動中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 4】 本発明に係る遊技機に関する非 R T（S B - A、B 作動中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 5】 本発明に係る遊技機に関する R T 4（S B - A、B 作動中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 6】 本発明に係る遊技機に関する R T 4（S B - A、B 作動中）の内部抽せん置数を示す図である。
- 【図 7 7】 本発明に係る遊技機に関する R T 移行フローである。
- 【図 7 8】 デートタイム中に表示する「好感度」メータの期待度を示す図である。
- 【図 7 9】 デートタイム中の一般的な演出を示す図である。
- 【図 8 0】 デートタイム中の押し順ベルの当選回数が 4 回目となったときに発生する押し順会話チャレンジを示す図である。

10

20

30

40

50

【図 8 1】デートタイム中の押し順ベルの当選回数が 5 回目となったときに発生する押し順会話チャレンジを示す図である。

【図 8 2】デートタイム中の押し順ベルの当選回数が 5 回目となったときに発生する押し順会話チャレンジの結果（失敗）を示す図である。

【図 8 3】デートタイム中の押し順ベルの当選回数が 5 回目となったときに発生する押し順会話チャレンジの結果（大成功）を示す図である。

【図 8 4】デートタイム中の押し順ベルの当選回数が 1 回目から 3 回目までのときに発生する演出を示す図である。

【図 8 5】デートタイムの最終ゲームにおけるルーレット演出を示す図である。

【図 8 6】ベット処理 1 のフローチャートである。

10

【図 8 7】ベット処理 1 における具体例である。

【図 8 8】ベット処理 2 の割込み処理のフローチャートである。

【図 8 9】ベット処理 2 の遊技進行メイン処理のフローチャートである。

【図 9 0】ベット処理 2 における具体例である。

【図 9 1】ステージチェンジ演出の一例を示す図である。

【図 9 2】第 1 連続演出の一例を示す図である。

【図 9 3】第 2 連続演出の一例を示す図である。

【図 9 4】連続演出においてテロップが表示される場合の一例を示す図である。

【図 9 5】連続演出において N E X T 画像が表示されるまでの流れの一例を示す図である。

【図 9 6】押し順ナビ画像の態様の一例を示す図である。

20

【図 9 7】押し順ナビ画像が液晶に表示される場合の一例を示す図である。

【図 9 8】押し順ナビ画像の表示中に所定のエラーが発生した場合の一例を示す図である。

【図 9 9】押し順役の入賞に基づく払出処理終了後に M A X ベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合のタイムチャートである。

【図 1 0 0】押し順役の入賞に基づく払出処理終了後に M A X ベットスイッチによる投入操作を行った場合のタイムチャートである。

【図 1 0 1】チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後に M A X ベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合のタイムチャートである。

【図 1 0 2】チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後に M A X ベットスイッチによる投入操作を行った場合のタイムチャートである。

30

【図 1 0 3】リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合のタイムチャートである。

【図 1 0 4】リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合のタイムチャートである。

【図 1 0 5】押し順役の入賞に基づく払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合のタイムチャートである。

【図 1 0 6】リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合のタイムチャートである。

【図 1 0 7】チェリー役の入賞後に正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパエンブティエラー発生時）のタイムチャートである。

40

【図 1 0 8】チェリー役の入賞後に正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパ滞留エラー発生時）のタイムチャートである。

【図 1 0 9】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いるリール配列を示す図である。

【図 1 1 0】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いる条件装置一覧を示す図である。

【図 1 1 1】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いる図柄組合せ一覧を示す図である。

【図 1 1 2】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いる図柄組合せ一覧を示す図である。

【図 1 1 3】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いる条件装置と図柄組合せの対

50

応を示す図である。

【図 1 1 4】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いる条件装置と図柄組合せの対応を示す図である。

【図 1 1 5】正解操作チャレンジ演出を説明するときに用いる条件装置と図柄組合せの対応を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

<用語の説明>

「メダル（メダル数）」、「遊技媒体（遊技媒体数）」、及び「遊技価値」は同義である。遊技媒体に関する「ベット」、「BET」、及び「投入」は同義であり、何れも遊技媒体を賭ける行為である。16進数の数値を表す場合は「0x〇〇」又は「〇〇h」と記載しており、数字の前後に特に記載のない場合は10進数で表している。「リール」を「回胴」と称する場合があります、何れも同義である。「記憶手段」を「RWM」、「RAM」、又は「記憶領域」と称する場合があります、何れも同義である。「遊技媒体の付与」、又は「得点の付与」等で使用する「付与」は、「払出」と称す場合があります、何れも同義である。「設定／リセットスイッチ」を機能ごとに「設定変更スイッチ」、「リセットスイッチ」と称する場合がありますがいずれの場合も同一のスイッチを指し示している。なお、「設定変更スイッチ」、「リセットスイッチ」は、それぞれ異なるスイッチとして設けていてもよい。操作態様により払出の多い小役か払出の少ない小役が停止する場合は、払出の多い小役を高目（高目ベル、高目小役も同義）と称し、払出の少ない小役を安目（安目ベル、安目小役も同義）と称する場合があります。なお、このとき払出のない図柄組合せが停止した場合はこぼし目（取りこぼし目も同義）と称する場合があります。

【0009】

以下、図面を参照しながら、本発明の実施形態（以下、本実施形態と称す）を詳細に説明する。

【0010】

<スロットマシンPS1の説明>

本実施形態に係るスロットマシンPS1の構成要素に関して、図1乃至図3に基づいて説明する。

【0011】

スロットマシンPS1は大きく分けてフロントパネルPS2側とキャビネットPS3側にそれぞれ必要な部品、基板が取付けられる。スロットマシンPS1のフロントパネルPS2とキャビネットPS3の各々側面側はヒンジ装置と施錠装置によって接合され、フロントパネルPS2に設けられた施錠装置に錠前キーが差し込まれ、特定方向に回動操作されることにより施錠装置側を開放状態とすることができる。つまり、キャビネットPS3に対してフロントパネルPS2が扉として機能している。

【0012】

<フロントパネルPS2>

フロントパネルPS2（前扉PS2、前面扉PS2、またはフロントドアPS2とも称する）は、意匠が施された板状の部材となっており、前側（遊技者側）には、中パネル（表示窓4、操作指示ランプ24等を含む）、操作パネル11（ベット数表示ランプ25、クレジット数表示器26、獲得枚数表示器27等を含む）、下部パネル5（下部パネル5とも称す）、上部または両側部演出ランプ等が設けられ、裏側にはメダルセレクト34（以下、単に「セレクト」と称する場合があります）、表示装置32、サブ制御基板1000、各種基板等、設定表示LED（以下、設定値表示LED、設定表示器、設定値表示器、設定表示装置、設定値表示装置と称する場合があります）が設けられる。

【0013】

<表示窓4>

表示窓4は、フロントパネルPS2に備えられている領域であり、フロントパネルPS2を閉鎖した状態でリールに描かれた図柄が視認可能となる。左リール8a、中リール8

10

20

30

40

50

b、右リール8cの各リールリム部に固定される各リールテープの外周面に印刷された図柄は、前側（遊技者側）から表示窓4を通して視認可能となるように構成されている。そして、リールが停止しているときは、21個（仕様に応じて20個や16個等自由に設計してもよい）の図柄のうち、連続する3つの図柄が視認可能となっている。すなわち、表示窓4からは、3〔図柄〕×3〔リール〕＝合計9つの図柄が視認可能となる。ここで、左リール8a、中リール8b、右リール8cがそれぞれ3つの図柄を停止する停止位置のうち、最も上側の停止位置を上段、中央の停止位置を中段、最も下側の停止位置を下段とする。

【0014】

＜有効ライン＞

有効ラインは、左リール8a、中リール8b、右リール8cが停止したときに入賞判定処理（後述する）の対象となる図柄組合せラインである。本実施形態における有効ラインは、表示窓4から視認可能であり、各リールの中段を通過する図柄組合せライン（中段水平ライン）によって構成されている。有効ライン上に停止した図柄組合せが入賞判定処理により、いずれかの役に対応していたと判定されたときは、停止した図柄組合せに応じた処理を行う。一例としては、ベル等の小役に対応した図柄組合せが停止したと判定されたときは遊技メダル（以下、メダル、遊技媒体、遊技価値と称する場合がある）の払出処理やクレジットの加算処理が実行され、リプレイに対応した図柄組合せが停止したと判定されたときは自動ベット処理が実行される。

【0015】

また有効ラインはスロットマシンPS1によっては上段水平ライン、中段水平ライン、下段水平ライン、右上がりライン、右下がりラインの5ライン分が設定されたり、一直線でない略山形（左リール8a下段、中リール8b上段、右リール8c下段）、略谷型（左リール8a上段、中リール8b下段、右リール8c上段）、略L字型（左リール8a上段、中リール8b下段、右リール8c下段）を含めて6ライン分以上が設定されたり、賭け枚数によって有効ラインが変化するように設定されたり、スロットマシンPS1の仕様に応じて自由に設計できる。また、有効ライン以外の一直線のラインを無効ラインと称する場合がある。

【0016】

＜操作指示ランプ24＞

操作指示ランプ24は、表示窓4の周辺に設けられており、左リール8a、中リール8b、右リール8cが回転しているときに、遊技者に対してストップスイッチ13（後述する）の操作順序を指示するものである。すなわち、左操作指示ランプ24aが点灯（中操作指示ランプ24bと右操作指示ランプ24cは消灯）しているときは左ストップスイッチ13aを操作すべきであることを示し、中操作指示ランプ24bが点灯（左操作指示ランプ24aと右操作指示ランプ24cは消灯）したときは中ストップスイッチ13bを操作すべきであることを示し、右操作指示ランプ24cが点灯（左操作指示ランプ24aと中操作指示ランプ24bは消灯）したときは右ストップスイッチ13cを操作すべきであることを示している。

【0017】

＜ベット数表示ランプ25＞

ベット数表示ランプ25（掛け数表示ランプ25、掛け枚数表示ランプ25、賭け数表示ランプ25、賭け枚数表示ランプ25とも称する）は、操作パネル11上に設けられており、遊技者の操作による賭け枚数を表示する機能を有している。また、1ベットランプ25a（図示せず）、2ベットランプ25b（図示せず）、3ベットランプ25c（図示せず）から構成されている。メダルが1枚賭けられると1ベットランプ25aが点灯し、メダルが累計で2枚賭けられると1ベットランプ25aと2ベットランプ25bが点灯し、メダルが累計で3枚賭けられると1ベットランプ25aと2ベットランプ25bと3ベットランプ25cが点灯するようになっている。また、図示しないが、リプレイに関する図柄組合せが表示された後は、自動ベット処理が実行される際に、当該リプレイが当選し

10

20

30

40

50

た遊技での使用したベット数に対応するベット数表示ランプ 25 を点灯させるとともに、リプレイランプを点灯するようになっている。なお、ベット数表示ランプ 25 の点灯タイミングとリプレイランプの点灯タイミングとは同時であってもよいし、いずれかが先に点灯するよう構成してもよい。

【0018】

＜クレジット数表示器 26＞

クレジット数表示器 26 は、操作パネル 11 上に設けられおり、7 セグメントとドットポイント（DP）から構成されている主にクレジット数の上位桁を表示するセグメント表示器 26 a（図示せず）、7 セグメントとドットポイント（DP）から構成されている主にクレジット数の下位桁を表示するセグメント表示器 26 b（図示せず）から構成されている。なお、クレジット数とはスロットマシン PS 1 にクレジット（電氣的に貯留）されているメダルの枚数を意味しており、最大で 50 まで貯留可能となっている。また、エラーを検知したときのように通常の遊技が進行できないときには当該エラーに関する表示を行ってもよい。

【0019】

＜獲得枚数表示器 27＞

獲得枚数表示器 27 は、操作パネル 11 上に設けられており、7 セグメントとドットポイント（DP）から構成されている主に獲得枚数の上位桁を表示するセグメント表示器 27 a（図示せず）、7 セグメントとドットポイント（DP）から構成されている主に獲得枚数の下位桁を表示するセグメント表示器 27 b（図示せず）から構成されている。なお、獲得枚数とはスロットマシン PS 1 において遊技の結果に応じて遊技者へ払い出される（クレジット数表示器 26 への貯留も含む）メダルの枚数を意味する。また、エラーを検知したときのように通常の遊技が進行できないときには当該エラーに関する表示を行ってもよい。

【0020】

クレジット数表示器 26 と獲得枚数表示器 27 はセグメント表示器 26 a、26 b、27 a、27 b により各々の情報を表示するほかに、DP の点灯の有無により、クレジット数に関する情報や獲得枚数に関する情報とは異なる情報を表示することも考えられる。例えば、有利区間（後述する）に滞在していることを示す情報や所定の外部信号が出力されていることを示す情報などをいずれかのセグメント表示器の DP を点灯させることで報知することが挙げられる。また、獲得枚数表示器 27 の上位桁の表示部と下位桁の表示部を用いて押し順報知を行う性能を有していてもよい。獲得枚数表示器 27 を用いて押し順報知を行う場合は獲得枚数表示器 27 のことを指示モニタと称する場合がある。

【0021】

＜操作パネル 11＞

操作パネル 11 は、フロントパネル PS 2 の略中央部設けられている。操作パネル 11 は略水平な水平部と当該水平部の先端部から略鉛直下方に延びる鉛直部とで段差状に設けられており、鉛直部には、後述するスタートスイッチ 12、ストップスイッチ 13 が設けられており、水平部には、後述するメダル投入口 17、複数のベットスイッチ（MAX ベットスイッチ 18、1 ベットスイッチ 19）、サブスイッチ 20、サブ十字キースイッチ 21、イジェクトスイッチ 22、精算スイッチ（図示せず）、演出用スイッチ（図示せず）が設けられている。

【0022】

＜スタートスイッチ 12＞

スタートスイッチ（スタートレバーとも称す）12 は、操作パネル 11 の鉛直部上に設けられている。レバー形状の操作部からなり、非操作時はスタートスイッチセンサが ON となっており、操作時にスタートスイッチセンサが OFF となることで、スタートスイッチが操作されたと判定するような機構となっている。スタートスイッチ 12 は、賭け枚数が規定数となると操作が有効となり、スタートスイッチ 12 の操作を受け付けると内部抽せん処理、指示機能に係る処理、又はリール回転処理等を実行する。また、本実施形態に

おいては、入力信号をローアクティブにしているため、非操作時にスタートスイッチセンサがONとなっている場合はスタートスイッチ入力信号がOFFとなり、操作時にスタートスイッチセンサがONからOFFとなった場合はスタートスイッチ入力信号がONとなるよう構成している。これに限られずスタートスイッチセンサのONのときにスタートスイッチ入力信号がONとなるように構成してもよい。つまり、規定数とは、遊技を開始するために必要なベット数のことを指す。

【0023】

以下、単に「スタートスイッチがON（オン）」、または「スタートスイッチが操作され」と称した場合は、スタートスイッチセンサがONからOFFとなったことであり、スタートスイッチ入力信号がOFFからONとなったことを表す。

【0024】

<ストップスイッチ13>

ストップスイッチ13は、操作パネル11上に設けられている。本実施形態の場合、左リール8aには左ストップスイッチ13a、中リール8bには中ストップスイッチ13b、右リール8cには右ストップスイッチ13cがそれぞれ対応している。また、ストップスイッチ13の操作が可能なときにはストップスイッチ13の本体に備えられているランプ、またはその周辺のランプの色を変更させることでストップスイッチ13が有効であることを示唆する。例えば、ストップスイッチ13の操作が可能なときには青色で点灯し、操作が不可能なときには赤色で点灯することが挙げられる。また例えば、ストップスイッチ13の操作が可能なときには点灯し、操作が不可能なときには消灯することが挙げられる。

【0025】

<メダル投入口17>

メダル投入口17は、操作パネル11上に設けられている。メダルをメダル投入口に投入させるための開口部を有し、規格サイズ以上のメダルの投入を制限する。メダル投入口17は、複数種類のメダルの規格サイズに応じて複数種類製造されているが、操作パネル11に各種メダル投入口17の取り付けを共通で行えるように、各種メダル投入口17の取り付け規格を同一にしている。

【0026】

遊技媒体の投入に関して、遊技媒体は上述したメダルに限定されず、例えば、ぱちんこ遊技機で用いられる遊技球（所謂パロット）、又は磁気カードやフラッシュメモリ等電氣的記憶媒体に記憶された遊技媒体情報が遊技機に入力され、入力された遊技媒体情報に基づいてベット数の設定や入賞時の加算等するものであってもよい。

【0027】

<ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）>

ベットスイッチは、操作パネル11上に設けられている。クレジットに貯留メダルがあるときにベットスイッチが操作されると、ベット処理が実行されメダル投入口17にメダルを投入する行為と同等のベット数の設定処理が行われる。ただし、クレジットにメダルが貯留されていない場合にベットスイッチが操作されてもベット処理は無効となる（ベットスイッチの操作を受け付けない）。また、MAXベットスイッチ18は、遊技者が操作する押下部と、押下部の操作を検知する検知部と、押下部を光らせる発光部（MAXベットランプとも称す）とから構成されており、1ベットスイッチ19は、遊技者が操作する押下部と、押下部の操作を検知する検知部とから構成されている（1ベットスイッチ19には発光部がない）。

【0028】

MAXベットランプは、MAXベットスイッチが操作されるとベット処理が実行可能であることを遊技者に報知するものであり、報知態様としてMAXベットランプを所定色で点灯させたり、MAXベットランプを所定周期で点滅させたり、様々な態様が考えられる。反対に、MAXベットスイッチが操作されてもベット処理が実行できないときは、MAXベットランプを特定色で点灯させたり、MAXベットランプを点灯させなかったり、す

10

20

30

40

50

る態様が考えられる。

【0029】

また、スロットマシンPS1毎に設定された最大枚数（本実施形態では3枚）を賭けることができるMAXベットスイッチ18と、1枚を賭けることができる1ベットスイッチ19とが備えられており、MAXベットスイッチ18の操作を受け付けるとMAXベット処理を実行し、1ベットスイッチ19の操作を受け付けると1ベット処理を実行するよう構成されている。MAXベット処理は、クレジット数と現在ベットされているベット数の和が3以上であり、且つ現在ベットされているベット数が3未満の状況で実行可能となり、また、MAXベット処理は、クレジット数と現在ベットされているベット数の和が3未満になる状況（換言すれば、MAXベットスイッチ18を操作しても、ベット数が3未満になる状況）、すでに3ベットされている状況では実行できないようになっている。1ベット処理は、クレジット数が1以上であり、且つ現在ベットされているベット数が3未満の状況で実行可能となり、すでに3ベットされている状況では実行できないようになっている。

10

【0030】

また、1ベットスイッチ19は操作されるごとに1ベット処理を実行し、ベットされていない状況から3回分1ベットスイッチ19が操作されると3ベットとなり、1ベットスイッチ19の3回分の操作はMAXベットスイッチ18の1回分の操作に相当する。

【0031】

また、1ベットスイッチ19は3ベットされている状況では無効となる実施形態を説明したが、3ベットされている状況で1ベットスイッチ19が1回分操作されると1ベット状態になり、クレジットに2枚返却するように構成されていてもよい。

20

【0032】

また、MAXベットスイッチ18が操作されることにより実行されるMAXベット処理はベット数が3未満になる状況では実行されない実施形態を説明したが、現在ベットできる最大数をベットする処理も考えられる。換言すると、ベットされておらず、且つクレジット数が2の状況でMAXベットスイッチ18が操作されると2ベットされる処理も考えられる。

【0033】

なお、ベット可能な最大枚数は遊技状態によって相違するよう構成してもよく、非ボーナス中はベット可能な最大枚数が3であり、ボーナス中はベット可能な最大枚数が2である態様であってもよい。

30

【0034】

＜サブスイッチ20＞

サブスイッチ20は、操作パネル11上に設けられており、遊技者に直接操作させるための透光性の有する部材から構成されている押下部と、押下部が操作されたことを検知する検知部と、サブスイッチの押下部を光らせるためのサブスイッチランプと、から構成されている。このサブスイッチ20は、主に後述する表示装置32にメニュー画面を表示させるためのスイッチである。また、サブ制御基板1000で管理する入力手段としてサブスイッチ20の他、サブ十字キースイッチ21（上スイッチ、下スイッチ、左スイッチ、右スイッチ）や演出用スイッチ（遊技中に指示を用いて操作させるスイッチ）を設けている。また、サブスイッチ20は後述する携帯端末との連動システム（以下、携帯連動システムとも称す）を起動させる契機として機能させることもできる。なお、サブスイッチ20をメニュー表示機能、演出用スイッチを遊技中の操作用として分けているが、共通のスイッチとしてもよい。

40

【0035】

メニュー画面には、役構成項目、リール配列項目、音量調整項目、光量調整項目、携帯連動システム関連項目が表示され、サブ十字キースイッチ21の上スイッチ、又は下スイッチが操作されることで、項目を選択しているカーソルが上下に移動するように制御される。また、各項目の何れかにカーソルがあっている状況でサブスイッチ20が操作される

50

と該項目の詳細が表示されるようになっている。例えば、カーソルが音量調整項目上にあったときにサブスイッチ20が操作されると、音量調整画面が表示され、サブ十字キースイッチ21の左スイッチ、又は右スイッチで音量を調整できるようになっている。

【0036】

また、メニュー画面は遊技終了後のベットがされていない状態でサブスイッチ20が操作されることで表示可能となっている。このときの演出状態として、通常演出、連続演出、AT演出、又はデモ画面（遊技終了後から60秒経過すると表示される画面で、メーカー名や演出紹介を動画像で表示する画面）の何れの状況であってもサブスイッチ20が操作されることでメニュー画面が表示されるようになっている。ただし、この実施形態に限られず連続演出中やAT演出中にサブスイッチ20が操作されてもメニュー画面を表示できない態様であってもよい。

10

【0037】

<演出用スイッチ>

演出用スイッチは、操作パネル11上に設けられており、遊技者に直接操作させるための透光性の有する部材から構成されている押下部と、押下部が操作されたことを検知する検知部と、演出用スイッチの押下部を光らせるための演出用スイッチランプと、から構成されている。演出用スイッチの操作が有効な状況で演出用スイッチが操作されると操作に基づいた演出が実行される。例えば、表示装置（以後、単に「液晶」と称することもある）32に連続演出が実行されているときに連続演出の最終遊技で特典の付与を意味する「成功」表示（以下、成功演出と称する場合がある）か、特典が付与されないことを意味する「失敗」表示（以下、失敗演出と称する場合がある）かの何れかを表示する際に、演出用スイッチが操作されることによって「成功」又は「失敗」を表示するといった態様が考えられる。

20

【0038】

また、演出用スイッチの操作が有効な状況では、演出用スイッチランプが点灯することで、演出用スイッチの操作が有効であることを遊技者に報知可能となっている。演出用スイッチの点灯態様として、演出用スイッチの操作が無効な状況では非点灯とし、演出用スイッチの操作が有効な状況では点灯する態様が考えられる。演出用スイッチの操作が有効な状況の点灯態様として他にも、一定の周期で点灯と消灯を繰り返す態様であってもよい。

【0039】

また、演出用スイッチの操作が有効な状況では、液晶に演出用スイッチを模した表示を行うことで演出用スイッチの操作が有効であることを報知している。液晶に演出用スイッチを模した表示を行う場合は、主制御手段100から受信したコマンドに基づいて表示する。例えば、スタートスイッチ受付コマンドに基づいて演出用スイッチを模した表示を行ったり、全回胴停止コマンドに基づいて演出用スイッチを模した表示を行ったり、する態様が考えられる。

30

【0040】

<精算スイッチ>

精算スイッチは、操作パネル11上に設けられている。遊技が終了した後に操作されることで、ベットされている遊技媒体数や、クレジットに貯留されている遊技媒体数を遊技者に払い出す処理（精算処理）を実行する。なお、本実施形態では、ベットされており、且つクレジットに遊技媒体が貯留されている状況下で精算スイッチが操作されると、ベットされている遊技媒体を先に払い出した後、続けてクレジットに貯留されている遊技媒体を払い出すよう構成されているが、これに限らず、ベットされている遊技媒体数が0のときのみクレジットに貯留されている遊技媒体を払い出す処理を実行してもよい。すなわち、ベットされている状況下で精算スイッチが操作されるとベットされている遊技媒体のみを払い出し、その後、再度精算スイッチが操作されるとクレジットに貯留されている遊技媒体を払い出すよう構成されてもよい。

40

【0041】

<下部パネル5>

50

下部パネル５は、フロントパネルＰＳ２の下方に設けられている。透明樹脂が２枚合わさって構成され、合わせた樹脂の間にはデザインシートが挟まれ、デザインシートはスロットマシンＰＳ１毎の特色を表す印刷が施される。

【００４２】

<メダル払出口４５>

メダル払出口４５は、下部パネル５の下方に設けられている。後述するホッパ４４（ホッパーとも称す）より払い出されたメダルをスロットマシンＰＳ１の外（受け皿２８）に放出させるための出口である。また、後述するメダルセクタ３４から排除されたメダルをスロットマシンＰＳ１の外に放出させる返却口を兼ねている。

【００４３】

<受け皿２８>

受け皿２８は、下部パネル５の下方に設けられている。メダル払出口４５から放出されたメダルを受止め、貯蔵できるように略凹構造を有しており、貯蔵したメダルを遊技者が確認できるように遊技者側に突出して設けられている。

【００４４】

また、受け皿２８はその他の機能としてタバコ用灰皿２９と、組合許諾証シール、特許証紙シール、型式シールが貼り付けられた樹脂シートを収容し、遊技者側に表示する開口部を有したシール収容部３０も設ける。

【００４５】

<スピーカＳ>

スピーカＳは、フロントパネルＰＳ２の上部、及び下部に設けられている。サブ制御基板１０００とハーネス（図示しない）で繋がれており、スピーカＳからは演出に合わせた効果音の他、エラーが発生した事を知らせるエラー音や警告音を出力する。

【００４６】

<表示装置３２>

表示装置３２は、フロントパネルＰＳ２の上方に設けられている。画像を表示可能な装置であり、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、有機ＥＬディスプレイ、プロジェクタなど様々な装置を用いることができる。サブ制御基板１０００と電氣的に接続され、様々な演出画像のほか、遊技中にストップスイッチ１３の押し順や目押し位置を指示する遊技指示画像（押し順のみを表示する場合は押し順ナビ画像（押し順画像、操作順番画像、操作順画像とも称す）、目押し位置のみを表示する場合は目押しナビ画像（目押し画像、操作位置画像とも称す）、又は押し順且つ押し位置を表示する場合及び押し順や押し位置の上位概念として操作態様ナビ画像（操作態様画像とも称す）と称する場合がある。）

、エラー発生時のエラー画像等を表示する。また、機種によっては表示装置３２を搭載しないスロットマシンＰＳ１もある。

【００４７】

<ドットディスプレイ、可動役物などのその他演出装置>

ドットディスプレイ、可動役物などのその他演出装置は、表示窓４の周辺、中パネル、又は下パネル５等フロントパネルＰＳ２の任意の位置に設けられている。その他演出装置は、サブ制御基板１０００と電氣的に接続され、様々な演出画像、演出動作のほか、遊技中にストップスイッチ１３の押し順や目押し位置を指示する遊技指示画像や動作、エラー発生時のエラー画像の表示や動作を行う。その他演出装置は、スロットマシンＰＳ１の機種に合わせて任意に搭載される。また、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、有機ＥＬディスプレイ、プロジェクタなど様々な装置をその他演出装置として用いることもできる。特にその他演出装置である液晶を補助的に備えた遊技機においては、表示装置３２をメイン表示装置と称し、その他演出装置である液晶をサブ表示装置と称する場合がある。この場合、メイン表示装置の方がサブ表示装置よりも表示領域が大きく構成される。

【００４８】

<メダルセクタ３４>

メダルセクタ３４は、フロントパネルＰＳ２背面側の遊技機内部にあり、かつ、メダ

10

20

30

40

50

ル投入口17の下方の流下通路に設けられている。メダルセレクト34は、遊技者より投入されたメダルの枚数を流下通路上に設けられたセンサでカウントするメダルカウント機能、投入された規格外のメダルを受け皿28に導くメダル排除機能、フロントパネルPS2前面に設けたイジェクトスイッチが操作されることによりメダルセレクト34内に詰まったメダルを排除するイジェクト機能、及びメダル受付け時以外に投入されたメダルを電氣的に駆動される阻止部材（ブロックとも称す）で流下通路上から排除するブロック機能を有している。また、メダルセレクト34は、メダル受付け時に投入されたメダルが正規なメダルである場合は、メダルを下流に位置するホッパ44へ排出する。

【0049】

メダルセレクト内の各種センサは、通路センサ、投入センサ1、投入センサ2、シュートセンサから構成されている。通路センサは、メダル投入口から投入されたメダルを最初に検知するセンサであり、投入メダルと排出メダルの数をカウントするために設けられている。投入センサ1、投入センサ2は通路センサ、及びブロックの下流に位置しており、投入センサ1、投入センサ2を通過するメダルの通過時間を判断して正常通過、または異常通過を判断するために設けられている。なお、投入センサ2は投入センサ1よりも下流に位置している。シュートセンサは、投入センサ2よりも下流に位置しており、投入メダルと排出メダルの数をカウントするために設けられている。通路センサとシュートセンサは機能が重複しているためどちらか一方のみを設けてもよい。

【0050】

メダルセレクト内のブロックは、ONとなっている場合は遊技メダルの通過を許可する状態となり、OFFとなっている場合は遊技メダルの通過を不許可とする状態となる。遊技メダルの通過を許可するとは、メダル投入口から投入された遊技メダルがホッパ44に導かれることであり、遊技メダルの通過を不許可とするとは、メダル投入口から投入された遊技メダルがホッパ44に導かれないことである。

【0051】

以下にスロットマシンPS1における、キャビネットPS3側の構成要素について説明する。

【0052】

<キャビネットPS3>

キャビネットPS3は方形箱形の一面に開口部を有した形状で構成され、内部にはリールユニット6、ホッパ44、補助タンク46、設定キースイッチ37、リセット／設定スイッチ38（以下、単に「リセットスイッチ」、または「設定スイッチ」と称する場合がある）、電源装置39、メイン制御基板100、外部出力端子板47等が設けられる。

【0053】

<メイン制御基板100>

メイン制御基板100は、メイン制御基板ケース本体とメイン制御基板ケースカバーを合わせたときにできる内部空間に収納されており、メイン制御基板ケース本体とメイン制御基板ケースカバーとはカシメによって容易に開閉できないようになっている（封印されている）。メイン制御基板100はキャビネットPS3内のメイン制御基板ケースブラケットに固定される。

【0054】

<リールユニット6>

リールユニット6は、主に、リール枠体、左リール8a、中リール8b、右リール8cから構成される。リールユニット6はキャビネットPS3中央内部のリールベース7に取り付けられ、係止部材（ビスやリベット）によって固定される。

【0055】

リール（左リール8a、中リール8b、右リール8c）は、リール基部と、リール基部の外周に貼り付けられた複数種類の図柄が描かれたリールテープと、リール基部に軸支されているステッピングモータと、ステッピングモータを固定しリールユニットと軽視されるモータ固定ベースとから構成される。リールテープにはリール毎に異なる図柄配列が描

10

20

30

40

50

かれる。

【0056】

遊技者によりスタートスイッチ12が操作されるとリールの加速処理を行い、一定速度（約80回転／分）に到達後、タイマ割込み処理（以下、単に割込み処理と称する場合がある。）を1回実行するごとにステッピングモータを1ステップ移動させる定速回転状態を維持した後（定速回転）、遊技者によるストップスイッチ13の操作に応じて、対応するリールを停止操作受付位置毎に定められた停止位置にリールを定速回転で移動させ、停止位置までリールを移動させた後はブレーキをかけ（4相励磁信号を出力し）リールの回転を停止させて励磁出力を終了する。

【0057】

また、各リールのリール基部に設けられているスポーク部にはインデックスが設けられており、各リールのモータ固定ベースに備えられたインデックスセンサがインデックスを検知することで1周ごとに回転中の基準図柄（初期図柄とも称す）の位置を判断している。なお、本実施形態におけるリールの駆動源であるステッピングモータのステップ数は336ステップとなっており、定速回転中は336回のタイマ割込み処理で1周するようになっている。また、定速回転中においてタイマ割込み処理が2回実行されるごとに回転不良検出カウンタをインクリメントし、回転不良検出カウンタのカウント値が180となった場合に回転不良と判断する。換言すると、360回のタイマ割込み処理を実行してもリールが1回転しない場合に回転不良と判断する。回転不良検出カウンタはインデックスを検知したときに0に設定することで、定速回転処理が正常であれば回転不良検出カウンタが180に到達する前に0となるように構成されている。

【0058】

本実施形態においては、定速処理中にインデックスを検知したか否かの判断を行い、加速処理中はインデックスを検知したか否かの判断を行わないが、これに限らず、定速処理中と加速処理中にインデックスを検知したか否かの判断を行うようにしてもよい。このような構成によれば、より早く遊技者に対して停止受付が可能な状態にすることが可能となる。

【0059】

また、各リールのモータ固定ベースにはバックランプユニットが設けられており、リールが停止した後に停止した図柄を強調するために点灯させたり、リール回転中に図柄の視認性を向上させるために点灯させたりしている。

【0060】

<ホッパ44>

ホッパ44とは、主に遊技者が投入したメダルを貯留する装置である。ホッパ44は、キャビネットPS3の底板に設けられたレールと係合して載置され、レールに沿って前後にスライド移動が可能となっている。ホッパ44は、メダルセレクト34から遊技機内部に導かれたメダルを受け入れ貯留する貯留タンク部と、ホッパ駆動手段から駆動信号が入力されることで駆動するホッパモータと、ホッパモータと軸支され、貯留タンク部内のメダルを整列させる回転盤と、回転盤を回転させることでメダルを1枚ずつ受け皿28に排出するための排出機構を設けたメダル払出部と、メダル払出部によりメダルを排出するメダル排出口、メダル排出口から排出されるメダルを検知する払出センサと、によって構成されている。

【0061】

<補助タンク46>

補助タンク46は、メダルを貯留可能に構成されており、ホッパ44の貯留タンク部の許容量を超えて貯留されたメダルは、貯留タンク部に設けられた下り傾斜となっているレール部を通して補助タンク46に貯留される。補助タンク46は、方形箱形構造となっており、キャビネットPS3内に設置された状態においては、少なくとも一側面に設けられた貫通孔からキャビネットPS3に取り付けられた2本の満杯検知電極が補助タンク46内に露出するように設けられ、メダル投入口から投入されたメダルが一定量以上貯留され

10

20

30

40

50

ると2本の満杯検知電極がメダルを介して通電状態となり、ホッパ44、及び補助タンク46が満杯であると判断する。なお、満杯検知電極は2本のみには限定されず、3本設けるなど満杯検知電極の本数を変更してもよい。また、満杯検知の方法は満杯検知電極を使用する方法のみには限定されず、所定の位置に設けたセンサがメダルを検出することで満杯検知を可能に構成してもよい。

【0062】

＜設定キースイッチ37＞

設定キースイッチ37は、スロットマシンPS1の内部に設けられた前面に開閉扉が設けられている設定キースイッチユニットに設けられている。フロントパネルPS2を開放後、設定キースイッチユニットの開閉扉を開放することでアクセスが可能となる。設定キースイッチ37がオンとなるには、設定キーを差し込み、右方向に90度回転させる。メダル受付けが可能な状態で設定キースイッチ37がオンとなると現在の設定値を確認でき、電源投入時の電源断復帰処理（電源投入処理とも称す）で設定キースイッチ37がオンであると判断すると設定変更処理（後述する）を実行する。

【0063】

＜電源装置39＞

電源装置39は、キャビネットPS3の正面視左下方に設けられている。電源装置39は、方形箱形構造になっており、外部には電源スイッチ40が設けられており、内部には電圧を生成する電源基板が設けられている。電源装置39は、ハーネス（図示しない）を介して回胴装置基板、サブ制御基板1000へそれぞれ個別に接続されており、回胴装置基板から更にハーネスを介してメイン制御基板100へ接続され、メイン制御基板100に電源を供給している。

【0064】

電源装置39は、電源スイッチ40がオンとなった場合、スロットマシンPS1の外部より電力を取込んだ後、それぞれ所定の電圧を生成し、メイン制御基板100、サブ制御基板1000に対しそれぞれ所定の電圧を取込ませるよう構成されており、電源スイッチ40がオフとなった場合、スロットマシンPS1の外部より電力を取込まないよう構成されている。

【0065】

＜外部出力端子板47＞

外部出力端子板47（外部集中端子板47とも称す）は一般的にスロットマシンPS1のキャビネットPS3内部に取付けられており、メイン制御基板100から出力された遊技の結果に関する信号を予め定められた形式の信号に変換しスロットマシンPS1の外部に送信する。遊技の結果の内容として投入枚数、払出枚数、ボーナス回数（ビッグボーナス回数、レギュラーボーナス回数）、ドア開放信号等がある。その他の外部に信号を送信するための条件は、AT状態となったとき、特定の図柄組合せが表示されたとき、遊技に関するカウンタの値が所定値となったときなど、メイン制御基板100が制御するあらかじめ定められた情報をもとに設定できる。

【0066】

＜機能ブロック図＞

本実施形態に係るスロットマシンPS1の機能ブロック図に関して図4に基づいて説明する。

【0067】

＜メイン制御基板100＞

本実施形態のスロットマシンPS1は、一般的な遊技の流れを司るメイン制御基板100（メイン制御手段100、主制御基板100、主制御手段100とも称す）から、サブ制御基板1000（サブ制御手段1000、副制御基板1000、副制御手段1000とも称す）、ドア中継基板（中央表示基板とも称す）、回胴装置基板、リセット／設定スイッチ38、設定キースイッチ等と電氣的に接続されていることで、データ通信を可能としている。ただし、メイン制御基板100とサブ制御基板1000は双方向通信を不可能と

10

20

30

40

50

し、メイン制御基板 100 からサブ制御基板 1000 への一方向通信でデータ通信を可能としている。

【0068】

メイン制御基板 100 には主制御チップが搭載されている。主制御チップには、主制御 CPU、主制御 ROM、主制御 RAM 等がバスによって互いにデータ通信が可能となっている。また、主制御チップには、主制御内蔵レジスタを有しており、主制御内蔵レジスタと主制御 CPU がバスによって互いにデータ通信が可能となっている。さらにまた、主制御チップには、主制御 CPU が演算等で使用可能な汎用レジスタ（例えば、A レジスタ、B レジスタ、C レジスタ、D レジスタ、E レジスタ、H レジスタ、L レジスタ）や、呼び出し命令（例えば、CALL 命令）によるプログラムを実行した後の復帰命令（例えば、RET 命令）後のプログラム（戻り番地）を記憶する PC レジスタ、マスカブル割込みの許可状態や禁止状態を管理する割込みレジスタ（例えば、IFF1 レジスタ、IFF2 レジスタ）を有する。

【0069】

主制御チップの制御により、役抽選（内部抽せんとも称す）、リールの駆動制御（リール制御とも称す）、払出制御等を各種基板へと適宜データ通信を行う。また、サブ制御基板 1000 に対しては、内部抽せんの結果、択役（AT 役、AT 対象役、押し順役、目押し役、押し順役と目押し役の双方を含む操作手順役とも称す）に当選し、択役の表示に関する情報（押し順、操作タイミング）を主制御手段 100 側で報知する場合に副制御手段側でも報知可能にするために択役情報（択役グループ情報、択役の表示に関する情報）を送信することで、副制御手段側でも択役の表示に関する情報を報知することが可能となる。なお、AT への移行や AT 遊技数の延長や、押し順報知等、AT に関する全ての処理を含んで指示機能に係る（関する）処理と称することもある。なお、押し順役とは、停止させるリールの順序（押し順）によって、停止する図柄組合せや遊技者に付与される遊技メダルが相違する条件装置であり、目押し役とは、停止ボタンの操作を受け付けるタイミングによって、停止する図柄組合せや遊技者に付与される遊技メダルが相違する条件装置である。

【0070】

メイン制御基板 100 に搭載されている主制御 ROM の記憶容量は「16 KB 以下」となっており、「7.5 KB 以下」の使用領域（第 1 プログラム領域とも称す）とそれ以外の使用領域外（第 2 プログラム領域とも称す）とを有している。使用領域には、メイン制御基板 100 が実行するプログラムが記憶されている「4.5 KB 以下」の制御領域（第 1 制御領域とも称す）と、プログラム以外の情報（例えば、内部抽せんテーブル情報）のみが記憶され、または記憶されることとなる「3.0 KB 以下」のデータ領域（第 1 データ領域とも称す）とを有している。使用領域外には使用領域と同様に制御領域（第 2 制御領域とも称す）とデータ領域（第 2 データ領域とも称す）とを有している。使用領域には遊技の進行に関するプログラムが記憶されており、使用領域外には不正対策に関するプログラムや遊技機試験に用いるプログラムが記憶されている。

【0071】

メイン制御基板 100 に搭載されている主制御 RAM の記憶容量は「1024 B 以下」となっており、「512 B 以下」の使用領域（第 1 作業領域とも称す）とそれ以外の使用領域外（第 2 作業領域とも称す）とを有している。第 1 作業領域は遊技の進行に応じて書き換え可能な記憶領域となっており、第 2 作業領域は不正対策や遊技機試験のプログラム実行時に書き換え可能な記憶領域となっている。

【0072】

主制御チップに内蔵されている主制御 RAM の記憶領域としては、打止切換スイッチのオン／オフ、自動精算スイッチのオン／オフの状態を示すスイッチ状態フラグの記憶領域、設定される 1～6 の何れかの値を示す設定値情報の記憶領域、複数の RT 状態のうち何れの RT 状態かを示す RT 状態情報の記憶領域、ボーナスなどの特定の条件装置の当選状態を示す特定の条件装置の記憶領域、その他、遊技を進行させるのに必要な情報が記憶さ

10

20

30

40

50

れる遊技情報の記憶領域、使用されていない未使用の記憶領域、レジスタから退避したデータが格納されるスタックエリアの記憶領域、電源投入時にセットされる仮スタックエリアの記憶領域がある。

【0073】

主制御RAMを初期化する契機は設定変更手段による設定変更処理時、電源断復帰処理時と毎遊技の開始時とがあり、それぞれの場合によって初期化する主制御RAMの記憶領域の初期化する範囲は異なる。

【0074】

設定変更処理時において、電源断復帰が正常に行えない場合、または復帰不可能状態の場合はスイッチ状態フラグの記憶領域を除くRAMエリアにデータ0をセット（初期化）する。つまり設定変更前の状態を引き継ぐものはスイッチ状態フラグしかなく、例えばRT状態や、条件装置フラグなどはクリアされ引き継がない。

【0075】

また、設定変更処理時であって、電源断復帰が正常に行える場合と、または復帰不可能状態以外の場合のいずれか一方、つまり、正常に設定変更処理を行う場合はスイッチ状態フラグの記憶領域、設定値情報の記憶領域、RT状態情報の記憶領域、特定条件装置の記憶領域が記憶される領域を除くRAMエリアにデータ0をセットする。つまり、設定変更前の遊技状態を維持したまま、設定変更後の設定値で遊技が可能となるようにRT状態、設定値データ、条件装置フラグを引き継ぐ。設定値データは設定変更前の情報を引き継ぎ、その後の設定変更処理において新たな設定値が設定されるため、サブ制御基板1000において、設定変更がされたのかを判定するために用いられる。

【0076】

さらに、電源断復帰処理時、毎遊技の開始時はRAMエリアの未使用の記憶領域と電源断復帰処理時は電源断復帰時RAM初期化時の最大使用領域を除くスタックエリアの記憶領域にデータ0をセットする。

【0077】

主制御チップに内蔵されている主制御内蔵レジスタとは、主制御チップに内蔵されている各周辺回路（例えば、タイマ回路等）の動作設定や、その機能を制御するためのものである。

【0078】

例えば、主制御ROMに記憶されているプログラムにより主制御内蔵レジスタの所定の記憶領域にデータを書き込む（セット、記憶とも称する）ことにより、主制御ROMに記憶されているプログラムの1つであるマスカブル割込み処理（例えば、タイマ割込み処理）に関する設定（タイマ回路の設定）を行うことができる。

【0079】

<サブ制御基板1000>

サブ制御基板1000は、副制御チップが搭載されている。副制御チップには、副制御CPU、副制御ROM、副制御RAM等がバスによって互いにデータ通信を可能としている。サブ制御基板1000は演出制御基板と双方向通信が可能であり、スピーカS、LEDランプ、サブスイッチ20、演出用スイッチ等に出力する演出を指定したデータを送信する。表示装置32への情報は画像制御基板へデータを送信する。また、サブ制御基板1000は電源基板から直接電力が供給される。

【0080】

<回胴装置基板>

回胴装置基板は、リールモータ、リールセンサ、ドアスイッチ、払出センサ、外部出力端子板47（外部集中端子板47とも称す）等とメイン制御基板100との間のデータ通信を行う中継基板である。リールモータはリールの駆動を制御する。リールセンサは、リールが正常な動作を行っているかを判定するセンサであり、突出片（インデックスとも称する）がセンサを通過した際に回胴装置基板へデータ送信を行う。ドアスイッチは、前扉PS2が開放されたか否かを判定するセンサである。払出センサはメダルがホッパ44か

10

20

30

40

50

ら払い出される際に適切に通過しているかを判定するセンサである。外部集中端子板は遊技機外のホールコンピュータヘデータを送信するための中継基板である。また、回胴装置基板は電源基板から直接電力が供給される。

【0081】

<ドア中継基板>

ドア中継基板は、入力される情報として、セレクト内の各種センサ情報（投入センサ1、投入センサ2、通路センサ、シュートセンサ）、ベットスイッチ情報、ストップスイッチ情報、精算スイッチ情報があり、出力する情報として、ブロック情報、クレジット数情報、ベット数情報、リプレイ図柄組合せ表示情報、払出数情報がある。ドア中継基板は、セレクト、ベットスイッチ、ストップスイッチ、精算スイッチ、クレジット数表示器26、払出数表示器、リプレイランプ、1ベットランプ、2ベットランプ、3ベットランプ、スタートランプ、メダル投入可ランプ、有利区間ランプと電氣的に接続されている。

10

【0082】

<演出制御基板>

演出制御基板（演出制御手段とも称す）は、サブスイッチ20、サブ十字キースイッチ21、演出用スイッチ、可動役物、スピーカS、バックランプ、フロントパネルPS2に設けられているLEDランプ、表示装置32の表示内容を制御する画像制御基板と電氣的に接続される。

【0083】

演出制御手段は、サブ制御手段1000と双方向通信が可能なように構成されており、サブ制御手段1000から受信した演出コマンドに基づいて演出装置への演出の出力を制御する。

20

【0084】

演出制御手段は、内部抽せん手段による役の抽選結果に基づいて演出内容を選択する。本実施形態では、複数種類の演出内容が予め設けられており、演出制御手段は、遊技の開始時等に、内部抽せん手段による役の抽選が行われた後、ソフトウェア乱数を用いた抽選によって演出内容を選択する。

【0085】

また、演出内容は、役抽選の結果だけでなくフリーズ抽選の結果や遊技状態（RT状態、フリーズ状態）等に応じて、それぞれ複数種類が設けられている。具体的には、ボーナス当選時、小役当選時、リプレイ当選時、非当選時等に対応し、それぞれ複数種類の演出内容が設けられている。

30

【0086】

演出内容は、遊技の進行に伴って、どのようなタイミングで（スタートスイッチ12の操作時や各ストップスイッチ13の操作時等）、どのような演出を出力するか（ランプをどのように点灯、点滅、または消灯させるか、スピーカSからどのようなサウンドを出力するか、及び表示装置32にどのような画像を表示させるか等）を定めたものである。

【0087】

また、演出制御手段によって出力される演出の発生を遊技者による操作に応じて行うようにすることも可能である。例えば、メイン制御基板100に操作信号が入力されるスタートスイッチ12、ストップスイッチ13、メダル投入口17、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）、精算スイッチ等の操作信号に応じてメイン制御基板100から送信されるサブ制御コマンドに基づいてサブ制御基板1000の演出制御手段により演出を発生させることも考えられるし、サブ制御基板1000に操作信号が入力されるサブスイッチ20、サブ十字キースイッチ21、演出用スイッチ等のサブ入力スイッチ操作手段に応じて直接サブ制御基板1000より演出を発生させることも考えられる。また、サブ制御基板1000と演出制御基板をそれぞれ別の基板としたが、1つの基板で構成してもよい。その場合は演出制御基板が有する機能や処理をサブ制御基板1000が備え、サブ制御基板1000にサブスイッチ20、サブ十字キースイッチ21、演出用スイッチ、可動役物、スピーカS、バックランプ、フロントパネルPS2に設け

40

50

られているLEDランプ、表示装置32の表示内容を制御する画像制御基板を電氣的に接続してもよい。

【0088】

＜画像制御基板＞

画像制御基板（画像制御手段とも称す）は、表示装置32に演出内容を具体的に表示するための画像制御ROM、サウンドROM、冷却ファン等が設けられている。

【0089】

＜基板構成の補足＞

なお、副制御基板と演出制御基板とを1つ（1枚）の基板で構成してもよいし、副制御基板と演出制御基板と画像制御基板とを1つの基板で構成してもよい。

【0090】

＜電源基板＞

本実施形態のスロットマシンPS1は、電源スイッチ40の操作に基づいて、電源基板から回胴装置基板及びサブ制御基板へと電力を供給する。回胴装置基板に供給された電力は、メイン制御基板100、ドア中継基板へと電力を供給する。そして、供給された電力は各部品へと供給されることで電氣的に接続される。サブ制御基板1000に供給された電力は、演出制御基板へと電力を供給し、そして画像制御基板へと電力を供給する。供給された電力は各部品へと供給されることで電氣的に接続される。

【0091】

次に、遊技機の遊技を制御するメイン制御基板100の制御について説明する。

【0092】

＜エラーの種類＞

エラーには復帰可能エラーと復帰不可能エラーに大別される。

【0093】

＜復帰可能エラー＞

復帰可能エラーとは、セレクトに関するエラー（メダル滞留エラー、メダル逆流エラー、メダル通過時間エラー）、ホッパ44に関するエラー（ホッパ滞留エラー、ホッパエンブティエラー、異常検知エラー）、ドア開放エラー、ハーネス抜けエラー等を示すエラーであり、復帰可能エラーが設定されると各種復帰可能エラーの要因を取り除いた後にリセットスイッチの操作を受け付けると、電源を再投入しなくても遊技に復帰できるよう構成されている。復帰可能エラー中は、何のエラーが発生しているかを遊技者に報知するために、表示装置32、払出数表示器、各種ランプで発生しているエラーに関する情報を表示する。

【0094】

遊技中に復帰可能エラーを検知した場合は、検知した時点で遊技の進行を停止してもよいし、復帰可能エラーを検知した遊技の終了後に遊技の進行を停止してもよい。復帰可能エラー中に遊技の進行を停止することで、不正による復帰可能エラーの発生であっても遊技場管理者への被害を抑えることができる。復帰可能エラー状態から復帰する条件としては、エラーの要因を取り除いたことにより自動的に復帰するように構成されていてもよく、電源を再投入せずに復帰可能なエラーを復帰可能エラーと称している。

【0095】

＜復帰不可能エラー＞

本実施形態のスロットマシンPS1では復帰不可能エラーが発生すると割込みを禁止し、出力ポートの出力をクリアするなど遊技の進行を制限するとともに、クレジット数表示器26でエラーの種類に応じた表示をするなど復帰不可能状態であることの報知を行う。

【0096】

また、復帰可能エラーが設定される場合、リセットスイッチ（図示せず）の操作を受け付けると復帰可能エラーが解除されるが、一度復帰不可能エラーが設定されると、リセットスイッチの操作受付や、電源を再投入しただけでは復帰不可能エラーは解除されない。この場合は、設定変更処理を行うことで復帰不可能エラーが解除されるよう構成されてい

10

20

30

40

50

る。復帰不可能エラー時に電源を再投入したときは、電源断復帰処理の一部を実行した後、復帰不可能エラー表示を繰返し実行することで以降の遊技処理を実行しないように制御される。

【0097】

復帰不可能エラーとしては、役抽選時に賭け枚数が規定数以外である場合、設定値エラーチェックにおいて値が正常範囲にない場合、電源断復帰時に電源断処理が正常に行われていないと判定した場合、水晶発振器の周波数異常が示されるなど乱数異常と判定された場合、入賞判定処理において有効ライン上に当選していない役に対応した図柄組合せが停止されている場合などがある。

【0098】

また、復帰不可能エラーとなると遊技中、遊技待機中（遊技が終了した後から次の遊技が開始されるまで）に関わらず、遊技の進行が停止される。

【0099】

<遊技方法、遊技の流れ>

スロットマシンP S 1で遊技を行うために、まずメダル投入口17からメダルを投入するか、予め貯留されているメダルをベット（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）操作されることで予め規定されているメダルの賭け枚数（規定数とも称す）を設定する。なお、本実施形態は規定数として3枚が設定されている。メダルの賭け枚数を設定することで有効ラインが有効に設定され遊技が可能な状態となる。

【0100】

メダルの賭け枚数が上限に設定されている状況で新たなメダル投入口からメダルが投入された場合は、クレジットに記憶される遊技メダル数が増加する。クレジットに記憶される最大枚数は50枚を上限としている。賭け枚数の上限（3枚）と貯留分の上限（50枚）を超えるメダルがメダル投入口から投入された場合（54枚目）は、メダルセレクトのブロックをオフ（メダルの遊技機内への投入を防ぐ状態）にして、受け皿に返却されるようになっている。即ち、賭け枚数が上限でありクレジットの貯留枚数が上限である場合にはブロックがオフとなる（セレクト内のホッパ44への通路が形成されなくなる）よう構成されている。

【0101】

メダルが投入されたときに賭け枚数が加算される状況としては、賭け枚数が3枚未満（メダルが投入されたときの遊技状態における最大賭け枚数未満）のときである。また、メダルが投入されたときにクレジットに貯留可能となる状況としては、賭け枚数が3枚（メダルが投入されたときの遊技状態における最大賭け枚数）であり、かつクレジットが50未満（クレジットに貯留可能な上限数未満）のときである。つまり、賭け枚数とクレジットの貯留数の和が53未満のときは、メダル投入口からメダルが投入されると遊技機内部にメダルが入ることになる。なお、メダルが投入されたときにメダルを遊技機内部に入るための条件として、遊技待機中（遊技終了から次遊技の開始までの期間）であることも挙げられる。例えば、リプレイに係る図柄組合せが表示され、自動ベット処理が実行されたあとの遊技待機中でもメダル投入可能要件を満たす。この場合は自動ベットで3枚ベットされている状態であるため、クレジットの貯留数が50未満であればメダル投入可能要件を満たすことになる。

【0102】

次に、スタートスイッチ12の操作を受け付けると、内部抽せん処理を実行し、内部抽せん処理の結果（役抽選結果、条件装置番号とも称す）を定めた後に、最小遊技時間（ウェイト時間（期間）、または4.1秒タイマとも称す）が経過しているか否かを判断しウェイト時間が経過している場合は各リールの回転を開始し、ウェイト時間が経過していない場合はウェイト時間が経過するまで各リールを回転せず待機する。

【0103】

次に、ストップスイッチ13（左ストップスイッチ13a、中ストップスイッチ13b、右ストップスイッチ13c）のいずれかのストップスイッチの操作（停止操作）を受け

10

20

30

40

50

付けると、役抽選結果と停止操作を受け付けたタイミングに応じて操作されたストップスイッチ13に対応するリールが停止する。全てのリールが停止（全停とも称す）すると各リールの停止受付時に決定した各停止図柄が異常でないか否かを判定し、異常でない場合、停止した図柄組合せが何れの図柄組合せであるかを検索し、検索結果に該当する図柄組合せに応じて、メダルの払い出し（クレジットへの加算を含む）、リプレイの設定（自動ベット処理）、ボーナス状態の設定、ボーナス状態の終了、RT状態の設定、RT状態の終了などの処理が行われ、1遊技が終了する。

【0104】

<フリーズ処理>

遊技の進行を所定期間一時停止状態にして遅延させるフリーズ処理（フリーズ演出とも称す）としては、例えば、遊技の進行に関わる機能である、遊技媒体の受付け、予めクレジットされた遊技媒体の賭け枚数を定めるためのベットスイッチの操作の受付け、遊技を開始するためのスタートスイッチ12の操作の受付け、またはリールの停止操作の受付けに関する機能を一時停止状態にすることが挙げられる。なお、フリーズ処理（フリーズ演出）はメイン制御基板100が制御する処理となっている。

10

【0105】

フリーズ演出としては、前述した遊技の進行に関わる全ての機能に関して一時停止状態にしてもよいし、一部の機能に関してのみ一時停止状態にしてもよい。

【0106】

遊技の進行を一時停止状態にする態様としては、遊技者の操作に基づく制御処理（ブロック制御によりメダルがホッパ44に導かれる通路を形成する処理、ベットスイッチの操作に基づいた賭け枚数設定処理、スタートスイッチ12の操作に基づいたリール回転処理または内部抽せん処理、ストップスイッチ13の操作に基づいたリール停止処理）を行わないことが挙げられる。

20

【0107】

フリーズ演出によって遊技の進行を一時停止している期間中に遊技者の操作に基づいた入力信号が発せられたときは、入力信号に基づく制御処理を行わない、入力信号を受付けない、入力信号の送信を所定期間が経過するまで遅延させるなどの処理を行うことで、フリーズ演出を行わない場合と比べ1回の遊技における遊技終了タイミングが遅延することになる。

30

【0108】

スタートスイッチ12の操作に基づいて行われるフリーズ演出に関しては、スタートスイッチ12が操作されたときに所定期間はリールの回転を行わずに所定期間の経過後にリールの回転を行う場合や、スタートスイッチ12が操作されたときに所定期間は内部抽せんとリールの回転を行わずに所定期間の経過後に内部抽せんとリールの回転を行う場合や、スタートスイッチ12が操作されたときに所定期間は内部抽せんを行うがリールの回転は行わずに所定期間の経過後にリールの回転を行う場合や、スタートスイッチ12が操作されて内部抽せんが行われた後に所定期間を設定し所定期間中はリールの回転や停止を行う場合や、スタートスイッチ12が操作されて内部抽せん、及びリールの回転を行った後に所定期間を設定し所定期間はストップスイッチ13の停止受付を無効にする場合等が挙げられる。

40

【0109】

ストップスイッチ13の操作に基づいて行われるフリーズ演出に関しては、ストップスイッチ13の操作の受付けに基づいて行うフリーズ演出とストップスイッチ13の操作の結果、特定の図柄がリール上に停止表示されたことに基づいて行うフリーズ演出において、フリーズ演出の制御処理が異なる。

【0110】

ストップスイッチ13の操作の受付けに基づいて行うフリーズ演出の制御処理として、例えば、全リール回転中において左ストップスイッチ13aが操作されてフリーズする場合は、左ストップスイッチ13aに対応する左リールが停止した後に中ストップスイッチ

50

13b、及び右ストップスイッチ13cの停止受付を無効にすることが挙げられる。これにより所定期間においては、遊技者は回転している中リール、及び右リールを停止できなくなるが、所定期間が経過した後に中ストップスイッチ13b、及び右ストップスイッチ13cの停止受付を有効にするため、1回の遊技における遊技終了までのタイミングを遅延させることができる。

【0111】

ストップスイッチ13の操作を受け付けた結果、特定の図柄がリール上に停止表示されたことに基づいて行うフリーズ演出の制御処理として、最後に停止されるストップスイッチ13以外のストップスイッチ13の操作を受け付けたことで特定の図柄が各リール上に停止表示されたときは、最後に停止されるストップスイッチ13の停止受付を無効にする場合や、最後に停止されるストップスイッチ13の操作を受け付けたことで特定の図柄が各リール上に停止表示されたことに基づいて、次の遊技を開始するベットスイッチの操作に基づいた賭け枚数設定処理、通過センサによる遊技媒体の投入検出処理、またはリプレイが有効ライン上に停止したときに行う自動ベット処理に基づく制御処理等を行わないことが挙げられる。

【0112】

フリーズ演出を行う所定期間は、遊技者の操作に基づく遊技進行制御を一時停止させるが、遊技の進行に関わらない遊技機動作は実行可能である。例えば、ストップスイッチ13の操作に基づく停止制御処理は行わない場合であってもリールの回転態様は通常通りの回転態様で回転させたり、通常よりも低速、または高速に回転させたり等任意に設定することができる。

【0113】

所定期間におけるリールの回転態様として、リールを通常回転とは逆方向に回転すること（所謂逆回転）、リールを所定図柄数回転し特定の図柄組合せを停止すること、複数のリールのうち所定のリールを停止状態にして他のリールを回転状態にすること、リールの回転速度を変化すること、または遊技者の操作に起因してリールの動作を変化することが挙げられる。

【0114】

フリーズ演出を行う所定期間は、所定の条件によって変化させることができる。ここで、所定の条件とは、遊技者による各種スイッチに対する操作受付状況（スタートスイッチ12、ベットスイッチ、ストップスイッチ13、または精算スイッチ等の操作状況）に基づく信号の検出や、フリーズ抽せんによる抽せん結果が挙げられる。また、変化させることは遊技の進行が一時停止となるフリーズ演出を行う所定期間を短くしたり、長くしたり、リールの回転態様を切り替えたりすることが挙げられる。

【0115】

一時停止期間を短くする制御処理として、一時停止期間を強制終了すること、または一時停止期間よりも短い期間に書き換えることが挙げられる。そして、一時停止期間を長くする制御処理として、一時停止期間の後に他の期間を加算すること、または一時停止期間をより長い期間に書き換えることが挙げられる。また、フリーズ演出に基づく一時停止期間は、上限時間が定められなくてもよく、操作受け付けの結果に基づいて一定の結果となるまで継続してもよい。

【0116】

フリーズ演出を行う一時停止期間は、ウェイト期間の経過後に設定してもよいし、ウェイト期間を含んで設定してもよい。ウェイト期間を含んだ場合は、ウェイト期間とフリーズ演出期間とを比較して、ウェイト期間中にフリーズ演出が終了する場合は、ウェイト期間中にフリーズ演出を実行し、ウェイト期間中にフリーズ演出が終了しない場合は、ウェイト期間後にフリーズ演出期間を設定したり、フリーズ演出終了後に残りのウェイト期間を再開したりすることが挙げられる。また、予めウェイト期間よりも長い期間のフリーズ演出期間しかなければ、ウェイト期間とフリーズ演出期間とを比較する処理を省略し、スタートスイッチ12の操作後（内部抽せん処理の後）にフリーズ演出を開始することも可

10

20

30

40

50

能である。

【0117】

フリーズ演出として、あたかも通常の遊技を進行しているかのようなフリーズ演出（疑似遊技とも称す）を加速処理中に行うことも可能である。疑似遊技では、スタートスイッチ12が操作され、内部抽せんが行われた後のリールの加速処理中に疑似遊技期間を定め、疑似遊技期間中は、通常の遊技のようにリール回転制御を行い（疑似遊技開始に基づくスタートスイッチの操作に基づいてリール回転制御を行い）、ストップスイッチ13の操作に基づいてリール停止制御を行う。また、疑似遊技期間中のスタートスイッチ12の操作により再度リールを回転するよう構成されていてもよい。但し、スタートスイッチ12の操作に基づく内部抽せん処理やストップスイッチ13の操作に基づく入賞判定処理または払出制御処理は行わない。

10

【0118】

また、疑似遊技では、ストップスイッチ13が操作されたことによりリールが停止したときや、リール演出として自動的にリールを停止したときには、停止したリールを上下に揺動させる（所謂揺れ変動）。これにより、遊技者がストップスイッチ13を操作した際に通常の遊技なのか疑似遊技なのかを判別することができる。

【0119】

＜技術介入を必要としない図柄組合せ＞

技術介入を必要としない図柄組合せとは、リールが回転している時にどのタイミングでストップスイッチ13が操作されても、当選している役の図柄組合せを必ず有効ライン上に停止表示可能な図柄組合せを意味する。例えば、全リール3図柄間隔でベル図柄が配置されたときはベルーベルーベルが必ず停止（引込率が100%）するため、技術介入を必要としない図柄組合せといえる。以下、引込率が100%のことをPB=1と称し、全リール引込率が100%となっている当選役をPB=1役と称する場合がある。

20

【0120】

反対に、PB≠1とは、リールが回転している時にストップスイッチ13の停止タイミングによっては、当選役の図柄組合せが停止しないことを意味する。例えば、引き込み範囲内に当選役に関する図柄が存在しない箇所（5図柄分離れている等）がある場合はPB≠1であり、当該当選役をPB≠1役と称する場合がある。

【0121】

＜小役優先制御、ボーナス優先制御＞

小役優先制御とは、小役とボーナスの重複当選時、またはボーナス内部中の小役当選時に小役に関する図柄とボーナスに関する図柄の両方とも引き込める場合は、小役に関する図柄を引き込むことである。

30

【0122】

ボーナス優先制御とは、小役とボーナスの重複当選時、またはボーナス内部中の小役当選時に小役に関する図柄とボーナスに関する図柄の両方とも引き込める場合は、ボーナスに関する図柄を引き込むことである。

【0123】

また、リプレイは最も優先度が高く、取りこぼしできないため、リプレイと小役、またはリプレイとボーナスの条件装置フラグが同時にオン状態となったときは、リプレイに関する図柄を必ず引き込むようになっている。

40

【0124】

＜通常区間＞

通常区間とは、指示機能に係る処理ができない区間である。通常区間で押し順役に当選したときは、どの押し順に当選したかをマスクした情報（演出グループ番号）をサブ制御手段1000に送信する処理を実行する。また、通常区間で押し順役に当選したときは、押し順（正解押し順と不正解押し順の両方）の報知を指示モニタに表示させない。これにより、通常区間では、メイン制御手段100、及びサブ制御手段1000ともに押し順役が当選しても押し順を報知しないため、通常区間で押し順役が当選しても常に正解か不正

50

解かはわからないようになっている。

【0125】

<有利区間>

有利区間とは、指示機能に係る処理を実行可能な区間であり、A Tによる過剰なメダル獲得を抑制するために有利区間を設けている。通常区間で実行する有利区間移行抽選に当選すると有利区間に移行することができる。有利区間では、A Tへの移行抽選を行うことができるが、先に述べた過剰なメダル獲得を抑制するために、有利区間を一定の条件に基づいて終了し通常区間へ移行させるように設計している。

具体的には、

- 1) 一の有利区間に移行した次遊技から1500ゲームの遊技を消化したとき
- 2) 一の有利区間に移行した次遊技から2400枚を超えるメダルを獲得したとき
- 3) 任意の条件を満たしたとき

が挙げられる。これらにより、過剰なメダル獲得を抑制することができる。なお、3)の任意の条件とは、例えば、一のA Tが終了したとき、特定の図柄組合せが表示されたときなどが挙げられる。

【0126】

有利区間である場合は、有利区間であることを示す情報（有利区間種別とも称す）を所定のRAM領域に記憶する。当該RAM領域に記憶されている値が0の場合（有利区間種別が0の場合）は、通常区間であることを示し、当該RAM領域に記憶されている値が1の場合（有利区間種別が1の場合）は、有利区間であることを示す。

【0127】

<有利区間ランプ>

有利区間に滞在していることをメイン側で示す情報として、有利区間ランプを設けている。これにより、遊技者は有利区間に滞在しているか否かを確認するときは有利区間ランプの点灯／非点灯で容易に判断することができる。具体的には、クレジット数表示器26のDPが点灯であると有利区間に滞在していることを示しており、クレジット数表示器26のDPが非点灯であると有利区間に滞在していないことを示している。なお、有利区間ランプの点灯タイミングは、全リール停止後、ベットスイッチ操作受付後、手入力で投入した1枚目のメダル検出時、手入力で投入した2枚目のメダル検出時、手入力で投入した3枚目のメダル検出時、スタートスイッチ受付後、または内部抽せんによる択役当選後等が挙げられる。また、必ず点灯させる条件として、有利区間に滞在していること、かつ択役の操作手順情報を報知し、当該報知遊技の出玉率（最大の出玉率）が1を超えている場合（増加する場合）が挙げられる。

【0128】

また、仕様上押し順小役が搭載されていないことで出玉率が1を超えないがリプレイ確率の高いRTへのRT移行押し順を報知する場合においても有利区間ランプを点灯させるよう構成されている。これは遊技者にとって有利な状態であることを有利区間ランプで教えるためであり、遊技者が遊技機の仕様がわからないことで損害を被ることを防ぐ目的がある。

【0129】

なお、上記のような有利区間ランプを必ず点灯させる条件を満たしていない場合には、新たに有利区間に移行した後の有利区間ランプを点灯させるタイミングは任意としても問題ない。

【0130】

なお、有利区間ランプを一度点灯させた場合は、有利区間が終了するまで点灯を維持し続け、有利区間が終了した遊技の次の遊技のスタートスイッチの操作の受け付けより前（全リール停止後、ベットスイッチ操作受付後、手入力で投入した1枚目のメダル検出時、手入力で投入した2枚目のメダル検出時、または手入力で投入した3枚目のメダル検出時）に有利区間ランプを非点灯にする。

【0131】

このように構成することで、有利区間ランプが点灯していなくても有利区間である場合があり、有利区間ランプが非点灯であっても指示機能に係る処理を実行される期待感を遊技者に与えることができる。これにより、従来は通常区間であれば、有利区間に移行させることを待つだけのゲームになっていたが、本実施形態の遊技機であれば、有利区間ランプが点灯していなくてもA T移行抽選等がなされている可能性があるため遊技のモチベーションを維持させることが可能となる。

【0132】

また、有利区間種別が1であるときは必ず有利区間であるとは限られない。これは、通常区間（有利区間種別が0）であり、有利区間移行抽選に当選して有利区間種別が1となる遊技においては、有利区間種別が1であるがまだ有利区間に移行する前であるため遊技状態としては通常区間となっているためである。試験信号として有利区間か通常区間かを送信するための処理を実行する際に、有利区間種別を参照すると通常区間であるのに有利区間の信号を送ることになってしまうため、本来の状態とは異なる信号を送信してしまう。

【0133】

この状況を防ぐために、試験信号として有利区間か通常区間かを送信する際は、有利区間クリアカウンタの値を参照するよう構成されている。有利区間クリアカウンタの値が0のときは通常区間であることを示す試験信号を出力するための処理を実行し、有利区間クリアカウンタの値が0でない（有利区間クリアカウンタの値が1～1500）ときは有利区間であることを示す試験信号を出力するための処理を実行する。このように構成することで試験信号を出力するための処理としては、有利区間クリアカウンタの値が0か否かを判断するのみで、状態が正確に特定できるため、プログラム容量の圧迫を解消し、且つプログラム実行速度を向上させることができる。なお、有利区間を任意の終了条件で終了させる場合も前述したとおり、有利区間クリアカウンタの値に1を入れるため、試験信号を出力するための処理では、有利区間が終了する遊技においても有利区間であることを正確に出力することができる。

< A T >

A Tとは、アシストタイムの略称であり、報知期間とも称し、遊技者が役抽選により当選した役の入賞を容易にする（以下、報知と称する）ための期間である。一般的に、A T中で報知する手段としては、ストップスイッチの操作タイミング、ストップスイッチの操作順番、ストップスイッチの操作タイミングかつストップスイッチの操作順番が挙げられ、操作手順や操作態様とも称する。

【0134】

< 択役のグループ化 >

メイン制御手段100は、非A T中の択役当選時は択役が当選したことを示す演出グループ番号をサブ制御手段1000に送信し、A T中の択役当選時は演出グループ番号と操作手順情報をサブ制御手段1000に送信する。換言すると、非A T中は操作手順情報がサブ制御手段1000に送信されないため、サブ制御手段1000は操作手順を報知できないようになっている。これにより、サブ制御手段1000側では、非A T中はどの操作手順で操作されると遊技者に有利な図柄組合せが表示できるかは不明であり、A T中は遊技者に有利な図柄組合せが表示できる操作手順情報が送信されるため、サブ制御手段1000側の液晶表示装置や操作指示ランプで操作手順を報知することができる。これにより、遊技者は操作手順を容易に認識することができ、さらに非A T中に操作手順情報を不正に取得されることを抑制することができる。

【0135】

< 指示機能に係る処理 >

指示機能に係る処理は、A T移行抽せん、A T上乘せ抽せん、A T終了条件の更新（A T遊技数の加算／減算、A T実行報知回数の加算／減算）などA Tに関する抽せんのみならず、A T状態の管理に関する処理を含む概念である。この指示機能に係る処理は遊技状態ごとにあらかじめ決められたベット数において実行可能であり、ある遊技状態において

10

20

30

40

50

複数のベット数が規定数として設定されている場合は何れか1のベット数のときのみ処理を実行するよう構成されている。例えば、ボーナス内部中状態において2枚ベットと3枚ベットが可能な場合は、3枚ベットでの遊技でのみ指示機能に係る処理を実行可能とし、2枚ベットでの遊技では指示機能に係る処理を実行不可能とする。つまり、2枚ベットでの遊技では、AT抽選対象役に当選してもAT抽選を実施しなかったり、遊技の進行に応じてAT遊技数を更新しなかったりする。また、1遊技で終了するSB（シングルボーナス）、またはCBが2枚ベット遊技専用であり、SB、またはCBが終了した後の遊技では2枚ベット、3枚ベットである場合、SB、またはCBでリプレイが当選して自動ベットされる枚数が2枚であればSB、またはCB終了後の遊技で指示機能に係る処理が実行不可能になってしまう（3枚ベットで指示機能に係る処理を実行可能としている）ため、SB、またはCBでリプレイが当選したときに自動投入で投入されるベット数を3枚に設定しておく。このようにすることで、SB、またはCBでリプレイが当選した後の遊技においても指示機能に係る処理が実行可能になるため、遊技者にとって不利な遊技をなくすることができる。なお、上述した通り有利区間に係る処理に関してはベット数に関係なく実行されるよう構成されている。

【0136】

<指示モニタ>

AT中は、押し順役の操作手順に関する情報を報知する際、獲得枚数表示器を用いて操作手順情報を報知することがある。具体的には、押し順役A（左中右正解）の場合は指示モニタに「1」を表示し、押し順役B（左右中正解）の場合は指示モニタに「2」を表示し、押し順役C（中左右正解）の場合は指示モニタに「3」を表示し、押し順役D（中右左正解）の場合は指示モニタに「4」を表示し、押し順役E（右左中正解）の場合は指示モニタに「5」を表示し、押し順役F（右中左正解）の場合は指示モニタに「6」を表示する。

【0137】

このような構成により、遊技者は指示モニタを確認することで正解の押し順を知ることができる。また、指示モニタはメイン制御基板での制御になるためサブ制御基板を不正改造されたとしても正確に押し順を報知することができる。

【0138】

また、指示モニタを獲得枚数表示器と兼用する場合は、下位桁に上述した数字（1～6）を表示し、上位桁に識別子として「=」を表示してもよい。この場合は、獲得枚数表示器が獲得枚数を表示しているのか、押し順を表示しているのかを識別子で判断させることができるため、遊技者の認識を妨げないようにできる。

【0139】

また、指示モニタを専用の表示器として構成する場合は、3桁の7セグメント表示器を用いてもよい。3桁にする理由としてはリールの数と対応しているためである。そして、押し順役A（左中右正解）の場合は指示モニタに「123」を表示し、押し順役B（左右中正解）の場合は指示モニタに「132」を表示し、押し順役C（中左右正解）の場合は指示モニタに「213」を表示し、押し順役D（中右左正解）の場合は指示モニタに「312」を表示し、押し順役E（右左中正解）の場合は指示モニタに「231」を表示し、押し順役F（右中左正解）の場合は指示モニタに「321」を表示する。このような構成であれば、指示モニタの押し順が直感的に把握しやすくなり、遊技者が押し順と指示モニタの表示との対応関係を容易に把握することができる。

【0140】

指示モニタに押し順を表示させるタイミングとしては、有利区間であり、且つスタートスイッチの操作に基づいて実行される内部抽せんによって押し順役が当選した後からストップスイッチが操作可能となるまでの何れかのタイミングとすることが好適である。このような構成であれば、遊技者がストップスイッチを操作する前に押し順を報知できるため、不正解の押し順で停止操作をしてしまうことを抑制することができる。

【0141】

<状態表示モニタ（役比モニタ）>

役比モニタとは、累計の有利区間比率または累計の指示込役物比率（遊技機の仕様に応じて選択可能。指示込役比とも称する）、最新の6000ゲーム間の連続役物比率、最新の6000ゲーム間の役物比率、累計の連続役物比率、累計の役物比率、累計の役物等状態比率を4800ms毎に切り替えて表示する表示装置であり、7セグメントLED（DPあり）を4個用いることで4桁の数字を表示可能となっている。4個の7セグメントLEDで表示する4桁の数字のうち上位2桁を識別セグ、下位2桁を比率セグと称す。

【0142】

役物比率における「役物」とは、第1種特別役物（所謂RB）、第2種特別役物（所謂CB）、及び普通役物（所謂SB）を指しており、「役物比率」とは、役物作動中の払出÷総払出×100で算出される比率である。なお、第1種特別役物連続作動装置（所謂BB）や第2種特別役物連続作動装置（所謂MB）の作動における払出も「役物作動中の払出」に含まれるが、BB中の一般遊技やMB中の一般遊技での払出は「役物作動中の払出」に含まれない。なお、「払出」とは、投入数を減算していない用語であり、払出数－投入数の場合は、差枚数と称する。

【0143】

連続役物比率における「連続役物」とは、第1種特別役物（所謂RB）を指しており、「連続役物比率」とは、第1種特別役物作動中の払出÷総払出×100で算出される比率である。なお、第1種特別役物連続作動装置（所謂BB）の作動における払出も「役物作動中の払出」に含まれるが、BB中の一般遊技での払出は「役物作動中の払出」に含まれない。

【0144】

指示込役物比率における「指示込役物」とは、上述した「役物」に指示機能が作動した遊技（所謂AT）における払出を含んだものであり、「指示込役物比率」とは、（指示機能作動中の払出、または役物作動中の払出）÷総払出×100で算出される比率である。ここで、（指示機能作動中の払出、または役物作動中の払出）とは、指示機能作動中、且つ役物が作動した遊技の払出を指すのではなく、指示機能が作動した遊技の払出数と役物が作動した遊技の払出の合算を指す。仮に、指示機能が作動した遊技が、役物が作動した遊技であった場合には、2つの払出数を合算するのではなく、その遊技の払出数が（指示機能作動中の払出、または役物作動中の払出）となる。なお、ATが作動した遊技で遊技者がストップスイッチの操作態様を間違えた場合、最大の払出を得られないことがあるが、この場合は実際の払出に基づいて算出される。

【0145】

役比モニタに表示する情報のうち識別セグに表示する情報は、累計の有利区間比率、累計の指示込役物比率、最新の6000ゲーム間の連続役物比率、最新の6000ゲーム間の役物比率、累計の連続役物比率、累計の役物比率、累計の役物等状態比率のうちどの比率を表示しているかを識別するための情報であり、それぞれ、「7U.」、「7P.」、「6Y.」、「7Y.」、「6A.」、「7A.」、「5H.」と表示する。例えば、識別セグに「7U.」と表示されている場合は、累計の有利区間比率であることを示し、識別セグに「6Y.」と表示されている場合は、最新の6000ゲーム間の連続役物比率であることを示している。なお、役比モニタに表示する「.」とは、デシマルポイントのことである。

【0146】

役比モニタに表示する情報のうち比率セグに表示する情報は、各種比率の算出結果を視認できるための情報であり、2個の7セグメントLEDを用いて2桁の数字で表示する。例えば、算出結果が70となった場合は、比率セグに「70」と表示する。なお、算出した結果のうち小数点以下は切り捨てて表示する。また、算出結果が100となった場合は、「99」と表示する。また、累計のゲーム数が400ゲームに満たない場合は、比率セグは「00」と表示する。

【0147】

識別セグは、累計ゲーム数が基準ゲーム数に満たない場合は識別セグを点滅態様で表示する。基準ゲーム数は各種比率に応じて定まっており、累計の有利区間比率の場合は175000ゲームであり、累計の指示込役物比率の場合は175000ゲームであり、最新の6000ゲーム間の連続役物比率の場合は6000ゲームであり、最新の6000ゲーム間の役物比率の場合は6000ゲームであり、累計の連続役物比率の場合は17500ゲームであり、累計の役物比率の場合は17500ゲームであり、累計の役物等状態比率の場合は175000ゲームである。

【0148】

比率セグは、表示数値が閾値以上の場合には比率セグを点滅態様で表示する。閾値は各種比率に応じて定まっており、累計の有利区間比率の場合は70であり、累計の指示込役物比率の場合は70であり、最新の6000ゲーム間の連続役物比率の場合は60であり、最新の6000ゲーム間の役物比率の場合は70であり、累計の連続役物比率の場合は60であり、累計の役物比率の場合は70であり、累計の役物等状態比率の場合は50である。なお、累計のゲーム数が400ゲームに満たない場合であって算出の結果は閾値以上となるが比率セグには「00」と表示する場合は、比率セグは点灯態様で表示する。

【0149】

役比モニタが正常な動作が可能であることを確認するために、電源が投入されてタイマ割込み処理が起動してから4800ms間は、識別セグと比率セグにはテストパターンを表示する。テストパターンとしては、役比モニタを構成する4個の7セグメントLEDのうち全てのセグメント（DP含む）を点滅態様で表示する。例えば、「8.8.8.8.」を点滅態様で表示することが挙げられる。なお、テストパターンは電源投入後のタイミングで表示する場合の他に、設定変更中、設定確認中、RWM（RAM）異常エラー中の何れかのタイミングで表示してもよい。

【0150】

識別セグにおいて累計ゲーム数が基準ゲーム数に満たない場合、比率セグにおいて表示数値が閾値以上の場合、識別セグ、及び比率セグにおいてテストパターンを表示する場合のそれぞれの場合においてセグメントを点滅態様で表示するが、具体的には、点灯300ms→消灯300ms→点灯300ms→消灯300ms→・・・といったように300ms毎に点灯と消灯とを切り替えて点滅態様を表示している。また、各種比率情報を切り替えたときは点灯から開始するようにしており、これにより各種比率情報の表示期間が点灯と点滅のタイミングで長くなったり短くなったりしないようにしている。

【0151】

上述したように、役比モニタに表示する、累計の有利区間比率または累計の指示込役物比率、最新の6000ゲーム間の連続役物比率、最新の6000ゲーム間の役物比率、累計の連続役物比率、累計の役物比率、累計の役物等状態比率は、4800ms毎に表示内容を切り替えるよう構成しているが、この4800msを点灯と点滅の1セットである600msの倍数に設定していることで、役比モニタに表示している各種比率の切り替えタイミングでは点滅態様で表示する場合であっても7セグメントLEDの何れかのLEDが必ず点灯しているように構成することが可能となる。

【0152】

このように構成することで、各種比率情報が切り替わるタイミングであっても点灯から開始するので、点滅周期がずれないことによる違和感のない表示を継続して表示することが可能となる。

【0153】

また、上述した電源投入後のテストパターンの表示期間も4800msとしているため、テストパターンを4800ms表示し終わった時点では7セグメントLEDは消灯となり、次のタイマ割込み処理で累計の有利区間比率または累計の指示込役物比率に関する情報を点灯から表示することが可能となる。

【0154】

続いて、役比モニタにおける点滅表示に関する制御方法を説明する。

【0155】

役比モニタの表示態様を点滅させるために、点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）を有している。点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）は2バイトの記憶領域であり、タイマ割込み処理毎に1を加算する処理を実行する。点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）は、電源投入時に初期化され（0が記憶され）、その後タイマ割込み処理を実行する毎に0～299の値を循環する。換言すると299の次の値は0となる。

【0156】

例1）点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が「0」のときに更新処理を行うと、点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が「1」となる。このとき、キャリーフラグ=1となる（「0-299」を演算した結果、桁下がりが発生するためキャリーフラグ=1となる）。

【0157】

例2）点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が「298」のときに更新処理を行うと、点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が「299」となる。このとき、キャリーフラグ=1となる（「298-299」を演算した結果、桁下がりが発生するためキャリーフラグ=1となる）。

【0158】

例3）点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が「299」のときに更新処理を行うと、点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が「0」となる。このとき、キャリーフラグ=0となる（「299-299」を演算した結果、桁下がりが発生しないためキャリーフラグ=0となる）。

【0159】

上述したように、点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が0～298のうちの何れかの値である場合は、キャリーフラグ=1となり、点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）が299である場合はキャリーフラグ=0となる。換言すると300ms毎にキャリーフラグ=0となる。

【0160】

キャリーフラグ=0となったときは、点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）を更新するよう構成されている。点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）は、電源が投入されると初期化され（0が記憶され）、点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）に0が記憶されているときは役比モニタを点灯させ、点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）に1が記憶されているときは役比モニタを消灯させる。換言すると、300ms毎にキャリーフラグ=0となるため、300ms毎に点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）に0と1とを繰り返し記憶することにより、役比モニタの表示態様が300ms毎に点灯態様と消灯態様とを繰り返し表示（点滅表示）することが可能となる。

【0161】

役比モニタの表示を点滅態様で表示する場合は、識別セグにおいて累計ゲーム数が基準ゲーム数に満たない場合、比率セグにおいて表示数値が閾値以上の場合、識別セグ、及び比率セグにおいてテストパターンを表示する場合の何れかの場合であるため、これらの場合以外の場合は、点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）を参照せずに点灯態様で表示するようにしている。ただし、点滅切り替えフラグ（__FL__CHG__FLS）を参照するか否かに関わらず点灯と消灯を切り替える時間を管理するための記憶領域（__TM__CHG__FLS）はタイマ割込み処理毎に更新されているため、点滅切り替えフラグ

(__FL__CHG__FLS)も随時更新されており、点滅切り替えフラグ(__FL__CHG__FLS)を参照しない状態から参照する状態に切り替わったときであっても点灯と消灯とのタイミングと各種比率表示の切り替えタイミングがずれることなく表示することが可能となる。

【0162】

＜プログラム開始処理フロー＞

本実施形態に係るメイン制御基板100が実行するプログラム開始処理に関して、図5のフローチャートを用いて説明する。

【0163】

メイン制御基板100は、電源が投入されると、遊技機の動作に関する初期設定を行う。具体的には、割り込みモードのセット、メインCPUの機能設定、電源断復帰データを作成するRAMチェック処理を行う。RAMチェック処理は全RAMのチェックサムが正常か否かを判定し、条件を満たす場合は電源断復帰データが正常と判定し、条件を満たさない場合は電源断復帰データが異常と判定する。

【0164】

次に、設定キースイッチ信号及びドア開放検知スイッチ信号の状態をチェックし、設定キースイッチ37及びドア開放検知スイッチがオンか否かを判定する。

【0165】

設定キースイッチ37及びドア開放検知スイッチがオンである場合は、電源断復帰データが正常、または復帰可能状態か否かを判定する。電源断復帰データが正常、または復帰可能状態である場合は、設定変更処理における初期化処理で初期化する第1の初期化範囲を設定して、図10の設定変更処理へ移行する。電源断復帰データが正常、または復帰可能状態でない場合は、設定変更処理における初期化処理で初期化する第2の初期化範囲を設定して、図10の設定変更処理へ移行する。そして、設定変更処理の後は図9の遊技進行メインへ移行する。

【0166】

設定キースイッチ37及びドア開放検知スイッチがオンでない場合は、RAMチェック処理で作成する電源断復帰データが正常か否かを判定する。電源断復帰データが異常又は復帰不可能状態である場合は復帰不可能エラー報知を行いスロットマシンPS1の遊技の進行を停止する復帰不可能エラー処理へ移行する。一方、電源断復帰データが異常又は復帰不可能状態でない場合は図8の電源断復帰処理へ移行する。そして、電源断復帰処理の後は図9の遊技進行メインへ移行する。なお、電源断復帰処理の後は電源断を検知したときに退避した状態を復帰するため、遊技進行メインの初めから処理が実行されるとは限らない。

【0167】

なお、復帰不可能エラー処理では、割り込みを禁止し、出力ポートの出力（サブ制御コマンドの出力、ステッピングモータへの励磁信号の出力など）をクリアする。そして、獲得枚数表示器27においてエラーの表示（報知）を繰返す。

【0168】

＜電源断処理＞

本実施形態に係るメイン制御基板100が実行する電源断処理について図6のフローチャートを用いて説明する。

【0169】

本実施形態では、電源スイッチ40のオフ操作や、停電などの電源の供給が断たれる事象が発生（電源断の発生とも称す）するとスロットマシンPS1を稼働させるための動作電圧が低下し、当該動作電圧が閾値を下回った場合に電圧監視回路が電源断を検知して電源断検知信号を生成し主制御チップの入力ポートに電源断検知信号が入力される。そして、タイマ割り込み処理の電源断検知信号が入力されているか否かを判断する判断処理で、電源断検知信号が入力されていると判断したときに電源断処理を実行する。なお、タイマ割り込み処理で電源断検知信号が入力されているか否かを判断する場合、1回のタイマ割り込み

10

20

30

40

50

処理で判断してもよいし、2回以上の複数回のタイマ割込み処理で判断してもよい。換言すると複数回のタイマ割込み処理で電源断が否かを判定するときは、1回目で電源断検知信号が入力されていると判定しても2回目で電源断検知信号が入力されていないと判定した場合は電源断処理を実行しない。これは、ノイズや瞬断（一瞬だけ電圧が閾値を下回ったがすぐに閾値を上回った状態）が発生した場合に、電源断処理を実行しないようにするためである。

【0170】

電源断処理では、出力ポートをクリアし、定期的に行われている割込みが発生するのを禁止し、電源断時の割込み禁止／許可状態を保存する。次いで、使用レジスタの退避及びスタックポインタを保存する。保存すると電源断処理を行ったことを示す電源断処理済フラグをオンに保存し、全RAMエリアのチェックサムデータを算出し保存する。そしてRAMの書き込みを禁止し、リセット待ちとなる。なお、保存されるスタックポインタのアドレス範囲、電源断処理済フラグの有無、全RAMエリアのチェックサムが正常か否かは、電源断復帰処理時に判定する。

【0171】

＜タイマ割込み処理＞

本実施形態に係るメイン制御基板100が実行するタイマ割込み処理について図7のフローチャートを用いて説明する。

【0172】

本実施形態においてタイマ割込み処理は2.235ms（ミリ秒）毎に定期的に行われるよう構成されている。

【0173】

タイマ割込み処理を開始すると、レジスタに記憶されている必要なデータを対比し、電源断検知信号を受信したときは電源断処理を実行し、各種センサ、操作スイッチの入力を判定する入力ポートの読み込みを行い、各種タイマ（フリーズ期間計測用タイマ、ウエイト期間計測用タイマなど）の計測を行い、リール駆動制御として、各リールが加速中、定速回転中、減速開始中、減速中、停止中のいずれの駆動状態に応じた制御及び駆動状態の更新を行う。次いで、出力ポートごとに出力するデータ（ステッピングモータへの励磁信号やホッパ44の駆動信号など）を作成し出力するポート出力処理を行い、各種異常が発生しているか否かのチェックを行う。各種異常とは、現在の設定値が正常な値か否か、投入・払出センサの動作パターンが正常か否かが挙げられる。次いで、ホールコンピュータなど外部のシステムへ出力するボーナス信号、ART信号、セキュリティ信号などの外部信号、メダル投入信号及びメダル払出信号をセット（オン／オフを制御）する外部信号出力を行う。

【0174】

次に制御コマンド送信処理ではセットされたサブ制御コマンドがある場合、サブ制御基板1000へサブ制御コマンドを出力し、各種LEDの点灯に関する制御を行い、ストップスイッチの操作音やメダル投入音などサブ制御基板に送信する報知データを出力し、性能試験に係る信号を出力し、レジスタを復帰させ、割り込み許可フラグをオンに保存することでタイマ割込み処理を終了する。

【0175】

なお、サブ制御コマンドの種類としては、スタートスイッチが操作されたことによるスタートコマンド、内部抽せんの結果を示す当選情報コマンド、リールの加速が開始したことによる回胴回転開始コマンド、回転中のリールを停止するための各ストップスイッチが操作されたことによる左回胴停止コマンド、中回胴停止コマンド、右回胴停止コマンド、全回胴停止コマンド等様々有する。

【0176】

また、タイマ割込み処理内で、タイマ計測の処理を行っても良い。

タイマ計測では、RWM（RAM）に記憶されているタイマ（時間）に関する情報を更新する制御処理を行う。例えば、1回の最小遊技時間（4.1秒）を監視（管理）するR

10

20

30

40

50

WMの記憶領域（以下、タイマ領域Aとも称す）に記憶されている値を更新する処理（例えば、1減算する処理）を行う。なお、最小遊技時間を監視するRWMの記憶領域だけでなく、投入ボタンによる遊技メダルの投入を監視（管理）するRWMの記憶領域（以下、タイマ領域Bとも称す）、外部信号の出力時間を監視（管理）するRWMの記憶領域（以下、タイマ領域Cとも称す）等、複数のタイマに関するRWMの記憶領域を有していても良い。

この場合、タイマ計測では、タイマ領域Aに記憶された値を1減算する処理、タイマ領域Bに記憶された値を1減算する処理、タイマ領域Cに記憶された値を1減算する処理など、タイマに関する情報を記憶しているRWMの記憶領域（以下、タイマ領域とも称す）に記憶されている値を1減算する処理を実行する。また、或るタイマ領域に記憶されている値が「0」のときにタイマ計測を行った場合には、或るタイマ領域に記憶されている値は「0」となるように構成されている。

【0177】

なお、RWMに記憶されているタイマに関する情報を更新する制御処理として、タイマ領域に記憶されている値を1減算する処理を例として挙げたが、タイマ領域に記憶されている値を1加算する処理としても良い。

【0178】

ここで、投入ボタンによる遊技メダルの投入を監視（管理）について説明を行う。

投入ボタンによる遊技メダルの投入を監視（管理）とは、1ベットスイッチ19が操作されたことに基づくベット処理が実行されてから計時するタイマであって、当該タイマの値が「0」となるまで、次の1ベットスイッチ19が操作されたか否かを判断する処理を実行しないようにするためのタイマである。

【0179】

例えば、クレジット数が所定値以上ある所定の状況下（例えば、ベット数が0であり、クレジット数が3であり、1ベットスイッチ19の操作によりベットが可能な状況下）において、1ベットスイッチ19が操作されたことに基づくベット処理が実行された後にタイマ領域Bに「20」を記憶する。その後、タイマ割込み処理のタイマ計測によって、タイマ領域Bに記憶されている値を「1」減算する。そして、タイマ割込み処理が20回実行されたときに、タイマ領域Bに記憶されている値が「0」となる。なお、タイマ領域Bに記憶されている値が「0」でない場合（タイマ領域Bに記憶されている値が「1」～「20」の何れかの場合）は、遊技進行メイン処理において、1ベットスイッチ19が操作されたか否かの判断をしない。つまり、タイマ領域Bに記憶されている値が「0」でない場合に1ベットスイッチ19が操作されても、ベット処理が実行されない。その後、タイマ領域Bに記憶されている値が「0」となった後は、1ベットスイッチ19が操作されたときにベット処理が実行可能となる。

【0180】

このように構成することによって、1ベットスイッチ19を1回操作したにも関わらず、誤作動により複数回のベット処理が実行されてしまうことを防止することができる。また、悪意のある遊技者が、1ベットスイッチ19を連打することによって、1ベットスイッチ19の操作に基づくベット処理が複数回実行され、ベット処理の実行に基づくコマンドが連続してサブ制御手段1000に送信されてしまうことを防止することができる。

【0181】

＜電源断復帰処理＞

本実施形態に係るメイン制御基板100が実行する電源断復帰処理について図8のフローチャートを用いて説明する。

【0182】

本実施形態では、電源スイッチ40のオン操作により電源が投入された時に、メイン制御基板100が、各種データを電源断前の状態に復帰するための電源断復帰処理を実行する。

【0183】

電源断復帰処理では、スタックポインタを復帰し、サブ制御基板1000へ送信するサブ制御コマンドに係る出力データを復帰する。その後、設定されている設定値データが正常範囲内か否かを判断する。判断の結果、異常（値が定められた範囲外）の場合は復帰不可能エラー処理に移行する。一方、正常（値が定められた範囲内）の場合は、未使用RAM領域を初期化し、定期的に行われる割込みを起動し、入力ポートを読み込む。その後、電源断処理済みフラグをクリアし、使用レジスタの復帰、電源断時の割込み禁止／許可状態の復帰を行い、電源断復帰処理を終了する。なお、電源断復帰処理を終了すると電源断が発生する前の状態に復帰し、復帰しない場合（設定変更時）は遊技進行メインの制御処理を初めから行う。

【0184】

本実施形態では電源断復帰処理内の所定のタイミングで割込みを起動しているが、プログラム開始処理の電源断復帰処理後に割込みを起動してもよい。

【0185】

＜遊技進行メインの説明＞

本実施形態に係るメイン制御基板100が実行する遊技進行メインの制御処理について図9のフローチャートを用いて説明する。

【0186】

メイン制御基板100は、前回遊技以前に保存されたフリーズ演出番号の値を参照し、保存されているフリーズ演出番号がフリーズ演出を実行すべき番号に対応する場合はフリーズ演出を実行し、保存されているフリーズ演出番号がフリーズ演出を実行すべき番号に対応しない場合はフリーズ演出を実行せずに次の処理に進む。フリーズ演出を実行しないときはフリーズ演出番号を保存しないように構成してもよく、その場合はフリーズ演出番号が保存されているか否かを判定し、保存されていない場合は次の処理に進むよう構成してもよい。

【0187】

次に、メダル投入口17から遊技メダルが投入されると、ベット数若しくはクレジット数を更新する（遊技価値投入処理）。次に、遊技が実行可能となるベット数がベットされているかを判定し、ベットされていると判定した場合は、スタートスイッチ12が操作されたか否かを判定し、ベットされていないと判定した場合は、遊技メダルの投入、またはクレジットに貯留されている状態であればベットスイッチの操作受付（クレジットに貯留されている状態の場合）を待つ。遊技が実行可能となるベット数がベットされており、スタートスイッチ12が操作された（スタートスイッチ信号がオンと判定された）場合は、内部抽せん処理を行い、スタートスイッチ12が操作されていない（スタートスイッチ信号がオンと判定されていない）場合は、スタートスイッチ12の操作受付を待つ。

【0188】

内部抽せん処理では、内部抽せん用乱数を生成して取得した内部抽せん用乱数値を用いて所定の演算処理を実行し、当選役（条件装置番号）を決定する。当選役を決定した後は、各ストップスイッチの停止タイミングに対応した停止制御テーブルを予め作成し、リール回転後のストップスイッチ操作受付を許可した直後にストップスイッチの操作を受け付けても停止制御が実行可能なように準備しておく。

【0189】

スロットマシンPS1に設けられている当選役の種類は、大別して、ボーナス、小役、リプレイがある。

【0190】

ボーナスは、予め定められた場合に作動する役物を意味している。一般的には、表示窓4の有効ライン上に「7・7・7」や「7・7・バー」の図柄組合せを停止表示させたときに作動する。ボーナスに関する役物の作動により、規定数ごとの入賞に係る図柄組合せの数が増えたり、規定数ごとの入賞に係る図柄組合せの条件装置作動確率が増えたりする。ボーナスは、RB、BB、CB、MB、SBに分けられる。

【0191】

10

20

30

40

50

R Bは、レギュラーボーナスの略称であり、第1種特別役物とも称される。R Bは、一般的には8回の小役入賞か12回の遊技結果を得ることを終了条件として設定され、R B中は小役の当選確率を通常役抽選テーブルよりも高く設定したR B中役抽選テーブルを用いて役抽選を行う。

【0192】

B Bはビッグボーナスの略称であり、第1種特別役物に係る連続作動装置とも称される。B Bは、小役入賞に係る所定数（例えば、269枚）を超える遊技メダルの払い出しが終了条件として設定され、B B中は小役（後述する）の当選確率を通常役抽選テーブルよりも高く設定したB B中役抽選テーブルを用いて役抽選を行う。なお、B B中はB B中役抽選テーブルを設けなくてもよい。例えば、後述するR B中役抽選テーブルをB Bの終了条件を満たすまで連続作動させるものをB B中役抽選テーブルと称してもよい。

10

【0193】

C Bは、チャレンジボーナスの略称であり、第2種特別役物とも称される。C Bには、役抽選の結果に関わらず少なくともすべての小役が当選した状態に設定することができる。また、C B中は、予め定められたリールに関し、通常の停止制御とは異なる停止制御を行う。例えば、左リール8aを190ミリ秒から75ミリ秒以内に停止するように制御することが考えられる。

【0194】

C Bは、上述したように少なくともすべての小役が当選した状態となるため操作手順に応じて表示可能となる図柄組合せが表示できない（取りこぼしとも称す）構成にしてもよい。例えば、C B中は、左リール8aを190ミリ秒から75ミリ秒以内に停止するように制御することで、190ミリ秒以内に停止する場合は任意の操作タイミングで特定の図柄を有効ライン上に表示することができたが、75ミリ秒以内に停止する場合は特定の操作タイミングでは特定の図柄を表示できない場合を有してもよい。

20

【0195】

M Bは、ミドルボーナスの略称であり、第2種特別役物に係る連続作動装置とも称される。M Bは例えば、小役入賞に係る153枚を超えるメダルの払い出し、R B当選、または後述するS Bの当選を終了条件として設定される。

【0196】

S Bは、シングルボーナスの略称であり、普通役物とも称される。S Bには、1回の遊技の結果が得られることが終了条件として設定される。S B中は小役の当選確率を通常役抽選テーブルよりも高く設定したS B中役抽選テーブルを用いて役抽選を行う。

30

【0197】

本実施形態におけるB Bは、B B中役抽選テーブルを用いて役抽選を行うとしたが、これに限られず、B B中は通常役抽選テーブルと小役の当選確率が同一の確率に設定されているとともにR Bの当選確率が上昇したB B一般役抽選テーブルと、小役の当選確率を通常役抽選テーブルよりも高く設定したR B中役抽選テーブルを用いて遊技を行ってもよい。この場合であっても、B Bでは、小役入賞に係る所定数のメダルを超える払い出しを終了条件として設定していることに変わりはない。また、これらボーナスに関する制御を司るものを総称して特別遊技制御手段という。

40

【0198】

小役は、当選した小役に基づく図柄組合せが有効ライン上に停止表示され、入賞判定処理（後述する）により入賞と判定したときに、停止表示した図柄組合せに基づくメダルの払い出しを行う役である。

【0199】

リプレイ（再遊技役とも称す）は、当選したリプレイに基づく図柄組合せが有効ライン上に停止表示され、入賞判定処理により入賞と判定したときに、再遊技（新たにメダルを投入しなくても自動ベットにより次の遊技を行うことが可能となる遊技）を付与する役である。リプレイは当選した遊技において取りこぼすことはないため、リプレイが当選した次遊技は必ず再遊技となる。

50

【0200】

役抽選の抽選結果において、ボーナス、小役、及び、リプレイのいずれの役にも当選しなかったときは、ハズレとなり、後述する入賞処理を行わない。ハズレとなったときは有効ラインにいずれの役にも係らない図柄組合せを停止表示する。

【0201】

役抽選により抽選が行われる役のうち、BB、RB、及び、MBに関して、当選した遊技で図柄組合せが有効ライン上に停止表示されなかったときは、次遊技以降に当選フラグを持越すことができる（特別役持越手段）。当選フラグ持越し中は、当選フラグ持越し前の役抽選テーブルを用いて役抽選を行ってもよいし、当選フラグに応じた持越中役抽選テーブル（内部中内部抽せんテーブルや内部中役抽選テーブルとも称す）を用いて役抽選を行ってもよい。持越中役抽選テーブルを用いているときに、当選したBB、RB、またはMBに基づく図柄組合せが有効ライン上に停止表示した場合は、役抽選テーブルの移行条件を満たすと判断し、持越中役抽選テーブルから当選フラグに対応する役抽選テーブルに移行する。

10

【0202】

役抽選テーブルには、複数種類の役に対する当選確率が定められており、遊技状態に応じて複数種類の役抽選テーブルを設けている。例えば、BB中に使用するBB中役抽選テーブルや、MB中に使用するMB中役抽選テーブル等が該当する。

【0203】

役抽選テーブルには、1種類の図柄組合せが有効ライン上に停止表示可能な単独当選役や、複数の図柄組合せが1または複数の有効ライン上に停止表示可能な重複当選役を役抽選の抽選結果に応じて設定する。

20

【0204】

重複当選役として設定している複数の図柄組合せは、全ての図柄組合せを操作態様に依拠して一の当選役を停止表示可能に設定してもよいし、一部の図柄組合せを停止表示不可能に設定してもよい。この重複当選した役の内、一部の停止表示不可能な図柄組合せに対応する役のことを制御用役と称することもある。

【0205】

制御用役の役割としては、複数の役抽選結果として同一の図柄組合せを有効ラインに停止表示可能な場合であっても、重複当選役として設定している制御用役の種類に応じて停止表示する有効ラインを異ならせるように制御することができる役割を担っている。

30

【0206】

当選フラグ制御手段は、役抽選の抽選結果でいずれかの役が当選したときに、当選した役に対応するフラグをオンにする。そして、遊技者によって全てのストップスイッチ13が操作され、当選した役に係る入賞処理を終了するときに当選した役に対応するフラグをオフにする。

【0207】

また、上述したBB、RB、及び、MBに関しては、当選した遊技でフラグをオンにするが、全てのストップスイッチ13が操作されたときに当選したBB、RB、またはMBの図柄組合せが有効ライン上に停止表示していない場合は、次遊技以降にフラグをオンの状態で持越し、上述した持越中役抽選テーブルを設定し、当選したBB、RB、またはMBの図柄組合せが停止表示して当選役に係る入賞処理を終了したことにより、BB、RB、またはMBに対応するフラグをオフにする。

40

【0208】

また、役抽選テーブルには、RT役抽選テーブルを設ける。RTとは、役抽選においてリプレイの当選確率が通常役抽選テーブルと比べて異なる遊技状態であり、リプレイタイムの略称である。

【0209】

RTの具体的な使用例として、通常役抽選テーブルのハズレの領域をリプレイに置換えてリプレイの当選確率を増加するようにしてもよいし、通常役抽選テーブルのリプレイの

50

領域をハズレに置き換えてリプレイの当選確率を減少するようにしてもよい。

さらに、通常役抽選テーブルとリプレイの領域は同一であるが、リプレイの領域内で当選するリプレイの種類を異ならせるようにしてもよい。

スロットマシン P S 1 では、複数の R T 役抽選テーブルを設けており、それぞれ所定の移行条件を満たすと他の R T 状態に移行するように構成している。

【0210】

R T 役抽選テーブルの移行条件は、以下を挙げることができる。移行条件 1 は特定の図柄組合せ（ボーナスに関する図柄組合せ、R T 移行図柄組合せ）が停止表示したときであり、移行条件 2 はボーナスが当選したときであり、移行条件 3 はボーナスのうち B B、R B、または M B が終了したときであり、移行条件 4 は特定の図柄組合せ（R T 移行図柄組合せ）が停止表示されてから規定回数の遊技を消化したときであり、移行条件 5 は、B B、R B、または M B が終了してから規定回数の遊技を消化したときである。これらの R T 役抽選テーブルの移行条件は遊技性に応じて適宜設定できる。

10

【0211】

置数とは、内部抽せん手段による内部抽せんテーブルに定められている各抽せん結果の当選個数であり、例えば全体の置数が 6 5 5 3 6 である場合には、各置数を 6 5 5 3 6 で割ると当選確率となる。例えば置数 4 の所定の抽せん結果の当選確率は、 $1 / 16384$ となる。

【0212】

また、上述した R T 役抽選テーブルの移行条件 1 ～ 5 の何れかの条件を満たした場合にリプレイに関する置数を変更することができる。例えば、R T 1 のリプレイ確率が $1 / 7.3$ であり、R T 1 から R T 2 に移行したときは R T 2 のリプレイ確率を $1 / 1.5$ に変更するようにしてもよい。これにより、リプレイ確率が高い状態に移行することでメダルの減少を抑制し、遊技性に興味を与えることができる。

20

【0213】

次に、前回遊技でセットされた最小遊技時間（4.1 秒に相当）が経過したかチェックする。最小遊技時間が経過したと判定した場合（最小遊技時間タイマの値が 0 であると判定した場合）は、最小遊技時間を新たにセットし、最小遊技時間が経過したと判定していない場合（最小遊技時間タイマの値が 0 であると判定していない場合）は、最小遊技時間タイマの値をデクリメントした後最小遊技時間が経過したか否かをチェックする。この最小遊技時間のチェック処理は最小遊技時間が経過したと判定するまで実行され、最小遊技時間の判定処理と最小遊技時間を新たにセットする処理の間に遊技進行メイン処理として他の処理は実行しないよう構成されている。これにより、最小遊技時間が他の処理で延びることがないため遊技をいち早く可能にできる。即ち、遊技者を待たせることなく遊技を間延びさせることを防止できる。

30

【0214】

しかし、これに限らず、最小遊技時間の判定処理と最小遊技時間を新たにセットする処理の間に遊技進行メイン処理として他の処理を実行するよう構成されていてもよい。この場合の他の処理としては、RWM アドレスをクリアする処理や、他のデータを RWM に記憶する処理や、処理時間の短いその他の命令であってもよい。これらの処理は処理時間が極めて短いため最小遊技時間の延長をユーザが体感できない時間となっている。最小遊技時間を新たにセットした後はリール回転開始準備処理を実行する。

40

【0215】

リール回転開始準備処理では、前回遊技で保存した回胴停止に係るデータを初期化し、今回の遊技で使用する停止テーブルをセットし、全リールの回転開始の出力を要求し、リールの回転開始を示すサブ制御コマンド（リール回転開始コマンド）をセットする。

【0216】

停止テーブルとは、内部抽せん手段による役抽選の結果で定まる図柄制御番号に対応して設けられており、ストップスイッチ 13 の操作タイミングに対応したリールの停止位置を予め定めたものである。

50

【0217】

リール回転開始準備処理が終了した後は、フリーズ演出（例えば、リール回転前のリール演出）に関する処理を実行する。フリーズ演出では、リールを少しだけ動かしたり、リールを逆回転させたりして、主に当選役の期待度を示唆するために実行する。

【0218】

フリーズ演出が実行されない場合や、フリーズ演出が実行されて当該フリーズ演出の実行が終了した後は、リールを回転させる処理（リール回転処理、リール回転開始処理、又は回胴回転開始処理とも称す）を実行する。リールの回転状態として、加速状態、定速回転状態、停止準備状態、停止状態の4つの状態があり、リールを回転させるときは加速状態をセットする。加速状態ではタイマ割込み処理によりステッピングモータを徐々に回転させていく処理を実行する。

10

【0219】

加速状態で実行される加速処理とは、リールの回転が停止している状態から定速回転処理を行うまでに実行する処理である。定速回転処理では1回のタイマ割込み処理毎にステッピングモータを1ステップ移動させる処理を実行するが、リールが停止している状態でいきなり定速回転処理を実行するとトルクが足りなくなり脱調する可能性が高くなる。このため、徐々にリールを回転するために加速処理が必要となる。なお、本実施形態における加速処理では最初に50回のタイマ割込み処理後にステッピングモータを1ステップ移動させ、次に30回のタイマ割込み処理後にステッピングモータを1ステップ移動させ、次に10回のタイマ割込み処理後にステッピングモータを1ステップ移動させ、次に5回のタイマ割込み処理後にステッピングモータを1ステップ移動させ、次に2回のタイマ割込み処理後にステッピングモータを1ステップ移動させ、次に1回のタイマ割込み処理後にステッピングモータを1ステップ移動させる。その後1回のタイマ割込み処理毎にステッピングモータを1ステップ移動させる定速回転処理に繋げる。

20

【0220】

定速回転処理を実行しているときは上述した回転不良検出カウンタの値をタイマ割込み処理毎にインクリメントし回転不良を検出している。なお、回転不良検出カウンタの初期値を0としたためタイマ割込み処理毎にインクリメントしているが、回転不良検出カウンタの初期値を180とした場合は、タイマ割込み処理毎に回転不良検出カウンタの値をデクリメントし、0となったタイミングで回転不良を検出したと判定してもよい。

30

【0221】

また、定速回転状態ではストップスイッチの停止受付を許可し、ストップスイッチの操作を待つ。ストップスイッチの停止受付を許可したときはストップスイッチのランプを青色に点灯させストップスイッチが有効であることを遊技者に報知する（ストップスイッチの停止受付を許可していないときは赤色に点灯）。このストップスイッチランプの点灯制御に関しては、メイン制御手段100の処理でもよいしサブ制御手段1000の処理でもよい。また、ストップスイッチのランプの点灯制御として、押し順ナビを実行する場合には、ストップスイッチのランプを点滅させるなどして、遊技者に停止操作すべきストップスイッチを認識し易いよう構成してもよい。

【0222】

40

また、リールが回転開始したことを示すコマンドをサブ制御手段1000に送信し、サブ制御手段1000が当該コマンドを受信したときは、リールの回転時間を計測するリール回転時間計測タイマをセットしカウントをスタートする。そして、リール回転時間計測タイマの値が所定値に到達（3分相当の時間）した場合は、液晶上に「リールを止めてください」（リール停止警告画像）と表示させ、遊技者にリールの回転を促す。リール回転時間計測タイマはストップスイッチが操作されると（ストップスイッチの操作を受け付けると）初期化し、未だ回転しているリールがあれば再度カウントを実行する。こうして全てのリールが停止するまではリール回転時間計測タイマを更新し続ける。

【0223】

なお、リール停止警告画像は、押し順ナビと同時期に表示されている場合は押し順ナビ

50

よりも前面に表示することで、リール停止警告画像と押し順ナビとの表示領域が重複した場合にも、リール停止警告画像の視認性が担保され、遊技者に対してストップスイッチの操作を明確に促すことができる。また、このときに押し順ナビが見え難くなってどのリールを停止すればわからなくなる虞があるため、サブスイッチや演出用スイッチ等が操作されることでリール停止警告画像を消して（若しくはリール停止警告画像を小さく、または移動して）押し順ナビを認識できるようにしてもよい。

【0224】

遊技進行メイン処理にてストップスイッチの操作受付を有効にした後は、ストップスイッチが操作されるまでストップスイッチの操作受付の判定処理（リール停止受付チェック処理）を繰り返す。いずれかのストップスイッチが操作されたと判定した場合は、操作されたストップスイッチに対応するリールの停止制御（すべり制御とも称す）を実行する。このとき操作されたストップスイッチに対応するリールは定速回転状態から停止準備状態に移行する。停止準備状態では、定速回転のまま目的の停止位置までリールを回転させる。そして、目的の停止位置に到達したときは停止状態に移行し、4相励磁が全てONとなりブレーキをかける。なお、すべり制御はストップスイッチ13の操作から190ミリ秒以内の間に行われる。本実施形態では、ストップスイッチ13の操作受付時は4図柄先までの図柄を引き込むことが可能である。

【0225】

ここで、目的の停止位置とは、現在通過している図柄番号と停止位置として保存されている図柄番号が一致しているか否かで判断し、一致していると判断した場合は目的の停止位置として4相励磁を全てONにする。また、現在通過している図柄番号とは、上述したインデックスセンサがインデックスを検知した瞬間（インデックス信号の立ち上がり時）に初期図柄番号がセットされそこからタイマ割込み処理で1図柄分移動したときに初期図柄番号の次の図柄番号がセットされることで判断している。

【0226】

リール停止受付チェック処理を実行した後は全リールが停止しているかをチェックする。全リールが停止している場合は入賞判定処理を実行してから入賞処理を実行し、全リールが停止していない場合は回転中のリールに対応するストップスイッチの停止操作受付待ち処理を実行する。そして、全リールが停止した後は状態表示モニタの表示内容を更新し、有利区間クリアカウンタ管理処理へ移行する。そして、RT状態等の更新を行う遊技終了チェック処理を行い、遊技進行メインの一連の流れを終了する。なお、リールの回転を開始してから停止操作受付までの期間にソフト乱数の更新処理を行ってもよい。

【0227】

入賞判定処理とは、有効ライン上に役を構成する図柄組合せが停止表示したか否かを判定する処理である。ストップスイッチの操作を受け付けたときに決定した停止図柄が異常であるか否かを判定するため、実際に有効ライン上に停止した図柄組合せで判定しているわけではない。入賞判定処理により有効ライン上に役を構成する図柄組合せが停止表示したと判定された後は入賞処理を行い、入賞判定処理により有効ライン上に役を構成する図柄組合せが停止したと判定しなかったときは、ハズレに基づく処理を行う。

【0228】

入賞処理とは、有効ライン上に停止させる図柄組合せに基づいて、遊技者に特典を付与する処理である。小役に基づく図柄組合せを停止させるときの入賞処理としては、停止させた図柄組合せに基づくメダルの払い出しや、停止させた図柄組合せに基づいて遊技状態を移行する処理であり、リプレイに基づく図柄組合せを停止させたときの入賞処理としては、リプレイの権利を与えることや、停止させた図柄組合せに基づいて遊技状態を移行する処理であり、ボーナスに基づく図柄組合せを停止させたときの入賞処理としては、停止させた図柄組合せに基づいて遊技状態を移行する処理である。なお、ハズレの場合は入賞処理を行わない。

【0229】

しかし、これに限らず、入賞判定処理の結果がハズレとなったときには、ハズレに基づ

10

20

30

40

50

く入賞処理を行い、入賞処理の結果として遊技者に特典を付与しないという処理を行ってもよい。また、ハズレに基づく入賞処理として、ハズレとなったときの操作態様に応じて遊技状態を移行してもよい。例えば、ハズレとなったときに予め定めた操作順番に応じて全てのストップスイッチ13が操作されたときは、フリーズ当選確率が異なる遊技状態に移行することが挙げられる。また、小役の取りこぼしによる見た目上のハズレの場合であっても、払い出しを行わずに、RT状態の移行など遊技状態の移行制御を行うなどの入賞処理を行うこともできる。さらに、ボーナスに基づく入賞処理として停止表示した図柄組合せに基づくメダルの払い出しやリプレイの権利を与えることを付加してもよい。

【0230】

遊技状態を移行する処理とは、移行する遊技状態に応じた役抽選テーブルを設定すること、移行する遊技状態に応じたリール制御を設定すること、移行する遊技状態に応じたフリーズ当選確率を設定すること、またはこれらの組合せである。

【0231】

入賞判定処理では、入賞した図柄組合せを判定すると、有効ラインに停止表示された入賞図柄組合せ情報（停止出目情報）、及び、役抽選結果情報をサブ制御基板1000に送信する。一方、サブ制御基板1000はこれらの情報を受信すると、入賞図柄組合せ情報、及び、役抽選結果情報に応じた演出を表示装置32、ランプ、またはスピーカSを用いて出力することができる。

【0232】

入賞判定処理では、全ての有効ラインにおいて入賞の判定を行い、判定の結果、複数の有効ライン上に、重複当選役に基づく図柄組合せが複数停止表示したときは、停止表示した複数の図柄組合せの各々に対して入賞処理を行う。

【0233】

例えば、払い出し枚数として2枚と設定した小役と、払い出し枚数として10枚と設定した小役が、複数の有効ラインに停止表示しているときの入賞処理としては、2枚と設定した小役に基づく払い出し枚数と10枚と設定した小役に基づく払い出し枚数とを合算して、12枚の払い出しを行う。

【0234】

そして、1回の払い出し枚数には上限を設定し、複数の小役に基づく図柄組合せを有効ライン上に停止表示したときに、払い出し枚数の上限値を超えるときは、上限値の枚数を払い出す。

【0235】

例えば、払い出し枚数の上限値を15枚に設定して、払い出し枚数として12枚と設定した小役と、払い出し枚数として10枚と設定した小役が複数の有効ラインに停止表示しているときの入賞処理としては、12枚と設定した小役と10枚と設定した小役の合算値が上限値を超えるときは、上限値である15枚の払い出しを行う。

【0236】

本実施形態では、小役に対してのみメダルを払い出すように設定しているが、リプレイに基づく入賞処理として、賭け枚数分のメダルを払い出してもよいし、ボーナスに基づく入賞処理として予め設定している枚数のメダルを払い出してもよい。

【0237】

<有利区間クリアカウンタ管理処理>

本実施形態に係る遊技進行メインが実行する処理のうち、有利区間の管理に関する有利区間クリアカウンタ管理処理に関して、図11を基に説明する。

【0238】

有利区間クリアカウンタRWMアドレスをセットする。

【0239】

続いて、2バイト減算処理を実行する。

【0240】

続いて、減算前の有利区間クリアカウンタの値が0か否かを判断し、減算前の有利区間

10

20

30

40

50

クリアカウンタの値が0である場合は、有利区間種別が0か否かを判断する処理に移行し、減算前の有利区間クリアカウンタの値が0でない場合は、減算した後の有利区間クリアカウンタの値が0か否かを判断する。なお、有利区間種別=0とは、有利区間ではない区間であり通常区間であることを意味しており、有利区間種別=1とは、有利区間であることを意味している。

【0241】

続いて、減算した後の有利区間クリアカウンタの値が0か否かを判断し、減算した後の有利区間クリアカウンタの値が0である場合は、RWM初期化処理に移行し、減算した後の有利区間クリアカウンタの値が0でない場合は、MYカウンタの値を取得する処理に移行する。

【0242】

続いて、MYカウンタの値を取得する処理では、現在のMYカウンタの値を取得する。

【0243】

続いて、MYカウンタの値を取得する処理を実行した後は、再遊技作動図柄が停止表示したか否かを判断し、再遊技作動図柄が停止表示したと判断した場合は、MYカウンタの値が上限値(2400)を超えたか否かの判断処理に移行し、再遊技作動図柄が停止表示していないと判断した場合は、払出枚数バッファのデータを取得する処理に移行する。払出枚数バッファのデータとは、入賞に係る払出枚数、はずれ又は小役の取りこぼし時の払出なし(払出枚数としては0)を示すデータである。

【0244】

続いて、払出枚数バッファのデータを取得する処理では、当該遊技の払出数を取得する。

【0245】

続いて、MYカウンタに取得した払出枚数バッファのデータ(OUT枚数)を加算する処理を実行する。

【0246】

続いて遊技メダル枚数データを取得する処理を実行する。遊技メダル枚数データとは、投入枚数に対応しているデータである。

【0247】

続いて、MYカウンタにIN枚数(投入枚数)を減算する処理を実行する。

【0248】

続いて、MYカウンタにIN枚数を減算した結果、MYカウンタの値が0未満であると判断した場合は、MYカウンタに初期値をセットしてMYカウンタに保存する。また、MYカウンタにIN枚数を減算した結果、MYカウンタの値が0未満でないとは判断した場合は、MYカウンタからIN枚数を減算した値をMYカウンタに保存する。なお、MYカウンタの初期値とは0のことであり、MYカウンタの値が0未満となった場合は0に補正する。また、MYカウンタの値が0未満か否かはキャリーフラグが0か否かで判断している。キャリーフラグとは、減算処理の結果が負の値となった場合は1となり、減算処理の結果が負の値とならなかった場合は0となるフラグである。

【0249】

続いて、MYカウンタの値を保存した後は、MYカウンタの値が上限値(2400)を超えたか否かの判断処理を実行する。MYカウンタの値が上限値(2400)を超えた場合は、RWM初期化処理を実行し有利区間種別の判断処理に移行し、有利区間種別の判断処理で、有利区間種別が0の場合は有利区間クリアカウンタ管理処理を終了し、有利区間種別が0でない場合は有利区間クリアカウンタに初期値(1500)をセットして有利区間クリアカウンタ管理処理を終了する。また、MYカウンタの値が上限値(2400)を超えたか否かの判断処理でMYカウンタの値が上限値(2400)を超えていない場合は、有利区間クリアカウンタ管理処理を終了する。

【0250】

減算前の有利区間クリアカウンタの値が0か否かを判断して、減算前の有利区間クリアカウンタの値が0であって、有利区間種別が0でない場合とは、有利区間開始時に通る処

10

20

30

40

50

理であり、有利区間開始時以外は、当該処理を通らない。有利区間クリアカウンタに記憶する1500は有利区間を実行可能な最大遊技数に対応しており、有利区間を最大でも1500遊技実行すると次の遊技から通常区間がセットされる。これは、のめりこみを防止するためであり、1日中メダルが増え続けるという状態を抑制し、射幸心を著しく煽らないようにしている。

【0251】

なお、有利区間種別を1にセットするタイミングとしては、スタートスイッチ受付時からリール回転開始までの間にある有利区間移行抽せん処理で実行する。有利区間移行抽せん処理では抽選の対象となる条件装置番号を選出したときに通る処理であり、有利区間移行抽せんに当選すれば有利区間種別に1をセットし、有利区間移行抽せんに非当選であれば有利区間種別を0（通常区間）にセットする。

10

【0252】

MYカウンタの値が上限値を超えた後に実行するRWM初期化処理では、指示機能に係る性能へ影響を与えるパラメータをすべて0に更新する。指示機能に係る性能へ影響を与えるパラメータとは、ATゲーム数やATに関する遊技状態が挙げられる。そして、有利区間種別を0に更新することで、有利区間ではない通常区間となり、MYカウンタの値が2400以下のときは、有利区間を維持したまま本処理を終了する。なお、有利区間でリプレイが当選した場合は、MYカウンタの更新処理は実行しないが、MYカウンタが2400を超えているか否かの判断処理は通るようにしている。リプレイの場合、投入枚数と同じ枚数が自動的にベットされるため、OUT-EINは常に0となる。しかし、ノイズや不正行為によりMYカウンタの値が本来の処理とは異なるタイミングで更新される可能性があるため、リプレイ時においてもMYカウンタの上限値に到達したか否かを判定している。

20

【0253】

また、有利区間の終了契機は1500遊技の経過、またはMY2400を超える以外にも遊技機ごとに任意のタイミングで終了させることができる。例えば、所定役が当選したときの終了抽せんに当選したときや、任意の遊技数（1500遊技未満）を実行したときが該当する。このように任意の終了契機で有利区間を終了するときは、有利区間クリアカウンタ管理処理を実行するより前（全リール停止後に実行するATに係る処理が望ましい）に有利区間クリアカウンタの値に1をセットすることで、有利区間クリアカウンタ管理処理を実行したときに有利区間クリアカウンタの減算前が1であり、有利区間クリアカウンタの減算結果が0となり、有利区間クリアカウンタ管理処理にて有利区間を終了させることができる。即ち、有利区間クリアカウンタの値に1をセットした後、カウンタ値を1減算することによって、有利区間クリアカウンタの値が0となって有利区間を終了させることができる。これにより、任意の終了条件を達成したときに別の有利区間終了モジュールを用いなくても同じモジュール内で処理することが可能となる。

30

【0254】

また、有利区間クリアカウンタ管理処理での有利区間クリアカウンタ減算処理は、いずれのベット数（遊技機として複数の規定数が設定されている場合）、いずれの遊技状態においても実行するよう構成されている。

40

【0255】

<設定変更処理>

本実施形態に係るメイン制御基板100が実行する設定変更処理について図10のフローチャートを用いて説明する。

【0256】

設定変更モードが起動する（設定変更処理が実行される）と、現在の設定値が正常範囲か否かを判定し、正常範囲内であったときは、現在の設定値を取得し、正常範囲外であったときは、設定値として「1」を保存し、設定値「1」を取得する。

【0257】

設定値を取得した後は、設定値表示データを保存する。設定値表示データを保存した後

50

はタイマ割込み処理であるダイナミック点灯制御により、5割込みごとに設定値表示データを参照して点灯制御を行う。

【0258】

その後、スタートスイッチ12がオフからオンになったか否かを判定する。スタートスイッチ12がオフからオンになっていないと判定したときは、設定スイッチがオフからオンになったか否かを判定する。

【0259】

ここで、設定スイッチがオフからオンになっていないと判定したときは、再度スタートスイッチ12がオフからオンになったか否かを判定し、設定スイッチがオフからオンになったと判定したときは、設定値が最大設定値以上（設定6）か否かを判定する。

10

【0260】

設定値が最大値以上でなければ、現在の設定値にインクリメントする処理を行い、設定値が最大値以上であれば、現在の設定値に初期値（0）を保存し、さらにインクリメントする処理を行う。設定値をインクリメントした後は、更新した設定値を表示し、スタートスイッチ12がオフからオンになったか否かを判定する処理まで戻る。

【0261】

その後、スタートスイッチセンサが検知され、スタートスイッチ12がオフからオンになったと判定したときは、設定値の確定処理を行い、設定キースwitchがオンからオフになったと判定するまで待機し、設定キースwitchがオンからオフになったと判定したときには決定した設定値を主制御RAMに保存して設定表示LEDを消灯し、メダルセクタ34に設けられたブロッカをオンにする（メダルがホッパ44へ流下するための通路を形成する）ことで設定変更モードを終了する。

20

【0262】

ここで、設定変更モードとは、1から6の設定値（表示上は1～6の設定値）のうち何れかの設定値を決定する手段である。何れかの設定値を決定した後は、次に設定変更手段による設定値の変更が行われるまで、決定した設定値に対応する内部抽せんテーブル（役抽選テーブルとも称す）を設定し続ける。なお、設定値ごとに内部抽せんによる抽せん結果の決定確率（役の当選確率）が異なる役抽選テーブルが設けられている。

【0263】

設定変更手段は、スロットマシンPS1の電源が投入されていない状態において、遊技場の管理者により設定変更用いる設定キーが回転操作され、設定キースwitch信号がオンになる回転位置に設定キーを保持された状態でスロットマシンPS1の電源が投入されると、スロットマシンPS1の電源投入を契機として設定キースwitch信号をオンにする。本実施形態において、設定キースwitch信号のオンとは、立ち上がりのオン（オフ→オンとなること）であり、電源断が発生する前に設定キーがオンとなっていた場合は、電源投入後には立ち上がりのオンは検出されないため、設定変更モードに移行しないよう構成されているが、設定キースwitch信号のオンをレベルのオンとし、電源断が発生する前にオンとなっていた場合であっても電源の再投入時に設定キーがオンの場合設定変更モードに移行するよう構成してもよい。

30

【0264】

設定変更手段は、設定キースwitch信号がオンであり、ドア開放信号がオンであり、かつ、設定変更可能フラグがオンであると判定したときは、スロットマシンPS1の設定値を変更可能な設定変更モードを起動する。

40

【0265】

設定変更可能フラグは遊技状態に応じてオンとオフを切り替える。例えば、スタートスイッチ12が操作されてから遊技が終了するまでの期間は、設定変更可能フラグをオフにして、それ以外の期間は設定変更可能フラグをオンにする態様が考えられる。しかし、この態様のみに限らず特定のボーナス遊技が開始したとき、または特定のボーナス内部中となっているときのみ設定変更可能フラグをオフにしてもよいし、設定変更可能フラグを設けないことでどの状態でも設定変更可能となるように構成されていてもよい。

50

【0266】

設定変更モードを起動すると、メダルセレクト34に設けられたブロックをオフにして、メダル投入による遊技の開始を行うことができないようにする。設定変更モードで変更できる設定値データは、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」、「6」の6段階あり、設定値が高くなるごとに、出玉率の高い役抽選テーブルを設定する。

【0267】

設定変更モードを起動した後は、設定変更モードであることを報知するために、フロントパネルPS2の背面に備えられた設定表示LEDを点灯する。そして、セットした設定値データを表示するための設定値表示データをセットして、スロットマシンPS1のフロントパネルPS2前面に配置したクレジット数表示器26と、スロットマシンPS1のフロントパネルPS2裏面に配置された設定表示LED（図示しない）を点灯して、設定値を表示する。設定値データが「1」の場合の設定値表示は「1」を表示し、設定値データが「2」の場合の設定値表示は「2」を表示し、設定値データが「3」の場合の設定値表示は「3」を表示し、設定値データが「4」の場合の設定値表示は「4」を表示し、設定値データが「5」の場合の設定値表示は「5」を表示し、設定値データが「6」の場合の設定値表示は「6」を表示する。

【0268】

なお、設定値データ記憶領域に記憶されている設定値データを「0」～「5」の6段階で記憶するときは、設定値データが「0」の場合の設定値表示は「1」を表示し、設定値データが「1」の場合の設定値表示は「2」を表示し、設定値データが「2」の場合の設定値表示は「3」を表示し、設定値データが「3」の場合の設定値表示は「4」を表示し、設定値データが「4」の場合の設定値表示は「5」を表示し、設定値データが「5」の場合の設定値表示は「6」を表示する。

【0269】

設定変更モードを起動した後は、スタートスイッチ12のセンサ信号がオンであるか否かを判定し続け、スタートスイッチ12が操作されてスタートスイッチ12のセンサ信号がオンになったと判定したときは、設定値を決定し設定表示LEDに現在の設定値を表示する。換言すると、設定変更モード中にスタートスイッチ12のセンサ信号がオンになったと判定した場合は設定スイッチが操作されても設定値が変更されないようになっている。

【0270】

一方、スタートスイッチ12のセンサ信号がオンであると判定していない状態で、設定スイッチ信号がオンになったと判定したときは、設定スイッチ立ち上がりデータをクリアして、現在の設定値が最大設定値（設定値データ「6」）以上であるか否かを判定して、現在の設定値が最大設定値（設定値データ「6」）以上であると判定したときは設定値データをクリア（設定値データを「1」にする）して、現在の設定値が最大設定値未満（設定値「1」～「5」）であると判定したときは現在の設定値にインクリメントする。なお設定値データを0～5の6段階とした場合の設定変更モードの処理としては、現在の設定値が最大設定値（設定値データ「5」）以上であるか否かを判定して、現在の設定値が最大設定値（設定値データ「5」）以上であると判定したときは設定値データをクリア（設定値データを「0」にする）して、現在の設定値が最大設定値未満（設定値「0」～「4」）であると判定したときは現在の設定値にインクリメントするようにすればよい。

【0271】

なお、設定変更モードを起動した後にスタートスイッチ12のセンサ信号がオンであると判定された場合の設定表示LEDの設定値表示態様として、設定値が変更できないことを示すために設定表示LEDに「0」と表示したり、設定表示LEDに「__X」（「X」は確定後の設定値）と表示したり等のように設定変更可能時の設定値表示の態様と異なる態様で設定値を表示してもよい。

【0272】

<本実施形態に係る各種スイッチ押下中の電源断に対応する制御>

フロントパネルPS2が閉鎖状態であり、遊技終了後であり、3ベットされておらず（

10

20

30

40

50

自動ベットされていない状況も含む)、且つクレジット数として3ベット可能な数以上の数が記憶されている(例えば、ベットされていない状況のクレジット数は3以上、又は1ベットされている状況のクレジット数は2以上)状況下(以下、MAXベット可能状態と称す)では、MAXベットスイッチ18が操作(押下)されるとMAXベット処理が実行されることでベット数として3が記憶され、1ベットランプ、2ベットランプ、3ベットランプが点灯する(MAXベットスイッチ18が押下される前は1ベットランプ、2ベットランプ、3ベットランプは消灯している)。

【0273】

なお、フロントパネルPS2が閉鎖状態である状況下だけでなく、フロントパネルPS2が開放状態である状況下であっても、遊技終了後であり、3ベットされておらず(自動ベットされていない状況も含む)、且つクレジット数として3ベット可能な数以上の数が記憶されている(例えば、ベットされていない状況のクレジット数は3以上、又は1ベットされている状況のクレジット数は2以上)状況下であれば、MAXベットスイッチ18が操作(押下)されるとMAXベット処理が実行されることでベット数として3が記憶され、1ベットランプ、2ベットランプ、3ベットランプが点灯する(MAXベットスイッチ18が押下される前は1ベットランプ、2ベットランプ、3ベットランプは消灯している)ように構成してもよい。なお、以下では特に記載のない限り、電源投入時は、フロントパネルPS2が閉鎖している状況であるが、フロントパネルPS2が開放している状況でも同様の挙動をするよう構成されていてもよい。

【0274】

また、MAXベット可能状態には、ベットされていない状況、1ベットされている状況、2ベットされている状況が含まれるがMAXベットスイッチ18が操作されて1ベットランプ、2ベットランプ、3ベットランプが新たに点灯するのはベットされていない状況であるMAXベット可能状態のことであり、1ベットされている状況であるMAXベット可能状態では、すでに1ベットランプが点灯している状況で新たに2ベットランプ、3ベットランプが点灯し、2ベットされている状況であるMAXベット可能状態では、すでに1ベットランプ、2ベットランプが点灯している状況で新たに3ベットランプが点灯するようになっている。

【0275】

また、MAXベット可能状態では、MAXベットランプが点灯しており、遊技者にMAXベットスイッチ18の操作が有効であることを報知している。そして、MAXベット可能状態においてMAXベットランプが点灯しているときにMAXベットスイッチ18が押下されると(MAXベットスイッチ18を検知するセンサがOFFからONとなると)MAXベットランプが消灯する。換言すると、MAXベットスイッチ18が押下中(MAXベットスイッチ18が押下されて離されていない状態であり、MAXベットスイッチ18のセンサがONを維持している状態)であってもMAXベットランプは消灯する。

【0276】

また、MAXベット可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18が押下され、MAXベットスイッチ18の押下中に電源が投入された場合(電源断復帰処理が実行された場合)は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理は実行されないようになっている。また、MAXベットスイッチ18が押下中のため、新たにMAXベットスイッチ18の押下によるMAXベット処理もできない。換言すると、MAXベットスイッチ18が押下中(MAXベットスイッチのセンサ信号がオンの状態)であるため、MAXベットスイッチ18の押下ができずMAXベット処理もできない。

【0277】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないMAXベットスイッチ18の操作がなされている状況(MAXベットスイッチ18の上に手を置いている状況等)があっても、ベットされてしまうことを防ぐことが可能となり、またそのような場合でもMAXベットスイッチ18の操作が有効であることをMAXベットランプの点灯態様で

10

20

30

40

50

正確に報知することができる。このため、MAXベットスイッチ18の操作が有効であると認識した遊技者は、押下していたMAXベットスイッチ18を一旦離れた後に（MAXベットスイッチ18のセンサがONからOFFになった後に）、再度MAXベットスイッチ18を押下することで（MAXベットスイッチ18のセンサがOFFからONとなることで）、MAXベットを行う（MAXベット処理を行わせる）ことができる。

【0278】

また、例えば、電源断の前後でMAXベットスイッチ18の戻りバネやセンサに不具合が生じ、MAXベットスイッチ18の押下状態が解消されない事態となったときに、MAXベットランプを点灯させることで、MAXベット処理ができなくてもソフトの不具合ではないことを管理者に報知することが可能となる。

10

【0279】

また、MAXベット可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18が押下され、MAXベットスイッチ18の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理は実行されないようになっているが、新たに1ベットスイッチ19が操作（押下）されることで（1ベットスイッチ19を検知するセンサがOFFからONとなることで）1ベット処理が実行可能となっている。

【0280】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないMAXベットスイッチ18の操作がなされている状況（MAXベットスイッチ18の上に手を置いている状況等）があっても、MAXベットランプの点灯態様によりベット処理は可能であることを報知し1ベットスイッチ19が操作可能であることを示唆できるようになっている。また、このような場合であっても1ベットスイッチ19の操作が有効であることから遊技を進行させることができるようになっている。

20

【0281】

また、MAXベット可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18が押下され、MAXベットスイッチ18の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベット処理は実行される態様であってもよい。この場合は電源投入後にMAXベットランプが点灯していても消灯していてもよい。電源投入後にMAXベットランプが点灯している場合は、1ベットスイッチ19が操作可能であることを示唆し、1ベットスイッチ19が操作されると3ベット状態から1ベット状態になって、クレジットに差分の「2」が戻されるようになっている（3ベット状態でクレジット数が50の場合は差分をクレジットに戻すことができないため1ベットスイッチ19が操作されても1ベット状態にならず3ベット状態を維持するため電源投入後にMAXベットランプは点灯しない（消灯している））。電源投入後にMAXベットランプが消灯している場合は、MAXベット処理が実行されたことを示唆することが可能となっている。また、電源投入後にMAXベットランプが点灯している場合でも消灯している場合でも電源投入時に3ベット音（1ベット音を3回分）を出力することでMAXベット処理が実行されたことを報知することが可能となる。

30

40

【0282】

続いて、MAXベット可能状態（ベットされていない状況）で、1ベットスイッチ19が操作（押下）されるとベット数として1が記憶され、1ベットランプが点灯する。また、まだMAXベットスイッチ18の操作が有効であることからMAXベットランプも点灯している。

【0283】

また、MAXベット可能状態（ベットされていない状況）で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、1ベットスイッチ19が押下され、1ベットスイッチ19の押下中に電源が投入された場合（1ベットスイッチ19のセンサがONを維持している状態で、電源断復帰処理が実行された場合）は、MAX

50

ベットランプは点灯し、1ベット処理は実行されないようになっている。また、1ベットスイッチ19が押下中のため、新たに1ベットスイッチ19の押下による1ベット処理もできない。

【0284】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない1ベットスイッチ19の操作がなされている状況（1ベットスイッチ19の上に手を置いている状況等）があっても、ベットされてしまうことを防ぐことが可能となり、またそのような場合でもMAXベットランプの点灯態様によりベット処理は可能であることを報知し1ベットスイッチ19が操作可能であることを示唆することが可能となっている。このため、MAXベットスイッチ18や1ベットスイッチ19の操作が有効であると認識した遊技者は、押下していた1ベットスイッチ19を一旦離れた後に（1ベットスイッチ19のセンサがONからOFFになった後に）、再度1ベットスイッチ19を押下すること、または、押下していた1ベットスイッチ19を離さずに（1ベットスイッチ19のセンサがONを維持している状態）、MAXベットスイッチ18を押下することで（MAXベットスイッチ18のセンサがOFFからONとなることで）、1ベット処理またはMAXベット処理を行わせることができる。

10

【0285】

また、MAXベット可能状態（ベットされていない状況）で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、1ベットスイッチ19が押下され、1ベットスイッチ19の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、1ベット処理は実行されないようになっているが、新たにMAXベットスイッチ18が操作（押下）されることでMAXベット処理が実行可能となっている。

20

【0286】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない1ベットスイッチ19の操作がなされている状況（1ベットスイッチ19の上に手を置いている状況等）があっても、MAXベットランプの点灯態様によりベット処理は可能であることを報知しMAXベットスイッチ18が操作可能であることを示唆できるようになっている。また、このような場合であってもMAXベットスイッチ18の操作が有効であることから遊技を進行させることができるようになっている。

30

【0287】

また、MAXベット可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、1ベットスイッチ19が押下され、1ベットスイッチ19の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、1ベット処理は実行される態様であってもよい。この場合は電源投入後にMAXベットランプが点灯しており、MAXベットスイッチ18が操作可能であることを示唆し、MAXベットスイッチ18が操作されると1ベット状態から3ベット状態になる。また、電源投入時に1ベット音を出力することで1ベット処理が実行されたことを報知することが可能となる。

【0288】

また、MAXベット可能状態（ベットされていない状況）で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18が押下され（フロントパネルPS2が開放していない状況であっても、既に開放している状況であってもよい）、フロントパネルPS2が開放している状況でMAXベットスイッチ18の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理は実行されないようになっているが、当該MAXベットスイッチ18の押下を継続している状況下で新たに1ベットスイッチ19が操作（押下）されることで1ベット処理が実行可能となっている。また、MAXベット可能状態（ベットされていない状況）で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18が押下され（フロントパネルPS2が開放していない状況であっても、既に開放している状況であってもよい）、

40

50

フロントパネル P S 2 が開放している状況で M A X ベットスイッチ 1 8 の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、M A X ベットランプは点灯し、M A X ベット処理は実行されないようになっているが、M A X ベットスイッチ 1 8 を離し、新たに M A X ベットスイッチ 1 8 が操作（押下）されることで M A X ベット処理が実行可能となっている。なお、この場合において、新たに 1 ベットスイッチ 1 9 又は M A X ベットスイッチ 1 8 が押下されて、1 ベット処理又は M A X ベット処理が実行されたとしても、1 ベット音や 3 ベット音を出力しないように構成されていてもよいし、新たに 1 ベットスイッチ 1 9 又は M A X ベットスイッチ 1 8 が押下されて、1 ベット処理又は M A X ベット処理が実行されることにより、3 ベットされておりフロントパネル P S 2 が開放している状況下では、スタートスイッチ 1 2 が操作（押下）されるとリール回転処理が実行され、各リールが回転するが、スタート音は出力しないように構成されていてもよい。

10

【0289】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない M A X ベットスイッチ 1 8 の操作がなされている状況（M A X ベットスイッチ 1 8 の上に手を置いている状況等）があっても、ベットされてしまうことを防ぐことが可能となり、またそのような場合でも M A X ベットスイッチ 1 8 の操作が有効であることを M A X ベットランプの点灯態様で正確に報知することができる。

【0290】

また、例えば、電源断の前後で M A X ベットスイッチ 1 8 の戻りバネやセンサに不具合が生じ、M A X ベットスイッチ 1 8 の押下状態が解消されない事態となったときに、M A X ベットランプを点灯させることで、M A X ベット処理ができなくてもソフトの不具合ではないことを管理者に報知することが可能となる。

20

【0291】

また、フロントパネル P S 2 が開放していても 1 ベットスイッチ 1 9 による 1 ベット処理を有効にすることで、フロントパネル P S 2 が開放している状況で管理者が行う作業（例えば、設定確認や管理者メニューの設定等）とあわせて、正常に 1 ベット処理が可能か否かの動作確認をすることが可能となる。なお、遊技店での遊技において、フロントパネル P S 2 が開放した状況での遊技は正常ではないため、あえて 1 ベット音を出力しないことで、遊技者に対して正常でないことを認識させることが可能となる。

【0292】

また、M A X ベット可能状態（ベットされていない状況）で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、M A X ベットスイッチ 1 8 が押下され（フロントパネル P S 2 が開放していない状況であっても、既に開放している状況であってもよい）、フロントパネル P S 2 が開放している状況で M A X ベットスイッチ 1 8 の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、M A X ベットランプは点灯せず、M A X ベット処理は実行されず、新たに 1 ベットスイッチ 1 9 が操作（押下）されても 1 ベット処理が実行されず、その後、M A X ベットスイッチ 1 8 の操作（押下）が継続している状況でフロントパネル P S 2 を閉鎖する（閉鎖を検知する）と M A X ベットランプが点灯し、新たに 1 ベットスイッチ 1 9 が操作（押下）されると 1 ベット処理が可能となる態様であってもよい。

30

40

【0293】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない M A X ベットスイッチ 1 8 の操作がなされている状況（M A X ベットスイッチ 1 8 の上に手を置いている状況等）があっても、ベットされてしまうことを防ぐことが可能となり、また、M A X ベットランプを点灯させないことで遊技者に対して遊技の進行ができない状態であることを認識させることが可能となる。さらにまた、フロントパネル P S 2 を閉鎖すると、M A X ベットスイッチ 1 8 の操作（押下）が継続していても、1 ベットスイッチ 1 9 でのベット操作を有効にすることで、できる限り遊技の進行を阻害しないようにすることが可能となる。

【0294】

また、M A X ベット可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が

50

動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19が押下され、MAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理と1ベット処理は実行されないようになっている。また、この場合において、1ベットスイッチ19の押下を継続している状況でMAXベットスイッチ18を離し、新たにMAXベットスイッチ18を操作（押下）するとMAXベット処理が実行可能となっている。同様に、MAXベット可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19が押下され、MAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理と1ベット処理は実行されないようになっているが、MAXベットスイッチ18の押下を継続している状況で1ベットスイッチ19を離し、新たに1ベットスイッチ19を操作（押下）すると1ベット処理が実行可能となっている。

【0295】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないMAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19の操作がなされている状況（MAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19の上に手を置いている状況等）があっても、ベットされてしまうことを防ぐことが可能となり、また、そのような場合でもMAXベットスイッチ18の操作が有効であることをMAXベットランプの点灯態様で正確に報知することができる。また、このような場合であってもMAXベットスイッチ18と1ベットスイッチ19の操作が有効であることから遊技を進行させることができるようになっている。

【0296】

フロントパネルPS2が閉鎖状態であり、遊技終了後であり、1ベットもされておらず（再遊技が作動していない）、且つ通常演出表示中（連続演出やAT演出以外の演出状態）又はデモ画面表示中の状況下（以下、メニュー画面表示可能状態と称す）では、サブスイッチ20が操作（押下）されると（サブスイッチ20を検知するセンサがOFFからONとなると）メニュー画面の表示処理が実行され、表示装置32にメニュー画面が表示される。

【0297】

また、メニュー画面表示可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、サブスイッチ20が押下され、サブスイッチ20の押下中に電源が投入された場合（サブスイッチ20のセンサがONを維持している状態で、電源断復帰処理が実行された場合）は、サブスイッチランプは点灯し、メニュー画面は表示されない。

【0298】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないサブスイッチ20の操作がなされている状況（サブスイッチ20の上に手を置いている状況等）があっても、意図しないメニュー画面を表示させず、サブスイッチランプの点灯態様によりメニュー画面の表示処理は可能であることを報知しサブスイッチ20が操作可能であることを示唆できるようになっている。このため、サブスイッチ20の操作が有効であると認識した遊技者は、押下していたサブスイッチ20を一旦離れた後に（サブスイッチ20のセンサがONからOFFになった後に）、再度サブスイッチ20を押下することで（サブスイッチ20のセンサがOFFからONとなることで）、メニュー画面の表示処理を行わせることができる。

【0299】

また、メニュー画面表示可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、サブスイッチ20が押下され、サブスイッチ20の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、サブスイッチランプは点灯し、メニュー画面が表示される態様であってもよい。この場合は、サブスイッチ20の押下意思を反映して、電源投入後即座にメニュー画面を表示でき、さらにサブ

10

20

30

40

50

スイッチランプを点灯することで、メニュー画面中の各項目の決定操作は有効であることを示唆することができる。

【0300】

また、MAXベット可能状態であり、且つ、メニュー画面表示可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18とサブスイッチ20が押下され、MAXベットスイッチ18とサブスイッチ20の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理は実行されず、サブスイッチランプは点灯し、メニュー画面は表示されないようになっている。また、MAXベットスイッチ18が押下中のため、新たにMAXベットスイッチ18の押下によるMAXベット処理もできない。換言すると、MAXベットスイッチ18が押下中（MAXベットスイッチのセンサ信号がオンの状態）であるため、MAXベットスイッチ18の押下ができずMAXベット処理もできない。

10

【0301】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないMAXベットスイッチ18とサブスイッチ20の操作がなされている状況（MAXベットスイッチ18とサブスイッチ20の上に手を置いている状況等）があっても、意図せずベットされてしまうこと及びメニュー画面を表示することを防ぐことが可能となり、またそのような場合でもMAXベットスイッチ18の操作が有効であることをMAXベットランプの点灯態様で正確に報知することができるとともに、サブスイッチランプの点灯態様によりメニュー画面の表示処理は可能であることを報知しサブスイッチ20が操作可能であることを示唆できるようになっている。

20

【0302】

また、例えば、電源断の前後でMAXベットスイッチ18の戻りバネやセンサに不具合が生じ、MAXベットスイッチ18の押下状態が解消されない事態となったときに、MAXベットランプを点灯させることで、MAXベット処理ができなくてもソフトの不具合ではないことを管理者に報知することが可能となる。

【0303】

また、MAXベット可能状態であり、且つ、メニュー画面表示可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18とサブスイッチ20が押下され、MAXベットスイッチ18とサブスイッチ20の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理は実行されず、サブスイッチランプは点灯し、メニュー画面が表示される態様であってもよい。この場合は、サブスイッチ20の押下意思を反映して、電源投入後即座にメニュー画面を表示でき、さらにサブスイッチランプを点灯することで、メニュー画面中の各項目の決定操作は有効であることを示唆することができる。なお、この場合はメニュー画面を表示したあともMAXベットランプの点灯を継続し、MAXベット処理が実行可能であることを報知する。

30

【0304】

フロントパネルPS2が閉鎖状態であり、遊技終了後であり、1ベットもされておらず（再遊技が作動していない）、且つクレジット数が1以上の状況下（以下、精算可能状態と称す）では、精算スイッチが操作（押下）されると精算処理が実行され、クレジットに貯留されているメダルが受け皿28に払い出される。

40

【0305】

また、精算可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、精算スイッチが押下され（精算スイッチを検知するセンサがOFFからONとなり）、精算スイッチの押下中に電源が投入された場合（精算スイッチのセンサがONとなっている状態で、電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、精算処理は実行されない。また、精算スイッチ押下中はMAXベットスイッチ18が押下されてもMAXベット処理は実行されない。

50

【0306】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない精算スイッチの操作がなされている状況（精算スイッチの上に手を置いている状況等）があっても、意図しない精算処理を実行させず、また、MAXベットランプの点灯態様によりクレジットにメダルが残っていることを報知できるため、遊技者がクレジットを残したまま離席してしまうことを防ぐことが可能となっている。

【0307】

また、精算可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、精算スイッチが押下され、精算スイッチの押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、精算処理は実行されないが、精算スイッチ押下中にMAXベットスイッチ18が押下されるとMAXベット処理は実行する態様であってもよい。

10

【0308】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない精算スイッチの操作がなされている状況（精算スイッチの上に手を置いている状況等）があっても、意図しない精算処理を実行させず、また、MAXベットスイッチの操作が有効であることにより、遊技の進行をできる限り阻害しないことで遊技の興趣を下げないようにすることができる。

【0309】

また、精算可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、精算スイッチが押下され、精算スイッチの押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、精算処理が実行される態様であってもよい。

20

【0310】

これにより、例えば遊技場の開店前に電源投入作業を行う場合、精算スイッチの操作がなされている状況（精算スイッチの上に手を置いている状況等）で電源投入作業を行うと、電源投入後すぐに精算処理が実行可能となるため、開店前の電源投入作業とクレジットに残っているメダルの精算作業が簡略化できる。

【0311】

また、精算可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、精算スイッチが押下され、精算スイッチの押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、精算処理が実行される態様であっても精算処理が実行されない態様であっても、サブスイッチ20のランプは点灯し、サブスイッチ20の操作は有効となっている（サブスイッチ20の操作を受け付けることでメニュー画面を表示可能となっている）。

30

【0312】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しない精算スイッチの操作がなされている状況であってもサブスイッチの20の操作によりメニュー画面を表示でき、メニュー画面で遊技履歴の確認や音量調整等の遊技に役立つ情報を閲覧したり、変更したりすることができる。また、このときに遊技の進行に関する操作を全て有効にすることで、精算以外の遊技は全て実行可能となる。精算処理は遊技の終了時にしか使用することはなく、また、精算処理を実行しなくても投入メダル数を調整することで、遊技者が不利になることはないため、遊技の進行をできるだけ妨げることなく実行させることが可能となっている。

40

【0313】

また、MAXベット可能状態であり、且つ、精算可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、MAXベットスイッチ18と精算スイッチが押下され、MAXベットスイッチ18と精算スイッチの押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、MAXベットランプは点灯し、MAXベット処理と精算処理は実行されないようになっている。また、この場合において、精算スイッチの押下を継続している状況でMAXベットスイッチ18を離し、新たに

50

MAXベットスイッチ18を操作（押下）するとMAXベット処理が実行可能となっており、MAXベットスイッチ18の押下を継続している状況で精算スイッチを離し、MAXベットスイッチ18の押下を継続している状況で新たに精算スイッチを操作（押下）すると精算処理が実行可能となっている。

【0314】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないMAXベットスイッチ18と精算スイッチの操作がなされている状況（MAXベットスイッチ18と精算スイッチの上に手を置いている状況等）があっても、ベットされてしまうこと及び精算処理を防ぐことが可能となる。また、MAXベットランプの点灯態様によりクレジットにメダルが残っていること及びMAXベットスイッチ18の操作が有効であることを正確に報知できる。

10

【0315】

フロントパネルPS2が閉鎖状態であり、遊技終了後であり、3ベットされている（再遊技が作動している場合も含む）状況下（以下、リール回転可能状態と称す）では、スタートスイッチ12が操作（押下）されるとリール回転処理が実行され、各リールが回転する。なお、リール回転処理が実行されるのは最小遊技時間が経過した後となっている。

【0316】

また、リール回転可能状態で電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、スタートスイッチ12が押下され、スタートスイッチ12の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、スタートランプは点灯するが、何れのリールも回転しない。

20

【0317】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないスタートスイッチ12の操作がなされている状況（スタートスイッチ12の上に手を置いている状況等）があっても、意図しないリールの回転が実行されず、ベットされている遊技媒体を遊技者が意図せず使用してしまうことを防ぐことが可能となり、また、そのような場合でもスタートスイッチ12の操作が有効であることをスタートランプの点灯態様で正確に報知することができる。

【0318】

また、リール回転可能状態で電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、スタートスイッチ12が押下され、スタートスイッチ12の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、スタートランプは点灯せず、何れのリールも回転しない態様であってもよい。このような場合はスタートスイッチ12の操作を終了すると（スタートスイッチ12のセンサ信号がオフになると）、スタートランプは点灯する態様であるとよい。

30

【0319】

これにより、例えば停電が発生した後の電源投入時に意図しないスタートスイッチ12の操作がなされている状況（スタートスイッチ12の上に手を置いている状況等）があっても、意図しないリールの回転が実行されず、ベットされている遊技媒体を遊技者が意図せず使用してしまうことを防ぐことが可能となり、また、そのような場合にスタートランプを点灯させないことで、一度スタートスイッチ12の操作を終了してからでないとリールが回転しないことを遊技者に認識させることが可能であり、スタートスイッチ12の操作を終了するとスタートランプが点灯することでスタートスイッチ12の操作が有効であることを正確に報知することができる。

40

【0320】

また、リール回転可能状態で電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、スタートスイッチ12が押下され、スタートスイッチ12の押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、全てのリールが回転する態様であってもよい。

【0321】

50

これにより、リール回転可能状態で電源断が発生して瞬間的に動作電圧が閾値を下回り、その後動作電圧が閾値を上回って自動的に電源投入されるまでの間にスタートスイッチ 12 が操作され、スタートスイッチ 12 が操作されている状態で自動的に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）、電源が投入された後に全てのリールが回転するので、遊技者がどのようなタイミングでスタートスイッチ 12 を操作しても遊技を進行（全てのリールを回転）させることが可能となり、遊技者の手間の軽減や遊技テンポの改善が可能となる。

【0322】

フロントパネル P S 2 が閉鎖状態であり、全てのリールが回転しており、ストップスイッチ 13 の操作の受け付けが有効となっている状況下（以下、リール停止可能状態と称す）では、ストップスイッチ 13 が操作（押下）されると（左ストップスイッチ 13 a、中ストップスイッチ 13 b、右ストップスイッチ 13 c を検知するそれぞれのセンサのいずれかが OFF から ON となると）、操作されたストップスイッチ 13 に対応するリールに対して停止制御処理が実行され、操作されたストップスイッチ 13 に対応するリールが停止する。なお、リール停止可能状態は全てのリールが回転している状況に限られず、何れか一つのリールが回転している状況であってもリール停止可能状態と称することができる。

【0323】

リール停止可能状態では、ストップスイッチ 13 を構成する LED が有効であることを示す点灯態様となっており、ストップスイッチ 13 が操作されてもリールが停止できないリール停止不可能状態では、ストップスイッチ 13 を構成する LED が無効であることを示す点灯態様となっている。

【0324】

ここで、リール停止不可能状態とは、リールが回転しているにもかかわらずストップスイッチ 13 の操作を受け付けない状態（回転不良検出中や主制御手段 100 が管理する他のスイッチが操作されているとき等）でもよいし、リールが回転していない状態（全てのリールが停止している状態や左リールが停止しているときに左ストップスイッチ 13 a が操作されたとき等）でもよい。

【0325】

また、ストップスイッチ 13 を構成する LED が有効であることを示す点灯態様とは、白色で点灯する態様や赤色等の色で点灯する態様であり、ストップスイッチ 13 を構成する LED が無効であることを示す点灯態様とは、無灯（消灯）となっている態様や有効であることを示す点灯色とは異なる点灯色（例えば青色等）で点灯する態様である。

【0326】

また、リール停止可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、左ストップスイッチ 13 a が押下され、左ストップスイッチ 13 a の押下中に電源が投入された場合（左ストップスイッチ 13 a のセンサが ON を維持している状態で、電源断復帰処理が実行された場合）は、左リールに対して、停止制御処理は実行されない。また、左ストップスイッチ 13 a の押下中に電源が投入された場合においては、ストップスイッチ 13 を構成する LED は無効であることを示す点灯態様となっている。

【0327】

これにより、例えば、左ストップスイッチ 13 a が最終停止操作に対応するストップスイッチであり、左リール停止可能状態にて停電が発生した後、電源投入時に意図しない左ストップスイッチ 13 a の操作がなされている状況であっても左ストップスイッチ 13 a の操作により左リールの回転を停止させないため、目押しの必要な小役を取りこぼす等遊技者に不利益を与えてしまうことを防ぐことが可能となる。また、押し順により遊技者に有利な図柄組合せが停止する内部抽せん結果（所謂、押し順役）が当選した際の正解押し順とは異なる押し順でストップスイッチ 13 が操作受付しなうことを防ぐことも可能となる。

【0328】

また、リール停止可能状態で、電源断が発生して動作電圧が閾値を下回り、遊技機が動作できなくなった状況において、左ストップスイッチ13aが押下され、左ストップスイッチ13aの押下中に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）は、左リールに対して、停止制御処理が実行される態様であってもよい。この場合においても、左ストップスイッチ13aの押下中に電源が投入された場合においては、ストップスイッチ13を構成するLEDは無効であることを示す点灯態様となっている。

【0329】

これにより、例えば遊技中に電源断が発生して瞬間的に動作電圧が閾値を下回り、その後動作電圧が閾値を上回って自動的に電源投入されるまでの間に左ストップスイッチ13aが押下され、左ストップスイッチ13aが押下されている状態で自動的に電源が投入された場合（電源断復帰処理が実行された場合）、電源が投入された後に左リールが停止するので、遊技者がどのようなタイミングでストップスイッチ13を押下しても遊技を進行（対応するリールの停止）させることが可能となり、遊技者の手間の軽減や遊技テンポの改善が可能となる。なお、電源投入後に押下されているストップスイッチ13に対応するリールを停止させるときは、当該リールが加速中であっても停止させるよう構成することで、本来遊技者が停止させたかったタイミングに近づけることが可能となる。ただし、電源投入後に押下されているストップスイッチ13が複数ある場合は、何れのリールも停止させないよう構成されている。

10

【0330】

＜本実施形態に係るすべり制御中の電源断に対応する制御＞

20

スタートスイッチ12が操作されてリールが回転している状況でストップスイッチ13の操作を受け付けると、ストップスイッチ13の受付位置から停止位置までリールを回転させ（所謂すべり制御）停止位置までリールが回転するとリールが停止するようになっている。このすべり制御中に電源断処理が実行されるとすべり制御が実行できなくなるため停止位置にリールを停止することができなくなってしまう。

【0331】

また、ストップスイッチ13を受け付けた時点で停止位置を決定しており、決定した停止位置に基づいて入賞判定処理を実行するため、実際にリールが停止しているか否かに関わらず停止位置に基づいて小役が入賞したと判定されたときは小役に基づくメダルの払出が実行される。

30

【0332】

このため、内部抽せん処理により小役が当選した遊技において、小役に対応する図柄が停止可能なタイミングでストップスイッチ13の操作を受け付けたときのすべり制御中に電源断処理が実行され、電源断復帰後に小役に対応する図柄が有効ラインに停止していなくても全てのリールが停止した後の入賞判定処理により小役に対応する図柄組合せが停止されたと判定されて停止された図柄組合せに応じたメダルの払出が行われるようになっている。

【0333】

これは、以下の理由による。すなわち、遊技者がメダルの払出を受けるタイミングで停止操作をしたにもかかわらず、メダルの払出を受けられない状況がないようにする効果がある一方で、どの図柄組合せに基づくメダルの払出なのか認識できないという問題もあった。この問題を解決するために、内部抽せん処理により小役が当選した遊技において、小役に対応する図柄が停止可能なタイミングでストップスイッチ13の操作を受け付けたときのすべり制御中（停止受付からすべり制御が終わるまで）に電源断処理が実行され、電源断復帰後にリールを回転させてインデックスを検知させ、検知したインデックス情報に基づいて停止位置までリールを回転させてから停止位置で停止させる制御を行い、その後メダルを払い出す。

40

【0334】

このように構成することで、すべり制御中に電源断処理が実行されても、電源復帰後に再度停止する予定であった停止位置まで回転させることで、何の図柄組合せが停止された

50

かを遊技者に視認させることが可能となるので、遊技者の興趣を向上させることができる。

【0335】

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理でインデックスを検知した後、予定していた停止位置まで移動する間に同一の図柄が存在していたとしても予定していた停止位置まで移動する。仮に予定していた停止位置の手前の同一図柄で停止すると遊技中に停止することのない停止禁止系の停止表示となる可能性もあるため、停止禁止か否かの判断処理が必要となるが、再回転処理中の処理負担を軽減するために予定していた位置まで移動させるようにしている。

【0336】

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理では、通常の間回転開始処理と同様に加速処理と定速処理を実行する。なお、これに限らず、通常とは異なる加速処理と定速処理を実行してもよい。例えば、加速時間が短くなっていたり、加速時間が長くなっていたり、定速回転の速度が遅くなっていたり、定速回転の速度が速くなっていたり、する態様が考えられる。このように通常とは加速態様、又は定速態様を変化させることで、通常とは異なる回転であることを遊技者に認識させることができる。

【0337】

また、再回転中に定速回転をしているときに停止受付位置と同じ位置まで回転した場合は、通常の間回転処理と同様に停止操作を受け付けたとしてすべり制御となり、予定していた停止位置まで回転すると、リールを駆動しているステッピングモータに全相励磁信号を出力し（4相ステッピングモータの場合は4相励磁信号を出力する）再回転しているリールを停止する。

【0338】

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中においては、遊技者に再回転中であることを認識させるために、液晶上に「再回転中」と表示したり、音声で「再回転中です」と出力したり、エラー表示器にエラー表示をさせたり、する態様が考えられる。この態様によって通常とは異なる回転であることを遊技者に認識させることができる。

【0339】

また、すべり制御中に電源断処理が実行されたときは、すべり制御が完了していないことに関するフラグを所定の記憶領域に記憶し、電源投入時に所定の記憶領域をチェックしてフラグが立っていた場合は再回転処理を実行するようにする。当該フラグは再回転処理を実行した結果停止したときに初期化することで、通常の電源投入では再回転処理が実行されないようになっている。なお、すべり制御が完了していないことに関するフラグはエラーフラグであってもよいし、遊技状態フラグであってもよい。

【0340】

また、すべり制御中に電源断処理が実行されたときは、電源復帰後に自動的に再回転処理を実行してもよいし、電源復帰後にエラーが発生してリセットスイッチにより解除した後には再回転処理を実行してもよい。以降の実施形態の再回転処理においては何れの態様も当てはまるようになっている。

【0341】

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中においては、加速中と定速中、又は定速中に回転不良検出カウンタの更新を実行してもよい。そして、回転不良検出カウンタが所定値（例えば、上述した180）に達した場合に再度加速処理を実行する。この場合に発生し得る回転不良の要因としては、リールを手で押さえている、モータの不調による脱調、又は部材の経年劣化等が考えられる。

【0342】

この場合は、電源投入時の初期化処理で回転不良検出カウンタを初期化し、再回転処理の実行とともに回転不良検出カウンタの更新（カウント）を開始する。そして電源投入後最初にインデックスを検知した後、回転不良検出カウンタの値を0に更新して再び回転不良検出カウンタの更新を開始し、リール制御手段は停止位置までリールを回転させて停止

10

20

30

40

50

させる。このように最初にインデックスを検知した後に回転不良検出カウンタをクリアすることで、電源断処理により停止したリールの位置がインデックス通過直後の位置であって、停止位置がインデックス通過直前の位置であっても回転不良を検出することなく停止位置まで停止することができる。換言すると、電源投入後からリール停止まで約2周分回転するが、回転不良と判断されることはないようになっている。

【0343】

なお、回転不良検出カウンタを初期化するタイミングは電源投入時としたがこれに限らず、ストップスイッチ13を受け付けたときに回転不良検出カウンタを初期化する態様や、リールの状態が定速状態となったときに回転不良検出カウンタを初期化する態様であってもよい。

10

【0344】

このように、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中に回転不良を検出することで、再回転中においても脱調等により停止位置がずれることを防ぎ、予定している停止位置に停止させることが可能となる。また、なお、通常のすべり制御中は回転不良を検出しないため、通常のすべり制御中の脱調等の発生では再加速処理は実行しない。

【0345】

続いて、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中においてエラー（復帰可能エラー）を検知した場合は、再回転処理の終了後にエラー報知を行う。このときに検知するエラーとしては、メダル滞留エラー、メダル逆流エラー、メダル通過時間エラー、ホップ滞留エラー、ホップエンptyエラー、異常検知エラー、ドア開放エラー、ハーネス抜けエラー等の何れかのエラーとなっている。また、エラー報知は、獲得枚数表示器27で表示するエラーコードの他に、液晶で報知する態様や、スピーカで報知する態様や、上部または両側部演出ランプ、演出用スイッチランプを所定色（例えば、赤や青といった視認性が高く目立つ色）で点灯させる態様などが考えられる。なお、エラー報知はいずれかのエラー報知だけで行ってもよいし、複数のエラー報知を組み合わせてもよい。

20

【0346】

このように、エラー報知を再回転処理が終了した後にすることで、再回転中の報知なのかエラーの報知なのかを遊技者や遊技場関係者に認識させやすくすることが可能となる。なお、再回転中に再回転報知をしている場合は、再回転終了後に再回転報知を終了させ、エラー報知に切り替えるよう構成されている。なお、再回転中はエラー報知は行われなし、エラー報知ではない再回転に関する報知も実行しない。

30

【0347】

上述した再回転処理中のエラー態様はこれに限らず、検知するエラーは一部のエラーでもよいし（例えば、ホップ滞留エラーは検知するが、メダル滞留エラーは検知しない等）、エラーの報知態様として、エラー検知後は獲得枚数表示器27でエラー報知し、再回転処理が終了してリールが停止したときに液晶、又はスピーカでエラー報知する態様や、エラー検知後に獲得枚数表示器27、液晶、又はスピーカでエラー報知する態様であってもよい。

40

【0348】

続いて、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中においては、ストップスイッチ13のランプの点灯態様が無効態様となっており、ストップスイッチ13が操作されても対応するリールは停止しないようになっている。

【0349】

電源投入時にリールが回転する状況として、すべり制御中における電源断後の電源復帰以外にも通常のリール回転中における電源断後の電源復帰もある。通常のリール回転中における電源断後の電源復帰では、リールが停止可能であり、ストップスイッチ13のランプの点灯態様が有効態様となっている。このため、電源投入時にリールが回転する場合にストップスイッチ13のランプの点灯態様を確認することでもリール再回転処理中なのか

50

、通常のリール回転中なのかを判別することが可能となる。

【0350】

また、他の電源投入時にリールが回転する状況として、リールが回転するフリーズ中における電源断後の電源復帰も考えられる。リールが回転するフリーズの種類として、ストップスイッチ13の操作により仮停止制御を行う疑似遊技と、ストップスイッチ13の操作を受け付けてもリールの回転が停止しないリール演出と、がある。

【0351】

疑似遊技中はストップスイッチ13のランプの点灯態様は有効態様となっており、疑似遊技中における電源断後の電源復帰では、ストップスイッチ13のランプの点灯態様が有効態様となるため、電源投入時にリールが回転する場合にストップスイッチ13のランプの点灯態様を確認することでもリール再回転処理中なのか、通常のリール回転中なのかを判別することが可能となる。

10

【0352】

リール演出中はストップスイッチ13のランプの点灯態様は無効態様となっており、リール演出中における電源断後の電源復帰では、ストップスイッチ13のランプの点灯態様が無効態様となるため、電源投入時にリールが回転する場合にストップスイッチ13のランプの点灯態様ではリール演出中なのか再回転処理中なのか判別できないが、この場合は、液晶やエラー表示等の表示装置を確認することで判別可能となっている。なお、リール演出中にストップスイッチのランプの点灯態様は無効態様であっても、他のメイン系スイッチ（主制御手段100で管理するスイッチ）の操作を有効にする場合は、他のメイン系スイッチのランプの点灯態様は有効態様となっているため、他のメイン系スイッチのランプの点灯態様を確認することで、リール演出中なのか再回転処理中なのかを判別することが可能となる。

20

【0353】

また、疑似遊技中、又はリール演出中における電源断後の電源復帰では、リールを回転させない態様であってもよく、この場合は、電源復帰でリールが回転しないため、再回転処理中か否かはリールの回転態様で容易に判別可能となる。

【0354】

続いて、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度電源断処理が実行された場合は、電源復帰後にインデックスを検知するまで回転させ、再度予定している停止位置まで移動して停止する。なお、インデックスを検知する直前に電源断処理が実行され、電源復帰後の加速中にインデックスを検知しない場合にインデックスを検知できず再度インデックス検知タイミングまで回転させる場合もインデックスを検知するまで回転させるといえる。

30

【0355】

このように再回転処理中における電源断後の電源復帰であっても再回転処理を実行できるため、電源断が複数回発生し得る不安定な状況であっても遊技者に対して停止図柄を表示することが可能となる。

【0356】

ここで、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度電源断処理が実行されるタイミングとして、再回転処理中にインデックスを検知する前と、再回転処理中にインデックスを検知した後と、が考えられる。

40

【0357】

<パターン1>

すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度電源断処理が実行されるタイミングとして再回転処理中にインデックスを検知する前であった場合は、電源復帰後の2回目の再回転処理でインデックスを検知するまで回転させ、その後予定していた停止位置まで回転させて停止する態様が考えられる。

【0358】

この場合は、1回目の再回転処理でインデックスを検知しておらず、基準図柄位置が記

50

憶されていないため、2回目の再回転処理で基準図柄位置が記憶されていないことを判断して再度インデックスを検知させるための回転を実行し、予定していた停止位置で停止可能なようにしている。

【0359】

<パターン2-1>

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度電源断処理が実行されるタイミングとして再回転処理中にインデックスを検知した後（センサがインデックスを検知していれば良く、センサがインデックスを検知した瞬間のタイミングも含む。以後同じ。）であった場合は、電源復帰後に電源断前に検知したインデックスによる基準図柄位置に基づいて予定していた停止位置まで回転させて停止する態様が考えられる。

10

【0360】

この場合は、1回目の再回転処理でインデックスを検知しているため、記憶されている基準図柄位置に基づいて予定していた停止位置に停止できるため、インデックスを検知するまでの時間分、遊技再開までの時間を短縮することが可能となる。

【0361】

上述した、パターン2-1において、1回目の再回転処理中のインデックスを検知した後から予定している停止位置まで回転してブレーキをかけるまで（4相励磁を出力するまで）の間に電源断処理が実行された場合は、電源断処理が実行されたタイミングが停止受付位置まで回転していなかった場合であっても、停止受付位置まで回転していた場合であっても、電源復帰後にインデックスを再度検知せずに記憶している基準図柄位置に基づいて再回転処理、又は停止制御を実行する。

20

【0362】

このように、最初の電源断処理の直前に受け付けた停止受付位置に関わらず、2回目の電源復帰後に同一の再回転処理、又は停止制御を実行できるので、処理が複雑にならずプログラムの高速化が実現できる。

【0363】

<パターン2-2>

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度電源断処理が実行されるタイミングとして再回転処理中にインデックスを検知した後であった場合は、電源復帰後に再度インデックスを検知してから予定していた停止位置まで回転させて停止する態様が考えられる。

30

【0364】

この場合は、2回目の電源断後から電源復帰までにリールが移動している可能性を考慮して、再度インデックスを検知するまで再回転を行うため、より正確に予定していた停止位置まで回転させることが可能となる。

【0365】

上述した、パターン2-2において、1回目の再回転処理中のインデックスを検知した後から予定している停止位置まで回転してブレーキをかけるまで（4相励磁を出力するまで）の間に電源断処理が実行された場合は、電源断処理が実行されたタイミングが停止受付位置まで回転していなかった場合であっても、停止受付位置まで回転していた場合であっても、電源復帰後にインデックスを再度検知するための再回転処理を実行して予定していた停止位置まで図柄を移動させて停止させる。

40

【0366】

このように、最初の電源断処理の直前に受け付けた停止受付位置に関わらず、2回目の電源復帰後に同一の再回転処理、又は停止制御を実行できるので、処理が複雑にならずプログラムの高速化が実現できる。

【0367】

<パターン2-3>

また、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度

50

電源断処理が実行されるタイミングとして再回転処理中にインデックスを検知した後であって停止受付位置まで回転していなかった場合は、電源復帰後にインデックスを再度検知せずに記憶している基準図柄位置に基づいて再回転処理、又は停止制御を実行し、すべり制御中に電源断処理が実行され、電源復帰後の再回転処理中において再度電源断処理が実行されるタイミングとして再回転処理中にインデックスを検知した後であって停止受付位置まで回転していた場合は、電源復帰後にインデックスを再度検知するための再回転処理を実行して予定していた停止位置まで図柄を移動させて停止させる態様が考えられる。

【0368】

このように、最初の電源断処理の直前に受け付けた停止受付位置を基準電源復帰後の制御をきめ細かく制御できるため、電源断処理が実行された状況に応じた適切な処理が実行可能となる。

【0369】

<本実施形態に係る演出用スイッチを用いた演出態様の制御>

演出用スイッチを用いた演出（プッシュボタン演出とも称する場合がある）として図12を用いて説明する。図12はスタートスイッチ12の操作から左ストップスイッチ13aの操作、中ストップスイッチ13bの操作、右ストップスイッチ13cの操作を経て演出用スイッチを操作させる旨の演出を行い、演出用スイッチが操作されて演出が実行される過程を示している。また、図12中の「PUSH」と表示されている箇所は演出用スイッチを表している（ただし、図12の中下の図の上側にある「PUSH」表示は液晶上の表示としている）。

【0370】

図12の左上の図では、遊技を開始するためのスタートスイッチ12が操作されたこと（より具体的には、主制御手段100からスタートスイッチ受付コマンドの受信、又は回胴回転開始コマンドの受信）に基づいて実行された「じゃんけんに勝て！！」という演出が液晶に表示されている。このときはまだ演出用スイッチの操作は無効であるため、演出用スイッチは消灯している。

【0371】

続いて図12の中上の図では、左リールを停止させるための左ストップスイッチ13aが操作されたこと（より具体的には、主制御手段100から左ストップスイッチ受付コマンドの受信）に基づいて実行された「じゃ～ん！」という演出が液晶に表示されている。このときはまだ演出用スイッチの操作は無効であるため、演出用スイッチは消灯している。

【0372】

続いて図12の右上の図では、中リールを停止させるための中ストップスイッチ13bが操作されたこと（より具体的には、主制御手段100から中ストップスイッチ受付コマンドの受信）に基づいて実行された「け～ん！」という演出が液晶に表示されている。このときはまだ演出用スイッチの操作は無効であるため、演出用スイッチは消灯している。

【0373】

続いて図12の左下の図では、右リールを停止させるための右ストップスイッチ13cが操作されたこと（より具体的には、主制御手段100から右ストップスイッチ受付コマンドの受信）に基づいて実行された「ぼん！」という演出が液晶に表示されている。このときはまだ演出用スイッチの操作は無効であるため、演出用スイッチは消灯している。

【0374】

続いて図12の中下の図では、全てのリールが停止されたこと（より具体的には、主制御手段100から全回胴停止コマンドの受信）に基づいて実行された演出用スイッチを模したスイッチの画像（以下、演出用スイッチ画像、操作促進画像、又は操作促進演出と称する場合がある。）が液晶に表示されている。また、第3停止である右ストップスイッチ13cが操作されたとき表示した「ぼん！」という演出が薄暗く（明度を下げて）表示されている。このときは演出用スイッチの操作は有効であるため、演出用スイッチは点灯している。なお、画像を薄暗く表示するときは明度を下げる他にも輝度を下げる態様や、画像に灰色の半透明の表示を重ねる態様であってもよい。いずれにしても画像を薄暗く表示す

10

20

30

40

50

る場合は視認性が下がると表現することも可能である。

【0375】

続いて図12の右下の図では、演出用スイッチが操作されたこと（より具体的には、演出用スイッチに関する入力信号が入力ポートに入力）に基づいて実行された「勝利！」という画像（以下、操作応答画像、又は操作応答演出と称する場合がある。）が液晶に表示されている。このときは演出用スイッチの操作は無効であるため、演出用スイッチは消灯している。

【0376】

図12の中下の図のように、演出用スイッチの操作を促す演出として、演出用スイッチ画像を液晶に表示する場合、実際の演出用スイッチの大きさよりも演出用スイッチ画像の方が大きくなるようにする。このように表示することで、遊技者が注視する液晶表示に演出用スイッチを効果的に表示でき、遊技者に演出用スイッチの操作を直感的に促すことが可能となる。

【0377】

また、演出用スイッチ画像では演出用スイッチの点灯態様を表した画像表現（以下、点灯態様画像と称する場合がある。）も行う。演出用スイッチが有効な場合は演出用スイッチランプが点灯しており（点滅しない）、点灯態様画像の表現としては所定周期で点灯と消灯を繰り返す点滅態様で表現されている。このような構成によれば、演出用スイッチ画像が明るくなったり暗くなったりを繰り返すので、演出用スイッチ画像を目立たせ、ひいては演出用スイッチの操作を効果的に促すことが可能となる。

【0378】

また、演出用スイッチが有効な場合は演出用スイッチランプが特定周期で点灯と消灯を繰り返す点滅態様で点灯されており、点灯態様画像の表現としては所定周期で点灯と消灯を繰り返す点滅態様で表現されている態様であってもよい。この場合、演出用スイッチランプの特定周期よりも点灯態様画像の所定周期の方が短くなるようにすることで点灯態様画像を目立たせることが可能となる。なお、この場合、演出用スイッチランプが消灯しているタイミングであっても演出用スイッチの操作（押下）が有効であるようにしており、このタイミングで演出用スイッチが操作されたことに基づいて、薄暗く「ぼん！」と表示された状態（図12の中下の図の状態）から、「勝利！」と表示された状態（図12の右下の図の状態）に切り替わるというように、演出の切り替えが行われるようになっている。

【0379】

また、エコモード（エコモードに設定されている場合は、エコモードに設定されていない場合よりも、上部または両側部演出ランプの明るさを下げたり又は消灯させたり、下部パネルの明るさを下げたり又は消灯させたり、また、液晶表示の明るさを下げたり又は消灯させたりする）を搭載した場合であっても、エコモード中にプッシュボタン演出を実行する際に演出用スイッチを点灯させる場合の演出用スイッチの明るさと、エコモードでないときにプッシュボタン演出を実行する際に演出用スイッチを点灯させる場合の演出用スイッチの明るさが同等になるようにしている。これにより、演出用スイッチの操作（押下）を遊技者に効果的に促すことが可能となる。

【0380】

なお、エラー報知を、上部または両側部演出ランプや演出用スイッチランプを所定色（赤や青等の視認性が高く目立つ色）で点灯又は点滅させる態様で行う場合においても、エコモード中とエコモードでないときとで上部または両側部演出ランプや演出用スイッチランプの明るさが同等となるようにするとよい。

【0381】

また、点灯態様画像として、消灯を示す画像表示をする際は、演出用スイッチ画像の明度を低くして表示するが、黒色となるまでは明度を下げずに少し点灯しているような表現にする。一方演出用スイッチランプが消灯するときは、点灯していない。このように演出用スイッチランプと点灯態様画像の消灯態様の表現を異ならせることで、点灯態様画像を目立たせることが可能となる。また、演出用スイッチの周囲よりも演出用スイッチ画像の

10

20

30

40

50

周囲の方が明るいため、演出用スイッチの画像の点灯態様画像の明度を黒になるまで下げないことにより、周囲との明るさの差を小さくしている。このように構成することで演出用スイッチ画像を目立たせつつ遊技中の疲労を軽減させることが可能となる。

【0382】

また、図12の中下の図のように演出用スイッチ画像を直前の画像の前に表示する場合、直前の画像の明度を下げているが、演出用スイッチ画像の点灯態様画像の一番低い明度よりも直前の画像の方が明度が低くなるようにしている。このように構成することで、演出用スイッチ画像の明度が最も低い状態でも周囲の画像よりも明度が高いため演出用スイッチ画像を目立たせることが可能となる。

【0383】

図12の中下の図について図13を用いてさらに説明する。演出用スイッチ画像は演出用スイッチが操作されるまでは時間経過によって変化するものとなっている。変化態様として、演出用スイッチの初期位置と押下位置の進退を表す演出を演出用スイッチ画像を用いて表現している。

【0384】

図13の最も左の図は、演出用スイッチ画像が初期位置であることを表しており、左から2番目の図は演出用スイッチ画像が押下位置であることを表しており、左から3番目の図は演出用スイッチ画像が初期位置であることを表しており、左から4番目の図は演出用スイッチ画像が押下位置であることを表している。このように、演出用スイッチ画像が初期位置にある状態と押下位置にある状態とを繰り返して示すように構成することで、演出用スイッチの押下を遊技者に効果的に促すことが可能となる。

【0385】

演出用スイッチ画像の初期位置と押下位置は一定周期で変化しており、点灯態様画像の点灯と消灯を表す所定周期よりも演出用スイッチ画像の初期位置と押下位置を表す周期の方が長くなるように構成されている。このように構成することで、演出用スイッチ画像を目立たせることが可能となり、且つ演出用スイッチを連打させることを想起させないことが可能となる。現在市場にある遊技機において演出用スイッチを連打させることで連続的に演出を変化させるものが多くあり、演出用スイッチ画像の変化態様を早く変化させすぎると連打演出と勘違いしてしまう虞があり、遊技の興趣を低下させてしまう可能性がある。このため、点灯態様の周期よりも初期位置と押下位置とに変化する周期を長くすることで、演出用スイッチを押下させることを意識させつつ、連打ではないことを直感的に表現することが可能となる。

【0386】

また、演出用スイッチを連打させる演出が表示されている状況では、点灯態様の周期よりも初期位置と押下位置とに変化する周期を短くすることで、遊技者に対して演出用スイッチを連打させることを直感的に表現することが可能となる。なお、これに限らず、演出用スイッチ画像の位置は変化しないが点灯態様画像の切り替え周期を演出用スイッチが1回操作されると終了するときの周期よりも短くすることで連打を意味する演出態様であってもよい。

【0387】

また、演出用スイッチ画像を初期位置と押下位置とに一定周期で変化させない態様であってもよい。この場合は、液晶の表示領域を小さくできるので、代わりに「PUSHボタンを押せ」などの演出用スイッチを押下させる旨の文字を表示することが可能となる。

【0388】

液晶に演出用スイッチを操作させるための演出用スイッチ画像が表示されているときに演出用スイッチが操作されると、エフェクトを伴わずに演出用スイッチ画像が消去されるよう構成されている。換言すると演出用スイッチ画像が表示されているときに演出用スイッチが操作されると、演出用スイッチ画像はすぐに消去され演出用スイッチの押下に基づいた演出をすぐに実行するようになっている。このときは演出用スイッチの操作を受け付けた直後の描画処理で演出用スイッチ画像を消去するように構成してもよいし、演出用ス

10

20

30

40

50

イッチの操作を受け付けた直後から所定期間後に実行する描画処理で演出用スイッチ画像を消去するように構成してもよい。

【0389】

このように構成することで、演出用スイッチが押下されてどのような結果となったかに対して遊技者に興味を抱かせることが可能となり、演出用スイッチが押下されたか否かの情報を目立たなくさせることが可能となる。

【0390】

また、液晶に演出用スイッチを操作させるための演出用スイッチ画像を表示しているときに、フロントパネルPS2が開放した場合であっても、演出用スイッチ画像の表示を継続し、演出用スイッチが操作されると、エフェクトを伴わずに演出用スイッチ画像が消去され演出用スイッチの押下に基づいた演出をすぐに実行するよう構成されている。このときは上述した通り、演出用スイッチの操作を受け付けた直後の描画処理で演出用スイッチ画像を消去するように構成してもよいし、演出用スイッチの操作を受け付けた直後から所定期間後に実行する描画処理で演出用スイッチ画像を消去するように構成してもよい。

【0391】

このようにフロントパネルPS2の開閉状態にかかわらず演出用スイッチの押下に基づいた演出を実行することで、意図せずフロントパネルPS2が開放してしまった場合でも遊技の進行を阻害しないようにすることが可能となる。

【0392】

なお、フロントパネルPS2が開放している状況で、液晶に演出用スイッチを操作させるための演出用スイッチ画像を表示する場合における演出用スイッチの点灯態様は、フロントパネルPS2が閉鎖している状況で、液晶に演出用スイッチを操作させるための演出用スイッチ画像を表示する場合における演出用スイッチの点灯態様とは異なるよう構成されている。例えば、フロントパネルPS2が閉鎖状態では点灯させる一方で開放状態では点滅又は消灯させたり、開放状態よりも閉鎖状態の方が点滅周期を早くしたり、また、開放状態と閉鎖状態とで点灯色を異なることが挙げられる。また、フロントパネルPS2が開放している状況では、図17に示す通り、演出用スイッチ画像の少なくとも一部と重なる位置にフロントパネルPS2が開放していることを示す画像を表示してもよい（なお、演出用スイッチ画像およびフロントパネルPS2が開放していることを示す画像のそれぞれの視認性を向上させるために、これらの画像が互いに重ならないような位置に、フロントパネルPS2が開放していることを示す画像を表示するようにしてもよい）。さらにまた、フロントパネルPS2が開放している状況では、フロントパネルPS2が開放していることを示す音声（例えば「扉が開いています」）を出力してもよく、この場合には、演出用スイッチ画像の表示に伴う演出音や演出用スイッチの押下に基づいた演出に伴う演出音を出力しないようにしてもよい。これにより、フロントパネルPS2が開放していることを正確に報知することができる。一方、フロントパネルPS2が開放していることを示す音声を出力している状況でも、演出用スイッチ画像の表示に伴う演出音や演出用スイッチの押下に基づいた演出に伴う演出音を出力してもよい。これにより、フロントパネルPS2が開放していることを正確に報知しながらも遊技の進行を阻害しないことができる。

【0393】

また、液晶に演出用スイッチを操作させるための演出用スイッチ画像を表示しているときに、フロントパネルPS2が開放した場合には、演出用スイッチ画像に替えてフロントパネルPS2が開放していることを示す画像を表示し、演出用スイッチの押下を無効にし、その後フロントパネルPS2を閉鎖するとフロントパネルPS2が開放していることを示す画像を消去し、演出用スイッチ画像を再度表示してもよい。なお、演出用スイッチ画像に重ねてフロントパネルPS2が開放していることを示す画像を表示することで演出用スイッチ画像を視認不可にし、その後フロントパネルPS2を閉鎖するとフロントパネルPS2が開放していることを示す画像を消去し、演出用スイッチ画像を再度視認できるようにしてもよい。この場合にも上述したようにフロントパネルPS2の開放の前後で演出

10

20

30

40

50

用スイッチの点灯態様を異ならせることで、フロントパネル P S 2 が開放していることを正確に報知することができる。

【0394】

また、演出用スイッチが操作されると遊技者に特典を付与することを意味する演出（成功演出）を実行する場合は、エフェクトを伴わずに演出用スイッチ画像が消去されるが、演出用スイッチが操作されると遊技者に特典を付与しないことを意味する演出（失敗演出）を実行する場合は、エフェクトを伴って演出用スイッチ画像が消去される態様であってもよい。なお、失敗演出となる場合のエフェクトとは演出用スイッチ画像が爆発する態様や演出用スイッチ画像の明度が最も暗い状態で維持される態様（周期で明度が変化しない態様）などが考えられる。

10

【0395】

このように構成することで、演出用スイッチを操作した結果失敗演出が表示されたことを遊技者に示唆することが可能となり、遊技者への納得感を醸成し、次遊技以降の興趣を低下させないようにすることが可能となる。

【0396】

また、全回胴（全リール）停止時に演出用スイッチ画像を表示する場合は、次遊技のスタートスイッチ12が操作されると演出用スイッチが操作されたときに表示する画像ではなく、スタートスイッチ12の操作に基づいた画像を表示する。さらに、スタートスイッチ12の操作に基づいた画像を表示する際は、演出用スイッチ画像は消去される。このときの演出用スイッチ画像の消去態様としてはエフェクトを伴わずに消去される。

20

【0397】

このように構成することで、スタートスイッチ12の操作に基づいて実行された演出を邪魔することがなく、遊技者の操作に対して適切な演出を実行することが可能となる。演出用スイッチ画像をスタートスイッチ12の操作でスキップする遊技者は、事前に期待度の低い状態を把握しているか、演出用スイッチを用いた演出自体に興味がない可能性が高く、エフェクトを伴わずに消去させることで遊技の興趣が低下してしまうことを防ぐことが可能となる。

【0398】

また、演出用スイッチ画像が表示されている状態で演出用スイッチが操作されて成功演出が表示されるときに演出用スイッチの操作受け付けから演出用スイッチ画像が消去されるまでの時間と、押し順ナビ画像が表示されている状態で押し順正解に対応するストップスイッチ13が操作されて成功演出が表示されるときにストップスイッチ13の操作受け付けから押し順ナビ画像が消去されるまでの時間と、を比較したときに演出用スイッチ画像が消去されるまでの時間の方を長くしている。

30

【0399】

このように構成することで、各種スイッチが操作されたときに実行されるリアクション演出までの時間を変化させることが可能となり、各種スイッチとリアクション演出実行までの時間差で異なった面白みを与えることが可能となる。例えば、押し順を失敗すると利益が直接なくなる押し順ナビ画像は次の情報を即座に表示した方が遊技者の興趣を高めることができ、演出用スイッチは操作から演出まで少しの間を持たせることで、成功演出が表示されるのか失敗演出が表示されるのかを期待させることができる。

40

【0400】

演出用スイッチがメニュー画面を表示するためのスイッチを兼ねている場合は、全回胴停止後に一定期間（例えば、T1）が経過すると演出用スイッチランプが点灯するよう構成されている。このときの演出用スイッチランプの点灯態様は、全回胴停止後に演出用スイッチの操作で演出が実行されるときに演出用スイッチランプの点灯態様とは異なる。

【0401】

このように構成することで、演出用スイッチランプの点灯態様によって演出用スイッチが操作されたときにメニュー画面が表示されるのか、成功又は失敗演出が表示されるのかを示唆することが可能となる。

50

【0402】

また、全回胴停止後に図12の中下の図のように演出用スイッチ画像を表示する場合は、全回胴停止後にメニュー画面が表示可能となるT1が経過しても演出用スイッチランプの点灯態様はメニュー画面を表示するときの点灯態様とはならず、演出用スイッチ画像に対応した点灯態様となっている。そして、全回胴停止後からT1経過後に演出用スイッチの操作を受け付けると演出用スイッチ画像は消去され、成功又は失敗演出を実行し、演出用スイッチランプは消灯を維持する状態になる。そして、演出用スイッチの操作を受け付けてからT1が経過したときも演出用スイッチランプは消灯を維持しており、演出用スイッチが操作されてもメニュー画面は表示されない。さらに全回胴停止後からデモ画面が表示されるためのT2が経過した場合においても、デモ画面は表示されず音量が低下し、演出用スイッチランプは消灯を維持している。この場合は、精算スイッチの操作受け付けにより精算処理が実行されるか、次遊技の終了後（演出用スイッチ画像が表示されない遊技の終了後）まで遊技が実行されるかによって全回胴停止後からT1経過でメニュー画面が表示可能となり、また全回胴停止後からT2経過でデモ画面が表示されるようになる。

10

【0403】

このように構成することで、演出用スイッチ画像が表示されている遊技では演出用スイッチが操作されることにより、メニュー画面が表示されるのか成功又は失敗演出が表示されるのかを遊技者が悩む必要がなくなり遊技に対する興趣の低下を防ぐことが可能となる。なお、精算処理が実行されてもメニュー画面が表示可能とならないように構成されていてもよく、この場合は当該遊技では失敗演出が表示されたが次遊技に成功演出が表示される所謂復活演出が実行されるか否かまで期待感を維持させることが可能となる。

20

【0404】

また、演出用スイッチランプがメニュー画面を表示可能な点灯態様で点灯しているときは、液晶に演出用スイッチ画像が表示されていない。換言するとメニュー画面が表示されるか否かは演出用スイッチランプの点灯態様でのみ確認可能となっている。

【0405】

このように構成することで、遊技の進行とは直接関係のないメニュー画面表示可能状態の報知を演出用スイッチランプの点灯態様のみで実行できるため、仮に液晶に演出用スイッチ画像が表示される場合と比べて、演出用スイッチの操作に期待感を持たせてしまう可能性を低くすることが可能となり、また遊技者が期待感をもって演出用スイッチを操作したにも関わらずメニュー画面が表示されてしまうことで遊技の興趣を低下させることを防ぐことが可能となる。

30

【0406】

なお、遊技が進行していないということを遊技者が容易に認識できるデモ画面においてはプッシュボタン演出で表示される演出用スイッチ画像とは異なる位置、及び小さいサイズで演出用スイッチ画像を表示してもよい。この場合は、遊技者がプッシュボタン演出と混同する可能性は低く、さらに遊技者にメニュー画面の表示を効果的に表示することが可能となる。これは、メニュー画面を表示するタイミングとしては遊技を開始する際に表示するタイミングが最も多く当該タイミングにおいては、遊技されていない状況であることからデモ画面を表示している可能性が高いということに基づくものである。

40

【0407】

なお、演出用スイッチ画像の表示位置として、プッシュボタン演出中は液晶の中央に演出用スイッチ画像を表示し、デモ画面中は液晶の端（例えば、図18に示す通り、液晶下部や液晶の左下等の目立ちにくい位置）に表示している。また、上述した通り、デモ画面中の演出用スイッチ画像は、プッシュボタン演出中の演出用スイッチ画像よりも小さいサイズで表示している。換言すれば、デモ画面中の演出用スイッチ画像と、プッシュボタン演出中の演出用画像とは、その表示領域および大きさの少なくとも一方が異なるようにしているともいえる。さらに、プッシュボタン演出中の演出用スイッチ画像とデモ画面中の演出用スイッチ画像とは、表示態様を異ならせるとよい（例えば、プッシュ演出中の演出用スイッチ画像は所定周期で点灯と消灯を繰り返す点滅態様で表示し、デモ画面中の演出

50

用スイッチ画像は点灯態様で表示する等)。これにより、演出の一環として演出用スイッチを押させたい状況と、演出用スイッチを押してもよい状況とを遊技者が直感的に区別することが可能となる。

【0408】

なお、デモ画面中の演出用スイッチ画像は、図19に示す通り、「PUSHでメニュー表示」のようなテロップを流すような態様であってもよい。

【0409】

プッシュボタン演出が実行されるタイミングは、全回胴停止後としたがスタートスイッチ12の受付後でもよい。スタートスイッチ12の受付後に演出用スイッチ画像が表示される場合は、第1停止操作(何れかのストップスイッチ13の操作)によって演出用スイッチ画像を消去してもよいし、全回胴停止後も演出用スイッチ画像の表示を維持してもよい。全回胴停止後に演出用スイッチ画像の表示を維持している場合は演出用スイッチの操作の有効期間も維持しており、演出用スイッチが操作されると成功又は失敗演出が実行される。なお、デモ画面に移行するための時間が経過したこと、精算処理が実行されること、ベット処理が実行されること、次遊技が開始したことの何れかによって演出用スイッチが操作されていなくても演出用スイッチ画像は消去される。

【0410】

また、演出用スイッチが操作されたことにより操作応答演出が実行されるか否かは、主制御手段100からの所定のコマンドの受信に基づいて所定のタイマ値をカウンタにセットし、タイマ割込み処理等によって所定間隔でカウンタの値をデクリメントしていき、カウンタの値が0となった場合に演出用スイッチの操作を有効にしている(演出用スイッチが操作されたことにより操作応答演出が実行される)。このときに演出用スイッチ画像も所定のコマンドの受信から所定のタイマ値に相当する期間が経過した後に描画処理が実行されるようになっているが、描画処理を実行する画像制御基板と演出制御基板との通信の遅延等で、演出用スイッチ画像が表示される前に演出用スイッチが有効となる場合がある。このように演出用スイッチ画像が表示される前に演出用スイッチが操作されても、応答演出を実行可能なように構成している。

【0411】

<<表示装置に適用可能な予告等>>

次に、本実施形態に適用可能な予告について説明する。本実施形態の表示装置32に表示可能な演出種(予告種別)として、段階的に複数の表示態様を表示可能な第1演出種(例:ステップアップ予告)と、所定のタイミング(例:演出開始時、演出開始から1秒後等)で第1表示態様(例:白セリフ)とは異なる第2表示態様(例:赤セリフ)が表示されることで有利な状態となる可能性を示唆し得る第2演出種(例:セリフ予告)とを備えている点である。ボーナスやATとなる可能性が低い第1演出状態(通常演出状態ともいう)では第1演出種と第2演出種とが少なくとも実行され得るが、ボーナスやATとなる可能性が高い第2演出状態(例:連続演出や前兆演出)では、第1演出種は実行されず、第2演出種は実行され得るよう構成されている。なお、以降に記載する各構成は、阻害要因がない限り適宜組み合わせ可能である。

【0412】

[第1演出種]

第1演出種には、段階的に複数回の表示が行われる予告が含まれる。例えば、所謂ステップアップ予告等が含まれる。具体的な示唆態様としては、ステップ1(白色)<ステップ2(青色)<ステップ3(黄色)<ステップ4(緑色)<ステップ5(赤色)の順に所定の期待度(例えば、小役当選、前兆突入、AT突入、ボーナス当選等の期待度)を示唆可能となっており、1遊技において、ステップ1(白色)→ステップ2(青色)→ステップ3(黄色)、のように、複数回の表示が可能である予告が含まれる。また、複数の遊技において、ステップ1(白色)→ステップ2(青色)→ステップ3(黄色)、のように、段階的に予告パターンが表示される場合も含まれる。つまり、第1演出種の予告は段階的に表示されるため、最終的に表示され得る表示態様を遊技者が認識し得るまでに要する時

間が比較的長くなっている。

【0413】

〔第2演出種〕

第2演出種には、1遊技において、予告の表示開始時点から通常態様（第1表示態様）とは異なる変化後態様（第2表示態様）で表示が開始される、又は、1遊技において、第1表示態様から第2表示態様に1回のみ変化が可能である予告が含まれる。また、サブ入力ボタンの操作により可動役物が可動したり何らかの予告画像が表示される予告（所謂ボタン予告）も含まれる。つまり、所謂セリフ予告、所謂タイトル予告、所謂ボタン予告、バトル演出におけるキャラクタ名・技名の表示等が含まれる。具体的な示唆態様としては、白色<緑色<赤色の順に所定の期待度（例えば、小役当選、前兆突入、AT突入、ボーナス当選等の期待度）を示唆可能となっている。より詳細には、予告開始時点でセリフが緑文字や赤文字で表示される（当該遊技で最初から緑文字や赤文字で表示されて変化しない）、バトル演出におけるキャラクタ名・技名が白文字から赤文字に変化する（当該遊技で白文字から赤文字に変化する）等である。つまり、色等の変化がない、あるいは文字の色が変化するだけの第2演出種において最終的に表示され得る表示態様を遊技者が認識し得るまでに要する時間が、予告パターンが段階的に変化する第1演出種と比較して短くなっている。

10

【0414】

〔第1演出状態〕

第1演出状態とは、ボーナスやATの当選の可能性が低い演出状態である。所謂連続演出や所謂前兆に発展していない演出状態（通常演出状態）である。

20

【0415】

〔第2演出状態〕

第2演出状態とは、ボーナスやATの当選の可能性が第1演出状態よりも高い演出状態である。所謂連続演出や前兆が含まれる。

【0416】

第1演出状態は、ボーナスやATの当選があまり期待できない状態であり、主に連続演出や前兆に移行することを期待している状態である。つまり、表示装置32に表示される予告が淡泊であると遊技者は飽きてしまい遊技を継続しなくなってしまう。そのため、第1演出状態では、連続演出や前兆に移行するために複数段階の表示が必要である。つまり、予告として時間がかかる第1演出種を実行したとしても、遊技者はそれほど煩わしく感じることはない。

30

【0417】

他方、第2演出状態では、ボーナスやATの当選が第1演出状態よりも期待できる連続演出や前兆を表示装置32にて見せることが遊技としての主目的であり、連続演出や前兆の表示を遮るような比較的時間のかかる予告はなるべく避けた方がよい。また、ボーナスやATの当選が期待できる第2演出状態で予告が行われると、遊技者はボーナスやATの当選であることが報知されることを強く望む。つまり、第2演出状態において実行され得る予告として、予告の内容（期待度等）を遊技者が把握するまでに比較的要する時間が長い第1演出種は適切ではなく、予告の内容（期待度等）を遊技者が把握するまでに比較的要する時間が短い第2演出種の方が適切である。

40

【0418】

（第1演出状態におけるステップアップ予告）

次に、図14を用いて、第1演出状態において実行され得る第1演出種の予告であるステップアップ予告について説明する。なお、以下に時間経過に沿ってt1～t7を説明するが、これらは図14におけるt1～t7であり、他の図面における同記号とは独立していることを補足しておく。

【0419】

まず、t1においてスタートレバー12（以後、単に「スタートレバー」と称することもある。）の操作がされる。次に、t2においてステップアップ1（キャラクタA）の表

50

示が開始される。遊技者はこのタイミングでステップアップ予告の表示が開始されたことを把握することが可能である。しかし、この後にチャンスアップするか否か、つまり、ステップアップ2以降が表示されるか否かを把握することはできない。

【0420】

次に、 t_3 においてステップアップ2（キャラクタB）の表示が開始される。このタイミングで遊技者はステップアップ予告がチャンスアップしたことを把握することができる。しかし、未だ最終的にいずれの段階までチャンスアップするかを把握することはできない。

【0421】

次に、 t_4 においてステップアップ3（キャラクタC）の表示が開始される。ここでも未だ最終的にいずれの段階までチャンスアップするかを把握することはできない。

【0422】

次に、 t_5 においてステップアップ3でステップアップ予告が終了する。ここで遊技者は当該ステップアップ予告の最終的な表示態様を把握することができる。

【0423】

その後、 t_6 において第1停止ボタンの操作、 t_7 において第2停止ボタンの操作、 t_8 において第3停止ボタンの操作が行われ、 t_9 において遊技が終了する。

【0424】

このように、第1演出状態における第1演出種であるステップアップ予告では、当該ステップアップ予告における最終的な表示態様を把握するまでに t_2 から t_5 までの期間を要する。また、第1停止ボタンの操作前にチャンスアップした表示態様にて表示する期間が終了するように構成されている。

【0425】

なお、レバーオンによる遊技の開始からステップアップ予告が開始されるまでの期間（図14における t_1 から t_2 までの期間T1、約1秒）は、ステップアップ予告が1段階チャンスアップするために要する期間（図14における t_2 から t_3 までの期間T2）、約0.5秒）よりも長くなっていてもよいし、レバーオンによる遊技の開始からステップアップ予告が開始されるまでの期間（上記期間T1、約1秒）は、ステップアップ予告が1段階チャンスアップするために要する期間（上記期間T2、約1.2秒）よりも短くなっていてもよい。なお、図14においては、後者の例を模式的に示している。

【0426】

（第1演出状態におけるセリフ予告）

次に、図15を用いて、第1演出状態において実行され得る第2演出種の予告であるセリフ予告について説明する。なお、以下に時間経過に沿って $t_1 \sim t_8$ を説明するが、これらは図15における $t_1 \sim t_8$ であり、他の図面における同記号とは独立していることを補足しておく。

【0427】

まず、 t_1 においてスタートレバーの操作がされる。次に、 t_2 においてセリフ予告が緑色の「チャンスだよ」の文字で開始される。遊技者はこのタイミングから当該セリフ予告がチャンスアップの表示態様であること及び当該セリフ予告の最終的な表示態様を把握することが可能である。実際にチャンスアップの表示態様であることを把握するには多少の期間を要するため、セリフ予告においては、図15における t_2 から t_3 の期間T2が最終的な表示態様を把握するまでに要する期間といえる。

【0428】

その後、 t_4 において第1停止ボタンの操作、 t_5 において第2停止ボタンの操作、 t_6 において第3停止ボタンの操作が行われ、 t_7 において遊技が終了する。

【0429】

次に、 t_8 において次ゲームのベット操作が行われると、セリフ予告の表示が終了する。

【0430】

このように、第1演出状態における第2演出種であるセリフ予告では、当該セリフ予告

10

20

30

40

50

における最終的な表示態様を把握するまでに図15における t_2 から t_3 までの期間 T_2 を要する。また、第3停止ボタンが操作されて遊技終了となった時点で、当該遊技のチャンスアップを示唆する意味はなくなるが、次ゲームのベット操作が行われるまでチャンスアップした表示態様の表示が継続するように構成されている。これにより、前遊技の演出等を初期化する処理が行われるベット処理にて前遊技のチャンスアップを終了させることができ、第3停止後の遊技終了処理でチャンスアップを消去する処理を行わずに済むため、制御処理の負担の軽減を図ることができる。

【0431】

なお、セリフ予告において、例えば、 t_2 にて白色の「チャンスだよ」の文字（第1表示態様）で開始された後、 t_3 から t_8 の前までのいずれかのタイミングにて赤色の「チャンスだよ」の文字（第2表示態様）に変化するようにしてもよい（当該遊技で第1表示態様から第2表示態様に変化するようにしてもよい）。この場合、レバーオンからセリフ予告が開始されるまでの期間（図15における t_1 から t_2 までの期間 T_3 ）は、セリフ予告が第1表示態様から第2表示態様に変化する場合の変化するために要する期間（図15における t_3 から t_4 乃至 t_8 の前までのいずれかまでの期間 T_A ）よりも短くなっている。

【0432】

（ある第2演出状態におけるセリフ予告）

次に、図16を用いて、ある連続演出（ある第2演出状態）において実行され得る第2演出種の予告であるセリフ予告について説明する。なお、以下に時間経過に沿って $t_1 \sim t_{14}$ を説明するが、これらは図16における $t_1 \sim t_{14}$ であり、他の図面における同記号とは独立していることを補足しておく。

【0433】

まず、 t_1 においてスタートレバーの操作がされ、連続演出の1ゲーム目が開始される。次に、 t_2 においてセリフ予告が緑色の「アツイ」の文字で開始される。遊技者はこのタイミングから当該セリフ予告がチャンスアップの表示態様であること及び当該セリフ予告の最終的な表示態様を把握することが可能である。実際にチャンスアップの表示態様であることを把握するには多少の期間を要するため、第2演出状態におけるセリフ予告においては、図16における t_2 から t_3 の期間 T_2 が最終的な表示態様を把握するまでに要する期間といえる。

【0434】

その後、 t_4 において第1停止ボタンの操作、 t_5 において第2停止ボタンの操作、 t_6 において第3停止ボタンの操作が行われ、 t_7 において遊技が終了（つまり、払出処理が完了し、次遊技を開始可能な状態）する。

【0435】

次に、 t_8 において次ゲーム（連続演出の2ゲーム目）のベット操作が行われると、セリフ予告の表示が終了する。

【0436】

このように、第2演出状態における第2演出種であるセリフ予告では、当該セリフ予告における最終的な表示態様を把握するまでに t_2 から t_3 までの期間を要する。また、第3停止ボタンが操作されて遊技終了となった時点で、当該遊技のチャンスアップを示唆する意味はなくなるが、次ゲームのベット操作が行われるまでチャンスアップした表示態様の表示が継続するように構成されている。これにより、前遊技の演出等を初期化する処理が行われるベット処理にて前遊技のチャンスアップを終了させることができ、第3停止後の遊技終了処理でチャンスアップを消去する処理を行わずに済むため、制御処理の負担の軽減を図ることができる。

【0437】

連続演出の第2ゲーム目では、スタートレバーの操作後にセリフ予告が表示されていない。

【0438】

次に、t 9において第1停止ボタンの操作、t 10において第2停止ボタンの操作、t 11において第3停止ボタンの操作が行われ、t 12においてセリフ予告が緑色の「アツイ」の文字で開始される。

【0439】

次に、t 13で遊技が終了する。次に、t 14において次ゲームのベット操作が行われると、セリフ予告の表示が終了する。

【0440】

このように、連続演出の1ゲーム目と2ゲーム目とで、第2演出種の表示タイミングを異ならせるようにしているが、同じタイミングで表示するようにしてもよい。

【0441】

次に、本実施形態に適用可能な構成を列挙する。以下に列挙する各構成はそれぞれ、あくまでも一例であり、以下に列挙する構成に限定されるものではない。また、以下に列挙する各構成については、互いに組み合わせることに矛盾が生じない限り、適宜組み合わせることが可能であることを付言しておく。

(構成1)

第1演出状態では、第1演出種及び第2演出種の双方が実行され得るよう構成し、ある第2演出状態では、第1演出種は実行されず、第2演出種は実行され得るよう構成する。

【0442】

このように構成することで、連続演出時は、瞬間的にチャンスアップを判断可能な予告のみを発生させることで、遊技者は連続演出に集中することができる演出状態にあった適切な予告を実行することができる。

【0443】

また、ある第2演出状態において実行され得る予告は、複数種類であってもよいし、1種類のみであってもよい。

【0444】

例えば、ある連続演出においては、タイトル予告とセリフ予告とが実行され得るよう構成してもよい。

【0445】

第2演出種が複数種類実行され得るとしても、それぞれが短時間で予告の内容を遊技者が把握できるものであるため、煩わしさを感じることはない。例えば、ある連続演出（バトル演出）の開始時にキャラクタ名が表示され（色による期待度示唆あり）、ある連続演出の途中にセリフ予告が実行される場合などである。

【0446】

また、ある連続演出では特定の予告（例えば、ある1種類の予告）のみが発生し得るようすることで、連続演出と発生する予告とが明確になり、遊技者は連続演出と予告との双方に注目したとしても、ボーナスやAT当選を示す態様を容易に把握することもできる。

【0447】

(構成1-1)

さらに、ある第2演出状態において実行され得る第2予告には複数種類あり、

1度の第2演出状態において複数種類の第2予告が実行され得るよう構成されており、

1回の遊技回で実行され得る第2予告は1種類のみである。

【0448】

具体的には、1回の連続演出において、複数種類の第2予告（例：セリフ予告、タイトル予告）が実行され得るよう構成されており、さらに、1回の遊技回では、1種類の第2予告（例えば、1遊技目はタイトル予告、2遊技目はセリフ予告）が実行され得るよう構成されている。

【0449】

このように、ある連続演出中（ある第2演出状態）には、1遊技回には1種類の予告のみしか実行されないため、予告表示が複雑になり、期待度が把握しづらい状況を防止することができる。

10

20

30

40

50

【0450】

(構成1-2)

さらに、ある第2演出状態において実行され得る予告が複数種類である場合には、遊技者によるサブボタン操作を要しない予告と遊技者によるボタン操作を要するボタン予告とを備えるように構成してもよい。なお、第2演出状態は第1演出状態よりもボーナスやAT当選に近い状態（期待できる状態）であるため、遊技者がサブボタンを操作する意欲も高い。そのため、第2演出状態では、サブボタンの操作を要しないある予告よりもサブボタンの操作を要するボタン予告の方が発生する割合を高くすることもできる。

【0451】

(構成1-3)

全ての第2演出状態で第1演出種が実行されず、第2演出種のみが実行され得るよう構成してもよい。

【0452】

このように構成することで、全ての第2演出状態において予告の内容が短時間で把握可能な第2演出しか実行されないの、全体として第2演出状態に実行される予告に煩わしさを感じることがない。

【0453】

上述した第2演出種としてセリフ予告を備える場合、第2演出状態が味方キャラクタと敵キャラクタとが対決するバトル連続演出である場合におけるセリフ予告は、以下のよう

1. 味方キャラクタのセリフのみが第2表示態様となり得る

この場合、味方キャラのセリフにのみ注目すればよいためチャンスアップを把握しやすい。

2. 敵キャラクタのセリフのみが第2表示態様となり得る

この場合、敵キャラのセリフにのみ注目すればよいためチャンスアップを把握しやすい。

3. 味方キャラクタと敵キャラクタの両方のセリフが第2表示態様となり得る

この場合、チャンスアップが表示されるタイミングが多くなるため、遊技者に対してより期待感をもたらすことができる。

【0454】

(構成2)

第1演出状態において実行され得る第1演出種の1の予告と、第2演出状態において実行され得る第2演出種の1の予告とにおいて用いられるキャラクタ数が異なるよう構成されている。

【0455】

例えば、第1演出状態における第1演出種の1の予告はステップアップ予告であり、第2演出状態において実行され得る第2演出種の1の予告はセリフ予告である場合において、それぞれに用いられるキャラクタ数が異なるように構成される。

【0456】

図14に示す、第1演出状態における第1演出種の1の予告であるステップアップ予告では、キャラクタA（ステップ1）、キャラクタB（ステップ2）、キャラクタC（ステップ3）、キャラクタD（ステップ4）、キャラクタ（ステップ5）の5種類のキャラクタが用いられる。

【0457】

図15に示す、ある第2演出状態（例：バトル連続演出）における第2演出種の1の予告であるセリフ予告では、キャラクタA、キャラクタB、キャラクタFの3種類のキャラクタが用いられ得る。

【0458】

このように、第1演出状態における第1演出の1の予告では、キャラクタ数を多くすることにより、遊技者が飽きないように予告バリエーションを多くし、ある第2演出状態における第2演出の1の予告では、ある第2演出状態（例：実行されているバトル連続演出

10

20

30

40

50

）に関係するキャラクタのみにして、遊技者が第2演出状態の流れを把握しやすいようにしている。

【0459】

また、第1演出状態は遊技していて多くの時間滞在する状態であるため、第1演出状態における第1演出の1の予告であるステップアップ予告の発生頻度は、ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告よりも高い。したがって、発生頻度の高い予告ほど用いるキャラクタ数を多くして予告バリエーションを豊富にしている。

【0460】

なお、キャラクタ数は、

第1演出状態における第1演出の1の予告であるステップアップ予告<ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告、であってもよく、また、

第1演出状態における第1演出の1の予告であるステップアップ予告=ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告、であってもよい。

【0461】

(構成3)

第1演出状態において実行され得る第2演出種の1の予告と、第2演出状態において実行され得る第2演出種の1の予告とにおいて用いられるキャラクタ数が異なるよう構成されている。

【0462】

例えば、第1演出状態における第2演出種の1の予告はセリフ予告であり、第2演出状態において実行され得る第2演出種の1の予告もセリフ予告である場合において、それぞれに用いられるキャラクタ数が異なるように構成される。

【0463】

図15に示す、第1演出状態における第2演出種の1の予告であるセリフ予告では、キャラクタA、キャラクタB、キャラクタC、キャラクタD、キャラクタEの5種類のキャラクタが用いられる。

【0464】

ある第2演出状態(例：バトル連続演出)における第2演出種の1の予告であるセリフ予告では、キャラクタA、キャラクタB、キャラクタFの3種類のキャラクタが用いられる。

【0465】

このように、第1演出状態における第2演出の1の予告では、キャラクタ数を多くすることにより、遊技者が飽きないように予告バリエーションを多くし、ある第2演出状態における第2演出の1の予告では、ある第2演出状態(例：実行されているバトル連続演出)に関係するキャラクタのみにして、遊技者が第2演出状態の流れを把握しやすいようにしている。

【0466】

また、第1演出状態は遊技していて多くの時間滞在する状態であるため、第1演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告の発生頻度は、ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告よりも高い。したがって、発生頻度の高い予告ほど用いるキャラクタ数を多くして予告バリエーションを豊富にしている。

【0467】

なお、キャラクタ数は、

第1演出状態における第1演出の1の予告であるセリフ予告<ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告、であってもよくまた、

第1演出状態における第1演出の1の予告であるセリフ予告=ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告、であってもよい。

【0468】

また、第1演出状態における第1演出の1の予告であるステップアップ予告、第1演出状態における第1演出の1の予告であるセリフ予告、ある第2演出状態における第2演出

10

20

30

40

50

の1の予告であるセリフ予告、で用いられるキャラクタの数を以下のような対応関係としてもよい。

1. 第1演出状態における第1演出の1の予告であるステップアップ予告>第1演出状態における第1演出の1の予告であるセリフ予告>ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告

2. 第1演出状態における第1演出の1の予告であるセリフ予告>第1演出状態における第1演出の1の予告であるステップアップ予告>ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告

【0469】

上記のいずれの場合であっても、予告の発生頻度の高い方がキャラクタ数を多く備える構成となっている。

【0470】

(構成4)

第1演出状態において実行され得る第1演出種のうちの1の予告に用いられるキャラクタと、ある第2演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告に用いられるキャラクタとに、同一キャラクタが用いられる構成である。

【0471】

第1演出状態における第1演出の1の予告であるセリフ予告と、ある第2演出状態における第2演出の1の予告であるセリフ予告とに共通で用いられるキャラクタは、主要キャラクタである。

【0472】

このように、開発者はストーリーを把握しやすくするために主要キャラクタを多く表示するよう設計し、遊技者はキャラクタの表示頻度により主要キャラクタや主要キャラクタの関連性を把握しやすくなる。

【0473】

そのため、主要キャラクタは、表示時間が長い(例えば、連続演出が継続しやすい)、表示頻度が多い、期待度が高い、キャラクタとなる。

【0474】

しかし、表示頻度が多いことと期待度が高いこととは相反する構成であるため、例えば、予告頻度の高い第1演出状態のステップアップ予告やセリフ予告では、主要キャラクタの頻度が高くなるようにステップ1等に設定する構成とし、第2演出状態では、期待度の高いキャラクタとして用いる構成とするのが適切である。

【0475】

その他のキャラクタとして、主要キャラクタではあるがレアキャラクタであり、表示時間が短い、表示頻度が少ない、期待度が高い、といったキャラクタを設けることもできる。例えば、第1演出状態におけるセリフ予告や、第2演出状態におけるセリフ予告で当該キャラクタが表示されることで、ボーナスやAT当選の期待度が高いことが示唆される。

【0476】

このように構成することで、主要キャラクタが表示される機会を多くすることができ、さらに、キャラクタ毎の期待度を遊技者が把握しやすくなる。

【0477】

なお、第1演出状態において実行され得る第1演出種のうちの1の予告に用いられるキャラクタと、ある第2演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告に用いられるキャラクタとに共通に用いられるキャラクタは、主要キャラクタでなくてもよい。例えば、主要キャラクタでないレアキャラクタ(期待度高)であってもよい。

【0478】

(構成5)

第1演出状態において実行され得る第1演出種のうちの1の予告(例:ステップアップ予告)においてキャラクタの音声が出力され得るよう構成され、

第1演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告(例:セリフ予告)に

10

20

30

40

50

においてもキャラクタの音声出力され得るよう構成されている。

【0479】

(構成5-1)

他方、

第2演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告(例:セリフ予告)においては、キャラクタの音声出力されないよう構成されている。

【0480】

このように構成することで、第1演出状態においては、キャラクタの音声出力されるため、キャラクタのセリフに注意を向けやすくなる一方、第2演出状態においては、連続演出等のBGMが出力されており、連続演出中であることに期待感を持たせたいため、キャラクタのセリフの音声にあまり注意が向かないようにすることができる。

10

【0481】

(構成5変更例)

第1演出状態において実行され得る第1演出種のうちの1の予告(例:ステップアップ予告)においてキャラクタの音声出力され得ないよう構成され、

第1演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告(例:セリフ予告)においてもキャラクタの音声出力され得ないよう構成されている。

【0482】

このように、第1演出状態においては、キャラクタの音声出力されないよう構成することで、例えば、ステップアップ予告やセリフ予告が他の予告と重複して実行されるよう構成されている場合に、ステップアップ予告やセリフ予告によって他の予告による音声(効果音)をかき消してしまうことがない。

20

【0483】

(構成6)

ある第2演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告は、音量調整表示と重複しないよう構成されており、

ある第2演出状態において、遊技停止中及び遊技中のいずれの状況下でも音量調整が可能であり、かつ、音量調整表示が表示された場合であっても、ある第2演出状態を示す演出表示の明暗度が低下することがない構成である。

【0484】

具体的には、遊技者がサブボタンや十字ボタン等を操作することで音量や光量を調整することができるように構成されている場合に、音量調整や光量調整が行われると、設定されている音量状況を示す音量調整表示や、光量状況を示す光量調整表示が表示装置32に表示される。

30

【0485】

つまり、第2演出状態においても音量調整が可能である構成であり、ある第2演出状態(ある連続演出)において第2演出種であるセリフ予告が表示された場合には、音量調整表示とは重複しないように表示される構成となっている。

【0486】

このため、セリフ予告と音量調整表示のいずれも遊技者が明確に視認できるようになっている。

40

【0487】

さらに、ある第2演出状態(ある連続演出)では、遊技停止中(リール停止中)及び遊技中(リール回転中)のいずれの状況下でも音量調整が可能であるが、音量調整表示が表示された場合であっても、ある第2演出状態(ある連続演出)における演出表示(背景画像)の明暗度が低下することがない構成されているため、ある連続演出の画像(ムービー)も見やすいままである。

【0488】

(構成6変更例1)

ある第2演出状態において実行され得る第2演出種のうちの1の予告は、音量調整表示

50

と重複するように構成されており、

ある第2演出状態において、遊技停止中及び遊技中のいずれの状況下でも音量調整が可能であり、かつ、音量調整表示が表示された場合であっても、ある第2演出状態における表示画面の明暗度が低下することがない構成である。

【0489】

つまり、第2演出状態においても音量調整が可能である構成であり、ある第2演出状態（ある連続演出）において第2演出種であるセリフ予告が表示された場合には、音量調整表示と重複するように表示される構成となっている。

【0490】

しかし、ある第2演出状態（ある連続演出）では、遊技停止中（リール停止中）及び遊技中（リール回転中）のいずれの状況下でも音量調整が可能であるが、音量調整表示が表示された場合であっても、ある第2演出状態（ある連続演出）における表示画面（背景画像）の明暗度が低下することがない構成されているため、ある連続演出の画像（ムービー）も見やすいままである。

【0491】

なお、音量調整表示が表示されている状況でセリフ予告が表示された場合であっても、セリフ予告が表示されている状況で音量調整表示が表示された場合のいずれの場合であっても、音量調整表示がセリフ予告よりも前面側に表示される。

【0492】

（構成6-1）

音量調整又は光量調整は、遊技停止中及び遊技中のいずれも可能であり、

遊技停止中において音量調整又は光量調整の操作がされた場合と遊技中において音量調整又は光量調整の操作がされた場合とにおいて、音量調整表示又は光量調整表示の表示位置が変わらない構成である。

【0493】

通常遊技状態では、遊技停止中及び遊技中のいずれの状況であっても音量調整又は光量調整が可能であり、表示装置32に表示される音量調整表示又は光量調整表示の表示位置は変化しないように構成されてもよい。

【0494】

また、ボーナス中やAT中は、通常遊技状態と同様に遊技停止中及び遊技中のいずれも音量調整又は光量調整が可能であり、音量調整表示又は光量調整表示が変わらないようにしてもよい。

【0495】

さらにまた、通常遊技状態とボーナス中やAT中とは、音量調整表示又は光量調整表示が異なるようにしてもよい。

【0496】

（構成7）

遊技者による操作部材の操作が可能な第3演出（サブ入力ボタンの操作による演出）を備え、

第1演出状態（例えば、通常演出状態）において実行され得る第3演出では、操作部材が操作された場合、所定の期待度（例えば、小役期待度、前兆突入期待度）を示す複数の実行態様のうちの所定の実行態様にて演出が行われる割合が高く構成されており、

第2演出状態（例えば、連続演出）において実行され得る第3演出では、操作部材が操作された場合、特別遊技（例えば、ボーナス、AT）となるか否かが報知される割合が高く構成されている。

【0497】

つまり、通常演出状態のボタン演出では、当該遊技における当選役や前兆への突入期待度を示すパターンが実行されやすく、ボーナスやATに当せんしたことを示すパターンは実行され難い。他方、連続演出中のボタン演出では、ボーナスやATに当せんしたことを示すパターンが実行されやすく、当該遊技における当選役や前兆への突入期待度を示すパ

10

20

30

40

50

ターンは実行され難い。

【0498】

このように、遊技状況（第1演出状態であるか第2演出状態であるか）によってボタン演出が示唆する内容の割合が異なるように構成することができる。これにより、ボタン演出が示唆する内容を遊技状況に適した内容にすることができる。

【0499】

（構成7変更例）

遊技者による操作部材の操作が可能な第3演出（サブ入力ボタンの操作による演出）を備え、

第2演出状態（例えば、連続演出）において実行され得る第3演出では、操作部材が操作された場合、所定の期待度（例えば、小役期待度、前兆突入期待度）を示す複数の実行態様のうちの所定の実行態様にて演出が行われる割合よりも、特別遊技（例えば、ボーナス、AT）となるか否かが報知される割合の方が高くなるように構成されている。

【0500】

つまり、連続演出中のボタン操作では、特別遊技（例えば、ボーナス、AT）となるか否かが報知される割合が高く、所定の期待度（例えば、小役期待度、前兆突入期待度）を示す複数の実行態様のうちの所定の実行態様にて演出が行われる割合が低くなるように構成されてもよい。

【0501】

これにより、ボタン演出が示唆する内容を遊技状況に適した内容にすることができる。

【0502】

（構成8）

第1遊技状態（非有利状態）と第2遊技状態（有利状態）とを少なくとも備え、

第2遊技状態では第2演出状態が発生し得ないよう構成されている。

【0503】

具体的には、AT中（第2遊技状態）には連続演出（第2演出状態）にならずに特別遊技（ボーナス）となることが報知される。なお、第1遊技状態は非有利状態であり、通常遊技状態や非有利区間であってもよく、第2遊技状態は有利状態であり、AT状態や有利区間であってもよい。

【0504】

有利状態（AT中）はなるべく短時間で多くの出玉を獲得させたいため、このように、有利状態（AT中）に連続演出を備えない構成とすることですぐにボーナスを実行させることができる。

【0505】

（構成9）

第1表示装置（例えば、第1の液晶表示装置）とは異なる第2表示装置（例えば、第2の液晶表示装置）を備え、

第2表示装置に音量調整表示が表示され、

第2演出状態（連続演出中）であり、且つ、リール停止中は、音量調整ができる一方、

第2演出状態（連続演出中）であり、且つ、リール回転中は、音量調整ができないよう構成されている。

【0506】

つまり、演出の大半が行われる表示装置32とは別の表示装置を備えており、第2表示装置に音量調整表示を表示することで、音量調整表示が表示装置32に表示される演出と重複して表示されることがないため、音量調整表示が表示装置32に表示される演出の視認性を低下させることがない。

【0507】

第2表示装置（表示装置32とは別の表示装置）は、タッチパネルを備える液晶表示装置であり、タッチパネルの操作により音量調整が可能であってもよい。また、音量調整だけでなく、光量調整も同様であってもよい。

10

20

30

40

50

【0508】

(構成10)

第1演出状態（通常ステージで連続演出等が発生していない状態）、第2演出状態（例えば、連続演出）及び第3演出状態（例えば、前兆）を備え、

第1演出状態の後に複数変動にわたって実行され得る第3演出状態となり、その後第2演出状態となり得るよう構成されており、

第1演出状態では、第1演出種及び第2演出種が実行され得るよう構成され、

第2演出状態では、第2演出種のみ実行され得るよう構成され、

さらに、

第3演出状態では、第1演出種及び第2演出種の双方とも実行され得るよう構成されている。

10

【0509】

つまり、第1演出状態だけでなく、第3演出状態（例えば、前兆状態）であっても、第1演出種（例えば、ステップアップ予告）と第2演出種（例えば、セリフ予告）が実行され得るよう構成されている。

【0510】

なお、第1演出状態において実行され得る第1演出種及び第2演出種の演出内容と、第3演出状態において実行され得る第1演出種及び第2演出種の演出内容とは、異なっている。

【0511】

前兆はまだ有利状態（ボーナスやAT）への移行可否を報知する演出ではないことが多いため、通常の状態と同様に、第1演出種と第2演出種の双方を実行可能とすることで、演出バリエーションを豊富にすることができ、前兆中の期待感を損なわないようにすることができる。

20

【0512】

(構成11)

第1演出状態で第2演出種が実行された場合において、第2表示態様が表示されなかった場合に所定期間内に第3演出状態となる割合と第2表示態様が表示された場合に所定期間内に第3演出状態となる割合との差と、

第2演出状態で第2演出種が実行された場合において、第2表示態様が表示されなかった場合に特定期間内に有利な状態となる割合と第2表示態様が表示された場合に特定期間内に有利な状態となる割合との差では、

30

第2演出状態で第2演出種が実行された場合に、第2表示態様が表示されなかった場合に特定期間内に有利な状態となる割合と第2表示態様が表示された場合に特定期間内に有利な状態となる割合との差の方が大きくなるよう構成されている。

【0513】

つまり、

通常演出時（第1演出状態）にセリフ予告（第2演出種）が実行された場合において、チャンスアップせず（第2表示態様が表示されなかった場合）に32G以内（所定期間内）に前兆（第3演出状態）になる割合と、チャンスアップして（第2表示態様が表示された場合）に32G以内（所定期間内）に前兆（第3演出状態）になる割合との差は、

40

連続演出中（第2演出状態）にセリフ予告（第2演出種）が実行された場合において、チャンスアップせず（第2表示態様が表示されなかった場合）に4G以内（特定期間内）にボーナス、AT等（有利な状態）になる割合と、チャンスアップして（第2表示態様が表示された場合）に4G以内（特定期間内）にボーナス、AT等（有利な状態）になる割合との差よりも、小さくなるように構成されている。

【0514】

(構成11-1)

さらに、

50

第 1 演出状態で第 1 演出種が実行された場合において、第 2 表示態様が表示されなかった場合に所定期間内に第 3 演出状態となる割合と第 2 表示態様が表示された場合に所定期間内に第 3 演出状態となる割合との差が、

第 1 演出状態で第 2 演出種が実行された場合において、第 2 表示態様が表示されなかった場合に所定期間内に第 3 演出状態となる割合と第 2 表示態様が表示された場合に所定期間内に第 3 演出状態となる割合との差よりも、小さくなるように構成されている。

【0515】

つまり、

通常演出時（第 1 演出状態）にステップアップ予告（第 1 演出種）が実行された場合において、1 段階チャンスアップせず（第 2 表示態様が表示されなかった場合）に 3 2 G 以内（所定期間内）に前兆（第 3 演出状態）となる割合と、1 段階チャンスアップして（第 2 表示態様が表示された場合に）3 2 G 以内（所定期間内）に前兆（第 3 演出状態）となる割合との差は、

通常演出時（第 1 演出状態）にセリフ予告（第 2 演出種）が実行された場合において、チャンスアップせず（第 2 表示態様が表示されなかった場合）に 3 2 G 以内（所定期間内）に前兆（第 3 演出状態）になる割合と、チャンスアップして（第 2 表示態様が表示された場合に）3 2 G 以内（所定期間内）に前兆（第 3 演出状態）になる割合との差よりも、小さくなるように構成されており、

通常演出時（第 1 演出状態）にセリフ予告（第 2 演出種）が実行された場合において、チャンスアップせず（第 2 表示態様が表示されなかった場合）に 3 2 G 以内（所定期間内）に前兆（第 3 演出状態）になる割合と、チャンスアップして（第 2 表示態様が表示された場合に）3 2 G 以内（所定期間内）に前兆（第 3 演出状態）になる割合との差は、

連続演出中（第 2 演出状態）にセリフ予告（第 2 演出種）が実行された場合において、チャンスアップせず（第 2 表示態様が表示されなかった場合）に 4 G 以内（特定期間内）にボーナス、A T 等（有利な状態）になる割合と、チャンスアップして（第 2 表示態様が表示された場合に）4 G 以内（特定期間内）にボーナス、A T 等（有利な状態）になる割合との差よりも、

小さくなるように構成されている。

【0516】

ステップアップ予告の期待度が、1 段階<2 段階<3 段階<4 段階<5 段階であり、セリフ予告の期待度が、白色<緑色<赤色<虹色、である場合を用いてより具体的に示すと、<通常演出時>

ステップアップ予告、1 段階、3 2 G 以内に前兆演出になる割合：1 %

ステップアップ予告、2 段階、3 2 G 以内に前兆演出になる割合：2 %

⇒差：1 %

セリフ予告、白、3 2 G 以内に前兆演出になる割合：1 %

セリフ予告、緑、3 2 G 以内に前兆演出になる割合：5 %

⇒差：4 %

<連続演出中>

セリフ予告、白、4 G 以内にボーナスになる割合：5 %

セリフ予告、緑、4 G 以内にボーナスになる割合：10 %

⇒差：5 %

となるように構成してもよい。

【0517】

このように、演出の表示態様が 1 段階のみチャンスアップした場合であっても、演出状態によってアップする期待度の割合が異なるように構成することで、1 段階チャンスアップすることへの期待感をより遊技者が楽しむことができる。

【0518】

（構成 11 変更例）

ステップアップ予告の期待度が、1段階<2段階<3段階<4段階<5段階であり、セリフ予告の期待度が、白色<緑色<赤色<虹色、である場合を用いて、さらに下から2番目の期待度と下から3番目の期待度の差を示すと、

<通常演出中>

ステップアップ予告、1段階、32G以内に前兆演出になる割合：1%

ステップアップ予告、2段階、32G以内に前兆演出になる割合：2%

ステップアップ予告、3段階、32G以内に前兆演出になる割合：10%

⇒SU2とSU3の差：8%

セリフ予告、白、32G以内に前兆演出になる割合：1%

セリフ予告、緑、32G以内に前兆演出になる割合：5%

セリフ予告、赤、32G以内に前兆演出になる割合：15%

⇒緑と赤の差：10%

<連続演出中>

セリフ予告、白、4G以内にボーナスになる割合：5%

セリフ予告、緑、4G以内にボーナスになる割合：10%

セリフ予告、赤、4G以内にボーナスになる割合：22%

⇒緑と赤の差：12%

となるように構成してもよい。

【0519】

(構成12)

第2演出状態(連続演出)において第2演出種のうちの1の予告が実行された場合において、

当該ある予告が第2表示態様となると、当該ある予告において以降で第1表示態様となることがないように構成されている。

【0520】

つまり、連続演出においてセリフ予告が赤文字で表示された場合において、当該連続演出では、セリフ予告が白文字になることなく赤文字で表示される。

【0521】

例えば、連続演出の1遊技目では赤文字が表示されたにもかかわらず、連続演出の2遊技目では白文字が表示された場合には、遊技者は期待度が高いのか低いのかわからなくなってしまう虞がある。そのため、一の連続演出中におけるセリフ予告の期待度を統一して示すようにすることで、遊技者が期待度に混乱することがないようにすることができる。

【0522】

(構成12変更例)

第2演出状態(連続演出)において第2演出種のうちの1の予告が実行された場合において、

当該ある予告が第2表示態様となった場合であっても、当該ある予告において以降で第1表示態様となり得るように構成されている。

【0523】

つまり、連続演出においてセリフ予告が赤文字で表示されたとしても、当該連続演出において白文字になることがある。

【0524】

このように構成することで、1遊技ごとに第2表示態様(例、チャンスアップ：赤文字)が表示されるか否かに興味を持たせることができる。

【0525】

なお、連続演出のうち、所定タイミング(例えば、連続演出の1遊技目)でのみ第2表示態様(例、チャンスアップ：赤文字)が表示され得るように構成しておけば、予告については、所定タイミングのみに集中することができ、それ以外の遊技では連続演出の内容に集中することができる。

【0526】

10

20

30

40

50

(構成 1 3)

第 1 演出状態において実行され得る第 1 演出種の 1 の予告（例えば、ステップアップ予告）及び第 2 演出種の 1 の予告（例えば、セリフ予告）は、所定の停止ボタン（例えば、第 2 停止ボタン）の操作によって表示がキャンセルされない。
【0 5 2 7】

つまり、スタートレバーの操作や第 1 停止ボタンの操作により表示が開始されたステップアップ予告やセリフ予告が、第 2 停止ボタンの操作があった際にキャンセルされずに進行する。

【0 5 2 8】

(構成 1 4)

第 1 演出状態において実行され得る第 1 演出種の 1 の予告又は第 2 演出種の 1 の予告の表示は、第 3 停止ボタンの操作があった際には、スタートレバーの操作や第 1 停止ボタンの操作により開始された表示がキャンセルされ、第 3 停止ボタンの操作による表示が開始され、

遊技待機状態に移行した場合には待機画面が表示され、

第 3 停止ボタンの操作による表示は、新たなベット操作やスタートレバーの操作（次遊技の開始）があった際若しくは待機画面に移行することにより消去されるように構成される。

【0 5 2 9】

(構成 1 5)

第 2 演出状態（連続演出）において第 2 演出種の 1 の予告が表示された場合には、

第 3 停止ボタンの操作がされた際であっても当該 1 の予告が表示は消去されず、

遊技待機状態に移行した場合には待機画面が表示され、

当該 1 の予告が表示は、新たなベット操作やスタートレバーの操作（次遊技の開始）があった際若しくは待機画面に移行することにより消去されるように構成される。

【0 5 3 0】

このように、連続演出中においてセリフ予告が表示された際に、第 3 停止ボタンが操作され、セリフ予告が最後まで表示されても表示自体は消去されずに表示され続ける。一方、新たなベット操作やスタートレバーの操作があった際、もしくは待機画面に移行することによりセリフ予告の表示が消去されるように構成されている。また、連続演出の表示も消去される。

【0 5 3 1】

(構成 1 6)

第 1 演出状態において遊技が開始され、第 1 演出種のうちの 1 の予告の表示が開始される場合の第 1 予告表示開始タイミングと、

第 1 演出状態において遊技が開始され、第 2 演出種のうちの 1 の予告の表示が開始される場合の第 2 予告表示開始タイミングとが、

略同じ（例：1 秒以内）であるように構成されている。

【0 5 3 2】

つまり、通常演出時（第 1 演出状態）では、スタートレバーの操作から 1 秒程度でステップアップ予告（第 1 演出種のうちの 1 の予告）が開始され、セリフ予告（第 2 演出種のうちの 1 の予告）もスタートレバーの操作から 1 秒程度で開始されるように構成されている。

【0 5 3 3】

なお、第 1 予告表示開始タイミングと第 2 予告表示開始タイミングはほぼ同じでなく、異なってもよく、第 1 予告表示開始タイミングの方が早くなるように構成してもよいし、第 2 予告表示開始タイミングの方が早くなるように構成してもよい。

【0 5 3 4】

なお、ステップアップ予告（第 1 演出種のうちの 1 の予告）とセリフ予告（第 2 演出種のうちの 1 の予告）は、一の遊技において必ず双方が表示されなければならないわけでは

10

20

30

40

50

ない。

【0535】

(構成17)

第1演出状態において遊技が開始され、第1演出種のうちの1の予告又は第2演出種のうちの1の予告の表示が開始される場合の第1予告表示開始タイミングと、

第2演出状態において遊技が開始され、第2演出種のうちの1の予告の表示が開始される場合の第2予告表示開始タイミングとが、

略同じ(例：1秒以内)であるように構成されている。

【0536】

つまり、通常演出時(第1演出状態)では、スタートレバーの操作から1秒程度でステップアップ予告(第1演出種のうちの1の予告)やセリフ予告(第2演出種のうちの1の予告)が開始され、連続演出中(第2演出状態)にも、スタートレバーの操作から1秒程度でセリフ予告(第2演出種のうちの1の予告)が開始されるように構成されている。

【0537】

なお、第1予告表示開始タイミングと第2予告表示開始タイミングはほぼ同じでなく、異なってもよく、第1予告表示開始タイミングの方が早くなるように構成してもよいし、第2予告表示開始タイミングの方が早くなるように構成してもよい。

【0538】

(構成18)

第1遊技状態(通常遊技状態)と第2遊技状態(AT中)とを備え、

第2遊技状態において、

第1演出状態では第1演出種及び第2演出種とが発生し得る一方、

第2演出状態では第2演出種のみ発生し得るよう構成されている。

【0539】

つまり、AT中(第2遊技状態)において、連続演出等が発生していない状態(第1演出状態)では、ステップアップ予告等(第1演出種)とセリフ予告等(第2演出種)が実行され得るが、連続演出中(第2演出状態)では、ステップアップ予告等(第1演出種)は実行されず、セリフ予告等(第2演出種)は実行され得る。

【0540】

(構成18-1)

第1遊技状態(通常遊技状態)と第2遊技状態(AT中)とを備え、

第1遊技状態と第2遊技状態のいずれの遊技状態においても、

第1演出状態では第1演出種及び第2演出種とが発生し得る一方、

第2演出状態では第2演出種のみ発生し得るよう構成されている。

【0541】

つまり、通常遊技状態(第1遊技状態)とAT中(第2遊技状態)のいずれであっても、連続演出等が発生していない状態(第1演出状態)では、ステップアップ予告等(第1演出種)とセリフ予告等(第2演出種)が実行され得るが、連続演出中(第2演出状態)では、ステップアップ予告等(第1演出種)は実行されず、セリフ予告等(第2演出種)は実行され得る。

【0542】

(構成19)

遊技者による操作部材の操作が可能な第3演出(例えば、ボタン演出)を備え、

第3演出が実行されずに第2演出状態(例えば、連続演出)となる場合と第3演出が実行されて第2演出状態となる場合とがあり、

第3演出が実行されて第2演出状態となった場合は、第3演出が実行されずに第2演出状態となった場合よりも、第2演出状態において第2演出種の1の予告(セリフ予告)が第2表示態様(例えば、緑文字、赤文字)にて表示される割合が高くなるよう構成されている。

【0543】

つまり、遊技者がボタン操作可能なボタン演出があり、ボタン演出なしで連続演出へ移行した場合よりも、ボタン演出ありで連続演出へ移行した場合の方が、連続演出においてセリフ予告が緑セリフや赤セリフで表示される割合が高くなるよう構成されている。

【0544】

このように構成することで、第2演出状態（連続演出）へ発展する前にボタン演出があるか否かについて注目するようになる。

【0545】

（構成20）

所定のエラー（例えば、扉開放エラー）が発生した場合、表示装置（例えば、液晶表示装置）にエラーの発生を示すエラー表示が行われ、

エラー表示は、第1演出種の1の予告（例えば、ステップアップ予告）と重複し得ない構成である。

【0546】

なお、エラー表示が、第1演出種の1の予告（例えば、ステップアップ予告）と重複する構成であってもよい。

【0547】

また、エラー表示は、第1演出状態（通常ステージで連続演出等が発生していない状態）において実行され得る第2演出種の1の予告（例えば、セリフ予告）とは重複し得るが、第2演出状態（連続演出中）において実行され得る第2演出種の1の予告（例えば、セリフ予告）とは重複し得ない構成であってもよい。

【0548】

（構成21）

第2演出種の1の予告（例えば、セリフ予告）において音声出力されるよう構成されており、

所定のエラー（例えば、扉開放エラー）が発生した場合、エラーの発生を示すエラー音出力され、

エラー音の出力中は、第2演出種の1の予告（例えば、セリフ予告）の音声は出力されない又は音量0で出力されるよう構成される。

【0549】

（構成21変更例）

第1演出種の1の予告（例えば、ステップアップ予告）において音声出力されるよう構成されており、

所定のエラー（例えば、扉開放エラー）が発生した場合、エラーの発生を示すエラー音出力され、

エラー音の出力中は、第1演出種の1の予告（例えば、ステップアップ予告）の音声は出力されない又は音量0で出力されるよう構成される。

【0550】

このように、エラー音と予告の音声重複する場合には、遊技者やホール店員がエラー音をしやすいように構成されている。

【0551】

（構成22）

第1演出状態において実行され得る第1演出種のある予告の表示態様の種類と、第3演出状態において実行され得る第2演出種のある予告の表示態様の種類とが異なるよう構成されている。

【0552】

具体的には、通常ステージで連続演出等が発生していない状態（第1演出状態）で実行され得るステップアップ予告（第1演出種のある予告）の表示態様は、期待度が低い方から順に、青色<黄色<緑色<赤色の4パターンで表示され得るが、前兆中（第3演出状態）において実行され得る小物の色の変化し得る小物予告（第2演出種のある予告）の表示態様は、期待度が低い方から順に、白色<青色<黄色<緑色<橙色<赤色<紫色の7パタ

10

20

30

40

50

ーンで表示され得るよう構成されている。

【0553】

なお、通常ステージで連続演出等が発生していない状態（第1演出状態）で実行され得る小物予告等（第2演出種のある予告）では、通常ステージで連続演出等が発生していない状態（第1演出状態）で実行され得るステップアップ予告（第1演出種のある予告）の表示態様と同様に、青色<黄色<緑色<赤色の4パターンが備えられていてもよい。

【0554】

このように、演出状態によって異なる表示パターンを備えることで、前兆中のチャンス中等に遊技者の興味を維持させやすくすることができる。

【0555】

<本実施形態における遊技機の仕様1>

本実施形態における遊技機の仕様1（以下、仕様1と称す）として、図20に示すようなリール配列となっている。図20の第1回胴は左リール8aに相当し、第2回胴は中リール8bに相当し、第3回胴は右リール8cに相当する。図20に示す通り、仕様1のリールに描かれている図柄は、「赤セブン」、「バー」、「月A」、「月B」、「リプレイ」、「チェリー」、「ラクダ」、「blankA」、「blankB」、「blankC」の10種類ある。

【0556】

仕様1の表示窓からは縦3×横3の9図柄が視認可能となっており、有効ラインは、左リール8aにおいては上段であり、中リール8bにおいては中段であり、右リール8cにおいては中段であり、屈曲の1ラインとなっている。

【0557】

図21～図24は図柄の組合せを示しており、規定数3枚のときはCBが作動していないときの規定数であり、規定数2枚のときはCBが作動しているときの規定数である。図21～図24の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」の欄の「2種BB」とはMBのことであり、「再遊技」とはリプレイのことであり、「入賞」とは小役のことである。

【0558】

図25は、ボーナスに係る条件装置一覧表である。例えば、ボーナス条件装置番号「1」の条件装置「2種BB-A条件装置」は構成要素「2種BB01」から構成されており、「2種BB01」は、図21の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「2種BB01作動図柄」と対応しており、より具体的には「月A-リプレイ-赤セブン」、「月A-リプレイ-バー」、「月A-リプレイ-ラクダ」、「月B-リプレイ-赤セブン」、「月B-リプレイ-バー」、「月B-リプレイ-ラクダ」の6個の図柄組合せが対応している。

【0559】

図26～図28は、入賞、又は再遊技に係る条件装置一覧表である。「入賞再遊技」の項目は、条件装置番号が記載されており、「条件装置」の項目は、条件装置名称が記載されており、「通称」の項目は、条件装置の通称が記載されており、「構成要素」の項目は、条件装置を構成する図柄組合せが記載されており、「制御関連」の項目は、遊技状態毎の停止操作順番と入賞可能な図柄組合せが記載されている。

【0560】

例えば、条件装置番号「1」の条件装置「再遊技-A条件装置」は構成要素「再遊技01、05～06」から構成されており、「再遊技01」は、図21の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「再遊技01作動図柄」と対応しており、より具体的には「月A-リプレイ-リプレイ」、「月B-リプレイ-リプレイ」の2個の図柄組合せが対応している。また、「再遊技05」は、図21の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「再遊技05作動図柄」と対応しており、より具体的には「リプレイ-赤セブン-赤セブン」の1個の図柄組合せが対応している。また、「再遊技06」は、図21の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「再遊技06作動図柄」と対応しており、より具体的には「リプレイ-バー-赤セブン」、「リプレイ-blankA-赤

10

20

30

40

50

セブン」、「リブレイブランクBー赤セブン」の3個の図柄組合せが対応している。さらに、右リール8cに対応する右ストップスイッチ13c以外が最初に停止操作されると再遊技01が停止表示され、右リール8cに対応する右ストップスイッチ13cが最初に停止操作されると停止受付位置に応じて再遊技01、再遊技05、再遊技06の何れかが停止表示されることが記載されている。

【0561】

また、例えば、条件装置番号「15」の条件装置「入賞ーA9条件装置」は構成要素「入賞03～04、07～08、11～12、15～16、19、56」から構成されており、「入賞03」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞03入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月Aーラクダーリブレイ」、「月Bーラクダーリブレイ」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞04」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞04入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月Aー赤セブンー月A」、「月Aーバーー月A」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞04」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞04入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月Aー赤セブンー月A」、「月Aーバーー月A」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞07」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞07入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月AーブランクAー月B」、「月AーブランクBー月B」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞08」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞08入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月Bー赤セブンー月A」、「月Bーバーー月A」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞11」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞11入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月BーブランクAー月B」、「月BーブランクBー月B」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞12」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞12入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月Aー赤セブンーブランクC」、「月AーバーーブランクC」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞15」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞15入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月AーブランクAーブランクA」、「月AーブランクBーブランクA」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞16」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞16入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月Bー赤セブンーブランクC」、「月BーバーーブランクC」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞19」は、図22の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞19入賞図柄」と対応しており、より具体的には「月BーブランクAーブランクA」、「月BーブランクBーブランクA」の2個の図柄組合せが対応している。また、「入賞56」は、図20の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞56入賞図柄」と対応しており、より具体的には「赤セブンーリブレイーリブレイ」、「チェリーーリブレイーリブレイ」の2個の図柄組合せが対応している。さらに、右リール8cに対応する右ストップスイッチ13cが最初に停止操作され、左リール8aに対応する左ストップスイッチ13aが2番目に停止操作され、中リール8bに対応する中ストップスイッチ13bが3番目に停止操作されると入賞03が停止表示され、右リール8cに対応する右ストップスイッチ13cが最初に停止操作され、中リール8bに対応する中ストップスイッチ13bが2番目に停止操作され、左リール8aに対応する左ストップスイッチ13aが3番目に停止操作されると入賞56が停止表示され、これ以外の停止順番で停止操作されると停止受付位置に応じて1／2で入賞04、07、08又は11が停止表示され、1／2で小役を取りこぼすことが記載されている。換言すれば、各リールのそれぞれの停止受付位置をランダムとした場合（いわゆる適当打ち、フリー打ちと称される打ち方をした場合）、3番目に操作されるストップスイッチの押下タイミングに対応した停止受付位置に応じて1／2の確率で入賞04、07、08又は11のいずれかに対応した図柄組合せが停止表示されて小役が入賞することとなり、1／2の確率で「入

10

20

30

40

50

賞－A 9 条件装置」のどの構成要素に対応した図柄組合せも停止表示されずに、小役の取りこぼしが発生することが記載されている。

【0562】

図29～図31は、非RT状態における内部抽せんデータとなっている。図中の「R1」～「R6」は「設定値1」～「設定値6」にそれぞれ対応している。また、例えば図29のR1における2種BB－Aに対応する位置に「3240」と数値があるが、これはR1における2種BB－Aの置数であり、全体の置数が65536であるため、R1における2種BB－Aの当せん確率は $3240 / 65536$ となることを示している。また、図29～図31は条件装置毎に分けた内部抽せんデータであるため、「2種BB－A」から「入賞Q」までの置数を足しても65536にはならない。これは、「2種BB－A」～「2種BB－I」が他の条件装置と重複しているためである。なお、「再遊技－A」～「入賞Q」までの置数を合計した置数である「64788」と図示していない「はずれ」の置数である「748」を合計すると「65536」となる。

10

【0563】

図32は、RTの開始条件と終了条件が表された図である。例えば、RWM初期化後は「非RT」状態に移行し、「非RT」状態では、「2種BB－A条件装置」～「2種BB－E条件装置」が作動したときにRT1に移行することが記されている。換言すると非RT中に2種BB－A、2種BB－B、2種BB－C、2種BB－D、2種BB－Eの何れかが当せんするとRT1に移行する。

20

【0564】

2種BB－A～Fの作動図柄が表示されたときは、11枚を超える払い出しで2種BB－A～Fが終了し、非RT状態に移行する。また、2種BB－Gの作動図柄が表示されたときは、7枚を超える払い出しで2種BB－Gが終了し、非RT状態に移行する。また、2種BB－H、Iの作動図柄が表示されたときは、1枚を超える払い出しで2種BB－H、Iが終了し、非RT状態に移行する。また、2種BB－A～IはPB＝1役であり、停止タイミングに関わらず停止表示可能になっている。

【0565】

仕様1では、図29に示す通り、非RT中の2種BBの当せん置数が36620であり、非RTの滞在遊技数は平均で2ゲーム程度となっている。そして各2種BBのうちRT1に移行する2種BB－A～Eの当せん置数が17820であり、RT1に滞在する可能性が高くなっている。

30

【0566】

図33～図32はRT1状態における内部抽せんデータとなっている。各項目の説明は図29～図31と同様のため省略する。

【0567】

仕様1のメイン遊技状態の遷移について図36を基に説明する。

【0568】

RWMが初期化された後は、メイン遊技状態番号＝0に移行する。メイン遊技状態＝0は、通常区間と対応しており、有利区間移行抽せんに当選した場合は、メイン遊技状態番号＝1、メイン遊技状態番号＝2、メイン遊技状態番号＝3、又はメイン遊技状態番号＝4の何れかに移行する。

40

【0569】

メイン遊技状態番号＝1は、仕様1において、押し順ベル当せん時に遊技者に有利な操作態様を報知するAT状態であるAC、このACとは異なるAT状態であるSAC、又はACおよびSACとは異なるAT状態であるBB（所謂サブボーナス）へ移行するか否かの期待感を演出する前兆状態となっている。メイン遊技状態番号＝1では、事前に決定されている移行先（メイン遊技状態＝0、メイン遊技状態番号＝2、メイン遊技状態番号＝3、又はメイン遊技状態番号＝5の何れか）に移行する。

【0570】

メイン遊技状態番号＝2は、ACに対応する遊技状態となっている。ACでは、押し順

50

ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利な押し順を報知する遊技状態となっている。ACはゲーム数で管理されており、初期ゲーム数としてAC遊技カウンタに30がセットされる。そして遊技毎に減算し、AC遊技カウンタの値が0となった場合は、AC中の遊技状態抽せん結果に応じてメイン遊技状態＝1、メイン遊技状態番号＝3、又はメイン遊技状態番号＝5の何れかに移行する。なお、AC中は内部抽せん結果に応じてAC遊技カウンタの値が増加すること（所謂ゲーム数上乘せ）もあり得る。

【0571】

メイン遊技状態番号＝3は、SACに対応する遊技状態となっている。SACでは、ACと同様に押し順ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利な押し順を報知する遊技状態となっている。SACはゲーム数で管理されており、初期ゲーム数としてAC遊技カウンタセット抽せんで当選した値がAC遊技カウンタにセットされる。そして遊技毎に減算し、AC遊技カウンタの値が0となった場合は、SAC中の遊技状態抽せん結果に応じてメイン遊技状態＝1、メイン遊技状態番号＝2、又はメイン遊技状態番号＝5の何れかに移行する。なお、SAC中は内部抽せん結果に応じてAC遊技カウンタの値が増加すること（所謂ゲーム数上乘せ）もあり得る。また、AC遊技カウンタセット抽せんでは、期待値として30以上の値が当選する可能性が高いためSACはACよりも有利な状態であるといえる。

【0572】

メイン遊技状態番号＝4は、BB（所謂サブボーナス）に対応する遊技状態となっている。BBでは、AC、及びSACと同様に押し順ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利な押し順を報知する遊技状態となっている。BBは払出枚数で管理されており、初期枚数としてBB枚数カウンタに100がセットされる。そして遊技の結果、入賞毎に払出枚数分を減算し、BB枚数カウンタの値が0となった場合は、BB中の遊技状態抽せん結果に応じてメイン遊技状態＝0、メイン遊技状態番号＝2、又はメイン遊技状態番号＝3の何れかに移行する。なお、BB中は内部抽せん結果に応じてBB枚数カウンタの値が増加すること（所謂枚数上乘せ）もあり得る。

【0573】

メイン遊技状態番号＝5は、エンディングに対応する遊技状態となっている。エンディングでは、AC、SAC、及びBBと同様に押し順ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利な押し順を報知する遊技状態となっている。エンディングはMYカウンタが2200、又は有利区間クリアカウンタが50の何れかのときに移行し、MYカウンタが2400以上、又は有利区間クリアカウンタが0となるまで継続する。そしてMYカウンタが2400以上、又は有利区間クリアカウンタが0となった場合は、メイン遊技状態＝0に移行する。

【0574】

メイン遊技状態番号＝6は、確定画面に対応する遊技状態となっている。確定画面では、押し順ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利な押し順を報知する場合と報知しない場合がある遊技状態となっている。これは、確定画面で判定フラグが0のときは入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利な押し順を報知し、確定画面で判定フラグが1のときは入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選しても遊技者に有利な押し順を報知しないことを意味する。また、確定画面が終了した後はBBが開始するため、確定画面ではBBフラグに1が記憶されている。

【0575】

確定画面では再遊技－A～Fの何れかが当選したときに液晶に「右から赤セブンを狙え」と表示させ、且つ指示モニタに「7」と表示させ、第1停止を右リール8cの赤セブン図柄（図20の第3回胴の4番）、第2停止を中リール8bの赤セブン図柄（図20の第2回胴の4番）、第3停止を左リール8aの赤セブン図柄（図20の第1回胴の4番）を狙って操作させることを報知する。再遊技－A～Fの何れかが当選したときに、指示された通り操作された場合は、再遊技05作動図柄（図21の45番）が有効ラインに表示され赤セブン図柄が中段一直線に停止表示されることとなる。そして、再遊技05作動図柄が停止表示された場合は、判定フラグに0を記憶し、BBフラグに0を記憶し、メイン遊技状態番号に4を記憶する。なお、判定フラグは初期値として0が記憶されており、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当選して、指示通り停止操作されて再遊技05作動図柄が停止表示された場合も、判定フラグに0を記憶するため、指示通り停止操作されたときは判定フラグが1になることはない。

10

【0576】

また、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが当選したときに液晶に「右から赤セブンを狙え」と表示させ、且つ指示モニタに「7」と表示させたときに、遊技者が指示通りに停止操作しなかった場合（押し順を指示通りに停止操作しなかった場合や、押し順は指示通りに停止操作したが赤セブン図柄を狙わなかった場合）は、再遊技05作動図柄は停止表示せず、判定フラグに1を記憶する。

【0577】

判定フラグに1が記憶されている場合（遊技者が指示通りに停止操作しなかった場合）は、メイン遊技状態番号＝6（確定画面）のままとなり、メイン遊技状態番号＝4（BB）へは移行しない。このため、再度、再遊技－A～Fの何れかが当せんして再遊技05作動図柄が停止表示するまで、メイン遊技状態番号＝6（確定画面）が維持されることとなる。なお、確定画面で2回目以降の再遊技－A～Fの何れかが当せんしたときにも液晶に「右から赤セブンを狙え」と表示させ、且つ指示モニタに「7」と表示させるようにしている。

20

【0578】

このように構成することで、遊技者の目押し技量に応じてBBを開始できるため、BBが当選した後にBB図柄を狙わせるという遊技性を提供することが可能となる。

【0579】

さらに判定フラグに1が記憶されている間は、押し順ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選しても有利な操作態様を報知しないため、遊技者は1／6の確率でしか高目の小役を取得することができなくなる。このため、確定画面において判定フラグに1が記憶されている場合と、確定画面において判定フラグに0が記憶されている場合とを比較すると、確定画面において判定フラグに1が記憶されている場合の方が遊技者に不利な状態といえる。なお、押し順ベル群に当選したときの押し順ナビ率を100%未満にすればよく、押し順ナビ率が0%である必要はない。例えば、出玉率が100%（現状維持）となるような押し順ナビ率に設定してもよい。

30

【0580】

このように構成することで、確定画面で再遊技－A～Fが当せんしたときに遊技者の技量に応じてその後有利不利を生じさせることができ、目押しによる遊技の興趣を向上させることが可能となる。

40

【0581】

また、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当せんしたときに再遊技05作動図柄が表示された後の遊技状態（メイン遊技状態番号＝4（BB））と、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当選したときに再遊技05作動図柄が表示されなかった後の遊技状態（メイン遊技状態番号＝6（確定画面））と、を比較すると、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当選したときに再遊技05作動図柄が表示されなかった後の遊技状態（メイン遊技状態番号＝6（確定画面））の方が押し順ベル群である入賞A1～A1

50

2、入賞B 1～B 1 2、入賞C 1～C 1 2、入賞D 1～D 1 2、入賞E 1～E 1 2、入賞F 1～F 1 2が当選しても有利な操作態様を報知しないため、遊技者に不利な状態といえる。なお、押し順ベル群に当選したときの押し順ナビ率を100%未満にすればよいため、押し順ナビ率が0%である必要はない。

【0582】

このように構成することで、確定画面で再遊技－A～Fが当せんしたときに遊技者の技量に応じてその後有利不利を生じさせることができ、目押しによる遊技の興趣を向上させることが可能となる。

【0583】

また、判定フラグに1が記憶されている間は、押し順ベル群である入賞A 1～A 1 2、入賞B 1～B 1 2、入賞C 1～C 1 2、入賞D 1～D 1 2、入賞E 1～E 1 2、入賞F 1～F 1 2が当選すると有利な操作態様を報知するが、再度、再遊技－A～Fが当せんして再遊技05作動図柄が停止表示した後に開始するBB中において実行可能な所定の抽せん（押し順ナビ率抽せん、セットストック抽せん、ループ率抽せん、又はゲーム数上乘せ抽せん等の遊技者に有利な抽せん）の抽せんレベルを最も低いレベルに設定し、BB中の有利度を最も低くする態様であってもよい。抽せんレベルとは、所定の抽せんを実行した時に遊技者に有利な結果となる確率が異なるものであり、最も低いレベルとは所定の抽せんを実行した時に遊技者に有利な結果となる確率が最も低いものである。また、このとき判定フラグに0が記憶されている間は押し順ベル群である入賞A 1～A 1 2、入賞B 1～B 1 2、入賞C 1～C 1 2、入賞D 1～D 1 2、入賞E 1～E 1 2、入賞F 1～F 1 2が当選すると有利な操作態様を報知し、再度、再遊技－A～Fが当せんして再遊技05作動図柄が停止表示した後に開始するBB中において実行可能な所定の抽せんの抽せんレベルを冷遇しない（わざと最も低いレベルの抽せんレベルをセットしない）ようにしている。このため、確定画面において判定フラグに1が記憶されている場合と、確定画面において判定フラグに0が記憶されている場合とを比較すると、確定画面において判定フラグに1が記憶されている場合の方が遊技者に不利な状態といえる。

【0584】

なお、この場合は、押し順ベル群である入賞A 1～A 1 2、入賞B 1～B 1 2、入賞C 1～C 1 2、入賞D 1～D 1 2、入賞E 1～E 1 2、入賞F 1～F 1 2が当せんしても有利な操作態様を報知しない態様であってもよい。また、確定画面で判定フラグに0が記憶されている状況で押し順ベル群が当選したときに有利な操作態様を報知し、その後判定フラグに1が記憶されている状況でも押し順ベル群が当選したときに有利な操作態様を報知する場合は、遊技者がわざと確定画面を延命して押し順ベルを取得する可能性があるので、確定画面開始から10ゲーム間は判定フラグに関わらず押し順ベル群が当せんしたときに有利な操作態様を報知するが、確定画面開始から11ゲーム以降は判定フラグに関わらず押し順ベル群が当せんしたときに有利な操作態様を報知しない態様であってもよい。この10ゲームの目安としては再遊技－A～Fの何れかが少なくとも1回以上当せんする確率を約80%として設定しているが、長すぎなければ任意に設定可能である。

【0585】

このように構成することで、確定画面で再遊技－A～Fが当せんしたときに遊技者の技量に応じてその後有利不利を生じさせることができ、目押しによる遊技の興趣を向上させることが可能となる。

【0586】

また、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当せんしたときに再遊技05作動図柄が表示された後の遊技状態（メイン遊技状態番号＝4（BB））と、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当選したときに再遊技05作動図柄が表示されなかった後の遊技状態（メイン遊技状態番号＝6（確定画面））と、を比較すると、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当選したときに再遊技05作動図柄が表示されなかった後の遊技状態（メイン遊技状態番号＝6（確定画面））の方が、再度、再遊技－A～Fが当せんして再遊技05作動図柄が停止表示した後に開始するBB中において実行可能な所定の抽せ

ん（押し順ナビ率抽せん、セットストック抽せん、ループ率抽せん、又はゲーム数上乘せ抽せん等の遊技者に有利な抽せん）の抽せんレベルを最も低いレベルに設定し、BB中の有利度を最も低くする態様であってもよい。この場合、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当選したときに再遊技05作動図柄が表示されなかった後の遊技状態の方が、確定画面で再遊技－A～Fの何れかが初めて当せんしたときに再遊技05作動図柄が表示された後の遊技状態よりも遊技者に不利な状態といえる。なお、この態様の場合も押し順ベル群が当せんしたときは、遊技者に有利な操作態様を報知してもよいし、報知しなくてもよい。また、有利な操作態様を報知する場合も10ゲーム程度で報知を終了するよう構成してもよい。

【0587】

このように構成することで、確定画面で再遊技－A～Fが当せんしたときに遊技者の技量に応じてその後有利不利を生じさせることができ、目押しによる遊技の興趣を向上させることが可能となる。

【0588】

また、再遊技－A～Fの何れもRT移行の契機とはならないとともに、その抽せん結果（当せん結果）が次遊技以降に持ち越すことのできない条件装置であり、再遊技05作動図柄が停止表示されたときもRT状態自体は移行することはない（換言すれば、再遊技05作動図柄が停止表示されたときもRT状態が維持されるため、再遊技に係る作動確率（当せん確率）も、入賞A1～A12等の入賞に係る作動確率も変わらない）。なお、赤セブンが一直線に表示される条件装置は再遊技に限らず入賞に係る条件装置でもよく、その場合は赤セブンが揃わなくても他の入賞に係る図柄組合せが停止表示するようなPB＝1の条件装置が適している。また、入賞に係る条件装置で赤セブンを一直線に表示させる場合の払出数はできるだけ少ない払出数がよく1枚が適している。これは、赤セブンが一直線に揃う条件装置を現実的に当選しやすい置数にしないと確定画面で赤セブンを揃えられなくなり、払出数を多く設定（例えば15枚）してしまうと赤セブンを一直線に揃えたくないときも不要な払出が生じてしまい出玉の自由度が制限されてしまうためである。

【0589】

このように構成することで、ボーナス条件装置やRT移行契機の条件装置を用いることなく、遊技者の技量に応じて有利不利を生じさせることができるため、遊技状態を変えることなく目押しによる遊技性を高めることが可能となる。とりわけ、ボーナス内部中で遊技をさせる仕様においては、ボーナス条件装置やRT移行契機の条件装置を用いたゲーム性はできないため目押しによる新しいゲーム性を提供することが可能となる。

【0590】

また、再遊技－A～Fの何れかが当せんしたときに停止表示可能な再遊技05作動図柄は右リールを最初に停止させること（右中左の順番、又は右左中の順番で停止操作させること）で停止表示可能となっているが、この右リールを最初に停止させる操作態様は、左中右の操作順番、左右中の操作順番、中左右の操作順番、中右左の操作順番、右左中の操作順番、右中左の操作順番の6種類の操作順番の中で、通常時のベースが最も低くならない操作順番となっている。

【0591】

ここで、通常時のベースとは、規定数3（投入数3）における払出数の期待値となっている。図26～図28、図33～図35によると、設定1のRT1における左中右の操作順番の規定数3における払出数の期待値として、例えば、2種BB－Aの期待枚数（作動図柄表示時の払出数）が0、置数が0であるため、期待値は0となり、再遊技－Aの期待枚数が3（再遊技は、規定数3のため払出数を3として計算する）、置数が864であるため、期待値は0.03955となり、入賞－A1の期待枚数が12（左中右が正解押し順のため）、置数が900であるため、期待値は0.16479となり、はずれの期待枚数が0、置数が452であるため、期待値は0となる。このような計算で各条件装置の期待値を算出し、全ての条件装置の期待値を合算すると1.66857となり、この期待値の合算に規定数である3で除算すると、左中右の操作順番の規定数3における払出数の期

10

20

30

40

50

待値は 0.55619 (但し、入賞 - G は 2 枚取得、入賞 - M は 1 枚取得で期待値を計算している) であることが導かれる。

【0592】

また、設定 1 の R T 1 における左右中の操作順番、中左右の操作順番、又は中右左の操作順番の規定数 3 における払出数の期待値は、設定 1 の R T 1 における左中右の操作順番の規定数 3 における払出数の期待値と同一であり、0.55619 となっている。

【0593】

また、設定 1 の R T 1 における右左中の操作順番の規定数 3 における払出数の期待値として、例えば、2 種 B B - A の期待枚数 (作動図柄表示時の払出数) が 0、置数が 0 であるため、期待値は 0 となり、再遊技 - A の期待枚数が 3 (再遊技は、規定数 3 のため払出数を 3 として計算する)、置数が 864 であるため、期待値は 0.03955 となり、入賞 - A 1 の期待枚数が 0.5 (左中右は不正解押し順であり、1/2 で 1 枚取得のため)、置数が 900 であるため、期待値は 0.00686 となり、入賞 - A 1 1 の期待枚数が 1 (右中左で 1 枚取得のため)、置数が 900 であるため、期待値は 0.01373 となり、はずれの期待枚数が 0、置数が 452 であるため、期待値は 0 となる。このような計算で各条件装置の期待値を算出し、全ての条件装置の期待値を合算すると 1.69375 となり、この期待値の合算に規定数である 3 で除算すると、左中右の操作順番の規定数 3 における払出数の期待値は 0.56458 (但し、入賞 - G は 2 枚取得、入賞 - M は 1 枚取得で期待値を計算している) であることが導かれる。

【0594】

また、設定 1 の R T 1 における右中左の操作順番の規定数 3 における払出数の期待値は、設定 1 の R T 1 における右左中の操作順番の規定数 3 における払出数の期待値と同一であり、0.56458 となっている。

【0595】

このように、右リールを最初に停止させる操作順番 (右左中、右中左) の通常時のベースはその他の操作順番 (左中右、左右中、中左右、中右左) よりも通常時のベースが高くなっている。そして、右リールを最初に停止させる操作順番では、A T 当せん期待度をその他の操作順番よりも低くすることで総合的な出玉率をその他の操作順番よりも低くしている。このように、右リールを最初に停止させる操作順番は通常時のベースはその他の操作順番よりも高いが、結果的に不利な操作順番となっているため、通常時において遊技者は右リールを最初に停止させる操作順番で操作しにくい状況となっている。換言すると、右リールを最初に停止させる操作順番はペナルティ押し順となっており、遊技者に事前に周知させることで操作させないようにしている。このような構成により、遊技者が右リールを最初に停止させる操作順番で操作する可能性を下げること、通常時に再遊技 - A ~ F が当選しても再遊技 05 作動図柄が表示されにくくなり、仕様上意図しない赤セブン図柄が揃うことによる遊技者に過度な期待感を創出させること防ぐことができる。

【0596】

<本発明に係る試験信号の出力に関する説明>

本発明の遊技機は、遊技機試験のためにスタートスイッチ 12 の操作受け付けで内部抽せん処理を実行し、回胴回転開始処理を実行する前までに試験信号を出力するための処理を実行する。

【0597】

遊技機は遊技者にとって最適な打ち方を指示する第 1 の試験信号 (I F 2 試験信号とも称す) と、遊技者にとって通常時のベースが最低となる打ち方を指示する第 2 の試験信号 (I F 3 試験信号とも称す) と、をそれぞれ出力するための処理を実行する。

【0598】

I F 2 試験信号を出力するための処理として、内部抽せん処理の結果に応じて R O M に記憶されているテーブルデータから出力するデータ (操作順番、左リール 8 a 停止受付位置、中リール 8 b 停止受付位置、右リール 8 c 停止受付位置) をセットする。例えば、図 28 の入賞 - G 条件装置が当選した場合、押し順はどの押し順でも小役取得率は変わらな

いが、右リール 8 c の「ブランク C」、「赤セブン」を目押ししないと、2 枚の払出は受けられず 1 枚の払出になってしまうため、I F 2 試験信号として指示する内容は、押し順はランダム、左リール 8 a は 3 番図柄で停止受付、中リール 8 b は 10 番図柄で停止受付、右リール 8 c は 2 番図柄で停止受付とする。この指示通りに操作されると、入賞 6 3 の図柄組合せ「リプレイ」－「チェリー」－「赤セブン」（図 24 参照）が停止表示され 2 枚役の払出を受けることが可能となる。

【0599】

また、ROM に記憶されているテーブルデータは、例えば、ROM アドレス「2 C 6 0 H」に記憶されている押し順情報である「0 0 H」、ROM アドレス「2 C 6 1 H」に記憶されている左リール 8 a の停止受付位置である「0 3 H」、ROM アドレス「2 C 6 2 H」に記憶されている中リール 8 b の停止受付位置である「0 A H」、ROM アドレス「2 C 6 3 H」に記憶されている右リール 8 c の停止受付位置である「0 2 H」となっており、I F 2 試験信号を出力するための処理としてテーブルデータから各情報を取得する。

【0600】

また例えば、A T 状態において図 26 の入賞－A 1 条件装置が当選した場合（指示モニタに指示番号を表示する場合）、停止受付位置はどの位置でも小役取得率は変わらないが、押し順は左中右の順番で操作されないと、1 2 枚の払出は受けられず 1 枚の払出、又は払出なしになってしまうため、I F 2 試験信号として指示する内容は、押し順は左中右の順番、左リール 8 a の停止受付位置はランダム、中リール 8 b の停止受付位置はランダム、右リール 8 c の停止受付位置はランダムとする。この指示通りに操作されると、入賞 0 3 の図柄組合せ「月 A」－「ラクダ」－「リプレイ」、又は「月 B」－「ラクダ」－「リプレイ」（図 22 参照）が停止表示され 1 2 枚役の払出を受けることが可能となる。なお、非 A T 状態における入賞－A 1 条件装置が当選した場合は、押し順も停止受付位置もランダムで I F 2 試験信号を出力する。

【0601】

また、ROM に記憶されているテーブルデータは、例えば、ROM アドレス「2 C 6 4 H」に記憶されている押し順情報である「0 1 H」、ROM アドレス「2 C 6 5 H」に記憶されている左リール 8 a の停止受付位置である「7 F H」、ROM アドレス「2 C 6 6 H」に記憶されている中リール 8 b の停止受付位置である「7 F H」、ROM アドレス「2 C 6 7 H」に記憶されている右リール 8 c の停止受付位置である「7 F H」となっており、I F 2 試験信号を出力するための処理としてテーブルデータから各情報を取得する。なお「7 F H」は停止受付位置が不問の場合に記憶されるデータであり、図柄数以上の値（14 H）であれば任意の値でよい。

【0602】

続いて、I F 3 試験信号を出力するための処理として、内部抽せん処理の結果に応じて ROM に記憶されているテーブルデータから出力するデータ（操作順番、左リール 8 a 停止受付位置、中リール 8 b 停止受付位置、右リール 8 c 停止受付位置）をセットする。例えば、上述した仕様 1 では右リール 8 c を最初に停止させる操作順番以外の操作順番が通常時のベースが最も低くなるため、I F 3 試験信号として指示する内容は、押し順は左中右の順番、左リール 8 a の停止受付位置はランダム、中リール 8 b の停止受付位置はランダム、右リール 8 c の停止受付位置はランダムとする。この指示通りに操作されると、通常時のベースが最も低い押し順で停止操作され、停止受付位置はランダムのため目押しが必要な条件装置が当選したときは、小役を高目で取得する場合と、小役を安目で取得する場合と、小役を取りこぼす場合と、が生じるようになる。

【0603】

また、ROM に記憶されているテーブルデータは、例えば、ROM アドレス「2 D 6 0 H」に記憶されている押し順情報である「0 1 H」、ROM アドレス「2 D 6 1 H」に記憶されている左リール 8 a の停止受付位置である「7 F H」、ROM アドレス「2 D 6 2 H」に記憶されている中リール 8 b の停止受付位置である「7 F H」、ROM アドレス「2 D 6 3 H」に記憶されている右リール 8 c の停止受付位置である「7 F H」となってお

10

20

30

40

50

り、I F 3 試験信号を出力するための処理としてテーブルデータから各情報を取得する。

【0604】

また例えば、A T 状態において図26の入賞－A 1条件装置が当選した場合（指示モニタに指示番号を表示する場合）、停止受付位置はどの位置でも小役取得率は変わらないが、押し順は左中右の順番で操作されないと、12枚の払出は受けられず1枚の払出、又は払出なしになってしまうため、I F 3 試験信号として指示する内容は、押し順は左中右の順番、左リール8 aの停止受付位置はランダム、中リール8 bの停止受付位置はランダム、右リール8 cの停止受付位置はランダムとする。この指示通りに操作されると、入賞03の図柄組合せ「月A」－「ラクダ」－「リプレイ」、又は「月B」－「ラクダ」－「リプレイ」（図22参照）が停止表示され12枚役の払出を受けることが可能となる。なお、非A T 状態における入賞－A 1条件装置が当選した場合は、押し順は左中右の順番、停止受付位置はランダムでI F 3 試験信号を出力する。

10

【0605】

また、ROMに記憶されているテーブルデータは、例えば、ROMアドレス「2D64H」に記憶されている押し順情報である「01H」、ROMアドレス「2D65H」に記憶されている左リール8 aの停止受付位置である「7FH」、ROMアドレス「2D66H」に記憶されている中リール8 bの停止受付位置である「7FH」、ROMアドレス「2D67H」に記憶されている右リール8 cの停止受付位置である「7FH」となっており、I F 3 試験信号を出力するための処理としてテーブルデータから各情報を取得する。なお「7FH」は停止受付位置が不問の場合に記憶されるデータであり、図柄数以上の値（14H）であれば任意の値でよい。

20

【0606】

また例えば、メイン遊技状態番号＝6（確定画面）において図26の再遊技－A 1条件装置が当選した場合（指示モニタに指示番号を表示する場合）、停止受付位置はどの位置でも小役取得率は変わらないが、押し順は右左中の順番で操作されないと、「赤セブン」図柄組合せが一直線に揃うことがないため、I F 3 試験信号として指示する内容は、押し順は右左中の順番、左リール8 aの停止受付位置はランダム、中リール8 bの停止受付位置はランダム、右リール8 cの停止受付位置はランダムとする。この指示通りに操作されると、再遊技05の図柄組合せ「リプレイ」－「赤セブン」－「赤セブン」（図21参照）が停止表示される可能性があり、「赤セブン」図柄組合せが一直線に揃うことが可能となる。なお、非A T 状態における再遊技－A 1条件装置が当選した場合は、押し順は左中右の順番、停止受付位置はランダムでI F 3 試験信号を出力する。

30

【0607】

また、ROMに記憶されているテーブルデータは、例えば、ROMアドレス「2E64H」に記憶されている押し順情報である「06H」、ROMアドレス「2E5H」に記憶されている左リール8 aの停止受付位置である「7FH」、ROMアドレス「2E66H」に記憶されている中リール8 bの停止受付位置である「7FH」、ROMアドレス「2E67H」に記憶されている右リール8 cの停止受付位置である「7FH」となっており、I F 3 試験信号を出力するための処理としてテーブルデータから各情報を取得する。なお「7FH」は停止受付位置が不問の場合に記憶されるデータであり、図柄数以上の値（20図柄の場合14H以上の値）であれば任意の値でよい。

40

【0608】

各データをセットした後は、操作順番、左リール8 a停止受付位置、中リール8 b停止受付位置、右リール8 c停止受付位置の順番でI F 2 試験信号を出力するための処理を実行した後、操作順番、左リール8 a停止受付位置、中リール8 b停止受付位置、右リール8 c停止受付位置の順番でI F 3 試験信号を出力するための処理を実行する。

【0609】

このように構成することで、I F 2 試験信号とI F 3 試験信号とを正確に試験用I F 基板に向けて送信することが可能となる。

【0610】

50

<本実施形態に適用可能な入賞演出、精算演出と投入演出の説明>

次に、本実施形態に適用可能な入賞演出、精算演出と投入演出の関係について説明する。

【0611】

以下に記載する本実施形態に適用可能な演出においては、押し順役などの小役入賞に基づく遊技メダルの払出処理に伴う入賞演出や、精算処理に伴う精算演出とベット操作に伴う投入演出の両方を同時に出力可能とすることで、精算が正常に行われなかった、投入が正常に行われなかったなどの誤った認識を防ぎ、遊技機として正常に機能していることを遊技者に認識させることを目的とする。

【0612】

本実施形態に適用可能な入賞演出、精算演出と投入演出に関連する構成に関して以下に説明する。

【0613】

<主制御手段>

主制御手段が有する主な処理は本実施形態等に記載した通りであるが、本実施形態の記載では省略した処理の詳細について以下に説明する。

【0614】

<遊技メダル投入時の処理>

遊技メダルが投入可能な状態になっている場合は、遊技メダルが投入されると、賭け枚数が上限に設定されていなければ、投入された枚数分の賭け設定（ベットとも称す）を行い、上限に設定されていればクレジットに投入された枚数分加算する。また、賭け枚数が上限に設定されておらず、クレジットに賭け設定が可能な枚数が貯留されていれば、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）の操作に応じて賭け設定を行う。ここで遊技メダルが投入されるとは、メダル投入口17に入れた遊技メダルがメダルセレクト34を正常に通過することと同意である。

なお、遊技メダルが賭け設定されている、又はクレジットに貯留されている状態で遊技を開始する前（必要な賭け枚数を設定後であってスタートレバーを操作する前）であれば精算スイッチが操作されると精算処理が可能となっている。

また主制御手段（主制御基板100）は遊技メダルが投入された場合にメダル投入コマンドを副制御手段（副制御基板1000、演出制御手段とも称す）へ送信し、ベットスイッチが操作された場合に賭け設定された枚数に応じた貯留投入コマンドを副制御手段へ送信する。主制御手段はクレジットに貯留（加算）された場合には、現在の貯留数を示す貯留数コマンドを副制御手段へ送信する。これらのコマンドに基づいて副制御手段では遊技メダルの投入音の出力などの投入演出が実行可能となっている。

【0615】

<入賞処理（払出処理）>

入賞処理（以下、払出処理とも称す）は、入賞判定処理により小役が入賞したと判定したときに、入賞した小役（停止表示した図柄組合せ）に応じて予め定められた遊技メダルを払い出す処理である。ここで遊技メダルを払い出すとは、クレジットの貯留が上限に達していなければクレジットに加算を行い、クレジットの貯留が上限に達している場合は、遊技メダルをホッパ44から払い出すことである。主制御手段は、入賞に基づく払い出し（クレジットの加算であっても、ホッパ44からの払い出しであっても）を開始する場合に払出開始コマンドを副制御手段に送信し、入賞に基づく払い出しを終了する際に払出終了コマンドを副制御手段に送信する。払出開始コマンド、払出終了コマンドに基づいて副制御手段は、遊技メダルの払出音の出力、バックランプ演出（BL演出とも称す）の実行などの入賞演出が実行可能となっている。なお払出開始コマンドは払い出す遊技メダルの枚数情報を含んで構成され、払出開始コマンド及び、払出終了コマンドは払い出しがない場合（ハズレ時、再遊技入賞時）にも送信される。ハズレ時、再遊技入賞時は払い出す遊技メダルの枚数情報を0枚として送信し、続いて払出終了コマンドを送信する。

【0616】

<精算処理>

遊技が行われていない状態で精算スイッチが操作されると、賭け設定されているベット数や、クレジットの貯留数に対応する数の遊技メダルをホッパ44から遊技者に払い出す（精算）処理を実行する。精算処理が開始されると主制御手段は副制御手段に精算開始コマンドを送信し、精算処理が終了すると主制御手段は副制御手段に精算終了コマンドを送信する。副制御手段は精算開始コマンド、精算終了コマンドに基づいて、精算音の出力などの精算演出が実行可能となっている。

【0617】

<副制御手段>

遊技の進行状況に応じて各種の演出が実行可能であり、役の抽選結果（内部抽せんの結果）に基づいて演出を実行したり、AT中は押し順ナビ演出を実行したり、投入演出、入賞演出、精算演出等を実行する。

【0618】

<投入演出>

遊技メダルが投入されたり、ベットスイッチが操作された際に実行される演出であり、主制御手段から送信されたメダル投入コマンド、貯留投入コマンドに基づいて投入音を出力する。主制御手段では、貯留投入コマンドとして、賭け設定された枚数に応じて、貯留投入コマンド（1枚）、貯留投入コマンド（2枚）、貯留投入コマンド（3枚）の何れかが設定され、設定された貯留投入コマンドが副制御手段へ送信される。貯留投入コマンド（1枚）を受信した時は、1枚ベットされたことを示す投入音Aを1度出力し（例えばダという音を出力）、1枚ベットされたことを遊技者に報知する。貯留投入コマンド（3枚）を受信した時は、投入音Aを3度出力し、3枚ベットされたことを遊技者に報知する。メダル投入コマンドを受信したときは、投入された遊技メダルが賭け設定されたなら、投入音Aを1度出力し、貯留されたなら1枚貯留されたことを示す投入音Bを1度出力し（例えばヂという音を出力）、遊技者にベット又は貯留されたことを報知する。

なお、貯留投入コマンド（3枚）を受信した時に、投入音Aを3度出力せずに、3枚ベットされたことを示す投入音Cを出力してもよいし、賭け設定された場合と、貯留された場合とで同じ音（例えば全ての状態で投入音Aを出力）を出力してもよい。また、通常時（非AT中）とAT中とで異なる音（投入音D）を出力してもよい。

【0619】

<入賞演出>

遊技メダルの払い出しが行われる際に実行される演出であり、払出開始コマンドと払出終了コマンドに基づいて実行され、遊技メダルが払い出されていることを示す払出音の出力及び、バックランプ演出が実行される。

【0620】

<払出音の出力>

遊技メダルの払出処理の実行中に出力される遊技メダルの払出音は互いに異なる音である払出音Aと払出音Bとがある。払出音Aは通常時（非AT中）に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払出が行われる際に出力される払出音である。払出音BはAT中に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出しが行われる際に出力される払出音である。正解押し順で操作しなかった場合に、不正解図柄組合せが停止して不利な払い出しが行われる場合があるが、その場合には払出音の出力は行われない。払出音Aは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第1の音（例えばヅという音）の出力を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第1特定時間（例えば1秒）の間第1の音の出力を繰り返して終了する払出音である。払出音Aは実際の払い出しが行われている期間（払出処理が行われる期間）より長い第1の払出音期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第1特定時間を加算した期間）に亘って音の出力を行うことで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくすることができる。また、払出音の出力を払い出しが行われている期間より長い第1の払出音期間に亘って出力することで、払出音の出力が行われている期間は払い出しが行われているように遊技者に認識させ、次

10

20

30

40

50

遊技の開始時期を遅らせることが期待できる結果、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。

【0621】

払出音Bは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第2の音（例えばデという音）の出力を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第2特定時間（例えば2秒）の間第2の音の出力を繰り返して終了する払出音である。すなわち、払出音Bは実際の払い出しが行われている期間より長い第2の払出音期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第2特定時間を加算した期間）に亘って音の出力を行っており、この第2の払出音期間は、払出音Aの第1の払出音期間よりも長い。このように、払出音Bは、払出音Aより長い期間に亘って払出音の出力を行うことで、より多くの遊技メダルが付与されているかのように認識させることができる。また、AT中に払出音Aと異なる払出音Bを出力することで通常とは異なる有利な状態であることを認識しやすくなることができる。

10

なお、払出終了コマンドを受信してから第1特定時間や第2特定時間経過まで払出音を出力したが、払出開始コマンドを受信したら、払出終了コマンドを契機にすることなく、払い出し開始から払い出し終了するまでにかかる時間（クレジットの加算と遊技メダルの払い出しで比べ長い方）に第1特定時間や第2特定時間を加えた時間だけ払出音の出力を行うようにしてもよい。また、通常時の払出音AとAT中の払出音Bとで払出音を異なるようにしたが、同じ払出音を出力するようにしてもよい。

【0622】

20

＜バックランプ演出＞

バックランプ演出には、互いに異なるバックランプ演出Aとバックランプ演出Bとがある。バックランプ演出Aは通常時（非AT中）に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払出が行われる際に出力されるバックランプ演出である。バックランプ演出BはAT中に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出しが行われる際に実行されるバックランプ演出である。正解押し順で操作しなかった場合に、不正解図柄組合せが停止する場合があるが、その場合にはバックランプ演出は実行されない。バックランプ演出Aは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第1のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第1特定時間（例えば1秒）に亘って第1のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。バックランプ演出Aは実際の払い出しが行われている期間より長い第1のバックランプ演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第1特定時間を加算した期間）に亘って実行することで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくなることができる。また、バックランプ演出Aの実行（出力）を払い出しが行われている期間より長い第1のバックランプ演出期間実行（出力）することで、バックランプ演出Aが実行されている期間は払い出しが行われているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。

30

【0623】

40

バックランプ演出Bは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第2のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第2特定時間（例えば2秒）に亘って第2のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。すなわち、バックランプ演出Bは実際の払い出しが行われている期間より長い第2のバックランプ演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第2特定時間を加算した期間）に亘って点灯、消灯を繰り返しており、この第2のバックランプ演出期間は、第1のバックランプ演出期間よりも長い。このように、バックランプ演出Bは、バックランプ演出Aより長い時間バックランプ演出を実行することで、より多くの遊技メダルが付与されているかのように認識させることができる。また、AT中にバックランプ演出Aと異なるバックランプ演出Bを実行することで通常とは異

50

なる有利な状態であることを認識しやすくすることができる。

【0624】

なお、払出終了コマンドを受信してから第1特定時間や第2特定時間経過までバックランプ演出を実行したが、払出開始コマンドを受信したら、払出終了コマンドを契機にすることなく、払い出し開始から払い出し終了するまでにかかる時間（クレジットの加算と遊技メダルの払い出しで比べ長い方）に第1特定時間や第2特定時間を加えた時間だけバックランプ演出を実行するようにしてもよい。また、通常時とAT中とでバックランプ演出を異なるようにしたが、同じバックランプ演出を実行するようにしてもよい。また、一定のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返すとしたが、バックランプ演出の開始から終了にかけて、一連の点灯、消灯パターンを定め出力するようにしてもよい。また、バックランプ演出Aの「第1のバックランプ演出期間」と、払出音Aの「第1の払出音期間」とはともに、実際の払い出しが行われている時間に第1特定時間を加えた期間であり、いずれも同一の期間となっているが、これらの「第1のバックランプ演出期間」及び「第1の払出音期間」とは互いに異なる期間であっても良い。これについては、バックランプ演出Bの「第2のバックランプ演出期間」と、払出音Bの「第2の払出音期間」との関係についても同様である。要するに、払出音A及びBの「第1の払出音期間」及び「第2の払出音期間」、バックランプ演出A及びBの「第1のバックランプ演出期間」及び「第2のバックランプ演出期間」はそれぞれ、実際の払い出しが行われている期間よりも長く、かつ、「第1の払出音期間」＜「第2の払出音期間」、「第1のバックランプ演出期間」＜「第2のバックランプ演出期間」という関係にあれば、これらの期間については適宜設定可能である。

【0625】

＜精算演出＞

遊技メダルの精算が行われる際に実行される演出であり、精算開始コマンドと精算終了コマンドに基づいて実行され、遊技メダルが払い出されていることを示す精算音（精算演出）の出力と精算が終了した旨の音声の出力が行われる。精算音は精算開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで払出音と異なる音（例えばドという音）の出力を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第3特定期間（例えば5秒）で「精算が終了しましたと」など精算が終了した旨を示す音声の出力を行い終了する。すなわち、精算演出では実際の払い出しが行われている期間（精算処理が行われている期間）より長い所定の精算演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第3特定時間を加算した期間）に亘って音の出力を行っている。

【0626】

以下図37～図41を参照しながら遊技の進行状況に応じて実行される各種演出を説明する。図37は払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合のタイムチャートであり、図38は払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合のタイムチャートであり、図39は払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合のタイムチャートであり、図40は精算処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合のタイムチャートであり、図41は精算処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合のタイムチャートである。なお、図37～図41では説明の便宜上ONとOFFを用いて記載しているが、対応する処理や演出の状況は括弧内に記載する。具体的には、払出処理／精算処理／BL演出／精算演出は、ONは実行している状態を示し、OFFは実行していない状態を示し、OFFからONとなると処理等を開始し、ONからOFFとなると終了することを意味する。払出音／投入音は、ONは出力している状態を示し、OFFは出力していない状態を示す。MAXベットランプ／メダル投入可ランプはONは点灯している状態を示し、OFFは消灯している状態を示す。MAXベットスイッチ操作／精算スイッチ操作は、ONが操作されたことを示し、OFFは操作されていないことを示す。メダル投入は、ONは投入された遊技メダルがメダルセクタ34を通過したことを（メダルセクタ34に備えられた投入センサが遊技メダルを検知）示し、OFFは遊技メダルが投入されていないことを示す。

【0627】

＜払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合＞

図37に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて払出音A（図では払出音と記す、以下同じ。）の出力及びバックランプ演出A（図ではBL演出と記す、以下同じ。）を開始する。時刻 t_1 のタイミングにて主制御手段は払出処理を終了し、副制御手段に払出終了コマンドを送信する。副制御手段は、払出終了コマンドに基づいて入賞演出として払出音Aの出力、バックランプ演出AをT1期間（第1特定時間）の間継続させる。主制御手段は、時刻 t_1 のタイミングにおいて払出処理が終了した後は、RT状態の更新等の処理（遊技終了チェック処理）を行い、ブロックをONとすることで遊技メダルを投入可能な状態とする。主制御手段は、時刻 t_2 のタイミングでは遊技メダルが投入可能な状態となったことに基づいてMAXベットランプを点灯させる。MAXベットランプはMAXベットスイッチの操作が行われなかったため、点灯している状態を継続している。時刻 t_5 のタイミングでは、時刻 t_1 のタイミングからT1期間が経過したため、副制御手段は、払出音Aの出力及び、バックランプ演出Aを終了させる。すなわち、時刻 t_0 から t_5 までの期間が、第1の払出音期間及び第1のバックランプ演出期間ともいえる。以上のように、時刻 t_1 以降のタイミングでは払出音Aの出力やバックランプ演出Aを継続しつつ、MAXベットランプを点灯させるといった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、払出音Aの出力を継続することで払い出しが行われたことを遊技者に認識させると共に、MAXベット操作により賭け設定が可能なことも適切に認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。

10

20

【0628】

＜払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合＞

図38に示すとおり、時刻 t_2 のタイミングまでは、払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合と同様であり、時刻 t_3 のタイミングではMAXベットスイッチによる投入操作が行われる。MAXベットスイッチの操作が行われたことにより、主制御手段は、MAXベットランプの点灯を終了（消灯）し、副制御手段は、バックランプ演出Aを終了し、時刻 t_3 から時刻 t_4 のタイミングにかけて（T2期間の間で）投入演出として投入音A（図では投入音と記す、以下同じ。）を3度出力する。時刻 t_3 以降のタイミングにおいて、払出音Aの出力を行いつつ、投入音Aの出力を行うといった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、これにより、払い出しが行われたことを遊技者に認識させつつ、MAXベットスイッチが操作され、賭け設定が行われたことも認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。また、時刻 t_3 のタイミングでは払出音Aの出力は継続するが、バックランプ演出Aを終了させることにより、払い出しが行われたことを音により遊技者に認識させつつ、視覚により賭け設定が行われたことを認識させることができる。なお、図38ではMAXベットスイッチによる投入操作で説明をしたが、1ベットスイッチによる投入操作、メダル投入を行っても同様に投入音を出力する。

30

【0629】

＜払出処理終了後に精算ボタンによる精算操作を行った場合＞

図39に示すとおり、時刻 t_2 のタイミングまでは、払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合と同様であり、時刻 t_3 のタイミングではMAXベットスイッチの操作に替わって精算ボタンが操作される。時刻 t_3 のタイミングにおいては、主制御手段は、精算ボタンが操作されたことに基づいて精算処理を開始し、MAXベットランプの点灯を終了（消灯）する。そして、副制御手段は、払出音Aの出力とバックランプ演出AをT1期間の経過を待たずに、時刻 t_3 のタイミングにて終了する。その後、精算開始コマンドに基づいて精算演出として精算音の出力を開始する。時刻 t_6 のタイミングにおいては、主制御手段は精算処理を終了し、副制御手段へ精算終了コマンドを送信する。副制御手段は、精算終了コマンドを受信すると精算音の出力に変えて精算が終了した旨の音声の出力をT3期間（第3特定時間）に亘り実行する。精算処理が開始された際

40

50

に、払出音 A の出力と精算音の出力が同時行われると遊技者を混乱させてしまうため、精算処理が開始されたことにより、T 1 期間継続する予定であった払出音 A の出力とバックランプ演出 A を終了させることで、払出処理と異なる精算処理が行われていることを的確に遊技者に認識させることができる。

【0630】

＜精算処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合＞

図 40 に示すとおり、時刻 t 8 のタイミングにて主制御手段は精算処理を開始し、副制御手段は受信した精算開始コマンドに基づいて精算演出として精算音の出力を開始する。ここで、精算時にはバックランプ演出を実行（出力）しないようになっており、払い出し処理と精算処理を視覚的に異なる処理とすることができる。時刻 t 9 のタイミングにて主制御手段は精算処理を終了し、副制御手段に精算終了コマンドを送信する。副制御手段は、精算終了コマンドを受信すると精算音の出力に変えて精算が終了した旨の音声の出力を T 3 期間に亘り実行する。主制御手段は、時刻 t 9 のタイミングにおいて精算処理が終了した後は、ブロックを ON とすることで遊技メダルを投入可能な状態とする。主制御手段は、時刻 t 10 のタイミングでは遊技メダルが投入可能な状態となったことに基づいてメダル投入可ランプを点灯させる。その後はメダル投入が行われなかったため、点灯している状態を継続している。時刻 T 13 のタイミングでは、時刻 t 9 のタイミングから T 3 期間が経過したため、副制御手段は、精算が終了した旨の音声の出力を終了させる。以上のように、時刻 t 10 以降のタイミングでは精算演出が実行されているが、メダル投入が可能な状態となっている。

【0631】

＜精算処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合＞

図 41 に示すとおり、時刻 t 10 のタイミングまでは、精算処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合と同様であり、主制御手段は時刻 t 11 のタイミングにおいては遊技メダルが投入され 1 枚の賭け設定が行われ、副制御手段へメダル投入コマンドが送信される。副制御手段はメダル投入コマンドを受信したことに基づいて投入演出として投入音 A を 1 度出力し、時刻 t 11 のタイミングから時刻 t 12 のタイミングにかけて出力が行われる。時刻 t 11 以降のタイミングにおいて、精算が終了した旨の音声の出力を行いつつ、投入音 A の出力を行うといった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、これにより、精算処理が終了したことを遊技者に認識させつつ、メダル投入が行われ、賭け設定が行われたことも認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。なお、図 37～図 41 については、払出音を払出音 A とし、B L 演出をバックランプ演出 A とした例にて説明したが、これらの図 37～図 41 において、払出音を払出音 B とし、B L 演出をバックランプ演出 B としてもよい（この場合、図 37、38 の T 1 期間は、第 2 特定時間と読み替えることは言うまでもない）。この場合であっても、上述と同様な作用効果を奏する。

【0632】

＜状態の変更＞

払出処理や精算処理が行われている最中は終了するまでの期間、同じ音を繰り返し出力する構成を説明したが、上記したコマンドに加え、払い出しが行われる毎に主制御手段から副制御手段へ 1 枚払い出されたことを示すコマンドや、残りの払い出し枚数を識別できるコマンドを送信し、副制御手段では主制御手段から送信されたこれらのコマンドを受信したことに基づいて 1 枚払い出される毎に払出音や精算音を出力するようにしてもよい。

また、精算音は払出音と異なる音としたが、払出音と同じ音としてもよい。同じ音とすることで音データを少なくすることができ、データ容量の削減となる。同じ音とした場合は、バックランプ演出の有無により、払出処理と精算処理を区別することができ遊技者に、払出処理の直後に精算処理を行った場合でも、遊技者に適切に精算処理が行われていることを認識させることができる。

また、精算音はエラー音と同じ音としてもよい。この場合も音データを少なくすることができ、データ容量の削減となる。

また、A T中は払出音Bを出力するようにしたが、払出処理開始から払出音Bの出力に加え、「ゲット」や「よっしゃー」などといった押し順正解を示す音声を払出処理開始から払出処理が終了し第2特定時間（2秒）が経過するより短い時間で出力してもよい。押し順正解を示す音声を出力することで、ストップスイッチを正しく操作できたことを認識することができると共に、払出音の出力を押し順正解を示す音声より長い時間出力することで、遊技メダルも適切に払い出されたことを遊技者は認識することができる。

また、MAXベットランプの点灯、消灯を主制御手段で行うとしたが、主制御手段は、MAXベットスイッチが操作可能な状態か否かを副制御手段に送信することで、副制御手段において点灯、消灯を行うとしてもよい。

【0633】

また、投入演出として、投入音の出力を行うと説明したが、投入音の出力に加えて表示装置32で投入を示す画像を表示したり、演出用のLEDランプを用いて投入された旨の報知を行ってもよい。

また、入賞演出として、払出音の出力とバックランプ演出を実行するとしたが、表示装置32で入賞したことを示す画像（例えば、GETと表示）を表示したり、演出用のLEDランプを用いて入賞した旨の報知を行ってもよい。その際、投入演出を実行する際に、入賞演出としての表示装置32の表示を終了したり、LEDランプでの報知を終了してもよいし、投入演出としての表示装置32の表示、LEDランプでの報知を実行しないとしてもよい。

また、精算演出として、精算音の出力と精算が終了した旨を示す音声の出力を行うとしたが、表示装置32で精算処理を行っていること示す画像（例えば、精算中と表示）を表示したり、演出用のLEDランプを用いて精算を行っている旨の報知を行ってもよい。その際、投入演出を実行する際に、精算演出としての、表示装置32の表示を終了したり、LEDランプでの報知を終了してもよいし、投入演出としての表示装置32の表示、LEDランプでの報知を実行しないとしてもよい。

また、押し順役において入賞演出を実行するとしたが、他の小役（スイカ役、押し順不問のベル役やチェリー役など）においても入賞演出を行うようにしてもよい。他の小役においては押し順役と異なる払出音の出力や、押し順役と異なるバックランプ演出を実行することで、押し順役と異なる役が入賞したことを容易に認識させることができる。

また、本実施形態の時刻や期間の長さは一例であり、種々変更が可能である。

【0634】

＜本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞演出の説明＞

次に、本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞演出の関係について説明する。

【0635】

以下に記載する本実施形態に適用可能な演出においては、払出処理の開始に伴う入賞演出や、リール停止後の演出をした際に、ホッパエンプティエラーが発生したとしても、その発生前に当該遊技の結果や演出の結果等を遊技者に認識させることを目的とする。

【0636】

本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞演出に関連する構成に関して以下に説明する。

【0637】

＜主制御手段＞

主制御手段が有する主な処理は本実施形態及び本実施形態に適用可能な入賞演出、精算演出と投入演出の説明等に記載した通りであるが、本実施形態の記載では省略した処理の詳細について以下に説明する。

【0638】

＜入賞処理（払出処理）＞

払出処理は、入賞判定処理により小役が入賞したと判定したときに、入賞した小役（停止表示した図柄組合せ）に応じて予め定められた遊技メダルを払い出す処理である。ここ

10

20

30

40

50

で遊技メダルを払い出すとは、クレジットの貯留が上限に達していなければクレジットに加算を行い、クレジットの貯留が上限に達している場合は、遊技メダルをホッパ44から払い出すことである。遊技メダルをホッパ44から払い出すために、主制御手段（主制御基板100）はホッパモータに駆動信号を入力（ON状態）することでホッパモータを駆動させ、回転盤を回転させることで遊技メダルを1枚ずつ排出させ、払出センサで遊技メダルを所定時間（通過開始から通過終了までの時間が3ms～200msの間）検出すると1枚の遊技メダルを払出したと判断する。また、主制御手段は、入賞に基づく払い出し（クレジットの加算であっても、ホッパ44からの払い出しであっても）を開始する場合に払出開始コマンドを副制御手段（副制御基板1000）に送信し、終了する際に払出終了コマンドを副制御手段に送信する。払出開始コマンドに基づいて副制御手段は、払出数の表示、累積差枚数の表示などの入賞演出が実行可能となっている。なお払出開始コマンドは払い出す遊技メダルの枚数情報を含んで構成され、払出開始コマンド及び、払出終了コマンドは払い出しがない場合（ハズレ時、再遊技入賞時）にも送信される。ハズレ時、再遊技入賞時は払い出す遊技メダルの枚数情報を0枚として送信し、続いて払出終了コマンドを送信する。

【0639】

<ホッパ44に関するエラー>

ホッパ44に関するエラーとして、ホッパ滞留エラーとホッパエンブティエラーと異常検知エラーを検出可能である。ホッパ滞留エラーは遊技メダルが払い出される際にホッパ44の払出口に遊技メダルが詰まったと判断した場合のエラーであり、ホッパエンブティエラーはホッパ内の遊技メダルが空と判断した場合のエラーであり、異常検知エラーはホッパ44の払出センサに異常入力があったと判断した場合のエラーである。

主制御手段は、エラーを検出し、エラー報知を行う際に、副制御手段へエラーの種別情報を含んだエラー報知開始コマンドを送信し、エラーが解除されるとエラー復帰コマンドを送信する。副制御手段は、エラー報知開始コマンドに基づき、表示装置32に検出したエラーの種別に対応するエラー情報の表示（エラー画面）を行い、エラー復帰コマンドに基づきエラー画面表示を終了して、エラー発生前の表示へ復帰する。

また、主制御手段は異常検知エラーを検出したタイミングでエラーを検知したことを示すエラー検知コマンドを送信し、副制御手段は、エラー検知コマンドに基づき異常検知が発生したことを表示する。

【0640】

<ホッパ滞留エラー>

遊技メダルをホッパ44から払い出す際に、ホッパモータに駆動信号を入力し、回転盤を回転させる遊技メダルの払出動作を行い、払出センサが一定時間（201ms）以上検出した状態を継続すると遊技メダルが詰まったと判断し、ホッパ滞留エラーが設定される。

<ホッパエンブティエラー>

遊技メダルをホッパ44から払い出す際に、ホッパモータに駆動信号を入力し、回転盤を回転させる遊技メダルの払出動作を行っても、一定時間（3.5秒）払出センサにより遊技メダルが検出されなかった場合は、ホッパ44内の遊技メダルが空と判断し、ホッパエンブティエラーが設定される。

<異常検知エラー>

遊技メダルを払出す状況でない場合に、払出センサが一定時間（3ms）以上検出すると払出センサに異常入力があったと判断し、異常検知エラーが設定される。エラー表示は遊技が行われていない状態（遊技メダルの投入待ちの状態、スタートレバーの受付待ちの状態）で行われる。

【0641】

<副制御手段>

遊技の進行状況に応じて各種の演出が実行可能であり、役の抽選結果（内部抽せんの結果）に基づいて演出を実行したり、エラー報知を実行したり、AT中は押し順ナビ演出を実行したり、入賞演出、リザルト画面の表示、結果告知演出等を実行する。

【0642】

＜入賞演出＞

遊技メダルの払い出しが行われる際に実行される演出であり、所定数の遊技メダルが払い出されることを示す獲得表示演出と、遊技者が獲得した遊技メダルが累積して所定数となることを示す累積表示演出とを含む。副制御手段が払出開始コマンドを受信したことに基づいて獲得表示演出と累積表示演出が実行される。

【0643】

＜獲得表示演出＞

獲得表示演出はA T中に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出しが行われる際に実行される演出である。獲得表示演出の態様としては、払い出される遊技メダルを特定せずに「GET」と表示してもよいし、具体的に12枚の遊技メダルが払い出されることを特定できるように「12枚GET」と表示してもよい。A T中に押し順役が当選し、正解押し順で操作しなかった結果、不正解図柄組合せが停止して不利な払い出し（1枚払い出しなど正解図柄組合せに比べ少ない遊技メダル数の払い出し）が行われる場合があるが、その場合には獲得表示演出は実行されない。

獲得表示演出は、払出開始コマンドを受信したときに開始し、実際の払い出しが行われている期間（払出処理が行われている期間）より短い所定の獲得表示演出期間（1秒）実行される。そのため、実際に遊技者に払い出される全ての遊技メダルが払出されていなくても実行される。これは全て払い出された後に獲得表示演出を実行すると、次遊技開始により演出がキャンセルされたり、次遊技の結果と混同してしまうことを防ぐためである。また、全ての遊技メダルが払い出されていなくても獲得表示演出を実行することで、事前に当該遊技の結果（払い出しを得ることを）を遊技者に認識させることもできる。

【0644】

＜累積表示演出＞

累積表示演出はA T中に遊技者が獲得した遊技メダルの累積数（総遊技メダル数とも称す）が規定数毎（500枚、1000枚、1500枚、2000枚）に初めて超えた場合に実行される演出である。具体的には、1回のA T中にA T開始後から獲得枚数の累積数を計数し、遊技メダルの払い出しにより累積数が500枚を超えると判断できる場合に累積表示演出が実行（開始）される。その後、累積数が500枚を下回り再度500枚を超えても累積表示演出は実行されない。累積表示演出の態様としては、規定数に応じて「500枚GET」等のように表示される。

累積表示演出は、払出開始コマンド受信し、累積数が当該払い出しにより規定数を超えると判断できる場合に開始され、実際の払い出しが行われている期間（払出処理が行われている期間）より短い所定の累積表示演出期間（1秒）実行される。獲得表示演出と同様、実際に遊技者に払い出された遊技メダルが規定数を超えていなくても実行される。これは実際に規定数を超えたタイミングで累積表示演出を実行すると、累積表示演出を実行するタイミングがばらつき、次遊技開始により演出がキャンセルされたり、次遊技の結果と混同してしまうことを防ぐためである。また、規定数を超えていなくても累積表示演出を実行することで、事前に当該遊技の結果（規定数を超えること）を遊技者に認識させることもできる。

なお、獲得表示演出と累積表示演出は1の遊技で両方の演出の実行条件を満たすことがあるが、本実施形態では、累積表示演出が実行可能な遊技では、原則的に獲得表示演出を実行せずに、累積表示演出のみ実行する。ただし、原則と異なり、獲得表示演出を実行する場合については後述する。

【0645】

＜リザルト画面の表示＞

本実施形態で表示されるリザルト画面はA Tが終了する際に表示する画面であって、A T中に獲得した総遊技メダル数や、A Tの実行期間を示すゲーム数等を表示する画面である。リザルト画面を表示する際には、注意喚起のための表示（のめり込み防止表示）も併せて表示される。A Tの最終遊技が終了する際（全回胴停止コマンドを受信）に、リザル

ト画面の表示を開始し、次の遊技が開始されるまでリザルト画面の表示が継続される。なお、最終遊技でリザルト画面の表示中は獲得表示演出のみが実行可能となっており、最終遊技で何れかの規定数を超えた場合であっても累積表示演出は実行されない。例えば、押し順役に当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出しが行われ、規定数の500枚を超える場合において、最終遊技でなければ累積表示演出が実行されるが、最終遊技であればリザルト画面が表示されるため累積表示演出が実行されずに獲得表示演出が実行される。これは、リザルト画面において、AT中に獲得した総遊技メダル数が表示されるため、累積表示演出も実行してしまうと類似する情報が重ねて表示され遊技者が困惑してしまうためである。

【0646】

＜結果告知演出＞

結果告知演出は、遊技者にとって有利な結果が得られたことを告知するための演出であって、連続演出の最終遊技に実行される演出である。具体的には、ボーナス当選や、ATの残りゲーム数等の上乗せの当選、上乗せの機会が高まる特化ゾーンの当選など遊技者にとって有利な結果が得られたか否かを遊技者に告知するための演出であって、一例として、バトル演出等での勝負の結果によって有利な結果が得られたか否か告知される。有利な結果が得られた場合は、成功や勝利を示す画像が表示され、有利な結果が得られなかった場合は失敗や敗北を示す画像が表示される。バトル演出では、レバー操作を契機に味方キャラと敵キャラが対峙する画面を表示し、全てのリールが停止した後（全回胴停止コマンドの受信により）に味方キャラと敵キャラの競い合いが行われ一定時間を経過した演出分岐タイミング以降に成功や勝利を示す画像か、失敗や敗北を示す画像が表示される。演出分岐タイミングは払出処理開始後2.7秒後のタイミングであり、結果告知演出が終了するのは成功や勝利を示す画像か、失敗や敗北を示す画像が表示されるタイミングであり、払出処理開始後3秒となっている。これにより、結果告知演出はホップエンプティエラーが発生（検知）してエラー画面が表示される前に終了し、遊技者は有利な結果の有無をエラーの発生によらずに確認することができる。なお、全回胴停止コマンドと、払出開始コマンドは略同タイミングで送信されるため、上記の払出処理開始を全てのリールが停止した後と置き換えてもよい。

【0647】

以下図42～図47を参照しながら遊技の進行状況に応じて実行される各種演出を説明する。図42は、正常に払い出しが行われた場合のタイムチャートであり、図43は、正常に払い出しが行われなかった場合（ホップエンプティエラー発生時）のタイムチャートであり、図44は、正常に払い出しが行われなかった場合（ホップ滞留エラー発生時）のタイムチャートであり、図45は、正常に払い出しが行われた場合の表示画面の一例であり、図46は、正常に払い出しが行われなかった場合（ホップエンプティエラー発生時）の表示画面の一例であり、図47は、正常に払い出しが行われなかった場合（ホップ滞留エラー発生時）の表示画面の一例である。

なお、図42～図44では説明の便宜上ONとOFFを用いて記載しているが、対応する処理や演出の状況は括弧内に記載する。具体的には、払出処理のONは実行している状態を示し、OFFは実行していない状態を示し、OFFからONとなると処理等を開始し、ONからOFFとなると終了することを意味する。払出のONは遊技メダルが1枚払い出されたことを示し、OFFは遊技メダルが払い出されていないことを示す。獲得表示演出、累積表示演出のONは演出を実行している（表示している）状態を示し、OFFは実行していない（表示していない）ことを示す。結果告知演出のONは実行している（演出が進行している）状態を示し、OFFは実行していない（演出が終了し、結果を告知する画面で表示が停止している）状態を示す。エラー（ホップエンプティ）、エラー（ホップ滞留）のONは、エラーが発生している（エラーを検知し、エラーを設定した）状態を示し、OFFはエラーが発生していない状態を示す。エラー表示のONは、エラーが発生したことに基つき、主制御手段によるエラーコードの表示や、副制御手段によりエラー画面が表示されている状態を示し、OFFはエラーコードの表示やエラー画面の表示が行われ

10

20

30

40

50

ていない状態を示す。

【0648】

図45～図47は獲得表示演出が実行される場合であり、累積表示演出が実行される場合は、図中の獲得表示演出で表示される「12枚GET」の表記が、累積表示演出で表示される「500枚GET」の表記となる。

【0649】

先に説明した入賞演出、精算演出と投入演出とも組合せ可能であり、図37～図39の時刻 t_0 、 t_1 と、図42の時刻 t_0 、 t_1 は同じタイミングである。図37、図38の時刻 t_5 は図42の時刻 t_1 より遅いタイミング且つ、時刻 t_{15} より早いタイミングである。

【0650】

<正常に払い出しが行われた場合>

図42に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて獲得表示演出又は累積表示演出を開始する。1秒後の時刻 t_{14} のタイミングにて副制御手段は獲得表示演出又は累積表示演出を終了する。その後時刻 t_1 のタイミングにて主制御手段は払出処理を終了し、副制御手段に払出終了コマンドを送信する。払出処理に係る時間は正常に実行された（本例では12枚の遊技メダルを正常に払出す）場合は1.5秒となっている。獲得表示演出は払出処理が開始されるタイミングで開始され、払出処理が終了するよりも前のタイミングで終了する。これにより、遊技者は払出処理が完了する前に、遊技メダルを獲得することや獲得した遊技メダルの累積数が所定数を超えることを認識することができる。結果告知演出は、遊技の開始から実行されているため、払出処理を開始するタイミングではすでに実行中となっている。時刻 t_{15} のタイミングでは、結果告知演出は演出分岐タイミングとなり、このタイミング以降の表示が、成功や勝利を示す画像を表示する場合と、失敗や敗北を示す画像を表示する場合とで異なる。時刻 t_{16} のタイミングでは、実行していた結果告知演出が終了する。時刻 t_{15} は払出処理を開始してから2.7秒後のタイミングであり、時刻 t_{16} は払出処理を開始してから3秒後のタイミングとなっている。

【0651】

<正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパエンptyエラー発生時）>

図43に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて獲得表示演出又は累積表示演出を開始する。時刻 t_0 のタイミング以降、払出処理が実行されるが、ホッパ44内に遊技メダルがないため、遊技メダルの払い出しが行われず、回転盤の回転が継続される。そして、時刻 t_{17} のタイミングで主制御手段は、ホッパ44内の遊技メダルが空と判断し、払出処理を終了し、ホッパエンptyエラーを設定する。ホッパエンptyエラーが発生したことに基づいて主制御手段は、エラーコードの表示を行い、副制御手段は、エラー画面の表示を行う。他の時刻 t_{14} 、 t_{15} 、 t_{16} のタイミングでは図42と同様に、時刻 t_{14} のタイミングでは、獲得表示演出又は累積表示演出を終了し、時刻 t_{15} のタイミングでは、演出分岐タイミングとなり、時刻 t_{16} のタイミングでは結果告知演出が終了する。獲得表示演出、累積表示演出を実行する期間や結果告知演出を終了するまでの期間は、払出処理が開始されホッパエンptyエラーが発生するまでの期間より短く設定されているため、ホッパエンptyエラーが発生し、エラー画面が表示される前に獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出の内容を確認することが可能となる。

なお、同図では、払出処理を開始してから1枚も払い出されずホッパエンptyエラーが発生する場合を示しており、複数枚の遊技メダルを払い出したあとにホッパエンptyエラーが発生する場合は、ホッパエンptyエラーが発生するタイミングは時刻 t_{17} より複数枚の遊技メダルを払い出す分遅いタイミングとなる。

【0652】

<正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパ滞留エラー発生時）>

図44に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制

10

20

30

40

50

御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて獲得表示演出又は累積表示演出を開始する。時刻 t_0 のタイミング以降、払出処理が実行されるが、ホッパ44の排出口に遊技メダルが詰まっているため遊技メダルの払い出しが実行されていない。そして、時刻 t_{18} のタイミングでは払出処理開始からホッパ44の払出センサが201ms以上継続して検出したため、主制御手段は、遊技メダルが詰まったと判断し、払出処理を終了し、ホッパ滞留エラーを設定する。同じく時刻 t_{18} のタイミングでは、ホッパ滞留エラーが発生したことに基いて主制御手段は、エラーコードの表示を行い、副制御手段は、実行していた獲得表示演出又は累積表示演出、同じく実行していた結果告知演出をキャンセルして（表示を終了して）、エラー画面の表示を行う。獲得表示演出又は、累積表示演出は払出処理開始タイミングから実行されるため、払出処理を開始してホッパ滞留エラーが発生する前に実行されているため、エラー画面が表示される前に、獲得表示演出、累積表示演出の内容を確認することが可能となる。

10

なお、同図では、払出処理を開始してから1枚も払い出されずホッパ滞留エラーが発生する場合を示しており、複数枚の遊技メダルを払い出したあとにホッパ滞留エラーが発生する場合は、ホッパ滞留エラーが発生するタイミングは時刻 t_{18} より複数枚の遊技メダルを払い出す分遅いタイミングとなり、獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出を実行する期間が長くなる。

【0653】

獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出は、演出の実行自体をキャンセルして表示が行われなかったとしたが、演出自体は実行しつつ、エラー画面を演出に重ねて表示することで演出を視認できないようにしてもよい。この場合は、演出実行中にエラーが解除された場合には、解除されたタイミングから実行中の演出が視認可能となる。ただし、エラー解除にはリセットスイッチの操作が必要であり、リセットスイッチは筐体内にあるため、施錠装置を解錠し、フロントパネルPS2を開く必要がある。通常はエラーを解除する前に、払出処理開始から結果告知演出が終了するまでに要する3秒を超える時間を必要とするため、ホッパ滞留エラーが発生して最短時間でホッパ滞留エラーを解除したとしても獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出の実行中には復帰することではなく、全ての演出が終了した後の画面で復帰する。

20

【0654】

<正常に払い出しが行われた場合の表示画面>

30

図45に、正常に払い出しが行われた場合の表示画面の一例を示す。図45は、ATが残り11ゲームで且つ、遊技メダルの総獲得枚数が230枚で実行された遊技であって、バトル演出（結果告知演出）が実行されている場面である。画面左上には残りゲーム数が表示され（残り11ゲームで実行された遊技であるので1減算されて10G（ゲーム）と表示されている。画面右上にはATで獲得した総遊技メダル数が230枚と表示されている。画面中央に対して左側に味方キャラ（丸型の頭で示されるキャラクタ）と右側に敵キャラ（星型の頭で示されるキャラクタ）が表示されている。

【0655】

同図（a）は、バトル演出実行中に全リールが停止したタイミング（全回胴停止コマンド受信）の画面であって、このタイミング以降結果を告知するために演出が進行する。同図（b）は、図42の時刻 t_0 のタイミングであって、払出処理が開始されたタイミングを示す画面である。遊技メダルが1枚払い出され総遊技メダル数が230枚から1枚加算され231枚となり、画面右側から獲得表示演出として12枚の遊技メダルが払い出されることを特定できるように「12枚GET」の表示が中央に向かって移動している。画面中央では、味方キャラと敵キャラの競い合いが開始されている。同図（c）は、遊技メダルが3枚払い出されたタイミングであって、画面中央に大きく獲得表示演出として12枚の遊技メダルが払い出されることを特定できるように「12枚GET」の表示が行われている。味方キャラと敵キャラの競い合いは継続して行われている。

40

【0656】

同図（d）は、遊技メダルが8枚払い出されたタイミングであって、画面中央に大きく

50

表示されていた「12枚GET」の表示が獲得表示演出の終了に向けて画面左側に向かって移動している。同図(e)は、図42の時刻t15のタイミングであって、遊技メダルの払い出しが終了し、演出分岐タイミングとなっている。遊技メダルの払い出しが終了しているため、総遊技メダル数は242枚と表示されている。画面中央では、味方キャラと敵キャラの競い合いは継続して行われている。同図(f)は、演出分岐タイミング後のタイミングであって、成功を示す画像を表示する過程が表示されている。味方キャラと敵キャラの競い合いから味方キャラが拡大表示されて、成功となることが認識できる状態となっている。同図(g)は、図42の時刻t16のタイミングであって、バトル演出が終了するタイミングとなっている。画面右下には「成功」と表示され、成功を示す演出であったことが明確に表示されている。同図(g)で表示されている画像は演出としては終了するが、次遊技が開始するまで継続して表示される。同図(h)は演出分岐タイミング後のタイミングであって、失敗を示す画像を表示する過程が表示されている。味方キャラと敵キャラの競い合いから敵キャラが拡大表示されて、失敗となることが認識できる状態となっている。同図(i)は、図42の時刻t16のタイミングであって、バトル演出が終了するタイミングとなっている。画面右下には「失敗」と表示され、失敗を示す演出であったことが明確に表示されている。同図(i)で表示されている画像は演出としては終了するが、次遊技が開始するまで継続して表示される。

10

【0657】

<正常に払い出しが行われなかった場合(ホッパエンブティエラー発生時)の表示画面>

図46に、正常に払い出しが行われなかった場合(ホッパエンブティエラー発生時)の表示画面の一例を示す。同図(a)～(i)までは、図45と獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出の流れは同じである。ただし、払出処理開始後に、遊技メダルの払い出しが行われていないため、画面右上の総遊技メダル数は230枚のまま更新されていない。同図(j)は、図43の時刻t17のタイミングであって、払出処理開始後に遊技メダルが3.5秒間検出されなかったため、主制御手段において、ホッパエンブティエラーが設定され、副制御手段において、ホッパエンブティエラーを示すエラー画面が表示されるタイミングである。ホッパエンブティエラーが発生する前に、成功を示す画像が表示されていても、失敗を示す画像が表示されていても同じ画像が表示される。

20

【0658】

<正常に払い出しが行われなかった場合(ホッパ滞留エラー発生時)の表示画面>

図47に、正常に払出が行われなかった場合(ホッパ滞留エラー発生時)の表示画面の一例を示す。同図(a)～(c)までは、図45と獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出の流れは同じである。ただし、払出処理開始後に、遊技メダルの払い出しが行われていないため、画面右上の総遊技メダル数は230枚のまま更新されていない。同図(k)は、図44の時刻t18のタイミングであって、主制御手段においてホッパ滞留エラーが設定され、副制御手段においてホッパ滞留エラーを示す画面が表示されるタイミングである。払出処理開始後にホッパ44の払出センサが201ms以上継続して検出すると、主制御手段は、遊技メダルが詰まったと判断し、ホッパ滞留エラーを設定する。主制御手段は、ホッパ滞留エラーを設定すると、ホッパ滞留エラーの発生を示すコマンドを副制御手段へ送信する。副制御手段は、ホッパ滞留エラーの発生を示すコマンドを受信すると、ホッパ滞留エラーを示す画面を表示装置32に表示する。

30

40

【0659】

<態様の変更>

獲得表示演出及び、累積表示演出を行う期間は正常に払出処理が実行された際に掛かる期間(1.5秒)より短い期間(1秒)としたが、長い期間としてもよい。具体的には、1.5秒より長く、ホッパエンブティエラーを検出するまでの期間(3.5秒)より短い期間としてよい。払出処理が実行された際に掛かる期間より長くすることで、より遊技者に獲得表示演出及び、累積表示演出を視認させることができる。

また、正常に払出処理が実行された際に掛かる期間を1.5秒としたが、払出処理の枚数や、払出処理がクレジットの加算のみなのか、ホッパからの遊技メダルの払い出しを含

50

むのかにより必要な時間を異ならせてもよい。

また、獲得表示演出及び、累積表示演出は何れか一方のみ実行するとしたが、両方の演出を実行するための条件を満たしているときは、獲得表示演出を実行した後に、累積表示演出を実行してもよい。獲得表示演出は払出処理開始後1秒で終了し、その後1秒間、累積表示演出が実行されるため、ホップエンピエラーが発生したとしても、累積表示演出の内容を遊技者は認識することができる。

また、獲得表示演出はA T中に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出し（12枚払い出し）が行われる際に実行される演出としたが、押し順役でなく他の役が当選した際にも実行してもよい。具体的には、押し順に関わらず有利な払い出し（12枚払い出し）が実行される押し順不問役（所謂共有ベル）に当選し、押し順不問役に対応する図柄組合せ（正解図柄組合せ）が停止した際に実行してもよい。

【0660】

獲得表示演出は有利な払い出し（12枚払い出し）が実行される際に、複数種類の態様を備えてよい。具体的には、「12枚GET」と表示される際の、色や、フォントを状態に応じて異ならせて良い。より具体的には、A Tの上乗せに当選し易い状態が否かによって色やフォントを異ならせたり、連続演出が発生する前兆中や、上乗せ特化ゾーン移行する前兆中に色やフォントを異ならせる。獲得表示演出の態様を異ならせることで遊技者に遊技メダルを獲得することを知らせると共に、次遊技以降に有利な状況が発生するかもしれないと期待させることができる。また、「12枚GET」と表示される際の、色や、フォントを遊技機に設定されている設定値に応じて異ならせてもよい。獲得表示演出が実行される毎に遊技機に設定されている設定値を推測するための情報を提供できる。

また、累積表示演出は規定数毎以外に、特定の設定値が設定されている場合のみ表示可能な態様を備えてもよい。具体的には、設定値「2」か「4」か「6」が設定されている際に、遊技メダルの累積数が初めて246枚を超える場合に、「246枚GET」と表示を行う。246枚を超える場合に、必ず表示してもよいし、表示を行うか抽選を行い当選した場合に表示してもよい。累積表示演出で表示される内容で設定示唆を行うことで、累積数を遊技者に報知するだけでなく、遊技機に設定されている設定値を推測するための情報も提供できる。設定値「6」が設定されている場合にのみ、遊技メダルの累積数が初めて666枚を超える場合に、「666枚GET」と表示してもよい。また、規定数毎の表示態様を色やフォント等が異なる複数種類備え、表示される表示態様によって遊技機に設定されている設定値や、状態を示唆するようにしてもよい。

【0661】

獲得表示演出、累積表示演出はA T中に実行可能であり、リザルト画面表示中のみ遊技メダルの累積数が規定数を超えたとしても累積表示演出を実行せずに、獲得表示演出を実行するが、獲得表示演出、累積表示演出を実行しない状況を他に備えてもよい。具体的には、所謂疑似ボーナスといわれる状況では、獲得表示演出、累積表示演出を実行しなくてもよい。また、A T中に実行される疑似ボーナス中の状況では獲得表示演出は実行せず、累積表示演出のみ実行するとしてもよい。また、A Tを開始する前の準備期間中や、A T開始画面や、A T中に実行される連続演出や、連続演出の前兆中などの状況では、獲得表示演出、累積表示演出を実行しなくてもよい。有利区間が終了する前に実行可能なエンディング状態では、獲得表示演出、累積表示演出を実行しなくてもよい。主制御手段で管理される遊技状態や、副制御手段で管理される演出の状態に応じて、実行する場合と、実行しない場合を備えることで、必要な情報を適切に遊技者に報知することができる。

【0662】

累積表示演出は、A T中に遊技者が獲得している遊技メダルの累積数と、払出処理によって払い出される遊技メダル数に基づいて実行するか判断していたが、MYカウンタの値を用いて判断してもよい。具体的には、MYカウンタの値は、遊技終了チェック後と、レバー操作時に主制御手段から副制御手段へMYカウンタの値を示すコマンドを送信する。遊技終了チェック後のMYカウンタの値は払出処理後の値を示し、レバー操作時のMYカ

ウンタの値は賭け数分減算した値を示す。レバー操作時のMYカウンタの値に遊技の結果として払出開始コマンドを受信したタイミングで払出開始コマンドに含まれる遊技メダルの枚数情報を加算し、加算した合計値が規定数を超えるか判断を行う。AT中の累積数としてMYカウンタの値に基づく値を表示すれば、遊技者は有利区間が終了するまでに獲得可能な遊技メダル数を把握することが可能となる。

結果告知演出は、連続演出の最終遊技で実行されるバトル演出としたが、連続演出でなく、1遊技で実行される演出としてもよい。また、味方キャラと敵キャラが競い合うようなバトル演出に限らず、くじ引きで一等を引くか否か、あみだくじで当たりとなるか否かなど演出の結果と遊技者に有利な結果とを関連付けられる他の演出としてもよい。

【0663】

結果告知演出は全回胴停止から時間経過により演出分岐タイミングを経て結果を表示するとしたが、演出ボタンの操作によって結果を表示するようにしてもよい。具体的には演出分岐タイミング（時刻t15のタイミング）において、演出スイッチを模したスイッチの画像（操作促進画像、操作促進演出とも称す）を表示し、遊技者が演出スイッチを操作することで、成功を示す画像が失敗を示す画像を表示する。演出分岐タイミングにおいて、操作促進画像を表示することで、ホップエンptyエラーが発生してエラー画面が表示されてしまう状況であっても、エラー画面が表示されるより前に、操作促進画像が表示されることを認識することができる。

また、全てのリールが停止した後（全回胴停止後）に、演出のステージチェンジや、ATの残りゲーム数の上乗せ数を告知するためにPUSHボタン演出を実行してもよい。具体的には、全てのリールが停止した後であって、ホップエンptyエラーが発生する前の時刻t17となる前に、演出スイッチを模したスイッチの画像を表示し、遊技者が操作することによって、演出のステージチェンジを行ったり、上乗せ数を告知する。ホップエンptyエラーが発生する（エラー画面が表示される）前に演出スイッチを模したスイッチの画像が表示される（PUSHボタン演出が実行される）ことを認識できる。また、演出スイッチを模したスイッチの画像を表示する前に、演出スイッチを模したスイッチの画像の画像が表示されるか煽ってもよく、エラー画面が表示される前に、煽った結果、演出スイッチを模したスイッチの画像の画像が表示されることを認識することができる。

【0664】

結果告知演出、PUSHボタン演出以外に、コメント演出等の、最終リールのストップスイッチの操作や全てのリールを停止したことを契機とする演出を実行してもよい。これらの演出もホップエンptyエラーが発生する前の時刻t17となる前（一例として時刻t15のタイミングや、時刻t1のタイミングなど）に実行することで、演出の内容をホップエンptyエラーが発生する前に認識することができる。

また、押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出し（12枚払い出し）が行われる際に実行される演出としたが、押し順役でなく他の役が当選した際にも実行してもよい。具体的には、押し順に関わらず有利な払い出し（12枚払い出し）が実行される押し順不問役（所謂共有ベル）に当選し、押し順不問役に対応する図柄組合せ（正解図柄組合せ）が停止した際に実行してもよい。

また、上記実施形態で記載した時間や期間の長さは一例であり、適時変更可能である。

【0665】

次に、タイマ割込み処理を実行するための各種設定について説明する。

図5の遊技機の動作に関する初期設定において、割込みモードのセットを行う。この割込みモードのセットとは、タイマ割込み処理を実行可能とするための各種設定（主制御内蔵レジスタの設定）を行うことである。

そこでまず始めに、タイマ割込み処理を実行可能とするための主要な主制御内蔵レジスタについて説明を行う。

【0666】

<PTCプリスケラ設定レジスタ>

PTCプリスケラ設定レジスタは、主制御内蔵レジスタの1つであり、主制御チップ

10

20

30

40

50

のタイマ回路の動作設定を司るレジスタである。

P T Cプリスケアラ設定レジスタに値を設定することにより、後述する8ビットカウンタP T Cへ供給するクロックを設定することができる。具体的には、システムクロック（S C K）を「何」分周したものを8ビットカウンタP T Cへ供給するかを設定することができる。例えば、システムクロックが1 6 M H zである場合において、「1 4 3」をP T Cプリスケアラ設定レジスタに設定した場合には、 $1 6 \text{ M H z} / 1 4 3 = \text{約} 1 1 1 . 8 8 8 1 \text{ K H z}$ が8ビットカウンタP T Cのクロック源となる。

なお、P T Cプリスケアラ設定レジスタの初期値（電源がオフからオンとなったときの値）は「2 5 0」である。

【0 6 6 7】

<P T Cカウンタ設定レジスタ>

P T Cカウンタ設定レジスタは、主制御内蔵レジスタの1つであり、主制御チップのタイマ回路の動作設定を司るレジスタである。

P T Cカウンタ設定レジスタに値を設定することにより、8ビットカウンタP T Cのカウント値を設定することができる。具体的には、P T Cプリスケアラ設定レジスタからのクロック数が、何回入力された場合に、タイマ割込み処理を実行するかを設定することができる。例えば、システムクロックが1 6 M H zであり、P T Cプリスケアラ設定レジスタに「1 4 3」を設定し、P T Cカウンタ設定レジスタに「1 2 5」を設定した場合には、約1 1 1 . 8 8 8 1 K H zのクロック（1周期が約8 . 9 3 7 5 μ sのクロック）が1 2 5回入力された場合（8ビットカウンタP T Cがタイムアウトした場合）に、割込みフラグがセットされ、後述する割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。そして、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されているときには、割込み待ちモニタレジスタからC P Uに対して割込み要求通知信号が出力可能となり、割込み許可状態であるとき（後述するI F F 1レジスタが「1」であるとき）タイマ割込みが実行可能となる。

換言すると、システムクロックが1 6 M H zであり、P T Cプリスケアラ設定レジスタに「1 4 3」を設定し、P T Cカウンタ設定レジスタに「1 2 5」を設定した場合は、 $1 / 1 6 \text{ M H z} \times 1 4 3 \times 1 2 5 = \text{約} 1 . 1 1 7 \text{ m s}$ （ミリ秒）の周期でタイマ割込み処理が実行可能となる。

また、8ビットカウンタP T Cの値は、P T Cカウンタ設定レジスタに値を設定した後からP T Cプリスケアラ設定レジスタからのクロックに基づいて更新（例えば、1ずつ減算）が開始される。

なお、8ビットカウンタP T Cの初期値（電源がオフからオンとなったときの値）は「0」である。

【0 6 6 8】

<割込み待ちモニタレジスタ>

割込み待ちモニタレジスタは、主制御内蔵レジスタの1つである。

割込み待ちモニタレジスタは、1バイト（8ビット）の記憶領域であり、そのうち、8ビットカウンタP T Cがタイムアウトし、主制御チップのタイマ回路から出力された割込み要求信号を受信した場合には、割込み待ちモニタレジスタの所定ビット（例えば、1ビット目）が「1」となる。このように、割込み待ちモニタレジスタの所定ビットが「1」となることを、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶する等と称し、割込み待ちモニタレジスタの所定ビットを「0」とすることを、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報をクリアする等と称する。

【0 6 6 9】

割込み待ちモニタレジスタは、割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶すると、C P Uに対して割込み要求通知信号を出力することが可能となる。換言すると、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶している状況では、C P Uに対して割込み要求通知信号が出力可能となり、割込み許可状態である

10

20

30

40

50

とき（後述するIFF1レジスタが「1」であるとき）タイマ割込みが実行可能となる。そして、割込み要求通知信号に応じたタイマ割込み処理を実行する際（タイマ割込み処理を実行する前、タイマ割込み処理を実行すると同時、タイマ割込み処理を実行した後の何れでも良い）には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報をクリアする。

【0670】

一方、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶している状況であっても、割込み禁止状態であるとき（後述するIFF1レジスタが「0」であるとき）は、CPUに対して割込み要求通知信号を出力するが、タイマ割込み処理は実行しないように構成されている。このように、割込み禁止状態（後述するIFF1レジスタが「0」）であったためタイマ割込み処理が実行できなかった場合には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報は保持する（クリアされない）。また、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶しているときは、CPUに対して割込み要求通知信号を出力し続ける。割込み禁止状態（後述するIFF1レジスタが「0」）であったためタイマ割込み処理が実行できなかった場合には、割込み許可状態（後述するIFF1レジスタが「1」）となり、割込み要求通知信号に応じたタイマ割込み処理を実行する際（タイマ割込み処理を実行する直前、タイマ割込み処理を実行すると同時、タイマ割込み処理を実行した直後の何れでも良い）に、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報をクリアする。

なお、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている情報の初期値（電源がオフからオンとなったときの値）は「0」である（割込み待ちモニタレジスタには割込み要求信号の発生があったことを示す情報は記憶されていない状況である）。

【0671】

次に、割込み禁止状態、割込み許可状態を管理する割込みレジスタについて説明を行う。

【0672】

<割込みレジスタ>

割込みレジスタは、主制御チップ（例えば主制御CPU）が有するレジスタである。

割込みレジスタによって、割込みに関する状態（割込み状態とも称す）である「割込み禁止状態（割込み禁止区間、割込み禁止期間とも称す）」と「割込み許可状態（割込み許可区間、割込み許可期間とも称す）」を管理する。具体的には、割込みレジスタとして、IFF1レジスタとIFF2レジスタを有し、IFF1レジスタの値によって、割込み禁止状態、割込み許可状態を管理する。そのため、IFF2レジスタに関する説明は省略する。また、特段言及しない場合には、割込みレジスタとは、IFF1レジスタを指すこととする。

【0673】

IFF1レジスタが「0」のときは、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶され、CPUに対して割込み要求通知信号が出力された場合にはタイマ割込み処理を実行可能である。

IFF1レジスタが「1」のときは、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶され、CPUに対して割込み要求通知信号が出力された場合であってもタイマ割込み処理を実行しない。

換言すると、割込み禁止状態のときとはIFF1レジスタが「0」であることを指し、割込み許可状態のときとはIFF1レジスタが「1」であることを指す。

【0674】

IFF1レジスタは、割込みを禁止する命令（例えば、「DI」命令）を実行した場合には「0」となる。

IFF1レジスタは、割込みを許可する命令（例えば、「EI」命令）を実行した場合には「1」となる。

IFF1レジスタは、タイマ割込み処理を実行する際（タイマ割込み処理を実行する直

前、タイマ割込み処理を実行すると同時、タイマ割込み処理を実行した直後の何れでも良い)には「0」となる。

つまり、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態とは、割込みを禁止する命令の実行から割込みを許可する命令の実行までの状態を指し、タイマ割込み処理の実行にともなう割込み禁止状態とは、タイマ割込み処理を実行から割込みを許可する命令の実行までの状態を指す。

なお、IFF1レジスタの初期値（電源がオフからオンとなったときの値）は「0」である。そのため、電源がオンとなった後から割込みを許可する命令の実行までの状態も割込み禁止状態であると言える。

一方、割込み許可状態とは、割込み禁止状態ではない状態のことを指す。

【0675】

それでは、説明を図5の遊技機の動作に関する初期設定における、割込みモードのセットに戻す。割込みモードのセットでは、PTCプリスケアラ設定レジスタに値を記憶（セット）する。例えば、PTCプリスケアラ設定レジスタに「143」を記憶する。次に、PTCカウンタ設定レジスタに値を記憶（セット）する。例えば、PTCカウンタ設定レジスタに「125」を記憶する。

【0676】

このように、割込みモードのセットにおいて、PTCカウンタ設定レジスタに「125」を記憶した後から、8ビットカウンタPTCの値は、「125」→「124」→・・・→「2」→「1」→「125」→「124」→・・・のように、「125」～「1」を循環して更新するように構成されている。なお、図5の遊技機の動作に関する初期設定における割込みモードのセット後は、他のプログラム（処理・命令）を実行しているときであっても8ビットカウンタPTCの値は、更新され続けるように構成されている。また、8ビットカウンタPTCの値が、「1」→「125」になるタイミングを8ビットカウンタPTCの値がタイムアウトした（する）と称することとする。

【0677】

割込みモードのセットを実行した後、実際にタイマ割込み処理が実行され得るのは、割込みを許可する命令がなされた後である。ここで、割込みを許可する命令は、RAMチェック処理によって全RAMのチェックサムが正常か否かを判定した後（図5の電源断復帰データ正常又は復帰可能状態の後）が好ましい。例えば、割込みを許可する命令を図8の「割込み処理を起動」で実行することや、図10の「保存された設定値表示データを設定値表示LEDに点灯」で実行すること等が考えられる。

【0678】

このように、RAMチェック処理（電源断前のRAMと電源復帰後のRAMが同じか否かの判定）前から8ビットカウンタの更新を開始するように構成した場合には、RAMチェック処理後に8ビットカウンタの更新を開始する場合と比べて早期に8ビットカウンタをタイムアウトさせることができる（割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶できる）ので、RAM異常判定後に実行される割込みを許可する命令を行った際に遅滞なくタイマ割込み処理を実行することができる。

【0679】

なお、本実施形態では、割込みモードのセットにおいて、PTCプリスケアラ設定レジスタに「143」を記憶したが、PTCプリスケアラ設定レジスタに値を記憶する処理を実行しなくても良い。具体的には、PTCプリスケアラ設定レジスタの初期値が「250」であること（初期値が「0」でないこと）を利用して割込み周期を設定することも可能である。

【0680】

例えば、システムクロックを16MHzで構成した場合、PTCプリスケアラ設定レジスタの初期値が「250」であるため、PTCカウンタ設定レジスタに任意の値を記憶することによって、タイマ割込み処理の周期を適宜決定することができる。以下に、PTCカウンタ設定レジスタに記憶する値に応じたタイマ割込み処理の周期について例示する。

10

20

30

40

50

ア) PTCカウンタ設定レジスタに「0」を記憶した場合は、タイマ割込み処理の周期を4ms(ミリ秒)に設定することができる。

イ) PTCカウンタ設定レジスタに「128」を記憶した場合は、タイマ割込み処理の周期を2ms(ミリ秒)に設定することができる。

ウ) PTCカウンタ設定レジスタに「64」を記憶した場合は、タイマ割込み処理の周期を1ms(ミリ秒)に設定することができる。

【0681】

このように、PTCプリスケアラ設定レジスタに値を記憶する処理をしない場合であっても、PTCカウンタ設定レジスタに値を記憶する処理を実行することによって、8ビットカウンタPTCの値の更新を開始することができる。換言すると、PTCプリスケアラ設定レジスタに初期値とは異なる値を記憶したい場合には、PTCカウンタ設定レジスタに値を記憶する処理よりも前にPTCプリスケアラ設定レジスタに値を記憶することが好ましい。例えば、PTCカウンタ設定レジスタに値を記憶した後にPTCプリスケアラ設定レジスタに初期値とは異なる値を記憶してしまった場合には、最初は、PTCプリスケアラ設定レジスタの初期値(250)に応じた周波数に基づいて8ビットカウンタPTCの値の更新し、その後、PTCプリスケアラ設定レジスタに記憶した初期値とは異なる値を記憶した場合には、PTCプリスケアラ設定レジスタに記憶した初期値とは異なる値に応じた周波数に基づいて8ビットカウンタPTCの値の更新がなされることとなる。このような場合には、8ビットカウンタPTCの値の更新周期が一定でなくなるため、主制御チップの故障につながる。そのため、PTCプリスケアラ設定レジスタに値を記憶する処理を実行する場合には、PTCカウンタ設定レジスタに値を記憶する処理よりも前にPTCプリスケアラ設定レジスタに値を記憶することにより、主制御チップの故障を抑制することができる。

【0682】

次に図48を用いて、割込み許可状態及び割込み禁止状態と、IFF1レジスタの関係について、簡単なプログラム例を用いて説明する。

図48の(A)は、遊技進行メイン処理のプログラムを表している。「DI」命令は、マスカブル割込み処理(例えば、タイマ割込み処理)を禁止するための命令(割込みを禁止する命令と称す)である。また、「EI」命令は、マスカブル割込み処理(例えば、タイマ割込み処理)を許可するための命令(割込みを許可する命令と称す)である。

また、「AAAA」、「BBBB」、「CCCC」は、任意の命令(プログラム)である。

【0683】

図48の(A)において、「DI」命令が実行されると、IFF1レジスタが「0」となり割込み禁止状態となる。

その後の、「AAAA」、「BBBB」、「・・・」の命令を実行しているときには、IFF1レジスタが「0」のままとなっている。

その後、「EI」命令が実行されると、IFF1レジスタが「1」となり、割込み許可状態となる。

つまり、「DI」命令から「EI」命令までの期間が、割込み禁止状態となる。

【0684】

しかしながら、タイマ割込み処理が実行可能となるのは、「EI」命令が実行された直後ではなく、「EI」命令を基準として1つ先の命令である「CCCC」命令を実行した後となるように構成されている。

例えば、「DI」命令から「EI」命令までの期間の所定のタイミングにて、8ビットカウンタPTCがタイムアウトし、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶した場合には、「CCCC」命令を実行した後にタイマ割込み処理が実行可能となるように構成されている。なお、「DI」命令から「EI」命令までの期間の所定のタイミングにて、8ビットカウンタPTCがタイムアウトし、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶した場合(すぐ

10

20

30

40

50

に割込み処理が開始されない場合)であっても、8ビットカウンタのカウンタ値は継続して更新を行っている。

このように構成することにより、割込みを許可する命令「EI」が実行されても、次の命令(この例では「CCCC」)を実行するまでは、割込み処理を実行しないようにすることによって、割込みを許可する命令「EI」後の命令を確実に実行することができる。具体的には、割込みを許可する命令「EI」後の命令として、「RET」命令等の復帰命令(戻り番地のプログラムを実行するための命令)を使うことがあり、割込みを許可する命令があったとしても、次の命令を実行するまでは、タイマ割込み処理を実行しないようにすることによって、割込みを許可する命令「EI」後の命令を確実に実行することができる。

10

【0685】

なお、遊技進行メイン処理において、割込みを禁止する命令と割込みを許可する命令を設ける例としては、

ア) 主制御手段から副制御手段に対しコマンドを送信する際において、割込みを禁止する命令を行った後に、コマンドをRAMの記憶領域に書き込む処理等を実行した後に割込みを許可する命令を実行する場合

イ) ブロックをON(メダル受付け許可状態)にする際において、割込みを禁止する命令を行った後に、ブロックをONにするための情報をRAMの記憶領域に書き込む処理とメダル投入可ランプを点灯させるための情報をRAMの記憶領域に書き込む処理等を実行した後に割込みを許可する命令を実行する場合

20

ウ) ブロックをOFF(メダル受付け拒否状態)にする際において、割込みを禁止する命令を行った後に、ブロックをOFFにするための情報をRAMの記憶領域に書き込む処理とメダル投入可ランプを消灯させるための情報をRAMの記憶領域に書き込む処理等を実行した後に割込みを許可する命令を実行する場合

等が挙げられる。

なお、割込みを禁止する命令と割込みを許可する命令を設ける場合は、上述したア)乃至ウ)に限られるものでなく、適宜、割込みを禁止する命令と割込みを許可する命令を設けて良い。

【0686】

このような遊技進行メイン処理における割込み禁止状態は、例えば、複数の命令(命令A、命令B、・・・、命令Z)によって構成される処理を実行している間に、タイマ割込み処理の実行により、RAMのデータが変更されてしまうことやRAMのデータに基づいた不具合を伴う処理の実行を防止するために設けられている。

30

なお、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態は、割込みを禁止する命令(例えば、DI命令)により割込み禁止状態となり、割込みを許可する命令(例えば、EI命令)により割込み許可状態とするようにしたが、上記のDI命令に限らず他の命令によって割込みを禁止し得るようにしても良いし、上記のEI命令に限らず他の命令によって割込みを許可し得るようにしても良い。

【0687】

図48の(B)は、割込み処理のプログラムを表している。図48(A)と同様に、「EI」命令は、マスカブル割込み処理(例えば、タイマ割込み処理)を許可するための命令(割込みを許可する命令と称す)であり、「AAAA」、「BBBB」、「CCCC」、「・・」は、任意の命令(プログラム)である。なお、「RETI」命令とは、タイマ割込み処理を終了する際の命令(復帰命令)であり、例えば図7の「RETURN」に相当する。

40

【0688】

タイマ割込み処理を実行する際(実行する際とは、実行する前(「前」には「直前」を含む)、実行するのと同時、実行する後(「後」には「直後」を含む)の何れであっても良い)に、IFF1レジスタが「0」となる。これにより、タイマ割込み処理中に、次のタイマ割込み処理を実行することがないようにすることができる。なお、タイマ割込み処

50

理を開始する際には、「D I」命令は不要である。

また、タイマ割込み処理を終了する際には、割込み禁止状態から割込み許可状態にするため、割込み処理の直前、すなわち「R E T I」命令の直前に「E I」命令を実行する。この「E I」命令により、I F F 1レジスタが「1」となる。なお、当該「E I」命令は、図7の「割込み許可フラグをONに保存」に相当する。

そして、「E I」命令の後の「R E T I」命令においても、I F F 1レジスタが「1」となっている。

つまり、タイマ割込み処理の開始から「E I」命令までの期間が、割込み禁止状態となる。

【0689】

しかしながら、タイマ割込み処理が実行可能となるのは、「E I」命令が実行された直後ではなく、「E I」命令を基準として1つ先の命令である「R E T I」命令を実行した後となるように構成されている。

例えば、タイマ割込み処理の開始から「E I」命令までの期間の所定のタイミングにて、8ビットカウンタP T Cがタイムアウトし、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶した場合には、「R E T I」命令を実行した後にタイマ割込み処理が実行可能となるように構成されている。なお、タイマ割込み処理の開始から「E I」命令までの期間の所定のタイミングにて、8ビットカウンタP T Cがタイムアウトし、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶した場合（すぐに割込み処理が開始されない場合）であっても、8ビットカウンタ

のカウンタ値は継続して更新を行っている。

このように、「R E T I」命令後において、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶している場合にはタイマ割込み処理が実行可能となり、「R E T I」命令後において、割込み待ちモニタレジスタが割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶していない場合には遊技進行メイン処理が実行可能となるように構成されている。よって、割込みを許可する命令「E I」が実行されても、次の命令である「R E T I」を実行するまでは、割込み処理を実行しないようにすることによって、タイマ割込み処理中に次のタイマ割込み処理が実行されることを防止することができる。

【0690】

次に図49の(1)を用いて、遊技進行メイン処理において割込み禁止状態がない場合におけるタイマ割込み処理と8ビットカウンタP T Cの関係について説明を行う。

P T Cカウンタ設定レジスタに値として「m (mは数値)」を記憶したときは、8ビットカウンタP T Cに「m」が記憶され、その後、更新周期が到来すると、「m-1」、・ ・ ・、「2」、「1」、「m」、「m-1」、「m-2」、・ ・ ・、のように8ビットカウンタP T Cの値を1ずつ更新する。このように、8ビットカウンタP T Cの値は「m」～「1」の間を循環する。

【0691】

t1のタイミングで、8ビットカウンタP T Cの値が「1」から「m」になる。つまり、8ビットカウンタP T Cがタイムアウトした（する）ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。

その後、8ビットカウンタP T Cがタイムアウトしたことに基づいて（割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて）タイマ割込み処理を実行することができる。これは、I F F 1レジスタが「1」であるためである。なお、タイマ割込み処理を実行する際（実行する際とは、実行する前（「前」には「直前」を含む）、実行するのと同時、実行する後（「後」には「直後」を含む）の何れであっても良い）には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、I F F 1レジスタは「0」（割込み禁止状態）となる。

【0692】

10

20

30

40

50

t 2のタイミングで、タイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となり、次の命令である復帰命令（RETI命令）によってタイマ割込み処理を終了する。

【0693】

また、8ビットカウンタPTCの値は、タイマ割込み処理を実行している間であっても、8ビットカウンタPTCの更新周期が到来した場合には更新可能に構成されている。このように構成することによって、タイマ割込み処理に要した時間にかかわらず、8ビットカウンタPTCを更新するため、一定の周期でタイマ割込み処理を実行することができる。

【0694】

次に図49の（2）を用いて、遊技進行メイン処理において割込み禁止状態がある場合におけるタイマ割込み処理と8ビットカウンタPTCの関係について説明を行う。

【0695】

t 1のタイミングで、遊技進行メイン処理において割込みを禁止する命令がなされ、IFF1レジスタが「1」（割込み許可状態）から「0」（割込み禁止状態）となる。

【0696】

t 2のタイミングで、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした（する）ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。しかしながら、遊技進行メイン処理は割込み禁止状態であるため、タイマ割込み処理を実行することができない。そのため、割込み待ちモニタレジスタには、割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶している状況が継続する。また、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした（する）ときが割込み禁止状態であっても、その後も、8ビットカウンタは継続して更新する。

【0697】

t 3のタイミングで、遊技進行メイン処理において割込みを許可する命令がなされ、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となる。

なお、t 3のタイミングにおいて、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることから、遊技進行メイン処理の割込みを許可する命令を基準として遊技進行メイン処理の命令を1命令実行した後に、タイマ割込み処理を実行可能となる。なお、タイマ割込み処理を実行する際（実行する際とは、実行する前（「前」には「直前」を含む）、実行するのと同時、実行する後（「後」には「直後」を含む）の何れであっても良い）には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、IFF1レジスタは「0」（割込み禁止状態）となる。

【0698】

t 4のタイミングで、タイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となり、次の命令である復帰命令（RETI命令）によってタイマ割込み処理を終了する。

【0699】

図49（1）と同様に、8ビットカウンタPTCの値は、タイマ割込み処理を実行している間であっても、8ビットカウンタPTCの更新周期が到来した場合には更新可能に構成されている。このように構成することによって、タイマ割込み処理に要した時間にかかわらず、8ビットカウンタPTCを更新するため、一定の周期でタイマ割込み処理を実行することができる。

【0700】

また、8ビットカウンタPTCの値は、遊技進行メイン処理が割込み禁止状態であっても、8ビットカウンタPTCの更新周期が到来した場合には更新可能に構成されている。このように構成することによって、遊技進行メイン処理が割込み禁止状態であっても、8ビットカウンタPTCを更新するため、一定の周期でタイマ割込み処理を実行することが

10

20

30

40

50

できる。

【0701】

次に図50の<タイマ割込み処理の実行タイミングを示す例(1)>を用いて、遊技進行メイン処理において割込み禁止状態であるときに8ビットカウンタPTCがタイムアウトした際の割込み周期について説明を行う。なお、タイマ割込み処理の正常の周期(8ビットカウンタPTCがタイムアウトしてから、次に8ビットカウンタPTCがタイムアウトまでの期間)を「T」とする。なお、PTCカウンタ設定レジスタに値を記憶してから「T」に係る計測(8ビットカウンタPTCの更新)が開始される。

【0702】

t1のタイミングで、遊技進行メイン処理において割込みを禁止する命令がなされ、IFF1レジスタが「1」(割込み許可状態)から「0」(割込み禁止状態)となる。

10

【0703】

t2のタイミングで、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした(する)ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。しかしながら、遊技進行メイン処理は割込み禁止状態であるため、タイマ割込み処理を実行することができない。そのため、割込み待ちモニタレジスタには、割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶している状況が継続する。また、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした(する)ときが割込み禁止状態であっても、その後も、8ビットカウンタは継続して更新する。

【0704】

20

t3のタイミングで、遊技進行メイン処理において割込みを許可する命令がなされ、IFF1レジスタが「0」(割込み禁止状態)から「1」(割込み許可状態)となる。

なお、t3のタイミングにおいて、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることから、遊技進行メイン処理の割込みを許可する命令を基準として遊技進行メイン処理の命令を1命令実行した後に、タイマ割込み処理を実行可能となる。なお、タイマ割込み処理を実行する際(実行する際とは、実行する前(「前」には「直前」を含む)、実行するのと同時、実行する後(「後」には「直後」を含む)の何れであっても良い)には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、IFF1レジスタは「0」(割込み禁止状態)となる。

30

【0705】

t4のタイミングで、タイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」(割込み禁止状態)から「1」(割込み許可状態)となり、次の命令である復帰命令(RETI命令)によってタイマ割込み処理を終了する。

【0706】

t5のタイミングで、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした(する)ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。

その後、8ビットカウンタPTCがタイムアウトしたことに基づいて(割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて)タイマ割込み処理を実行することができる。これは、IFF1レジスタが「1」であるためである。なお、タイマ割込み処理を実行する際(実行する際とは、実行する前(「前」には「直前」を含む)、実行するのと同時、実行する後(「後」には「直後」を含む)の何れであっても良い)には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、IFF1レジスタは「0」(割込み禁止状態)となる。

40

【0707】

t6のタイミングで、タイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」(割込み禁止状態)から「1」(割込み許可状態)となり、次の命令である復帰命令(RETI命令)によっ

50

てタイマ割込み処理を終了する。

【0708】

t7のタイミングで、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした（する）ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。

その後、8ビットカウンタPTCがタイムアウトしたことに基づいて（割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて）タイマ割込み処理を実行することができる。これは、IFF1レジスタが「1」であるためである。なお、タイマ割込み処理を実行する際（実行する際とは、実行する前（「前」には「直前」を含む）、実行するのと同時、実行する後（「後」には「直後」を含む）の何れであっても良い）には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、IFF1レジスタは「0」（割込み禁止状態）となる。

10

【0709】

t8のタイミングで、タイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となり、次の命令である復帰命令（RETI命令）によってタイマ割込み処理を終了する。

【0710】

ここで、t2のタイミングからt5のタイミングまでの期間はTとなる。同様に、t5のタイミングからt7のタイミングまでの期間はTとなる。例えば、t2のタイミングを「 $n \times T$ （「n」は、自然数）」としたとき、t5のタイミングは、「 $(n+1) \times T$ 」として表すことができる。また、t7のタイミングは、「 $(n+2) \times T$ 」として表すことができる。

20

また、t3のタイミングは、「 $n \times T$ 」の後であって「 $(n+1) \times T$ 」の前の特定タイミング」として表すことができる。

【0711】

まず始めに、t3のタイミングで実行されるタイマ割込み処理について着目する。t3のタイミングで実行されるタイマ割込み処理は、本来であれば、タイマ割込み処理の実行周期であるt2で実行されるはずだった。換言すると、t2のタイミングが遊技進行メイン処理における割込み禁止状態でなければ、t2のタイミングでタイマ割込み処理が実行されるはずであった。つまり、t2のタイミングが遊技進行メイン処理における割込み禁止状態であったため、その後、割込み許可状態となったt3のタイミングで、タイマ割込み処理を実行した。

30

【0712】

次に、t5のタイミングで実行されるタイマ割込み処理について着目する。t5のタイミングで実行されるタイマ割込み処理は、t3のタイミングから「T」を経過する前に実行している。換言すると、t3のタイミングから割込み周期である「T」の計測を開始してはいない。t5のタイミングで実行されるタイマ割込み処理は、t2のタイミングからTが経過したときにタイマ割込み処理が実行されるように構成されている。つまり、タイマ割込み処理が実行されなくてもカウントを更新し続けている8ビットカウンタPTCがタイムアウトしたことに基づいて（割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて）実行されるように構成されている。

40

このように、t2のタイミングを「 $n \times T$ 」とし、t3のタイミングを「 $n \times T$ 」の後であって「 $(n+1) \times T$ 」よりも前の特定タイミング」とし、t4のタイミングを「 $(n+1) \times T$ 」としたとき、t5のタイミングで、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶することができる。換言すると、t5のタイミングでタイマ割込み処理が実行可能となるように構成される。

【0713】

同様に、t7のタイミングで実行されるタイマ割込み処理も、8ビットカウンタPTC

50

がタイムアウトしたことに基づいて（割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて）実行されるように構成されている。

このように、 t_2 のタイミングを「 $n \times T$ 」とし、 t_3 のタイミングを「「 $n \times T$ 」の後であって「 $(n+1) \times T$ 」よりも前の特定タイミング」とし、 t_4 のタイミングを「 $(n+1) \times T$ 」とし、 t_7 のタイミングを「 $(n+2) \times T$ 」としたとき、 t_7 のタイミングで、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶することができる。換言すると、 t_7 のタイミングでタイマ割込み処理が実行可能となるように構成される。

【0714】

以上のとおり、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態により、本来のタイマ割込み処理の周期（ $n \times T$ ）でタイマ割込み処理が実行できなかった場合であっても、当該タイマ割込み処理以降のタイマ割込み処理は、本来のタイマ割込み処理の周期が到来したとき（ $x \times T$ （「 x 」は、自然数））にタイマ割込み処理を実行することができる状況に戻すことができる。これによって、例えば、タイマ割込み処理内で実行するタイマ計測に及ぼす影響（タイマ計測のタイミングが長く）を少なくすることができる。

【0715】

次に、IFF1レジスタが0の状況下において、8ビットカウンタPTCが複数回タイムアウトした際のタイマ割込み処理について図50の<タイマ割込み処理の実行タイミング>を示す例（2）>を用いて説明を行う。

【0716】

<タイマ割込み処理の実行タイミング>を示す例（2）>では、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態中に、遊技進行メイン処理が暴走したり、遊技進行メイン処理に想定外の時間を要した場合について表したものである。なお、このような場合であっても、システムクロックが正常である場合には、8ビットカウンタPTCの値は、正常の周期で更新されるようにすることができる。

【0717】

t_1 のタイミングで、遊技進行メイン処理において割込みを禁止する命令がなされ、IFF1レジスタが「1」（割込み許可状態）から「0」（割込み禁止状態）となる。

【0718】

t_2 のタイミングで、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした（する）ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。しかしながら、遊技進行メイン処理は割込み禁止状態であるため、タイマ割込み処理を実行することができない。そのため、割込み待ちモニタレジスタには、割込み要求信号の発生があったことを示す情報を記憶している状況が継続する。また、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした（する）ときに割込み禁止状態であっても、その後も、8ビットカウンタは継続して更新する。

【0719】

t_3 のタイミングで、再度、8ビットカウンタPTCがタイムアウトする。しかしながら、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されている状況であるため、再度、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶するようなことはしない。なお、その後も、8ビットカウンタは継続して更新する。

【0720】

t_4 のタイミングで、遊技進行メイン処理において割込みを許可する命令がなされ、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となる。

なお、 t_4 のタイミングにおいて、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることから、遊技進行メイン処理の割込みを許可する命令を基準として遊技進行メイン処理の命令を1命令実行した後に、タイマ割込み処理を実行可能となる。なお、タイマ割込み処理を実行する際（実行する際とは、実行する

10

20

30

40

50

前（「前」には「直前」を含む）、実行するのと同様、実行した後（「後」には「直後」を含む）の何れであっても良い）には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、IFF1レジスタは「0」（割込み禁止状態）となる。

【0721】

t5のタイミングで、タイマ割込み処理が終了とタイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となり、次の命令である復帰命令（RETI命令）によってタイマ割込み処理を終了する。

【0722】

t6のタイミングで、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした（する）ときに、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶される。

その後、8ビットカウンタPTCがタイムアウトしたことに基づいて（割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて）タイマ割込み処理を実行することができる。これは、IFF1レジスタが「1」であるためである。なお、タイマ割込み処理を実行する際（実行する際とは、実行する前（「前」には「直前」を含む）、実行するのと同様、実行した後（「後」には「直後」を含む）の何れであっても良い）には、割込み待ちモニタレジスタに記憶されている割込み要求信号の発生があったことを示す情報がクリアされる。なお、先述した通り、タイマ割込み処理を実行している間は、IFF1レジスタは「0」（割込み禁止状態）となる。

【0723】

t7のタイミングで、タイマ割込み処理を終了する。具体的には、タイマ割込み処理内の割込みを許可する命令の実行によって、IFF1レジスタが「0」（割込み禁止状態）から「1」（割込み許可状態）となり、次の命令である復帰命令（RETI命令）によってタイマ割込み処理を終了する。

【0724】

このように、t1のタイミングからt4のタイミングの間で、8ビットカウンタPTCは2回（複数回）タイムアウトした場合であっても、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されるのは1回である。なお、図50では、割込み禁止状態中に8ビットカウンタPTCが2回タイムアウトした例を挙げたが、割込み禁止状態中に8ビットカウンタPTCが3回タイムアウトした場合、4回タイムアウトした場合も、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されるのは1回である。そして、割込み禁止状態が終了した後、割込み待ちモニタレジスタに割込み要求信号の発生があったことを示す情報が記憶されていることに基づいて実行されるタイマ割込み処理は1回である。なお、割込み禁止状態中に8ビットカウンタPTCが複数回タイムアウトした場合であっても、タイムアウトした回数はカウントしていない。

【0725】

以上のとおり、割込み禁止状態中に8ビットカウンタPTCが「n」（「n」は、2以上）回タイムアウトした場合において、割込み禁止状態から割込み許可状態となった後に、タイマ割込み処理が「n」回連続して（繰り返して）実行されないように構成されている。

このように構成することによって、割込み許可状態から割込み許可状態となった後にタイマ割込み処理が複数回連続して繰り返され、その間に遊技進行メイン処理が実行できなくなってしまうことを防止することができる。

【0726】

なお、図50の＜タイマ割込み処理の実行タイミングを示す例（2）＞では、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態中に、遊技進行メイン処理が暴走したり、遊技進行メイン処理に想定外の時間を要した場合について表したものであるが、同様に、タイマ割込み処理における割込み禁止状態中に、タイマ割込み処理が暴走したり、タイマ割込み処理

10

20

30

40

50

に想定外の時間を要し、タイマ割込み処理における割込み禁止状態中に、8ビットカウンタPTCが「n」（「n」は、2以上）回タイムアウトした場合であっても、割込み禁止状態から割込み許可状態となった後に、タイマ割込み処理が「n」回連続して（繰り返して）実行されないように（1回だけ実行されるように）構成されている。

【0727】

<プログラムの設計上の処理時間>

プログラムとは、複数の命令によって構成されたものをいう。このとき、或るプログラムの開始から或るプログラムの終了までの設計上の処理時間とは、或るプログラムの開始に係る命令（例えばA命令）から或るプログラムの終了に係る命令（例えばZ命令）までの命令の種類から算出することができる。

【0728】

まず、1つの命令を実行するのに要する時間は、1つの命令を実行するのに要するステート数と、システムクロックの周波数から算出することができる。具体的には、 $1 / \text{システムクロック周波数} \times \text{ステート数}$ によって、1つの命令を実行するのに要する時間を算出することができる。なお、ステート数とは、クロック数と読み替えることができる。

以下では、16MHzのシステムクロックを用いた場合において具体的な命令を用いて、1つの命令を実行するのに要する時間について説明する。

（ア）DI

命令の内容：割込み処理を禁止する命令

ステート数：4ステート

命令を実行するのに要する時間： $1 / 16 \text{ MHz} \times 4 = 0.25 \mu \text{S}$ （マイクロ秒）

（イ）EI

命令の内容：割込み処理を許可する命令

ステート数：4ステート

命令を実行するのに要する時間： $1 / 16 \text{ MHz} \times 4 = 0.25 \mu \text{S}$ （マイクロ秒）

（ウ）DEC（HL）

命令の内容：HLレジスタが示すアドレスに記憶されている値を1減算する。

ステート数：11ステート

命令を実行するのに要する時間： $1 / 16 \text{ MHz} \times 11 = 0.6875 \mu \text{S}$ （マイクロ秒）

【0729】

このように、同じシステムクロックの周波数を用いている場合であっても、1つの命令を実行するのに要する時間は、命令の種類によって異なる場合を有するように構成されている。また、異なる命令であっても、1つの命令を実行するのに要する時間が同じ場合を有するように構成されている。なお、上記の命令は複数ある命令の一部であって、上記の命令以外にも多数の命令が存在する。

なお、遊技進行メイン処理を実行する際のシステムクロックの周波数と、タイマ割込み処理を実行する際のシステムクロック数は同じである。そのため、例えば、遊技進行メイン処理において「EI」命令を実行する際に要する時間と、タイマ割込み処理において「EI」命令を実行する際に要する時間は同じである。

【0730】

つまり、或るプログラムの設計上の処理時間とは、或るプログラムの開始から或るプログラムの終了までの複数の命令の合計のステート数から算出することができる。具体的には、 $1 / \text{システムクロック周波数} \times \text{合計のステート数}$ を算出することによって算出することができる。換言すると、システムクロックの周波数は、一の遊技機においては一律であることから、合計のステート数の多いプログラムの方が、合計のステート数の少ないプログラムよりも、設計上の処理時間が長くなることとなる。

【0731】

<タイマ割込み処理の設計上の処理時間>

タイマ割込み処理の設計上の処理時間とは、タイマ割込み処理が開始してから終了する

10

20

30

40

50

まで（例えば、R E T I 命令を実行するまで）の時間である。ただし、R W M に記憶されている情報の相違や、遊技の進行状況の相違によって実行する命令が異なるため、正常にタイマ割込み処理が実行された場合であっても、タイマ割込み処理の処理時間には、多少バラつきが生じる。換言すると、タイマ割込み処理で実行する命令が必ずしも全てのタイマ割込み処理で同一でないため、1 回のタイマ割込み処理を実行した場合の合計のステート数が異なる。そのため、正常にタイマ割込み処理が実行された場合であって、タイマ割込み処理が開始してから終了するまでの平均の時間を、タイマ割込み処理の設計上の処理時間とする。なお、タイマ割込み処理の設計上の処理時間を、タイマ割込み処理に係る時間とも称することもある。

【0732】

＜タイマ割込み処理の設計上の最大処理時間＞

タイマ割込み処理の設計上の最大時間とは、タイマ割込み処理が開始してから終了するまでの時間であるという点においては、タイマ割込み処理の設計上の処理時間と同様である。また、先述したとおり、正常にタイマ割込み処理を実行した場合であっても、タイマ割込み処理の処理時間には、多少バラつきが生じる。そこで、1 回のタイマ割込み処理を開始してから終了するまでに最も合計のステート数が多い命令を実行した場合に要する時間をタイマ割込み処理の設計上の最大処理時間とする。なお、タイマ割込み処理の設計上の最大処理時間を、タイマ割込み処理に係る最大時間とも称することもある。

【0733】

＜遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間＞

遊技進行メイン処理における割込み禁止状態が1つしかない場合においては、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間とは、割込みを禁止する命令（例えば、D I 命令）から、割込みを許可する命令（例えば、E I 命令）までの時間（遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の処理時間とも称する）である（電源がオンとなった後から割込みを許可する命令の実行までの状態は除く）。ただし、R A M に記憶されている情報の相違や、遊技の進行状況の相違によって実行する命令が異なるため、正常に遊技進行メイン処理が実行された場合であっても、合計のステート数が異なる場合がある。そのため、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の処理時間は、多少バラつきが生じる。換言すると、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態で実行する命令が必ずしも同一でないため、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の処理を実行した場合の合計のステート数が異なる。そこで、正常に遊技進行メイン処理が実行された場合であって、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の処理時間の平均の時間を、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間とする。

【0734】

また、遊技進行メイン処理における割り込み禁止状態を少なくとも2つ備えている場合は、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間をそれぞれ算出し、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間が最も長い時間を、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間とする。なお、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間を、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態に係る時間とも称することもある。

【0735】

＜遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の最大処理時間＞

遊技進行メイン処理における割込み禁止状態が1つしかない場合においては、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態が開始してから割込み禁止状態が終了するまでに最も合計のステート数が多い命令を実行した場合に要する時間を、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の最大処理時間とする。

【0736】

また、遊技進行メイン処理における割り込み禁止状態を少なくとも2つ備えている場合は、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の最大処理時間をそれぞれ算出し、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の最大処理時間が最も長い時間

10

20

30

40

50

を、遊技進行メイン処理における割込み禁止区間の設計上の最大処理時間とする。なお、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の最大処理時間を、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態に係る最大時間とも称することもある。

【0737】

＜タイマ割込みの周期と、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間の関係＞

タイマ割込み処理の周期（8ビットカウンタPTCがタイムアウトする周期）を「 T 」とし、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間を「 S' 」としたとき、 $T > S'$ を満たすように構成することが好ましい。

このように構成することによって、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態を実行している間に、タイマ割込みの周期が複数回到来することを極力防止することができる。換言すると、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の影響により、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした回数よりタイマ割込み処理を実行した回数と異なる（タイマ割込み処理を実行する回数が少なくなる）ということを防止することができる。

10

【0738】

＜タイマ割込みの周期と、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の最大処理時間の関係＞

タイマ割込み処理の周期（8ビットカウンタPTCがタイムアウトする周期）を「 T 」とし、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間を「 S 」としたとき、 $T > S$ とすることが好ましい。

20

このように構成することによって、 $T > S'$ （ S' は、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の設計上の処理時間）と構成した場合と比較して、より一層、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態を実行している間に、タイマ割込みの周期が複数回到来することを極力防止することができる。換言すると、遊技進行メイン処理における割込み禁止状態の影響により、8ビットカウンタPTCがタイムアウトした回数よりタイマ割込み処理を実行した回数と異なる（タイマ割込み処理を実行する回数が少なくなる）ということを防止することができる。

【0739】

＜タイマ割込みの周期と、タイマ割込み処理の設計上の処理時間の関係＞

タイマ割込み処理の周期（8ビットカウンタPTCがタイムアウトする周期）を「 T 」とし、タイマ割込み処理の設計上の処理時間「 t' 」としたとき、 $T/2 > t'$ とすることが好ましい。つまり、タイマ割込み処理の設計上の処理時間をタイマ割込み処理の周期の半分未満の期間に構成することが好ましい。

30

このように構成することによって、タイマ割込み処理の周期が到来したときにタイマ割込み処理を実行し、その後、次のタイマ割込み処理の周期が到来するまでに、遊技進行メイン処理を $T/2$ よりも長い期間実行することができる。換言すると、タイマ割込み処理の実行によってメイン処理が実行できる期間が短くなり過ぎないようにすることができる。

【0740】

＜タイマ割込みの周期と、タイマ割込み処理の設計上の最大処理時間の関係＞

タイマ割込み処理の周期（8ビットカウンタPTCがタイムアウトする周期）を「 T 」とし、タイマ割込み処理の設計上の最大処理時間「 t 」としたとき、 $T/2 > t$ とすることが好ましい。つまり、タイマ割込み処理の設計上の最大処理時間をタイマ割込み処理の周期の半分未満の期間に構成することが好ましい。

40

このように構成することによって、 $T/2 > t'$ （ t' は、タイマ割込み処理の設計上の処理時間）と構成した場合と比較して、より一層、タイマ割込み処理の周期が到来したときにタイマ割込み処理を実行し、その後、次のタイマ割込み処理の周期が到来するまでに、遊技進行メイン処理を $T/2$ よりも長い期間実行することができる。換言すると、タイマ割込み処理の実行によってメイン処理が実行できる期間が短くなり過ぎないようにすることができる。

【0741】

50

<<<本発明における遊技機の仕様1>>>

<概要>

本発明における遊技機では、1種BB-A、1種BB-B、1種BB-C及び1種BB-Dの4種類の1種BBを備えている。1種BB-A～Cの3種類の1種BBの条件装置が作動した場合には、RT状態が移行し得るよう構成されている。一方、1種BB-Dの条件装置が作動した場合には、RT状態が移行しないように構成されている。つまり、1種BB-A～Cの3種類の1種BB中では、1種BB中用のRT状態となり、1種BBが終了すると非RTとなる。1種BB-D中は、1種BB-Dに当選した際のRT状態が継続して用いられ、1種BB-Dが終了してもRT状態は移行しない。

また、キャラA揃いの図柄組合せ（再遊技）が停止表示された場合にはATが付与されるよう構成されており、キャラA揃いの図柄組合せは、或る1のRT状態（以降で説明するRT4）で停止表示されやすくなっている。

【0742】

本発明における遊技機では、図51に示すリール配列となっている。図51の第1回胴は左リール8aに相当し、第2回胴は中リール8bに相当し、第3回胴は右リール8cに相当する。図51に示す通り、本発明における遊技機のリールに描かれている図柄は、「赤セブン」、「白セブン」、「チェリー」、「スイカ」、「ベル」、「キャラA」、「キャラB」、「リプレイ」、「blankA」、「blankB」の10種類である。

【0743】

表示窓からは縦3×横3の9図柄が視認可能となっており、有効ラインは、左リール8a、中リール8b、右リール8cの全てにおいて中段であり、1ラインとなっている。

【0744】

図52～図57は図柄の組合せを示している。図52～図57の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」の欄の「再遊技」とはリプレイのことであり、「入賞」とは小役のことである。

【0745】

図58は、ボーナスに係る条件装置一覧表及びボーナス終了条件一覧表である。例えば、ボーナス条件装置番号「1」の「1種BB-A条件装置」は構成要素「1種BB01」から構成されている。「1種BB01」は、図52の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「1種BB01作動図柄」と対応している。より具体的には「白セブンー白セブンー白セブン」の図柄組合せが対応している。なお、1種BB-Aは、269枚を超える遊技メダルの払い出しで終了し、終了後は非RTに移行する（必要があれば図77を参照）。

【0746】

図59は、入賞又は再遊技に係る条件装置一覧表である。「入賞再遊技」の項目には条件装置番号が記載されており、「条件装置」の項目には条件装置名称（「再遊技-A1条件装置」等）が記載されており、「通称」の項目には条件装置の通称（「リプレイ」等）が記載されており、「構成要素」の項目には条件装置により停止可能な図柄組合せの名称（「再遊技01」等）が記載されている。

【0747】

図60～図64は、入賞又は再遊技に係る条件装置に対応する制御を示す説明図である。「入賞再遊技」の項目には条件装置番号が記載されており、「条件装置」の項目には条件装置名称が記載されており、「通称」の項目には条件装置の通称が記載されており、「構成要素」の項目には条件装置により停止可能な図柄組合せの名称が記載されており、「制御関連」の項目には遊技状態毎におけるストップスイッチの押し順と入賞可能な図柄組合せの名称が記載されている。

【0748】

例えば、図60における条件装置番号「1」の条件装置「再遊技-A1条件装置」は構成要素「再遊技01～02」から構成されている。「再遊技01」は、図52の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「再遊技01作動図柄」と対応している。よ

10

20

30

40

50

り具体的には「リブレイーリブレイーリブレイ」の図柄組合せが対応している。また、「再遊技 0 2」は、図 5 2 の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「再遊技 0 2 作動図柄」と対応している。より具体的には「ベルーリブレイー赤セブン」の図柄組合せが対応している。図 6 0 にはさらに、ストップスイッチ 1 3 の操作される順序に関係なく、いずれの押し順で停止操作されても「再遊技 0 1」が停止表示されることが記載されている。なお、以降の説明や図面において、「条件装置」の文言を省略して「再遊技ー A 1」のように記載することもある。また、他の条件装置についても同様であり、例えば、以降に説明する「入賞ー A 4 条件装置」では「入賞ー A 4」のように記載することもある。

【 0 7 4 9 】

例えば、図 6 2 における条件装置番号「3 5」の条件装置「入賞ー A 4 条件装置」は構成要素「入賞 0 4、1 0～1 2」から構成されている。「入賞 0 4」は、図 5 5 の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞 0 4 入賞図柄」と対応している。より具体的には「スイカーベルーチェリー」、「スイカーベルーブランク A」の 2 個の図柄組合せが対応している。また、「入賞 1 0」は、図 5 5 の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞 1 0 入賞図柄」と対応している。より具体的には「リブレイースイカーキャラ A」、「リブレイースイカースイカ」、「リブレイースイカーブランク B」、「リブレイーブランク Aーキャラ A」、「リブレイーブランク Aースイカ」、「リブレイーブランク Aーブランク B」、「リブレイーブランク Bーキャラ A」、「リブレイーブランク Bースイカ」、「リブレイーブランク Bーブランク B」の 9 個の図柄組合せが対応している。「入賞 1 1」は、図 5 5 の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞 1 1 入賞図柄」と対応している。より具体的には「ベルーベルーチェリー」、「ベルーベルーブランク A」の 2 個の図柄組合せが対応している。「入賞 1 2」は、図 5 5 乃至図 5 6 の「入賞図柄・作動図柄・パターン図柄名称」における「入賞 1 2 入賞図柄」と対応している。より具体的には「リブレイー赤セブンーリブレイ」、「リブレイー白セブンーリブレイ」、「リブレイーキャラ Aーリブレイ」、「リブレイーキャラ Bーリブレイ」の 4 個の図柄組合せが対応している。

【 0 7 5 0 】

さらに図 6 2 における条件装置番号「3 5」の条件装置「入賞ー A 4 条件装置」は、右リール 8 c に対応する右ストップスイッチ 1 3 c が最初に停止操作され、左リール 8 a に対応する左ストップスイッチ 1 3 a が 2 番目に停止操作され、中リール 8 b に対応する中ストップスイッチ 1 3 b が 3 番目に停止操作されると入賞 0 4 が停止表示され、小役（9 枚役）を獲得することができることが記載されている。一方、中リール 8 b に対応する中ストップスイッチ 1 3 b が最初に停止操作され、左リール 8 a に対応する左ストップスイッチ 1 3 a が 2 番目に停止操作され、右リール 8 c に対応する右ストップスイッチ 1 3 c が 3 番目に停止操作され入賞 1 1 が停止表示されたとき、左リール 8 a に対応する左ストップスイッチ 1 3 a が最初に停止操作され、入賞 1 0 が停止表示されたとき、又は、左リール 8 a に対応する左ストップスイッチ 1 3 a が 3 番目に停止操作され、入賞 1 2 が停止表示されたとき、には小役（9 枚役である入賞 0 4）を取りこぼすことが記載されている。

【 0 7 5 1 】

図 6 5 乃至図 6 6 は、非 R T 且つボーナス非内部中・非作動中（「非 R T（通常時）」とも称する）における内部抽せんデータとなっている。図中の「R 1」～「R 6」は「設定 1」～「設定 6」にそれぞれ対応している。また、例えば図 6 5 の R 1 における 1 種 B BーD に対応する位置に「3 4 1」の数値があるが、これは R 1 における 1 種 B BーD の置数であり、全体の置数が 6 5 5 3 6 であるため、R 1（設定 1）における 1 種 B BーD の当せん確率は $3 4 1 / 6 5 5 3 6$ であることを示している。

【 0 7 5 2 】

図 6 7 乃至図 6 8 は、R T 4 且つボーナス非内部中・非作動中（「R T 4（通常時）」とも称する）における内部抽せんデータとなっている。図 6 9 乃至図 7 0 は、非 R T 且つ 1 種 B BーD 作動時非内部中（「非 R T（1 種 B BーD 作動時非内部中）」とも称する）

10

20

30

40

50

における内部抽せんデータとなっている。図 7 1 乃至図 7 2 は、R T 4 且つ 1 種 B B - D 作動時非内部中（「R T 4（1 種 B B - D 作動時非内部中）」とも称する）における内部抽せんデータとなっている。図 7 3 乃至図 7 4 は、非 R T 且つ S B - A 又は S B - B 作動中（「非 R T（S B - A、B 作動中）」とも称する）における内部抽せんデータとなっている。図 7 5 乃至図 7 6 は、R T 4 且つ S B - A 又は S B - B 作動中（「R T 4（S B - A、B 作動中）」とも称する）における内部抽せんデータとなっている。

【0753】

次に、本発明における遊技機の遊技状態（R T 状態）の移行について図 7 7 を基に説明する。

【0754】

<<遊技状態（R T 状態）>>

初めに、R T 状態の移行に用いる各 R T 状態について図 7 7 を用いて説明する。なお、R T 状態の移行条件の詳細は後述する。

【0755】

<非 R T>

非 R T は、R W M 初期化時、R T 1 で 1 5 回の遊技の結果が得られたとき、R T 2 乃至 R T 4 で入賞 1 0 入賞図柄、入賞 1 1 入賞図柄、入賞 1 2 入賞図柄、入賞 1 3 入賞図柄又は再遊技 0 1 作動図柄が表示されたとき、1 種 B B - A、1 種 B B - B 又は 1 種 B B - C の作動が終了したとき、に設定される又は移行する R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ~ 6 のいずれも $8978/65536$ である。

【0756】

<R T 1>

R T 1 は、非 R T で入賞 1 4 入賞図柄（図 5 9 等では「入賞 1 4」と示す）が停止表示されると移行する R T 状態である。内部抽せんで主に再遊技 - A 2 条件装置に当選する確率が非 R T より高く、再遊技 - C 1 条件装置に当選する確率が非 R T より低い R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ~ 6 のいずれも $8978/65536$ である。

【0757】

<R T 2>

R T 2 は、非 R T で再遊技 0 7 作動図柄（図 5 9 等では「再遊技 0 7」と示す）が停止表示されると移行する R T 状態である。内部抽せんで主に再遊技 - A 2 条件装置、再遊技 - C 1 条件装置及び再遊技 - D 1 条件装置に当選する確率が非 R T、R T 1 より高い R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ~ 6 のいずれも $8978/65536$ である。

【0758】

<R T 3>

R T 3 は、非 R T 又は R T 2 で再遊技 0 3 作動図柄（図 5 9 等では「再遊技 0 3」と示す）が停止表示されると移行する R T 状態である。内部抽せんで主に再遊技 - C 1 条件装置に当選する確率が非 R T、R T 1 及び R T 2 より高く、再遊技 - A 2 条件装置に当選する確率が非 R T より低い R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ~ 6 のいずれも $8978/65536$ である。

【0759】

<R T 4>

R T 4 は、非 R T、R T 2 及び R T 3 で再遊技 0 4 作動図柄（図 5 9 等では「再遊技 0 4」と示す）又は再遊技 0 9 作動図柄（図 5 9 等では「再遊技 0 9」と示す）が停止表示されると移行する R T 状態である。内部抽せんで主に再遊技 - A 3 条件装置、再遊技 - A 4 条件装置、再遊技 - B 1 条件装置 ~ 再遊技 - B 5 条件装置に当選する確率が非 R T、R T 1 ~ R T 3 より高く、その他の再遊技に係る条件装置（1 種 B B の条件装置との重複を含む）に当選する確率が非 R T 等より低い R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ~ 6 のいずれも $8978/65536$ である。

【0760】

10

20

30

40

50

< R T 5 >

R T 5 は、非 R T ～ R T 4 で 1 種 B B - A 条件装置、1 種 B B - B 条件装置又は 1 種 B B - C 条件装置が作動したときに移行する R T 状態である。言い換えると、R T 5 は、1 種 B B - A 条件装置作動中であり 1 種 B B 0 1 作動図柄が停止表示されていない、1 種 B B - B 条件装置作動中であり 1 種 B B 0 2 作動図柄又は 1 種 B B 0 3 作動図柄が停止表示されていない、又は、1 種 B B - C 条件装置作動中であり 1 種 B B 0 4 作動図柄が停止表示されていない、R T 状態である。内部抽せんで主に再遊技 - A 1 条件装置に当選する確率が非 R T ～ R T 4 より高い R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ～ 6 のいずれも 8 9 7 8 / 6 5 5 3 6 である。

【 0 7 6 1 】

10

< R T 6 >

R T 6 は、R B - A 条件装置又は R B - B 条件装置が作動したときに移行する R T 状態である。言い換えると、R B - A 条件装置作動中であり R B 0 1 作動図柄が停止表示されていない、又は R B - B 条件装置作動中であり R B 0 2 作動図柄が停止表示されていない、R T 状態である。つまり、1 種 B B - A 作動中且つ R B - A 条件装置作動中で R B 0 1 作動図柄が停止表示されていない、又は、1 種 B B - B 作動中且つ R B - B 条件装置作動中で R B 0 1 作動図柄が停止表示されていない、R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ～ 設定 5 で 2 4 0 0 0 / 6 5 5 3 6、設定 6 で 2 2 3 8 0 / 6 5 5 3 6 である

【 0 7 6 2 】

< R T 7 >

20

R T 7 は、R B - C 条件装置又は R B - D 条件装置が作動したときに移行する R T 状態である。言い換えると、R B - C 条件装置作動中であり R B 0 3 作動図柄が停止表示されていない、又は R B - D 条件装置作動中であり R B 0 4 作動図柄が停止表示されていない、R T 状態である。つまり、1 種 B B - C 作動中且つ R B - C 条件装置作動中で R B 0 3 作動図柄が停止表示されていない、又は、1 種 B B - C 作動中且つ R B - D 条件装置作動中で R B 0 4 作動図柄が停止表示されていない、R T 状態である。なお、再遊技に当選する確率は設定 1 ～ 設定 5 で 2 4 0 0 0 / 6 5 5 3 6、設定 6 で 2 2 3 8 0 / 6 5 5 3 6 である。

【 0 7 6 3 】

< R T 8 >

30

R T 8 は、R T 6 で R B 0 1 作動図柄又は R B 0 2 作動図柄が停止表示されたとき、又は、R T 7 で R B 0 3 作動図柄又は R B 0 4 作動図柄が停止表示されたとき、に移行する R T 状態である。言い換えると、R B 作動中である。

【 0 7 6 4 】

<< 移行条件 >>

次に、R T 状態の移行に用いられる移行条件について説明する。

【 0 7 6 5 】

< 条件 (1) について >

条件 (1) は、「入賞 1 4 入賞図柄が表示されたとき」である。具体的には、図 5 6 に示す「リプレーチェリーーリプレイ」が表示されたときである。

40

【 0 7 6 6 】

< 条件 (2) について >

条件 (2) は、「1 5 回の遊技の結果が得られたとき」である。具体的には、同一の R T 状態において 1 5 回の遊技が行われたときである。

【 0 7 6 7 】

< 条件 (3) について >

条件 (3) は、「再遊技 0 7 作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、図 5 3 に示す「リプレーリプレーチェリー」、「リプレーリプレーブランク A」の 2 個の図柄組合せのうちのいずれかの図柄組合せが表示されたときである。

【 0 7 6 8 】

50

<条件（４）について>

条件（４）は、「再遊技０３作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、図５２に示す「リプレーベルーチェリー」、「リプレーベルーblank A」の２個の図柄組合せのうちのいずれかの図柄組合せが表示されたときである。

【０７６９】

<条件（５）について>

条件（５）は、「再遊技０４作動図柄が表示されたとき又は再遊技０９作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、図５２乃至図５３に示す再遊技０４作動図柄である「キャラＢーリプレー赤セブン」、「キャラＢーリプレー白セブン」、「キャラＢーリプレーキャラＡ」、「キャラＢーリプレーキャラＢ」、「スイカーリプレー赤セブン」、「スイカーリプレー白セブン」、「スイカーリプレーキャラＡ」、「スイカーリプレーキャラＢ」、「blank Aーリプレー赤セブン」、「blank Aーリプレー白セブン」、「blank AーリプレーキャラＡ」、「blank AーリプレーキャラＢ」、「blank Bーリプレー赤セブン」、「blank Bーリプレー白セブン」、「blank BーリプレーキャラＡ」、「blank BーリプレーキャラＢ」の１６個の図柄組合せ、又は図５３に示す再遊技０９作動図柄である「チェリーー赤セブンーリプレイ」、「チェリーー白セブンーリプレイ」、「チェリーーキャラＡーリプレイ」、「チェリーーキャラＢーリプレイ」の４個の図柄組合せのうちのいずれかの図柄組合せが表示されたときである。

【０７７０】

<条件（６）について>

条件（６）は、「入賞１０入賞図柄、入賞１１入賞図柄、入賞１２入賞図柄、入賞１３入賞図柄又は再遊技０１作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、図５５に示す入賞１０入賞図柄である「リプレースイカーキャラＡ」、「リプレースイカースイカ」、「リプレースイカーblank B」、「リプレーblank AーキャラＡ」、「リプレーblank Aースイカ」、「リプレーblank Aーblank B」、「リプレーblank BーキャラＡ」、「リプレーblank Bースイカ」、「リプレーblank Bーblank B」の９個の図柄組合せ、図５５に示す入賞１１入賞図柄である「ベルーベルーチェリー」、「ベルーベルーblank A」の２個の図柄組合せ、図５５乃至図５６に示す入賞１２入賞図柄である「リプレー赤セブンーリプレイ」、「リプレー白セブンーリプレイ」、「リプレーキャラＡーリプレイ」、「リプレーキャラＢーリプレイ」の４個の図柄組合せ、図５６に示す入賞１３入賞図柄である「ベルーチェリーーキャラＡ」、「ベルーチェリーースイカ」、「ベルーチェリーーblank B」の３個の図柄組合せ、図５２に示す再遊技０１作動図柄である「リプレーリプレーリプレイ」の１個の図柄組合せのうちのいずれかの図柄組合せが表示されたときである。

【０７７１】

<条件（７）について>

条件（７）は、「１種ＢＢーＡ条件装置、１種ＢＢーＢ条件装置又は１種ＢＢーＣ条件装置が作動したとき」である。具体的には、図５２に示す１種ＢＢ０１作動図柄である「白セブンー白セブンー白セブン」の図柄組合せが表示可能となるように１種ＢＢーＡ条件装置が作動したとき、図５２に示す１種ＢＢ０２作動図柄である「赤セブンー赤セブンー赤セブン」又は１種ＢＢ０３作動図柄である「blank Aー赤セブンーblank B」の図柄組合せが表示可能となるように１種ＢＢーＢ条件装置が作動したとき、図５２に示す１種ＢＢ０４作動図柄である「赤セブンー赤セブンー白セブン」の図柄組合せが表示可能となるように１種ＢＢーＣ条件装置が作動したときである。

【０７７２】

<条件（８）について>

条件（８）は、「１種ＢＢ０１作動図柄、１種ＢＢ０２作動図柄、１種ＢＢ０３作動図柄又は１種ＢＢ０４作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、１種ＢＢーＡ条件装置作動中に図５２に示す１種ＢＢ０１作動図柄である「白セブンー白セブンー白セブン

」の図柄組合せが表示されたとき、1種BB-B条件装置作動中に図52に示す1種BB02作動図柄である「赤セブン-赤セブン-赤セブン」又は1種BB03作動図柄である「blankA-赤セブン-blankB」の図柄組合せが表示されたとき、1種BB-C条件装置作動中に図52に示す1種BB04作動図柄である「赤セブン-赤セブン-白セブン」の図柄組合せが表示されたときである。

【0773】

＜条件（9）について＞

条件（9）は、「RB-A条件装置又はRB-B条件装置が作動したとき」である。具体的には、図52に示すRB01作動図柄である「赤セブン-blankA-blankB」の図柄組合せが表示可能となるようにRB-A条件装置が作動したとき、図52に示すRB02作動図柄である「赤セブン-blankB-blankB」の図柄組合せが表示可能となるようにRB-B条件装置が作動したときのうちいずれかの条件装置が作動したときである。

10

【0774】

＜条件（10）について＞

条件（10）は、「RB-C条件装置又はRB-D条件装置が作動したとき」である。具体的には、図52に示すRB03作動図柄である「blankA-blankA-blankB」の図柄組合せが表示可能となるようにRB-C条件装置が作動したとき、図52に示すRB04作動図柄である「blankA-blankB-blankB」の図柄組合せが表示可能となるようにRB-D条件装置が作動したときのうちいずれかの条件装置が作動したときである。

20

【0775】

＜条件（11）について＞

条件（11）は、「RB01作動図柄又はRB02作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、RB-A条件装置作動中に図52に示すRB01作動図柄である「赤セブン-blankA-blankB」の図柄組合せが表示されたとき、RB-B条件装置作動中に図52に示すRB02作動図柄である「赤セブン-blankB-blankB」の図柄組合せが表示されたときのうちいずれかの図柄組合せが表示されたときである。

【0776】

＜条件（12）について＞

条件（12）は、「RB03作動図柄又はRB04作動図柄が表示されたとき」である。具体的には、RB-C条件装置作動中に図52に示すRB03作動図柄である「blankA-blankA-blankB」の図柄組合せが表示されたとき、RB-D条件装置作動中に図52に示すRB04作動図柄である「blankA-blankB-blankB」の図柄組合せが表示されたときのうちいずれかの図柄組合せが表示されたときである。

30

【0777】

＜条件（13）について＞

条件（13）は、「RB-A、RB-B、RB-C又はRB-Dの作動が終了したとき」である。具体的には、図58に示すように、12回の遊技又は8回の入賞、1種BBの作動終了、によりRB-A、RB-B、RB-C又はRB-Dの作動が終了したときである。

40

【0778】

＜条件（14）について＞

条件（14）は、「1種BB-A、1種BB-B又は1種BB-Cの作動が終了したとき」である。具体的には、1種BB-Aは269枚を超える遊技メダルの獲得（払い出し）があったとき、1種BB-Bは197枚を超える遊技メダルの獲得（払い出し）があったとき、1種BB-Cは89枚を超える遊技メダルの獲得があったとき、に作動が終了し、これらのうちいずれかの作動が終了したときである。

【0779】

＜＜RT状態の移行＞＞

50

次に、R T 状態の移行について図 7 7 を用いて説明する。

【0 7 8 0】

＜非 R T 滞在時＞

R W M が初期化された後は、非 R T が設定される。非 R T からは、R T 1、R T 2、R T 3、R T 4、R T 5 へ移行し得る。

【0 7 8 1】

非 R T で、条件（1）が成立することにより R T 1 へ移行し、条件（3）が成立することにより R T 2 へ移行し、条件（4）が成立することにより R T 3 へ移行し、条件（5）が成立することにより R T 4 へ移行し、条件（7）が成立することにより R T 5 へ移行する。

10

【0 7 8 2】

つまり、非 R T で、条件（1）である「リプレーチェリーーリプレイ」の図柄組合せが停止すると R T 1 へ移行し、条件（3）である「リプレーーリプレーーチェリー」又は「リプレーーリプレーーblank A」のいずれかの図柄組合せが停止すると R T 2 へ移行し、条件（4）である「リプレーブルーチェリー」又は「リプレーブルーblank A」のいずれかの図柄組合せが停止すると R T 4 へ移行し、条件（7）である 1 種 B B - A 条件装置が作動したとき、1 種 B B - B 条件装置が作動したとき、1 種 B B - C 条件装置が作動したときには R T 5 へ移行する。

【0 7 8 3】

＜R T 1 滞在時＞

R T 1 からは、非 R T 又は R T 5 へ移行し得る。条件（2）が成立することにより非 R T へ移行し、条件（7）が成立することにより R T 5 へ移行する。

20

【0 7 8 4】

つまり、R T 1 で、条件（2）である 1 5 回の遊技が行われたときに非 R T へ移行し、条件（7）である 1 種 B B - A 条件装置が作動したとき、1 種 B B - B 条件装置が作動したとき、1 種 B B - C 条件装置が作動したときには R T 5 へ移行する。

【0 7 8 5】

＜R T 2 滞在時＞

R T 2 からは、非 R T、R T 1、R T 3、R T 4 又は R T 5 へ移行し得る。R T 2 で、条件（6）が成立することにより非 R T へ移行し、条件（4）が成立することにより R T 3 へ移行し、条件（5）が成立することにより R T 4 へ移行し、条件（1）が成立することにより R T 1 へ移行し、条件（7）が成立することにより R T 5 へ移行する。

30

【0 7 8 6】

つまり、R T 2 で、条件（6）である「リプレースイカーキャラ A」、「リプレースイカースイカ」、「リプレースイカーblank B」、「リプレーblank A - キャラ A」、「リプレーblank A - スイカ」、「リプレーblank A - blank B」、「リプレーblank B - キャラ A」、「リプレーblank B - スイカ」、「リプレーblank B - blank B」、「ブルーブルーチェリー」、「ブルーブルーblank A」、「リプレー赤セブンーリプレイ」、「リプレー白セブンーリプレイ」、「リプレーキャラ A - リプレイ」、「リプレーキャラ B - リプレイ」、「ブルーチェリーーキャラ A」、「ブルーチェリーースイカ」、「ブルーチェリーーblank B」、「リプレーーリプレーーリプレイ」のいずれかの図柄組合せが停止すると非 R T へ移行し、

40

条件（4）である「リプレーブルーチェリー」、「リプレーブルーblank A」のいずれかの図柄組合せが停止すると R T 3 へ移行し、

条件（5）である「キャラ B - リプレー赤セブン」、「キャラ B - リプレー白セブン」、「キャラ B - リプレーキャラ A」、「キャラ B - リプレーキャラ B」、「スイカーリプレー赤セブン」、「スイカーリプレー白セブン」、「スイカーリプレーキャラ A」、「スイカーリプレーキャラ B」、「blank A - リプレー赤セブン」、「

50

「空白Aーリプレイー白セブン」、「空白AーリプレイーキャラA」、「空白AーリプレイーキャラB」、「空白Bーリプレイー赤セブン」、「空白Bーリプレイー白セブン」、「空白BーリプレイーキャラA」、「空白BーリプレイーキャラB」、「チェリーー赤セブンーリプレイ」、「チェリーー白セブンーリプレイ」、「チェリーーキャラAーリプレイ」、「チェリーーキャラBーリプレイ」のいずれかの図柄組合せが停止するとRT4へ移行し、

条件(1)である「リプレイーチェリーーリプレイ」の図柄組合せが停止するとRT1へ移行し、

条件(7)である1種BBーA条件装置が作動したとき、1種BBーB条件装置が作動したとき又は1種BBーC条件装置が作動したときにはRT5へ移行する。

【0787】

<RT3滞在時>

RT3からは、非RT、RT1、RT4又はRT5へ移行し得る。RT3で、条件(6)が成立することにより非RTへ移行し、条件(5)が成立することによりRT4へ移行し、条件(1)が成立することによりRT1へ移行し、条件(7)が成立することによりRT5へ移行する。

【0788】

つまり、RT3で、

条件(6)である「リプレイースイカーキャラA」、「リプレイースイカースイカ」、「リプレイースイカーblankB」、「リプレイーblankAーキャラA」、「リプレイーblankAースイカ」、「リプレイーblankAーblankB」、「リプレイーblankBーキャラA」、「リプレイーblankBースイカ」、「リプレイーblankBーblankB」、「ベルーベルーチェリー」、「ベルーベルーblankA」、「リプレイー赤セブンーリプレイ」、「リプレイー白セブンーリプレイ」、「リプレイーキャラAーリプレイ」、「リプレイーキャラBーリプレイ」、「ベルーチェリーーキャラA」、「ベルーチェリーースイカ」、「ベルーチェリーーblankB」、「リプレイーリプレイーリプレイ」のいずれかの図柄組合せが停止すると非RTへ移行し、

条件(5)である「キャラBーリプレイー赤セブン」、「キャラBーリプレイー白セブン」、「キャラBーリプレイーキャラA」、「キャラBーリプレイーキャラB」、「スイカーリプレイー赤セブン」、「スイカーリプレイー白セブン」、「スイカーリプレイーキャラA」、「スイカーリプレイーキャラB」、「blankAーリプレイー赤セブン」、「blankAーリプレイー白セブン」、「blankAーリプレイーキャラA」、「blankAーリプレイーキャラB」、「blankBーリプレイー赤セブン」、「blankBーリプレイー白セブン」、「blankBーリプレイーキャラA」、「blankBーリプレイーキャラB」、「チェリーー赤セブンーリプレイ」、「チェリーー白セブンーリプレイ」、「チェリーーキャラAーリプレイ」、「チェリーーキャラBーリプレイ」のいずれかの図柄組合せが停止するとRT4へ移行し、

条件(1)である「リプレイーチェリーーリプレイ」の図柄組合せが停止するとRT1へ移行し、

条件(7)である1種BBーA条件装置が作動したとき、1種BBーB条件装置が作動したとき又は1種BBーC条件装置が作動したときにはRT5へ移行する。

【0789】

<RT4滞在時>

RT4からは、非RT、RT1又はRT5へ移行し得る。RT4で、条件(6)が成立することにより非RTへ移行し、条件(1)が成立することによりRT1へ移行し、条件(7)が成立することによりRT5へ移行する。

【0790】

つまり、RT4で、

条件(6)である「リプレイースイカーキャラA」、「リプレイースイカースイカ」、「リプレイースイカーblankB」、「リプレイーblankAーキャラA」、「リプレイー

10

20

30

40

50

ーブランク Aースイカ」、「リブレイーブランク Aーブランク B」、「リブレイーブランク Bーキャラ A」、「リブレイーブランク Bースイカ」、「リブレイーブランク Bーブランク B」、「ベルーベルーチェリー」、「ベルーベルーブランク A」、「リブレイー赤セブンーリブレイ」、「リブレイー白セブンーリブレイ」、「リブレイーキャラ Aーリブレイ」、「リブレイーキャラ Bーリブレイ」、「ベルーチェリーーキャラ A」、「ベルーチェリーースイカ」、「ベルーチェリーーブランク B」、「リブレイーリブレイーリブレイ」のいずれかの図柄組合せが停止すると非 R T へ移行し、

条件 (1) である「リブレイーチェリーーリブレイ」の図柄組合せが停止すると R T 1 へ移行し、

条件 (7) である 1 種 B BーA 条件装置が作動したとき、1 種 B BーB 条件装置が作動したとき又は 1 種 B BーC 条件装置が作動したときには R T 5 へ移行する。

【0791】

< R T 5 滞在時 >

R T 5 からは、1 種 B BーA 作動時若しくは 1 種 B B 作動時並びに R BーA 条件装置未作動時及び R BーB 条件装置未作動時又は 1 種 B BーC 作動時並びに R BーC 条件装置未作動時及び R BーD 条件装置未作動時の R T 状態となる。

【0792】

つまり、R T 5 で、条件 (8) である「白セブンー白セブンー白セブン」、「赤セブンー赤セブンー赤セブン」、「ブランク Aー赤セブンーブランク B」、「赤セブンー赤セブンー白セブン」のいずれかの図柄組合せが停止すると上述の R T 状態へ移行する。

【0793】

< 1 種 B BーA 作動時若しくは 1 種 B B 作動時並びに R BーA 条件装置未作動時及び R BーB 条件装置未作動時又は 1 種 B BーC 作動時並びに R BーC 条件装置未作動時及び R BーD 条件装置未作動時 >

1 種 B BーA 作動時若しくは 1 種 B B 作動時並びに R BーA 条件装置未作動時及び R BーB 条件装置未作動時又は 1 種 B BーC 作動時並びに R BーC 条件装置未作動時及び R BーD 条件装置未作動時には、非 R T、R T 6 又は R T 7 へ移行し得る。条件 (14) が成立することにより非 R T へ移行し、条件 (9) が成立することにより R T 6 へ移行し、条件 (10) が成立することにより R T 7 へ移行する。

【0794】

つまり、

条件 (14) である 1 種 B BーA、1 種 B BーB 又は 1 種 B BーC の作動が終了すると非 R T へ移行し、

条件 (9) である R BーA 条件装置又は R BーB 条件装置が作動すると R T 6 へ移行し、

条件 (10) である R BーC 条件装置又は R BーD 条件装置が作動すると R T 7 へ移行する。

【0795】

< R T 6 滞在時 >

R T 6 からは、非 R T 又は R T 8 へ移行し得る。R T 6 で、条件 (14) が成立することにより非 R T へ移行し、条件 (11) が成立することにより R T 8 へ移行する。

【0796】

つまり、R T 6 で、

条件 (14) である 1 種 B BーA、1 種 B BーB 又は 1 種 B BーC の作動が終了すると非 R T へ移行し、

条件 (11) である「赤セブンーブランク Aーブランク B」又は「赤セブンーブランク Bーブランク B」の図柄組合せが停止すると R T 8 へ移行する。

【0797】

< R T 7 滞在時 >

R T 7 からは、非 R T 又は R T 8 へ移行し得る。R T 7 で、条件 (14) が成立することにより非 R T へ移行し、条件 (12) が成立することにより R T 8 へ移行する。

10

20

30

40

50

【0798】

つまり、RT7で、

条件(14)である1種BB-A、1種BB-B又は1種BB-Cの作動が終了すると非RTへ移行し、

条件(12)である「blankA-blankA-blankB」又は「blankA-blankB-blankB」の図柄組合せが停止するとRT8へ移行する。

【0799】

<RT8滞在時>

RT8からは、非RT、又は、1種BB-A作動時若しくは1種BB作動時並びにRB-A条件装置未作動時及びRB-B条件装置未作動時又は1種BB-C作動時並びにRB-C条件装置未作動時及びRB-D条件装置未作動時、に移行し得る。RT8で、条件(14)が成立することにより非RTへ移行し、条件(13)が成立することにより上述の遊技状態(1種BB-A作動時若しくは1種BB作動時並びにRB-A条件装置未作動時及びRB-B条件装置未作動時又は1種BB-C作動時並びにRB-C条件装置未作動時及びRB-D条件装置未作動時)へ移行する。

10

【0800】

つまり、RT8で、

条件(14)である1種BB-A、1種BB-B又は1種BB-Cの作動が終了すると非RTへ移行し、

条件(13)であるRB-A、RB-B、RB-C又はRB-Dの作動が終了すると上述のRT状態(1種BB-A作動時若しくは1種BB作動時並びにRB-A条件装置未作動時及びRB-B条件装置未作動時又は1種BB-C作動時並びにRB-C条件装置未作動時及びRB-D条件装置未作動時)へ移行する。

20

【0801】

<<<本発明における遊技機の仕様1の特徴>>>

<RT4でATが付与されやすい構成>

上述した通り、本発明における遊技機では、RTが移行するボーナス(1種BB-A、1種BB-B、1種BB-C)とRTが移行しないボーナス(1種BB-D)とを備えている。また、有利区間であって、非ATである状態において、キャラA揃いの図柄組合せが表示されるとATが付与されるよう構成されており、キャラA揃いが発生する再遊技-B1条件装置、再遊技-B2条件装置、再遊技-B3条件装置、及び、再遊技-B4条件装置の当選確率が、RT4のときに他のRT状態よりも高く設定されている。なお、RT4において、再遊技-B1条件装置、再遊技-B2条件装置、再遊技-B3条件装置、再遊技-B4条件装置のうち、全ての条件装置の当選確率が他のRT状態と比べて高くなっている必要はなく、何れかの条件装置の当選確率が高くなっていればよい。また、通常区間においてキャラA揃いの図柄組合せが表示されたときに有利区間移行、且つAT開始としてもよい。

30

【0802】

具体的には、図65乃至図66の非RT(通常時)における内部抽せんデータと図67乃至図68のRT4(通常時)における内部抽せんデータとを用いて説明する。

40

【0803】

図65乃至図66に示す非RT(通常時)では、

- (1) 再遊技-B1(再遊技-B1条件装置)の置数: 設定1~6共通で「0」である
- (2) 再遊技-B2(再遊技-B2条件装置)の置数: 設定1~6共通で「0」である
- (3) 再遊技-B3(再遊技-B3条件装置)の置数: 設定1~5で「4」、設定6で「20」である
- (4) 再遊技-B4(再遊技-B4条件装置)の置数: 設定1~6共通で「0」である

【0804】

図67乃至図68に示すRT4(通常時)では、

- (1) 再遊技-B1(再遊技-B1条件装置)の置数: 設定1~6共通で「566」である

50

- (2) 再遊技－B 2 (再遊技－B 2 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「4」である
(3) 再遊技－B 3 (再遊技－B 3 条件装置) の置数：設定 1、3、5 で「2 0 1 6」、
設定 2、4 で「2 2 0 0」、設定 6 で「2 5 0 0」である
(4) 再遊技－B 4 (再遊技－B 4 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「4」である
【0 8 0 5】

このように、再遊技－B 1～再遊技－B 4 のいずれの当選確率も、非 R T (通常時) よりも R T 4 (通常時) の方が高く設定されている。

【0 8 0 6】

なお、非 R T (通常時) の再遊技に係る置数の合計 (再遊技－A 1～再遊技－H 4) は「8 9 7 8」であり、R T 4 (通常時) の再遊技に係る置数の合計 (再遊技－A 1～再遊技－H 4) も「8 9 7 8」である。つまり、非 R T (通常時) と R T 4 (通常時) において再遊技に当選する確率は同一であり、再遊技－B 1～再遊技－B 4 に当選する確率が非 R T (通常時) よりも R T 4 (通常時) の方が高く設定されている。このように、R T 4 (通常時) では、再遊技－B 1～再遊技－B 4 に当選する確率が高くなっているため、高い確率で A T が付与される。

【0 8 0 7】

さらに、1 種 B B－D は、R T を移行させることなく実行されるボーナスであるため、非 R T 滞在時における 1 種 B B－D 作動中と R T 4 滞在時における 1 種 B B－D の作動中とを比較した場合も、再遊技－B 1 (再遊技－B 1 条件装置)～再遊技－B 4 (再遊技－B 4 条件装置) に当選する確率は、R T 4 滞在時の方が高くなるように構成されている。

【0 8 0 8】

具体的には、例示として、図 6 9 乃至図 7 0 の非 R T (1 種 B B－D 作動時非内部中) における内部抽せんデータと図 7 1 乃至図 7 2 の R T 4 (1 種 B B－D 作動時非内部中) における内部抽せんデータとを用いて説明する。

【0 8 0 9】

- 図 6 9 乃至図 7 0 に示す非 R T (1 種 B B－D 作動時非内部中) では、
(1) 再遊技－B 1 (再遊技－B 1 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「0」である
(2) 再遊技－B 2 (再遊技－B 2 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「0」である
(3) 再遊技－B 3 (再遊技－B 3 条件装置) の置数：設定 1～5 で「4」、設定 6 で「2 0」である
(4) 再遊技－B 4 (再遊技－B 4 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「0」である

【0 8 1 0】

- 図 7 1 乃至図 7 2 に示す R T 4 (1 種 B B－D 作動時非内部中) では、
(1) 再遊技－B 1 (再遊技－B 1 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「5 6 6」である
(2) 再遊技－B 2 (再遊技－B 2 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「4」である
(3) 再遊技－B 3 (再遊技－B 3 条件装置) の置数：設定 1、3、5 で「2 0 1 6」、
設定 2、4 で「2 2 0 0」、設定 6 で「2 5 0 0」である
(4) 再遊技－B 4 (再遊技－B 4 条件装置) の置数：設定 1～6 共通で「4」である

【0 8 1 1】

このように、再遊技－B 1 (再遊技－B 1 条件装置)～再遊技－B 4 (再遊技－B 4 条件装置) のいずれの当選確率も、非 R T (1 種 B B－D 作動時非内部中) では非 R T (通常時) と同様であり、R T 4 (1 種 B B－D 作動時非内部中) では R T 4 (通常時) と同様である。したがって、再遊技－B 1～再遊技－B 4 のいずれの当選確率も、非 R T (1 種 B B－D 作動時非内部中) よりも R T 4 (1 種 B B－D 作動時非内部中) の方が高く設定されている。このように、R T 4 (1 種 B B－D 作動時非内部中) でも、再遊技－B 1～再遊技－B 4 に当選する確率が高くなっているため、高い確率で A T が付与される。

【0 8 1 2】

< 1 種 B B－D 中に R T 転落しない構成 >

R T 2、R T 3 及び R T 4 では、条件 (1) が満たされることにより R T 1 へ移行し、条件 (6) が満たされることにより非 R T へ移行するように構成されている。しかし、R

10

20

30

40

50

T 2乃至R T 3において1種B B-D作動中には、条件(1)又は条件(6)が満たされたとしても、R Tが移行することがないように構成されている。これにより、1種B B-D作動中にR Tが移行して遊技者が不利益を被ることを防止することができる。

【0813】

具体的には、前述した通り、条件(1)は「入賞14入賞図柄が表示されたとき」であり、「リプレーチェリーリプレイ」の図柄組合せが停止表示されたときである。入賞14入賞図柄は入賞-B 1条件装置～入賞-C 6条件装置が当選した際に停止表示可能となっている(図59参照)。なお、入賞-M、N、O条件装置が当選した際にも停止表示可能であるが、このときは役物作動中の遊技メダル払い出し役となっているため除外する。

10

【0814】

図67乃至図68を参照すると、R T 4(通常時)では、入賞-B 1(入賞-B 1条件装置)～入賞-C 6(入賞-C 6条件装置)に置数が振られており、これらの条件装置が当選し得るよう構成されている。

【0815】

したがって、R T 4(通常時)に入賞-B 1(入賞-B 1条件装置)～入賞-C 6(入賞-C 6条件装置)が当選し、条件(1)である「リプレーチェリーリプレイ」の図柄組合せが停止表示されたときには、R T 4からR T 1へ移行する。

【0816】

図71乃至図72を参照すると、R T 4(1種B B-D作動時非内部中)にも、入賞-B 1(入賞-B 1条件装置)～入賞-C 6(入賞-C 6条件装置)に置数が振られており、これらの条件装置が当選し得るよう構成されている。

20

【0817】

このように1種B B-D作動中にも「リプレーチェリーリプレイ」の図柄組合せが停止表示され得るが、1種B B-D作動中には「リプレーチェリーリプレイ」の図柄組合せが停止表示された場合であっても、R T 4からR T 1へ移行せず、R T 4に継続して滞在するように構成されている。

【0818】

このように構成することで、ボーナス中(1種B B-D中)にR T状態が移行することでボーナス中に不利なR Tとなり、ボーナス終了後も不利な遊技状態(R T)で遊技しなければならないことを予め防止することができ、本来であれば当選して嬉しいはずのボーナスが嬉しくないものになってしまうことを回避することができる。

30

【0819】

<R T 4と有利区間について>

次に、R T 4と有利区間について説明する。R T 4且つ有利区間で有利区間の終了条件を満たした後であってもすぐに有利区間に移行してA Tが付与される構成とすると、有利区間での最大獲得枚数である2400枚をループして獲得可能な仕様とすることが可能となる。1種B B-D中にも有利区間が終了することがあり得、1種B B-D且つR T 4且つ有利区間から1種B B-D且つR T 4且つ通常区間となったのち、1種B B-Dが終了してすぐにR T 4且つ有利区間となり得ると、有利区間での最大獲得枚数である2400枚をループして獲得可能な仕様とすることが可能となる。

40

【0820】

しかし、本発明における遊技機の仕様1では、R T 4且つ有利区間で有利区間の終了条件を満たした場合には、所定の条件を満たさなければA Tが付与されないようになっており、遊技の射幸性を極端に煽ることがないように構成している。

【0821】

具体的には、本発明における遊技機の仕様1では、R T 4且つ有利区間で有利区間の終了条件を満たした後、すぐに有利区間となり得るが、この状況でキャラA揃いの図柄組合せ(再遊技-B 1～再遊技-B 4)が停止表示された場合であってもA Tを付与しないように構成されている。

50

【0822】

なお、RT4且つ有利区間で有利区間の終了条件を満たした後、すぐに有利区間となった場合、キャラA揃いの図柄組合せが停止表示されてもATを付与しない（例：AT抽選を行わない）が、レア役などのRT状態によって当選確率に変わらない役でのAT抽選は実行する。したがって、レア役などによりATに当選した場合は、RT4の転落後、RT1移行後にATを開始する。

【0823】

また、このような状況、つまり、RT4且つ有利区間で有利区間の終了条件を満たした後すぐに有利区間となって再度RT4且つ有利区間となった状況、では、キャラA揃いの図柄組合せが停止表示しない押し順を報知してキャラA揃いの図柄組合せを停止表示させないように構成することで、遊技者に「キャラA揃いしたらATが付与される」ことを認識させやすくすることができる。

10

【0824】

具体的には、再遊技-B1条件装置が作動した場合、有効ライン上に「スイカ（7番）-リプレイ（2番）-キャラA（12番）」が停止表示された際に、有効ラインではないリール上段に平行にキャラA揃いの図柄組合せが停止表示される。このとき、遊技者が第1操作として左ストップスイッチ13aを有効に押下した場合には有効ライン上に「スイカ-リプレイ-キャラA」が停止表示され得るように構成されている。しかし、遊技者が第1操作として左ストップスイッチ13a以外のストップスイッチを有効に押下した場合には有効ライン上に「スイカ-リプレイ-キャラA」が停止表示されないように構成されている。

20

【0825】

つまり、遊技機側で第1操作として左ストップスイッチ13a以外のストップスイッチを操作するように報知する（例えば、右ストップスイッチ13cを第1操作とする押し順を報知する）ことで、キャラA図柄揃いが停止表示しないようにすることで、遊技者が「キャラA揃いの図柄組合せが停止表示されたのにATが付与されない」と感じることを予め回避可能な構成とすることができる。

【0826】

<<<本発明における遊技機の仕様2>>>

<概要>

30

本発明における遊技機では、6択の押し順ベルの成功時と押し順不問のベル（以下、共通ベルと称する）とにおいて、押し順が同一であればベル揃いが停止表示されるラインが共通となるように構成されている。つまり、6択の押し順ベルでは、高目となる押し順によってベル揃いが停止表示されるラインが異なるよう構成されている。例えば、ストップスイッチが左→中→右の順に操作されるとリールの上段平行にベルが揃い、ストップスイッチが中→左→右の順に操作されるとリールの中段平行にベルが揃う。共通ベルでは、押し順にかかわらずベル揃いが停止表示されるが、ストップスイッチが左→中→右の順に操作されるとリールの上段平行にベルが揃い、ストップスイッチが中→左→右の順に操作されるとリールの中段平行にベルが揃う。加えて、共通ベルの際に押し順ナビを表示するように構成することで、押し順ベルが当選したのか共通ベルが当選したのかを遊技者が判別し難くすることができる。

40

【0827】

具体的に、まず、6択の押し順ベルのときについて説明する。

【0828】

<入賞-A1条件装置のとき上段平行ベル揃い>

図62を参照すると、入賞-A1条件装置が当選した場合には、入賞01、入賞10～12、入賞15、入賞18～19、入賞22～23が停止表示され得る図柄組合せである。このとき、ストップスイッチが左→中→右の順に操作された場合には、入賞01が有効ラインに停止表示するよう構成されている。

【0829】

50

次に、図54乃至図55を参照すると、入賞01（入賞01入賞図柄）は有効ラインに、「リプレイスイカーチェリー」、「リプレイスイカーブランクA」、「リプレイブランクA－チェリー」、「リプレイブランクA－ブランクA」、「リプレイブランクB－チェリー」、「リプレイブランクB－ブランクA」のいずれかが停止表示されるよう構成されている。

【0830】

次に、図51を参照すると、第1回胴のリプレイの1つ上には必ずベルが配置されており、第2回胴のブランクB、スイカ、ブランクAの1つ上には必ずベルが配置されており、第3回胴のブランクA、チェリーの1つ上には必ずベルが配置されている。

【0831】

したがって、有効ラインに入賞01（入賞01入賞図柄）のいずれの図柄組合せが停止表示された場合であっても、リールの上段平行にベル揃いが停止表示されることとなる。

【0832】

<入賞－A2条件装置のとき右下がりベル揃い>

次に、同様に図62を参照すると、入賞－A2条件装置が当選した場合には、入賞02、入賞10～12、入賞15、入賞18～19が停止表示され得る図柄組合せである。このとき、ストップスイッチが左→右→中の順に操作された場合には、入賞02が有効ラインに停止表示するよう構成されている。

【0833】

次に、図55を参照すると、入賞02（入賞02入賞図柄）は有効ラインに、「リプレイ－ベル－キャラA」、「リプレイ－ベル－スイカ」、「リプレイ－ベル－ブランクB」のいずれかが停止表示されるよう構成されている。

【0834】

次に、図51を参照すると、第1回胴のリプレイの1つ上には必ずベルが配置されており、第2回胴ではベルが有効ライン上に停止表示されるので配置を説明するまでもなく、第3回胴のスイカ、キャラA（12番のキャラAが対象であり、13番のキャラAは対象外である）、ブランクBの1つ下には必ずベルが配置されている。

【0835】

したがって、有効ラインに入賞02（入賞02入賞図柄）のいずれの図柄組合せが停止表示された場合であっても、リールの右下がりにはベル揃いが停止表示されることとなる。

【0836】

<入賞－A3条件装置のとき中段平行ベル揃い>

次に、同様に図62を参照すると、入賞－A3条件装置が当選した場合には、入賞03、入賞10～12、入賞18が停止表示され得る図柄組合せである。このとき、ストップスイッチが中→左→右の順に操作された場合には、入賞03が有効ラインに停止表示するよう構成されている。

【0837】

次に、図55を参照すると、入賞03（入賞03入賞図柄）は有効ラインに、「ベル－ベル－ベル」が停止表示されるよう構成されている。

【0838】

したがって、有効ラインに入賞03（入賞03入賞図柄）の図柄組合せが停止表示される場合には、リールの中段平行にベル揃いが停止表示されることとなる。

【0839】

<入賞－A4条件装置のとき右上がりベル揃い>

次に、同様に図62を参照すると、入賞－A4条件装置が当選した場合には、入賞04、入賞10～12が停止表示され得る図柄組合せである。このとき、ストップスイッチが右→左→中の順に操作された場合には、入賞04が有効ラインに停止表示するよう構成されている。

【0840】

次に、図55を参照すると、入賞04（入賞04入賞図柄）は有効ラインに、「スイカ

10

20

30

40

50

ーベルーチェリー」、「スイカーベルーブランク A」のいずれかが停止表示されるよう構成されていることがわかる。

【0841】

次に、図51を参照すると、第1回胴のスイカ（19番のスイカは対象外）の1つ下には必ずベルが配置されており、第2回胴ではベルが有効ライン上に停止表示されるので配置を説明するまでもなく、第3回胴のブランク A、チェリーの1つ上には必ずベルが配置されている。

【0842】

したがって、有効ラインに入賞04（入賞04入賞図柄）のいずれの図柄組合せが停止表示された場合であっても、リールの右上がりにはベル揃いが停止表示されることとなる。

10

【0843】

<入賞－A5条件装置のとき小山型にベル表示>

次に、同様に図62を参照すると、入賞－A5条件装置が当選した場合には、入賞05、入賞10～13、入賞18～21が停止表示され得る図柄組合せである。このとき、ストップスイッチが中→右→左の順に操作された場合には、入賞05が有効ラインに停止表示するよう構成されている。

【0844】

次に、図55を参照すると、入賞05（入賞05入賞図柄）は有効ラインに、「スイカーベルーキャラ A」、「スイカーベルースイカ」、「スイカーベルーブランク B」のいずれかが停止表示されるよう構成されている。

20

【0845】

次に、図51を参照すると、第1回胴のスイカ（19番のスイカは対象外）の1つ下には必ずベルが配置されており、第2回胴ではベルが有効ライン上に停止表示されるので配置を説明するまでもなく、第3回胴のスイカ、キャラ A（13番のキャラ Aは対象外）、ブランク Bの1つ下には必ずベルが配置されている。

【0846】

したがって、有効ラインに入賞05（入賞05入賞図柄）のいずれの図柄組合せが停止表示された場合であっても、左リール下段、中リール中段、右リール下段の小山型にベルが停止表示されることとなる。

【0847】

30

<入賞－A6条件装置のとき下段平行ベル揃い>

次に、同様に図62を参照すると、入賞－A6条件装置が当選した場合には、入賞06、入賞08、入賞10～13、入賞18～20が停止表示され得る図柄組合せである。このとき、ストップスイッチが右→中→左の順に操作された場合には、入賞06が有効ラインに停止表示するよう構成されている。

【0848】

次に、図55を参照すると、入賞06（入賞06入賞図柄）は有効ラインに、「スイカーチェリーーキャラ A」、「スイカーチェリーースイカ」、「スイカーチェリーーブランク B」のいずれかが停止表示されるよう構成されている。

【0849】

40

次に、図51を参照すると、第1回胴のスイカ（19番のスイカは対象外）の1つ下には必ずベルが配置されており、第2回胴のチェリーの1つ下には必ずベルが配置されており、第3回胴のスイカ、キャラ A（13番のキャラ Aは対象外）、ブランク Bの1つ下には必ずベルが配置されている。

【0850】

したがって、有効ラインに入賞06（入賞06入賞図柄）のいずれの図柄組合せが停止表示された場合であっても、リールの下段平行にベル揃いが停止表示されることとなる。

【0851】

<共通ベルのとき>

次に、共通ベルのときについて説明する。上述した通り、共通ベルでは1の条件装置が

50

当選することで6つの図柄組合せが停止可能となっており、押し順ベルの成功押し順で停止表示される図柄組合せと、共通ベルの押し順により停止表示される図柄組合せが同じになるように構成されている。

【0852】

図64を参照すると、入賞－H条件装置（共通ベル）が当選した場合には、入賞01～06が停止表示され得る図柄組合せである。

【0853】

このとき、

(1) ストップスイッチが左→中→右の順に操作された場合：入賞01が有効ラインに停止表示する

(2) ストップスイッチが左→右→中の順に操作された場合：入賞02が有効ラインに停止表示する

(3) ストップスイッチが中→左→右の順に操作された場合：入賞03が有効ラインに停止表示する

(4) ストップスイッチが右→左→中の順に操作された場合：入賞04が有効ラインに停止表示する

(5) ストップスイッチが中→右→左の順に操作された場合：入賞05が有効ラインに停止表示する

(6) ストップスイッチが右→中→左の順に操作された場合：入賞06が有効ラインに停止表示する

ように構成されている。

【0854】

押し順ベルにて説明した通り、

ストップスイッチが左→中→右の順に操作されて入賞01が有効ラインに停止表示された場合にはリールの上段平行にベル揃いが停止表示され、

ストップスイッチが左→右→中の順に操作されて入賞02が有効ラインに停止表示された場合にはリールの右下がりにベル揃いが停止表示され、

ストップスイッチが中→左→右の順に操作されて入賞03が有効ラインに停止表示された場合にはリールの中段平行にベル揃いが停止表示され、

ストップスイッチが右→左→中の順に操作されて入賞04が有効ラインに停止表示された場合にはリールの右上がりにベル揃いが停止表示され、

ストップスイッチが中→右→左の順に操作されて入賞05が有効ラインに停止表示された場合には左リール下段、中リール中段、右リール下段の小山型にベルが停止表示され、

ストップスイッチが右→中→左の順に操作されて入賞06が有効ラインに停止表示された場合にはリールの下段平行にベル揃いが停止表示される。

【0855】

このように、共通ベルが当選した際には、ストップスイッチの押し順によりベル揃い（小山型を含む）が停止表示されるラインが異なるように構成されている。

【0856】

<<<本発明における遊技機の仕様2の特徴>>>

上述した通り、所定の押し順ベルの条件装置が当選している際に高目となる押し順でストップスイッチが操作された場合と、共通ベルが当選している際に同様の押し順でストップスイッチが操作された場合とにおいて、見た目上のベルの停止位置が共通するように構成されている。このように構成することにより、押し順ベル又は共通ベルに設定差が設けられている場合に、押し順ベル又は共通ベルのいずれが当選したのかを遊技者が把握し難くすることができ、設定看破を困難にすることができる。

【0857】

<押し順ベルの設定差>

図59及び図65乃至図66に示すように、押し順ベルには、A群ベル、B群ベル、C群ベルが設けられている。A群ベルは入賞－A1～A6条件装置（入賞－A1～A6）、

10

20

30

40

50

B群ベルは入賞C 1～C 6条件装置（入賞－C 1～C 6）、C群ベルは入賞B 1～B 6条件装置（入賞－B 1～B 6）が対応付けられている。

【0858】

図65を参照すると、A群ベルは、設定1～6（R 1～R 6）のいずれにおいても同一の置数が振られているため、設定差がないように構成されている。

【0859】

図65乃至図66を参照すると、C群ベルもA群ベルと同様に設定1～6のいずれにおいても同一の置数が振られているため、C群ベルも設定差がないように構成されている。

【0860】

図66を参照すると、B群ベルは、設定1～6に異なる置数が振られているため、設定差があるように構成されていることがわかる。なお、或る1の設定における各条件装置の置数は同一である。

10

【0861】

具体的には、入賞－C 1～C 6の各置数は、設定1では「1762」であり、設定2では「1756」であり、設定3では「1735」であり、設定4では「1714」であり、設定5では「1689」であり、設定6では「1644」である。

【0862】

つまり、設定が低いほどB群ベルに当選しやすく構成されている。

【0863】

<ベル全体の設定差>

20

また、図65乃至図66を参照してみると、ベル全体（入賞－A 1～入賞－H）の当選確率も設定値が低い方が当選しやすく構成されている。

【0864】

具体的には、ベル全体（入賞－A 1～入賞－H）の置数の合計は、設定1では「32935」であり、設定2では「32935」であり、設定3では「32934」であり、設定4では「32934」、設定5では「32933」、設定6では「32931」である。

【0865】

このように、ベル全体の当選確率は、一部の設定（例えば、設定1と設定2）で共通の確率であってもよいが、設定が低い方が当選しやすく構成されている。

【0866】

30

<共通ベルの設定差>

上述した通り、入賞－H条件装置（入賞－H）は押し順によって停止表示する図柄組合せが異なる共通ベルとなっている。図66を参照すると、入賞－Hは設定1～6に異なる置数が振られているため、設定差があるように構成されている。

【0867】

具体的には、入賞－Hの置数は、設定1では「4」であり、設定2では「40」であり、設定3では「165」であり、設定4では「291」であり、設定5では「440」であり、設定6では「708」である。

【0868】

このように、共通ベル（入賞－H）は、設定が高くなるほど当選しやすく構成されている。

40

【0869】

<ベルの設定差まとめ>

所謂押し順ベルとして、A群ベル、B群ベル、C群ベルの3種類が設けられており、押し順によって図柄組合せが異なる共通ベル（入賞－H）が少なくとも1種類設けられている。A群ベル及びC群ベルには当選確率に設定差がない。B群ベルには当選確率に設定差があり、設定が低い方が当選しやすくなっている。共通ベル（入賞－H）には当選確率に設定差があり、設定が高いほど当選しやすくなっている。ベル全体の当選確率にも設定差があり、設定が低い方がベルに当選しやすくなっている。

【0870】

50

このように構成することで、共通ベル（入賞－H）に設定差があっても共通ベルと押し順ベルを見分けられないため、攻略（設定看破）を困難にすることができる。また、ベル全体では、設定が低い方が当選確率は高くなっているが、設定が高い方が押し順にかかわらず高目払い出しを得られる共通ベル（入賞－H）の当選確率が高くなっているため、設定が高い方がベル入賞（高目払い出し）となる確率が高くなっている。すなわち、高設定（出玉率が高い設定値）の方が非AT中の押し順ベルと共通ベルに関する出玉率が高く（共通ベルが当選しやすく）、低設定（出玉率の低い設定値）の方が、AT中の押し順ベルと共通ベルに関する出玉率が高い（押しベルと共通ベルの合算の当選確率が高い）。

【0871】

押し順を指示する機能として、指示モニタによる指示と、表示装置（液晶）32による指示とを備えており、共通ベル（入賞－H）に設定差がある場合であっても、共通ベル当選時には所定の指示（例：逆押し指示）を行うことにより共通ベルであることを認識させ難くすることもできる。これにより、共通ベルであるのか押し順ベルであるのかが不明になり、攻略（設定看破）が困難になる。

【0872】

また、押し順ベルと共通ベルの指示態様として、以下のようなパターンが挙げられる。

1. 指示モニタと液晶での指示態様が同じ
2. 指示モニタと液晶での指示態様が異なる

【0873】

「2. 指示モニタと液晶での指示態様が異なる」とは、例えば、以下のようなパターンが挙げられる。

2-1. 指示モニタでは押し順を示す「1」～「6」を均等にランダム表示し、液晶では指示モニタに対応した押し順を表示する

2-2. 指示モニタでは押し順を示す「1」（「1」でなくとも「2」～「6」のいずれかであればよい）を常に表示し、液晶では指示モニタに対応した押し順を表示する

【0874】

具体的には、共通ベル当選時には6パターンの押し順を抽選により決定するように構成することができる。このように、当該抽選における6パターンの当選確率を同一又はほぼ同一とすることで、共通ベルに基づく攻略（設定看破）を困難にすることもできる。

【0875】

<非ボーナス中とボーナス中における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）の違い>

次に、非ボーナス中とボーナス中における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）の違いについて説明する。

【0876】

<非ボーナス中における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）>

まず、図65乃至図27（非RT（通常時））及び図67乃至図68（RT4（通常時））を参照して、非ボーナス中の9枚払い出しの可能性がある条件装置の当選確率（置数）について説明する。

【0877】

まず、図52乃至図57及び図65乃至図66を参照して、非RT（通常時）における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）について説明する。

【0878】

非RT（通常時）における9枚払い出しの可能性がある条件装置は入賞－A1～Hである。ある1の遊技においては、小役又はリプレイは1の条件装置にのみ当選し得る（ボーナス条件装置との同時当選は可）。

【0879】

具体的に、R1（設定1）のときの置数は、入賞－A1の置数は「3265」であるため、1の遊技における当選確率は $3265 / 65536$ である。入賞－A2の置数も同様に「3265」であるため、1の遊技における当選確率は $3265 / 65536$ である。

10

20

30

40

50

同様に見ていくと、入賞－A 1～入賞－A 6の各置数は「3 2 6 5」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $3\ 2\ 6\ 5 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に、入賞－B 1～B 6の各置数は「4 3 0」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $4\ 3\ 0 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に、入賞－C 1～C 6の各置数は「1 7 6 2」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $1\ 7\ 6\ 2 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に、入賞E～Hの各置数は「4」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $4 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。

【0 8 8 0】

次に、図5 2乃至図5 7及び図6 7乃至図6 8を参照して、R T 4（通常時）における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）について説明する。

10

【0 8 8 1】

非R T（通常時）と同様に、R T 4（通常時）における9枚払い出しの可能性がある条件装置は入賞－A 1～Hである。或る1の遊技においては、小役又はリプレイは1の条件装置にのみ当選し得る（ボーナス条件装置との同時当選は可）。

【0 8 8 2】

具体的には非R T（通常時）と同様であり、R 1（設定1）のときの置数は、入賞－A 1の置数は「3 2 6 5」であるため、1の遊技における当選確率は $3\ 2\ 6\ 5 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。入賞－A 2の置数も同様に「3 2 6 5」であるため、1の遊技における当選確率は $3\ 2\ 6\ 5 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に見ていくと、入賞－A 1～入賞－A 6の各置数は「3 2 6 5」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $3\ 2\ 6\ 5 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に、入賞－B 1～B 6の各置数は「4 3 0」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $4\ 3\ 0 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に、入賞－C 1～C 6の各置数は「1 7 6 2」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $1\ 7\ 6\ 2 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。同様に、入賞E～Hの各置数は「4」であるため、それぞれの条件装置の1の遊技における当選確率は $4 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。

20

【0 8 8 3】

<ボーナス中（S B）における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）>

次に、図5 2乃至図5 7及び図7 3乃至図7 4（非R T（S B－A、S B－B作動中））及び図5 2乃至図5 7及び図7 5乃至図7 6（R T 4（S B－A、S B－B作動中））を参照して、ボーナス中の9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）について説明する。

30

【0 8 8 4】

まず、図5 2乃至図5 7及び図7 3乃至図7 4を参照して、非R T（S B－A、S B－B作動中）における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）について説明する。

【0 8 8 5】

非R T（S B－A、S B－B作動中）における9枚払い出しの可能性がある条件装置は入賞－Mのみである。ある1の遊技においては、小役又はリプレイは1の条件装置にのみ当選し得る（ボーナス条件装置との同時当選は可）。

【0 8 8 6】

40

R 1（設定1）のときの入賞－Mの置数は「5 6 3 8」であるため、1の遊技における当選確率は $5\ 6\ 3\ 8 / 6\ 5\ 5\ 3\ 6$ である。

【0 8 8 7】

次に、図5 2乃至図5 7及び図7 5乃至図7 6を参照して、R T 4（S B－A、S B－B作動中）における9枚払い出しとなり得る条件装置の当選確率（置数）について説明する。

【0 8 8 8】

非R T（S B－A、S B－B作動中）と同様に、R T 4（S B－A、S B－B作動中）における9枚払い出しの可能性がある条件装置は入賞－Mのみである。ある1の遊技においては、小役又はリプレイは1の条件装置にのみ当選し得る（ボーナス条件装置との同時

50

当選は可)。

【0889】

R1(設定1)のときの入賞-Mの置数は「5638」であるため、1の遊技における当選確率は $5638/65536$ である。

【0890】

つまり、設定が同一であるとき(例えば、設定1のとき)、非RT(SB-A、SB-B作動中)とRT4(SB-A、SB-B作動中)のいずれのボーナス中であっても、入賞-Mの置数は「5638」であり、1の遊技における当選確率は $5638/65536$ である。

【0891】

<非ボーナス中とボーナス中における9枚払い出しとなり得る或る入賞図柄組合せの当選確率(置数)の違いのまとめ>

(非ボーナス中)

例えば、入賞01は、非ボーナス中においては、入賞-A1、入賞-B1、入賞-C1及び入賞-Hの条件装置により停止し得る図柄組合せである。入賞01は、非ボーナス中においては、入賞-A1の置数「3265」、入賞-B1の置数「430」、入賞-C1の置数「1762」、入賞-Hの置数「4」の合算した置数である「5461」で当選し得る。つまり、入賞01は、 $5461/65536$ で当選し得る。

(ボーナス中)

一方、入賞01は、ボーナス中においては、入賞-Mの条件装置により停止し得る図柄組合せである。入賞-Mの置数は「5638」であるため、入賞01は、ボーナス中においては、 $5638/65536$ で当選し得る。

(まとめ)

このように、或る1の遊技において9枚払い出しの可能性がある入賞01の図柄組合せに当選する確率は非ボーナス中よりもボーナス中の方が高くなるように構成されている。

【0892】

<本実施形態における遊技機のAT中の演出態様の一例>

本実施形態における遊技機では、有利区間中のAT抽選の結果に応じてAT状態を付与する(AT状態に移行することを決定する)場合がある。例えば、図28の入賞-H条件装置に当選した場合は25%の確率でATに当選するAT抽選を実行し、図28の入賞-K条件装置に当選した場合は50%の確率でATに当選するAT抽選を実行するような仕様が考えられる。なお、前述したAT抽選を実行する条件装置は例示であり、内部抽選で決定可能な全ての条件装置に対して、AT抽選を行ってもよい。

【0893】

AT抽選に当選してAT状態が付与された場合の遊技状態遷移、及び演出構成を図36の遊技状態遷移図を基に説明する。

【0894】

図36に示す遊技状態遷移図に示すように、メイン遊技状態番号=0(非有利区間)、メイン遊技状態番号=1(前兆)、又はメイン遊技状態番号=4(BB)の各メイン遊技状態滞在時にメイン遊技状態番号=2(AC)への移行条件を満たすとメイン遊技状態番号=2(AC)に移行する。ACは上述した通り、押し順ベル群である入賞A1~A12、入賞B1~B12、入賞C1~C12、入賞D1~D12、入賞E1~E12、入賞F1~F12が当選すると遊技者に有利なストップスイッチの操作態様(押し順)を報知する遊技状態となっている。ACはゲーム数で管理されており、初期ゲーム数としてAC遊技カウンタに30がセットされる。そして遊技毎に減算し、AC遊技カウンタの値が0となった場合は、AC中の遊技状態抽せん結果に応じてメイン遊技状態番号=1(前兆)、メイン遊技状態番号=3(SAC)、又はメイン遊技状態番号=5(エンディング)の何れかに移行する。

【0895】

ACでは、非有利区間とは異なる演出構成となっており、非有利区間よりも賑やかな背

10

20

30

40

50

景演出が表示され、高揚感がありテンポの速いBGMが出力されている。これにより、非有利区間に比べてACの方が出玉以外においても遊技者の興味を高めることができる。

【0896】

また、AC中において、SACへの移行条件を満たすと、メイン遊技状態としてSACに移行する。SACは上述した通り、ACと同様に押し順ベル群である入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12が当選すると遊技者に有利なストップスイッチの操作態様（押し順）を報知する遊技状態となっている。SACはゲーム数で管理されており、初期ゲーム数としてAC遊技カウンタセット抽せんで当選した値がAC遊技カウンタにセットされる。そして遊技毎に減算し、AC遊技カウンタの値が0となった場合は、SAC中の遊技状態抽せん結果に応じてメイン遊技状態＝1、メイン遊技状態番号＝2、又はメイン遊技状態番号＝5の何れかに移行する。

10

【0897】

前述したSACはゲーム数管理として説明したが、差枚数（払出枚数－ベット数）が100枚を超えるまで継続する差枚数管理であってもよい。差枚数管理の場合は、ストップスイッチの操作態様に応じて払出枚数が異なる条件装置が当選したときは、ストップスイッチの操作態様に関わらず最も多い払出枚数の入賞図柄が作動したこととする。例えば、遊技開始後の残り差枚数が30枚である状況下で、入賞A1条件装置が当選したときに左中右の順番でストップスイッチが停止操作されて入賞03作動図柄が入賞して12枚払い出したときと、入賞A1条件装置が当選したときに左右中の順番でストップスイッチが停止操作されて入賞04作動図柄が入賞して1枚払い出したときと、いずれも12枚獲得したことにして残り差枚数が18枚となる（30枚－12枚＝18枚）。

20

【0898】

SACでは、AC中の演出構成と異なり、7人のキャラクタのうち遊技者が好みのキャラクタを選択して、選択したキャラクタとデートを楽しむ演出構成（デートタイム）となっている。またキャラクタごとにデートコースが異なり、キャラクタAは「繁華街」、キャラクタBは「動物園」、キャラクタCは「遊園地」、キャラクタDは「ショッピングモール」、キャラクタEは「観光地」、キャラクタFは「お祭り」、キャラクタGは「海」がそれぞれ対応するデートコースとなる。

【0899】

SACが開始した遊技にて、スタートスイッチ12が操作されたときは、遊技者に7人のキャラクタのうちサブ十字キースイッチ21の操作により好みのキャラクタを選択させ、演出用スイッチの操作によりキャラクタを決定させる。このSAC開始遊技におけるキャラクタ選択演出において、遊技者がキャラクタを選択せずに全てのストップスイッチ13を操作してキャラクタ選択演出をスキップした場合は、次遊技を開始するためのMAXベットスイッチ18の操作、1ベットスイッチ19の操作、又は遊技メダル投入の何れかの契機により予め定められたキャラクタAを選択するように構成されている。

30

【0900】

上述したキャラクタ選択演出の実施形態では、SAC開始遊技におけるスタートスイッチ12の操作によりキャラクタ選択演出が実行されるという例を説明したが、これに限らず、次遊技からSACが開始する遊技の全てのストップスイッチ13が操作された後にキャラクタ選択演出が実行されてもよい。この場合において、遊技者がサブ十字キースイッチ21や演出用スイッチを操作しなかった場合は、MAXベットスイッチ18の操作、1ベットスイッチ19の操作、又は遊技メダル投入の何れかの契機により予め定められたキャラクタAを選択するように構成されていてもよい。

40

【0901】

なお、7人のキャラクタのうち選択したキャラクタによって、遊技者に有利不利が生じることではなく（出玉の恩恵が変わることなく）、遊技者の好みによってキャラクタを選択できるため、キャラクタの好みとゲーム性の好みが乖離することによる不満感の発生を防ぐことができる。

50

【0902】

SAC中のメインの演出構成として、SAC中に「好感度」（ポイント）を獲得するようになっている。「好感度」とは、SAC中に実行するデートタイム1セット毎の最終遊技で実行するルーレット演出の抽選内容に関するものであり、SAC中の好感度獲得抽選の結果に応じてポイントが増減し、多くポイントを獲得するとルーレット演出の抽選内容が優遇される。なお、ポイントは減少しないように構成してもよく、増加するのみで構成してもよいし、増加及び増減なしで構成してもよい。また、好感度獲得抽選を実行する対象は全ての条件装置が該当し、押し順ベル、共通ベル、レア役、及びリプレイ役でそれぞれ抽選の置数が異なるように構成されている。

【0903】

また、獲得した好感度（ポイント）に応じて遊技者に付与する特典は複数種類あってもよく、次セットの初期ゲーム数（初期差枚数）、デートタイムの継続率、デートタイムのセット数、さらに上位に位置する有利状態（いわゆる上乘せ特化ゾーン）が考えられる。

【0904】

図78で示すように、好感度は現在のポイント数を中心のハートの色（模様）と中心のハートのサイドに表示しているゲージ幅に応じて液晶を通じて遊技者に表示している。図78では右に行くほど好感度が高くなっており、最も左のハートと左から4番目のハートではゲージ幅は同じであるが、中心のハートの色（模様）が異なっていることを示している。ゲージ幅は10ポイント単位で上昇するようになっており、最も左のハートは10ポイント、左から2番目のハートは30ポイント、左から3番目のハートは50ポイントとなっていることをそれぞれ示している。ゲージ幅は50ポイントでフルゲージ（100%）となり、100%となったときは中心のハートの色（模様）が変化するようになっている。なお、図78のハートの数は例示であり、任意に設計可能であり、中心のハートの色（模様）は4種類以上あってもよい。

【0905】

中心のハートの色に応じた期待度の例示として、白<青<黄<緑<赤<麒麟柄<虹の順番で期待度が高くなっていくことが考えられる。また、中心のハートの模様に応じた期待度の例示として、無地<右上がり斜線<格子（小）<右下がり斜線<格子（中）<平行線<格子（大）の順番で期待度が高くなっていくことが考えられる。図78を例に説明すると、最も左の中心のハートの色は「白」とした場合、左から3番目の中心のハートの色は「青」であり、最も右の中心のハートの色は「黄」である。なお、中心のハートの色や模様は例示であり、どの色（模様）を採用するのか、どの段階にどの色（模様）を採用するのか等は、任意に設計可能である。また、中心のハートは色のみ変化し得るようにし、模様に関して変化しないようにできることは言うまでもない。

【0906】

また、好感度として表示している中心のハートの色（模様）と中心のハートのサイドに表示しているゲージ幅は、ポイント数に対応して変化するが、必ずしも一致するものでなくてもよい。例えば、内部的なポイント数が「110」の場合、ポイント数と一致する表示態様としては、中心のハートの色は「黄」、ゲージ幅は「1」であるが、中心のハートの色を「青」、ゲージ幅を「4」と表示してもよい。本来、中心のハートの色が「青」、ゲージ幅が「4」の場合は内部的なポイント数が「90」であるが、内部的なポイント数よりも少ないポイント数と対応した表示態様にするすることで、期待度が低い表示態様でも期待感を与えることができる。なお、表示するポイント数は内部的なポイント数以下にすることで、表示している期待度よりも内部的な期待度の方が低い期待度にならないようにしている。このように構成することで、遊技者に不信感を持たせないことができる。

【0907】

また、内部的なポイント数と表示態様が相違する場合は、ポイント獲得時に内部的に獲得したポイント数よりも少ないポイント数を表示し、少ないポイント数に応じて中心のハートの色（模様）と中心のハートのサイドに表示しているゲージ幅の表示態様を変化させる。このように獲得時から内部的なポイント数と相違させることで、遊技者に獲得したポ

10

20

30

40

50

イント数と表示態様の相違を気づかせないことができる。

【0908】

図79は、デートタイム中の演出の一例である。図79で示す演出は、デートタイム中の一般的な演出であり、主に賑やかさを担っている。好感度に関する増減等は発生しないが、キャラクタの台詞、キャラクタの表情、背景、又は場面が演出抽選により変化し、遊技者に対して様々な演出を表示することで興趣を向上させることができる。なお、デートタイム開始時に選択したキャラクタに応じた演出抽選を行うため、選択しなかったキャラクタに対する演出は実行されないようになっている。遊技者が選択しなかったキャラクタを選択したい場合は、ACにおいて再度SAC（デートタイム）の移行抽選に当選する必要がある。

10

【0909】

デートタイム中には、「押し順会話チャレンジ」というゲーム性がある。デートタイム中の押し順ベル（入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12）の当選回数が4回に達する毎に押し順会話チャレンジが発生し、5回目に当選した押し順ベルの第1停止正解に対応するストップスイッチが左ストップスイッチ、中ストップスイッチ、右ストップスイッチの何れのストップスイッチであるかに応じてポイントを付与するよう構成されている。

【0910】

例えば、図80で示すように、デートタイム中4回目の押し順ベルが当選した遊技では、キャラクタの台詞として質問を投げかけるような台詞である「今度はどこにいったか？」と表示され、その上部の表示領域に「お化け屋敷」、「ジェットコースター」、「観覧車」と表示されている。また、「お化け屋敷」の表示領域には「-10」、「ジェットコースター」の表示領域には「+50」、「観覧車」の表示領域には「+100」と表示されており、増減するポイント数を表している。なお、押し順会話チャレンジで表示するキャラクタの台詞、及び対応する選択肢は複数種類あり、好感度に係る抽選により決定している。このように構成することで、デートタイム中の4回目の押し順ベル当選から5回目の押し順ベル当選まで、何れのポイントが獲得できるかという期待感を創出できるため、遊技の興趣を向上させることができる。なお、獲得したポイントを加算することでフルゲージ（50ポイント）を超える場合には、超える分のポイントは次のゲージに使用される。

20

【0911】

また、選択肢毎の期待度を理解しやすいように、得られるポイントごとに選択肢画像の色を変更してもよい。例えば、得られるポイントが0ポイント以下の場合は青色、得られるポイントが10～40ポイントの場合は黄色、得られるポイントが50～90ポイントの場合は緑色、得られるポイントが100ポイント以上の場合は赤色とすることが考えられる。選択肢画像の色は任意に設計可能であるが、AT期待度等の期待度示唆で使用する色の工程の関係性と同じ関係性にすることが望ましい。

30

【0912】

図80で示す押し順会話チャレンジが発生した後は、次に押し順ベルが当選するまで、図80で示した表示態様を維持しておく。なお、詳細は後述するが、会話、ポイント等の表示内容は変更され得る。SAC中は全リールが停止した後、所定時間（例えば60秒）が経過してもデモ画像が表示されることはないよう構成されているため、押し順会話チャレンジが発生した後に離席して60秒以上経過しても図80で示す表示態様が維持される。なお、60秒経過後にデモ画像は表示されないがBGMは最小音量、又はミュートになる。また、非有利区間で全リールが停止した後に60秒が経過した場合は、デモ画像が表示されるように構成されている。このように押し順会話チャレンジ中にデモ画面が表示されないことで、遊技者が離席後に再び遊技を開始する際に、現在の遊技状況を容易に把握させることができる。

40

【0913】

図81は、押し順ベルが4回当選して押し順会話チャレンジが発生した後、スタートスイッチ12操作後に5回目の押し順ベルが当選したときの表示態様を示す図である。図8

50

1では左中右正解の押し順ベル（入賞A 1、A 2、B 1、B 2、C 1、C 2、D 1、D 2、E 1、E 2、F 1、F 2）が当選した状況（全リール回転中）であり、左第一停止正解に対応する「お化け屋敷」が決定されたことを示している。換言すると、5回目に当選した押し順ベルの第1正解押し順に応じて自動的に3つの選択肢のうち1つの選択肢が決定されるようになっている。

【0914】

なお、好感度は5回目の押し順ベル当選時に加算、又は減算しているため、中リール、又は右リールに対応するストップスイッチを第1停止操作したり、エラーが発生してエラー解除後に演出が復帰しなかったりしても、好感度の結果が変わることはない。このように構成することで、押し順ベルの不正解やエラーが発生しても遊技者に不利な制御を行わないため、遊技の興趣を高めることができる。

10

【0915】

また、図81で示すように5回目の押し順ベルが当選して選択肢が決定された場合は、他の選択肢は非表示となるように構成されている。これにより、押し順をわざと失敗することで良い選択肢を選択できるのではないかと期待感をなくすことができるので、遊技者の不満の発生を抑制することができる。そして、他の選択肢があった表示領域に第2停止、第3停止の押し順を表示することでも、他の選択肢の存在を忘れさせることができ、遊技者の不満の発生を抑制することができる。

【0916】

また、図80で示す表示態様から図81で示す表示態様に切り替わる契機は、スタートスイッチ12の操作であるが、スタートスイッチ12が操作された直後に図81で示す表示態様に切り替わるわけではなく、スタートスイッチ12が操作されてから3秒後に図81で示す表示態様に切り替わるよう構成されている。この3秒間は遊技者に対して5回目の押し順ベルに当選したことを察知させるための時間であり、期待感が最も創出されるよう構成されている。また、この3秒間に亘ってフリーズを実行してもよく、フリーズ中にリールを小刻みに上下に震わせるようなリール演出を実行することで、より期待感を創出することができる。

20

【0917】

図82は、図81の後に第1停止左リール、第2停止中リール、第3停止右リールの順番で停止した後の表示態様を示す図である。この場合、選択肢の中から「お化け屋敷」が選択され、ポイントがー10ポイントとなって、好感度メータの好感度が下がっていることを示している。また、決定された選択肢に応じた台詞である「えー、他のところにしようよ・・・」という台詞やキャラクタの表情が表示されている。このように全リール停止後に好感度メータの変動や台詞、表情等の表示態様の变化を行うことで、遊技者に対して押し順会話チャレンジに失敗したことを確実に認識させることができる。なお、押し順が不正解押し順で操作された場合は、押し順が不正解の時点で押し順を示す画像を消去する以外演出態様は押し順正解時と同様に進行する。これにより、遊技者の押し順に応じて演出を変化するような複雑な制御を用いずに遊技の興趣を高めることができる。なお、押し順正解時と不正解時において払出枚数が異なることによる払出音が異なることは言うまでもない。

30

【0918】

このように全リール停止後に決定した選択肢に応じた演出を実行することで、選択肢に対応した演出を表示する表示領域を広くすることができ、遊技の興趣を高めることが可能となる。換言すると、選択されなかった他の選択肢と押し順に関する画像を表示しないことで表示領域が広くなり、遊技者に演出を楽しませることができる。

40

【0919】

図83は、図80で示すような押し順会話チャレンジが発生した後、スタートスイッチ12操作後に5回目の押し順ベルが当選したときの表示態様を示す図である。図83では右第1停止正解の押し順ベル（入賞A 9、A 10、A 11、A 12、B 9、B 10、B 11、B 12、C 9、C 10、C 11、C 12、D 9、D 10、D 11、D 12、E 9、E

50

10、E11、E12、F9、F10、F11、F12)が当選して全リールが停止したときの状況であり、右第一停止正解に対応する「観覧車」が決定されたことを示している。

【0920】

図83は、図80で示していた選択肢の中で最もポイントの高い選択肢であり、遊技者の達成感が最も高まる選択肢である。そして、図83で示す表示態様では、好感度メータが100ポイント分上昇し、中心のハートの色(模様)がより期待度の高いものとなっている。また、キャラクタの表情、台詞が高ポイント獲得に対応する表示態様となっており、遊技者が自ら選択した好みのキャラクタの恍惚した表情により遊技の興趣を高めることができる。なお、好感度メータの上昇に関する表示態様として、中心のハートのサイドのゲージが1段階ずつ上昇し、ゲージが100%となった場合は中心のハートの色が1段階変化し、まだ余剰分のポイントがあれば再びゲージが上昇し、再度100%となった場合は中心のハートの色がさらに1段階変化するといった態様となっている。

10

【0921】

なお、図82、及び図83では、全リール停止後に押し順会話チャレンジの結果に応じた演出態様を表示する説明を行ったが、これに限らず第1停止に対応するストップスイッチの操作に応じて押し順会話チャレンジの結果に応じた演出態様を表示してもよい。この場合は、押し順を示す画像に関しては、第1停止を示す「1」という表示のみ消去し「2」、「3」という表示は維持しておくことが望ましい。また、不正解押し順で操作された場合にも第1停止に対応するストップスイッチの操作に応じて押し順会話チャレンジの結果に応じた演出態様を表示する場合は、押し順を示す画像に関しては、「1」、「2」、「3」の全ての押し順を示す表示を第1停止操作に基づいて消去するように構成してもよい。これにより、遊技者の押し順に応じて演出を変化するような複雑な制御を用いずに遊技の興趣を高めることができる。

20

【0922】

図84は、デートタイム中の押し順ベルの当選回数が1回目から3回目までのときに発生する表示態様を示しており、押し順ベルの当選回数が4回目のとき、及び押し順ベルの当選回数が5回目のとき、とは押し順を示す表示態様が異なる表示態様となっている。押し順ベルの当選回数が1回目から3回目の場合は、現在表示されている背景画像に単に押し順を示す画像を表示するのみであり、キャラクタの表情や台詞に変化はない。また、押し順を示す画像自体が、押し順ベルの当選回数が4回目のときの押し順を示す画像、及び押し順ベルの当選回数が5回目のときの押し順を示す画像よりも大きく表示されており、押し順に最も注視させるように構成している。

30

【0923】

デートタイム中の押し順ベルの当選回数として、押し順ベルの当選回数が5回目となった後に当選した押し順ベルは1回目の当選回数としてカウントしており、SACの残りゲーム数又は差枚数が0となるまで何回でも押し順会話チャレンジが発生し得るように構成されている。このように押し順ベルの当選回数で押し順会話チャレンジのようなイベントを発生させる場合は差枚数管理の方が管理しやすくなっている。ゲーム数管理の場合であれば1回も押し順会話チャレンジが発生することなくデートタイムが終了してしまう可能性があるが、差枚数管理の場合であれば押し順ベルの当選回数の設定と残り差枚数の初期値に応じて必ず1回は押し順会話チャレンジを発生させることが容易に調整できる。例えば、残り差枚数の初期値を100枚、押し順ベル1回の当選で減算される差枚数が12枚の場合は、押し順会話チャレンジを押し順ベル5回分で1セットとすると12枚×5回=60枚で押し順会話チャレンジが1セット分実行できるため、初期値が100枚であり、他に残り差枚数が減算される条件装置がなければ確実に押し順会話チャレンジを1セット分実行することができる。最も、他に残り差枚数が減算される条件装置があつたとしても、当選確率を押し順ベルよりも低く設計することで、頻繁に残り差枚数が減算されることがないため、押し順会話チャレンジを1セット分実行できる確率を限りなく100%に近くすることができる。

40

【0924】

50

また、上述したように、押し順会話チャレンジ以外でもすべての条件装置で好感度獲得抽選を実行しているため、押し順会話チャレンジ中に押し順ベルが当選しない遊技が続いても期待感を維持させることができる。

【0925】

デートタイム中に管理している残り差枚数が0未満となる遊技では、デートタイムを終了しルーレット演出を実行する。残り差枚数が0未満となる遊技とは、例えば残り差枚数が5枚のときに3枚掛けをして開始した遊技で押し順ベル（入賞A1～A12、入賞B1～B12、入賞C1～C12、入賞D1～D12、入賞E1～E12、入賞F1～F12）が当選した遊技が該当する。この場合、残り差枚数が5枚で3枚掛けをしているため残り差枚数が8枚となり、その後押し順ベルが当選して12枚が減算されるため、残り差枚数が（8枚－12枚）＝－4枚となり、押し順ベルが当選した遊技で残り差枚数が0未満になることが確定する。なお、押し順ベルに限らず払出のある全ての条件装置が該当し、条件装置が作動すると残り差枚数が0未満となる遊技のことを残り差枚数が0未満となる遊技と称している。

【0926】

このように、残り差枚数が0未満となる遊技が確定するタイミングは内部抽選の結果が決定したときであるため、スタートスイッチ12が操作されて内部抽選の結果が決定されてからストップスイッチ13の操作受付が可能となるまでの間にルーレット演出を開始することができ、残り差枚数が0未満となる1遊技間はルーレット演出を実行する遊技として用いることができる。

【0927】

スタートスイッチ12の操作からストップスイッチ13の第1停止操作までの間に実行するルーレット演出の演出態様に関して図85を基に説明する。

【0928】

図85（a）は、残り差枚数が0未満となる遊技で実行するルーレット演出の導入画像である。図85（a）の左下にはデートタイムで獲得した好感度（ポイント）が表示されている。また、図85（a）の中心には「ドキドキルーレット」という文字が表示されている。これにより、遊技者に対してルーレット演出が開始したことを告知することができる。

【0929】

図85（b）は、デートタイムで貯めた好感度（ポイント）に応じてルーレットで決定され得る項目が表示されている図である。図85（b）では、獲得した好感度に応じた4項目が期待度とともに表示されている。なお、期待度は黒塗りのハートの数（以下、「ハートの数」と称す）で示しており、ハートの数が多いほどデートタイムが継続する期待度及びデートタイムが継続したときの初期差枚数の期待度が高くなっている。

【0930】

そして、ストップスイッチ13の第1停止操作からストップスイッチ13の第3停止操作までの間は、図85（b）で示す4項目のうちどの項目が選択されるかを演出するために、人差し指を伸ばしている手のマークを変動させる演出を行う。

【0931】

そして、ストップスイッチ13の第3停止操作より後は、手のマークの変動を止めることにより、手のマークが止まった項目が決定されたことを遊技者に示す演出を行う。

【0932】

次に残り差枚数が0未満となる遊技が、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技となる場合を説明する。

【0933】

この場合は残り差枚数が0未満となる遊技の開始時に表示される好感度（ポイント）は、ポイントの増減を行っていない（ポイントの増減を行う前）の好感度（ポイント）を表示する。

【0934】

例えば、残り差枚数が0未満となる遊技の直前の遊技が図80で示す演出態様を表示していた場合、残り差枚数が0未満となる遊技の開始時は図80で示す好感度（ポイント）を残り差枚数が0未満となる遊技の開始時に表示する。

【0935】

そして、時間経過に基づいて、図85（b）が示す画像が表示される前に残り差枚数が0未満となる遊技で当選した押し順ベルに応じて増減させるポイントを表示し、好感度表示を当該増減させたポイントに応じた表示態様に变化させる。例えば、残り差枚数が0未満となる遊技の直前の遊技が図80で示す演出態様を表示していた場合であって、残り差枚数が0未満となる遊技で左第1停止正解に対応する押し順ベルが当選した場合は、図82で示す好感度表示（現在の好感度から10ポイント減算した好感度表示）を行ってから、当該好感度に応じたルーレット項目を表示させる。また例えば、残り差枚数が0未満となる遊技の直前の遊技が図80で示す演出態様を表示していた場合であって、残り差枚数が0未満となる遊技で右第1停止正解に対応する押し順ベルが当選した場合は、図83で示す好感度表示（現在の好感度から100ポイント加算した好感度表示）を行ってから、当該好感度に応じたルーレット項目を表示させる。

【0936】

このように、残り差枚数が0未満となる遊技が、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技となった場合であっても、ルーレットで表示する項目は押し順会話チャレンジの結果を反映したものとなり、押し順会話チャレンジの結果を表示することで遊技者が抱き得る不信感を払拭することができる。また、好感度表示においても押し順会話チャレンジの結果に対応した表示態様に变化するため、より、押し順会話チャレンジの結果を反映していることを遊技者に認識させることができる。また、最後の遊技までデートタイムの継続に関する抽選を実行できるため、無駄な遊技（デートタイムの継続に関する抽選を実行しない遊技）を作ることなく遊技の興趣を高めることができる。

【0937】

換言すると、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満となる遊技の場合と、残り差枚数が0未満とならない遊技の場合と、において、押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減するタイミングが異なるように構成されている。デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満となる遊技の場合であれば、押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減するタイミングはスタートスイッチ12の操作に基づいたタイミング（スタートスイッチ12の操作を契機に所定時間経過後のタイミング）であり、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満とならない遊技の場合であれば、押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減するタイミングはストップスイッチ13の操作に基づいたタイミング（第1停止操作に基づいたタイミング、第2停止操作に基づいたタイミング、第3停止操作に基づいたタイミング、又は各ストップスイッチ13の操作を契機に所定時間経過後のタイミング）となっている。

【0938】

また、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満となる遊技の場合と、残り差枚数が0未満とならない遊技の場合と、において、押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減するスピードが異なるように構成されていてもよい。例えば、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満となる遊技のときに押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減するスピードは、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満とならない遊技のときに押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減するスピードよりも早くすることが考えられる。

【0939】

このように、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満となる遊技のときに押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度

に増減する場合は、後にルーレット演出を実行しないといけないため、ポイントの増減スピードを速くすることで、直ぐにルーレット演出に切り替えることができる。

【0940】

また、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技が、残り差枚数が0未満となる遊技のときに押し順会話チャレンジで獲得したポイント分を現在の好感度に増減する場合は、増減するポイントの量に関係なく一定の期間でルーレット演出に移行することが望ましい。このように構成することで、増減するポイントの量に関係なくルーレット演出を同じタイミングで実行できるため、演出パターンの増加を抑制でき、遊技のテンポがスムーズになる。

【0941】

また、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選したときに3秒間フリーズを実行するものであるときに、残り差枚数が0未満となる遊技が、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技となった場合には、フリーズを実行しないように構成することもできる。このように構成することで、ルーレット演出の進行態様がフリーズの実行によってずれないため、ルーレット演出の演出態様をフリーズあり時とフリーズなし時の2パターン用意する必要がなく、遊技機のデータ容量を削減することができる。

【0942】

また、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選したときに3秒間フリーズを実行するものであるときに、残り差枚数が0未満となる遊技が、デートタイムにおける5回目の押し順ベルが当選した遊技となった場合には、1秒間のフリーズを実行するように構成することもできる。このように構成することで、ルーレット演出時の好感度上昇演出をフリーズ時に実行することで遊技者に特別感を与えることができる。

【0943】

また、図79から図84で説明した図では、キャラクタ画像、及び背景画像が画面下部の台詞表示窓画像と重なっており、キャラクタ画像、及び背景画像の一部が隠れているが、台詞表示窓画像は透明にすることでキャラクタ画像、及び背景画像を視認できるように構成してもよい。この時の透過率は20%~70%の範囲であれば、台詞表示窓画像が認識でき、且つキャラクタ画像、及び背景画像を視認できることとなる。また、台詞表示窓画像に表示される台詞は透明にはしないことで遊技者に台詞を認識させることができる。このように構成することで、キャラクタ画像、及び背景画像の視認範囲が広がり、文字の視認性も損なわないため、遊技の興趣を高めることができる。

【0944】

また、上述したように押し順会話チャレンジでは、図80で示すようにデートタイム中の4回目の押し順ベル当選で、キャラクタの台詞と、選択肢と、が表示されており、デートタイム中の5回目の押し順ベル当選で、当選した押し順ベルに応じた選択肢を決定していたが、デートタイム中の4回目の押し順ベル当選からデートタイム中の5回目の押し順ベル当選までの間に選択肢に関する変換抽選を行ってもよい。

【0945】

図80では、「お化け屋敷」(−10ポイント)、「ジェットコースター」(+50ポイント)、「観覧車」(+100ポイント)の3つが選択肢として表示されているが、選択肢に関する変換抽選を実行した結果、選択肢が「お化け屋敷」(−10ポイント)、「観覧車」(+100ポイント)、「観覧車」(+100ポイント)の3つが選択肢として表示されるような獲得ポイントの高い選択肢に変換されることが例示できる。また、キャラクタの台詞と選択肢を全て変換するような変換抽選を実行してもよく、キャラクタの台詞として「あのマスコット可愛い〜」という台詞に変換され、選択肢が「そうだね」(+20ポイント)、「俺も好きなんだ」(+50ポイント)、「君の方が可愛いよ」(+200ポイント)の3つに変換されることが例示できる。この場合であっても変換抽選前の選択肢よりも得られるポイント期待度が高い選択肢に変換されるように構成することで、デートタイム中の4回目の押し順ベル当選からデートタイム中の5回目の押し順ベル当選までの間の遊技性を向上させることができる。

10

20

30

40

50

【0946】

選択肢に関する変換抽選を実行可能な条件装置は、全ての条件装置が該当するように設計してもよいし、当選確率の低い条件装置（いわゆるレア役）が該当するように設計してもよい。

【0947】

また、押し順会話チャレンジにおける押し順ベルの当選回数が5回未満のときにルーレット演出の実行タイミング（デートタイム1セット分の最終ゲーム）になったときは、一律で一定のポイント（例えば10ポイント）を付与してもよいし、当選回数が5回目に近いほど高ポイント（例えば、1回目は0ポイント、2回目は10ポイント、3回目は30ポイント、4回目は50ポイント）を付与してもよい。押し順会話チャレンジにおける押し順ベルの当選回数が5回未満のときに付与するポイントは通常の押し順会話チャレンジで獲得可能な期待値よりも下回るように設計することで、押し順会話チャレンジの期待感を相対的に高めることができ、遊技の目標として機能させることができる。

【0948】

上述した押し順会話チャレンジでは、6択の押し順ベル用いて説明したが、第2停止、第3停止の押し順は不問となる3択の押し順ベルを用いても差し支えない。

【0949】

上述した押し順会話チャレンジでの押し順ベルの当選回数は例示であり、3回目に当選した押し順ベルでポイント候補を表示して4回目に当選した押し順ベルでポイントを獲得するように構成されていてもよいし、3回目に当選した押し順ベルでポイント候補を表示して5回目に当選した押し順ベルでポイントを獲得するように構成されていてもよい。或いは、3回目に当選した押し順ベルでポイント候補を表示した後5ゲーム後にフリーズ演出（フリーズを用いてリールを回転させる演出）を用いてどのリールが最初に始動するかに応じてポイントを付与する態様であってもよい。

【0950】

<<ベット処理>>

次に、本明細書において適用可能なベット処理について説明する。なお、以降において説明するベット処理（ベット処理1、ベット処理2）は、リプレイによる再遊技時ではない（リプレイに対応する図柄組合せが停止した次遊技ではない）ことを補足しておく。また、ベット数を記憶するRAMの記憶領域をベット数記憶領域（__NB__PLAY__MEDAL）と称し、クレジット数を記憶するRAMの記憶領域をクレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）と称する場合がある。また、特に言及しない場合であっても、ベット数がX（Xは数値）のときとは、ベット数記憶領域（__NB__PLAY__MEDAL）にXが記憶されている状況を指す。同様に、クレジット数がY（Yは数値）のときとは、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）にYが記憶されている状況を指す。

【0951】

また、本明細書において適用可能なベット処理は、規定数が「3」のみである遊技機、規定数が「2」又は「3」である遊技機、規定数が「1」、「2」又は「3」である遊技機等、いずれであっても共通に利用可能である。さらにまた、遊技状態に応じて規定数が変化しても良い。例えば、特定のボーナス遊技状態のときには規定数が「3」であり、通常遊技状態（非ボーナス遊技状態）のときには規定数が「2」又は「3」となるような遊技機であっても良い。

【0952】

また、本明細書における当該遊技でベット可能な最大数（当該遊技でベット可能な最大規定数、当該遊技でベット可能な最大ベット数とも称す）について説明する。例えば、規定数が「3」遊技のときには、当該遊技でベット可能な最大数は「3」となる。例えば、規定数が「2」又は「3」の遊技のときには、当該遊技でベット可能な最大数は「3」となる。例えば、規定数が「1」、「2」又は「3」の遊技のときには、当該遊技でベット可能な最大数は「3」となる。

【0953】

<ベット処理 1>

ベット処理 1 では、当該遊技でベット可能な最大数が「3」である遊技（規定数に少なくとも「3」を有する遊技）を用いて説明する。具体的には、当該遊技の規定数が「3」のみである場合、当該遊技の規定数が「2」又は「3」である場合、当該遊技の規定数が「1」、「2」又は「3」である場合等の状況を用いて説明する。

【0954】

図 86 は本明細書において適用可能なベット処理 1 に係るフローチャートである。ベット処理 1 は、上述した遊技進行メインにおける遊技価値投入処理の詳細な処理である。

【0955】

初めに、スタートレバー 12 の押下済みフラグが ON であるか否かを判定する。Yes の場合、RET となり当該ベット処理を終了する。ここで、スタートレバー 12 の押下済みフラグとは、規定数とベット数が一致している状況下でスタートレバー 12 が操作された場合に、「1」となる（ON となる）フラグである。換言すると、スタートレバー 12 が操作され、役抽選を実行する場合には、RET となりベット処理を実行しないようにしている。なお、スタートレバー 12 の押下済みフラグに相当するフラグを備えていても備えていなくても良い。

【0956】

No の場合、次に、リプレイ時であるか否かを判定する。Yes の場合（リプレイに対応する図柄組合せが停止した場合）、RET となり当該ベット処理を終了する。つまり、上述した通り、以降に説明する処理は、リプレイによる再遊技時ではない場合となる。

【0957】

No の場合、次に、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ 18、1ベットスイッチ 19）の無効時間が経過したか否かを判定する。No の場合、RET となり当該ベット処理を終了する。

【0958】

Yes の場合、次に、1ベット信号又は MAXベット信号の立ち上がりがあるか否かを判定する。つまり、1ベットスイッチ 19 又は MAXベットスイッチ 18 のうち、いずれかの操作がされたか否かを判定する。No の場合、RET となり当該ベット処理を終了する。

【0959】

Yes の場合、次に、遊技メダル限界チェックを行う。言い換えると、規定数（例えば、「3」）と現在のベット数（ベット数、ベット数データ、遊技メダル枚数データとも称する）とを比較し、現在のベット数が規定数であるか否かを判定する。現在のベット数が規定数でなければ、投入要求枚数として、規定数と現在のベット数との差分のデータをセットする。例えば、規定数が 3（3ベットされている状況でスタートスイッチが操作されれば遊技が可能なとき）で、現在のベット数が 1 のときには、差分のデータとして 2 を Bレジスタに記憶する。また、例えば、規定数が 2 又は 3（2ベットされている状況、又は、3ベットされている状況でスタートスイッチが操作されれば遊技が可能なとき）で、現在のベット数が 1 のときには、差分のデータとして 2 を Bレジスタに記憶する（規定数が多い方と現在のベット数との差分データを所定のレジスタに記憶する）。

【0960】

次に、貯留枚数データを取得する。言い換えると、現在のクレジット数のデータを取得する。例えば、現在のクレジット数が 48 のとき、Aレジスタに 48 を記憶する。

【0961】

次に、1ベット信号の立ち上がりであるか否かを判定する。No の場合、つまり、MAXベット信号の立ち上がりの場合は、以降に説明する投入要求枚数が 0 であるか否かの判定処理に移行する。

【0962】

Yes の場合、つまり、1ベットスイッチ 19 が操作された場合には、次に、遊技メダルが限界であるか否かを判定する。例えば、上述した遊技メダル限界チェックを行った結

10

20

30

40

50

果、規定数と現在のベット数との差分のデータ（Bレジスタのデータ）が0であるときにはYesと判定し、上述した遊技メダル限界チェックを行った結果、規定数と現在のベット数との差分のデータ（Bレジスタのデータ）が0でないときにはNoと判定する。

【0963】

Noの場合、貯留枚数があるか否かを判定する。言い換えると、クレジットがあるか否かを判定する。例えば、上述した貯留枚数データを取得する処理の結果、現在のクレジット数のデータ（Aレジスタのデータ）が0でないときにはYesと判定し、上述した貯留枚数データを取得する処理の結果、現在のクレジット数のデータ（Aレジスタのデータ）が0であるときにはNoと判定する。Yesの場合、つまり、クレジットがある場合は、以降に説明する、投入要求枚数セットの処理に移行する。

10

【0964】

Noの場合（クレジットがない場合）、及び、遊技メダルが限界か否かの判定でYesの場合、次に、遊技メダル枚数データが2以上であるか判定する。つまり、現在のベット数が2以上であるか否かを判定する。Noの場合、RETとなり当該ベット処理を終了する。換言すると、クレジットがない場合であっても、遊技メダル枚数データが2であるとき又は遊技メダル枚数データが3であるときには、1ベットボタンの操作に応じたベット処理の続きが実行できるように構成されている。また、クレジットがない場合で、遊技メダル枚数データが0であるとき又は遊技メダル枚数データが1であるときには、1ベットボタンの操作に応じたベット処理が終了するように構成されている。

【0965】

Yesの場合、次に、遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）の和が50以下であるか否かを判定する。例えば、遊技メダル枚数と貯留枚数の和をAレジスタに記憶し、51と比較する演算によって判定する。Noの場合、RETとなり当該ベット処理を終了する。

20

【0966】

Yesの場合、ベット数記憶領域（__NB__PLAY__MEDAL）に記憶されている遊技メダル枚数データ（ベット数のデータ）をクリアし、遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）の和のデータ（Aレジスタに記憶されたデータ）を貯留枚数データ（クレジット数のデータ）としてクレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶する。なお、当該処理を実行した場合であっても、Aレジスタに記憶されているデータは、遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）の和のデータである。

30

【0967】

これらの処理により、例えば、ベット数：2、クレジット数：0の状態で1ベットスイッチ19が操作された場合には、遊技メダル枚数は「2」であり、遊技メダル枚数データが2以上であるため、遊技メダル枚数と貯留枚数との和が50以下であるかを判定する。遊技メダル枚数が「2」で貯留枚数（クレジット数）が「0」であるため、和は「2」であり、「50」以下である。この場合には、遊技メダル枚数データをクリアし、貯留枚数データが記憶される。つまり、ベット数のデータを「0」とし、貯留枚数のデータを「2」として記憶する。また、例えば、ベット数：3、クレジット数：50の状態で1ベットスイッチ19が操作された場合には、遊技メダル枚数は「3」であり、遊技メダル枚数データが2以上であるため、遊技メダル枚数と貯留枚数との和が50以下であるかを判定する。遊技メダル枚数が「3」で貯留枚数（クレジット数）が「50」であるため、和は「53」であり、「50」以下ではない。この場合には、ベット処理を終了する。

40

【0968】

仮に、遊技メダル枚数と貯留枚数との和が50以下であるかを判定しない場合には、1ベットスイッチの操作により、ベット数のデータを「0」、貯留枚数のデータを「53」として記憶し、その後、1ベット処理が実行されることによりベット数のデータを「1」、貯留枚数のデータを「50」（クレジット数の上限値）とし、余剰分である「2」を払出（精算）枚数とすることが考えられる。しかしながら、このような場合には、1ベットスイッチ19の操作によってベットの処理だけでなく遊技機外に払出す処理も実行する必

50

要がある。このような処理の複雑化を避けるために、遊技メダル枚数と貯留枚数との和が50以下であるかを判定し、和が50以下のときにだけ1ベットスイッチ19の操作に基づくベット処理を可能とすることによって、処理の複雑化を避けることができる。なお、ここに記載した「遊技メダル枚数と貯留枚数との和が50以下であるかを判定しない場合」の処理はあくまで本発明とは異なる仮定の処理、つまり変形例であり、本発明では「遊技メダル枚数と貯留枚数との和が50以下であるかを判定する」ため、ここに記載した処理が必要なわけではない。

【0969】

次に、投入要求枚数をセットする。ここでは、1ベットスイッチ19の操作に基づく投入要求枚数として「1」をセットする。例えば、Bレジスタに1を記憶する。

10

【0970】

次に、投入要求枚数が0であるか否かを判定する。例えば、Bレジスタに記憶された値が0であるか否かを判断する。Yesの場合、RETとなり当該ベット処理を終了する。

【0971】

Noの場合（投入要求枚数が1～3である場合、つまりBレジスタに記憶されている値が1～3である場合）、次に、貯留枚数が投入要求枚数よりも少ないか否かを判定する。例えば、Aレジスタに記憶されている値（Aレジスタに記憶されている値は、上述したとおり、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶した遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）の和の値である。）が、Bレジスタに記憶されている値よりも小さいかを判定する。Yesの場合、RETとなり当該ベット処理を終了する。

20

【0972】

Noの場合、副制御基板1000へデータを送信するためのパラメータをセットし、次の処理に移行する。具体的には、投入要求枚数のデータをパラメータとしてセットする。

【0973】

次に、遊技メダルを1枚加算する。つまり、実際に1ベットされる。

【0974】

次に、貯留枚数データ（クレジット数）を1減算する。

【0975】

次に、投入要求枚数分の投入が終了したか否かを判定する。Noの場合、遊技メダルを1枚加算する処理へ移行し、次の1ベットが行われる。

30

【0976】

つまりここでは、MAXベットスイッチ18が操作された場合であれば、投入要求枚数が1（ベット数が2のとき）、2（ベット数が1のとき）又は3（ベット数が0のとき）のいずれかであり、1ベットする処理を1回、2回又は3回行い、規定数までベットする処理を行う。1ベットスイッチ19が操作された場合であれば、投入要求枚数が1であるため、1ベットする処理を1回行う。

【0977】

上述した投入要求枚数分の投入が終了したか否かを判定でYesの場合、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）の無効時間を記憶し、ベット処理を終了する。

40

【0978】

[ベット処理1の具体例]

次に、図87を用いて、ベット処理1の具体例を説明する。

【0979】

(例1)

例1は、ベット数：2、クレジット数（貯留数）：2である状況において、1ベットスイッチ19が操作された場合である。このとき、ベット数に1加算され、クレジット数が1減算され、ベット数：3、クレジット数：1となる。

【0980】

(例2)

50

例 2 は、ベット数：0、クレジット数：50 である状況において、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合である。このとき、ベット数に 1 加算され、クレジット数が 1 減算され、ベット数：1、クレジット数：49 となる。

【0981】

(例 3)

例 3 は、ベット数：2、クレジット数：0 である状況において、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合である。クレジット数が 0 であるため、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合であっても、ベット数を加算して 3 にすることはできない。このときは、ベット数が 1 となり、クレジット数も 1 となる。

【0982】

つまり、処理の詳細は後述するが、クレジット数が 0 であっても 1 ベットスイッチ 19 の操作は有効であり、ベット数を加算する処理が行われるよう構成されている。このため、ベット数が 1 となり、クレジット数も 1 となる。

【0983】

(例 4)

例 4 は、ベット数：3、クレジット数：0 である状況において、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合である。ここでは規定数（最大ベット数）が 3 であるため、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合であってもベット数が 3 を超えることはない。このときは、ベット数が 1 となり、クレジット数が 2 となる。

【0984】

例 3 のときと同様に、クレジット数が 0 であっても 1 ベットスイッチ 19 の操作は有効であり、ベット数を加算する処理が行われるよう構成されている。このため、ベット数が 1 となり、クレジット数は 2 となる。

【0985】

(例 5)

例 5 は、ベット数：3、クレジット数：47 である状況において、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合である。ここでは規定数（最大ベット数）が 3 であるため、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合であってもベット数が 3 を超えることはない。このときは、ベット数が 1 となり、クレジット数は 49 となる。

【0986】

処理の詳細は後述するが、ベット数：3、クレジット数：47 であるとき、1 ベットスイッチ 19 の操作は有効であり、ベット数を加算する処理が行われるよう構成されている。このため、ベット数が 1 となり、クレジット数が 49 となる。

【0987】

(例 6)

例 6 は、ベット数：3、クレジット数：48 である状況において、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合である。このときは、ベット数が 3、クレジット数が 48 のままであり、ベット数を加算する処理が行われない。

【0988】

図 86 のフローチャートにて説明した通り、1 ベットスイッチ 19 の操作がされたとき、遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）との和が 50 を超える場合には、当該ベット処理を終了する。従って、1 ベットスイッチ 19 の操作がされた場合であってもベット数とクレジット数が変化することはない。

【0989】

(例 7)

例 7 は、ベット数：3、クレジット数：49 である状況において、1 ベットスイッチ 19 が操作された場合である。このときは、ベット数が 3、クレジット数が 49 のままであり、ベット数を加算する処理が行われない。

【0990】

例 6 にて説明した通り、1 ベットスイッチ 19 の操作がされたとき、遊技メダル枚数（

10

20

30

40

50

ベット数)と貯留枚数(クレジット数)の和が50を超える場合には、当該ベット処理を終了する。従って、1ベットスイッチ19の操作がされた場合であってもベット数とクレジット数が増加することはない。

【0991】

(例8)

例8は、ベット数:3、クレジット数:50である状況において、1ベットスイッチ19が操作された場合である。このときは、ベット数が3、クレジット数が50のままであり、ベット数を加算する処理が行われない。

【0992】

例6にて説明した通り、1ベットスイッチ19の操作がされたとき、遊技メダル枚数(ベット数)と貯留枚数(クレジット数)との和が50を超える場合には、当該ベット処理を終了する。従って、1ベットスイッチ19の操作がされた場合であってもベット数とクレジット数が増加することはない。

【0993】

なお、ベット数:1、クレジット数:0である状況において、1ベットスイッチ19が操作された場合には、1ベットスイッチ19が操作された場合であっても、ベット数:1、クレジット数:0のままである。具体的には、1ベットスイッチ19が操作されたことを検出した場合であっても、ベット数:0、クレジット数:1とした後に、ベット数を加算する処理を行ってベット数:1、クレジット数:0とすることはなく(必要であれば図86を参照のこと)、1ベットスイッチ19が操作される前のベット数:1、クレジット数:0の状況が維持される。

【0994】

[ベット処理1の処理の説明]

次に、図87の下図を用いて、ベット処理1の詳細を説明する。

【0995】

(ベット数が3未満のとき)

ベット数:2、クレジット数:2である状況において、1ベットスイッチ19が操作された場合、ベット数に1が加算され、クレジット数から1が減算され、ベット数:3、クレジット数:1となる。なお、この例は、ベット数が3未満であり、且つ、クレジット数が1以上ある場合の例である。換言すると、ベット数が3未満であり、且つ、クレジット数が0である場合には、図87の上図の(例3)のような挙動(クレジット数が増加する挙動)が実行される場合を有するようになっている。

【0996】

(ベット数が3のとき:例1)

ベット数が3のときの例1は、ベット数:3、クレジット数:2である状況において、1ベットスイッチ19が操作された場合である。上述した通り、ここでは規定数(最大ベット数)が3であるため、1ベットスイッチ19が操作された場合であってもベット数が3を超えることはない。

【0997】

このとき、図86のフローチャートで説明した通り、1ベットスイッチ19の操作がされたとき、遊技メダル枚数(ベット数)と貯留枚数(クレジット数)との和が50以下であるか否かを判定する。ここでは、3(ベット数)+2(クレジット数) $\leq$ 50を満たしている。したがって、ベット数記憶領域(__NB__PLAY__MEDAL)に記憶されているベット数(遊技メダル枚数データ)の3をクリアし(0にする)、クレジット数記憶領域(__NB__CREDIT)にクレジット数(貯留枚数データ)として5を記憶する。

【0998】

このとき、Aレジスタを用いて演算する。つまり、Aレジスタにて、3(ベット数)+2(クレジット数)を行い、結果(5)がAレジスタに記憶される。そして、Aレジスタの値が50以下であるか否かを判定する。ここでは、Aレジスタの値が5であり、50以下であるため、ベット数記憶領域(__NB__PLAY__MEDAL)に記憶されているベ

10

20

30

40

50

ット数（遊技メダル枚数データ）の3をクリアし（0にする）、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）にクレジット数（貯留枚数データ）として5を記憶する。したがって、ベット数：0、クレジット数：5の状況となる。

【0999】

次に、ベット数を加算する処理（1ベット処理）にて実際に1ベットされる。これにより、ベット数：0、クレジット数：5の状況からベット数：1、クレジット数：4の状況へと変化する。

【1000】

（ベット数が3のとき：例2）

ベット数が3のときの例2は、ベット数：3、クレジット数：47である状況において、1ベットスイッチ19が操作された場合である。上述した通り、ここでは規定数（最大ベット数）が3であるため、1ベットスイッチ19が操作された場合であってもベット数が3を超えることはない。

【1001】

このとき、図86のフローチャートで説明した通り、1ベットスイッチ19の操作がされたとき、遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）との和が50以下であるか否かを判定する。ここでは、3（ベット数）+47（クレジット数） $\leq$ 50を満たしている。したがって、ベット数記憶領域（__NB__PLAY__MEDAL）に記憶されているベット数（遊技メダル枚数データ）の3をクリアし（0にする）、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）にクレジット数（貯留枚数データ）として50を記憶する。

【1002】

このとき、Aレジスタを用いて演算する。つまり、Aレジスタにて、3（ベット数）+47（クレジット数）を行い、結果（50）がAレジスタに記憶される。そして、Aレジスタの値が50以下であるか否かを判定する。ここでは、Aレジスタの値が50であり、50以下であるため、ベット数記憶領域（__NB__PLAY__MEDAL）に記憶されているベット数（遊技メダル枚数データ）の3をクリアし（0にする）、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）にクレジット数（貯留枚数データ）として50を記憶する。したがって、ベット数：0、クレジット数：50の状況となる。

【1003】

次に、ベット数を加算する処理（1ベット処理）にて実際に1ベットされる。これにより、ベット数：0、クレジット数：50の状況からベット数：1、クレジット数：49の状況へと変化する。

【1004】

〔ベット処理1の特徴〕

このように、ベット数が3のときに1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数の3とクレジット数を加算した値を一度全てクレジット数として記憶し、その後に1をベットする処理を実行する。これにより、ベット数が3である状況であっても1ベットスイッチ19の操作を有効とすることができるため、ベット数が3である状況でベット数を変更したい場合等にわざわざ精算スイッチを操作する必要がなくなる。

【1005】

なお、上述した通り、ベット数：2、クレジット数：0のときに1ベットスイッチ19が操作された場合等も同様に、ベット数の2とクレジット数（0）を加算した値を一度全てクレジット数として記憶し、その後に1をベットする処理を実行する。これにより、クレジット数が0である状況であっても1ベットスイッチ19の操作を有効とすることができるため、クレジット数が0である状況でベット数を変更したい場合等にわざわざ精算スイッチを操作する必要がなくなる。

【1006】

また、規定数（最大ベット可能数）が3である遊技状態において、ベット数：1、クレジット数：0のときに1ベットスイッチを操作しても、ベット数：1、クレジット数：0

10

20

30

40

50

であるが、ベット数：2、クレジット数：0のときに1ベットスイッチを操作すると、ベット数：1、クレジット数：1となる。

【1007】

このように、ベット数が規定数の3である状況、又は、クレジット数が0である状況であっても、1ベットスイッチ19が操作されたときに1ベットすることが可能な場合があり、1ベットするための処理が共通化されている。これにより、プログラム容量を削減することができる。

【1008】

ベット処理1における遊技機は、

1ベットスイッチを備え、

当該遊技でベット可能な最大のベット数が「3」である所定の状況において、ベット数が「1」、クレジット数が「0」のときに1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数は「1」、クレジット数は「0」のままであり、

当該遊技でベット可能な最大のベット数が「3」である所定の状況において、ベット数が「2」、クレジット数が「0」のときに1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数が「1」、クレジット数が「1」となることを特徴とする。

【1009】

<ベット処理2>

次に、図88及び図89は、本明細書において適用可能なベット処理2に係るフローチャートである。なお、ベット処理2では、当該遊技でベット可能な最大数が「3」である遊技（規定数に少なくとも「3」を有する遊技）を用いて説明する。具体的には、当該遊技のが「3」のみである場合、当該遊技の規定数が「2」又は「3」である場合、当該遊技の規定数が「1」、「2」又は「3」である場合等の状況を用いて説明する。

【1010】

初めに、以降のフローチャートで説明するフラグについて説明する。「手入れフラグ」とは、メイン制御基板のRAM領域にある手入れフラグ記憶領域である。例えば、遊技者により遊技メダルがメダル投入口17から投入された際に手入れフラグ記憶領域にONを示すデータを記憶可能とする。「投入フラグ」とは、メイン制御基板のRAM領域にある投入フラグ記憶領域である。例えば、1ベットスイッチ19又はMAXベットスイッチ18の操作に基づいて貯留（クレジット）からベットする際に投入フラグ記憶領域にONを示すデータを記憶可能とする。「MAXベットスイッチ操作済みフラグ」とは、メイン制御基板のRAM領域にあるMAXベットスイッチ操作済みフラグ記憶領域である。例えば、MAXベットスイッチ18が操作された場合にMAXベットスイッチ操作済みフラグ記憶領域にONを示すデータを記憶可能とする。

また、「フラグをON」とは「記憶領域にONを示すデータを記憶する」ことを指し、「フラグをOFF」とは、「記憶領域にOFFを示すデータを記憶する」ことを指すこととする。

【1011】

（割込み処理）

次に、図88の割込み処理について説明する。なお、割込み処理におけるベット処理に関する処理について説明するため、割込み処理における他の処理については説明を省略する。

【1012】

初めに、手入れによる遊技メダルの投入であるか否かを判定する。言い換えると、投入センサが一定期間ONになり、その後OFFになったか否か（正常にメダルが通過したか否か）を判定する。

【1013】

Yesの場合、手入れフラグをONにし、貯留又は投入枚数に1を加算して、割込み処理を終了する。貯留に1を加算する場合は、ベット数が規定数となっている場合であり、

10

20

30

40

50

投入枚数に1を加算する場合は、ベット数が規定数となっていない場合である。なお、手入れによる遊技メダルの投入であるか否かの判定は、遊技メダルの受付が可能な状況（例えば、メダル流路が形成されているとき）で行い、遊技メダルの受付ができない状況（例えば、メダル流路が形成されていないとき（リールが回転しているとき等））では行わないように制御しても良い。

【1014】

Noの場合、次に、投入フラグがONであるか否かを判定する。Noの場合、割込み処理を終了する。

【1015】

Yesの場合、次に、投入フラグをOFFにする。

10

【1016】

次に、貯留枚数（クレジット数）が0であるか否かを判定する。Yesの場合、割込み処理を終了する。

【1017】

Noの場合、次に、貯留枚数から1を減算する。

【1018】

次に、投入枚数に1を加算して、割込み処理におけるベット処理を終了する。

【1019】

（遊技終了時・精算時の処理）

次に、図88の遊技終了時・精算時の処理について説明する。なお、ベット処理に関する処理について説明するため、遊技終了時又は精算時の他の処理については説明を省略する。

20

【1020】

遊技終了時・精算時の処理ではまず、手入れフラグをOFFにする。

【1021】

次に、投入フラグをOFFにする。

【1022】

次に、MAXベットスイッチ操作済みフラグをOFFにし、遊技終了時・精算時の処理を終了する。

【1023】

30

これらの処理により、手入れによる遊技メダルの投入に基づく新たなベット、1ベットスイッチ19の操作に基づく新たなベット、MAXベットスイッチ18の操作に基づく新たなベットが可能となる。なお、手入れフラグ、投入フラグ、MAXベットスイッチ操作済みフラグの各フラグをOFFする順序は、どのような順序であっても差し支えない。

【1024】

（遊技進行メイン処理）

次に、図89の遊技進行メイン処理について説明する。なお、遊技進行メイン処理におけるベット処理に関する処理について説明するため、遊技進行メイン処理における他の処理については説明を省略する。

【1025】

40

遊技進行メイン処理ではまず、処理回数として「3」をセットする。

【1026】

次に、MAXベットスイッチ18がONであるか否かを判定する。言い換えると、MAXベットスイッチ18が操作されているか否かを判定する。

【1027】

Yesの場合、MAXベットスイッチ操作済みフラグがONであるか否かを判定する。

【1028】

Noの場合、MAXベットスイッチ操作済みフラグをONにし、手入れフラグがONであるか否かの判定へ移行する。Yesの場合、当該遊技進行メイン処理を終了する。

【1029】

50

MAXベットスイッチ18がONであるか否かの判定がNoの場合、処理回数として「1」をセットする。

【1030】

次に、1ベットスイッチ19がONであるか否かを判定する。言い換えると、1ベットスイッチ19が操作されているか否かを判定する。Noの場合、当該遊技進行メイン処理を終了する。

【1031】

Yesの場合、MAXベットスイッチ操作済みフラグがONであるか否かを判定する。Noの場合、投入フラグをONにする処理へ移行する。

【1032】

Yesの場合、MAXベットスイッチ操作済みフラグをOFFにし、手入れフラグがONであるか否かの判定へ移行する。

【1033】

次に、手入れフラグがONであるか否かを判定する。Yesの場合、投入フラグをONにする処理へ移行する。

【1034】

Noの場合、投入枚数を貯留（クレジット）に戻し、投入枚数のデータをクリアする。つまり、規定数のベットがされている状況において、MAXベットスイッチ18又は1ベットスイッチ19が操作された場合には、手入れによる遊技メダル投入がされていないことを条件に、一旦ベット数のデータをクレジットに戻し、ベット数のデータをクリアする。その後、以降に説明するベットの処理が行われる。ここで、「ベット数のデータをクレジットに戻し」とは、遊技メダル枚数（ベット数）と貯留枚数（クレジット数）の和のデータを貯留枚数データ（クレジット数のデータ）としてクレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶することを指す。なお、ベット数のデータを一旦レジスタ等の記憶手段に保持していれば、ベット数のデータをクリアしてから、ベット数のデータをクレジットに戻しても差し支えない。

【1035】

次に、投入フラグをONにする。

【1036】

次に、規定数が投入済み（ベット済み）であるか否かを判定する。例えば、規定数が3枚であれば、3枚投入済み（ベット済み）であるか否かを判定する。Yesの場合、投入フラグをOFFにする処理へ移行する。

【1037】

Noの場合、投入フラグがOFFであるか否かを判定する。

【1038】

Noの場合、規定数が投入済み（ベット済み）であるか否かの判定処理へと戻る。つまり、割込み処理で投入枚数が加算されて規定数の投入済み（ベット済み）となるまで、割込み処理で投入フラグがOFFとなるまで、又は、遊技終了時・精算時の処理で投入フラグがオフとなるまで、規定数が投入済み（ベット済み）であるか否かの判定処理と投入フラグがOFFであるか否かの判定処理を繰り返す。

【1039】

Yesの場合、処理回数が「0」であるか否かを判定する。

【1040】

Noの場合、規定数が投入済み（ベット済み）であるか否かの判定処理へと戻る。

【1041】

Yesの場合、投入フラグをOFFにして、メイン処理を終了する。

【1042】

[ベット処理2の具体例]

次に、図90を用いて、ベット処理2の具体例を説明する。

なお、ベット処理2の具体例は、ベット数：3、クレジット数：50で1遊技を行い、

10

20

30

40

50

その遊技が終了し、ベット数：0、クレジット数：50となった場合の状況における、各種挙動の具体例である。言い換えると、ベット数：3、クレジット数：50で1遊技を行いその遊技が終了した場合の次遊技を開始するためのベット処理（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19の操作があった場合の処理）についての説明である。なお、例1及び例2では新たな遊技メダルの投入がされない場合、例3及び例4では新たな遊技メダルの投入がされる場合の説明である。

【1043】

（例1）

例1では、ベット数：0、クレジット数（貯留数）：50である状況において、まずMAXベットスイッチ18が操作される。このとき、ベット数を1加算する処理とクレジット数を1減算する処理がそれぞれ3回行われ、ベット数：3、クレジット数：47となる。

10

【1044】

この後、1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数：1、クレジット数：49となる。

【1045】

（例2）

例2では、ベット数：0、クレジット数：50である状況において、まず1ベットスイッチ19が操作される。このとき、ベット数に1加算され、クレジット数が1減算され、ベット数：1、クレジット数：49となる。

【1046】

この後、1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数：2、クレジット数：48となる。さらに1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数：3、クレジット数：47となる。

20

【1047】

この状況にてさらに1ベットスイッチ19が操作された場合には、ベット数：3、クレジット数：47のまま変化しない。このように、1ベットスイッチ19の操作によってベット数が規定数になった場合には、さらなる1ベットスイッチ19の操作によってベット処理が行われることはない。

【1048】

一方、ベット数：0、クレジット数：50である状況において、1ベットスイッチ19が3回操作され、ベット数：3、クレジット数：47となり、さらにMAXベットスイッチ18が操作された場合には、MAXベットスイッチ18の操作が有効であり、一旦ベット数：0、クレジット数：50となり、ベット数に1を加算する処理とクレジット数を1減算する処理がそれぞれ3回行われ、ベット数：3、クレジット数：47となる。

30

【1049】

MAXベットスイッチ18が操作されてベット数：3、クレジット数：47となった後であれば、1ベットスイッチ19の操作は有効となる。したがって、このとき、1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数：1、クレジット数：49となる。

【1050】

（例3）

例3では、ベット数：0、クレジット数：50である状況において、まず1枚の遊技メダルの投入（手入れによる遊技メダルの投入）がされる。このとき、ベット数に1加算され、クレジット数は変化せず、ベット数：1、クレジット数：50となる。

40

【1051】

次に、1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数：2、クレジット数：49となる。さらに1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数：3、クレジット数：48となる。

【1052】

この状況にて、MAXベットスイッチ18又は1ベットスイッチ19が操作された場合には、ベット数：3、クレジット数：48から変化しない。つまり、ベット処理が行われ

50

ない。

【1053】

このように、手入れによる遊技メダルの投入と1ベットスイッチ19の操作によるベット処理により規定数となった場合には、ベット数が規定数となった後のMAXベットスイッチ18及び1ベットスイッチ19の操作は無効となる。これにより、クレジット数を「50」以下に保つことができる。換言すると、手入れによる遊技メダルの投入があった場合には、ベット数とクレジット数の和として「51」以上となる場合（例えば、ベット数：3、クレジット数：48の場合）を有する。このようなとき（例えば、ベット数：3、クレジット数：48の場合）に、1ベットスイッチ19の操作、又は、MAXベットスイッチ18の操作を有効にし、ベット数とクレジット数の和をクレジット数としてクレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶すると、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶されている値（クレジット数）が50（上限値）を超えてしまう場合がある。よって、手入れによる遊技メダルの投入があった場合には、上述した手入れフラグをONとすることにより、クレジット数が一瞬でも50を超えることがないように（ベット数とクレジット数の和として「51」以上となっている状況では、1ベットスイッチ19の操作によるベット処理やMAXベットスイッチ18の操作によるベット処理を実行しないように）制御することができる。

10

【1054】

なお、手入れによる遊技メダルの投入と1ベットスイッチ19の操作によるベット処理により規定数となった場合には常にMAXベットスイッチ18及び1ベットスイッチ19の操作を無効とすることで、ベット数とクレジット数の和が「50」を超える場合と「50」を超えない場合とで共通のベット処理とすることができるためプログラム容量の削減となる。

20

【1055】

（例4）

例4では、ベット数：0、クレジット数：50である状況において、まず1枚の遊技メダルが手入れにより投入される。このとき、ベット数に1加算され、クレジット数は変化せず、ベット数：1、クレジット数：50となる。

【1056】

この後さらに1枚の遊技メダルが投入されると、ベット数：2、クレジット数：50となる。さらに1枚の遊技メダルが投入されると、ベット数：3、クレジット数：50となる。

30

【1057】

この状況でMAXベットスイッチ18又は1ベットスイッチ19が操作された場合には、ベット数：3、クレジット数：50のまま変化しない。このように、手入れによってベット数が規定数になった場合には、その後のMAXベットスイッチ18及び1ベットスイッチ19の操作によってベット処理が行われることはない。これにより、クレジット数を「50」以下に保つことができる。換言すると、手入れによる遊技メダルの投入があった場合には、ベット数とクレジット数の和として「51」以上となる場合（例えば、ベット数：3、クレジット数：48の場合）を有する。このようなとき（例えば、ベット数：3、クレジット数：48の場合）に、1ベットスイッチ19の操作、又は、MAXベットスイッチ18の操作を有効にし、ベット数とクレジット数の和をクレジット数としてクレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶すると、クレジット数記憶領域（__NB__CREDIT）に記憶されている値（クレジット数）が「50」（上限値）を超えてしまう場合がある。よって、手入れによる遊技メダルの投入があった場合には、上述した手入れフラグをONとすることにより、クレジット数が一瞬でも「50」を超えることがないように（ベット数とクレジット数の和として「51」以上となっている状況では、1ベットスイッチ19の操作によるベット処理やMAXベットスイッチ18の操作によるベット処理を実行しないように）制御することができる。

40

【1058】

50

仮に、ベット数：3、クレジット数：50である状況において、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）の操作を有効とすると、ベットスイッチが操作されたことに応じて一旦ベット数のデータをクレジットに戻すことになる。この際、クレジット数が「50」を超えることになるが、クレジット数は「50」が上限値であるため、「50」までしか記憶することができない。そうすると、現在のベット数：3に対応するデータ（「3」）をクレジット数として記憶することはできないため、遊技メダルを払い出す（精算する）必要がある。その後、ベットスイッチの操作に対応するベット処理を行うこととなる。

【1059】

このとき、払い出される遊技メダルの枚数は、2枚であってもよいし、3枚であってもよい。例えば、ベット数を「1」のままとする場合には、1ベットスイッチ19が操作されると2枚の遊技メダルが払い出されることとなるし、ベット数を一旦「0」にする場合には、1ベットスイッチ19が操作されると3枚の遊技メダルが払い出されることとなる。

【1060】

このような事象が発生してしまうと、遊技者は遊技時間が削られ、非常に煩わしさを感じてしまう虞がある。したがって、本例で説明した構成を採用することで、このような事象を発生させないようにすることができ、遊技効率の向上につながり、遊技者がストレスを感じることなく遊技を進行させることができる。さらにまた、1ベットスイッチ19の操作により、遊技メダルの払出し処理を実行することとなるため、処理が複雑化されてしまう恐れがある。したがって、本例で説明した構成を採用することで、このような事象を発生させないようにすることができ、処理の複雑化が起らないようにすることができる。

【1061】

（ベット処理2のまとめ）

このように、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）によるベット処理によってベット数が規定数となった場合には、ベット数が規定数となった後に少なくともいずれかのベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）が有効に機能してベット可能であるが、手入れによる遊技メダルの投入が行われてベット数が規定数となった場合には、ベット数が規定数となった後にベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）が無効となる。

【1062】

これにより、新たな遊技メダルの投入がない状況において、ベットスイッチ（MAXベットスイッチ18、1ベットスイッチ19）による多様なベット処理を可能とすることができる。

【1063】

なお、クレジット数が50の状況を例に説明したが、これに限定されることはない。

【1064】

〔ベット処理2による特徴1〕

ベット処理2では、MAXベットスイッチ18の操作によって、ベット数が「3」（規定数）となった状況であって、その後、遊技メダルの手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ19の操作によってベット数が「1」となる。一方、1ベットスイッチ19の操作が3回されることによって、ベット数が「3」（規定数）となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ19の操作がされてもベット数は「3」のままとなる。

【1065】

言い換えると、MAXベットスイッチ18の操作によって、ベット数が「3」（規定数）となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がされた場合（クレジットに遊技メダルの投入分が加算された場合）には、以降の1ベットスイッチ19及びMAXベットスイッチ18の操作は無効である。

【1066】

また、1ベットスイッチ19が3回操作されることによって、ベット数が「3」（規定

10

20

30

40

50

数)となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダル投入がされた場合には、以降の1ベットスイッチ19及びMAXベットスイッチ18の操作は無効である。

【1067】

これにより、誤ってMAXベットスイッチ18を操作してしまった遊技者に対しては、精算スイッチを操作することなく、1ベットスイッチ19の操作により容易にベット数を修正(例えば、ベット数を3からベット数を1に修正)することができる。

【1068】

ベット処理2による特徴1における遊技機は、
投入口と、
1ベットスイッチと、
MAXベットスイッチと、
を備え、

所定の状況でMAXベットスイッチが操作されてベット数が「M」(Mは、当該遊技でベット可能な最大のベット数)となり、その後、投入口から遊技メダルの投入はないが1ベットスイッチの操作が1回あった場合には、ベット数が「1」となり、

所定の状況で1ベットスイッチがM回操作されてベット数が「M」となり、その後、投入口から遊技メダルの投入はないが1ベットスイッチの操作が1回あった場合には、ベット数は「M」のままである
ことを特徴とする。

【1069】

なお、ベット数が「2」(「2」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数)のときも同様であってもよく、又は、異なってもよい。

【1070】

つまり、ベット数が「2」(「2」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数)のときに、MAXベットスイッチ18の操作によって、ベット数が「2」(規定数)となった状況であって、その後、遊技メダルの手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ19の操作によってベット数が「1」となってもよい。一方、1ベットスイッチ19の操作が2回されることによって、ベット数が「2」(規定数)となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ19の操作がされてもベット数は「2」のままとなってもよい。

【1071】

また、ベット数が「2」(「2」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数)のときに、MAXベットスイッチ18の操作によって、ベット数が「2」(規定数)となった状況であって、その後、遊技メダルの手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合に、1ベットスイッチ19の操作によってベット数が「1」とならず、「2」のままであってもよい。1ベットスイッチ19の操作が2回されることによって、ベット数が「2」(規定数)となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合にも、1ベットスイッチ19の操作がされてもベット数は「2」のままであってもよい。

【1072】

ベット数が「1」(「1」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数)のときは以下のように構成されていてもよい。

【1073】

ベット数が「1」(「1」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数)のときに、MAXベットスイッチ18の操作によって、ベット数が「1」(規定数)となった状況であって、その後、遊技メダルの手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合に、1ベットスイッチ19の操作によってベット数は変化せず、「1」のままであり、1ベットスイッチ19の操作が1回されることによって、ベット数が「1」(規定数)となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合にも、1ベットスイッチ19の操作がされてもベット数は変化せず、「1」のままであってもよい。

【1074】

〔ベット処理 2 による特徴 2〕

ベット処理 2 では、MAXベットスイッチ 18 の操作によって、ベット数が「3」（規定数）となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ 19 の操作によってベット数が「1」となる。一方、遊技メダルが手入れにより 3 枚投入されることによって、ベット数が「3」となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ 19 の操作がされてもベット数は「3」のままとなる。

〔1075〕

なお、遊技メダルが手入れにより 3 枚投入されることによって、ベット数が「3」となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がされた後に 1ベットスイッチ 19 の操作がされてもベット数は「3」のままである。

10

〔1076〕

これにより、誤ってMAXベットスイッチ 18 を操作してしまった遊技者に対しては、精算スイッチを操作することなく、1ベットスイッチ 19 の操作により容易にベット数を修正することができる。

〔1077〕

ベット処理 2 による特徴 2 における遊技機は、
投入口と、
1ベットスイッチと、
MAXベットスイッチと、
を備え、

20

所定の状況でMAXベットスイッチの操作によってベット数が「M」（Mは、当該遊技でベット可能な最大のベット数）となり、その後、投入口から遊技メダルの投入はないが 1ベットスイッチの操作が 1 回あった場合には、ベット数が「1」となり、

所定の状況で投入口から遊技メダルが「M」枚投入されることによってベット数が「M」となり、その後、投入口から遊技メダルの投入はないが 1ベットスイッチの操作が 1 回あった場合には、ベット数は「M」のままであることを特徴とする。

〔1078〕

なお、ベット数が「2」（「2」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数）のときも同様であってもよく、又は、異なってもよい。

30

〔1079〕

つまり、MAXベットスイッチ 18 の操作によって、ベット数が「2」（規定数）となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ 19 の操作によってベット数が「1」となる。一方、遊技メダルが手入れにより 2 枚投入されることによって、ベット数が「2」となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ 19 の操作がされてもベット数は「2」のままである。

〔1080〕

なお、遊技メダルが手入れにより 2 枚投入されることによって、ベット数が「2」となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がされた後（例えば、クレジットに加算後）に 1ベットスイッチ 19 の操作がされてもベット数は「2」のままである。

40

〔1081〕

また、MAXベットスイッチ 18 の操作によって、ベット数が「2」（規定数）となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合には、1ベットスイッチ 19 の操作によってベット数が「1」とならず、「2」のままであってもよい。遊技メダルが手入れにより 2 枚投入されることによって、ベット数が「2」となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合にも、1ベットスイッチ 19 の操作がされてもベット数は「2」のままであってもよい。

〔1082〕

50

ベット数が「1」（「1」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数）のときは以下のように構成されていてもよい。

【1083】

ベット数が「1」（「1」は、当該遊技でベット可能な最大のベット数）のときに、MAXベットスイッチ18の操作によって、ベット数が「1」（規定数）となった状況であって、その後、遊技メダルの手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合に、1ベットスイッチ19の操作によってベット数は変化せず、「1」のままであり、1ベットスイッチ19の操作が1回されることによって、ベット数が「1」（規定数）となった状況であって、その後、手入れによる遊技メダルの投入がなかった場合にも、1ベットスイッチ19の操作がされてもベット数は変化せず、「1」のままであってもよい。

10

【1084】

<ベット処理1とベット処理2に共通する特徴>

〔ベット処理1とベット処理2に共通する特徴1〕

ベット処理1とベット処理2ではともに、

第1の状況下であって、ベット数が「3」（「3」は当該遊技でベット可能な最大数規定数）のときに1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数が「1」となり、

第2の状況下であって、ベット数が「3」（「3」は当該遊技でベット可能な最大数規定数）のときに1ベットスイッチ19を操作しても、ベット数は「3」のままである。

【1085】

第1の状況下とは、例えば、ベット処理1ではベット数+クレジット数 $\leq$ 50のときであり、ベット処理2ではベット処理2ではMAXベットスイッチ18が操作されてベット数が「3」になっているときである。

20

【1086】

第2の状況下とは、例えば、ベット処理1ではベット数+クレジット数 $>$ 50のときであり、ベット処理2では1ベットスイッチ19が3回操作されてベット数が「3」になっているときである。

【1087】

1ベットスイッチ19の操作によってベット数を「3」から「1」にすることが不適切な状況（例えば、クレジット数の上限を超えてしまう（遊技メダルを払出す必要がある）、1ベットスイッチ19が連打されている等）であるときには、1ベットスイッチ19の操作に基づいてベット数が変化しないようにすることができる。

30

【1088】

つまり、ベット処理1とベット処理2に共通する特徴1における遊技機は、

1ベットスイッチを備え、

第1の状況下であってベット数がM（Mは当該遊技でベット可能な最大数規定数）であるときに1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数が1となり、

第2の状況下であってベット数がM（Mは当該遊技でベット可能な最大数規定数）であるときに1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数がMのままであることを特徴とする。

【1089】

なお、ベット数が「2」（「2」は当該遊技でベット可能な最大数規定数）であるときも同様であってよいが、ベット数が「1」（「1」は当該遊技でベット可能な最大数規定数）であるときにはこれと同様でなく、1ベットスイッチ19の操作に基づいてベット数が「1」から変化しないように構成することができる。

40

【1090】

〔ベット処理1とベット処理2に共通する特徴2〕

ベット処理1とベット処理2ではともに、

規定数（当該遊技でベット可能な最大のベット数）が「3」である状況において、

遊技終了時のクレジット数が「M」（Mは、クレジット数の最大値）のときに、遊技メダルの投入（手入れによる遊技メダルの投入）がなされることなくMAXベットスイッチ

50

18が操作されると、ベット数が「3」、クレジット数が「M-3」となり、その後、遊技メダルの投入（手入れによる遊技メダルの投入）がなされることなく1ベットスイッチ19が操作されると、ベット数が「1」、クレジット数が「M-1」となり、

遊技終了時のクレジット数が「M」（Mは、クレジット数の最大値）のときに、遊技メダルの投入（手入れによる遊技メダルの投入）がなされることなくMAXベットスイッチ18が操作されると、ベット数が「3」、クレジット数が「M-3」となり、その後、遊技メダルの投入（手入れによる遊技メダルの投入）がなされ、ベット数が「3」、クレジット数が「M-2」となっている状況において、1ベットスイッチ19が操作されても、ベット数は「3」、クレジット数は「M-2」のままである。

【1091】

1ベットスイッチ19の操作によってベット数を「3」から「1」にすることが不適切な状況（例えば、クレジット数の上限を超えてしまう（遊技メダルを払出す必要がある）、手入れフラグONのとき）であるときには、1ベットスイッチ19の操作に基づいてベット数が変化しないようにすることができる。

【1092】

つまり、ベット処理1とベット処理2に共通する特徴2における遊技機は、
投入口と、

1ベットスイッチと、
MAXベットスイッチと、
クレジット数記憶手段と、

を備え、

遊技終了時にクレジット数が「M」（Mは、クレジット数記憶手段に記憶可能なクレジット数の最大値）であり、投入口から遊技メダルの投入がなされることなくMAXベットスイッチが操作された場合には、ベット数が「N」（Nは、当該遊技でベット可能な最大のベット数）、クレジット数が「M-N」となり、その後、投入口から遊技メダルの投入がなされることなく1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数が1、クレジット数が「M-1」となり、

遊技終了時にクレジット数が「M」（Mは、クレジット数記憶手段に記憶可能なクレジット数の最大値）であり、投入口から遊技メダルの投入がなされることなくMAXベットスイッチが操作された場合には、ベット数が「N」（Nは、当該遊技でベット可能な最大のベット規定数）、クレジット数が「M-N」となり、その後、投入口から1枚の遊技メダルの投入がなされ、ベット数が「M」、クレジット数が「M-N+1」となっている状況において、1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数は「M」、クレジット数は「M-N+1」のままである

ことを特徴とする。

【1093】

〔ベット処理1とベット処理2に共通する特徴3〕

第1の状況下であって、ベット数が「3」のときに1ベットスイッチ19を操作すると、ベット数を「0」とした後、ベット数を1加算する処理（1ベット処理）を行うことによってベット数を「1」とし、

第3の状況下であって、ベット数が「2」のときに1ベットスイッチ19を操作すると、ベット数を「0」とする処理を行うことなく、ベット数を1加算する処理（1ベット処理）を行うことによってベット数を「3」とする。

【1094】

第1の状況下とは、例えば、ベット処理1ではベット数+クレジット数 ≤ 50 のときであり、ベット処理2ではベット処理2ではMAXベットスイッチ18が操作されてベット数が「3」になっているときである。

【1095】

第3の状況下とは、例えば、クレジット数（最大は50） > 0 のときである。

【1096】

10

20

30

40

50

ベット数を「3」から「1」とする際に、ベット数を2減算するという新たな処理を用いず、1のベット処理で可能であるためプログラム容量の削減につながる。

【1097】

ベット処理1とベット処理2に共通する特徴3における遊技機は、

1ベットスイッチを備え、

第1の状況下であって、ベット数がM（Mは、当該遊技でベット可能な最大ベット数）のときに1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数を「0」とした後にベット数を「1」とし、

第2の状況下であって、ベット数がN（ $N < M$ ）のときに1ベットスイッチが操作された場合には、ベット数を「0」とする処理を行うことなく、ベット数を「 $N + 1$ 」とすることを特徴とする。

【1098】

なお、ベット数が「2」（「2」は当該遊技でベット可能な最大数規定数）であるときも同様であってよいが、ベット数が「1」（「1」は当該遊技でベット可能な最大数規定数）であるときにはこれと同様でなく、1ベットスイッチ19の操作に基づいてベット数が「1」から変化しないように構成することができる。

【1099】

<ステージチェンジ演出>

本実施形態では、液晶に表示され得る演出ステージを切り替えるステージチェンジ演出（切替え演出とも称することがある）を実行可能に構成されている。演出ステージとして、通常ステージや、通常ステージよりもATの当選確率が高い高確率状態を示唆する高確率ステージ等の複数種類の演出ステージを有しており、ある演出ステージから異なる演出ステージへ移行するときにステージチェンジ演出を実行し得るよう構成されている。このステージチェンジ演出によって、演出ステージをスムーズに切り替えることができる。なお、複数種類のステージチェンジ演出を有しており、ステージチェンジ演出の種類に応じて、移行先となる演出ステージの選択割合が異なるよう構成されている（例えば、所定のステージチェンジ演出は特定のステージチェンジ演出よりも高確率ステージへ移行する期待度を高くしたり、特定のステージチェンジ演出が実行された場合には必ず高確率ステージへ移行したりする等）。なお、ステージチェンジ演出の種類によって滞在モードの示唆（詳細は省略するが滞在モードによってATの当選確率やAT当選までの天井ゲーム数が異なるよう構成されている）や設定値の示唆を行うよう構成してもよい。また、演出ステージに対応した演出（液晶上での背景画像（静止画像、又は動画像）の表示やスピーカからのBGMの出力、所定のランプの点灯パターン、又は所定のランプの点灯色等）が実行され得るよう構成されている。

【1100】

図91は、本実施形態におけるステージチェンジ演出の一例であり、UI画像（UI表示、UI、遊技情報画像とも称することがある）として、UI画像A（第1UI画像とも称す）、UI画像B（第2UI画像とも称す）、UI画像C（第3UI画像とも称す）とが表示され得るよう構成されている。UI画像とは、複数の演出ステージに亘って同一（または類似）の表示態様および同一の表示領域で液晶に表示され得る画像であり、遊技者が遊技の状況を把握できる情報などがUI画像として表示される。

【1101】

ここでUI画像A、UI画像B、UI画像Cについて詳述する。

【1102】

UI画像Aは、演出ステージの名称を示す画像である。図91（1）では、「海岸ステージと」という文字も周りに枠がある態様となっているが、枠がなく文字のみで構成されていてもよい。

【1103】

UI画像Bは、現在のクレジット数を示す画像である。UI画像Bの表示態様として、例えば、クレジット数として「50」が表示されているときにMAXベットスイッチが押

10

20

30

40

50

下されMAXベット処理が実行された場合には、「50→49→48→47」と遊技者が視認可能な速さで1ずつ更新されて表示されるように構成されている。なお、「50→47」のようにMAXベット処理後のクレジット数のみが表示されるよう構成してもよい。

【1104】

UI画像Cは、一の遊技における払出数を示す画像である。UI画像Cの表示態様として、例えば、一の遊技において「10」の払い出しがあった場合には、(1)「0→1→2→・・・→9→10」と遊技者が視認可能な速さで1ずつ更新されて表示されるよう構成されている。なお、「0→10」のように払出数のみが表示されるよう構成してもよい。なお、払出数を所定時間(例えば3秒間)表示した後に「0」が表示されるように構成してもよいし、払出数を表示し続け次の遊技に係るベット操作がされた場合(または、次の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付けた場合)に「0」が表示されるように構成してもよい。

10

【1105】

なお、これらの他にもUI画像として、一のATで実行された遊技数や残り遊技数、遊技に用いる所定のポイント(例えば、遊技の実行や当選役に応じて蓄積され得るように構成し、1000ポイントに到達するとAT抽選が実行される)、通常遊技での遊技数、キャラクタの表示、AT中において押し順ナビ画像を表示するための外郭等の様々な種類のUI画像を表示し得るようにしてもよい。

【1106】

また、液晶には、現在の演出ステージに対応した背景画像が表示されるよう構成されており、図91(1)においては、海岸ステージに対応した背景画像が表示されている。なお、背景画像よりもUI画像の方が、表示優先度が高い(前面に表示する)ように構成されているため、背景画像によってUI画像の視認性を下げることがなく、遊技者は任意のタイミングで遊技の状況を把握することができる。

20

【1107】

なお、遊技状態(通常区間、有利区間、RT状態、AT、非AT、チャンスゾーン、高確率状態、ボーナス等)に応じて液晶に表示され得るUI画像の種類を変えたり、UI画像の表示態様を変えたりしてもよい。要するに、遊技状態に応じて液晶に表示され得るUI画像を適宜変更してもよい。このようにすることで、UI画像によって容易に現在の遊技状態を把握することができる。

30

【1108】

本実施形態におけるステージチェンジ演出の流れを説明する。

まず、図91の(1)において、現在の演出ステージが海岸ステージであり、スタートスイッチ12が操作(押下)されて、新たに遊技が実行される。次に、(2)→(3)→(4)と液晶の表示領域の外側から背景画像やUI画像を覆い隠すようにブラックアウトしてゆき(暗転してゆき)、液晶の表示領域全体に黒色の画像が表示され、背景画像及びUI画像が視認できなくなる(背景画像及びUI画像の表示の前面に黒色の画像を表示することで視認できなくしてもよいし、背景画像及びUI画像を非表示にして黒色の画像を表示することで視認できなくしてもよい)。その後、(5)→(6)→(7)と液晶の表示領域の内側から背景画像が表示されてゆき、移行後(ステージチェンジ後)の演出ステージに対応した背景画像が表示される。なお、UI画像Aには、移行後の演出ステージに対応して「街ステージ」と表示されている。このように、ステージチェンジ演出中の少なくとも一部の期間で、背景画像及びUI画像を視認できないように構成することにより、いずれの演出ステージに移行したかを遊技者に注目させることができる。また、ステージチェンジ演出の前後でUI画像の表示態様が相違する場合にも、違和感なく遊技を進行させることができる。なお、ステージチェンジ演出の実行によって演出ステージが切り替わったときに、移行後の演出ステージの名称をスピーカから出力するよう構成してもよい。例えば図91においては移行後の演出ステージである「街ステージ」と音声出力される。

40

【1109】

なお、本実施形態においては、ステージチェンジ演出の実行期間の少なくともいずれか

50

のタイミングで、背景画像及びUI画像が視認できないように構成されていればよく（ステージチェンジ演出中は常に背景画像及びUI画像が視認できないように構成してもよい）、背景画像及びUI画像を視認できないようにする方法は種々のものを適宜適用可能である。また、背景画像及びUI画像を視認できないようにしている期間（例えば図91の（4）の期間）において、所定の画像（例えば所定のキャラクタの画像やタイトルロゴの画像など）を表示することで通常のステージチェンジ演出よりも遊技者に相対的に有利（ATへの移行抽せんに当選している可能性が高い、ATへの移行抽せんに当選する確率が高い高確率状態へ移行している可能性が高い等）なチャンスアップパターンのステージチェンジ演出とするよう構成してもよい。なお、チャンスアップパターンのステージチェンジ演出と、通常のステージチェンジ演出とは、異なる種類のステージチェンジ演出としてもよいし、演出態様の一部が異なる類似のステージチェンジ演出となるよう構成してもよい。

10

【1110】

なお、ステージチェンジ演出の実行期間（開始から終了までに要する時間）について、本実施形態においては、通常のステージチェンジ演出の実行期間と、チャンスアップパターンのステージチェンジ演出の実行期間とが同じ長さとなるよう構成されている。このように構成することで、通常のステージチェンジ演出とチャンスアップパターンのステージチェンジ演出とで演出の実行終了タイミングを同じにできるので、その後の遊技を違和感なく進めることができる。なお、通常のステージチェンジ演出の実行期間よりも、チャンスアップパターンのステージチェンジ演出の実行期間の方が長くなるよう構成してもよい。このように構成することで、チャンスアップパターンのステージチェンジ演出を見逃すことがないようにすることができる。なお、通常のステージチェンジ演出の実行期間よりも、チャンスアップパターンのステージチェンジ演出の実行期間の方が短くなるよう構成してもよい。このように構成することで、チャンスアップパターンのステージチェンジ演出が実行された場合には演出の終了タイミングが相対的に速く終了するという違和感を遊技者に与えることができ、この違和感によってチャンスアップパターンのステージチェンジ演出であることを遊技者は察知することができる。

20

【1111】

また、所定のステージチェンジ演出が、第1の演出態様で実行された場合よりも、第2の演出態様で実行された場合の方が、遊技者にとって相対的に有利となる（有利な演出ステージに移行し易い、AT抽選やATゲーム数上乘せ抽選またはボーナスに当選している可能性が高い等）よう構成してもよい。また、所定のステージチェンジ演出が、スタートスイッチ12の操作に基づいて実行開始された場合よりも、所定の停止操作（第1停止、第2停止、第3停止のいずれか）に基づいて実行開始された場合の方が、遊技者にとって相対的に有利となるよう構成してもよい。また、演出ステージとステージチェンジ演出の演出態様とを対応させ（第1の演出ステージでは第1の演出態様でステージチェンジ演出を実行し、第2の演出ステージでは第2の演出態様でステージチェンジ演出を実行する等）、対応関係が異なっていない場合よりも、対応関係が異なる場合の方が、遊技者にとって相対的に有利となるよう構成してもよい。

30

【1112】

なお、遊技の状況（遊技状態、演出ステージ等）によって、UI画像の表示態様（UI画像の色、形状、大きさ等）、UI画像の表示位置（表示領域）、UI画像の表示の有無、UI画像の種類が相違し得るよう構成してもよい。例えば、遊技状態Aにおいては、UI画像AとUI画像Bとを表示するが、遊技状態BにおいてはUI画像Aのみを表示する（またはUI画像を表示しない）よう構成してもよいし、遊技状態Aにおいては、UI画像AとUI画像Bとを表示するが、遊技状態BにおいてはUI画像CとUI画像D（図示せず）とを表示するよう構成してもよい。なお、遊技状態Aと遊技状態Bとして例えば、AT状態を遊技状態Aとし非AT状態（または、押し順ナビを実行する頻度が相対的に低い状態）を遊技状態Bとしてもよいし、有利区間のある遊技状態を遊技状態Aとし通常区間のある遊技状態を遊技状態Bとしてもよいし、待機デモ画面の表示中を遊技状態Aとし

40

50

待機デモ画面が表示されていない状態を遊技状態 B としてもよい。

【1113】

なお、図91においては、UI画像A、UI画像B、UI画像Cを表示するよう構成したが、表示するUI画像の数や表示するUI画像の種類は適宜変更してもよい。例えば、前述のUI画像Dを新たに加えてもよいし、UI画像Aは表示せずにステージチェンジ演出の前後で表示されるUI画像が同一となるよう構成してもよい。また、UI画像Aは表示せずに、ステージチェンジ演出の実行後に現在の演出ステージの名称を示す画像を所定期間（例えば3秒間）表示するよう構成してもよい。

【1114】

また、図91では、ステージチェンジ演出の実行時には、少なくとも一部の期間で全てのUI画像を視認できないよう構成したが、この他にも、ステージチェンジ演出の実行時には、少なくとも一部の期間で、いずれかのUI画像の全部または一部が視認できないよう構成してもよい。

【1115】

次に、本実施形態におけるステージチェンジ演出の実行開始および終了タイミングについて説明する。

ここでは、N回目の遊技開始から最小遊技時間が経過するよりも前にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付け、且つN+1回目の遊技においてステージチェンジ演出が実行される場合について説明する。

(1) N回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作に基づきすべてのリールの回転が開始する。なお、すべてのリールの回転が開始したタイミングから、最小遊技時間の計測が開始される。

(2) その後、すべてのリールの回転状態が定速回転状態となったあとに、ストップスイッチ13の操作が有効となり、遊技者による左ストップスイッチ13a、中ストップスイッチ13b、右ストップスイッチ13cの停止操作によって、すべてのリールが停止する。N回目の遊技中（すべてのリールの回転が開始してからすべてのリールが停止するまでの期間）は、UI画像は表示されたままとなっている。

(3) 次に、N+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12が操作されるが、N回目の遊技に係るリール回転開始から最小遊技時間が経過していないため、リールの回転は開始しない。また、N+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作に基づき、ステージチェンジ演出が実行される。換言すると、最小遊技時間が経過していてもN+1回目のスタートスイッチ12の操作に基づいてステージチェンジ演出が実行される。なお、ここでのステージチェンジ演出の演出態様は、図91で図示した演出態様と同一となっている。

(4) その後、ステージチェンジ演出の進行に伴い、UI画像が視認できなくなる（例えば、図91(3)の態様等）。なお、ステージチェンジ演出によってUI画像が視認できなくなるまでは、N回目の遊技から継続してUI画像は表示されている。

(5) 次に、N回目の遊技のリール回転開始から最小遊技時間が経過し、N+1回目の遊技に係るリールの回転が開始する。

(6) その後、ステージチェンジ演出の進行に伴い、UI画像が視認可能に表示され、以降UI画像が視認可能に表示された状態を継続する。なお、ステージチェンジ演出を実行する時間によっては最小時間が経過する前にUI画像が視認可能となるようになっていてもよい。

(7) その後、ステージチェンジ演出の実行が終了する。

(8) その後、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効になる。

このように、本実施形態においては、ステージチェンジ演出は、スタートスイッチ12の操作を受け付けたことに基づいて実行され、所定時間（例えば3秒）が経過することによって終了するよう構成されている。

【1116】

このように、本実施形態においては、N回目の遊技に係るリールの回転開始から最小遊技時間が経過するよりも前にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け

10

20

30

40

50

付け、且つN+1回目の遊技においてステージチェンジ演出が実行される場合には、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効となる前に、ステージチェンジ演出の実行が終了しUI画像が視認可能に表示されているよう構成されている。このように構成することで、ストップスイッチ13の操作が有効となったタイミングではステージチェンジ演出は終了しており、UI画像が視認可能となっているため、遊技者は適切に遊技の状況を把握し、違和感なく遊技を進行させることができる。

【1117】

なお、N回目の遊技に係るリールの回転開始から最小遊技時間未満の所定時間（例えば3秒）が経過するよりも前にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付け、且つN+1回目の遊技においてステージチェンジ演出が実行される場合には、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効となる前に、ステージチェンジ演出の実行が終了しUI画像が視認可能に表示されているよう構成し、一方で、N回目の遊技に係るリールの回転開始から最小遊技時間未満の所定時間（例えば3秒）が経過した後であって最小遊技時間が経過するよりも前にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付け、且つN+1回目の遊技においてステージチェンジ演出が実行される場合には、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効となった時点では、ステージチェンジ演出の実行が終了していないよう構成してもよい。仮にN回目のリールの回転開始から最小遊技時間が経過する直前にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチの操作を受け付けた場合にもストップスイッチ13の操作が有効となる前にステージチェンジ演出の実行が終了しUI画像が視認可能に表示されているよう構成してしまうと、ステージチェンジ演出の実行期間が極端に短くなってしまい、ステージチェンジ演出を遊技者が見逃してしまうおそれがあるが、このように構成することで、ステージチェンジ演出の実行期間を担保することができるため、ステージチェンジ演出を遊技者が見逃すことがないように適切に実行することができる。

【1118】

また、N回目の遊技に係るリールの回転開始から最小遊技時間が経過した後にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付けた場合においても、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効となる前に、ステージチェンジ演出の実行が終了しUI画像が視認可能に表示されているよう構成してもよい。このように構成することで、ストップスイッチ13の操作が有効となったタイミングではステージチェンジ演出は終了しており、UI画像が視認可能となっているため、遊技者は適切に遊技の状況を把握し、違和感なく遊技を進行させることができる。

【1119】

また、N回目の遊技に係るリールの回転開始から最小遊技時間が経過した後にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付けた場合においては、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効となった時点では、ステージチェンジ演出の実行が終了していないように構成してもよい。このように、最小遊技時間が経過した後にN+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作を受け付けた場合、換言すれば遊技者が遊技の進行を急いでいない場合には、N+1回目の遊技に係るストップスイッチ13の操作が有効となった時点では、ステージチェンジ演出の実行が終了していないように構成することで、遊技者はステージチェンジ演出により注目することができる。

【1120】

なお、一のステージチェンジ演出の実行タイミングとして、スタートスイッチ12の操作に基づいて実行され、時間の経過によって終了する場合、スタートスイッチ12の操作に基づいて実行され、所定の停止操作（第1停止、第2停止、第3停止のいずれか）に基づいて終了する場合、所定の停止操作（第1停止、第2停止、第3停止のいずれか）に基づいて実行され、時間の経過によって終了する場合、を有するよう構成してもよい。また、第1のステージチェンジ演出はスタートスイッチ12の操作に基づいて実行され、時間の経過によって終了するが、第2のステージチェンジ演出はスタートスイッチ12の操作に基づいて実行され、所定の停止操作（第1停止、第2停止、第3停止のいずれか）に基

づいて終了するなど、ステージチェンジ演出の種類によって実行タイミングが異なるよう構成してもよい。

【1121】

また、UI画像について、デモ画面の表示中においては、すべてのUI画像が視認可能に表示されているよう構成してもよいし、UI画像Aは視認不可能（表示しないまたはデモ画面よりも表示優先度を低くする）とし、UI画像B（クレジット数を示す画像）とUI画像C（払出数を示す画像）は視認可能に表示されているよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者はデモ画面の表示中であるか否かに拘わらず遊技の状況を適切に把握することができる。

また、デモ画面の表示中においては、すべてのUI画像が視認不可能となっているよう構成してもよいし、デモ画面の表示中における所定の期間においては、すべてのUI画像が視認可能に表示されているが、デモ画面の表示中における所定の期間とは異なる特定期間においては、すべてのUI画像が視認不可能となっているよう構成してもよい。このように構成することで、デモ画面の表示を遊技者に注目させることができる。

【1122】

また、演出ステージに対応した背景画像が視認できなくなる演出A（1遊技で終了する演出でもよいし、複数遊技に亘って実行される連続演出でもよい）を実行し得るよう構成し、演出ステージとして海岸ステージが設定されている状況下で、演出Aが実行された場合には、演出Aの実行が終了することとなるN回目の遊技の終了後の所定のタイミング（最終停止操作が終了したタイミング、最終停止操作がなされて遊技の終了に関する処理が終了したタイミング、N+1回目の遊技に係るベットが行われたタイミング、N+1回目の遊技に係るスタートスイッチ12の操作が受け付けられたタイミング等）で、ステージチェンジ演出を実行せずに海岸ステージに対応した背景画像を再度表示し、背景画像を再度表示（背景画像が動画画像の場合、背景画像を最初から表示する態様と、演出Aが実行される前に表示していた背景画像の続きから表示する態様が考えられる。）したときに演出ステージの名称を示す画像を表示するよう構成してもよい。なお、演出ステージの名称を示す画像を、UI画像として表示してもよいし、UI画像とせずに所定期間（例えば3秒間）表示した後に表示を終了するよう構成してもよい。なお、同じ背景画像を再度表示するときに、演出ステージの名称をスピーカから音声にて出力しないよう構成してもよいし、演出ステージの名称をスピーカから音声にて出力するよう構成してもよい。

【1123】

なお、演出Aの実行が終了した後にステージチェンジ演出を実行し得るよう構成してもよく、この場合には、演出Aの実行後の所定のタイミング（最終停止操作が終了したタイミング、最終停止操作がなされて遊技の終了に関する処理が終了したタイミング、次の遊技に係るベットが行われたタイミング、次の遊技に係るスタートスイッチ12の操作が受け付けられたタイミング等）で実行されるステージチェンジ演出と、その他の状況下で実行されるステージチェンジ演出とが、異なる表示態様のステージチェンジ演出となるよう構成してもよい。このように構成することで、例えば、遊技者が新たに遊技を開始し、最初の遊技で演出Aの実行後に実行され得るステージチェンジ演出が実行された場合には、前の遊技まで演出Aが実行されていたことを把握することができるといったように、遊技の状況を正確に把握することができる。

【1124】

また、現在の演出ステージの名称を示す画像を、UI画像とせずにステージチェンジ演出の実行後に所定期間（例えば3秒間）表示された後に非表示となるよう構成した場合であっても、一の遊技においてステージチェンジ演出と前述した演出Aが実行されることに決定された場合（この場合はステージチェンジ演出の実行が終了した後に演出Aが実行されることとなる）には、現在の演出ステージの名称を示す画像を表示しないよう構成してもよい。このように構成することで、演出を適切に切り替えることができる。

【1125】

また、有利区間の最終遊技（有利区間の終了条件を満たし、次の遊技から通常区間の遊

10

20

30

40

50

技となる遊技)の終了後の所定のタイミング(最終停止操作が終了したタイミング、次の遊技に係るベットが行われたタイミング、次の遊技に係るスタートスイッチ12の操作(押下)が行われたタイミング等)では、ステージチェンジ演出が実行されるように構成してもよい。このように構成することで、有利区間から通常区間に移行することを明確にすることができ、有利区間が継続していると遊技者が誤認してしまうことを防止することができる。

【1126】

また、通常区間の最終遊技(有利区間への移行条件を満たし、次の遊技から有利区間の遊技となる遊技)終了後の所定のタイミング(最終停止操作が終了したタイミング、次の遊技に係るベットが行われたタイミング、次の遊技に係るスタートスイッチ12の操作(押下)が行われたタイミング等)では、ステージチェンジ演出が実行されるように構成してもよい。このように構成することにより、通常区間から有利区間に移行することを明確にすることができ、遊技者が有利区間であるにも拘らず遊技を終了してしまうことを防止することができる。

【1127】

また、演出ステージとして、通常区間でのみ設定される所定の演出ステージと有利区間でのみ設定される特定の演出ステージとを有し、通常区間であって、所定の演出ステージが設定されている状況下で、有利区間への移行条件を満たして有利区間へ移行するとき(最終停止操作が終了したタイミング、最終停止操作がなされて遊技の終了に関する処理が終了したタイミング、次の遊技に係るベットが行われたタイミング、次の遊技に係るスタートスイッチ12の操作が行われたタイミング等)にステージチェンジ演出を実行し、所定の演出ステージから特定の演出ステージへ移行するよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者は演出ステージに注目していれば有利区間へ移行したか否かを容易に把握することができる。

【1128】

なお、所定の演出ステージを、有利区間であって且つ非AT状態である所定の状況において電源断し、設定変更せずに電源断復帰した場合にも設定されるように構成し、電源投入から所定回数(例えば2回)の遊技が実行されるまでにステージチェンジ演出を実行し、所定の演出ステージから特定の演出ステージへ移行するよう構成してもよい。本実施形態では、設定変更した場合には必ず通常区間から遊技が開始されるように構成しているため、設定変更した場合と設定変更しなかった場合とで、遊技開始時の演出ステージ及びその後ステージチェンジ演出が実行されるまでの遊技の流れを類似させることができ、これにより設定変更したか否かを遊技者に容易に見抜かれないようにすることができる。なお、本実施形態では、通常区間で平均2遊技弱の遊技が実行されると有利区間への移行条件を充足するよう構成することで、電源投入後に最初にステージチェンジ演出が実行されるタイミングは設定変更した場合と設定変更していない場合とでほぼ同一のタイミングとなるよう構成されている。

【1129】

また、通常区間の遊技で実行されるステージチェンジ演出と、有利区間の遊技で実行されるステージチェンジ演出とで、ステージチェンジ演出の種類が異なる(またはステージチェンジ演出の演出態様が異なる)よう構成してもよい。このように構成することで、ステージチェンジ演出を視認すれば通常区間であるか有利区間であるかを容易に判別することができる。

【1130】

また、ステージチェンジ演出が実行される遊技においては、ステージチェンジ演出以外の演出を実行しないように構成してもよい。また、ステージチェンジ演出が実行される遊技においては、ステージチェンジ演出以外ではストップスイッチ13の操作に基づく演出を実行しない(停止操作に基づかない演出は実行され得る)ように構成してもよい。このように構成することで、遊技者をステージチェンジ演出に注目させることができる。

【1131】

また、ステージチェンジ演出として、所定の連続演出の終了後に実行され得るステージチェンジ演出Aと、所定の連続演出の終了後以外で実行され得るステージチェンジ演出Bとを有するよう構成してもよい。この場合において、ステージチェンジ演出Aの実行可否は内部抽せん結果に基づかずに決定されるが、ステージチェンジ演出Bの実行可否は内部抽せん結果に基づいて決定される（内部抽せん結果によって実行可否の選択割合が異なる）よう構成してもよい。なお、ステージチェンジ演出Aとステージチェンジ演出Bとは、演出態様が異なるように構成してもよいし、演出態様が同一であるよう構成してもよい。

【1132】

次に、演出ステージBGM、ステージチェンジ演出BGM、エラーの報知音等の音量について説明する。

なお、本実施形態においては、音量レベルを調整可能であり、音量レベルが大きいとスピーカから出力される音量が相対的に大きくなり、音量レベルが小さいとスピーカから出力される音量が相対的に小さくなるよう構成されている。なお、以下では音量レベルが最大値に設定されているものとして説明するが、最大値以外に設定されている場合であっても同様の構成となってもよい。

なお、スピーカから出力される音量が音量レベルに依存するサウンドと、スピーカから出力される音量が音量レベルに依存しないサウンドとを有するよう構成してもよい。例えば、第1のエラー（復帰可能エラー）を報知するエラー報知音の音量は音量レベルに依存するが、第2のエラー（復帰不可能エラー）を報知するエラー報知音の音量は音量レベルに依存しないよう構成してもよい。なお、第1のエラーと第2のエラーとの区分けについては、復帰可能エラーであるか復帰不可能エラーであるかに限定されず適宜設定可能である。

【1133】

まず、「非AT中」においては、少なくとも演出ステージとして海岸ステージと街ステージとが設定され得るよう構成されており、現在の演出ステージに対応した演出ステージBGMがスピーカから出力されるよう構成されている。例えば、海岸ステージにおいては海岸ステージ中BGMがスピーカから出力され、街ステージにおいては街ステージ中BGMがスピーカから出力される。演出ステージBGMは、所定の演出音や所定のエラー報知音などのサウンドを出力していない期間において継続して（繰り返して）出力されるサウンドである。なお、演出ステージBGMは、遊技が終了してから所定時間（例えば1分）経過した場合や、デモ画面が表示された場合に出力を終了するよう構成してもよい。

【1134】

また、海岸ステージと街ステージのいずれの演出ステージにおいても、ステージチェンジ演出Aまたはステージチェンジ演出Bが実行され得るよう構成されており、ステージチェンジ演出の実行時にはステージチェンジ演出に対応したサウンドがスピーカから出力されるよう構成されている。なお、ステージチェンジ演出のサウンドの音量は、ステージチェンジ演出実行前の演出ステージには依存しないよう構成されている。なお、ステージチェンジ演出のサウンドは、遊技が終了してから所定時間（例えば1分）経過した場合や、デモ画面が表示された場合に出力を終了するよう構成してもよい。

【1135】

なお、「非AT中」において、ステージチェンジ演出（ステージチェンジ演出Aまたはステージチェンジ演出B）のサウンドの最大の音量は、演出ステージBGM（海岸ステージ中BGMまたは街ステージ中BGM）の最大の音量よりも大きいように構成されている。このように構成することで、遊技者をステージチェンジ演出に注目させることができる。また、ステージチェンジ演出Aよりもステージチェンジ演出Bの方が遊技者にとって相対的に有利となるよう構成した場合には、ステージチェンジ演出A実行時のサウンドの最大の音量よりもステージチェンジ演出B実行時のサウンドの最大の音量の方が大きいよう構成してもよく、このように構成することで、ステージチェンジ演出Bが実行されたことを遊技者が見逃してしまうことを防止できる。

【1136】

また、「非 A T 中」において、ステージチェンジ演出（ステージチェンジ演出 A またはステージチェンジ演出 B）のサウンドの平均の音量は、演出ステージ B G M（海岸ステージ中 B G M または街ステージ中 B G M）の平均の音量よりも大きいように構成されている。このように構成することで、遊技者をステージチェンジ演出に注目させることができる。また、ステージチェンジ演出 A よりもステージチェンジ演出 B の方が遊技者にとって相対的に有利となるよう構成した場合には、ステージチェンジ演出 A 実行時のサウンドの最大の音量よりもステージチェンジ演出 B 実行時のサウンドの最大の音量の方が大きいよう構成してもよく、このように構成することで、ステージチェンジ演出 B が実行されたことを遊技者が見逃してしまうことを防止できる。

【1137】

次に、「A T 中」においては、少なくとも演出ステージとして火山ステージが設定されるよう構成されており、現在の演出ステージに対応した演出ステージ B G M がスピーカから出力されるよう構成されている。例えば、火山ステージにおいては、火山ステージの B G M として火山ステージ中 B G M がスピーカから出力される。また、「A T 中」においても、ステージチェンジ演出を実行するよう構成してもよく、この場合に、演出ステージ B G M の最大の音量よりもステージチェンジ演出のサウンドの最大の音量の方が大きいよう構成してもよい。このように構成することで、「非 A T 中」と同様に遊技者をステージチェンジ演出に注目させることができる。

【1138】

なお、「A T 中」に出力されるサウンドのうち最大の音量となるサウンドは、押し順ナビの実行時に出力されるナビボイス（例えば、「左！」などの押し順をナビする音声）や、キャラクタが会話する会話ボイスとなるよう構成してもよい。

【1139】

次に、「エラーの報知音」については、演出ステージや遊技状態に拘らず、所定のエラー（例えば、ホップに関するエラー）が発生し（遊技機がエラーを検知し）当該所定のエラーを報知する際に出力される。なお、エラーを報知する際には、エラーの報知音の出力と同一（または略同一）のタイミングでエラー内容を示す画像が液晶に表示されるよう構成されている。

【1140】

本実施形態においては、所定のエラーの報知中におけるサウンドとして、エラー中 B G M とエラーボイスとが出力されるように構成されている。なお、エラーボイスとは、「店員を呼んでください」のような音声となっている。

【1141】

また、所定のエラーに関しては、エラー中 B G M の最大の音量よりもエラーボイスの最大の音量の方が大きくなっている。もしもエラー中 B G M の最大の音量の方が大きいと、エラーの報知であるのか演出であるのかを遊技者が正確に聞き取れないおそれがあるが、このように構成することで、エラー中であることを遊技者に正確に伝えることができる。

【1142】

また、所定のエラーに関しては、エラー中 B G M の平均の音量よりもエラーボイスの平均の音量の方が大きくなっている。もしもエラー中 B G M の平均の音量の方が大きいと、エラーの報知であるのか演出であるのかを遊技者が正確に聞き取れないおそれがあるが、このように構成することで、エラー中であることを遊技者に正確に伝えることができる。

【1143】

なお、所定のエラーとしてホップに関するエラーを例示したが、あくまで一例であり、セレクトに関するエラーなどの他のエラーにも適用してもよいし、第 1 のエラーと第 2 のエラーとを含むすべてのエラーに適用してもよく、少なくとも一つのエラーで上述した構成を充足するよう構成されている。

【1144】

また、「A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量は、「非 A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量よりも大きくなっており、「A T 中」の演出ステージ B G M の平均の

10

20

30

40

50

音量は、「非 A T 中」の演出ステージ B G M の平均の音量よりも大きくなっている。また、「A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量は、「非 A T 中」のステージチェンジ演出のサウンドの最大の音量よりも大きくなっており、「A T 中」の演出ステージの B G M の平均の音量は、「非 A T 中」のステージチェンジ演出のサウンドの平均の音量よりも大きくなっている。このように構成することで、A T 中の爽快感を損なわずに遊技を進行することができる。

【1145】

また、「A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量は、エラー中 B G M の最大の音量よりも大きくなっており、「A T 中」の演出ステージ B G M の平均の音量は、エラー中 B G M の平均の音量よりも大きくなっている。また、「A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量は、エラーボイスの最大の音量よりも大きくなっており、「A T 中」の演出ステージ B G M の平均の音量は、エラー中ボイスの平均の音量よりも大きくなっている。このように構成することで、A T 中に所定のエラーとなった場合には、所定のエラーの解除後には所定のエラー報知中のサウンドよりも大きい音量で A T 中の B G M が出力されることとなるので、A T 中の B G M がうまく聞き取れなくなってしまうことを防止できるとともに、A T 中の爽快感を損なわずに遊技を進行することができる。

【1146】

また、「非 A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量は、エラー中 B G M の最大の音量よりも小さくなっており、「非 A T 中」の演出ステージ B G M の平均の音量は、エラー中 B G M の平均の音量よりも小さくなっている。また、「非 A T 中」の演出ステージ B G M の最大の音量は、エラーボイスの最大の音量よりも小さくなっており、「非 A T 中」の演出ステージ B G M の平均の音量は、エラー中ボイスの平均の音量よりも小さくなっている。また、「非 A T 中」のステージチェンジ演出のサウンドの最大の音量は、エラー中 B G M の最大の音量よりも小さくなっており、「非 A T 中」のステージチェンジ演出のサウンドの平均の音量は、エラー中 B G M の平均の音量よりも小さくなっている。また、「非 A T 中」のステージチェンジ演出のサウンドの最大の音量は、エラーボイスの最大の音量よりも小さくなっており、「非 A T 中」のステージチェンジ演出のサウンドの平均の音量は、エラー中ボイスの平均の音量よりも小さくなっている。このように構成することで、非 A T 中に所定のエラーとなった場合には、所定のエラーの報知前よりも大きい音量で所定のエラー報知のサウンドが出力されることとなるので、所定のエラーが発生したことを気づきやすくすることができる。

【1147】

なお、本実施形態においては、ステージチェンジ演出に係る画像の表示優先度を U I 画像の表示優先度よりも高くなるよう構成することで、ステージチェンジ演出中の少なくとも一部の期間で U I 画像を視認できないよう構成したが、これに限らずステージチェンジ演出に係る画像の表示優先度を U I 画像の表示優先度よりも低くなるよう構成することで、ステージチェンジ演出中も U I 画像を視認できるよう構成してもよい。

また、ステージチェンジ演出とは異なる演出であって、液晶の全面に所定の表示を行う全画面演出を実行するよう構成してもよい。全画面演出としては、例えば、所定のキャラクタの画像と所定のキャラクタの名台詞とを液晶の全面に表示するような演出であり、チェリー役やスイカ役といったいわゆるレア役に当選したことを示唆する場合や、A T への移行抽選や A T の上乗せなどの遊技者に有利な特典が付与される可能性があることを示唆する場合などに実行され得る。なお、全画面演出として、複数種類の全画面演出を有するよう構成してもよい。なお、全画面演出に係る画像の表示優先度を U I 画像の表示優先度よりも高くなるよう構成することで、全画面演出中の少なくとも一部の期間で U I 画像を視認できないよう構成してもよいし、全画面演出に係る画像の表示優先度を U I 画像の表示優先度よりも低くなるよう構成することで、全画面演出中も U I 画像を視認できるよう構成してもよい。

また、ステージチェンジ演出の実行期間（開始から終了までに要する時間）の方が、全画面演出の実行期間よりも長くなるよう構成してもよいし、ステージチェンジ演出の実行

10

20

30

40

50

期間の方が、全画面演出の実行期間よりも短くなるよう構成してもよい。

【1148】

また、ステージチェンジ演出に係る画像とUI画像との表示優先度の関係性、及び全画面演出に係る画像とUI画像との表示優先度の関係性について、以下のように構成してもよい。

(1) ステージチェンジ演出に係る画像の表示優先度>UI画像の表示優先度、且つ、全画面演出に係る画像の表示優先度>UI画像の表示優先度（すなわち、ステージチェンジ演出中の少なくとも一部の期間、および全画面演出中の少なくとも一部の期間のいずれにおいても、UI画像が視認できない）

(2) ステージチェンジ演出に係る画像の表示優先度>UI画像の表示優先度、且つ、全画面演出に係る画像の表示優先度<UI画像の表示優先度（すなわち、ステージチェンジ演出中の少なくとも一部の期間ではUI画像が視認できないが、全画面演出中はUI画像が視認できる）

(3) ステージチェンジ演出に係る画像の表示優先度<UI画像の表示優先度、且つ、全画面演出に係る画像の表示優先度>UI画像の表示優先度（すなわち、ステージチェンジ演出中はUI画像が視認できるが、全画面演出中の少なくとも一部の期間ではUI画像が視認できない）

(4) ステージチェンジ演出に係る画像の表示優先度<UI画像の表示優先度、且つ、全画面演出に係る画像の表示優先度<UI画像の表示優先度（すなわち、ステージチェンジ演出中、および全画面演出中のいずれにおいても、UI画像が視認できる）

なお、遊技の状況や実行されるステージチェンジ演出の種類、全画面演出の種類によらず、常に(1)～(4)のいずれか一つの関係性となるように構成してもよいし、遊技の状況や実行されるステージチェンジ演出の種類、全画面演出の種類によって(1)～(4)の関係性のいずれの関係性とするかを適宜変更するように構成してもよい。

このように構成することで、それぞれの演出を遊技者に効果的に注目させることができる。

【1149】

なお、2枚ベットでの遊技と3枚ベットでの遊技を可能とした場合（2枚ベットでの遊技の方が3枚ベットでの遊技よりも出玉率が低い）には、ステージチェンジ演出は、3枚ベットの遊技では実行され得るが、2枚ベットの遊技では実行されないように構成してもよい。このように構成することで、2枚ベットでの遊技では遊技者に期待感を与えないため、遊技者に対して3枚ベットでの遊技の方が有利であることを認識させることができる。

【1150】

また、2枚ベットでの遊技と3枚ベットでの遊技を可能とした場合（2枚ベットでの遊技の方が3枚ベットでの遊技よりも出玉率が低い）には、UI画像は、3枚ベットの遊技では表示され得るが、2枚ベットの遊技では表示されないように構成してもよい。このように構成することで、2枚ベットでの遊技では遊技者に違和感を与えるため、遊技者に対して3枚ベットでの遊技の方が有利であることを認識させることができる。

【1151】

また、2枚ベットでの遊技と3枚ベットでの遊技を可能とした場合（2枚ベットでの遊技の方が3枚ベットでの遊技よりも出玉率が低い）には、UI画像は、3枚ベットの遊技と2枚ベットの遊技とにおいても表示され得るよう構成してもよい。このように構成することで、2枚ベットでの遊技でも3枚ベットと同じUI画像が表示されるため、遊技者に遊技機の故障を意識させずに、演出の頻度（2枚ベットでの遊技ではステージチェンジ演出が実行されない等）で遊技者に期待感を与えないことができるため、遊技者に対して3枚ベットでの遊技の方が有利であり、且つ2枚ベットでの遊技が故障ではないことを認識させることができる。

【1152】

<NEXT画像の表示態様>

本実施形態では、所定の抽選の結果（ATへ移行するか否かの抽選、チャンスゾーンへ

10

20

30

40

50

移行するか否かの抽選、A Tの上乗せ抽選、A Tの上乗せ特化ゾーン（A Tの上乗せ抽選に当選する確率が高い期間）へ移行するか否かの抽選等）を報知する演出として複数遊技に亘って実行される連続演出を実行する場合に、連続演出中の一の遊技において次の遊技でも連続演出の続きが実行されることを示す画像（N E X T画像、継続画像と称することがある）を表示可能に構成されている。以下、N E X T画像の表示態様について説明する。

【1153】

図92はN E X T画像が表示される連続演出の流れの一例を示す図である。図92では、左上の「1」から右下の「7」にかけて遊技が進行することを表している。「7」の後に遊技者に有利な結果を報知する場合は「8」を表示し、「7」の後に遊技者に不利な結果を報知する場合は「9」を表示する。また、図中の「S」はスタートスイッチ12を示しており、「白丸」、又は「黒丸」はストップスイッチ13を示している。

10

【1154】

図92の「1」は、スタートスイッチ12に対する操作（押下）が行われて、「サメを撃退せよ!」という連続演出のタイトルの文字が液晶に表示されており、連続演出の1遊技目が開始されている。なおこのときはストップスイッチ13が「黒丸」で表示されており、ストップスイッチ13の操作が有効であることを示している。以下、ストップスイッチ13が「白丸」で表示された場合は、すでにストップスイッチ13が操作されたため、ストップスイッチの操作が無効となっていることを示している。

【1155】

図92の「2」は、ストップスイッチ13に対する第1停止操作が行われて、第1停止操作に応じた演出としてサメが右から左へ泳いでいく演出が表示されている。

20

【1156】

図92の「3」は、ストップスイッチ13に対する第2停止操作が行われて、第2停止操作に応じた演出としてサメが左から右へ泳いでいく演出が表示されている。

【1157】

図92の「4」は、ストップスイッチ13に対する第3停止操作が行われて、第3停止操作に応じた演出として波立つ演出が表示されている。ここで、連続演出の1遊技目が終了して次遊技に係るスタートスイッチ12の操作によって連続演出の続きが実行されるため、N E X T画像として「N E X T」の文字が液晶の右下に表示される。

【1158】

なお、図92の「4」では、「N E X T」の表示は第3停止操作を受け付けた後に液晶の右下に表示される構成であるが、「N E X T」の表示態様として、第3停止操作を受け付けた後に液晶の左下に「N E X T」の文字が表示され、液晶の左下から液晶の右下へ向かって「N E X T」の文字がスライドし、液晶の右下の位置まで移動したときに「N E X T」の文字が停止するような表示態様であってもよい。また、このように構成した場合に、「N E X T」の文字が液晶の左下から右下へ向かってスライドして移動するように表示されているとき（「N E X T」の文字が移動している間）は、液晶の右下で停止表示されているときよりも視認性が低い（文字が薄く表示される、「N E X T」の文字ではない別の画像が表示される、又は「N E X T」の文字よりも表示優先度の高いエフェクト画像を伴って表示される等）態様で表示するよう構成してもよい。一般的に遊技者はスタートスイッチ12→左リール8a→中リール8b→右リール8cの順に遊技を進行していくので、N E X T画像が表示されるまでの流れを遊技の進行と同様にでき遊技の進行をスムーズに感じさせることができる。また、N E X T画像は、第3停止操作の受け付けに応じた演出を実行してから所定時間（例えば3秒が例示できるが連続演出に応じて異なる時間を設定してもよい）経過すると表示されるよう構成されている。

30

【1159】

図92の「5」は、スタートスイッチ12の操作が行われて、連続演出の2遊技目が開始されている。ここでは、船に乗ったキャラクタがサメと対峙する演出が表示されている。

【1160】

図92の「6」は、ストップスイッチ13に対する第1停止操作が行われて、第1停止

40

50

操作に応じた演出としてサメが襲い掛かってくる演出が表示されている。

【1161】

図92の「7」は、ストップスイッチ13に対する第2停止操作が行われて、第2停止操作に応じた演出として液晶の表示領域を2分割してキャラクタが槍で攻撃する演出とサメが攻撃してくる演出とが表示されている。

【1162】

図92の「8」、及び「9」は、ストップスイッチ13に対する第3停止操作が行われて、第3停止操作に応じた演出として連続演出の結果（所定の抽選の当否）に関する画像が表示されている。図92の「8」では所定の抽選に当選していることを報知する場合であり、「撃退！」の文字とキャラクタの画像が表示されており、図92の「9」では所定の抽選に非当選であることを報知する場合であり、「敗北・・・？」の文字とサメの画像が表示されている。

10

【1163】

なお、図92では、図92の「4」のように「NEXT」画像は液晶の右下に表示され、図92の「8」のように「撃退！」の画像は液晶の左下に表示され、図92の「9」のように「敗北・・・？」の画像は液晶の左上に表示されるように、それぞれ液晶の異なる表示領域に表示されるよう構成されている。このように構成することで、それぞれ異なる意味合いの画像であることを遊技者に認識させやすくすることができる。

【1164】

また、複数の異なる連続演出において、第1連続演出と第2連続演出の所定の抽選に当選していることを報知する場合の画像は異なる表示態様（文字が異なる、又は表示位置が異なる等）であるように構成され、第1連続演出と第2連続演出のNEXT画像は同一の表示態様であるように構成されていてもよい。例えば、第1連続演出の結果所定の抽選に当選していることを報知する場合は液晶の左下に「撃退」と表示され、第2連続演出の結果所定の抽選に当選していることを報知する場合は液晶の右上に「勝利」と表示されるような表示態様であり、第1連続演出と第2連続演出のNEXT画像の表示態様は同一であることが考えられる。このような表示態様の場合、異なる連続演出間においてNEXT画像が連続演出の継続を示すことが遊技者に認識させやすくなることができる。

20

【1165】

また、図92では、遊技者の停止操作ごとに演出が切り替わる例を示したが、これに限らず、スタートスイッチ12が操作されて遊技が開始してから時間経過によって演出が進行するよう構成してもよい。例えば、図92の「1」の後にストップスイッチ13に対する停止操作が行われなくても時間経過によって演出が進行し、図92の「4」まで演出が進行するよう構成してもよい。

30

【1166】

<連続演出中のBGM>

次に、連続演出中に出力されるBGMについて図92で説明した連続演出をもとに説明する。図92における連続演出の流れについては上述した通りであるため省略する。

【1167】

図92の「1」で示しているとき（スタートスイッチ12が操作され、連続演出の1遊技目が開始するとき）に連続演出に対応した所定の連続演出中BGMが出力される。なお、図92の「1」のときは連続演出が開始する演出に応じたBGMを出力し、図92の「2」のタイミング（ストップスイッチ1に対する第1停止操作が行われたタイミング）で連続演出中に応じたBGMを出力してもよい。

40

【1168】

その後、第1停止操作、第2停止操作、第3停止操作（図92の「2」から「4」）と遊技が進行していくが、連続演出中BGMは継続して出力される。ここで、第3停止操作が行われたあと、次の遊技の開始操作（1枚目のメダル投入、1ベットスイッチの操作、MAXベットスイッチの操作、又はスタートスイッチ12の操作等）が行われない場合には、第3停止操作に応じて表示された演出（第3停止操作で表示された演出がこれ以上演

50

出が進行できない状況でループしている演出)とNEXT画像は表示されたままとなり、連続演出中BGMも継続して出力される(連続演出中BGMが最後まで再生された場合は最初に戻ってループして再生される)。このように構成することで、遊技者に有利となる結果が生じる可能性のある連続演出の途中で退席してしまうことを防止できる。また、遊技者トイレ休憩等で離席している場合に別の遊技者が安易に着席してしまうことを防止できる。

【1169】

なお、第3停止操作が行われて全回胴停止後からベット操作、又は精算操作が行われな
いまま所定時間(例えば60秒)が経過してデモ画面が表示される場合は、デモ画面が表
示されたときに連続演出中のBGMの出力を停止してかわりにデモ画面中のBGMを出力
してもよいし、デモ画面が表示されたときに連続演出中のBGMの出力を停止して無音と
してもよい。また、第3停止操作が行われて全回胴停止後から所定時間(例えば60秒)
が経過する前の所定のタイミングでサブスイッチ20が操作されてメニュー画面が表示さ
れる場合は、メニュー画面が表示されたときに連続演出中のBGMの出力を停止してかわ
りにメニュー画面中のBGMを出力してもよいし、メニュー画面が表示されたときに連続演
出中のBGMの出力を停止して無音としてもよい。

10

【1170】

また、第3停止操作が行われて全回胴停止後に精算操作が行われるとすぐにデモ画面が
表示される場合であっても、デモ画面が表示されたときに連続演出中のBGMの出力を停
止してかわりにデモ画面中のBGMを出力してもよいし、デモ画面が表示されたときに連
続演出中のBGMの出力を停止して無音としてもよい。

20

【1171】

また、連続演出中はデモ画面が表示されないように構成されていてもよく、この場合は
第3停止操作が行われて全回胴停止後からベット操作、又は精算操作が行われな
いまま所定時間(例えば60秒)が経過すると、連続演出中のBGMの音量を下げて
もよいし、連続演出中のBGMの音量を無音としてもよい。

【1172】

また、連続演出中はサブスイッチ20が操作されてもメニュー画面が表示されないよう
に構成されていてもよく、この場合は第3停止操作が行われて全回胴停止後にサブス
イッチ20が操作されてもメニュー画面は表示されず、連続演出中のBGMが継続して出力
される。その後全回胴停止から所定時間(例えば60秒)が経過したときにデモ画面を
表示する態様であってもよいし、デモ画面を表示しない態様であってもよい。

30

【1173】

続いて図92の「5」のタイミングのように、スタートスイッチ12が操作され、連続
演出の2遊技目が開始するが、このときも連続演出中BGMは継続して出力されている。

【1174】

その後、第1停止操作、第2停止操作(図92の「6」から「7」)と遊技が進行して
ゆき(連続演出中BGMの出力は継続されている)、第3停止操作(図92の「8」、又
は「9」)が行われ、第3停止操作に応じた演出として連続演出の結果に関する画像(結
果画像と称することがある)が表示されるときに連続演出中BGMの出力を停止し、連続
演出の結果に関するBGM、又はSE(効果音)が出力される。なお、連続演出の結果に
関するBGM、又はSEは一度出力されるとループせずに再生時間が経過すると出力が終
了される。また、連続演出の結果に関するBGM、又はSEとして、所定の抽選に当選し
ているときには当選を示すBGM、又はSE(例えば、賑やか、明るい、派手といった印
象のSE)が出力され、所定の抽選に非当選のときには非当選を示すBGM、又はSE(
例えば、残念、暗い、地味といった印象のSE)が出力されるよう構成されており、同
一の音量レベルに設定されている場合、当選を示すSEの音量の方が非当選を示すSEの
音量よりも大きいよう構成してもよい。

40

【1175】

このように、連続演出中において、NEXT画像の表示中は連続演出中BGMが継続し

50

て出力されているが、連続演出の結果に関する画像の表示中はBGMが停止しているよう構成されている。このように連続演出の結果を表示している場合には、連続演出の途中と異なって無音とすることで、連続演出の最終遊技であることを明確に報知できる。

【1176】

<NEXT画像と連続演出の結果に関する画像の表示態様>

次に、図93を用いて各連続演出のNEXT画像と連続演出の結果に関する画像の表示態様について説明する。

【1177】

図93は、図92で示した連続演出（第1連続演出と称することがある）とは異なる連続演出（第2連続演出と称することがある）の流れを示す図である。図93では、左上の「1」から右下の「7」にかけて遊技が進行することを表している。「7」の後に遊技者に有利な結果を報知する場合は「8」を表示し、「7」の後に遊技者に不利な結果を報知する場合は「9」を表示する。また、図中の「S」はスタートスイッチ12を示しており、「白丸」、又は「黒丸」はストップスイッチ13を示している。

【1178】

図93の「1」は、スタートスイッチ12に対する操作（押下）が行われて、「花を咲かせろ！」という連続演出のタイトルの文字が液晶に表示されており、連続演出の1遊技目が開始されている。なおこのときはストップスイッチ13が「黒丸」で表示されており、ストップスイッチ13の操作が有効であることを示している。以下、ストップスイッチ13が「白丸」で表示された場合は、すでにストップスイッチ13が操作されたため、ストップスイッチの操作が無効となっていることを示している。

【1179】

図93の「2」は、ストップスイッチ13に対する第1停止操作が行われて、第1停止操作に応じた演出として何も咲いていない地面の画像が表示されている。

【1180】

図93の「3」は、ストップスイッチ13に対する第2停止操作が行われて、第2停止操作に応じた演出として花の芽が出ている演出が表示されている。

【1181】

図93の「4」は、ストップスイッチ13に対する第3停止操作が行われて、第3停止操作に応じた演出として花は咲かず雲が流れる演出が表示されている。ここで、連続演出の1遊技目が終了して次遊技に係るスタートスイッチ12の操作によって連続演出の続きが実行されるため、NEXT画像として「NEXT」の文字が液晶の右下に表示される。

【1182】

なお、図93の「4」では、「NEXT」の表示は第3停止操作を受け付けた後に液晶の右下に表示される構成であるが、「NEXT」の表示態様として、第3停止操作を受け付けた後に液晶の左下に「NEXT」の文字が表示され、液晶の左下から液晶の右下へ向かって「NEXT」の文字がスライドし、液晶の右下の位置まで移動したときに「NEXT」の文字が停止するような表示態様であってもよい。また、このように構成した場合に、「NEXT」の文字が液晶の左下から右下へ向かってスライドして移動するように表示されているとき（「NEXT」の文字が移動している間）は、液晶の右下で停止表示されているときよりも視認性が低い（文字が薄く表示される、「NEXT」の文字ではない別の画像が表示される、又は「NEXT」の文字よりも表示優先度の高いエフェクト画像を伴って表示される等）態様で表示するよう構成してもよい。一般的に遊技者はスタートスイッチ12→左リール8a→中リール8b→右リール8cの順に遊技を進行していくので、NEXT画像が表示されるまでの流れを遊技の進行と同様に遊技の進行をスムーズに感じさせることができる。また、NEXT画像は、第3停止操作の受け付けに応じた演出を実行してから所定時間（例えば3秒が例示できるが連続演出に応じて異なる時間を設定してもよい）経過すると表示されるよう構成されている。

【1183】

図93の「5」は、スタートスイッチ12の操作が行われて、連続演出の2遊技目が開

始されている。ここでは、花は咲かず雨雲が流れる演出が表示されている。

【1184】

図93の「6」は、ストップスイッチ13に対する第1停止操作が行われて、第1停止操作に応じた演出として花は咲かず雨が降っている演出が表示されている。

【1185】

図93の「7」は、ストップスイッチ13に対する第2停止操作が行われて、第2停止操作に応じた演出として花は咲かず雷を伴い雨が降っている演出が表示されている。

【1186】

図93の「8」、及び「9」は、ストップスイッチ13に対する第3停止操作が行われて、第3停止操作に応じた演出として連続演出の結果（所定の抽選の当否）に関する画像が表示されている。図93の「8」では所定の抽選に当選していることを報知する場合であり、「開花！」の文字と花が咲いた画像が表示されており、図93の「9」では所定の抽選に非当選であることを報知する場合であり、「残念！？」の文字と花の芽の画像が表示されている。

【1187】

ここで、第1連続演出と第2連続演出とを比較すると、NEXT画像の表示態様は同じとなるよう構成されているが、連続演出の結果に関する画像の表示態様（第1連続演出では「撃退！」または「敗北・・・？」の画像、第2連続演出では「開花！」または「残念！？」の画像）は異なるよう構成されている。

【1188】

連続演出の結果を報知する遊技は、遊技機として重要な（いわゆる遊技機の売りとなる）演出を実行することが多いため、連続演出の結果を報知する遊技における連続演出の種類に合わせて連続演出の結果に関する画像の表示態様を変化させることで興趣性を向上させることができる。

【1189】

また、図示していないが、連続演出の結果が報知された遊技の次の遊技では、所定の抽選に当選していることが報知された後であれば、当選であることを明確に示す第1特定演出（例えば、「ボーナス確定」や「おめでとう！」の表示、遊技機の所定のランプを虹色で発光させる等）が行われ、所定の抽選に非当選であることが報知された後であれば、連続演出が失敗で終了したことを示す第2特定演出（例えば、液晶表示を暗転させる、ステージチェンジ演出を行う等）が行われて通常遊技状態の背景画像が表示される。ここで、第1特定演出の方が第2特定演出よりも明るい印象の演出となるよう構成されている。

【1190】

また、図92、及び図93において、第1連続演出と第2連続演出とは、それぞれ2遊技に亘って実行され、1回ずつNEXT画像が表示されるよう構成したが、これに限らず、例えば、第1連続演出は最大3遊技に亘って実行される構成とし1遊技目の第3停止操作後と2遊技目の第3停止操作後とで計2回NEXT画像が表示され得るよう構成してもよい。すなわち、第1連続演出では最大2回NEXT画像が表示され、第2連続演出では1回NEXT画像が表示されるよう構成してもよい。

【1191】

このように構成した場合、第1連続演出の方が第2連続演出よりも、NEXT画像の表示回数が多く、また所定の抽選の当選期待度が高くなるよう構成されている。

【1192】

また、第1連続演出において、NEXT画像が2回表示される場合の方が、NEXT画像が1回表示される場合よりも所定の抽選の当選期待度が高くなるよう構成されている。

【1193】

このように、NEXT画像の表示回数が多いほど所定の抽選の当選期待度が高くなるよう構成されている。このように構成することで、NEXT画像が表示されると、単に演出が継続するだけでなく、連続演出の期待感を煽ることもできる。なお、NEXT画像が複数回表示される場合のNEXT画像において、1回目のNEXT画像と2回目のNEXT

10

20

30

40

50

画像とは同一の N E X T 画像としてもよいし、2 回目の N E X T 画像の方が 1 回目の N E X T 画像よりも大きくなっていてもよいし、1 回目の N E X T 画像と 2 回目の N E X T 画像とは N E X T 文字の色や周辺の色が異なる色で構成されていてもよい。

【1194】

< N E X T 画像と U I 画像の表示優先度 >

また、上述した U I 画像を表示するよう構成した場合に、液晶の右下に表示されている U I 画像と N E X T 画像が重複して表示される場合がある。この場合には、N E X T 画像の表示優先度が U I 画像の表示優先度よりも高くなるよう構成されている。このように、遊技者の利益に影響のある連続演出に関する表示を強調することで、遊技者に対して連続演出の結果を集中させることができる。

10

【1195】

また、N E X T 画像の表示優先度が U I 画像の表示優先度よりも低くなるよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者は連続演出中であっても遊技の状況を適切に把握することができる。

また、N E X T 画像と U I 画像の表示領域を異なる表示領域とし、互いの画像が重複して表示されないよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者は連続演出の進行状況と遊技の状況のいずれも適切に把握することができる。

【1196】

< 連続演出中のテロップと N E X T 画像の表示領域 >

次に、連続演出中のテロップと N E X T 画像の表示領域について説明する。

20

【1197】

本実施形態においてテロップ（以下、テロップ表示、テロップ演出、字幕、字幕演出、又は文字情報と称する場合がある）とは、液晶に表示される演出に応じたキャラクタの台詞やナレーションを文字により表示する演出のことを指している。

【1198】

図 9 2、又は図 9 3 で示す連続演出において、連続演出中に連続演出に関するテロップが表示される場合がある。テロップの表示は時系列で変化する連続演出の進行内容にともなって表示される。なお、スタートスイッチ 1 2 の操作や停止操作に応じて連続演出の進行内容が変化する場合に、スタートスイッチ 1 2 の操作や停止操作に応じてテロップも表示されるよう構成してもよい。

30

【1199】

また、テロップは液晶内の下方の表示領域に表示され、表示される文字数によりテロップの表示領域の大きさが異なる。また、テロップの表示領域における左右方向の直線状には N E X T 画像の表示領域があるように構成されている。

【1200】

ここで、テロップの表示と N E X T 画像は表示領域が重複しないよう構成されている。具体的には、N E X T 画像が表示される連続演出中の遊技は、N E X T 画像が表示されない連続演出中の遊技よりも比較的短い文字数でテロップが表示され、N E X T 画像と重複しないよう構成される。一方、図示していないが、連続演出の結果を報知する遊技では、N E X T 画像が表示されないため、N E X T 画像が表示される連続演出中の遊技よりも比較的長い文字数でテロップを表示するよう構成してもよい。また、テロップの文字数が多い場合には、テロップを複数行に亘って表示することで、N E X T 画像とテロップの表示領域が重複しないよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者が N E X T 画像とテロップとを混同してしまうことを防止できる。

40

【1201】

図 9 4 では、テロップとして「なんだ？」の 4 文字で構成されており、N E X T 画像とは重複していないため、遊技者が N E X T 画像とテロップとを混同してしまうことを防止できる。

【1202】

なお、N E X T 画像とテロップとが同時に表示されているときには、N E X T 画像は所

50

定周期でエフェクトを伴って表示するよう構成し、一方でテロップはエフェクトを伴わず固定された画像とするよう構成してもよい。このように構成することで、より一層、遊技者がNEXT画像とテロップとを混同してしまうことを防止できる。

【1203】

また、NEXT画像が表示される遊技でテロップを表示する場合において、NEXT画像はテロップが表示されたあとの所定のタイミングで表示されるよう構成してもよい。

【1204】

また、NEXT画像とテロップの表示とは時間経過で表示を終了しないよう構成してもよい。このように構成した場合、連続演出中は遊技が終了したあとの所定のタイミング（第3停止操作を受け付けたタイミング、全てのリールが停止したタイミング、払出処理を終えたタイミング等）から所定時間（例えば1分）が経過してもデモ画面に移行しないよう構成し、次の遊技の開始操作（ベット操作、スタートスイッチ12の操作等）が行われるまでNEXT画像とテロップの表示を継続するよう構成してもよい。また、連続演出中も遊技が終了したあとの所定のタイミングから所定時間が経過するとデモ画面へ移行するよう構成し、デモ画面へ移行するタイミングまではNEXT画像とテロップの表示を継続し、デモ画面へ移行するタイミングでNEXT画像とテロップの表示を終了するよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者がNEXT画像とテロップとを混同してしまうことを防止できるとともに、遊技の状況を把握し易くすることができる。

【1205】

また、NEXT画像が表示される遊技で表示されるテロップの文字数が多い場合には、先にテロップを表示し、テロップの表示を終了した後にNEXT画像を表示するよう構成してもよい。このように構成することで、NEXT画像が表示されている期間とテロップが表示されている期間とを異ならせることができるので、NEXT画像とテロップの表示のどちらも視認性を下げることなく、明確に表示することができる。

【1206】

なお、NEXT画像の表示領域とテロップの表示領域とが重複するよう構成してもよいが、この場合には、NEXT画像の表示優先度をテロップの表示優先度よりも高くなるよう構成するのが好適である。このように構成することで、遊技者は次の遊技も連続演出が継続することを適切に把握することができる。

【1207】

<NEXT画像表示されるまでの表示態様>

次に、図95を用いて、NEXT画像が表示されるまでの流れについて説明する。

図95では、NEXT画像を表示する際に、文字とは認識できないもの（以下、スライド画像と称することがある）が液晶の左下から右下へ移動する軌跡を表示し、スライド画像が液晶の右下へ移動するとNEXT画像が表示される場合を示している。なお、スライド画像は、図95の「1」～「4」のように文字とも何かの物体とも認識できない画像（図95の「1」～「4」では残像を示す画像）でもよいし、図95の「5」～「8」のように文字ではない特定の物体の画像（図95の「5」～「8」では野球ボールの画像）でもよい。

【1208】

図95の「1」又は「5」では、NEXT画像表示される遊技において、ストップスイッチ13に対する第3停止操作受付後、ストップスイッチ13に対する第3停止操作から時間 t_1 経過後、又はスタートスイッチ12が操作されてから時間 t_1 経過後、液晶の左下にスライド画像が表示されている。

【1209】

図95の「2」又は「6」では、NEXT画像表示される遊技において、ストップスイッチ13に対する第3停止操作から時間 t_2 経過後、又はスタートスイッチ12が操作されてから時間 t_2 が経過後、液晶下部の中央付近までスライド画像が移動している。なお、 $t_2 > t_1$ となっている。

【1210】

図95の「3」又は「7」では、NEXT画像表示される遊技において、ストップスイッチ13に対する第3停止操作から時間 t_3 経過後、又はスタートスイッチ12が操作されてから時間 t_3 が経過後、液晶の右下までスライド画像が移動している。なお、 $t_3 > t_2$ となっている。

【1211】

図95の「4」又は「8」では、NEXT画像表示される遊技において、ストップスイッチ13に対する第3停止操作から時間 t_4 経過後、又はスタートスイッチ12が操作されてから時間 t_4 が経過後、スライド画像の表示を終了し、液晶の右下にNEXT画像が表示されている。なお、 $t_4 > t_3$ となっている。

【1212】

このようにスライド画像を液晶の左下から右下へ移動させることで、遊技者の注目をひくことができるので、スライド画像が表示された後のNEXT画像を遊技者に認識させることができる。

【1213】

また、スライド画像の表示領域と押し順ナビ画像の表示領域とは少なくとも一部が重複するよう構成してもよい。また、NEXT画像の表示領域と押し順ナビの表示領域とは少なくとも一部が重複するよう構成してもよい。ただし、この場合には第3停止操作後にスライド画像およびNEXT画像を表示するよう構成する。

【1214】

このように構成することで、第3停止操作が行われると押し順ナビ画像は表示を終了するので、押し順ナビ画像とスライド画像、または押し順ナビ画像とNEXT画像が重複して表示されることはなく、押し順ナビ画像、スライド画像、NEXT画像のいずれも視認性を低下させることなく表示することができる。

【1215】

なお、スライド画像とテロップの表示とは、少なくとも一部の表示領域が重複しており、且つ同時に重複して表示される場合を有するよう構成されているが、表示内容の重要度に応じて、スライド画像の表示優先度をテロップの表示優先度よりも高くなるようにしてもよいし、反対にテロップの表示優先度をスライド画像の表示優先度よりも高くなるようにしてもよい。

【1216】

また、NEXT画像と連続演出の結果に関する画像（例えば、図92の「撃退!」、「敗北・・・?」の画像、図93の「開花!」、「残念!？」の画像等）の表示を終了するタイミングに関して、NEXT画像と連続演出の結果に関する画像のいずれも表示されてから時間経過によっては表示を終了しないよう構成されている。このように構成することで、連続演出の進行状況を把握するために重要な情報を遊技者が見逃してしまうことを防止することができる。

【1217】

なお、NEXT画像は次の遊技に係るベット操作（MAXベットスイッチ18を操作することによるベット操作、1ベットスイッチ19を操作することによるベット操作、メダルを手入れで投入することによるベット操作を含む）がされても表示を終了せずに次の遊技の開始操作としてスタートスイッチ12が操作されたタイミングで表示を終了し得るよう構成し、連続演出の結果に関する画像は次の遊技に係るベット操作によって表示を終了し得るよう構成してもよい。このように、NEXT画像の表示をベット操作によって終了しないことで、連続演出が次の遊技でも継続して行われることを強調することができる。

【1218】

また、NEXT画像と連続演出の結果に関する画像の表示領域は異なるよう構成されている。例えば、図92で示したように、NEXT画像は液晶の右下の所定の表示領域に表示され、連続演出の結果に関する画像は液晶の左下や左上の所定の表示領域に表示されるよう構成されている。このように、表示される画像によって表示位置を異ならせることで、遊技者の視点を適宜誘導し、液晶全体を注視させることができる。

10

20

30

40

50

【1219】

また、上述した通り、NEXT画像と連続演出の結果に関する画像とは、遊技の開始操作としてスタートスイッチ12が操作されてからの時間経過によって表示されるよう構成してもよいし、ストップスイッチ13に対する第3停止操作（最終停止操作と称することがある）が操作されてからの時間経過によって表示されるよう構成してもよい。

【1220】

ここで、スタートスイッチ12の操作、又はストップスイッチ13に対する第3停止操作がなされてからNEXT画像が表示されるまでの時間（ t_1 ）よりも、スタートスイッチ12の操作、又はストップスイッチ13に対する第3停止操作がなされてから連続演出の結果に関する画像が表示されるまでの時間（ t_2 ）の方が長くなるよう設計されている。

10

【1221】

具体的には、（1）スタートスイッチ12が操作されてからNEXT画像が表示されるまでの時間よりも、スタートスイッチ12が操作されてから連続演出の結果に関する画像が表示されるまでの時間の方が長くなるよう設計されている（2）第3停止操作がされてからNEXT画像が表示されるまでの時間よりも、第3停止操作がされてから連続演出の結果に関する画像が表示されるまでの時間の方が長くなるよう設計されている（3）スタートスイッチ12が操作されてからNEXT画像が表示されるまでの時間よりも、第3停止操作がされてから連続演出の結果に関する画像が表示されるまでの時間の方が長くなるよう設計されている（4）第3停止操作がされてからNEXT画像が表示されるまでの時間よりも、スタートスイッチ12が操作されてから連続演出の結果に関する画像が表示されるまでの時間の方が長くなるよう設計されている。

20

【1222】

このように構成することで、連続演出の結果に関する画像が表示されるまでの期待感を創出することができる。

【1223】

また、上述した通り、NEXT画像は初めに液晶の左下に表示されてから液晶の右下へ移動して、液晶の右下まで移動するとそこで停止して表示される。つまり、NEXT画像は表示を開始する位置（表示を開始する表示領域）と表示を終了する位置（表示を終了する表示領域）とが異なるよう構成されている。一方、連続演出の結果に関する画像は、表示を開始してから終了するまで移動せずに表示される。つまり、連続演出の結果に関する画像は表示を開始する位置と表示を終了する位置とが同じとなるよう構成されている。このように、NEXT画像が移動しながら表示されることで、連続演出が次の遊技でも継続して行われることを効果的に遊技者へ伝えることができる。また、連続演出の結果に関する画像は表示位置を移動させずに表示することで、連続演出の結果に注目させることができる。

30

【1224】

<ナビ画像>

次に、本実施形態におけるナビ画像について説明する。なお、ここでは、押し順ナビ画像（停止操作情報と称することがある）について説明するが、押し順ナビ画像に限らず、上述した、目押しナビ画像、操作態様ナビ画像に適用してもよい。

40

【1225】

本実施形態では、例えば、AT中などに、内部抽せんの結果として押し順ベルが当選した遊技において、ストップスイッチの有利（当該遊技において獲得可能な最大の遊技媒体が付与される等）な操作態様を示唆する情報を押し順ナビ画像として液晶に表示可能に構成されている。具体的には、「1」、「2」、「3」の数字を用いて6通りの押し順を報知可能であり、「1」が第1停止操作として操作するストップスイッチを示しており、「2」が第2停止操作として操作する停止ボタンを示しており、「3」が第3停止として停止操作する停止ボタンを示している。

【1226】

なお、第1停止操作、又は第3停止操作を2択の目押し（リールの1～10番までの位

50

置でストップスイッチを操作すべきか、またはリールの 11～20 番までの位置でストップスイッチを操作すべきかを、例えば青 7 図柄の画像と赤 7 図柄の画像のいずれかを押し順ナビ画像とあわせて報知する)として、押し順の 6 択と掛け合わせて 12 通りの操作態様を報知可能に構成してもよい。また、液晶の左側に表示される押し順ナビ画像は左リール 8 a に対応しており、液晶の中央付近に表示される押し順ナビ画像は中リール 8 b に対応しており、液晶の右側に表示される押し順ナビ画像は右リール 8 c に対応している。例えば、押し順ナビ画像として「123」と表示された場合には、左リール 8 a、中リール 8 b、右リール 8 c の順に対応するストップスイッチを操作する押し順を示している。なお、本実施形態では、「1」のように押し順ナビ画像の一部を「押し順ナビ画像」と称する場合と、「123」のように押し順ナビ画像全体を「押し順ナビ画像」と称する場合がある。

10

【1227】

＜押し順ナビ画像の態様＞

図 9 6 は本実施形態における押し順ナビ画像の態様の一例を示した図である。図 9 6 では第 1 停止操作に関する押し順ナビ画像を例に説明するが、第 2 停止操作、第 3 停止操作に関しても同様に構成されている。

【1228】

押し順ナビ画像は「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」とによって構成されており、押し順ナビ画像の表示態様として「通常態様」、「強調態様」、「失敗態様」、「成功態様」の少なくとも 4 つを有するよう構成されている。

20

【1229】

ナビ数字画像とは、押し順を示す数字の画像である。ナビ背景画像とは、押し順を示す数字の周りの装飾画像、又は押し順を示す数字の周りのエフェクトを示す画像である。

【1230】

まず、図 9 6 の＜1＞は通常態様の押し順ナビ画像であり、現在操作すべきではないストップスイッチに対応した押し順ナビ画像が通常態様で表示される。なお、通常態様で表示される押し順ナビ画像に対応する音声は出力されないよう構成されている。また、通常態様の押し順ナビ画像の中でも、次に操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像と、最後に操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像と、に分けて表示してもよい。この場合は、次に操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像を最後に操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像よりも大きく表示し、且つ現在操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像よりも小さく表示する態様が考えられる。

30

【1231】

次に、図 9 6 の＜2＞は強調態様の押し順ナビ画像であり、現在操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像が強調態様で表示される。なお、強調態様で表示される押し順ナビ画像に対応する音声スピーカ S から出力されるよう構成されている。例えば、左リール 8 a に対応したストップスイッチを操作すべきタイミングでは「左だ」という音声出力されることとなる。なお、強調態様の押し順ナビ画像は通常態様の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きい画像となっており、遊技者に対し、操作すべきストップスイッチを視覚的に報知できるよう構成されている。さらに、大きさだけでなく、強調態様の押し順ナビ画像を通常態様の押し順ナビ画像よりも明るく表示したり、通常態様とは異なる色やフォントで表示したりすることで、現在操作すべきストップスイッチを視覚的にわかりやすく報知してもよい。

40

【1232】

次に、図 9 6 の＜3＞は成功態様の押し順ナビ画像であり、現在操作すべきストップスイッチが操作されると（現在強調態様で表示されている押し順ナビ画像に対応したストップスイッチが操作されると）、強調態様で表示されていた押し順ナビ画像が成功態様で表示される。すなわち、正解の操作態様でストップスイッチが操作されると、強調態様で表示されている押し順ナビ画像が成功態様に変化する。なお、現在操作すべきストップスイ

50

ッチが操作されて押し順ナビ画像を成功態様で表示する場合には、次の押し順に対応した音声出力される（例えば、次に中リール 8 b に対応したストップスイッチを操作すべき場合には「中だ」という音声スピーカ S から出力される）とともに、次に操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像が強調態様で表示される。なお、成功態様の押し順ナビ画像は、所定時間（例えば 0.5 秒）表示された後に表示を終了するよう構成されている。

【1233】

また、正解の態様でストップスイッチが操作されたときに、押し順正解であることを示す効果音や音声（成功音と称することがある）がスピーカ S から出力されるよう構成してもよい。このように構成することで、視覚的にだけでなく聴覚的にも正解の態様でストップスイッチが操作されたことも遊技者に認識させることができる。

10

【1234】

また、成功態様の押し順ナビ画像は通常態様の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きい画像となるよう構成されている。なお、強調態様の押し順ナビ画像と成功態様の押し順ナビ画像とは、「ナビ数字画像」、「ナビ背景画像」のいずれも略同じ大きさとなるよう構成されている。

【1235】

次に、図 9 6 の<4>は失敗態様の押し順ナビ画像であり、現在操作すべきでないストップスイッチが操作されると（通常態様で表示されている押し順ナビ画像に対応したストップスイッチが操作されると）、現在表示されているすべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示される。すなわち、不正解の操作態様でストップスイッチが操作されると、現在表示されているすべての押し順ナビ画像が失敗態様に変化する。なお、現在操作すべきでないストップスイッチが操作されて押し順ナビ画像を失敗態様で表示する場合には、押し順を間違えたことを示す音声（例えば、「何やってんだ」のような音声であり、失敗音と称することがある）がスピーカ S から出力されるよう構成してもよいし、押し順を間違えたことを示す音声出力されないよう構成してもよい。なお、失敗態様の押し順ナビ画像は、所定時間（例えば 0.3 秒）表示された後に表示を終了するよう構成されている。また、現在操作すべきでないストップスイッチが操作された場合には、失敗態様の押し順ナビ画像を表示せず、即座（所定時間よりも短い時間）にすべての押し順ナビ画像の表示を終了するよう構成してもよい。

20

30

【1236】

また、現在操作すべきでないストップスイッチが操作され、現在表示されているすべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示されるときにおいて、押し順ナビ画像の大きさは停止操作がされる前の大きさのままとなるよう構成されている。すなわち、停止操作前に強調態様で表示されていた押し順ナビ画像は、強調態様の大きさに失敗態様の押し順ナビ画像が表示され、停止操作前に通常態様で表示されていた押し順ナビ画像は、通常態様の大きさに失敗態様の押し順ナビ画像が表示されるよう構成されている。

【1237】

また、本実施形態において、ストップスイッチ 13 の操作を受け付けてから成功態様の押し順ナビ画像の表示を終了するまでの時間の方が、ストップスイッチ 13 の操作を受け付けてから失敗態様の押し順ナビ画像の表示を終了するまでの時間よりも長くなるよう構成されている。

40

【1238】

このように構成することで、遊技者に対して成功による優越感を与えることができるとともに、失敗時には周囲の遊技者に押し順を失敗したことを悟られにくくなるため、遊技の興趣を向上することができる。

【1239】

また、通常態様、強調態様、成功態様、失敗態様の、すべての態様の押し順ナビ画像についてエフェクトを伴って表示するよう構成してもよいし、少なくとも一つの態様の押し順ナビ画像についてエフェクトを伴って表示するよう構成してもよい。

50

【1240】

また、通常態様、強調態様、成功態様、失敗態様の、すべての態様の押し順ナビ画像について動きを伴う動画像として表示するよう構成してもよいし、すべての態様の押し順ナビ画像について静止画像として表示するよう構成してもよいし、少なくとも一つの態様の押し順ナビ画像を動画像としその他の態様の押し順ナビ画像を静止画像として表示するよう構成してもよい。

【1241】

また、遊技の開始操作としてスタートスイッチ12が操作されると、すべての押し順ナビ画像の表示を通常態様で開始し、その後ストップスイッチの操作が有効となったタイミングで最初に操作すべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応した押し順ナビ画像を強調態様で表示するよう構成してもよい。また、遊技の開始操作としてスタートスイッチが操作されると、最初に操作すべきストップスイッチに対応した押し順ナビ画像の表示を強調態様で、その他の押し順ナビ画像の表示を通常態様で開始するが、表示を開始してからストップスイッチの操作が有効となるまではすべての押し順ナビ画像は静止画像で表示し、ストップスイッチの操作が有効となったタイミングですべての押し順ナビ画像を何らかの動きを伴う動画像として表示するよう構成してもよい。

10

【1242】

このように構成することで、ストップスイッチの操作が有効になったことを遊技者が視覚的に認識しやすくなり、押し順ミスを防止することができる。このようにストップスイッチの操作が有効になったタイミングで、第1停止操作に対応した押し順ナビ画像を強調態様で表示したり、押し順ナビ画像を静止画像から動画像へ変化させたりすることを停止受付可能演出と称することがある。

20

【1243】

また、本実施形態において、遊技の開始操作としてスタートスイッチ12が操作され、押し順ナビ画像を表示するときに、所定の効果音（ナビ表示音と称することがある）がスピーカSから出力されるよう構成されている。

【1244】

このときに最初に操作すべきストップスイッチに対応した音声（例えば「左だ」）をスピーカSから出力するタイミングとしては、スタートスイッチ12が操作された直後としてもよいし、リールの回転が開始したタイミングとしてもよいし、ストップスイッチの操作が有効となったタイミングとしてもよい。換言すると、スタートスイッチ12が操作されてからストップスイッチの操作が有効となるまでのいずれかのタイミングでスピーカSから出力されるよう構成されていればよい。

30

【1245】

このように構成することで、液晶表示の不具合で押し順ナビ画像の表示が遅れてしまっても、聴覚的に最初に操作すべきストップスイッチを認識できるので、遊技の進行を阻害しないとともに、押し順ミスを防止することができる。

【1246】

また、図97は本実施形態において押し順ナビ画像が液晶に表示される場合の一例であり、液晶に「123」と表示することで、左リール8aに対応したストップスイッチ→中リール8bに対応したストップスイッチ→右リール8cに対応したストップスイッチの順にストップスイッチを操作することが正解の押し順であることを示している。図97において、左リール8aに対応したストップスイッチを最初にすべきであるため、「1」を強調態様の押し順ナビ画像で表示し、「2」および「3」を通常態様の押し順ナビ画像で表示している。

40

【1247】

<押し順ナビ画像の表示と電源断に関する構成>

次に、押し順ナビ画像の表示中に電源断が発生し、その後設定変更せずに電源断復帰したときの押し順ナビ画像の表示について、AT中に入賞-A1条件装置に当選し、正解押し順の「左中右」に対応した「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される場合を例に

50

説明する。なお、以下で説明する押し順ナビ画像の表示と電源断に関する構成については、電源断のタイミングや押し順ナビ画像の態様が異なっている（正解押し順の「中左右」に対応した「2 1 3」の押し順ナビ画像等）場合にも適宜組み合わせで適用可能である。また、後述する、＜押し順ナビ画像の表示と所定のエラーに関する構成＞と適宜組み合わせで適用可能である。

【1 2 4 8】

（１）第１停止操作前に電源断した場合

まず、スタートスイッチ１２が操作されると、「１ ２ ３」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「１」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第１停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「２」および「３」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第１停止操作として左リール８aに対応したストップスイッチを操作すべきであるため、「左だ」の音声スピーカーＳから出力される。なお、現在操作すべきストップスイッチに対応した「左だ」などの音声を、単にナビ音声と称することがある。

【1 2 4 9】

その後、未だ第１停止操作が行われていない状況において、電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する（電源が投入されていない状態）。その後、電源断復帰後におけるサブ制御基板に駆動電圧が供給されて描画処理が実行可能なタイミングやメイン制御基板に駆動電圧が供給されて押し順に関するコマンドをサブ制御基板に送信したタイミング等のタイミング（以下、所定のナビタイミングと称する場合がある）で、「１ ２ ３」の押し順ナビ画像が再び液晶に表示される。なお、「１」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「２」および「３」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、このときナビ音声は再び出力されない。また、このときナビ表示音は再び出力されないよう構成してもよいし、出力するよう構成してもよい。

【1 2 5 0】

このように、押し順ナビ画像が表示されてから第１停止操作前に電源断し、その後電源断復帰した場合に、押し順ナビ画像は復帰するがナビ音声は復帰しないよう構成されている。このように電源断復帰時にはナビ音声を出力しないことで、電源断復帰時の副制御基板の処理を軽減し、押し順ナビ画像を素早く表示することができる。

【1 2 5 1】

なお、電源断復帰時にナビ音声も再び出力するよう構成してもよい。このように構成することで、電源断前と電源断復帰後とで違和感なく遊技を進めることができる。

【1 2 5 2】

また、ストップスイッチの操作が有効となったタイミングで前述した操作受付可能演出を実行するよう構成した場合には、電源断復帰時にも停止受付可能演出を伴って押し順ナビ画像を表示するよう構成してもよい。このように構成することで、電源断前と電源断復帰後とで違和感なく遊技を進めることができる。

【1 2 5 3】

また、電源断復帰時には停止受付可能演出を伴わずに押し順ナビ画像を表示するよう構成してもよい。このように構成することで電源断復帰時の副制御基板の処理を軽減し、押し順ナビ画像を素早く表示することができる。

【1 2 5 4】

また、電源断復帰時に押し順ナビ画像を再び表示するときに、第１停止操作に対応した押し順ナビ画像は「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」のどちらも表示し、その他の押し順ナビ画像は「ナビ数字画像」のみ表示するよう構成してもよい。このように構成することで電源断復帰時の副制御基板の処理を軽減し、押し順ナビ画像を素早く表示することができる。

【1 2 5 5】

また、電源断復帰に押し順ナビ画像を再び表示するときに、電源断復帰時に表示されるすべての押し順ナビ画像について「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」のどちらも表示す

10

20

30

40

50

るよう構成してもよい。このように構成することで、電源断前と電源断復帰後とで違和感なく遊技を進めることができる。

【1256】

(2) 第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

10

【1257】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作されると、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

20

【1258】

その後、未だ第2停止操作が行われていない状況において、電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する（電源が投入されていない状態）。その後、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。換言すると、ストップスイッチに対する第一停止の押し順が正解押し順であった場合の停止受付後と同様の画像表示を行う。

【1259】

また、このときナビ表示音、成功音、および第2停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。

30

【1260】

また、このとき電源断前と同様に、「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。また、このとき、「1」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断前において表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、電源断復帰時に再び表示されるよう構成されている。なお、「1」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

40

【1261】

このように、第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示されるよう構成されている。このように構成することで、AT中に電源断復帰があっても、電源断前のストップスイッチの操作態様を正確に表示でき、遊技者の押し順ミスを防止することができる。さらに、成功態様の押し順ナビ画像も再び表示するので、電源断前のストップスイッチの操作態様が正解態様であったことも遊技者に認識させることができる。

50

【1262】

また、第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作前に電源断が発生し場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示されるよう構成してもよい。

【1263】

このように構成することで、遊技者に対して現在行うべき停止操作を集中させることができる。

【1264】

(3) 第1停止操作が不正解態様で行われ、その後第2停止操作前に電源断した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声が出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【1265】

その後、第1停止操作が不正解態様で行われる（例えば中リール8bに対応したストップスイッチが操作される）と、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示され、失敗態様で表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過するとすべての押し順ナビ画像の表示を終了する。また、押し順を間違えたことを示す「何やってんだ」の音声がスピーカSから出力される。

【1266】

その後、未だ第2停止操作が行われていない状況において、電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する（電源が投入されていない状態）。その後、電源断復帰後の描画処理が実行可能なタイミングであっても押し順ナビ画像は表示されない。また、このとき押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。

【1267】

このように、電源断前に不正解態様で停止操作がされていた場合には電源断復帰後に押し順ナビ画像を再び表示しないことで、遊技者の期待感を下げることなく（不用意に期待感を上げないようにして）遊技に復帰できる。

【1268】

また、上述した通り、第1停止操作として正解態様でストップスイッチが操作され、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、第1停止操作に対応した押し順ナビ画像が成功態様で表示され、第2停止操作に対応した押し順ナビ画像は強調態様で表示され、第3停止操作に対応した押し順ナビ画像は通常態様で表示されるよう構成されている。一方、第1停止操作として不正解態様でストップスイッチが操作され、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミング（実際にナビがなされなくてもナビタイミングと称す）で、押し順ナビ画像は表示されないよう構成されている。

【1269】

このように構成することで、電源断前の遊技状況に応じて電源断復帰後の表示を適切に行うことができ、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に電源断前に不正解態様でストップスイッチが操作されていた場合には遊技者の期待感を下げることなく（不用意に期待感を上げないようにして）遊技に復帰できる。

【1270】

なお、第1停止操作が不正解態様で行われ、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で再び表示されるよう構成してもよい。なお、このときも電源断復帰後に押し順を間違え

10

20

30

40

50

たことを示す失敗音およびナビ音声は出力されない。また、失敗態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1271】

このように構成すると、第1停止操作として正解態様でストップスイッチが操作され、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、第1停止操作に対応した押し順ナビ画像が成功態様で表示され、第2停止操作に対応した押し順ナビ画像は強調態様で表示され、第3停止操作に対応した押し順ナビ画像は通常態様で表示され、一方で第1停止操作として不正解態様でストップスイッチが操作され、その後第2停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示されることとなる。

10

【1272】

このように構成することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に電源断前に不正解態様でストップスイッチが操作されていた場合において、仮に電源断から電源断復帰までに数分かってしまっても、電源断復帰後に失敗態様の押し順ナビ画像が表示されるので、AT中であるにもかかわらず払出しが無いまたは1枚など少ない払出しであることで遊技者が遊技機の故障だと誤認してしまうことを防止できる。

【1273】

(4) 第2停止操作まで正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断した場合

20

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声は出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【1274】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作されると、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声はスピーカSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

30

【1275】

その後、第2停止操作が正解態様で行われる（すなわち中リール8bに対応したストップスイッチが操作されると、「2」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像が強調態様で表示される。また、第3停止に対応した「右だ」のナビ音声はスピーカSから出力される。なお、このとき「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、両者の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」は略同じ大きさで表示されることとなる。

40

【1276】

その後、未だ第3停止操作が行われていない状況において、電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する（電源が投入されていない状態）。その後、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示される。なお、このときナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。また、このとき電源断前と同様に、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像

50

は強調態様で表示されるため、両者の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」は略同じ大きさで表示されることとなる。また、このとき、「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断前において表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、電源断復帰時に再び表示されるよう構成されている。なお、「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1277】

このように、第1停止操作および第2停止操作が正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるよう構成されている。

10

【1278】

このように構成することで、AT中に電源断復帰があっても、電源断前のストップスイッチの操作態様を正確に表示でき、遊技者の押し順ミスを防止することができる。特に第1停止操作に対応した押し順ナビ画像は再現しないため、第3停止に集中させることができる。

【1279】

また、第1停止操作および第2停止操作が正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるよう構成してもよい。なお、このときもナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。また、このとき、「1」および「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」はすべて略同じ大きさで表示されることとなる。また、このとき、「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断前において表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、電源断復帰時に再び表示されるよう構成されている。なお、「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。すなわち、電源断前は停止操作ごとに押し順ナビ画像の表示態様が切り替わるため「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は異なるタイミングで表示を終了するが、電源断後は「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は同じタイミングで表示を終了することとなる。

20

30

【1280】

このように構成することで、AT中に電源断復帰があっても、電源断前のストップスイッチの操作態様を正確に表示でき、遊技者の押し順ミスを防止することができる。特に第1停止および第2停止に対応した押し順ナビ画像を成功態様で表示することで、残りは第3停止のみであること、および正解押し順で操作したことを明確にすることができる。

40

【1281】

また、第1停止操作および第2停止操作が正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は表示されず、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるよう構成してもよい。なお、このときもナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。

【1282】

50

このように構成することで、遊技者に対して現在行うべき停止操作を集中させることができる。

【1283】

(5) 第1停止操作が正解態様で、第2停止操作が不正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

10

【1284】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作されると、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカーSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

20

【1285】

その後、第2停止操作が不正解態様で行われる（例えば右リール8cに対応したストップスイッチが操作されると、「2」および「3」の押し順ナビ画像が失敗態様で表示され、失敗態様で表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると「2」および「3」の押し順ナビ画像の表示を終了する。また、押し順を間違えたことを示す「何やってんだ」の音声スピーカーSから出力される。

【1286】

その後、未だ第3停止操作が行われていない状況において、電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する（電源が投入されていない状態）。その後、電源断復帰後の所定のナビタイミングになっても押し順ナビ画像は表示されない。なお、このとき押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。

30

【1287】

このように、電源断前に不正解態様で停止操作がされていた場合には電源断復帰時に押し順ナビ画像を再び表示しないことで、遊技者の期待感を下げることなく（不用意に期待感を上げないようにして）遊技に復帰させることができる。

【1288】

また、第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作が不正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は失敗態様で表示されるよう構成してもよい。また、このときも電源断復帰後に押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。なお、失敗態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

40

【1289】

このように構成することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に正解態様で停止操作に対応する押し順ナビ画像も再度表示することで、どの停止操作を間違えてしまったかを遊技者が把握することができる。

【1290】

また、第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作が不正解態様で行われ、

50

その後第3停止操作前に電源断が発生した場合には、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示されるよう構成してもよい。また、このときも電源断復帰後に押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。なお、失敗態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。このように構成することで、仮に電源断から電源断復帰までに数分かかってしまっても、電源断復帰後に失敗態様の押し順ナビ画像が表示されるので、AT中であるにもかかわらず払出しが無いまたは1枚など少ない払出しであることで遊技者が遊技機の故障だと誤認してしまうことを防止できる。

10

【1291】

（6）第2停止操作まで正解態様で行われ、その後第3停止操作前に電源断し、電源断復帰後に第3停止を行い、その後さらに電源断した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

20

【1292】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作されると、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

【1293】

その後、第2停止操作が正解態様で行われる（すなわち中リール8bに対応したストップスイッチが操作されると、「2」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像が強調態様で表示される。また、第3停止に対応した「右だ」のナビ音声スピーカSから出力される。なお、このとき「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、両者の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」は略同じ大きさで表示されることとなる。

30

【1294】

その後、未だ第3停止操作が行われていない状況において、電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する（電源が投入されていない状態）。その後、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像は表示されない、または成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示される。なお、このときナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。なお、「2」の成功態様の押し順ナビ画像（「1」の成功態様の押し順ナビも表示されるよう構成した場合には「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像）は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了するよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了するよう構成してもよい。

40

【1295】

その後、「2」の成功態様の押し順ナビ画像の表示を終了し（「1」の成功態様の押し順ナビも表示されるよう構成した場合には「1」の成功態様の押し順ナビ画像の表示も終

50

了し)、「3」の押し順ナビ画像が強調態様で表示されている状況において、第3停止操作が正解態様で行われると、「3」の押し順ナビ画像が成功態様で表示される。また、このとき正解態様ですべての停止操作が行われたことを示す所定の画像(G E T画像と称することがある)が表示されるよう構成されている。

【1296】

その後、第3停止まで停止操作が行われた状況において、再び電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する。その後、電源断復帰後も、押し順ナビ画像およびG E T画像は表示されない。なお、このときナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声はいずれも出力されない。

【1297】

このように構成することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に第3停止後は新たな停止操作を要しないため、押し順ナビ画像を再現しないことで、新たに停止操作を行う必要がないことを効果的に理解させることができる。

【1298】

また、第3停止操作まで正解態様で行われ、その後再び電源断が発生した場合に、電源断復帰後の所定のナビタイミングで、「1」～「3」の押し順ナビ画像がすべて成功態様で再び表示されるよう構成してもよい。なお、このときナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。

【1299】

このように構成することで、停止操作がすべて正解態様で行われたことを明確にすることができる。

【1300】

なお、2回目の電源断が払出処理の実行前であれば電源断復帰後の所定のナビタイミングで「1」の押し順ナビ画像は表示されない、または成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるよう構成し、2回目の電源断が払出処理の実行後であれば電源断復帰後の所定のナビタイミングで押し順ナビ画像が表示されないといったように、電源断前の状況が払出処理の実行の前であるか後であるかによって電源断復帰後の表示内容が異なるよう構成してもよい。

【1301】

<レア役ナビ画像に関する説明>

また、本実施形態では、チェリー役やスイカ役といったいわゆるレア役に当選した遊技において、レア役に当選した可能性があることを示すナビ画像(レア役ナビ画像と称することがある)として「!!!」を表示し得るよう構成されている。なお、レア役ナビ画像のナビ背景画像と押し順ナビ画像のナビ背景画像とは表示態様が同一または略同一となっている。すなわち、押し順ナビ画像とレア役ナビ画像とは、「数字」と「!」が相違しているが類似した画像であるよう構成されている。また、レア役ナビ画像は、いずれかのレア役に当選した場合にのみ表示され得るよう構成してもよいし、所定の特典(例えば、A Tの初当たり、A Tの上乗せ、チャンスゾーンへの移行等)が付与されることが決定されている場合に、所定の特典が付与される可能性を示唆する演出として、内部抽せんの結果がハズレや再遊技となった遊技においても表示され得るよう構成してもよい。

【1302】

また、レア役ナビ画像は押し順による有利不利がないため、一の遊技において常に同じ大きさで表示される(押し順ナビ画像のように通常態様と強調態様とで大きさが異ならない)よう構成されている。

【1303】

また、レア役ナビ画像が表示された遊技において、第3停止操作が行われるまでのいずれかのタイミング(スタートスイッチ12が操作されたタイミング、第1停止操作が行われたタイミング、第2停止操作が行われたタイミング、第3停止操作が行われたタイミング等)で電源断が発生し、液晶の表示はすべて終了する(電源が投入されていない状態)

10

20

30

40

50

。その後、電源断復帰後の所定のナビタイミングでレア役ナビ画像が再び表示されるよう構成されている。なお、何れのタイミングで電源断が発生しても、電源復帰時に再び表示されるレア役ナビ画像は「!!!」のようにスタートスイッチ１２操作後の表示態様で表示される。

【１３０４】

このように構成することで遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特にレア役に当選しているかもしれないという期待感を維持させることができる。また、レア役を取りこぼしてしまうことを防止できる。

【１３０５】

また、レア役ナビ画像が表示された遊技において、第３停止操作が行われるまでのいずれかのタイミング（スタートスイッチ１２が操作されたタイミング、第１停止操作が行われたタイミング、第２停止操作が行われたタイミング、第３停止操作が行われたタイミング等）で電源断が発生した場合には、電源断復帰後に、レア役ナビ画像は再び表示されないよう構成してもよい。

【１３０６】

このように構成することで、押し順ナビ画像とレア役ナビ画像とを遊技者が混同しないようにできる。

【１３０７】

なお、レア役ナビ画像は、停止操作に対応して一つずつ表示を終了するよう構成してもよいし、第１停止操作が行われたタイミングですべてのレア役ナビ画像の表示をするよう構成してもよい。また、停止操作ごとに一つずつレア役ナビ画像の表示を終了するように構成した場合に、いずれのストップスイッチ１３が操作されたかに拘わらず左側のレア役ナビ画像、真ん中のレア役ナビ画像、右側のレア役ナビ画像の順に停止祖操作に対応して表示を終了するよう構成してもよいし、停止操作が行われたストップスイッチ１３に対応した位置のレア役ナビ画像を停止祖操作に対応して表示を終了するよう構成してもよい。

【１３０８】

<押し順ナビ画像の表示とエラーに関する構成>

次に、押し順ナビ画像の表示中に所定のエラー（メダル滞留エラー、メダル逆流エラー、ホッパエンptyエラー等）が発生し、その後当該所定のエラーが解除されたあとの押し順ナビ画像の表示について、ＡＴ中に入賞・Ａ１条件装置に当選し、正解押し順の「左中右」に対応した「１２３」の押し順ナビ画像が液晶に表示され、所定のエラーとしてホッパエンptyエラーが発生した場合を例に説明する。なお、以下で説明する押し順ナビ画像の表示と所定のエラーに関する構成については、所定のエラーの発生タイミングや押し順ナビ画像の態様が異なっている場合にも適宜組み合わせで適用可能である。また、上述した、<押し順ナビ画像の表示と電源断に関する構成>と適宜組み合わせで適用可能である。

【１３０９】

（１）第１停止操作が正解態様で行われ、その後第２停止操作前に所定のエラーが発生した場合

まず、図９８に示す通り、スタートスイッチ１２が操作されると、「１２３」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「１」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第１停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「２」および「３」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第１停止操作に対応した「左だ」のナビ音声が出力される。なお、このとき「１」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「２」および「３」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【１３１０】

その後、第１停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール８aに対応したストップスイッチが操作されると、「１」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「２」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「３」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示

10

20

30

40

50

される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカーSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

【1311】

その後、未だ第2停止操作が行われていない状況において、ホップエンプティエラーが発生し、押し順ナビ画像の表示は視認できないようになり（表示を終了することで視認できないようにしてもよいし、エラーに関する画像を液晶の前面に表示することで視認できないようにしてもよい）、ホップエンプティエラーに関する画像が表示される。

【1312】

その後、ホップエンプティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示は終了し、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。なお、このときナビ表示音、成功音、および第2停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。また、このときホップエンプティエラーの発生前と同様に、「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。また、このとき、「1」の成功態様の押し順ナビ画像は、ホップエンプティエラーの発生前において表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、電源断復帰時に再び表示されるよう構成されている。

【1313】

その後、「1」の成功態様の押し順ナビ画像は、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1314】

このように、第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作前に所定のエラーが発生した場合には、その後所定のエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示されるよう構成されている。このように構成することで、AT中に所定のエラーが発生しても、所定のエラーの発生前のストップスイッチの操作態様を正確に表示でき、遊技者の押し順ミスを防止することができる。さらに、成功態様の押し順ナビ画像も再び表示するので、所定のエラーの発生前のストップスイッチの操作態様が正解態様であったことも遊技者に認識させることができる。

【1315】

また、第1停止操作が正解態様で行われ、その後第2停止操作前にホップエンプティエラーが発生した場合には、その後ホップエンプティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示されるよう構成してもよい。

【1316】

このように構成することで、遊技者は現在行うべき停止操作に集中することができる。

【1317】

なお、図98に示す押し順ナビ画像の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」の表示態様と、図96および図97に示す押し順ナビ画像の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」とは、デザイン（絵柄、数字のフォント、色彩等）が異なるよう構成されている。このように、押し順ナビ画像のデザインは遊技状況に応じて適宜変更し得るよう構成してもよい。例えば、ATの上乗せに関する期待度が通常状態である場合には図96および図97に示すデザインで押し順ナビ画像を表示し、高確率状態である場合には図98に示す

10

20

30

40

50

デザインで押し順ナビを表示するよう構成してもよい。この他にも、AT中の演出傾向に関する演出モードを選択可能とし、所定の演出モードに設定されている場合には図96および図97に示すデザインで押し順ナビ画像を表示し、特定の演出モードに設定されている場合には図98に示すデザインで押し順ナビを表示するよう構成してもよい。

【1318】

このように構成することで、遊技者は押し順ナビ画像のデザインによって視覚的に現在の遊技状況を把握することができる。

【1319】

(2) 第2停止操作まで正解態様で行われ、その後第3停止操作前に所定のエラーが発生した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声が出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【1320】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作されると、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカーSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

【1321】

その後、第2停止操作が正解態様で行われる（すなわち中リール8bに対応したストップスイッチが操作されると、「2」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像が強調態様で表示される。また、第3停止に対応した「右だ」のナビ音声スピーカーSから出力される。なお、このとき「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、両者の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」は略同じ大きさで表示されることとなる。

【1322】

その後、未だ第3停止操作が行われていない状況において、ホッパエンptyエラーが発生し、押し順ナビ画像の表示は視認できないようになり（表示を終了することで視認できないようにしてもよいし、エラーに関する画像を液晶の前面に表示することで視認できないようにしてもよい）、ホッパエンptyエラーに関する画像が表示される。その後、ホッパエンptyエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホッパエンptyエラーに関する画像の表示は終了し、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示される。なお、このときナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。また、このときホッパエンptyエラーの発生前と同様に、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、両者の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」は略同じ大きさで表示されることとなる。また、このとき、「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、電源断前において表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、電源断復帰時に再び表示されるよう構成されている。

【1323】

その後、「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、再び表示されてから所定時間（例えば

10

20

30

40

50

0.5秒)が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1324】

このように、第1停止操作および第2停止操作が正解態様で行われ、その後第3停止操作前に所定のエラーが発生した場合には、その後所定のエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるよう構成されている。このように構成することで、AT中に所定のエラーが発生しても、所定のエラーの発生前のストップスイッチの操作態様を正確に表示でき、遊技者の押し順ミスを防止することができる。特に第1停止操作に対応した押し順ナビ画像は再現しないため、第3停止に集中させることができる。

10

【1325】

また、第1停止操作および第2停止操作が正解態様で行われ、その後第3停止操作前にホップエンptyエラーが発生した場合には、その後ホップエンptyエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンptyエラーに関する画像の表示を終了し、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像は成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるよう構成してもよい。

【1326】

なお、このときもナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。

20

【1327】

また、このとき、「1」および「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」はすべて略同じ大きさで表示されることとなる。また、このとき、「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、ホップエンptyエラーの発生前において表示が開始されてから所定時間(例えば0.5秒)が経過したことによって表示を終了していた場合でも、ホップエンptyエラーが解除されると再び表示されるよう構成されている。なお、「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は、再び表示されてから所定時間(例えば0.5秒)が経過すると表示を終了するよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了するよう構成してもよい。すなわち、ホップエンptyエラーの発生前は停止操作ごとに押し順ナビ画像の表示態様が切り替わるため「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は異なるタイミングで表示を終了するが、ホップエンptyエラーの解除後は「1」および「2」の成功態様の押し順ナビ画像は同じタイミングで表示を終了することとなる。

30

【1328】

このように構成することで、AT中に所定のエラーが発生しても、所定のエラー発生前のストップスイッチの操作態様を正確に表示でき、遊技者の押し順ミスを防止することができる。特に第1停止および第2停止に対応した押し順ナビ画像を成功態様で表示することで、残りは第3停止のみであること、および正解押し順で操作したことが明確にすることができる。

40

【1329】

また、第1停止操作および第2停止操作が正解態様で行われ、その後第3停止操作前にホップエンptyエラーが発生した場合には、その後ホップエンptyエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンptyエラーに関する画像の表示を終了し、「1」の押し順ナビ画像は表示されず、「2」の押し順ナビ画像は表示されず、「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示されるよう構成してもよい。なお、このときもナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。

このように構成することで、遊技者は現在行うべき停止操作に集中することができる。

50

【1330】

(3) 第3停止操作まで正解態様で行われ、その後所定のエラーが発生した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声が出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【1331】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作される）と、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

【1332】

その後、第2停止操作が正解態様で行われる（すなわち中リール8bに対応したストップスイッチが操作される）と、「2」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像が強調態様で表示される。また、第3停止に対応した「右だ」のナビ音声スピーカSから出力される。なお、このとき「2」の押し順ナビ画像は成功態様で、「3」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、両者の「ナビ数字画像」および「ナビ背景画像」は略同じ大きさで表示されることとなる。

【1333】

その後、第3停止操作が行われる（すなわち最終停止操作とした右リール8cに対応したストップスイッチが操作される）と、「3」の押し順ナビ画像が成功態様で表示される。また、このとき正解態様ですべての停止操作が行われたこととなるためGET画像が表示されるよう構成されている。

【1334】

その後、ホップエンプティエラーが発生し、ホップエンプティエラーに関する画像が表示される。その後、ホップエンプティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示は終了し、「1」と「2」と「3」の押し順ナビ画像が成功態様で再び表示される。なお、このときナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。また、このとき、「1」と「2」と「3」の成功態様の押し順ナビ画像は、ホップエンプティエラーの発生前においてそれぞれ表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、ホップエンプティエラーの解除後に再び表示されるよう構成されている。なお、このときGET画像は再び表示するよう構成してもよいし、表示されないよう構成してもよい。

【1335】

その後、「1」と「2」と「3」の成功態様の押し順ナビ画像は、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1336】

このように構成することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に所定のエラーの解除後に、すべての押し順ナビ画像を成功態様で再現することで、すべての停止操作が正解態様で行われたことを明確にすることができる。

10

20

30

40

50

【1337】

また、第3停止操作（最終停止操作）まで正解態様で行われ、その後ホッパエンブティエラーが発生した場合には、その後ホッパエンブティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホッパエンブティエラーに関する画像の表示を終了し、「1」および「2」の押し順ナビ画像は表示されず、「3」の押し順ナビ画像は成功態様で表示されるよう構成してもよい。なお、このときもナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。また、このとき、「3」の成功態様の押し順ナビ画像は、ホッパエンブティエラーの発生前において表示が開始されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過したことによって表示を終了していた場合でも、ホッパエンブティエラーの解除後に再び表示されるよう構成され、再び表示されてから所定時間（例えば0.5秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

10

このように構成することで、所定のエラーが発生する直前の停止操作として第3停止操作が行われていたこと、および第3停止操作が正解態様で行われたことを明確にすることができる。

【1338】

また、第3停止操作（最終停止操作）まで正解態様で行われ、その後ホッパエンブティエラーが発生した場合には、その後ホッパエンブティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホッパエンブティエラーに関する画像の表示を終了し、「1」～「3」のいずれの押し順ナビ画像も表示されないよう構成してもよい。なお、このときもナビ表示音、成功音、および第3停止操作に対応したナビ音声は少なくともいずれかが再び出力されるよう構成してもよいし、いずれも出力されないよう構成してもよい。

20

このように構成することで、遊技者はすでに最終停止操作まで終えたことを認識することができる。

【1339】

なお、所定のエラーの発生が払出処理の実行前であれば所定のエラーの解除後の所定のナビタイミングで「1」～「3」の押し順ナビ画像は成功態様で表示されるよう構成し、所定のエラーの発生が払出処理の実行後であれば所定のエラーの解除後の所定のナビタイミングで「1」～「3」のいずれの押し順ナビ画像も表示されないといったように、所定のエラーの発生前の状況が払出処理の実行の前であるか後であるかによって所定のエラーの解除後の表示内容が異なるよう構成してもよい。

30

【1340】

（4）第1停止操作が不正解態様で行われ、その後第2停止操作前に所定のエラーが発生した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声が出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

40

【1341】

その後、第1停止操作が不正解態様で行われる（例えば中リール8bに対応したストップスイッチが操作される）と、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示され、失敗態様で表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過するとすべての押し順ナビ画像の表示を終了する。また、押し順を間違えたことを示す「何やってんだ」の音声スピーカーSから出力される。

【1342】

その後、未だ第2停止操作が行われていない状況において、ホッパエンブティエラーが

50

発生し、ホップエンプティエラーに関する画像が表示される。その後、ホップエンプティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示される。なお、このとき押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。なお、失敗態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1343】

このように、ホップエンプティエラーの発生前に不正解態様で停止操作がされていた場合にはホップエンプティエラーの解除後に押し順ナビ画像を失敗態様で再び表示することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に、仮にホップエンプティエラーの発生からホップエンプティエラーの解除までに数分かってしまっても、ホップエンプティエラーの解除後に失敗態様の押し順ナビ画像が表示されるので、AT中であるにもかかわらず払出しが無いまたは1枚など少ない払出しであることで遊技者が遊技機の故障だと誤認してしまうことを防止できる。

【1344】

また、ホップエンプティエラーの解除後の所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、すべての押し順ナビ画像が表示されないよう構成してもよい。このように、ホップエンプティエラーの解除後に再び失敗態様の押し順ナビ画像を表示しないことで、遊技者の期待感を下げることなく遊技に復帰できる。

【1345】

(5) 第1停止操作が正解態様で、第2停止操作が不正解態様で行われ、その後第3停止操作前に所定のエラーが発生した場合

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【1346】

その後、第1停止操作が正解態様で行われる（すなわち左リール8aに対応したストップスイッチが操作されると、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」の押し順ナビ画像が強調態様で表示され、「3」の押し順ナビ画像は通常態様のままで表示される。また、第2停止操作に対応した「中だ」のナビ音声スピーカーSから出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は成功態様で、「2」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示される「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示されることとなる。

【1347】

その後、第2停止操作が不正解態様で行われる（例えば右リール8cに対応したストップスイッチが操作されると、「2」および「3」の押し順ナビ画像が失敗態様で表示され、失敗態様で表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過するとすべての押し順ナビ画像の表示を終了する。また、押し順を間違えたことを示す「何やってんだ」の音声スピーカーSから出力される。

【1348】

その後、未だ第3停止操作が行われていない状況において、ホップエンプティエラーが発生し、ホップエンプティエラーに関する画像が表示される。その後、ホップエンプティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示される。なお、このとき押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。なお、失敗態様の押し順ナビ画像は、

10

20

30

40

50

電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると表示を終了されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1349】

このように、ホップエンプティエラーの発生前に不正解態様で停止操作がされていた場合にはホップエンプティエラーの解除後に押し順ナビ画像を失敗態様で再び表示することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に、仮にホップエンプティエラーの発生からホップエンプティエラーの解除までに数分かってしまっても、ホップエンプティエラーの解除後に失敗態様の押し順ナビ画像が表示されるので、AT中であるにもかかわらず払出しが無いまたは1枚など少ない払出しであることで遊技者が遊技機の故障だと誤認してしまうことを防止できる。

10

【1350】

また、ホップエンプティエラーの解除後の所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、「1」の押し順ナビ画像が成功態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像が失敗態様で表示されるよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に、いずれの停止操作で押し順ミスをしたかを明確にすることができる。

【1351】

また、ホップエンプティエラーの解除後の所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、「2」および「3」の押し順ナビ画像が失敗態様で表示されるよう構成してもよい。このように構成することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に、いずれの停止操作で押し順ミスをしたかを明確にすることができる。

20

【1352】

また、ホップエンプティエラーの解除後の所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、すべての押し順ナビ画像が表示されないよう構成してもよい。このように、ホップエンプティエラーの解除後に再び失敗態様の押し順ナビ画像を表示しないことで、遊技者の期待感を下げることなく遊技に復帰できる。

【1353】

（6）第1停止操作または第2停止操作が不正解態様で操作され、第3停止操作後に所定のエラーが発生した場合

30

まず、スタートスイッチ12が操作されると、「123」の押し順ナビ画像が液晶に表示される。ここで、「1」の押し順ナビ画像は最初に操作されるべきストップスイッチ（第1停止操作）に対応しているため、強調態様で表示され、「2」および「3」の押し順ナビ画像は通常態様で表示される。また、第1停止操作に対応した「左だ」のナビ音声が出力される。なお、このとき「1」の押し順ナビ画像は強調態様で表示されるため、通常態様で表示されている「2」および「3」の押し順ナビ画像よりも、「ナビ数字画像」と「ナビ背景画像」の少なくともいずれかが大きく表示される。

【1354】

その後、第1停止操作または第2停止操作が不正解態様で行われると、押し順を失敗したタイミングで表示されている押し順ナビ画像が失敗態様で表示され、失敗態様で表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると押し順ナビ画像の表示を終了する。また、押し順を間違えたことを示す「何やってんだ」の音声スピーカーSから出力される。

40

【1355】

その後、第3停止操作が行われたあとにホップエンプティエラーが発生し、ホップエンプティエラーに関する画像が表示される。その後、ホップエンプティエラーが解除されたあとの所定のナビタイミングで、ホップエンプティエラーに関する画像の表示を終了し、すべての押し順ナビ画像が失敗態様で表示される。なお、このとき押し順を間違えたことを示す失敗音は出力されない。なお、失敗態様の押し順ナビ画像は、電源断復帰後に再び表示されると、再び表示されてから所定時間（例えば0.3秒）が経過すると表示を終了

50

されるよう構成してもよいし、再び表示されてから所定時間が経過する前であっても即座に表示を終了されるよう構成してもよい。

【1356】

このように、ホッパエンptyエラーの発生前に不正解態様で停止操作がされていた場合にはホッパエンptyエラーの解除後に押し順ナビ画像を失敗態様で再び表示することで、遊技者に遊技状況を円滑に理解させることができる。特に、仮にホッパエンptyエラーの発生からホッパエンptyエラーの解除までに数分かかってしまっても、ホッパエンptyエラーの解除後に失敗態様の押し順ナビ画像が表示されるので、AT中であるにもかかわらず払出しが無いまたは1枚など少ない払出しであることで遊技者が遊技機の故障だと誤認してしまうことを防止できる。

10

【1357】

また、ホッパエンptyエラーの解除後の所定のナビタイミングで、ホッパエンptyエラーに関する画像の表示を終了し、すべての押し順ナビ画像が表示されないよう構成してもよい。このように、ホッパエンptyエラーの解除後に再び失敗態様の押し順ナビ画像を表示しないことで、遊技者の期待感を下げることなく遊技に復帰できる。

【1358】

＜押し順ナビ画像の表示とリール停止警告画像に関する構成＞

また、内部抽せんの結果として押し順ベルに当選し、押し順ナビ画像が表示される遊技において、リールの回転開始（もしくは、第1停止操作または第2停止操作）から停止操作がされないまま所定時間（3分間）が経過したことにより前述したリール停止警告画像（停止促進画像とも称する）が表示され、その後リール停止警告画像と押し順ナビ画像とが同時期に表示されている状況において、電源断が発生し、その後電源断復帰後の所定のナビタイミングで、押し順ナビ画像は再び表示されるが、リール停止警告画像は再び表示されないよう構成してもよい。このように構成することで、遊技中の電源断という不測の事態が発生した場合でも遊技者は押し順ナビ画像に集中することができるため、押し順ミスを防止することができる。なお、このときの押し順ナビ画像の表示態様については、前述した＜押し順ナビ画像の表示と電源断に関する構成＞を適宜適用可能である。

20

【1359】

＜本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞ランプ演出の説明＞

次に、本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞演出の関係について説明する。

30

【1360】

以下に記載する本実施形態に適用可能な演出においては、押し順役などの小役入賞に基づく入賞ランプ演出や、再遊技役などのリプレイ入賞に基づく入賞ランプ演出を実行することで入賞したことを適切に遊技者に認識させることを目的とする。

また、入賞後にホッパエンptyエラーが発生したとしても、その発生前に当該遊技の結果等を遊技者に認識させることを目的とする。

【1361】

本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞ランプ演出に関連する構成に関して以下に説明する。

40

【1362】

＜入賞LEDランプ＞

フロントパネルPS2に設けられた演出ランプ（LEDランプ）の一部（図示せず）であり、入賞時に点灯、点滅など発光するランプである。また、扉開放エラーや、ホッパエンptyエラーなどのエラー発生時に点灯、点滅など発光するランプである。

【1363】

＜主制御手段＞

主制御手段が有する主な処理は本実施形態、本実施形態に適用可能な入賞演出、精算演出と投入演出の説明及び、本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞演出等に記載した通りであるが、本実施形態の記載では省略した処理の詳細について以下に説

50

明する。

【1364】

<押し順役>

役抽選（内部抽せん）で当選可能な役であり、当選した押し順役に対応する図柄組合せが有効ライン上に停止表示され、入賞判定処理により入賞と判定したときに、停止表示した図柄組合せに基づきメダルの払い出しを行う役である。押し順役には停止表示可能な図柄組合せとして、正解押し順で操作した場合に停止表示する正解図柄組合せと、正解押し順で操作しなかった場合に停止表示する不正解図柄組合せとがある。正解図柄組合せは有効ラインに例えば、ベルーベルーベルなど主に黄色で構成されるベル図柄が停止表示する図柄組合せであり、12枚の払い出しが行われる。不正解図柄組合せは有効ラインに例えば

10

【1365】

<チェリー役>

役抽選（内部抽せん）で当選可能な役であり、当選したチェリー役に対応する図柄組合せが有効ライン上に停止表示され、入賞判定処理により入賞と判定したときに、停止表示した図柄組合せに基づきメダルの払い出しを行う役である。チェリー役に対応する図柄組合せは有効ラインに例えば、チェリーーチェリーーチェリーーなど主に赤色で構成されるチェリー図柄が停止表示する図柄組合せであり、1枚の払い出しが行われる。

【1366】

20

<リプレイ役>

役抽選（内部抽せん）で当選可能な役であり、当選したリプレイ役に対応する図柄組合せが有効ライン上に停止表示され、入賞判定処理により入賞と判定したときに、停止表示した図柄組合せに基づき再遊技を付与する役である。リプレイ役に対応する図柄組合せは有効ラインに例えば、リプレーーリプレーーリプレイなど主に青色で構成されるリプレイ図柄が停止表示する図柄組合せである。

【1367】

<入賞処理（払出処理）>

入賞処理は、入賞判定処理により小役が入賞したと判定したときに、入賞した小役（停止表示した図柄組合せ）に応じて予め定められた遊技メダルを払い出す処理である。ここで遊技メダルを払い出すとは、クレジットの貯留が上限に達していなければクレジットに加算を行い、クレジットの貯留が上限に達している場合は、遊技メダルをホッパ44から払い出すことである。主制御手段は、入賞に基づく払い出し（クレジットの加算であっても、ホッパ44からの払い出しであっても）を開始する場合に払出開始コマンドを副制御手段に送信し、入賞に基づく払い出しを終了する際に払出終了コマンドを副制御手段に送信する。払出開始コマンド、払出終了コマンドに基づいて副制御手段は、遊技メダルの払出音の出力、バックランプ演出（BL演出とも称す）、入賞ランプ演出の実行などの入賞演出が実行可能となっている。なお払出開始コマンドは払い出す遊技メダルの枚数情報を含んで構成され、払出開始コマンド及び、払出終了コマンドは払い出しがない場合（ハズレ時、再遊技入賞時）にも送信される。ハズレ時、リプレイ役入賞時は払い出す遊技メダルの枚数情報を0枚として送信し、続いて払出終了コマンドを送信する。リプレイ役入賞時も払出開始コマンド、払出終了コマンドに基づいて副制御手段ではリプレイ役の入賞音の出力やバックランプ演出など入賞演出が実行可能となっている。

30

【1368】

<自動投入処理>

自動投入処理（自動ベット処理）は、入賞判定処理によりリプレイ役が入賞したと判定したときに、実行される処理である。自動投入処理では、リプレイ役が入賞した遊技の賭け枚数と同じ枚数分の賭け数を遊技メダルを投入することなく自動で賭け設定を行う。主制御手段（主制御基板100）は自動投入処理が実行された場合に賭け設定（投入）された枚数に応じた自動投入コマンドを副制御手段へ送信する。なお、本実施形態では副制御

40

50

手段は自動投入コマンドに基づいて投入演出を（投入音の出力）実行しないが、メダル投入コマンドや貯留投入コマンドを受信した際と同様に投入音の出力などの投入演出を実行してもよい。

【1369】

また、自動投入処理後であっても、遊技メダルが賭け設定されている、又はクレジットに貯留されている状態で遊技を開始する前（必要な賭け枚数を設定後であってスタートレバーを操作する前）と同様に精算スイッチが操作されると精算処理が可能となっている。ただし、自動投入処理後の精算処理では、賭け設定されているベット数は払い出さずにクレジットの貯留数に対応する数の遊技メダルをホッパ44から遊技者に払い出す（精算）処理を実行する。

10

【1370】

<副制御手段>

遊技の進行状況に応じて各種の演出が実行可能であり、本実施形態に適用可能な入賞演出、精算演出と投入演出の説明及び、本実施形態に適用可能なホッパ44に関するエラーと入賞演出等に記載した演出等を実行する。本実施形態では加えて、入賞ランプ演出を実行する。

【1371】

<入賞演出>

遊技メダルの払出が行われる際に実行される演出、または、リプレイ役に対応する図柄が入賞（表示）した際に実行される演出であり、払出開始コマンド、払出終了コマンド等に基づいて実行される。遊技メダルが払い出される際には、遊技メダルが払い出されていることを示す払出音の出力、バックランプ演出、入賞ランプ演出が実行される。リプレイ役に対応する図柄が入賞した際には、再遊技が入賞したことを示す入賞音の出力、バックランプ演出、入賞ランプ演出が実行される。なお、役抽選（内部抽せん）で押し順役が当選し、有効ライン上に不正解図柄組合せが停止表示した場合には入賞演出が実行されないようにすることもできる。

20

【1372】

<払出音の出力>

遊技メダルの払出処理の実行中に出力される遊技メダルの払出音は互いに異なる払出音Aと払出音Cとがある。払出音Aは通常時（非AT中）に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、有利な払い出し（12枚の遊技メダルの払出）が行われる際に出力される払出音である。払出音Cは通常時（非AT中）にチェリー役が当選し、チェリー役に対応する図柄組合せが停止し、払い出し（1枚の遊技メダルの払い出し）が行われる際に出力される払出音である。

30

【1373】

払出音Aは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第1の音（例えばズという音）の出力を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第1特定時間（例えば1秒）の間、第1の音の出力を繰り返して終了する払出音である。払出音Aは実際の払い出しが行われている期間（払出処理が行われる期間であり例えば約1.2秒）より長い第1の払出音期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第1特定時間を加算した期間）に亘って音の出力を行うことで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくすることができる。また、払出音の出力を払い出しが行われている期間より長い所定の払出音期間に亘って出力することで、払出音の出力が行われている期間は払い出しが行われているように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待できる結果、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。

40

【1374】

払出音Cは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第3の音（例えばザという音）の出力を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第4特定時間（例えば1.5秒）の間所定の音の出力を繰り返して終了する払出音で

50

ある。すなわち、払出音Cは実際の払い出しが行われている期間（例えば約0.2秒）より長い第3の払出音期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第4特定時間を加算した期間）に亘って音の出力を行っており、この第3の払出音期間は、払い出す遊技メダル数が少ない分払出音Aの第1の払出音期間よりも短い。このように、払出音Cは、払出音Aより短い期間であるが、払い出しが行われている期間より長い期間に亘って払出音の出力を行うことで、少ない枚数であるが、遊技者が聞き漏らさないようにすることができ、遊技メダルが付与されたことを認識できる。

払出音の出力は、賭け設定（メダル投入コマンド、貯留投入コマンドの受信）ではキャンセル（終了）しないが、遊技開始操作（スタートスイッチ受付コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。

【1375】

なお、払出開始コマンドを受信してから払出音の出力を開始し、払出終了コマンドを受信してから定められた時間経過まで払出音を出力したが、払出開始コマンドを受信したら、払出終了コマンドを契機にすることなく、払い出し開始から払い出し終了するまでにかかる時間（クレジットの加算と遊技メダルの払い出しで比べ長い方）に第1特定時間や第4特定時間を加えた予め定めた時間だけ払出音の出力を行うようにしてもよい。

また、払出音Aと払出音Cとで払出音を異なるようにしたが、同じ払出音を出力するようにしてもよい。

【1376】

<入賞音の出力>

リプレイ役入賞時に出力される入賞音として入賞音Aがある。入賞音Aは払出開始コマンドを受信したときに開始し、第4の音（例えばジという音）を第5特定時間（例えば0.5秒）経過するまで出力する入賞音である。入賞音を一定時間出力するようにすることで、遊技者が聞き漏らさないようにすることができ、リプレイ役が入賞したことを認識できる。

入賞音の出力は払出終了コマンド、賭け設定（自動投入コマンドの受信）ではキャンセル（終了）しないが、遊技開始操作（スタートスイッチ受付コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。なお、入賞音Aの出力時間は、自動投入が行われるまえに終了するように構成されてもよいし、遊技開始操作が可能となるまでに終了するように構成されていてもよい。

【1377】

<バックランプ演出>

バックランプ演出には、互い異なるバックランプ演出Aとバックランプ演出Cとバックランプ演出Dとがある。バックランプ演出Aは通常時（非AT中）に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、12枚の払い出しが行われる際に出力（実行）されるバックランプ演出である。バックランプ演出Cは通常時（非AT中）にチェリー役が当選し、チェリー役に対応する図柄組合せが停止し、1枚の払い出しが行われる際に出力（実行）されるバックランプ演出である。バックランプ演出Dは通常時（非AT中）にリプレイ役が当選し、リプレイ役に対応する図柄組合せが停止した際に出力（実行）されるバックランプ演出である。

【1378】

バックランプ演出Aは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第1のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第1特定時間（例えば1秒）に亘って第1のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。バックランプ演出Aは実際の払い出しが行われている期間（例えば約1.2秒）より長い第1のバックランプ演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第1特定時間を加算した期間）に亘って実行することで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくすることができる。また、バックランプ演出Aの実行（出力）を払い出しが行われている期間より長い第1のバックランプ演出期間実行（出力）することで、バックランプ演出Aが実行されている期間は払い出しが行われ

10

20

30

40

50

ているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。なお、バックランプ演出Aは、賭け設定（メダル投入コマンド、貯留投入コマンドの受信）でキャンセル（終了）する。

【1379】

バックランプ演出Cは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで第3のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返し、払出終了コマンドを受信するとその後、第1特定時間（例えば1秒）に亘って第3のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。バックランプ演出Cは実際の払い出しが行われている期間（例えば約0.2秒）より長い第3のバックランプ演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第1特定時間を加算した期間）に亘って実行することで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくなることができる。また、バックランプ演出Cの実行（出力）を払い出しが行われている期間より長い第3のバックランプ演出期間実行（出力）することで、バックランプ演出Cが実行されている期間は払い出しが行われているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。なお、バックランプ演出Cは、バックランプ演出Aと同様に、賭け設定（メダル投入コマンド、貯留投入コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。

【1380】

バックランプ演出Dは払出開始コマンドを受信したときに開始し、第1特定時間（例えば1秒）に亘って第4のパターンでバックランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。バックランプ演出Dは第4のバックランプ演出期間（上記第1特定時間と同じ期間）に亘って実行することで、遊技者にリプレイ役が入賞したことを認識しやすくなることができる。また、バックランプ演出Dの実行（出力）を第4のバックランプ演出期間実行（出力）することで、バックランプ演出Dが実行されている期間はリプレイ役に基づく処理が行われているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。なお、バックランプ演出Dは、賭け設定（自動投入コマンド）ではキャンセル（終了）しないが、遊技開始操作（スタートスイッチ受付コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。

【1381】

<入賞ランプ演出>

入賞ランプ演出には、互い異なる入賞ランプ演出Aと入賞ランプ演出Cと入賞ランプ演出Dとがある。入賞ランプ演出Aは通常時（非AT中）に押し順役が当選し、正解押し順で操作した結果、正解図柄組合せが停止し、12枚の払い出しが行われる際に出力（実行）される入賞ランプ演出である。入賞ランプ演出Cは通常時（非AT中）にチェリー役が当選し、チェリー役に対応する図柄組合せが停止し、1枚の払い出しが行われる際に出力（実行）される入賞ランプ演出である。入賞ランプ演出Dは通常時（非AT中）にリプレイ役が当選し、リプレイ役に対応する図柄組合せが停止した際に出力（実行）される入賞ランプ演出である。

【1382】

入賞ランプ演出Aは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで黄色で入賞LEDランプの点灯、消灯を繰り返し（第5のパターン）、払出終了コマンドを受信するとその後、第1特定時間（例えば1秒）に亘って第5のパターンで入賞LEDランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。入賞ランプ演出Aは実際の払い出しが行われている期間（例えば約1.5秒）より長い第1の入賞ランプ演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第1特定時間を加算した期間）に亘って実行することで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくなることができる。また、入賞ランプ演出Aの実行（出力）を払い出しが行われている期間より長い第1の入賞ランプ演

出期間実行（出力）することで、入賞ランプ演出Aが実行されている期間は払い出しが行われているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。なお、入賞ランプ演出Aは、賭け設定（メダル投入コマンド、貯留投入コマンドの受信）ではキャンセル（終了）しないが、遊技開始操作（スタートスイッチ受付コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。

【1383】

入賞ランプ演出Cは払出開始コマンドを受信したときに開始し、払出終了コマンドを受信するまで赤色で入賞LEDランプの点灯、消灯を繰り返す（第6のパターン）、払出終了コマンドを受信するとその後、第6特定時間（例えば2.3秒）に亘って第6のパターンで入賞LEDランプの点灯、消灯を繰り返して終了する。入賞ランプ演出Cは実際の払い出しが行われている期間（例えば約0.2秒）より長い第3の入賞ランプ演出期間（実際の払い出しが行われている期間に上記第6特定時間を加算した期間であり、第1の入賞ランプ演出期間と同じ長さ）に亘って実行することで、遊技者に払い出しが行われていることを認識しやすくなることができる。また、入賞ランプ演出Cの実行（出力）を払い出しが行われている期間より長い第3の入賞ランプ演出期間実行（出力）することで、入賞ランプ演出Cが実行されている期間は払い出しが行われているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。なお、入賞ランプ演出Cは、賭け設定（メダル投入コマンド、貯留投入コマンドの受信）ではキャンセル（終了）しないが、遊技開始操作（スタートスイッチ受付コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。

【1384】

入賞ランプ演出Dは払出開始コマンドを受信したときに開始し、第7特定時間（例えば2.5秒）に亘って青色で入賞LEDランプの点灯、消灯を繰り返して終了する（第7のパターン）。入賞ランプ演出Dは第4の入賞ランプ演出期間（上記第7特定時間と同じ期間であり、第1の入賞ランプ演出期間と同じ長さ）に亘って実行することで、遊技者にリプレイ役が入賞したことを認識しやすくなることができる。また、入賞ランプ演出Dの実行（出力）を第4の入賞ランプ演出期間実行（出力）することで入賞ランプ演出Dが実行されている期間はリプレイ役に基づく処理が行われているかのように遊技者に認識させ、次遊技の開始時期を遅らせることが期待でき、さらに、内部抽せんの結果に応じた演出などが一定時間をかけて行われている場合などに途中でキャンセルされずに実行されやすくなる。なお、入賞ランプ演出Dは、賭け設定（自動投入コマンド）ではキャンセル（終了）しないが、遊技開始操作（スタートスイッチ受付コマンドの受信）ではキャンセル（終了）する。

【1385】

入賞ランプ演出A、C、Dは、入賞LEDランプの点灯する際の色が異なるが、点灯、点滅するパターン及び、実行される期間の長さが同一となるように構成される。色のみ異なる態様とすることで、入賞ランプ演出が役の入賞に起因した演出であることを認識し易くなる。また実行する期間の長さを入賞ランプ演出Aの長さと同じとすることで、チェリー役やリプレイ役入賞時は、押し順役の正解図柄組合せが停止表示した場合に比べて早い時期に次の遊技が開始可能となるが、入賞ランプ演出が実行されているため、入賞ランプ演出が終了するまで次の遊技の開始を遅らせることが期待できる。

【1386】

なお、入賞ランプ演出A、Cは払出終了コマンドを受信してから第1特定時間や第6特定時間経過まで入賞ランプ演出を実行したが、払出開始コマンドを受信したら、払出終了コマンドを契機にすることなく、払い出し開始から払い出し終了するまでにかかる時間（クレジットの加算と遊技メダルの払い出しで比べ長い方）に第1特定時間や第6特定時間を加えた予め定めた時間だけ入賞ランプ演出を実行するようにしてもよい。

また、入賞ランプ演出A、C、Dの「第1の入賞ランプ演出期間」、「第3の入賞ラン

ブ演出期間」、「第4の入賞ランプ演出期間」を払出音Aの「第1の払出音期間」を同一の期間としたが、「第1の入賞ランプ演出期間」、「第3の入賞ランプ演出期間」、「第4の入賞ランプ演出期間」を「第1の払出音期間」と異なる期間としてもよい。「第1の入賞ランプ演出期間」、「第3の入賞ランプ演出期間」、「第4の入賞ランプ演出期間」は同じ期間であることが好ましく、また、1回の遊技で払い出し可能な最大遊技メダル数を払い出すのみ必要な時間以上の長さとしてもよい。

【1387】

＜エラー報知＞

エラー報知は、ホッパ44に関するエラー、ドア開放エラーなどのエラーが発生した場合に、主制御手段では獲得枚数表示器27でエラーコードを表示する他に、副制御手段では、液晶（表示装置）、スピーカS、入賞LEDランプでエラーが発生した旨を報知する。入賞LEDランプはエラーが発生した旨を報知している期間に赤色で入賞LEDランプの点灯を行う。入賞LEDランプは、チェリー役の入賞時にも赤色で点灯するが、エラー報知時は赤色での点灯を継続する態様とすることでチェリー役が入賞した時とパターンを異ならせ、エラーの発生を報知しているものなのか入賞を報知しているものなのか判別が可能となっている。

【1388】

＜精算演出＞

遊技メダルの精算が行われる際に実行される演出であり、遊技メダルが払い出されていることを示す精算音（精算演出）の出力と精算が終了した旨の音声の出力が行われる。精算演出では、入賞LEDランプ、バックランプを用いた演出が実行されないため、払い出しが行われても小役やリプレイ役の入賞に基づく演出と異なるものであることが容易に認識できる。

【1389】

以下図99～図108を参照しながら遊技の進行状況に応じて実行される各種演出を説明する。図99は、押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合のタイムチャートであり、図100は、押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合のタイムチャートであり、図101は、チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合のタイムチャートであり、図102は、チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合のタイムチャートであり、図103は、リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合のタイムチャートであり、図104は、リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合のタイムチャートであり、図105は、押し順役の入賞に基づく払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合のタイムチャートであり、図106は、リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合のタイムチャートであり、図107は、チェリー役の入賞後に正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパエンptyエラー発生時）のタイムチャートであり、図108は、チェリー役の入賞後に正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパ滞留エラー発生時）のタイムチャートである。

【1390】

なお、図99～図108では説明の便宜上ONとOFFを用いて記載しているが、対応する処理や演出の状況は括弧内に記載する。具体的には、払出処理／精算処理／入賞ランプ演出（入賞LEDランプ）／BL演出／精算演出／エラー報知（入賞LEDランプ）は、ONは実行している状態を示し、OFFは実行していない状態を示し、OFFからONとなると処理等を開始し、ONからOFFとなると終了することを意味する。払出のONは遊技メダルが1枚払い出されたことを示し、OFFは遊技メダルが払い出されていないことを示す。払出音／投入音／入賞音は、ONは出力している状態を示し、OFFは出力していない状態を示す。MAXベットランプ／メダル投入可ランプは、ONは点灯している状態を示し、OFFは消灯している状態を示す。MAXベットスイッチ操作／精算スイ

10

20

30

40

50

タッチ操作は、ONが操作されたことを示し、OFFは操作されていないことを示す。メダル投入は、ONは投入された遊技メダルがメダルセクタ34を正常に通過したことを（メダルセクタ34に備えられた投入センサが遊技メダルを検知）示し、OFFは遊技メダルが投入されていないことを示す。エラー（ホッパエンpty）、エラー（ホッパ滞留）のONは、エラーが発生している（エラーを検知し、エラーを設定した）状態を示し、OFFはエラーが発生していない状態を示す。エラー表示のONは、エラーが発生したことに基づき、主制御手段によるエラーコードの表示や、副制御手段によりエラー画面が表示されている状態を示し、OFFはエラーコードの表示やエラー画面の表示が行われていない状態を示す。

【1391】

先に説明した獲得表示演出、累積表示演出、結果告知演出、PUSH演出、コメント演出とも組合せ可能であり、図37～図47の時刻t0～t5、t17、t18と、図99～図108の時刻t0～t5、t17、t18は同じタイミングである。

【1392】

<押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合>

図99は、押し順役の入賞として、正解押し順で操作し正解図柄組合せが停止表示し、入賞した場合を示すものである。時刻t0のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて払出音A（図では払出音と記す、以下同じ。）の出力、入賞LEDランプでの入賞ランプ演出A（図では入賞ランプ演出と記す、以下同じ。）及びバックランプでのバックランプ演出A（図ではBL演出と記す、以下同じ。）を開始する。払出処理に係る時間は正常に実行された（本例では12枚の遊技メダルを正常に払出す）場合は1.5秒となっている。時刻t1のタイミングにて主制御手段は払出処理を終了し、副制御手段に払出終了コマンドを送信する。副制御手段は、払出終了コマンドに基づいて入賞演出として払出音Aの出力、入賞ランプ演出A、バックランプ演出AをT1期間（第1特定時間）の間継続させる。

【1393】

主制御手段は、時刻t1のタイミングにおいて払出処理が終了した後は、RT状態の更新等の処理（遊技終了チェック処理）を行い、ブロックをONとすることで遊技メダルを投入可能な状態とする。主制御手段は、時刻t2のタイミングでは遊技メダルが投入可能な状態となったことに基づいてMAXベットランプを点灯させる。MAXベットランプはMAXベットスイッチの操作が行われなかったため、点灯している状態を継続している。時刻t5のタイミングでは、時刻t1のタイミングからT1期間が経過したため、副制御手段は、払出音Aの出力、入賞ランプ演出A、及び、バックランプ演出Aを終了させる。すなわち、時刻t0からt5までの期間が、第1の払出音期間、第1のバックランプ演出期間、及び第1の入賞ランプ演出期間ともいえる。以上のように、時刻t1以降のタイミングでは払出音Aの出力、入賞ランプ演出Aやバックランプ演出Aを継続しつつ、MAXベットランプを点灯させるといった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、払出音Aの出力、入賞ランプ演出A、バックランプ演出Aを継続することで払い出しが行われたことを遊技者に認識させると共に、MAXベット操作により賭け設定が可能なことも適切に認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。

【1394】

<押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合>

図100は押し順役の入賞として、正解押し順で操作し正解図柄組合せが停止表示し、入賞した場合を示すものである。時刻t2のタイミングまでは、押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合と同様であり、時刻t3のタイミングではMAXベットスイッチによる投入操作が行われる。MAXベットスイッチの操作が行われたことにより、主制御手段は、MAXベットランプの点灯を終了（消灯）し、副制御手段は、バックランプ演出Aを終了し、時刻t3から時刻t4の

10

20

30

40

50

タイミングにかけて（T 2 期間の間で）投入演出として投入音 A（図では投入音と記す、以下同じ。）を 3 度出力する。時刻 t 3 以降のタイミングにおいて、払出音 A の出力、入賞ランプ演出 A を行いつつ、投入音 A の出力といった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、これにより、払い出しが行われたことを遊技者に認識させつつ、MAX ベットスイッチが操作され、賭け設定が行われたことも認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。また、時刻 t 3 のタイミングでは払出音 A の出力、入賞ランプ演出 A は継続するが、バックランプ演出 A を終了させることにより、視覚により賭け設定が行われたことを認識させることができる。なお、図 49 では MAX ベットスイッチによる投入操作で説明をしたが、1 ベットスイッチによる投入操作、メダル投入を行っても同様にバックランプ演出 A を終了し投入音 A を出力する。

10

【1395】

<チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後に MAX ベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合>

図 101 は、チェリー役に対応する図柄組合せが有効ライン上に停止表示し、入賞した場合を示すものである。時刻 t 0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて払出音 C（図では払出音と記す、以下同じ。）の出力、入賞 LED ランプでの入賞ランプ演出 C（図では入賞ランプ演出と記す、以下同じ。）及びバックランプでのバックランプ演出 C（図では BL 演出と記す、以下同じ。）を開始する。払出処理に係る時間は正常に実行された（本例では 1 枚の遊技メダルを正常に払出す）場合は 0.2 秒となっている。時刻 t 19 のタイミングにて主制御手段は払出処理を終了し、副制御手段に払出終了コマンドを送信する。副制御手段は、払出終了コマンドに基づいて入賞演出として払出音 C の出力を時刻 t 24 のタイミングとなるまで T 4 期間（第 4 特定時間）、入賞ランプ演出 C の実行を時刻 t 5 のタイミングとなるまで T 6 期間（第 6 特定時間）、バックランプ演出 C を時刻 t 23 のタイミングとなるまで T 1 期間（第 1 特定時間）の間継続させる。

20

【1396】

主制御手段は、時刻 t 19 のタイミングにおいて払出処理が終了した後は、RT 状態の更新等の処理（遊技終了チェック処理）を行い、ブロックを ON とすることで遊技メダルを投入可能な状態とする。主制御手段は、時刻 t 20 のタイミングでは遊技メダルが投入可能な状態となったことに基づいて MAX ベットランプを点灯させる。MAX ベットランプは MAX ベットスイッチの操作が行われなかったため、点灯している状態を継続している。（なお、本図では、MAX ベットスイッチの操作による賭け設定が可能な程度のクレジットが貯留されていることを前提としており、MAX ベットスイッチの操作により賭け設定が不能な状態であれば時刻 t 20 のタイミングでは遊技メダルを投入可能な状態とするが MAX ベットランプは点灯しない。）

30

【1397】

時刻 t 23 のタイミングでは、時刻 t 19 のタイミングから T 1 期間が経過したため、副制御手段は、バックランプ演出 A を終了させる。すなわち、時刻 t 0 から t 23 までの期間が、第 3 のバックランプ演出期間ともいえる。時刻 t 24 のタイミングでは、時刻 t 19 のタイミングから T 4 期間が経過したため、副制御手段は、払出音 C の出力を終了させる。すなわち、時刻 t 0 から t 24 までの期間が、第 3 の払出音期間ともいえる。時刻 t 5 のタイミングでは、時刻 t 19 のタイミングから T 6 期間が経過したため、副制御手段は、入賞ランプ演出 C を終了させる。すなわち、時刻 t 0 から t 5 までの期間が、第 3 の入賞ランプ演出期間ともいえる。以上のように、時刻 t 19 以降のタイミングでは払出音 C の出力、入賞ランプ演出 C やバックランプ演出 C を継続しつつ、MAX ベットランプを点灯させるといった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、払出音 C の出力、入賞ランプ演出 C、バックランプ演出 C を継続することで払い出しが行われたことを遊技者に認識させると共に、MAX ベット操作により賭け設定が可能なことも適切に認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。

40

【1398】

50

＜チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合＞

図102はチェリー役に対応する図柄組合せが有効ライン上に停止表示し、入賞した場合を示すものである。時刻 t_{20} のタイミングまでは、チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合と同様であり、時刻 t_{21} のタイミングではMAXベットスイッチによる投入操作が行われる。MAXベットスイッチの操作が行われたことにより、主制御手段は、MAXベットランプの点灯を終了（消灯）し、副制御手段は、バックランプ演出Cを終了し、時刻 t_{21} から時刻 t_{22} のタイミングにかけて（T2期間の間で）投入演出としてMAXベットスイッチによる投入操作により3枚ベットされるため、投入音A（図では投入音と記す、以下同じ。）を3度出力する。時刻 t_{21} 以降のタイミングにおいて、払出音Cの出力、入賞ランプ演出Cを行いつつ、投入音Aの出力といった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、これにより、払い出しが行われたことを遊技者に認識させつつ、MAXベットスイッチが操作され、賭け設定が行われたことも認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。また、時刻 t_{21} のタイミングでは払出音Cの出力、入賞ランプ演出Cは継続するが、バックランプ演出Cを終了させることにより、視覚により賭け設定が行われたことを認識させることができる。

【1399】

なお、図102では、MAXベットスイッチの操作による賭け設定が可能な程度のクレジットが貯留されていることを前提としており、MAXベットスイッチの操作により賭け設定が不能な状態であれば時刻 t_{20} のタイミングでは遊技メダルを投入可能な状態とするがMAXベットランプは点灯しない。また、MAXベットスイッチによる投入操作で説明をしたが、1ベットスイッチによる投入操作、メダル投入を行っても同様にバックランプ演出Cを終了し、投入音Aを出力する。

【1400】

＜リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合＞

図103に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は副制御手段へ払い出す遊技メダルの枚数情報が0枚である払出開始コマンドを送信し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて入賞音Aの出力（図では入賞音と記す、以下同じ。）、入賞LEDランプでの入賞ランプ演出D（図では入賞ランプ演出と記す、以下同じ。）及びバックランプでのバックランプ演出D（図ではBL演出と記す、以下同じ。）を開始する。副制御手段は、払出開始コマンドに基づいて入賞演出として入賞音Aの出力をT5期間（第5特定時間）、入賞ランプ演出DをT7期間（第7特定時間）、バックランプ演出DをT1期間（第1特定時間）の間継続させる。時刻 t_{25} のタイミングにて主制御手段は自動投入処理を開始し、副制御手段へ自動投コマンドを送信する。時刻 t_{26} のタイミングにて主制御手段は自動投入処理が終了した後は、ブロックをONとすることで遊技メダルを投入可能な状態とする。

【1401】

主制御手段は、時刻 t_{26} のタイミングでは遊技メダルが投入可能な状態となったことに基づいてメダル投入可ランプを点灯させる。その後はメダル投入が行われなかったため、点灯している状態を継続している。時刻T29のタイミングでは、時刻09のタイミングからT1期間が経過したため、副制御手段は、バックランプ演出Dを終了させる。すなわち、時刻 t_0 から t_{29} までの期間が、第4のバックランプ演出期間ともいえる。時刻 t_5 のタイミングでは、時刻 t_0 のタイミングからT7期間が経過したため、副制御手段は、入賞ランプ演出Dを終了させる。すなわち、時刻 t_0 から t_5 までの期間が第4の入賞ランプ演出期間ともいえる。以上のように、時刻 t_{26} 以降のタイミングでは入賞ランプ演出Dやバックランプ演出Dを継続しつつ、メダル投入可ランプを点灯させるといった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、入賞ランプ演出D、バックランプ演出Dを継続することで払い出しが行われたことを遊技者に認識させると共に、メダル投入が可能であることも適切に認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることが

できる。なお、本図では、自動投入処理後にクレジットの貯留が上限に達していないことを前提としており、遊技メダルの投入ができない状態であれば時刻 $t26$ のタイミングではメダル投入可ランプは点灯しない（ブロッカをONとしない）。

【1402】

＜リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合＞

図104に示すとおり、時刻 $t26$ のタイミングまでは、リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合と同様であり、時刻 $t27$ のタイミングにおいては遊技メダルが投入されたことにより、主制御手段は遊技メダル1枚をクレジットに貯留し、副制御手段へ貯留数コマンドが送信する。副制御手段は、貯留数コマンドを受信したことに基づいてバックランプ演出Dを終了し、投入演出として投入音B（図では投入音と記す、以下同じ。）の出力を1度出力し、時刻 $t27$ のタイミングから $t28$ のタイミングにかけて出力する。時刻 $t27$ 以降のタイミングにおいて、入賞ランプ演出Dを行いつつ、投入音Bの出力といった各種の状況が複合した場合でも円滑な制御が可能であり、これにより、リプレイ役が入賞したことを遊技者に認識させつつ、目ある投入がされ1枚貯留されたことも認識させることができ、遊技機の性能の向上を図ることができる。また、時刻 $t27$ のタイミングでは入賞ランプ演出Dは継続するが、バックランプ演出Dを終了させることにより、視覚によりクレジットへの貯留が行われたことを認識させることができる。

なお、本図では、自動投入処理後にクレジットの貯留が上限に達していないこと（貯留数が48枚以下）を前提としており、遊技メダルを1枚投入しても遊技メダルが投入可能な状態は継続している。

【1403】

＜押し順役の入賞に基づく払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合＞

図105に示すとおり、時刻 $t2$ のタイミングまでは、押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合と同様であり、時刻 $t3$ のタイミングではMAXベットスイッチの操作に替わって精算スイッチが操作される。

時刻 $t3$ のタイミングにおいては、主制御手段は、精算ボタンが操作されたことに基づいて精算処理を開始し、MAXベットランプの点灯を終了（消灯）する。そして、副制御手段は、払出音Aの出力、入賞ランプ演出A、バックランプ演出AをT1期間の経過を待たずに、時刻 $t3$ のタイミングにて終了する。その後、精算開始コマンドに基づいて精算演出として精算音の出力を開始する。なお、精算演出として精算音の出力は行うが、バックランプ、入賞LEDランプを用いた演出等を行わない。精算処理が開始された際に、払出音Aの出力と精算音の出力が同時に出力され遊技者が混乱しないように、精算処理が開始されたことにより、T1期間継続する予定であった払出音Aの出力、入賞ランプ演出A、バックランプ演出Aを終了させ、バックランプ、入賞LEDランプを用いた演出等を行わないことで、払出処理と異なる精算処理が行われていることを的確に遊技者に認識させることができる。

【1404】

＜リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合＞

図106に示すとおり、時刻 $t26$ のタイミングまでは、リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合と同様であり、時刻 $t30$ のタイミングでは精算スイッチが操作される。

時刻 $t30$ のタイミングにおいては、主制御手段は、精算ボタンが操作されたことに基づいて精算処理を開始し、メダル投入可ランプの点灯を終了（消灯）する。そして、副制御手段は、入賞ランプ演出DはT7期間、バックランプ演出DはT1期間の経過を待たずに、時刻 $t30$ のタイミングにて終了する。その後、精算開始コマンドに基づいて精算演出として精算音の出力を開始する。なお、精算音の出力は行うが、バックランプ、入賞LEDランプを用いた演出等を行わない。精算処理が開始されたことにより、T7期間、T1期間継続する予定であった入賞ランプ演出D、バックランプ演出Dを終了させ、バックラ

10

20

30

40

50

ンプ、入賞LEDランプを用いた演出等を行わないことで、精算処理が行われていることを遊技者に認識させることができる。なお、本図では、自動投入処理後にクレジットの貯留が上限に達しておらず19枚以上貯留されていることを前提としている。

【1405】

＜チェリー役の入賞後に正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパエンptyエラー発生時）＞

図107に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cを開始する。時刻 t_0 のタイミング以降、払出処理が実行されるが、ホッパ44内に遊技メダルがないため、遊技メダルの払い出しが行われず、回転盤の回転が継続される。そして、時刻 t_{17} のタイミングで主制御手段は、ホッパ44内の遊技メダルが空と判断し、払出処理を終了し、ホッパエンptyエラーを設定する。ホッパエンptyエラーが発生したことに基いて主制御手段は、エラーコードの表示を行い、副制御手段は、実行していた払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cをキャンセルして（表示を終了して）、エラー画面の表示、入賞LEDランプを用いてエラー報知を実行する。なお、時刻 t_{17} のタイミングまでは払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cが継続して実行される。時刻 t_{17} のタイミングまで入賞LEDランプは入賞ランプ演出として赤色で点灯、点滅を繰り返すが、時刻 t_{17} となると入賞LEDランプはエラー報知として赤色で点灯するため、同じ赤色であるが点灯パターンが異なるため、入賞ランプ演出からエラー報知に切り替わったことを認識できる。なお、同図では、払出処理を開始してから1枚も払い出されずホッパエンptyエラーが発生する場合を示しており、複数枚の遊技メダルを払い出したあとにホッパエンptyエラーが発生する場合は、ホッパエンptyエラーが発生するタイミングは時刻 t_{17} より複数枚の遊技メダルを払い出す分遅いタイミングとなる。

【1406】

＜チェリー役の入賞後に正常に払い出しが行われなかった場合（ホッパ滞留エラー発生時）＞

図108に示すとおり、時刻 t_0 のタイミングにて主制御手段は払出処理を開始し、副制御手段は受信した払出開始コマンドに基づいて払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cを開始する。時刻 t_0 のタイミング以降、払出処理が実行されるが、ホッパ44の排出口に遊技メダルが詰まっているため遊技メダルの払い出しが実行されていない。そして、時刻 t_{18} のタイミングでは払出処理開始からホッパ44の払出センサが201ms以上継続して検出したため、主制御手段は、遊技メダルが詰まったと判断し、払出処理を終了し、ホッパ滞留エラーを設定する。同じく時刻 t_{18} のタイミングでは、ホッパ滞留エラーが発生したことに基いて主制御手段は、エラーコードの表示を行い、副制御手段は、実行していた払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cをキャンセルして（表示を終了して）、エラー画面の表示を行う。

【1407】

払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cは払出処理開始タイミングから実行されるため、払出処理を開始してホッパ滞留エラーが発生する前に実行されているため、エラー画面が表示される前に、払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cといった入賞演出を確認することが可能となる。なお、同図では、払出処理を開始してから1枚も払い出されずホッパ滞留エラーが発生する場合を示しており、複数枚の遊技メダルを払い出す状況において、複数枚のうち1部の遊技メダルを払い出したあとにホッパ滞留エラーが発生する場合は、ホッパ滞留エラーが発生するタイミングは時刻 t_{18} より1部の遊技メダルを払い出す分遅いタイミングとなり、払出音Cの出力、入賞ランプ演出C、バックランプ演出Cを実行する期間が長くなる。

【1408】

＜態様の変更＞

12枚の遊技メダルを正常に払い出す時間を1.5秒、1枚の遊技メダルを正常に払い

10

20

30

40

50

出す時間を0.2秒としたが、払出処理の枚数や、払出処理がクレジットの加算のみなのか、ホッパ44からの遊技メダルの払い出しを含むのかにより払い出す時間を変動するものとしてもよい。その際、ホッパ44から1枚の遊技メダルを払い出す時間を1枚の遊技メダルをクレジットに加算する時間より長くなるよう構成してもよい。また、逆に1枚の遊技メダルをクレジットに加算する時間をホッパ44から1枚の遊技メダルを払い出す時間より長くなるよう構成してもよい。

【1409】

入賞ランプ演出において、入賞した役の種類に応じた色（押し順役に当選し、正解図柄組合せが入賞した際には黄色で発光し、チェリー役に入賞した際には赤色で発光し、リプレイ役に入賞した際には青色で発光する）で発光するとしたが、発光する際の色を、入賞した役の種類によらず共通の色（例えば白色）で発光するようにしてもよい。共通の色とすることで、リールに停止する図柄組合せ（出目）によらずに何れかの役に入賞したことを簡易的に報知することができる。また、入賞ランプ演出を有効ライン上に停止する役に対応する図柄の色によらずに実行することができ誤認することを防止できる。

10

また、役の種類によらず共通の色とは、全ての役で同じ白としてもよいし、役の種類によっていくつかのグループ分け（ベル役、リプレイ役は白色、チェリー役、スイカ役は紫色）をしてもよい。

【1410】

入賞ランプ演出は払出終了コマンドを受信してから役によって定められた時間実行するとしたが、払出開始コマンドを受信してから役によって定められた時間としておよい。例えば、正解図柄組合せ、チェリー役に対応した図柄組合せ、リプレイ役に対応した図柄組合せが停止した際には2.5秒としてもよい。

20

入賞ランプ演出の実行期間を払出音の出力期間と同じとしたが、異なる期間としてもよい。また、入賞ランプ演出の実行期間をバックランプ演出の出力期間と同じとしたが、異なる期間としてもよい。入賞ランプ演出の実行期間として、払出処理に係る時間（1.5秒）より長く、ホッパエンptyエラーが設定されるのに必要な時間（3.5秒）より短い時間とすることができる。

【1411】

入賞ランプ演出Aを通常時（非AT中）に実行するとしたが、AT中も実行するようにしてもよい。また、色は同じとし、点灯、消灯するパターンや、実行時間を異なるものとしてもよい。また、AT中は実行しないとしてもよい。AT中は実行しないことで、入賞頻度が上がった、押し順役の正解図柄組合せに対して都度入賞ランプ演出を実行し、遊技者に煩わしさを与えないようにすることができる。

30

他の役（チェリー役、リプレイ役）も同様に、AT中も実行するようにしてもよし、AT中は実行しないように構成してもよい。

【1412】

入賞ランプ演出はMAXベットスイッチによる投入操作（貯留投入コマンドの受信）、遊技メダルの投入（貯留数コマンドの受信）で終了しないとしたが、MAXベットスイッチによる投入操作（貯留投入コマンドの受信）、遊技メダルの投入（貯留数コマンドの受信）で終了するとしてもよい。リプレイ役入賞後は、自動ベット処理では入賞ランプ演出を終了せず、その後に遊技メダルを投入した場合に終了するよう構成してもよい。

40

バックランプ演出はMAXベットスイッチによる投入操作（貯留投入コマンドの受信）、遊技メダルの投入（貯留数コマンドの受信）で終了するとしたが、終了しないように構成してもよい。

【1413】

精算演出として、入賞LEDランプを用いた演出を実行しないとしたが、入賞LEDランプを用いた演出を実行するとしてもよい。エラーが発生した際に行うエラー報知と同じ態様としてもよいし、エラー報知及び役に入賞した際に実行する入賞ランプ演出と異なる態様としてもよい。異なる態様としては、入賞LEDランプの発光する色、点灯点滅のパターン、時間のうち何れか1つが異なり、エラー報知、入賞ランプ演出と異なるものであ

50

ることが認識できることが望ましい。

【1414】

エラー発生時に入賞LEDランプを用いてエラー報知を行ったが、電源投入時や扉開放エラー時も同様に入賞LEDランプを用いてホッパエンptyエラー時に行う態様と同じ態様でエラー報知を行ってもよい。電源投入時は、電源投入後に一定時間継続し、扉開放エラー時は扉が閉鎖されるまで又は、扉が閉鎖されて一定時間経過するまで継続する。これらの状況では、遊技の進行も可能であり、エラー報知の実行と入賞ランプ演出の実行が重なる可能性がある。重なる場合には、入賞ランプ演出よりエラー報知を優先してもよい。エラー報知を優先するとは、エラー報知を実行中は、入賞ランプ演出を実行する契機を満たしたとしても実行しないように構成することもできる。また、入賞ランプ演出を実行中にエラー報知を実行する場合は、入賞ランプ演出を終了してエラー報知を実行するように構成することもできる。

10

【1415】

また、エラー報知を優先するとは、入賞LEDランプでの点灯を、エラー報知を実行中はエラー報知に対応する点灯を行うとすることができる。具体的には、入賞ランプ演出を実行する契機を満たしたときは入賞ランプ演出を実行しつつ、エラー報知を実行する期間であるときは入賞LEDランプではエラー報知に対応した発光のみを行い、エラー報知を実行する期間が終了した場合に入賞ランプ演出を実行する期間が継続している場合は入賞LEDランプでは入賞ランプ演出に対応した発光を行うように構成することもできる。

20

【1416】

入賞ランプ演出は、押し順役が当選した遊技で正解図柄組合せが停止した場合、チェリー役に対応する図柄組合せが停止した場合、リプレイ役に対応する図柄組合せが停止した場合に実行するとしたが、押し順に関わらず有利な払い出し（12枚払い出し）が実行される押し順不問役（所謂共有ベル）に当選し、押し順不問役に対応する図柄組合せ（正解図柄組合せ）が停止した際に実行するように構成してもよい。スイカ役やチャンス役など他の役に入賞した際に実行するよう構成してもよい。

また、上記実施形態で記載した時間や期間の長さは一例であり、適時変更可能である。

【1417】

<本実施形態における遊技機に搭載されている正解操作チャレンジ演出>

本実施形態における遊技機には、押し順役が当選したときに正解押し順を報知せずに押し順役が当選したことのみ報知する演出を備えており、このような演出を押し順チャレンジ演出と称する。また、目押し役が当選したときに正解目押し位置を報知せずに目押し役が当選したことのみ報知する演出を備えており、このような演出を目押しチャレンジ演出と称する。また、押し順+目押し役が当選したときに正解押し順+目押し位置を報知せずに押し順+目押し役が当選したことのみ報知する演出を備えており、このような演出を押し順+目押しチャレンジ演出と称する。このような、押し順チャレンジ演出、目押しチャレンジ演出、及び押し順+目押しチャレンジ演出を総称して正解操作チャレンジ演出と称する。正解操作（正解押し順、又は目押し位置）とは、押し順ベルのうち高目ベルが停止する操作のことを称する。

30

【1418】

なお、押し順+目押し役が当選したときに、正解押し順は報知するが正解目押し位置は報知しない態様や、正解目押し位置は報知するが正解押し順は報知しない態様であってもよく、このような態様の場合は、押し順+目押しチャレンジ演出と称する場合や、単に押し順チャレンジ演出や目押しチャレンジ演出と称する場合がある。何れにせよこれらの態様も含めて正解操作チャレンジ演出と称する。

40

【1419】

また、正解操作チャレンジ演出には、6択の押し順役が当選したときに第一停止のみを報知しない態様（換言すると、第一停止の3択の正解押し順を当てさせる態様）や、第一停止を報知して第二停止を報知しない態様（換言すると、第二停止の2択の正解押し順を当てさせる態様）を含む。

50

【1420】

正解操作チャレンジ演出には、3 択の目押し役が当選したときに一つの目押し位置は異なることを報知する態様（換言すると、残りの 2 択の目押し位置を当てさせる態様）を含む。

【1421】

正解操作チャレンジ演出を実行した後遊技者の操作により高目ベルの図柄組合せが停止した場合（正解操作チャレンジ演出に成功した場合）は、遊技状態に応じた特典を付与する。例えば、通常時であれば、A T 抽選や C Z 抽選であり、A T 中であれば A T ゲーム数の延長に関する抽選（所謂上乘せ抽選）である。

【1422】

正解操作チャレンジ演出は、メイン制御手段が管理する所定の遊技状態で実行させる態様であってもよいし、正解操作チャレンジ演出対象役の当選時の抽選によって実行させる態様であってもよい。

【1423】

図 109 を基に正解操作チャレンジ演出を実現するための、リール配列の一例を説明する。

【1424】

図 109 で示すように各リールの図柄数は 20 個であり、目押ししやすいサイズの大きい図柄として、「黄セブン」、「赤セブン」、「バー」、「白セブン」を備えている。なお、「黄セブン」、「赤セブン」、「バー」、「白セブン」はそれぞれ、色が異なっており、それぞれ黄色、赤色、黒色、白色が目立つようになっており、他の図柄よりはサイズが大きく、また色が異なっているため、リールが回転していても遊技者が認識しやすいようにしている。なお、上級者向けに「チェリー」、「スイカ」、「リプレイ」、「ベル A」、「ベル B」、「blank」を目押し対象としても問題ない。

【1425】

図 110 を基に正解操作チャレンジ演出を実現するための、条件装置の一例を説明する。

【1426】

図 110 で示すようにボーナス条件装置として 1 種 B B 条件装置、R B - B 条件装置、R B - A 条件装置を備えている。また、入賞、又は再遊技条件装置として再遊技 - A 条件装置、入賞 - A 1 ~ A 6 条件装置、入賞 - B 1 ~ B 4 条件装置、入賞 - C 1 ~ C 12 条件装置、入賞 - D 1 ~ D 8 条件装置を備えている。なお、図 110 で示している条件装置は一部であり、これ以外の条件装置を備えてよいことは言うまでもない。

【1427】

また、後述する複数の仕様においては、不要な条件装置もあり、図 110 で示す条件装置を全て備えていないといけなくもない。例えば、入賞 - A 1 ~ A 6 条件装置、及び入賞 - B 1 ~ B 4 条件装置は必要であるが、入賞 - C 1 ~ C 12 条件装置、及び入賞 - D 1 ~ D 8 条件装置は不要といった場合がある。以下で説明する仕様では、必ず必要な条件装置に関する説明に留めており、説明のない条件装置はあってもよいし、なくてもよい。

【1428】

図 111、及び図 112 は、入賞図柄、又は再遊技図柄毎の図柄組合せを示す図である。図中の左リールの欄は入賞図柄における左リールに対応する図柄を示し、中リールの欄は入賞図柄における中リールに対応する図柄を示し、右リールの欄は入賞図柄における右リールに対応する図柄を示している。

【1429】

図 113 乃至 115 は条件装置ごとの入賞図柄、又は再遊技図柄の組み合わせと、停止操作ごとの制御と、を示す図である。例えば、図 113 の入賞 - C 1 条件装置では、入賞 01 ~ 04、09 ~ 104 の入賞図柄が組み合わせられており、左リール第一停止であり、且つ左リール赤セブン図柄を目押しし、中リール第二停止であり、右リール第三停止であると入賞 01 ~ 04 の何れかの入賞図柄が停止可能であり、左リール第一停止であり、且つ左リール白セブン図柄を目押しし、中リール第二停止であり、右リール第三停止である

10

20

30

40

50

と入賞 25～40 の何れかの入賞図柄が停止可能であり、左リール第一停止であり、右リール第二停止であり、中リール第三停止であると入賞 09～40 の何れかの入賞図柄が停止可能であり、中リール第一停止であり、左リール第二停止であり、右リール第三停止であると入賞 41～72 の何れかの入賞図柄が停止可能であり、中リール第一停止であり、右リール第二停止であり、左リール第三停止であると入賞 41～72 の何れかの入賞図柄が停止可能であり、右リール第一停止であり、左リール第二停止であり、中リール第三停止であると入賞 73～104 の何れかの入賞図柄が停止可能であり、右リール第一停止であり、中リール第二停止であり、左リール第三停止であると入賞 73～104 の何れかの入賞図柄が停止可能であることを示している。

【1430】

また、左リール第一停止であり、且つ左リール赤セブン図柄を目押しし、中リール第二停止であり、右リール第三停止であると入賞 01～04 の何れかの入賞図柄が停止可能と上述したが、厳密にはベル A 図柄を引き込める範囲で停止受付があればよく、赤セブン図柄の代わりにバー図柄を停止しても入賞 01～04 の何れかの入賞図柄が停止可能となっている。

【1431】

また、左リール第一停止であり、且つ左リール白セブン図柄を目押しし、中リール第二停止であり、右リール第三停止であると入賞 25～40 の何れかの入賞図柄が停止可能と上述したが、厳密にはベル B 図柄を引き込める範囲で停止受付があればよく、白セブン図柄の代わりに黄セブン図柄を停止しても入賞 25～40 の何れかの入賞図柄が停止可能となっている。

【1432】

また、図 113 乃至 115 は全ての入賞図柄を記載しておらず、必要な入賞図柄の記載に留めているため、異なる条件装置であっても同一の入賞図柄組合せとなっているものがある。例えば、図 113 の入賞－A1 と入賞－A2 は同一の入賞図柄組合せが記載されているが、停止制御が異なっている。本来は、入賞－A1 と入賞－A2 の停止制御を異ならせるために PB = 1 の 1 枚払出の入賞図柄を入賞－A2 に追加する等、異なる入賞図柄組合せとしないといけませんが、説明が煩雑になるため省略する。換言すると、同一の入賞図柄組合せで異なる停止制御を行うような記載がされているものは、記載がない入賞図柄が追加されることで、互いに異なる入賞図柄組合せとなっているものとする。

【1433】

また、図 113 乃至 115 で示している入賞－C1～C12、入賞－D1～D8 は第一停止の目押し図柄を赤セブン、白セブンの 2 択にしているが、これに限らず、第一停止の目押し図柄を黄セブン、バーに置き換えてもよい。

【1434】

また、第一停止は目押し図柄がなく第三停止の図柄を目押しする態様であってもよい。この場合、例えば入賞－C1～C12 のような 12 択の条件装置であれば、第一停止が押し順の 3 択、第二停止が押し順の 2 択、第三停止が目押し図柄の 2 択になり、正解の択数は 12 択となる。また、第二停止、第三停止は目押し図柄がなく第二停止の図柄を目押しする態様であってもよい。この場合、例えば入賞－C1～C12 のような 12 択の条件装置であれば、第一停止が押し順の 3 択、第二停止が押し順と目押し図柄の 4 択、第三停止が 1 択になり、正解の択数は 12 択となる。

【1435】

また、図 113 乃至 115 の「備考 1」の欄にある「123」とは左リール第一停止、中リール第二停止、右リール第三停止であることを示しており、「132」とは左リール第一停止、右リール第二停止、中リール第三停止であることを示しており、「213」とは中リール第一停止、左リール第二停止、右リール第三停止であることを示しており、「231」とは中リール第一停止、右リール第二停止、左リール第三停止であることを示しており、「312」とは右リール第一停止、左リール第二停止、中リール第三停止であることを示しており、「321」とは右リール第一停止、中リール第二停止、左リール第三

10

20

30

40

50

停止であることを示している。

【1436】

また、図115の再遊技－Aの備考1では、再遊技－A当選時の目押しにおける停止制御を示している。「中リール上段赤セブンビタ押し成功」とは、中リールを第一停止し、且つ中リールの上段に赤セブン図柄を引き込み図柄数が1未満となるタイミングで停止操作された場合を意味しており、「中リール上段赤セブンビタ押し失敗」とは、中リールを第一停止し、且つ中リールの上段に赤セブン図柄を引き込み図柄数が1以上となるタイミングで停止操作された場合、又は中リールが第一停止ではない場合を意味しており、「中リール枠内白セブン目押し成功」とは、中リールを第一停止し、且つ中リールの上段に白セブン図柄を引き込み図柄数が2未満となるタイミングで停止操作された場合を意味しており、「中リール枠内白セブン目押し失敗」とは、中リールを第一停止し、且つ中リールの上段に白セブン図柄を引き込み図柄数が2以上となるタイミングで停止操作された場合、又は中リールが第一停止ではない場合を意味しており、「左リール赤セブン5コマ目押し成功」とは、左リールを第一停止し、且つ左リールの上段に赤セブン図柄を引き込み図柄数が5未満となるタイミングで停止操作された場合を意味しており、「左リール赤セブン5コマ目押し失敗」とは、左リールを第一停止し、且つ左リールの上段に赤セブン図柄を引き込めないタイミングで停止操作された場合、又は左リールが第一停止ではない場合を意味している。

10

【1437】

上述した正解操作チャレンジ演出に係るリール配列と条件装置組合せを用いた説明は有効ラインが中段1ラインである前提で説明しているが、これに限らず、左リール上段、中リール中段、右リール下段の右下がりラインや、左リール下段、中リール中段、右リール下段の小山ライン等いずれか一つのラインを有効ラインとしてもよい。また、有効ラインが1ラインでなく複数ラインであっても適宜設計できる。

20

【1438】

図113の入賞－B1～B4条件装置は、左リール第一停止正解がない条件装置となっている。また、図115の入賞－D1～D8も、左リール第一停止正解がない条件装置となっている。このような条件装置を偏りベルと称する場合がある。

【1439】

偏りベルとは全てのリールに対して第一停止正解があるわけではなく、所定のリールには第一停止正解がなく、残りのリールに関してのみ第一停止正解があるものをいう。換言すると、3個のリールを備えている場合、第一停止操作が正解の押し順が2個のリールにしかないため、正解押し順が4種類になる。例えば、左リール第一停止正解がない場合は、中左右、中右左、右左中、右中左の4種類しか正解押し順がない。同様に中リール第一停止正解がない場合は、左中右、左右中、右左中、右中左の4種類しか正解押し順がない。同様に右リール第一停止正解がない場合は、左中右、左右中、中左右、中右左の4種類しか正解押し順がない。なお、中リールに第一停止正解がない場合や、右リールに第一停止正解がない場合においても偏りベルと称する。以下、偏りベルは左リールに第一停止正解が割り振られていない例を用いて説明する。

30

【1440】

なお、偏りベルに対する押し順正解とは高目ベルを獲得できる押し順であることを意味し、偏りベルに対する押し順不正解とは安目ベルを獲得できる押し順、又は小役こぼし目となる押し順であることを意味する。特に押し順不正解に関して、通常時にAT抽選を行うリールを第一停止して安目ベルを獲得したとき、又は小役こぼし目が表示されたときも高目ベルを獲得できていないため押し順不正解と称する。

40

【1441】

偏りベルを備えている場合、遊技メダルの払い出しに関する期待値は左第一停止以外の停止操作順番で操作する方が高くなるが、左第一停止以外の停止操作順番で操作するとAT抽選を左第一停止よりも冷遇する、又はAT抽選を実行しないとすることで総合的な出玉の期待値は左第一停止で操作する方が有利となるようにしている。なお、AT抽選に関

50

して説明したが、これに限らず A T 上乘せ抽選、C Z 移行抽選など、出玉に関する抽選の何れか、又は全てを左第一停止で優遇してもよい。

【1 4 4 2】

このとき、偏りベル当選時では遊技者がどの押し順で停止操作するかが不明であるため、A T 抽選は全回胴停止後に実行する。例えば、A T 抽選を全回胴停止後の図柄組合せに基づいて実行する場合、左リールを第一停止操作したときの 1 枚役の図柄組合せと、中、又は右リールを第一停止操作したときに停止し得る 1 枚役の図柄組合せと、を異なるように構成することで、左リールを第一停止したときにのみ表示される 1 枚役の図柄組合せに基づいて A T 抽選を実行できる。

【1 4 4 3】

図 1 1 3 の入賞 A 3 を基に説明すると、左リール第一停止の場合に停止し得る入賞図柄である入賞 0 9 ~ 4 0 が停止すると A T 抽選を実行するが、右リール第一停止の場合に停止し得る入賞図柄である入賞 1 0 5 ~ 1 2 0 が停止、及び中リール第一停止、右リール第二停止、左リール第三停止の場合に停止し得る入賞図柄である入賞 4 1 ~ 7 2 が停止すると A T 抽選を実行しないというように、押し順不正解であっても左リール第一停止時で押し順不正解となった場合と、それ以外の押し順で押し順不正解となった場合とにおいて、停止する入賞図柄を異ならせることで、全回胴停止後に入賞図柄を判断するだけで、A T 抽選を実行するか否かを判断することができるため、プログラム容量が削減できる。

【1 4 4 4】

また、例えば、A T 抽選を全回胴停止後に実行する場合、左リールを最初に停止したという押し順情報に基づいて A T 抽選を実行できる。この場合は、左リールを第一停止操作したときの 1 枚役の図柄組合せと、中、又は右リールを第一停止操作したときに停止し得る 1 枚役の図柄組合せとは異なるように構成してもよいし、同一となるように構成してもよい。また、左中右の押し順で停止したという押し順情報、又は左右中の押し順で停止したという押し順情報に基づいて A T 抽選を実行してもよいし、左リールを最初に停止したという押し順情報に基づいて A T 抽選を実行してもよい。

【1 4 4 5】

有利区間であって、偏りベルが当選したときは指示モニタには指示情報を表示しない態様となっている。

【1 4 4 6】

このように構成することで、本来左リールを第一停止させることで出玉率が最も高くなっているが、偏りベルの当選確率はリプレイの当選確率よりも比較的高くなっているため、偏りベルが当選する毎に指示モニタに左第一停止を指示する指示モニタを表示すると、遊技者に対して特典が付与されるのかという期待感を頻繁に創出させてしまったり、A T 当選確率が偏りベルよりも高いレア役（レア役は偏りベルよりも当選確率が低い）に非当選したことが遊技者に察知されてしまったり、指示モニタに指示を表示することで指示込役比を算出するための払出数の記憶領域に偏りベルが当選したときの払出数が記憶されてしまったりすることを防ぐことができる。

【1 4 4 7】

なお、偏りベルが当選したときに押し順を不正解した場合は、押し順不正解時の 1 枚役が取得できたり、押し順ベルのこぼし目（払出数 0）が表示されたりすることが考えられる。このような不正解時の払出数として「1」が偏りベル当選時の左第一停止操作で発生するが、この 1 枚分を指示込役比に入れると出玉の波が制限されてしまう（出玉率が低いときと出玉率が高いときの差が少なくなる）ことになる。そこで、偏りベル当選時の左第一停止操作で発生する払出数 1 を指示込役比に加えないことで出玉設計の自由度が向上する。

【1 4 4 8】

また、正解操作チャレンジ演出を実行しない状況で偏りベルが当選したときは演出グループ番号をサブ制御手段に送信するが指示モニタに指示情報を表示しない態様が考えられる。なお、演出グループ番号は、有利区間時に送信して通常区間時に送信しない態様と、

10

20

30

40

50

有利区間時と通常区間時との何れの区間であっても送信する態様と、が考えられるが、何れの態様であってもよい。

【1449】

この場合、例えば、偏りベルが当選したときに演出グループ番号として「50」をメイン制御手段からサブ制御手段に送信する。その後、サブ制御手段はメイン制御手段から演出グループ番号として「50」を受信したときに、正解操作チャレンジ演出を実行せずにはずれ決定時と同じ演出態様や、演出を実行しない態様を実行する。また、このときは指示モニタに指示情報は表示されていないため、遊技者は偏りベルが当選したか否かわかり難くなっている（厳密には、停止図柄組合せによって、偏りベルが当選したことは認識可能である）。

10

【1450】

また、偏りベルが当選したときに演出グループ番号を送信する場合は、サブ制御手段が中、又は右リールを第一停止すれば小役を取得できることがわかるため、偏りベルが当選して演出グループ番号として「50」を受信したときに、中、又は右リールを第一停止することを報知するようなサブ制御手段の不正改造が懸念される。このような不正改造による効果を減少させるために、偏りベル当選の中、又は右リールを第一停止するときの差枚数に関する期待値を3枚未満（3枚掛け時）にする。例えば、3枚掛けの遊技において偏りベルが当選して、中左右、中右左、右左中、右中左のうち1/4の確率で11枚の払出が得られる場合（差枚数が8枚となる場合）は、中左右、中右左、右左中、右中左の押し順の何れも差枚数に関する期待値が2枚となり、3枚を下回ることになる。このような構成であれば、偏りベルが当選して演出グループ番号を受信したときに正解操作チャレンジ演出を実行しない状況であってもサブ制御手段の不正改造により左第一停止に正解がないことを報知されてしまっても、差枚数に関する期待値が3枚を下回るため差枚数が増加しないようになっている。よって、サブ制御手段の不正改造による出玉率の増加を抑えることができる。

20

【1451】

なお、3枚掛けの遊技において偏りベルが当選して、中左右、中右左、右左中、右中左のうち1/2の確率で11枚の払出が得られる場合（差枚数が8枚となる場合）は、中左右、中右左、右左中、右中左の押し順の何れも差枚数に関する期待値が4枚となり、掛け数の3枚以上となるため、このような場合は指示モニタに予め中リール第一停止か右リール第一停止で正解するという指示モニタ表示を行うことで、サブ制御手段の不正改造をする余地をなくすことができる。換言するとサブ制御手段を不正改造するまでもなく、メイン制御手段で押し順を報知していることから正規の遊技仕様になっている（指示込役比に当該情報を含めている）。

30

【1452】

また、正解操作チャレンジ演出を実行しない状況で偏りベルが当選したときに演出グループ番号をサブ制御手段に送信せず、指示モニタに指示情報を表示しない態様が考えられる。

【1453】

この場合、例えば、偏りベルが当選したときに演出グループ番号をメイン制御手段からサブ制御手段に送信しない。その後、サブ制御手段はメイン制御手段から全回胴停止コマンドを受信したときに、正解操作チャレンジ演出を実行せずにはずれ決定時と同じ演出態様や、演出を実行しない態様を実行する。また、このときは指示モニタに指示情報は表示されていないため、遊技者は偏りベルが当選したか否かわかり難くなっている（厳密には、停止図柄組合せによって、偏りベルが当選したことは認識可能である）。

40

【1454】

<6択押し順ベルと4択押し順ベル（偏りベル）を両立する仕様の場合>

正解操作チャレンジ演出を備えた遊技機の仕様として、6択押し順ベルと4択押し順ベル（偏りベル）を両立する仕様に関して説明する。

【1455】

50

図 1 1 3 で示す通り、入賞－A 1～A 6、入賞－B 1～B 4 は、入賞－A 1～A 6 が偏りのない 6 択押し順ベルであり、入賞－B 1～B 4 が偏りのある 4 択押し順ベルとなっている。

【1 4 5 6】

<< 6 択押し順ベルで正解操作チャレンジ演出を実行して、4 択押し順ベルで正解操作チャレンジ演出を実行しない場合 >>

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞－A 1～A 6 の偏りのない 6 択押し順ベルとすることが考えられる。

【1 4 5 7】

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞－A 1～A 6 の偏りのない 6 択押し順ベルとした場合、入賞－A 1～A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、入賞－A 1～A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。

【1 4 5 8】

このように構成することで、例えば、入賞－A 1 が当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行して、入賞 0 1～0 8 の何れかが停止した場合であっても指示込役比を算出するための払出数の記憶領域に払出数を記憶しないようにできるため、出玉設計の自由度が向上する。また、正解操作チャレンジ演出実行時に指示モニタ表示を行わないことで、遊技者に対して任意で停止操作してもよいことを直感的に認識させることができる。

【1 4 5 9】

なお、この態様において、A T 中であって入賞－A 1～A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、非 A T 中であって入賞－A 1～A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、非 A T 中であって入賞－A 1～A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わず、A T 中であって入賞－A 1～A 6 の何れかが当選したときの押し順報知演出（押し順ナビ）を実行する状況では指示モニタ表示を行う態様であってもよい。

【1 4 6 0】

このように構成することで、例えば、入賞－A 1 が当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行して、入賞 0 1～0 8 の何れかが停止した場合であっても指示込役比を算出するための払出数の記憶領域に払出数を記憶しないようにできるため、出玉設計の自由度が向上する。また、正解操作チャレンジ演出実行時に指示モニタ表示を行わないことで、遊技者に対して任意で停止操作してもよいことを直感的に認識させることができる。また、A T 中に押し順を報知するときのみ指示モニタを表示するため、指示モニタの表示がないことで遊技者に対して任意で停止操作してもよいことをより直感的に認識させることができる。

【1 4 6 1】

また、6 択押し順ベルの当選確率と 4 択押し順ベルの当選確率とを比較した場合、4 択押し順ベルの当選確率の方が高くなるように構成する。

【1 4 6 2】

このように構成することで、非 A T 時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。

【1 4 6 3】

また、6 択押し順ベルの当選確率と 4 択押し順ベルの当選確率とを比較した場合、6 択押し順ベルの当選確率の方が高くなるように構成してもよい。

【1 4 6 4】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

【1 4 6 5】

また、6 択押し順ベルの高目ベルの払出数と 4 択押し順ベルの高目ベルの払出数とは同

10

20

30

40

50

一となるように構成する。

【1466】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出が発生せず、且つ押し順報知演出も発生していない状況で高目ベルが停止しても、払出数が同一であるため6択押し順ベルに当選したのか4択押し順ベルに当選したのかを分かり難くすることができる。

【1467】

また、6択押し順ベルの高目ベルの払出数と4択押し順ベルの高目ベルの払出数とを比較した場合、4択押し順ベルの高目ベルの払出数の方が多くなるように構成してもよい。

【1468】

このように構成することで、非AT時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。また、正解操作チャレンジ演出に失敗したユーザのストレスを軽減することができる。遊技の興趣の低下を防ぐことができる。

10

【1469】

また、6択押し順ベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、6種類の押し順の中から1つの押し順を当てさせる6択チャレンジと、第一停止不正解押し順を1つ報知して（第一停止正解押し順を2択にして）正解の場合は第二停止を報知しないことで4種類の押し順の中から1つの押し順を当てさせる4択チャレンジと、第一停止正解押し順を報知して第二停止は報知しない、又は第一停止不正解押し順を1つ報知して（第一停止正解押し順を2択にして）正解の場合は第二停止を報知することで2種類の押し順の中から1つの押し順を当てさせる2択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行わない。

20

【1470】

<<4択押し順ベルで正解操作チャレンジ演出を実行して、6択押し順ベルで正解操作チャレンジ演出を実行しない場合>>

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-B1～B4の偏りのある4択押し順ベルとすることが考えられる。

【1471】

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-B1～B4の偏りのある4択押し順ベルとした場合、入賞-B1～B4の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、入賞-B1～B4の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。

30

【1472】

偏りベルで正解操作チャレンジ演出を実行した場合、左リール第一停止では必ず正解操作チャレンジ演出に失敗するにもかかわらず左リールを第一停止すると、通常時（正解操作チャレンジ演出を実行していない状態）に行っているAT抽選と同様のAT抽選は実行しない態様となっている。換言すると、偏りベルで正解操作チャレンジ演出を実行した場合であって左リール第一停止したときは、通常時に実行しているAT抽選よりも低い確率でAT抽選を実行する、又はAT抽選を実行しない態様となっている。

【1473】

このように構成することで、例えば、入賞-B1が当選したときに正解操作チャレンジ演出に対応する指示モニタ表示を実行して、左リール第一停止では高目ベルが停止しないことを報知し、遊技者に対して正解操作ができる可能性を高めることができる。

40

【1474】

なお、この態様において、AT中であって入賞-B1～B4の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、非AT中であって入賞-B1～B4の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、AT中であって入賞-B1～B4の何れかが当選したときの押し順報知演出を実行する状況では指示モニタ表示を行う態様であってもよい。

【1475】

このように構成することで、例えば、入賞-B1が当選したときに正解操作チャレンジ

50

演出に対応する指示モニタ表示を実行して、左リール第一停止では高目ベルが停止しないことを報知し、遊技者に対して正解操作ができる可能性を高めることができる。また、正解操作チャレンジ演出の実行時や押し順報知演出の実行時に指示モニタ表示を行うため、左リールを第一停止してよいときと左リールを第一停止してはいけないときを明確にすることができる。

【1476】

また、6 択押し順ベルの当選確率と 4 択押し順ベルの当選確率とを比較した場合、4 択押し順ベルの当選確率の方が高くなるように構成する。

【1477】

このように構成することで、非 A T 時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。また、正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

【1478】

また、6 択押し順ベルの高目ベルの払出数と 4 択押し順ベルの高目ベルの払出数とは同一となるように構成する。

【1479】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出が発生せず、且つ押し順報知演出も発生していない状況で高目ベルが停止しても、払出数が同一であるため 6 択押し順ベルに当選したのか 4 択押し順ベルに当選したのかを分かり難くすることができる。

【1480】

また、6 択押し順ベルの高目ベルの払出数と 4 択押し順ベルの高目ベルの払出数とを比較した場合、4 択押し順ベルの高目ベルの払出数の方が多くなるように構成してもよい。

【1481】

このように構成することで、非 A T 時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。

【1482】

また、4 択押し順ベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、4 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 4 択チャレンジと、第一停止不正解押し順を 2 つ報知して（第一停止正解押し順を 1 択にして）第二停止を報知しない、又は第一停止正解押し順を報知して第二停止を報知しないことで 2 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 2 択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行う。

【1483】

<< 4 択押し順ベルで正解操作チャレンジ演出を実行して、6 択押し順ベルで正解操作チャレンジ演出を実行する場合 >>

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞 - A 1 ~ A 6 の偏りのない 6 択押し順ベルと、入賞 - B 1 ~ B 4 の偏りのある 4 択押し順ベルと、することが考えられる。

【1484】

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞 - A 1 ~ A 6 の偏りのない 6 択押し順ベルとした場合、入賞 - A 1 ~ A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、入賞 - A 1 ~ A 6 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。また、正解操作チャレンジ演出の対象を入賞 - B 1 ~ B 4 の偏りのある 4 択押し順ベルとした場合、入賞 - B 1 ~ B 4 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、入賞 - B 1 ~ B 4 の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。

【1485】

このように構成することで、指示モニタの表示により、6 択の正解操作チャレンジ演出なのか 4 択の正解操作チャレンジ演出なのかを遊技者に認識させ、ストップスイッチの誤操作を防ぐことができる。

10

20

30

40

50

【1486】

また、6 択押し順ベルの当選確率と 4 択押し順ベルの当選確率とを比較した場合、4 択押し順ベルの当選確率の方が高くなるように構成する。

【1487】

このように構成することで、非 A T 時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。また、4 択の正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

【1488】

また、6 択押し順ベルの当選確率と 4 択押し順ベルの当選確率とを比較した場合、6 択押し順ベルの当選確率の方が高くなるように構成してもよい。

【1489】

このように構成することで、6 択の正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

【1490】

また、6 択押し順ベルの高目ベルの払出数と 4 択押し順ベルの高目ベルの払出数とは同一となるように構成する。

【1491】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出が発生せず、且つ押し順報知演出も発生していない状況で高目ベルが停止しても、払出数が同一であるため 6 択押し順ベルに当選したのか 4 択押し順ベルに当選したのかを分かり難くすることができる。

【1492】

また、6 択押し順ベルの高目ベルの払出数と 4 択押し順ベルの高目ベルの払出数とを比較した場合、4 択押し順ベルの高目ベルの払出数の方が多くなるように構成してもよい。

【1493】

このように構成することで、非 A T 時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。

【1494】

また、6 択押し順ベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、6 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 6 択チャレンジと、第一停止不正解押し順を 1 つ報知して（第一停止正解押し順を 2 択にして）正解の場合は第二停止を報知しないことで 4 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 4 択チャレンジと、第一停止正解押し順を報知して第二停止は報知しない、又は第一停止不正解押し順を 1 つ報知して（第一停止正解押し順を 2 択にして）正解の場合は第二停止を報知することで 2 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 2 択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行わない。

【1495】

また、4 択押し順ベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、4 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 4 択チャレンジと、第一停止不正解押し順を 2 つ報知して（第一停止正解押し順を 1 択にして）第二停止を報知しない、又は第一停止正解押し順を報知して第二停止を報知しないことで 2 種類の押し順の中から 1 つの押し順を当てさせる 2 択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行う。

【1496】

<正解操作チャレンジ演出の失敗回数に応じた指示機能に係る処理>

正解操作チャレンジ演出を実行したときに不正解押し順で操作（低目ベルが停止）された回数に応じて指示機能に係る処理（例えば、A T 抽選、又は A T 上乘せ抽選等）を実行する。

【1497】

例えば、A T 中において入賞 - A 1 ~ A 6 の何れかの当選時に 6 択の正解操作チャレンジ演出を実行するときに、1 回目の正解操作チャレンジ演出で失敗した（不正解押し順で

10

20

30

40

50

操作された) 場合は 2.5% の確率で 50 ゲームの上乗せ抽選を実行し、2 回目の正解操作チャレンジ演出で失敗した (不正解押し順で操作された) 場合は 5.0% の確率で 50 ゲームの上乗せ抽選を実行し、3 回目の正解操作チャレンジ演出で失敗した (不正解押し順で操作された) 場合は 7.5% の確率で 50 ゲームの上乗せ抽選を実行し、4 回目の正解操作チャレンジ演出で失敗した (不正解押し順で操作された) 場合は 10% の確率で 50 ゲームの上乗せ抽選を実行し、5 回目の正解操作チャレンジ演出で失敗した (不正解押し順で操作された) 場合は 50% の確率で 50 ゲームの上乗せ抽選を実行し、6 回目の正解操作チャレンジ演出で失敗した (不正解押し順で操作された) 場合は 100% の確率で 50 ゲームの上乗せ抽選を実行することが挙げられる。

【1498】

このような構成によれば、正解操作チャレンジ演出を実行したときに遊技者が不正解押し順で操作してしまっても不正解回数 (失敗回数) に応じて上乗せ抽選に当選する確率が上がっていくため、遊技者が不正解押し順で操作してしまっても遊技者の遊技意欲を減衰し難くすることができる。

【1499】

また、図 113 で示すように、入賞 A1 ~ A6 の何れかの当選時には、押し順不正解時の入賞図柄として、入賞 09 ~ 40 と、入賞 105 ~ 120 とを備えている。入賞 09 ~ 40 は非 AT 時において AT 抽選を実行可能な入賞図柄であり、入賞 105 ~ 120 は非 AT 時において AT 抽選を実行しない (又は入賞 09 ~ 40 よりも低確率で AT 抽選を実行する) 入賞図柄である。

【1500】

正解操作チャレンジ演出で不正解押し順となったときに入賞 09 ~ 40 と、入賞 105 ~ 120 とが停止される可能性があるが、正解操作チャレンジ演出で失敗した場合の失敗回数に応じた上乗せ抽選は入賞 09 ~ 40 と、入賞 105 ~ 120 とで同一の抽選を実行する。

【1501】

また、正解操作チャレンジ演出の失敗回数を記憶する所定の記憶領域は、有利区間が終了するときの初期化処理で初期化する。このため、例えば正解操作チャレンジ演出の失敗回数が 5 回のときに有利区間が終了して、新たな有利区間で再度正解操作チャレンジ演出に失敗しても新たな有利区間での正解操作チャレンジ演出の失敗回数は 1 回目として上乗せ抽選を実行する。

【1502】

このような構成によれば、有利区間を跨いで遊技をさせるといった遊技へののめり込みを防止することができる。

【1503】

また、正解操作チャレンジ演出の失敗回数を記憶する所定の記憶領域に失敗回数を記憶している場合、失敗回数に応じた上乗せ抽選に当選した時点で所定の記憶領域を初期化する。

【1504】

このように構成することで、失敗回数に基づいた過度な利益を付与することを防ぎ、遊技へののめり込みを防止することができる。

【1505】

また、正解操作チャレンジ演出の失敗回数を記憶する所定の記憶領域に失敗回数を記憶している場合、正解操作チャレンジ演出に成功した時点で所定の記憶領域を初期化する。

【1506】

このように構成することで、失敗回数に基づいた過度な利益を付与することを防ぎ、遊技へののめり込みを防止することができる。

【1507】

また、正解操作チャレンジ演出の失敗回数を記憶する所定の記憶領域に失敗回数を記憶している場合、正解操作チャレンジ演出に成功しても所定の記憶領域を初期化しない態様

10

20

30

40

50

であってもよい。この場合においては、失敗回数に応じた上乗せ抽選に当選した時点で所定の記憶領域を初期化するよう構成する。

【1508】

このように構成することで、失敗回数に基づいた過度な利益を付与することを防ぎ、遊技へののめり込みを防止することができる。

【1509】

また、正解操作チャレンジ演出の実行態様として押し順を当てる態様で説明したが、目押し図柄を当てる態様であってもよいし、押し順と目押し図柄を当てる態様であってもよい。

【1510】

<正解操作チャレンジ演出の成功回数に応じた指示機能に係る処理>

正解操作チャレンジ演出を実行したときに正解押し順で操作（高目ベルが停止）された回数に応じて指示機能に係る処理（例えば、AT抽選、又はAT上乗せ抽選等）を実行する。

【1511】

例えば、所定の遊技状態の終了契機として5回の遊技を実行することとした場合の入賞－A1～A6の何れかの当選時に6択の正解操作チャレンジ演出を実行するときに、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が1回の場合は10ゲームの上乗せを付与し、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が2回の場合は20ゲームの上乗せを付与し、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が3回の場合は30ゲームの上乗せを付与し、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が4回の場合は50ゲームの上乗せを付与し、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が5回の場合は100ゲームの上乗せを付与し、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が0回の場合は20ゲームの上乗せを付与することが挙げられる。

【1512】

このような構成によれば、正解操作チャレンジ演出を実行したときに正解押し順の回数に応じて遊技者の期待感を段階的に上げることができるため、遊技の興趣が向上する。

【1513】

なお、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が0回の場合は上乗せなしとする態様であってもよいし、5ゲーム間滞在する所定の遊技状態における正解操作チャレンジ演出で成功した（正解押し順で操作された）回数が0回の場合は正解操作チャレンジ演出に正解するまで所定の遊技状態を延長する態様であってもよいし、正解操作チャレンジ演出を5回実行することを所定の遊技状態の終了契機とする態様であってもよい。

【1514】

また、正解操作チャレンジ演出の成功回数を記憶する所定の記憶領域は、有利区間が終了するときの初期化処理で初期化する。このため、例えば正解操作チャレンジ演出の成功回数が4回のときに有利区間が終了して新たな有利区間では正解操作チャレンジ演出の成功回数を記憶する所定の記憶領域は0となっている。

【1515】

このような構成によれば、通常遊技では実行されない遊技方法で不正に正解操作チャレンジ演出を延命させようとしても有利区間終了時には初期化するため、不正による出玉操作の被害を少なくできる。

【1516】

また、正解操作チャレンジ演出の実行態様として押し順を当てる態様で説明したが、目押し図柄を当てる態様であってもよいし、押し順と目押し図柄を当てる態様であってもよい。

10

20

30

40

50

い。

【1517】

＜6 択押し順ベル当選時の正解操作チャレンジ演出で4 択、又は2 択にした場合の処理＞
正解操作チャレンジ演出実行時に一部の操作態様を報知して正解操作可能な確率を上げる態様に関して説明する。

【1518】

前述したように、正解操作チャレンジ演出実行時に一部の操作態様を報知する場合がある。例えば、6 択押し順ベルが当選したときに第一停止不正解押し順を1 つ報知して（第一停止正解押し順を2 択にして）正解の場合は第二停止を報知しないことで4 種類の押し順の中から1 つの押し順を当てさせる4 択チャレンジや、6 択押し順ベルが当選したときに第一停止正解押し順を報知して第二停止は報知しない、又は第一停止不正解押し順を1 つ報知して（第一停止正解押し順を2 択にして）正解の場合は第二停止を報知することで2 種類の押し順の中から1 つの押し順を当てさせる2 択チャレンジや、4 択押し順ベルが当選したときに第一停止不正解押し順を2 つ報知して（第一停止正解押し順を1 択にして）第二停止を報知しない、又は第一停止正解押し順を報知して第二停止を報知しないことで2 種類の押し順の中から1 つの押し順を当てさせる2 択チャレンジがある。

10

【1519】

具体的に入賞－A 1 が当選した場合で説明する。入賞－A 1 が当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行する場合であって、第一停止正解を報知して2 択チャレンジを実行するときは、液晶の押し順を表示する領域に「1??」と表示する。左の「1」は左リールに対応し、中の「?」は中リールに対応し、右の「?」は右リールに対応している。

20

【1520】

ここで、遊技者が左リールを第一停止した場合は、液晶の押し順を表示する領域に「－??」と表示する。また、左リールの中段の有効ラインにはベルA 図柄、又はベルB 図柄が停止する。液晶の左の「－」は正解操作を行ったことを示しており、他の態様として何も表示しない態様や「○」を表示する態様等適宜設計できる。液晶に「－??」と表示されている場合は、第二停止の正解操作が中リールなのか、右リールなのかが不明なため、遊技者に対して2 択を当てると面白さを提供できる。

【1521】

そして、遊技者が中リールを第二停止した場合は、液晶の押し順を表示する領域に「－??」と表示する。また、中リールの中段の有効ラインにはベルA 図柄、又はベルB 図柄が停止する。第二停止しても液晶表示は変化していないが、他の態様として「－?」と表示する等液晶表示が変化する態様であってもよい。液晶に「－??」と表示されている場合は、第二停止の正解が正解なのか不正解なのか不明なため最後まで期待感を持たせることができる。なお、本実施形態では、有効ラインにベルA、又はベルB が2 つ停止すると正解することが確定するため、メインリールを確認する遊技者であれば、停止図柄によって正解したか否かが理解できるようになっている。またこれに限らず、第3 停止までメインリールでも正解か否かをわからないようにすることも可能である。

30

【1522】

そして、遊技者が右リールを第三停止した場合は、液晶に「おめでとう」等の祝福するメッセージや、「+100」等の上乗せ数を表示する。また、右リールの中段の有効ラインにはベルA 図柄、又はベルB 図柄が停止して、「ベルA、又はベルB－ベルA、又はベルB－ベルA、又はベルB」の何れかの図柄組合せが停止する。なお、上乗せ抽選等の指示機能に係る処理は全回胴停止時の図柄組合せ、又は押し順情報に応じて実行するため、「おめでとう」等の祝福するメッセージや、「+100」等の上乗せ数を表示するタイミングは、全回胴停止時の指示機能に係る処理を実行した後に表示する。

40

【1523】

また、入賞－A 1 が当選したときに遊技者が中リール、又は右リールを第一停止した場合は、液晶に表示されている「1??」の表示を全て非表示にしたり失敗演出を実行してから非表示にしたりする態様が考えられる。また、このときの全回胴停止時に表示される

50

図柄組合せとして、「リプレー赤セブン、黄セブン、バー、又は白セブンー赤セブン、黄セブン、バー、又は白セブン」の何れかの図柄組合せが停止する。この場合は、第一停止時点で中リール、又は右リールに「赤セブン、黄セブン、バー、又は白セブン」の何れかの図柄が停止するため、中リール、又は右リールを第一停止した時点で押し順不正解とし、全回胴停止時に実行する指示機能に係る処理を実行しない態様や、押し順正解時と比較して低い利益を付与する態様となる。

【1524】

また、入賞-A1が当選したときに遊技者が左リールを第一停止して、右リールを第二停止した場合は、全回胴停止時に表示される図柄組合せとして、「ベルA、又はベルBー赤セブン、黄セブン、バー、又は白セブンー赤セブン、黄セブン、バー、又は白セブン」の何れかの図柄組合せが停止する。この場合は、第二停止時点で右リールに「赤セブン、黄セブン、バー、又は白セブン」の何れかの図柄が停止するため、右リールを第二停止した時点で押し順不正解とし、全回胴停止時に実行する指示機能に係る処理を実行しない態様や、押し順正解時と比較して低い利益を付与する態様となる。入賞09～40は正解操作チャレンジ演出を実行しない場合は、指示機能に係る処理を実行するが、正解操作チャレンジ演出を実行したときに停止した場合は、指示機能に係る処理を実行しないか、正解操作チャレンジ演出を実行しない場合に獲得し得る利益の期待値よりも低い期待値の利益を付与することになる。

【1525】

<正解操作チャレンジ演出をリプレイ当選時の目押し技量に応じて実行する>

正解操作チャレンジ演出を実行する条件装置は押し順ベル以外にも、再遊技や共通ベルでも可能であり、以下、再遊技で正解操作チャレンジ演出を実行する場合の説明を行う。なお、再遊技で正解操作チャレンジ演出を実行する場合の指示モニタ表示は非表示となっている。

【1526】

図115で示す再遊技-Aが当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行する例を説明する。

【1527】

再遊技-Aが当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行する場合は、遊技者の停止操作位置に応じて停止する図柄組合せが異なるように構成している。

【1528】

例えば、中リール第一停止時の上段に赤セブンをビタ押しすると、中リール上段に赤セブン図柄が停止する（有効ラインである中リール中段にチェリー図柄が停止する）。そして、左リール、右リールを任意の停止順番、及び停止タイミングで停止すると再遊技01が停止し、全回胴停止時に再遊技01が停止している場合は、指示機能に係る処理を実行する。このとき、中リール第一停止時の上段に赤セブンをビタ押しできなかった場合は、再遊技04が停止し、全回胴停止時に再遊技04が停止している場合は、指示機能に係る処理を実行しない、又は再遊技01が停止したときよりも利益の低い指示機能に係る処理を実行する。

【1529】

また、中リール第一停止時の枠内に白セブンを目押しすると、中リール上段に白セブン図柄が停止する（有効ラインである中リール中段にブランク図柄が停止する）。そして、左リール、右リールを任意の停止順番、及び停止タイミングで停止すると再遊技02が停止し、全回胴停止時に再遊技02が停止している場合は、指示機能に係る処理を実行する。このとき、中リール第一停止時の枠内に白セブンを目押しできなかった場合は、再遊技04が停止し、全回胴停止時に再遊技04が停止している場合は、指示機能に係る処理を実行しない、又は再遊技02が停止したときよりも利益の低い指示機能に係る処理を実行する。なお、再遊技02が停止したときに実行する指示機能に係る処理は再遊技01が停止したときに実行する指示機能に係る処理よりも低い利益となる指示機能に係る処理を実行する。これは、中リールの上段に赤セブン図柄をビタ押しするよりも、中リールの枠内

に白セブン図柄を目押しする方が難易度が低い（図柄の引き込み数が多い）ためである。

【1530】

また、左リール第一停止時の5コマ内に赤セブンを目押しすると、左リール中段に赤セブン図柄が停止する（有効ラインである左リール中段に赤セブン図柄が停止する）。そして、中リール、右リールを任意の停止順番、及び停止タイミングで停止すると再遊技03が停止し、全回胴停止時に再遊技03が停止している場合は、指示機能に係る処理を実行する。このとき、左リール第一停止時の5コマ内に赤セブンを目押しできなかった場合は、再遊技04が停止し、全回胴停止時に再遊技04が停止している場合は、指示機能に係る処理を実行しない、又は再遊技03が停止したときよりも利益の低い指示機能に係る処理を実行する。なお、再遊技03が停止したときに実行する指示機能に係る処理は再遊技02が停止したときに実行する指示機能に係る処理よりも低い利益となる指示機能に係る処理を実行する。これは、中リールの枠内に白セブン図柄を目押しするよりも、左リールの5コマ内に赤セブン図柄を目押しする方が難易度が低い（図柄の引き込み数が多い）ためである。

10

【1531】

このように、再遊技-Aが当選したときの停止位置に応じて停止可能な図柄組合せを異ならせることで、停止位置に応じた図柄組合せが停止し、全回胴停止時に図柄組合せに応じて指示機能に係る処理を実行できるようになる。図柄組合せに応じた指示機能に係る処理の一例として、再遊技01停止でATゲーム数20ゲーム増加、再遊技02停止でATゲーム数10ゲーム増加、再遊技03停止でATゲーム数5ゲーム増加、再遊技04停止でATゲーム数増加なしといった例が挙げられる。

20

【1532】

また、前述した通り、再遊技に関わらず押し順によって払出数が増減しない共通ベルの当選時にも再遊技-A当選時と同様な目押し位置に応じた指示機能に係る処理が異なる態様を用いてもよい。

【1533】

<12択押し順+目押しベルと8択押し順+目押しベル（偏りベル）を両立する仕様の場合>

正解操作チャレンジ演出を備えた遊技機の仕様として、12択の押し順+目押し役と8択の押し順+目押し役を両立する仕様に関して説明する。

30

【1534】

図113、乃至115で示す通り、入賞-C1~C12、入賞-D1~D8は、入賞-C1~C12が偏りのない12択の押し順+目押しベルであり、入賞-D1~D8が偏りのある8択の押し順+目押しベルとなっている。

【1535】

<<12択押し順+目押しベルで正解操作チャレンジ演出を実行して、8択押し順+目押しベルで正解操作チャレンジ演出を実行しない場合>>

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-C1~C12の偏りのない12択押し順+目押しベルとすることが考えられる。

【1536】

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-C1~C12の偏りのない12択押し順+目押しベルとした場合、入賞-C1~C12が当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、入賞-C1~C12が当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。

40

【1537】

このように構成することで、例えば、入賞-C1が当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行して、入賞01~04の何れかが停止した場合であっても指示込役比を算出するための払出数の記憶領域に払出数を記憶しないようにできるため、出玉設計の自由度が向上する。また、正解操作チャレンジ演出実行時に指示モニタ表示を行わないことで、遊技者に対して任意で停止操作してもよいことを直感的に認識させることができる。

50

【1538】

なお、この態様において、A T中であって入賞－C 1～C 1 2の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、非A T中であって入賞－C 1～C 1 2の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、非A T中であって入賞－C 1～C 1 2の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わず、A T中であって入賞－C 1～C 1 2の何れかが当選したときの押し順＋目押し報知演出（押し順＋目押しナビ）を実行する状況では指示モニタ表示を行う態様であってもよい。

【1539】

このように構成することで、例えば、入賞－C 1が当選したときに正解操作チャレンジ演出を実行して、入賞0 1～0 4の何れかが停止した場合であっても指示込役比を算出するための払出数の記憶領域に払出数を記憶しないようにできるため、出玉設計の自由度が向上する。また、正解操作チャレンジ演出実行時に指示モニタ表示を行わないことで、遊技者に対して任意で停止操作してもよいことを直感的に認識させることができる。また、A T中に押し順＋目押しを報知するときのみ指示モニタを表示するため、指示モニタの表示がないことで遊技者に対して任意で停止操作してもよいことをより直感的に認識させることができる。

10

【1540】

また、1 2択押し順＋目押しベルの当選確率と8択押し順＋目押しベルの当選確率とを比較した場合、8択押し順＋目押しベルの当選確率の方が高くなるように構成する。

20

【1541】

このように構成することで、非A T時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。

【1542】

また、1 2択押し順＋目押しベルの当選確率と8択押し順＋目押しベルの当選確率とを比較した場合、1 2択押し順＋目押しベルの当選確率の方が高くなるように構成してもよい。

【1543】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

30

【1544】

また、1 2択押し順＋目押しベルの高目ベルの払出数と8択押し順＋目押しベルの高目ベルの払出数とは同一となるように構成する。

【1545】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出が発生せず、且つ押し順報知演出も発生していない状況で高目ベルが停止しても、払出数が同一であるため1 2択押し順＋目押しベルに当選したのか8択押し順＋目押しベルに当選したのかを分かり難くすることができる。

【1546】

また、1 2択押し順＋目押しベルの高目ベルの払出数と8択押し順＋目押しベルの高目ベルの払出数とを比較した場合、8択押し順＋目押しベルの高目ベルの払出数の方が多くなるように構成してもよい。

40

【1547】

このように構成することで、非A T時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。また、正解操作チャレンジ演出に失敗したユーザのストレスを軽減することができ、遊技の興趣の低下を防ぐことができる。

【1548】

また、1 2択押し順＋目押しベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、第一停止正解押し順と目押し図柄を報知せず第二停止正解押し順も報知しないことで1 2種類の押し順＋目押しの中から1つの押し順＋目押しを当てさせる1 2択チャレンジと、第

50

一停止不正解押し順を1つ報知するが目押し図柄は報知せず（第一停止正解押し順+目押しを4択にして）第二停止正解押し順を報知しないことで8種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる8択チャレンジと、第一停止正解押し順と目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順を報知する、又は第一停止正解押し順は報知しないが目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知しないことで6種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる6択チャレンジと、第一停止正解押し順を報知するが目押しは報知せず第二停止正解押し順も報知しない、第一停止不正解押し順を1つ報知するが目押し図柄は報知せず（第一停止正解押し順+目押しを4択にして）第二停止正解押し順を報知する、又は第一停止不正解押し順を1つと目押し図柄を報知して（第一停止正解押し順を2択にして）第二停止正解押し順を報知しないことで4種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる4択チャレンジと、第一停止正解押し順は報知しないが目押し図柄は報知し第二停止正解押し順も報知することで3種類の押し順の中から1つの押し順を当てさせる3択チャレンジと、第一停止正解押し順を報知するが目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順は報知する、第一停止正解押し順と目押し図柄は報知し第二停止正解押し順は報知しない、又は第一停止不正解押し順を1つと目押し図柄を報知し第二停止正解押し順を報知することで2種類の押し順+目押しの中から1つの押し順+目押しを当てさせる2択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行わない。

【1549】

<<8択押し順+目押しベルで正解操作チャレンジ演出を実行して、12択押し順+目押しベルで正解操作チャレンジ演出を実行しない場合>>

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-D1~D8の偏りのある8択押し順ベルとすることが考えられる。

【1550】

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-D1~D8の偏りのある8択押し順ベルとした場合、入賞-D1~D8の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、入賞-D1~D8の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。

【1551】

偏りベルで正解操作チャレンジ演出を実行した場合、左リールを第一停止すると、通常時に行っているAT抽選は実行せず、通常時に実行しているAT抽選よりも低い確率でAT抽選を実行する、又はAT抽選を実行しない。

【1552】

このように構成することで、例えば、入賞-D1が当選したときに正解操作チャレンジ演出に対応する指示モニタ表示を実行して、左リール第一停止では高目ベルが停止しないことを報知し、遊技者に対して正解操作ができる可能性を高めることができる。

【1553】

なお、この態様において、AT中であって入賞-D1~D8の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、非AT中であって入賞-D1~D8の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、AT中であって入賞-D1~D8の何れかが当選したときの押し順+目押し報知演出を実行する状況では指示モニタ表示を行う態様であってもよい。

【1554】

このように構成することで、例えば、入賞-D1が当選したときに正解操作チャレンジ演出に対応する指示モニタ表示を実行して、左リール第一停止では高目ベルが停止しないことを報知し、遊技者に対して正解操作ができる可能性を高めることができる。また、正解操作チャレンジ演出の実行時や押し順報知演出の実行時に指示モニタ表示を行うため、左リールを第一停止してよいときと左リールを第一停止してはいけないときを明確にすることができる。

【1555】

また、12 択押し順+目押しベルの当選確率と8 択押し順+目押しベルの当選確率とを比較した場合、8 択押し順+目押しベルの当選確率の方が高くなるように構成する。

【1556】

このように構成することで、非AT時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。また、正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

【1557】

また、12 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数と8 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数とは同一となるように構成する。

【1558】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出が発生せず、且つ押し順報知演出も発生していない状況で高目ベルが停止しても、払出数が同一であるため12 択押し順+目押しベルに当選したのか8 択押し順+目押しベルに当選したのかを分かり難くすることができる。

【1559】

また、12 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数と8 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数とを比較した場合、8 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数の方が多くなるように構成してもよい。

【1560】

このように構成することで、非AT時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。

【1561】

また、8 択押し順+目押しベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、第一停止正解押し順と目押し図柄を報知せず第二停止正解押し順も報知しないことで8 種類の押し順+目押しの中から1つの押し順+目押しを当てさせる8 択チャレンジと、第一停止正解押し順と目押し図柄を報知せず第二停止正解押し順を報知する、第一停止正解押し順は報知するが目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順を報知しない、又は第一停止正解押し順は報知しないが目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知しないことで4 種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる4 択チャレンジと、第一停止正解押し順は報知するが目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順を報知する、第一停止正解押し順と目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知しない、又は第一停止正解押し順は報知せず目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知することで2 種類の押し順+目押しのうちから1つの押し順を当てさせる2 択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行う。

【1562】

<<8 択押し順+目押しベルで正解操作チャレンジ演出を実行して、12 択押し順+目押しベルで正解操作チャレンジ演出を実行する場合>>

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-C1~C12の偏りのない12 択押し順+目押しベルと、入賞-D1~D8の偏りのある8 択押し順+目押しベルと、することが考えられる。

【1563】

正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-C1~C12の偏りのない12 択押し順+目押しベルとした場合、入賞-C1~C12の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行わず、入賞-C1~C12の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。また、正解操作チャレンジ演出の対象を入賞-D1~D8の偏りのある8 択押し順+目押しベルとした場合、入賞-D1~D8の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行する状況では指示モニタ表示を行い、入賞-D1~D8の何れかが当選したときの正解操作チャレンジ演出を実行しない状況では指示モニタ表示を行わない態様とする。

【1564】

10

20

30

40

50

このように構成することで、指示モニタの表示により、12 択の正解操作チャレンジ演出なのか8 択の正解操作チャレンジ演出なのかを遊技者に認識させ、ストップスイッチの誤操作を防ぐことができる。

【1565】

また、12 択押し順+目押しベルの当選確率と8 択押し順+目押しベルの当選確率とを比較した場合、8 択押し順+目押しベルの当選確率の方が高くなるように構成する。

【1566】

このように構成することで、非AT時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。また、8 択の正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

10

【1567】

また、12 択押し順+目押しベルの当選確率と8 択押し順+目押しベルの当選確率とを比較した場合、12 択押し順+目押しベルの当選確率の方が高くなるように構成してもよい。

【1568】

このように構成することで、12 択の正解操作チャレンジ演出対象役の当選確率が高くなり、正解操作チャレンジ演出を任意のタイミングで実行しやすくなる。

【1569】

また、12 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数と8 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数とは同一となるように構成する。

20

【1570】

このように構成することで、正解操作チャレンジ演出が発生せず、且つ押し順報知演出も発生していない状況で高目ベルが停止しても、払出数が同一であるため12 択押し順+目押しベルに当選したのか8 択押し順+目押しベルに当選したのかを分かり難くすることができる。

【1571】

また、12 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数と8 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数とを比較した場合、8 択押し順+目押しベルの高目ベルの払出数の方が多くなるように構成してもよい。

【1572】

このように構成することで、非AT時の左リール第一停止操作による払出の増加を防ぐことができる。

30

【1573】

また、12 択押し順+目押しベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、第一停止正解押し順と目押し図柄を報知せず第二停止正解押し順も報知しないことで12 種類の押し順+目押しの中から1つの押し順+目押しを当てさせる12 択チャレンジと、第一停止不正解押し順を1つ報知するが目押し図柄は報知せず（第一停止正解押し順+目押しを4 択にして）第二停止正解押し順を報知しないことで8 種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる8 択チャレンジと、第一停止正解押し順と目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順を報知する、又は第一停止正解押し順は報知しないが目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知しないことで6 種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる6 択チャレンジと、第一停止正解押し順を報知するが目押しは報知せず第二停止正解押し順も報知しない、第一停止不正解押し順を1つ報知するが目押し図柄は報知せず（第一停止正解押し順+目押しを4 択にして）第二停止正解押し順を報知する、又は第一停止不正解押し順を1つと目押し図柄を報知して（第一停止正解押し順を2 択にして）第二停止正解押し順を報知しないことで4 種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる4 択チャレンジと、第一停止正解押し順は報知しないが目押し図柄は報知し第二停止正解押し順も報知することで3 種類の押し順の中から1つの押し順を当てさせる3 択チャレンジと、第一停止正解押し順を報知するが目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順は報知する、第一停止正解押し順と目押し図柄は報知し第二停止正解押し順

40

50

は報知しない、又は第一停止不正解押し順を1つと目押し図柄を報知し第二停止正解押し順を報知することで2種類の押し順+目押しの中から1つの押し順+目押しを当てさせる2択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行わない。

【1574】

また、8択押し順+目押しベルが当選したときの正解操作チャレンジ演出として、第一停止正解押し順と目押し図柄を報知せず第二停止正解押し順も報知しないことで8種類の押し順+目押しの中から1つの押し順+目押しを当てさせる8択チャレンジと、第一停止正解押し順と目押し図柄を報知せず第二停止正解押し順を報知する、第一停止正解押し順は報知するが目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順を報知しない、又は第一停止正解押し順は報知しないが目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知しないことで4種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる4択チャレンジと、第一停止正解押し順は報知するが目押し図柄は報知せず第二停止正解押し順を報知する、第一停止正解押し順と目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知しない、又は第一停止正解押し順は報知せず目押し図柄は報知し第二停止正解押し順を報知することで2種類の押し順+目押しの中から1つの押し順を当てさせる2択チャレンジと、を有する。この何れの正解操作チャレンジ演出の態様であっても指示モニタ表示は行う。

10

【1575】

<目押しチャレンジ失敗時の保証抽選>

12択押し順+目押しベル、8択押し順+目押しベル、又は再遊技-A当選時において正解操作チャレンジ演出(目押しチャレンジ演出を)を実行して、遊技者が停止操作した結果、目押しチャレンジに失敗しても一定の利益を与える態様について説明する。

20

【1576】

目押しチャレンジ演出を実行して遊技者が停止操作を失敗した場合、全回胴停止時の図柄組合せを参照して保障抽選を実行する。

【1577】

例えば、入賞-C1が当選した場合において、左リールの赤セブン図柄を狙って第一停止した場合、全回胴停止時に入賞01~04の何れかの図柄組合せが停止し、左リールの白セブン図柄を狙って第一停止した場合、全回胴停止時に入賞25~40の何れかの図柄組合せが停止する。そして、全回胴停止時の処理で入賞01~04の何れかの図柄組合せが停止していた場合はAT上乗せ抽選を実行し、入賞25~40の何れかの図柄組合せが停止していた場合は保障抽選を実行するような態様が考えられる。

30

【1578】

この場合、左リールの赤セブン図柄を狙って第一停止したときは100%の確率でATゲーム数を50ゲーム上乗せし、左リールの白セブン図柄を狙って第一停止したときは50%の確率でATゲーム数を50ゲーム上乗せするような態様や、左リールの赤セブン図柄を狙って第一停止したときは100%の確率でATゲーム数を50ゲーム上乗せし、左リールの白セブン図柄を狙って第一停止したときは100%の確率でATゲーム数を10ゲーム上乗せするような態様や、左リールの赤セブン図柄を狙って第一停止したときは100%の確率でATゲーム数を50ゲーム上乗せし、左リールの白セブン図柄を狙って第一停止したときは10%の確率でATゲーム数を10ゲーム上乗せするような態様や、左リールの赤セブン図柄を狙って第一停止したときは100%の確率でATゲーム数を50ゲーム上乗せし、左リールの白セブン図柄を狙って第一停止したときは10%の確率でATゲーム数を100ゲーム上乗せするような態様が考えられる。

40

【1579】

換言すると、目押しチャレンジ成功時よりも目押しチャレンジ失敗時の方が遊技者に付与する利益の期待値が低くなるようになっている。

【1580】

このように構成することで、目押しに自信がない遊技者であっても積極的に目押しチャレンジにチャレンジすることができ、遊技の興味が高まる。

50

【1581】

<左押し推奨ランプ>

前述した偏りベル当選時には、左リールを第一停止すると左リール以外を第一停止するよりもA T抽選を高確率で実行するため、通常時に遊技者は左リールを第一停止する方が高目ベルの取得頻度は下がってしまうが、A T抽選を受けられるため相対的に有利な操作態様となっている。また、通常時（非A T時）に偏りベルが当選しても指示モニタは非表示（指示情報を表示しない）となっている。

【1582】

しかし、事前知識のない遊技者が左リールを第一停止する遊技性とは知らずに中リール、又は右リールを第一停止する可能性もあるため、左押し推奨ランプを備え、左リールを第一停止する遊技では左押し推奨ランプが点灯するように構成している。

10

【1583】

左押し推奨ランプは一灯の赤色LEDからなり遊技者が視認可能な位置（例えば、中パネルや操作パネル11、下パネル5等）に備えられている。ただし、左押し推奨ランプは緑色LEDやフルカラーLEDで構成されていてもよい。

【1584】

左押し推奨ランプは指示モニタよりも小さい点灯領域を有しており、遊技者にとって左押し推奨ランプよりも指示モニタの方が視認しやすくなっている。

【1585】

左押し推奨ランプはメイン制御手段が管理するランプであっても、サブ制御手段が管理するランプであってもよく、非A TかA Tかを各制御手段が判断できる構成であればランプの点灯、消灯を切り替えることができるためである。

20

【1586】

左押し推奨ランプは、非A T時には点灯を維持しており、電源投入後にA Tでない場合は点灯し、A Tが開始されるまで点灯を維持する。

【1587】

また、非A T時であって、中リール、又は右リールを第一停止しても左リールを第一停止しても利益が変わらない状況（例えば、はずれ当選時や押し順不問の条件装置が当選時であって、A T抽選を行わない状況やA T抽選を押し順に関わらず行う状況）であっても左押し推奨ランプは点灯を維持する。

30

【1588】

このように構成することで、ランプの点灯状況で遊技者に当選役が察知されてしまうことを防ぐことができる。また、ランプが点灯と消灯を繰り返すことによる遊技者の視線移動を少なくし遊技の疲労を抑えることができる。

【1589】

本実施形態の遊技機は全回胴停止後の或るタイミング（サブ制御手段のデモ時間計時タイミング）から所定時間経過（例えば30秒経過）でデモ画面を表示するようになっているが、デモ画面を表示しているときであっても左押し推奨ランプの点灯状態を維持する（左押し推奨ランプが点灯しているときは点灯しており、消灯しているときは消灯している）。

40

【1590】

このように構成することで、デモ画面が表示されている状況で遊技を開始する遊技者に対しても左リールを第一停止することを認識させることができる。

【1591】

本実施形態の遊技機は全回胴停止後の或るタイミング（メニュー画面表示可能タイミング）にてサブスイッチ20が押下されるとメニュー画面を表示するようになっているが、メニュー画面を表示しているときであっても左押し推奨ランプの点灯状態を維持する（左押し推奨ランプが点灯しているときは点灯しており、消灯しているときは消灯している）。

【1592】

このように構成することで、メニュー画面が表示されている状況で遊技を開始する遊技

50

者に対しても左リールを第一停止することを認識させることができる。

【1593】

また、非ATからATを開始するときは左押し推奨ランプが消灯する。このATを開始するときとは、AT状態をセットした全回胴停止後（AT開始直前の遊技終了後）を契機としてもよいし、全回胴停止時にAT状態をセットした次遊技のスタートスイッチの操作（AT開始遊技）を契機としてもよい。

【1594】

また、ATから非ATとなるとき（ATが終了するとき）は左押し推奨ランプが点灯する。このATから非ATとなるときとは、AT最終遊技の全回胴停止後を契機としてもよいし、AT最終遊技の次遊技のスタートスイッチの操作を契機としてもよいし、有利区間が終了するときに契機としてもよい。なお、左押し推奨ランプが点灯することでATが継続しないことが確定してしまう場合（敗北演出時に復活示唆を行っているが左押し推奨ランプが点灯する等）がないように復活示唆をする場合は復活しないことが確定した後に左押し推奨ランプが点灯するようになっている。

【1595】

また、左押し推奨ランプが点灯しているときに設定確認モードに移行した場合に、左押し推奨ランプが消灯してもよいし、点灯を維持してもよい。なお左押し推奨ランプが消灯する場合は、設定確認モード終了時に再度点灯するようにする。

【1596】

このように構成することで、設定確認モード中は管理者が設定するものであるため、遊技者に対する報知は行わなくてよいためである。なお、設定確認モード中に左押し推奨ランプを消灯することで左押し推奨ランプの制御が正常である（ランプの点灯、及び消灯が切り替え可能である）ことを管理者に確認させることも可能である。この場合は左押し推奨ランプが消灯しているときに設定確認モードに移行すると左押し推奨ランプは消灯を維持してもよいし、点灯に切り替えてもよい（左押し推奨ランプが消灯しているときに設定確認モードに移行して左押し推奨ランプが点灯する場合は、設定確認モード終了時に左押し推奨ランプが消灯する）。

【1597】

左押し推奨ランプ点灯時に電源断があり、再度電源を投入するときに設定キーがONとなって設定変更モードに移行したときは左押し推奨ランプは消灯してもよいし点灯を維持してもよい。なお左押し推奨ランプが消灯する場合は、設定変更モード終了時に再度点灯するようにする。

【1598】

このように構成することで、設定変更モード中は管理者が設定するものであるため、遊技者に対する報知は行わなくてよいためである。なお、設定変更モード中に左押し推奨ランプを消灯することで左押し推奨ランプの制御が正常である（ランプの点灯、及び消灯が切り替え可能である）ことを管理者に確認させることも可能である。この場合は左押し推奨ランプが消灯しているときに設定変更モードに移行すると左押し推奨ランプは消灯を維持してもよいし、点灯に切り替えてもよい（左押し推奨ランプが消灯しているときに設定変更モードに移行して左押し推奨ランプが点灯する場合は、設定変更モード終了時に左押し推奨ランプが消灯する）。

【1599】

また、左押し推奨ランプはAT中も点灯を維持してもよい。この場合、左第一停止正解ベル当選時であっても、中第一停止正解ベル当選時であっても、右第一停止正解ベル当選時であっても左押し推奨ランプは点灯を維持する。これは、遊技機全体として左押しを推奨するという意味で点灯しており、個別の条件装置には対応させない場合に取り得る構成となっている。なお、AT中は指示モニタ表示を行うため、左押し推奨ランプが点灯していても遊技者は押し順を把握できるようになっている。

【1600】

この場合は、状態に応じた左押し推奨ランプの点灯制御を行わないため、プログラム容

10

20

30

40

50

量の削減、及びプログラムの複雑化の解消を実現できる。

【1601】

左押し推奨ランプ点灯時に電源断があり、再度電源を投入したときは左押し推奨ランプが点灯するが、左押し推奨ランプ消灯時に電源断があり、再度電源を投入したときは左押し推奨ランプが点灯しないようになっている。

【1602】

このように構成することで、たとえ一瞬でも点灯するといった構成による遊技者が左押しをしないといけないとの認識を防ぐことができる。

【1603】

本実施形態では遊技機として、スロットマシン（回胴式遊技機）の構成を例示したが、ぱちんこ遊技機、じゃん球遊技機、パロット、又はカジノマシン等の様々な遊技機に適用できる。

【1604】

以上、本発明を説明するために記載した本実施形態の各技術内容は、適宜組み合わせることができる。

【符号の説明】

【1605】

P S 1 : スロットマシン
P S 2 : フロントパネル
P S 3 : キャビネット
S : スピーカ
1 0 0 : 主制御基板
1 0 0 0 : 副制御基板
4 : 表示窓
5 : 下部パネル
6 : リールユニット
7 : リールベース
8 a : 左リール
8 b : 中リール
8 c : 右リール
1 1 : 操作パネル
1 2 : スタートスイッチ
1 3 : ストップスイッチ
1 3 a : 左ストップスイッチ
1 3 b : 中ストップスイッチ
1 3 c : 右ストップスイッチ
1 7 : メダル投入口
1 8 : M A Xベットスイッチ
1 9 : 1ベットスイッチ
2 0 : サブスイッチ
2 1 : サブ十字キースイッチ
2 2 : イジェクトスイッチ
2 4 : 操作指示ランプ
2 4 a : 左操作指示ランプ
2 4 b : 中操作指示ランプ
2 4 c : 右操作指示ランプ
2 5 : ベット数表示ランプ
2 5 a : 1ベットランプ
2 5 b : 2ベットランプ
2 5 c : 3ベットランプ

10

20

30

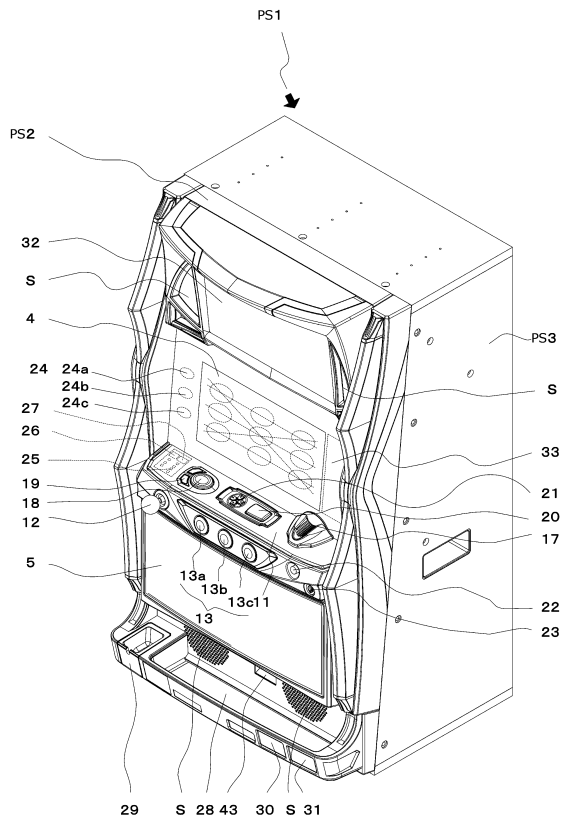
40

50

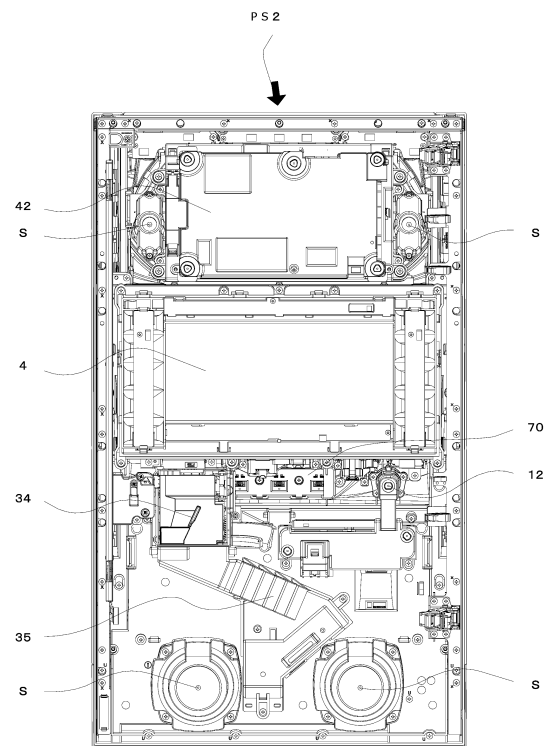
- 2 6 : クレジット数表示器
- 2 6 a : セグメント表示器
- 2 6 b : セグメント表示器
- 2 7 : 獲得枚数表示器
- 2 7 a : セグメント表示器
- 2 7 b : セグメント表示器
- 2 8 : 受け皿
- 2 9 : タバコ用灰皿
- 3 0 : シール収容部
- 3 2 : 表示装置
- 3 4 : メダルセレクタ
- 3 7 : 設定キースイッチ
- 3 8 : 設定スイッチ
- 3 9 : 電源装置
- 4 0 : 電源スイッチ
- 4 4 : ホッパ
- 4 5 : メダル払出口
- 4 6 : 補助タンク
- 4 7 : 外部出力端子板

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

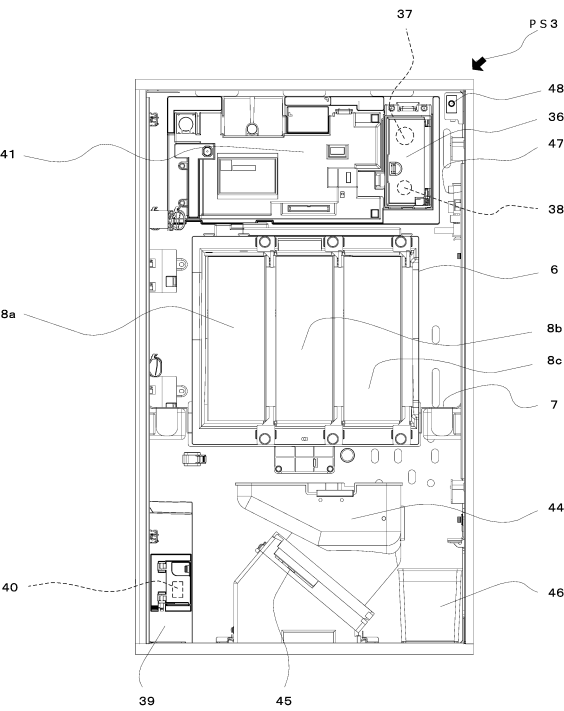
20

30

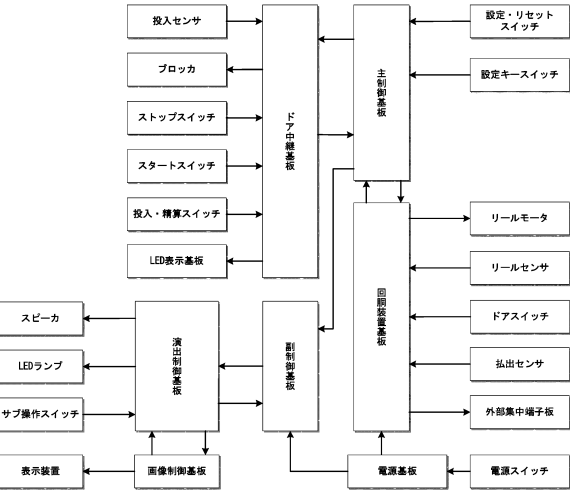
40

50

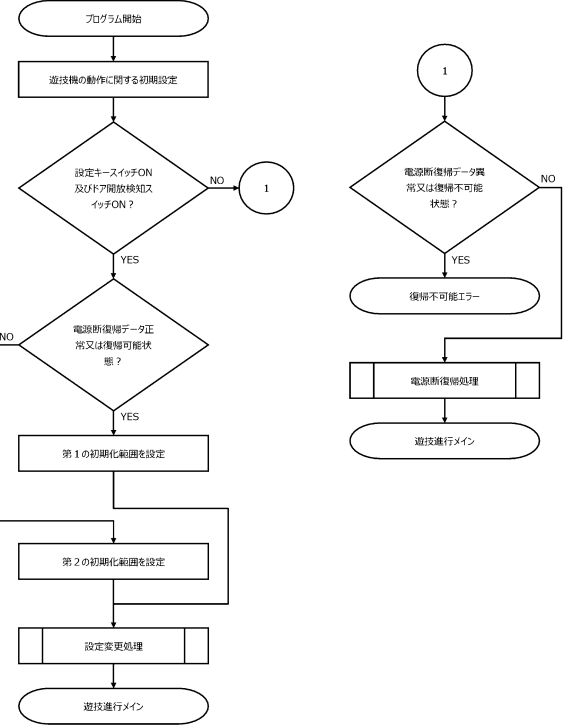
【図 3】



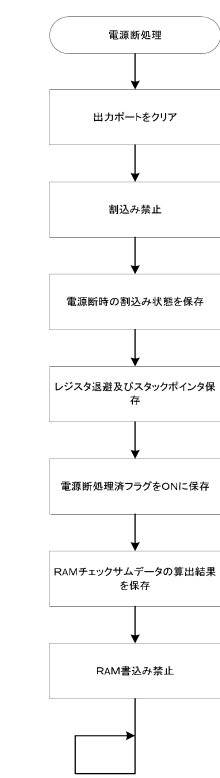
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

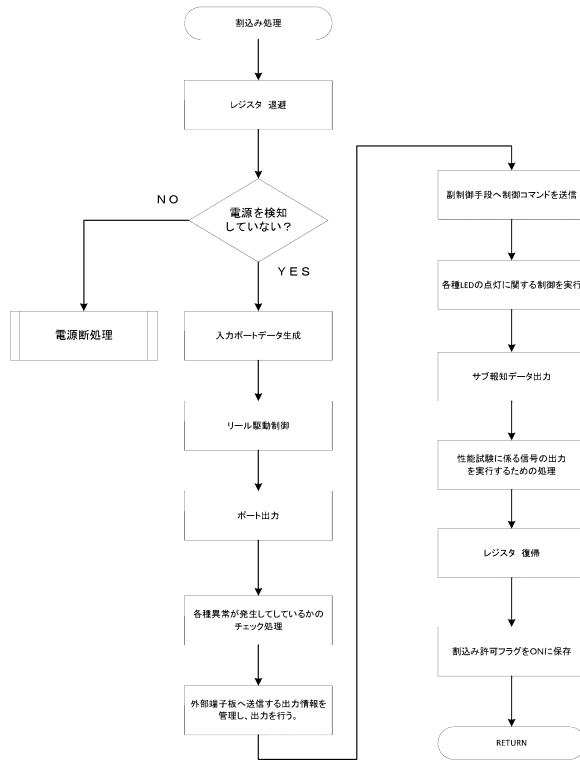
20

30

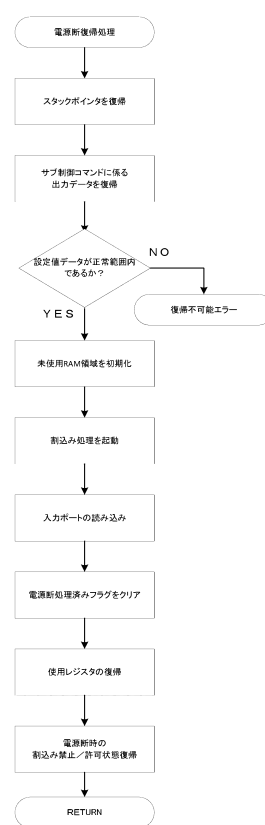
40

50

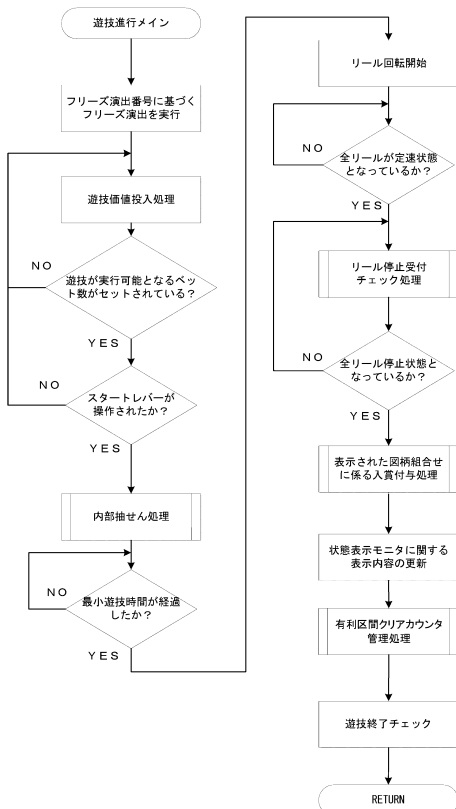
【図 7】



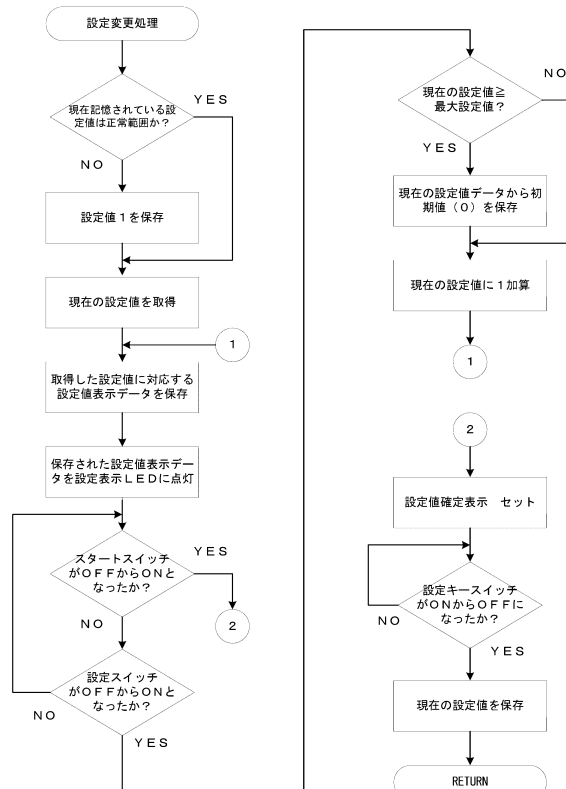
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

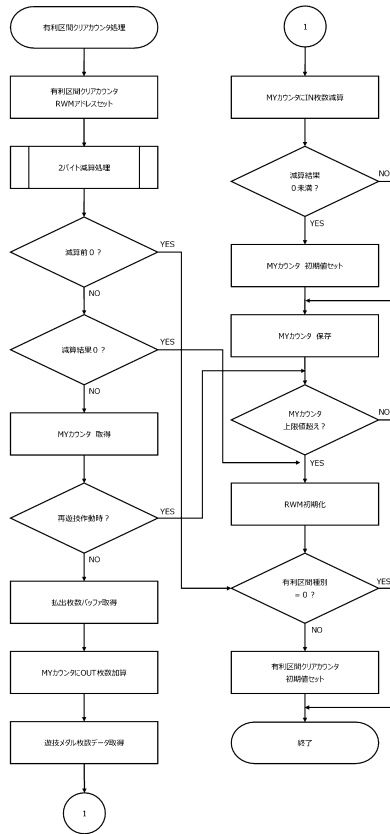
20

30

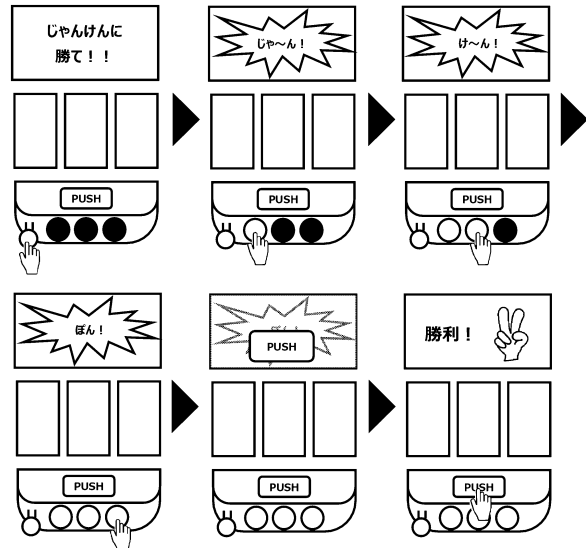
40

50

【図 11】



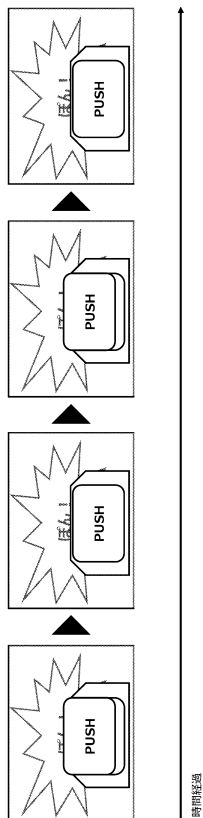
【図 12】



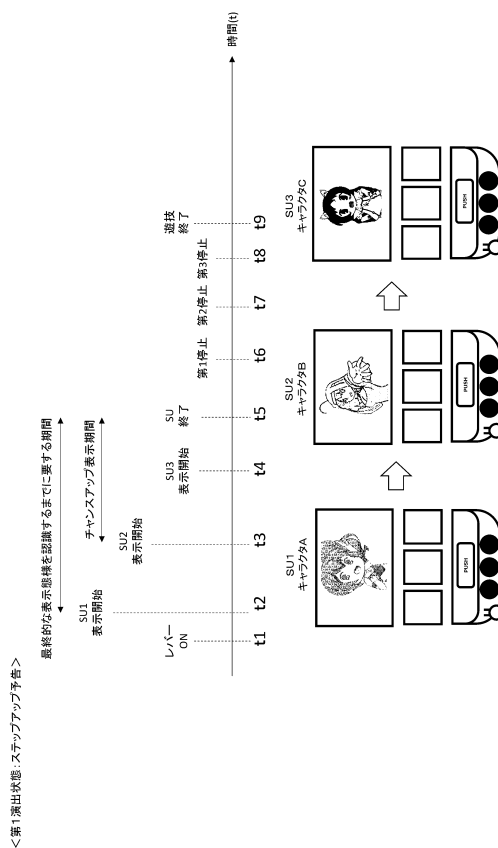
10

20

【図 13】



【図 14】

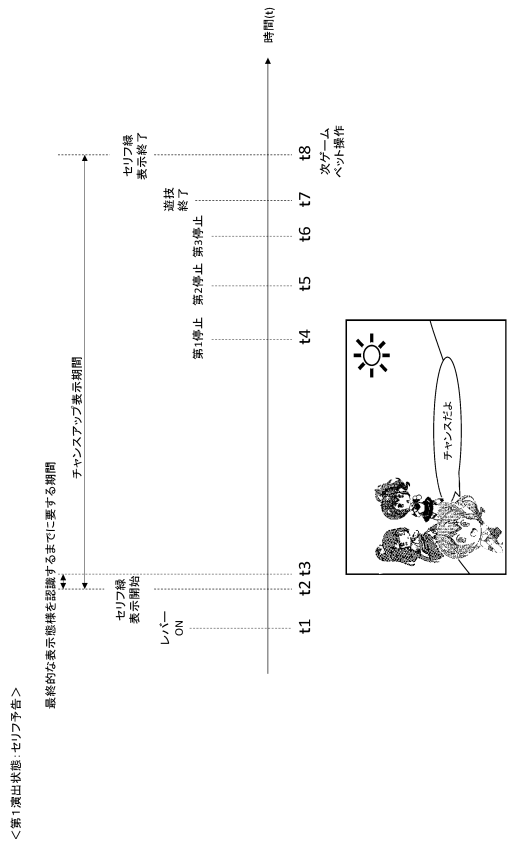


30

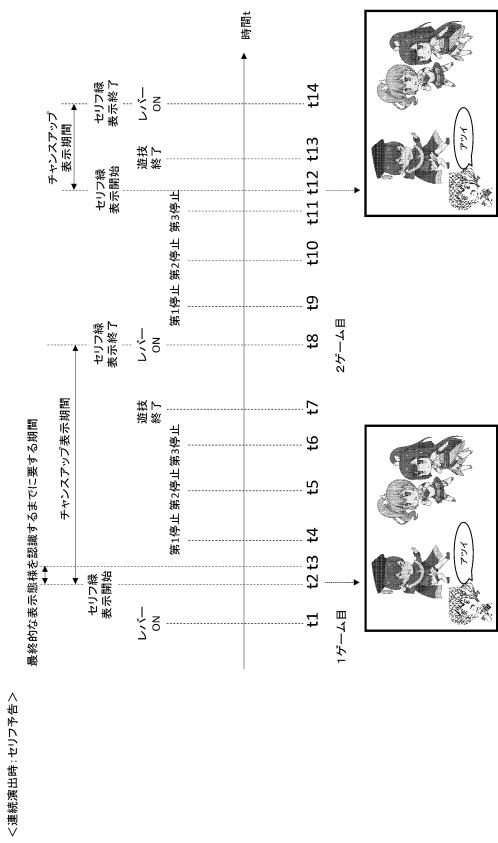
40

50

【図 15】



【図 16】



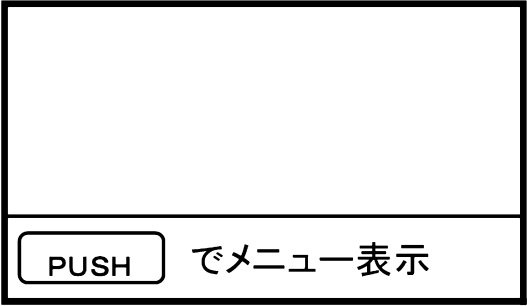
10

20

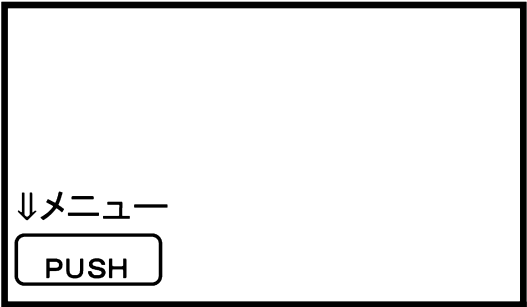
【図 17】



【図 18】



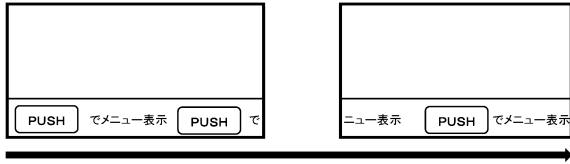
30



40

50

【図 19】



時間経過

【図 20】

	第1回胴	第2回胴	第3回胴
0	リプレイ	チェリー	チェリー
19	ブランクA	バー	ブランクC
18	ブランクB	月A	ラクダ
17	ラクダ	ラクダ	月A
16	月B	リプレイ	リプレイ
15	リプレイ	チェリー	ブランクB
14	ブランクC	ブランクB	バー
13	ブランクB	月A	ラクダ
12	ラクダ	ラクダ	月B
11	月A	リプレイ	リプレイ
10	リプレイ	チェリー	ブランクB
9	バー	ブランクA	ブランクA
8	チェリー	月A	ラクダ
7	ラクダ	ラクダ	月B
6	月A	リプレイ	リプレイ
5	リプレイ	チェリー	チェリー
4	赤セブン	赤セブン	赤セブン
3	チェリー	月A	ラクダ
2	ラクダ	ラクダ	月A
1	月B	リプレイ	リプレイ

10

20

【図 21】

	第1回胴	第2回胴	第3回胴	入賞図柄・作動図柄・ パターン図柄名称	規定数及び遊技状態	
					3枚	2枚
					①	②
1	月A	リプレイ	赤セブン	2種BB01作動図柄	2種BB	—
2	月A	リプレイ	バー	2種BB01作動図柄	2種BB	—
3	月A	リプレイ	ラクダ	2種BB01作動図柄	2種BB	—
4	月B	リプレイ	赤セブン	2種BB01作動図柄	2種BB	—
5	月B	リプレイ	バー	2種BB01作動図柄	2種BB	—
6	月B	リプレイ	ラクダ	2種BB01作動図柄	2種BB	—
7	月A	月A	リプレイ	2種BB02作動図柄	2種BB	—
8	月B	月A	リプレイ	2種BB02作動図柄	2種BB	—
9	リプレイ	チェリー	リプレイ	2種BB03作動図柄	2種BB	—
10	リプレイ	リプレイ	赤セブン	2種BB04作動図柄	2種BB	—
11	リプレイ	リプレイ	バー	2種BB04作動図柄	2種BB	—
12	リプレイ	リプレイ	ブランクA	2種BB04作動図柄	2種BB	—
13	リプレイ	リプレイ	ブランクC	2種BB04作動図柄	2種BB	—
14	リプレイ	ラクダ	赤セブン	2種BB05作動図柄	2種BB	—
15	リプレイ	ラクダ	バー	2種BB05作動図柄	2種BB	—
16	リプレイ	ラクダ	ブランクA	2種BB05作動図柄	2種BB	—
17	リプレイ	ラクダ	ブランクC	2種BB05作動図柄	2種BB	—
18	ラクダ	ラクダ	ラクダ	2種BB06作動図柄	2種BB	—
19	ラクダ	リプレイ	赤セブン	2種BB07作動図柄	2種BB	—
20	ラクダ	リプレイ	バー	2種BB07作動図柄	2種BB	—
21	ラクダ	リプレイ	ブランクA	2種BB07作動図柄	2種BB	—
22	ラクダ	リプレイ	ブランクC	2種BB07作動図柄	2種BB	—
23	月A	ラクダ	ラクダ	2種BB08作動図柄	2種BB	—
24	月B	ラクダ	ラクダ	2種BB08作動図柄	2種BB	—
25	月A	チェリー	リプレイ	2種BB09作動図柄	2種BB	—
26	月B	チェリー	リプレイ	2種BB09作動図柄	2種BB	—
27	月A	チェリー	ラクダ	2種BB10作動図柄	2種BB	—
28	月B	チェリー	ラクダ	2種BB10作動図柄	2種BB	—
29	月A	リプレイ	リプレイ	再遊技01作動図柄	再遊技	—
30	月B	リプレイ	リプレイ	再遊技01作動図柄	再遊技	—
31	ラクダ	バー	バー	再遊技02作動図柄	再遊技	—
32	ラクダ	チェリー	バー	再遊技02作動図柄	再遊技	—
33	リプレイ	赤セブン	バー	再遊技03作動図柄	再遊技	—
34	リプレイ	バー	バー	再遊技03作動図柄	再遊技	—
35	リプレイ	ブランクA	バー	再遊技03作動図柄	再遊技	—
36	リプレイ	ブランクB	バー	再遊技03作動図柄	再遊技	—
37	バー	チェリー	チェリー	再遊技04作動図柄	再遊技	—
38	リプレイ	チェリー	チェリー	再遊技04作動図柄	再遊技	—
39	バー	バー	チェリー	再遊技04作動図柄	再遊技	—
40	リプレイ	バー	チェリー	再遊技04作動図柄	再遊技	—
41	バー	チェリー	ブランクB	再遊技04作動図柄	再遊技	—
42	リプレイ	チェリー	ブランクB	再遊技04作動図柄	再遊技	—
43	バー	バー	ブランクB	再遊技04作動図柄	再遊技	—
44	リプレイ	バー	ブランクB	再遊技04作動図柄	再遊技	—
45	リプレイ	赤セブン	赤セブン	再遊技05作動図柄	再遊技	—
46	リプレイ	バー	赤セブン	再遊技06作動図柄	再遊技	—
47	リプレイ	ブランクA	赤セブン	再遊技06作動図柄	再遊技	—
48	リプレイ	ブランクB	赤セブン	再遊技06作動図柄	再遊技	—

【図 22】

	第1回胴	第2回胴	第3回胴	入賞図柄・作動図柄・ パターン図柄名称	規定数及び遊技状態	
					3枚	2枚
					①	②
49	月A	月A	ラクダ	入賞01入賞図柄	3	2
50	月B	月A	ラクダ	入賞01入賞図柄	3	2
51	ラクダ	月A	月A	入賞02入賞図柄	3	2
52	ラクダ	月A	月B	入賞02入賞図柄	3	2
53	月A	ラクダ	リプレイ	入賞03入賞図柄	12	2
54	月B	ラクダ	リプレイ	入賞03入賞図柄	12	2
55	月A	赤セブン	月A	入賞04入賞図柄	1	2
56	月A	バー	月A	入賞04入賞図柄	1	2
57	月A	ブランクA	月A	入賞05入賞図柄	1	2
58	月A	ブランクB	月A	入賞05入賞図柄	1	2
59	月A	赤セブン	月B	入賞06入賞図柄	1	2
60	月A	バー	月B	入賞06入賞図柄	1	2
61	月A	ブランクA	月B	入賞07入賞図柄	1	2
62	月A	ブランクB	月B	入賞07入賞図柄	1	2
63	月B	赤セブン	月A	入賞08入賞図柄	1	2
64	月B	バー	月A	入賞08入賞図柄	1	2
65	月B	ブランクA	月A	入賞09入賞図柄	1	1
66	月B	ブランクB	月A	入賞09入賞図柄	1	1
67	月B	赤セブン	月B	入賞10入賞図柄	1	2
68	月B	バー	月B	入賞10入賞図柄	1	2
69	月B	ブランクA	月B	入賞11入賞図柄	1	2
70	月B	ブランクB	月B	入賞11入賞図柄	1	2
71	月A	赤セブン	ブランクC	入賞12入賞図柄	1	1
72	月A	バー	ブランクC	入賞12入賞図柄	1	1
73	月A	ブランクA	ブランクC	入賞13入賞図柄	1	1
74	月A	ブランクB	ブランクC	入賞13入賞図柄	1	1
75	月A	赤セブン	ブランクA	入賞14入賞図柄	1	1
76	月A	バー	ブランクA	入賞14入賞図柄	1	1
77	月A	ブランクA	ブランクA	入賞15入賞図柄	1	1
78	月A	ブランクB	ブランクA	入賞15入賞図柄	1	1
79	月B	赤セブン	ブランクC	入賞16入賞図柄	1	1
80	月B	バー	ブランクC	入賞16入賞図柄	1	1
81	月B	ブランクA	ブランクC	入賞17入賞図柄	1	1
82	月B	ブランクB	ブランクC	入賞17入賞図柄	1	1
83	月B	赤セブン	ブランクA	入賞18入賞図柄	1	1
84	月B	バー	ブランクA	入賞18入賞図柄	1	1
85	月B	ブランクA	ブランクA	入賞19入賞図柄	1	1
86	月B	ブランクB	ブランクA	入賞19入賞図柄	1	1
87	バー	赤セブン	月A	入賞20入賞図柄	1	1
88	バー	バー	月A	入賞21入賞図柄	1	1
89	バー	ブランクA	月A	入賞22入賞図柄	1	1
90	バー	ブランクB	月A	入賞23入賞図柄	1	1
91	バー	赤セブン	月B	入賞24入賞図柄	1	1
92	バー	バー	月B	入賞25入賞図柄	1	1
93	バー	ブランクA	月B	入賞26入賞図柄	1	1
94	バー	ブランクB	月B	入賞27入賞図柄	1	1
95	ブランクA	赤セブン	月A	入賞28入賞図柄	1	1
96	ブランクA	バー	月A	入賞29入賞図柄	1	1

30

40

50

【図 23】

	第1回贈	第2回贈	第3回贈	入賞図柄・作動図柄・ パタン図柄名称	規定数及び遊技枚数	
					3枚	2枚
					①	②
97	アヅカA	アヅカA	月A	入賞30入賞図柄	1	1
98	アヅカA	アヅカB	月B	入賞31入賞図柄	1	1
99	アヅカA	赤桃7つ	月A	入賞32入賞図柄	1	1
100	アヅカA	ルー	月B	入賞33入賞図柄	1	1
101	アヅカA	アヅカA	月B	入賞34入賞図柄	1	1
102	アヅカA	アヅカB	月B	入賞35入賞図柄	1	1
103	赤桃7つ	月A	チェリー	入賞36入賞図柄	1	1
104	チェリー	月A	チェリー	入賞36入賞図柄	1	1
105	アヅカB	月A	チェリー	入賞37入賞図柄	1	1
106	アヅカC	月A	チェリー	入賞37入賞図柄	1	1
107	赤桃7つ	月A	アヅカB	入賞38入賞図柄	1	1
108	チェリー	月A	アヅカB	入賞38入賞図柄	1	1
109	アヅカB	月A	アヅカB	入賞39入賞図柄	1	1
110	アヅカC	月A	アヅカB	入賞39入賞図柄	1	1
111	赤桃7つ	7ツツ	チェリー	入賞40入賞図柄	1	1
112	チェリー	7ツツ	チェリー	入賞41入賞図柄	1	1
113	アヅカB	7ツツ	チェリー	入賞42入賞図柄	1	1
114	アヅカC	7ツツ	チェリー	入賞43入賞図柄	1	1
115	赤桃7つ	7ツツ	アヅカB	入賞44入賞図柄	1	1
116	チェリー	7ツツ	アヅカB	入賞45入賞図柄	1	1
117	アヅカB	7ツツ	アヅカB	入賞46入賞図柄	1	1
118	アヅカC	7ツツ	アヅカB	入賞47入賞図柄	1	1
119	7ツツ	月A	赤桃7つ	入賞48入賞図柄	1	1
120	7ツツ	月A	チェリー	入賞49入賞図柄	1	1
121	7ツツ	月A	アヅカB	入賞50入賞図柄	1	1
122	7ツツ	月A	ルー	入賞51入賞図柄	1	1
123	7ツツ	7ツツ	赤桃7つ	入賞52入賞図柄	1	1
124	アヅカB	7ツツ	赤桃7つ	入賞53入賞図柄	1	1
125	7ツツ	7ツツ	ルー	入賞54入賞図柄	1	1
126	アヅカB	7ツツ	ルー	入賞55入賞図柄	1	1
127	赤桃7つ	7ツツ	7ツツ	入賞56入賞図柄	1	1
128	チェリー	7ツツ	7ツツ	入賞56入賞図柄	1	1
129	アヅカB	7ツツ	7ツツ	入賞57入賞図柄	1	1
130	アヅカC	7ツツ	7ツツ	入賞57入賞図柄	1	1
131	チェリー	赤桃7つ	7ツツ	入賞58入賞図柄	1	1
132	チェリー	ルー	7ツツ	入賞58入賞図柄	1	1
133	チェリー	アヅカA	7ツツ	入賞59入賞図柄	1	1
134	チェリー	アヅカB	7ツツ	入賞59入賞図柄	1	1
135	アヅカB	赤桃7つ	7ツツ	入賞60入賞図柄	1	1
136	アヅカB	ルー	7ツツ	入賞60入賞図柄	1	1
137	アヅカB	アヅカA	7ツツ	入賞61入賞図柄	1	1
138	アヅカB	アヅカB	7ツツ	入賞61入賞図柄	1	1
139	月A	月A	月A	入賞62入賞図柄	1	2
140	月A	月A	月B	入賞62入賞図柄	1	2
141	月B	月A	月A	入賞62入賞図柄	1	2
142	月B	月A	月B	入賞62入賞図柄	1	2
143	月A	7ツツ	月A	入賞62入賞図柄	1	2
144	月A	7ツツ	月B	入賞62入賞図柄	1	2
145	月B	7ツツ	月A	入賞62入賞図柄	1	2
146	月B	7ツツ	月B	入賞62入賞図柄	1	2

【図 24】

	第1回割	第2回割	第3回割	入賞図柄・作動図柄・ パターン図柄名称	規定数及び遊技状態	
					3枚	2枚
					①	②
147	リプル	チェリ	赤桃77	入賞63入賞図柄	2	2
148	リプル	チェリ	アプラクC	入賞63入賞図柄	2	2
149	リプル	チェリ	ル	入賞64入賞図柄	1	1
150	リプル	チェリ	アプラクA	入賞64入賞図柄	1	1
151	リプル	リプル	リプル	入賞65入賞図柄	2	2
152	リプル	チェリ	月A	入賞66入賞図柄	1	1
153	リプル	チェリ	月B	入賞66入賞図柄	1	1
154	リプル	リプル	チェリ	入賞67入賞図柄	1	1
155	カガ	カガ	赤桃77	入賞68入賞図柄	1	1
156	カガ	カガ	ル	入賞68入賞図柄	1	1
157	カガ	カガ	アプラクA	入賞68入賞図柄	1	1
158	カガ	カガ	アプラクC	入賞68入賞図柄	1	1
159	月A	赤桃77	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
160	月A	ル	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
161	月A	アプラクA	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
162	月A	アプラクB	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
163	月A	赤桃77	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
164	月A	ル	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
165	月A	アプラクA	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
166	月A	アプラクB	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
167	月B	赤桃77	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
168	月B	ル	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
169	月B	アプラクA	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
170	月B	アプラクB	チェリ	入賞69入賞図柄	1	1
171	月B	赤桃77	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
172	月B	ル	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
173	月B	アプラクA	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
174	月B	アプラクB	カガ	入賞69入賞図柄	1	1
175	アプラクB	チェリ	赤桃77	入賞70入賞図柄	1	1
176	アプラクB	チェリ	ル	入賞71入賞図柄	1	1

10

20

【図 25】

ボーンA 条件装置	条件装置	通称	構成要素
0	なし	ハズレ	—
1	2種B B—A条件装置	2種B B—A	2種B B 0 1
2	2種B B—B条件装置	2種B B—B	2種B B 0 2
3	2種B B—C条件装置	2種B B—C	2種B B 0 3
4	2種B B—D条件装置	2種B B—D	2種B B 0 4
5	2種B B—E条件装置	2種B B—E	2種B B 0 5
6	2種B B—F条件装置	2種B B—F	2種B B 0 6～0 7
7	2種B B—G条件装置	2種B B—G	2種B B 0 8
8	2種B B—H条件装置	2種B B—H	2種B B 0 9
9	2種B B—I条件装置	2種B B—I	2種B B 1 0

【図 26】

入庫	品名・用途	単位	数量	単位換算	2年度上・下年度	2年度上・下年度
13-1	入庫品	13-1	13-1	13-1	13-1	13-1
13-2	入庫品	13-2	13-2	13-2	13-2	13-2
13-3	入庫品	13-3	13-3	13-3	13-3	13-3
13-4	入庫品	13-4	13-4	13-4	13-4	13-4
13-5	入庫品	13-5	13-5	13-5	13-5	13-5
13-6	入庫品	13-6	13-6	13-6	13-6	13-6
13-7	入庫品	13-7	13-7	13-7	13-7	13-7
13-8	入庫品	13-8	13-8	13-8	13-8	13-8
13-9	入庫品	13-9	13-9	13-9	13-9	13-9
13-10	入庫品	13-10	13-10	13-10	13-10	13-10
13-11	入庫品	13-11	13-11	13-11	13-11	13-11
13-12	入庫品	13-12	13-12	13-12	13-12	13-12
13-13	入庫品	13-13	13-13	13-13	13-13	13-13
13-14	入庫品	13-14	13-14	13-14	13-14	13-14
13-15	入庫品	13-15	13-15	13-15	13-15	13-15
13-16	入庫品	13-16	13-16	13-16	13-16	13-16
13-17	入庫品	13-17	13-17	13-17	13-17	13-17
13-18	入庫品	13-18	13-18	13-18	13-18	13-18
13-19	入庫品	13-19	13-19	13-19	13-19	13-19
13-20	入庫品	13-20	13-20	13-20	13-20	13-20
13-21	入庫品	13-21	13-21	13-21	13-21	13-21
13-22	入庫品	13-22	13-22	13-22	13-22	13-22
13-23	入庫品	13-23	13-23	13-23	13-23	13-23
13-24	入庫品	13-24	13-24	13-24	13-24	13-24
13-25	入庫品	13-25	13-25	13-25	13-25	13-25
13-26	入庫品	13-26	13-26	13-26	13-26	13-26
13-27	入庫品	13-27	13-27	13-27	13-27	13-27
13-28	入庫品	13-28	13-28	13-28	13-28	13-28
13-29	入庫品	13-29	13-29	13-29	13-29	13-29
13-30	入庫品	13-30	13-30	13-30	13-30	13-30
13-31	入庫品	13-31	13-31	13-31	13-31	13-31
13-32	入庫品	13-32	13-32	13-32	13-32	13-32
13-33	入庫品	13-33	13-33	13-33	13-33	13-33
13-34	入庫品	13-34	13-34	13-34	13-34	13-34
13-35	入庫品	13-35	13-35	13-35	13-35	13-35
13-36	入庫品	13-36	13-36	13-36	13-36	13-36
13-37	入庫品	13-37	13-37	13-37	13-37	13-37
13-38	入庫品	13-38	13-38	13-38	13-38	13-38
13-39	入庫品	13-39	13-39	13-39	13-39	13-39
13-40	入庫品	13-40	13-40	13-40	13-40	13-40
13-41	入庫品	13-41	13-41	13-41	13-41	13-41
13-42	入庫品	13-42	13-42	13-42	13-42	13-42
13-43	入庫品	13-43	13-43	13-43	13-43	13-43
13-44	入庫品	13-44	13-44	13-44	13-44	13-44
13-45	入庫品	13-45	13-45	13-45	13-45	13-45
13-46	入庫品	13-46	13-46	13-46	13-46	13-46
13-47	入庫品	13-47	13-47	13-47	13-47	13-47
13-48	入庫品	13-48	13-48	13-48	13-48	13-48
13-49	入庫品	13-49	13-49	13-49	13-49	13-49
13-50	入庫品	13-50	13-50	13-50	13-50	13-50
13-51	入庫品	13-51	13-51	13-51	13-51	13-51
13-52	入庫品	13-52	13-52	13-52	13-52	13-52
13-53	入庫品	13-53	13-53	13-53	13-53	13-53
13-54	入庫品	13-54	13-54	13-54	13-54	13-54
13-55	入庫品	13-55	13-55	13-55	13-55	13-55

30

40

【圖 27】

[illegible]

【図 28】

[illegible]

【圖 29】

種別	非 R T (通常時)					
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
2 種 B B - A	3240	3240	3240	3240	3240	3240
2 種 B B - B	3240	3240	3240	3240	3240	3240
2 種 B B - C	4860	4860	4860	4860	4860	4860
2 種 B B - D	3240	3240	3240	3240	3240	3240
2 種 B B - E	3240	3240	3240	3240	3240	3240
2 種 B B - F	6156	6156	6156	6156	6156	6156
2 種 B B - G	11162	11162	11162	11162	11162	11162
2 種 B B - H	1392	1392	1392	1392	1392	1392
2 種 B B - I	90	90	90	90	90	90
再遊技 - A	864	864	864	864	864	864
再遊技 - B	610	610	610	610	610	610
再遊技 - C	4	4	4	4	4	4
再遊技 - D	4000	4000	4000	4000	4000	4000
再遊技 - E	3000	3000	3000	3000	3000	3000
再遊技 - F	500	500	500	500	500	500
入賞 - A 1	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 2	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 3	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 4	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 5	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 6	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 7	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 8	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 9	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 1 0	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 1 1	900	900	900	900	900	900
入賞 - A 1 2	900	900	900	900	900	900

【図 30】

種別	非 R T (通常時)					
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
入賞 - B 1	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 2	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 3	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 4	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 5	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 6	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 7	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 8	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 9	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 1 0	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 1 1	750	750	750	750	750	750
入賞 - B 1 2	750	750	750	750	750	750
入賞 - C 1	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 2	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 3	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 4	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 5	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 6	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 7	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 8	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 9	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 1 0	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 1 1	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - C 1 2	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞 - D 1	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 2	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 3	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 4	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 5	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 6	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 7	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 8	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 9	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 1 0	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 1 1	721	721	721	721	721	721
入賞 - D 1 2	721	721	721	721	721	721

【図 3 1】

種別	非 R T (通常時)					
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
入賞－E 1	106	106	106	106	106	106
入賞－E 2	106	106	106	106	106	106
入賞－E 3	106	106	106	106	106	106
入賞－E 4	106	106	106	106	106	106
入賞－E 5	106	106	106	106	106	106
入賞－E 6	106	106	106	106	106	106
入賞－E 7	106	106	106	106	106	106
入賞－E 8	106	106	106	106	106	106
入賞－E 9	106	106	106	106	106	106
入賞－E 1 0	106	106	106	106	106	106
入賞－E 1 1	106	106	106	106	106	106
入賞－E 1 2	106	106	106	106	106	106
入賞－F 1	5	5	5	5	5	5
入賞－F 2	5	5	5	5	5	5
入賞－F 3	5	5	5	5	5	5
入賞－F 4	5	5	5	5	5	5
入賞－F 5	5	5	5	5	5	5
入賞－F 6	5	5	5	5	5	5
入賞－F 7	5	5	5	5	5	5
入賞－F 8	5	5	5	5	5	5
入賞－F 9	5	5	5	5	5	5
入賞－F 1 0	5	5	5	5	5	5
入賞－F 1 1	5	5	5	5	5	5
入賞－F 1 2	5	5	5	5	5	5
入賞－G	500	500	500	500	500	500
入賞－H	100	100	100	100	100	100
入賞－I	200	200	200	200	200	200
入賞－J	1000	1000	1000	1000	1000	1000
入賞－K	50	50	50	50	50	50
入賞－L	50	50	50	50	50	50
入賞－M	70	70	70	70	70	70
入賞－N	20	20	20	20	20	20
入賞－O	20	20	20	20	20	20
入賞－P	20	20	20	20	20	20
入賞－Q	20	20	20	20	20	20

【圖 3 2】

状態	回数	開始	RWM初期化	変動認識	移行先
非 RT	∞	開始	2種BB-A条件装置、2種BB-B条件装置、 2種BB-C条件装置、2種BB-D条件装置又は 2種BB-E条件装置が作動したとき	—	RT 1
		終了	2種BB-F条件装置が作動したとき	RT 2	
			2種BB-G条件装置が作動したとき	RT 3	
			2種BB-H条件装置が作動したとき	RT 4	
			2種BB-I条件装置が作動したとき	RT 5	
RT 1	∞	開始	2種BB-A条件装置、2種BB-B条件装置、 2種BB-C条件装置、2種BB-D条件装置又は 2種BB-E条件装置が作動したとき	—	
		終了	2種BB 0 1作動図柄、2種BB 0 2作動図柄、 2種BB 0 3作動図柄、2種BB 0 4作動図柄又は 2種BB 0 5作動図柄が表示されたとき	2種BB作動時	
		開始	2種BB-F条件装置が作動したとき	—	
		終了	2種BB 0 6作動図柄又は2種BB 0 7作動図柄が表示されたとき	2種BB作動時	
		開始	2種BB-G条件装置が作動したとき	—	
RT 2	∞	開始	2種BB-H条件装置が作動したとき	2種BB作動時	
RT 3	∞	終了	2種BB 0 8作動図柄が表示されたとき	—	
RT 4	∞	開始	2種BB-I条件装置が作動したとき	—	
		終了	2種BB 0 9作動図柄が表示されたとき	2種BB作動時	
RT 5	∞	開始	2種BB-J条件装置が作動したとき	—	
		終了	2種BB 1 0作動図柄が表示されたとき	2種BB作動時	
2種BB作動時	∞	開始	2種BB作動図柄が表示されたとき	—	
		終了	2種BB 1 1作動図柄が表示されたとき	非 RT	

10

20

【図 3 3】

種別	R T 1					
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
2種BB-A	0	0	0	0	0	0
2種BB-B	0	0	0	0	0	0
2種BB-C	0	0	0	0	0	0
2種BB-D	0	0	0	0	0	0
2種BB-E	0	0	0	0	0	0
2種BB-F	0	0	0	0	0	0
2種BB-G	0	0	0	0	0	0
2種BB-H	0	0	0	0	0	0
2種BB-I	0	0	0	0	0	0
再遊技-A	864	864	864	864	864	864
再遊技-B	610	610	610	610	610	610
再遊技-C	300	270	240	210	180	150
再遊技-D	4000	4000	4000	4000	4000	4000
再遊技-E	3000	3000	3000	3000	3000	3000
再遊技-F	500	500	500	500	500	500
入賞-A 1	900	900	900	900	900	900
入賞-A 2	900	900	900	900	900	900
入賞-A 3	900	900	900	900	900	900
入賞-A 4	900	900	900	900	900	900
入賞-A 5	900	900	900	900	900	900
入賞-A 6	900	900	900	900	900	900
入賞-A 7	900	900	900	900	900	900
入賞-A 8	900	900	900	900	900	900
入賞-A 9	900	900	900	900	900	900
入賞-A 1 0	900	900	900	900	900	900
入賞-A 1 1	900	900	900	900	900	900
入賞-A 1 2	900	900	900	900	900	900

【図 3 4】

種別	R T 1					
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
入賞－B 1	750	750	750	750	750	750
入賞－B 2	750	750	750	750	750	750
入賞－B 3	750	750	750	750	750	750
入賞－B 4	750	750	750	750	750	750
入賞－B 5	750	750	750	750	750	750
入賞－B 6	750	750	750	750	750	750
入賞－B 7	750	750	750	750	750	750
入賞－B 8	750	750	750	750	750	750
入賞－B 9	750	750	750	750	750	750
入賞－B 1 0	750	750	750	750	750	750
入賞－B 1 1	750	750	750	750	750	750
入賞－B 1 2	750	750	750	750	750	750
入賞－C 1	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 2	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 3	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 4	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 5	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 6	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 7	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 8	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 9	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 1 0	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 1 1	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－C 1 2	1998	1998	1998	1998	1998	1998
入賞－D 1	721	721	721	721	721	721
入賞－D 2	721	721	721	721	721	721
入賞－D 3	721	721	721	721	721	721
入賞－D 4	721	721	721	721	721	721
入賞－D 5	721	721	721	721	721	721
入賞－D 6	721	721	721	721	721	721
入賞－D 7	721	721	721	721	721	721
入賞－D 8	721	721	721	721	721	721
入賞－D 9	721	721	721	721	721	721
入賞－D 1 0	721	721	721	721	721	721
入賞－D 1 1	721	721	721	721	721	721
入賞－D 1 2	721	721	721	721	721	721

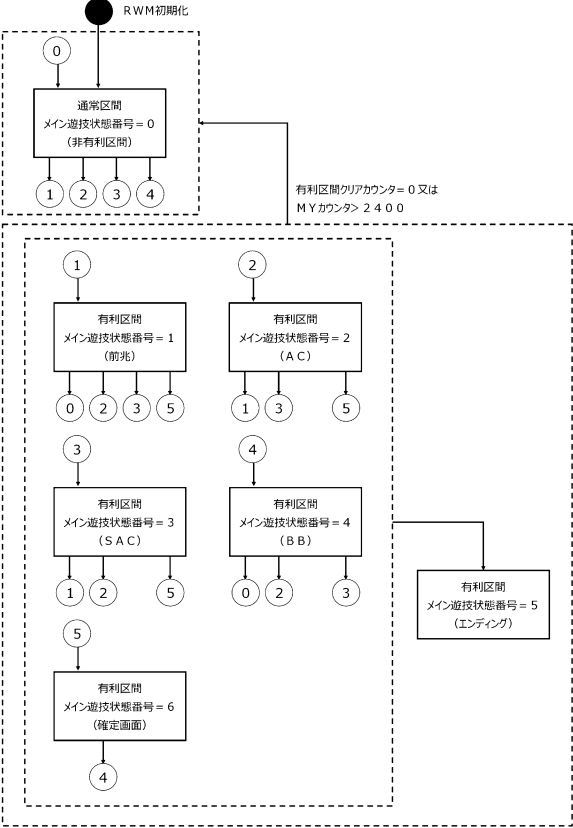
30

40

【図 3 5】

種別	R T 1					
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
入賞－E 1	106	106	106	106	106	106
入賞－E 2	106	106	106	106	106	106
入賞－E 3	106	106	106	106	106	106
入賞－E 4	106	106	106	106	106	106
入賞－E 5	106	106	106	106	106	106
入賞－E 6	106	106	106	106	106	106
入賞－E 7	106	106	106	106	106	106
入賞－E 8	106	106	106	106	106	106
入賞－E 9	106	106	106	106	106	106
入賞－E 1 0	106	106	106	106	106	106
入賞－E 1 1	106	106	106	106	106	106
入賞－E 1 2	106	106	106	106	106	106
入賞－F 1	5	5	5	5	5	5
入賞－F 2	5	5	5	5	5	5
入賞－F 3	5	5	5	5	5	5
入賞－F 4	5	5	5	5	5	5
入賞－F 5	5	5	5	5	5	5
入賞－F 6	5	5	5	5	5	5
入賞－F 7	5	5	5	5	5	5
入賞－F 8	5	5	5	5	5	5
入賞－F 9	5	5	5	5	5	5
入賞－F 1 0	5	5	5	5	5	5
入賞－F 1 1	5	5	5	5	5	5
入賞－F 1 2	5	5	5	5	5	5
入賞－G	500	500	500	500	500	500
入賞－H	100	100	100	100	100	100
入賞－I	200	200	200	200	200	200
入賞－J	1000	1000	1000	1000	1000	1000
入賞－K	50	50	50	50	50	50
入賞－L	50	50	50	50	50	50
入賞－M	70	70	70	70	70	70
入賞－N	20	20	20	20	20	20
入賞－O	20	20	20	20	20	20
入賞－P	20	20	20	20	20	20
入賞－Q	20	20	20	20	20	20

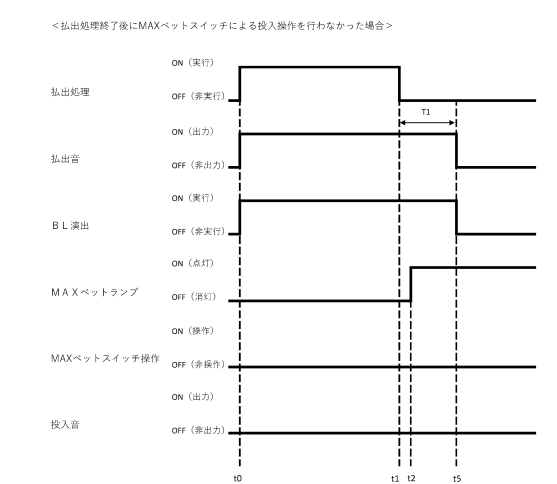
【図 3 6】



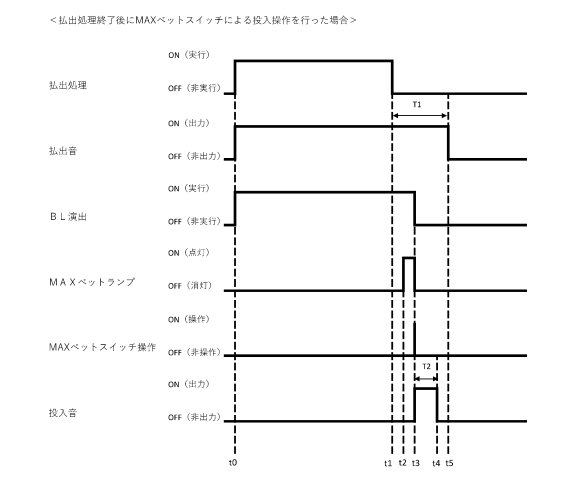
10

20

【図 3 7】



【図 3 8】



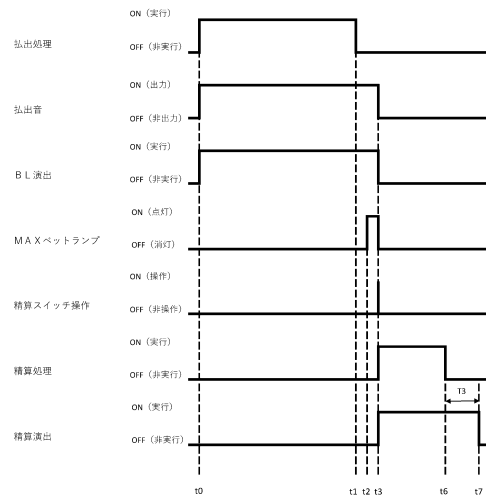
30

40

50

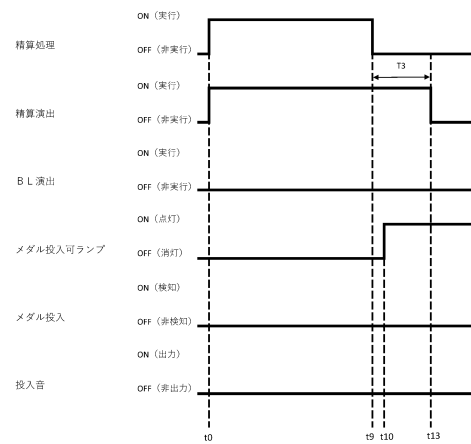
【図 3 9】

<払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合>



【図 4 0】

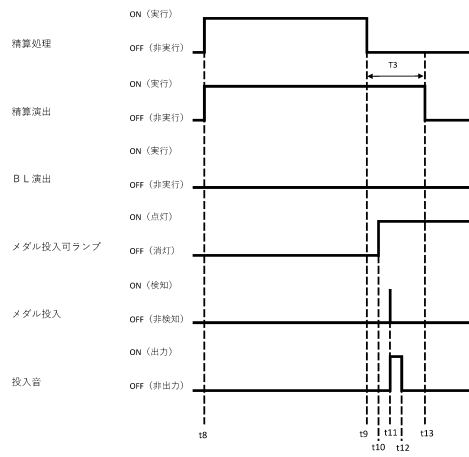
<精算処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合>



10

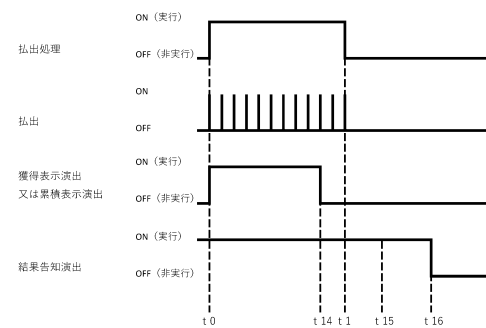
【図 4 1】

<精算処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合>



【図 4 2】

<正常に払い出しが行われた場合>



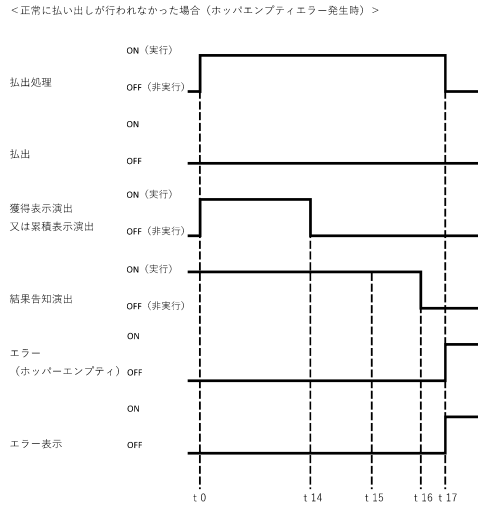
20

30

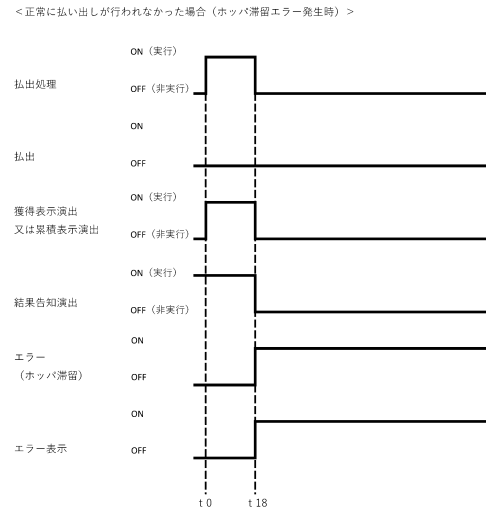
40

50

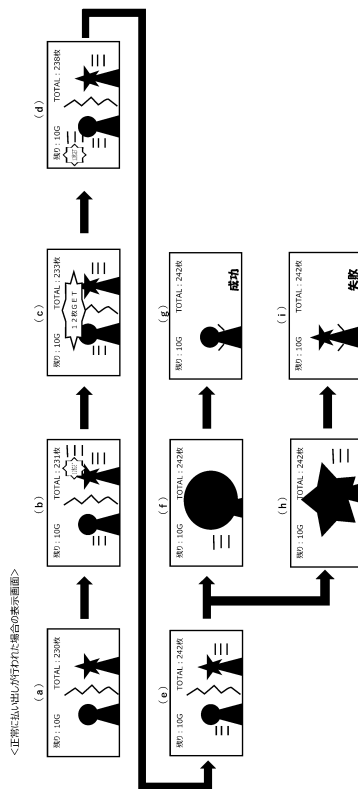
【図 4 3】



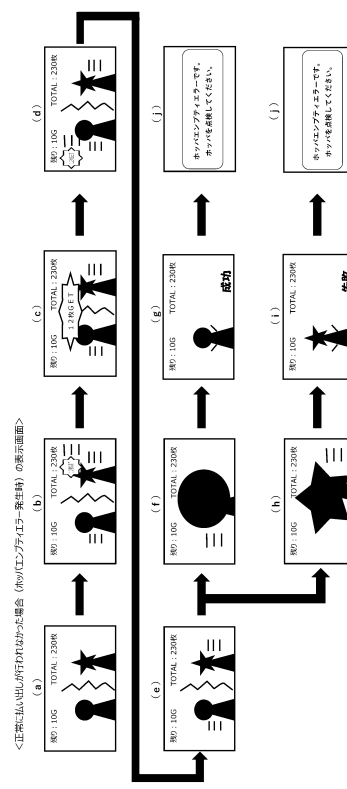
【図 4 4】



【図 4 5】



【図 4 6】



10

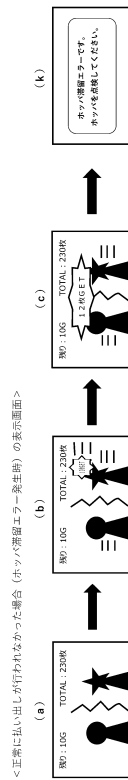
20

30

40

50

【図 4 7】



【図 4 8】

(A) メイン処理のプログラム

```

D I    ( I F F 1 = 0 )
A A A A
B B B B
:
E I    ( I F F 1 = 1 )
C C C C (この命令の後に、割り込み処理が実行可能)
:

```

※「D I」命令は、割り込み禁止命令

※「E I」命令は、割り込み許可命令

10

(B) タイマ割り込み処理のプログラム

```

＜タイマ割り込み処理＞ ( I F F 1 = 0 )
A A A A
B B B B
C C C C
:
E I    ( I F F 1 = 1 )
R E T I (この命令の後に、割り込み処理が実行可能)
:

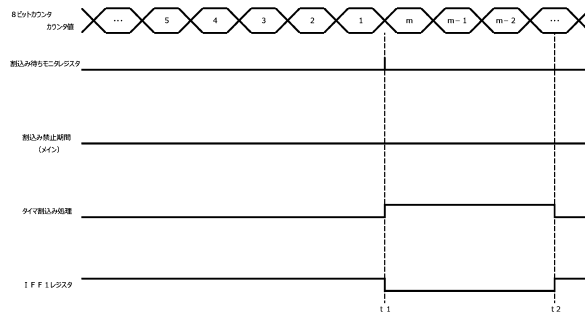
```

※「E I」命令は、割り込み許可命令

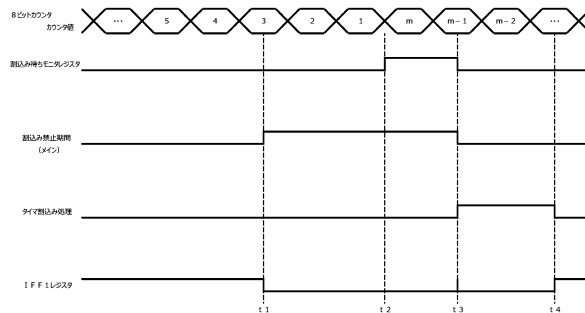
20

【図 4 9】

(1) タイマ割り込み処理と8ビットカウンタの動作（サイン処理において割り込み禁止状態がない場合）

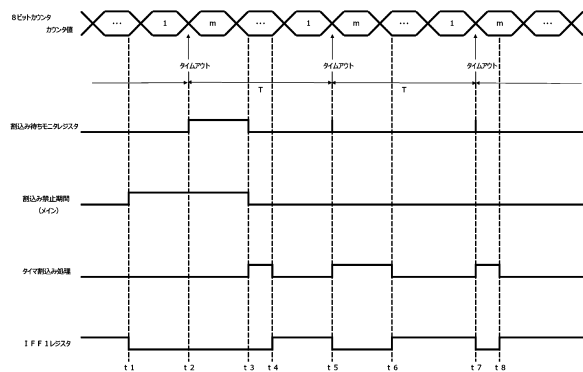


(2) タイマ割り込み処理と8ビットカウンタの動作（サイン処理において割り込み禁止状態がある場合）

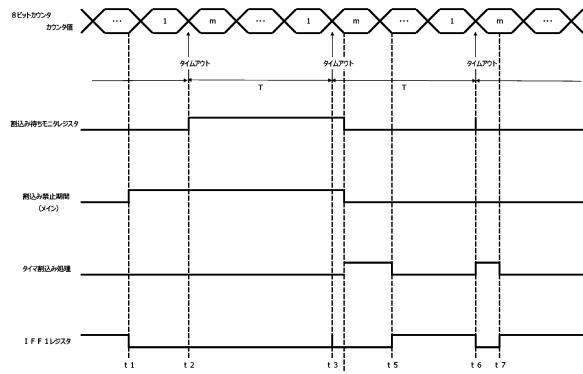


【図 5 0】

＜タイマ割り込み処理の動作タイミングを指示する例（1）＞



＜タイマ割り込み処理の動作タイミングを指示する例（2）＞



30

40

50

【図 5 1】

	第1回胴	第2回胴	第3回胴
0	リブレイ	ベル	ブランクA
19	スイカ	ブランクB	リブレイ
18	白セブン	白セブン	白セブン
17	スイカ	リブレイ	スイカ
16	ベル	チェリー	ベル
15	リブレイ	ベル	ブランクA
14	ブランクA	スイカ	リブレイ
13	赤セブン	キャラB	キャラA
12	スイカ	リブレイ	キャラA
11	ベル	チェリー	ベル
10	リブレイ	ベル	チェリー
9	ブランクB	スイカ	リブレイ
8	キャラA	赤セブン	キャラB
7	スイカ	リブレイ	スイカ
6	ベル	チェリー	ベル
5	リブレイ	ベル	チェリー
4	キャラB	ブランクA	リブレイ
3	チェリー	キャラA	赤セブン
2	スイカ	リブレイ	ブランクB
1	ベル	チェリー	ベル

【圖 5 2】

①	役物未作動時
②	S 作動時
③	1 種 B-B-A、B 作動時の役物未作動時
④	1 種 B-B-C 作動時の役物未作動時
⑤	1 種 B-B-D 作動時の役物未作動時
⑥	R-B-A、B、C、D 作動時
⑦	R-B-E、F 作動時

[illegible]

【図 5 3】

[illegible]

【図 5 4】

[illegible]

【図 5 5】

109	リプレイ	ブラントB	ブラントA	入賞0.1入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
110	リプレイ	ベル	キャラA	入賞0.2入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
111	リプレイ	ベル	スイカ	入賞0.2入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
112	リプレイ	ベル	ブラントB	入賞0.2入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
113	ベル	ベル	ベル	入賞0.3入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
114	スイカ	ベル	チェリー	入賞0.4入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
115	スイカ	ベル	ブラントA	入賞0.4入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
116	スイカ	ベル	キャラA	入賞0.5入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
117	スイカ	ベル	スイカ	入賞0.5入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
118	スイカ	ベル	ブラントB	入賞0.5入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
119	スイカ	チェリー	キャラA	入賞0.6入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
120	スイカ	チェリー	スイカ	入賞0.6入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
121	スイカ	チェリー	ブラントB	入賞0.6入賞箇所	9	9	9	9	9	9	9
122	ベル	スイカ	白セブン	入賞0.7入賞箇所	3	3	3	3	3	3	3
123	ベル	スイカ	キャラB	入賞0.7入賞箇所	3	3	3	3	3	3	3
124	ベル	スイカ	赤セブン	入賞0.8入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
125	ベル	スイカ	キャラA	入賞0.8入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
126	ベル	ブラントA	赤セブン	入賞0.8入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
127	ベル	ブラントA	白セブン	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
128	ベル	ブラントA	キャラA	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
129	ベル	ブラントA	キャラB	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
130	ベル	ブラントA	赤セブン	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
131	ベル	ブラントB	白セブン	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
132	ベル	ブラントB	キャラA	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
133	ベル	ブラントB	キャラB	入賞0.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
134	リプレイ	スイカ	キャラA	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
135	リプレイ	スイカ	スイカ	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
136	リプレイ	スイカ	ブラントB	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
137	リプレイ	ブラントA	キャラA	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
138	リプレイ	ブラントA	スイカ	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
139	リプレイ	ブラントA	ブラントB	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
140	リプレイ	ブラントB	キャラA	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
141	リプレイ	ブラントB	スイカ	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
142	リプレイ	ブラントB	ブラントB	入賞1.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
143	ベル	ベル	チェリー	入賞1.1入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
144	ベル	ベル	ブラントA	入賞1.1入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
145	リプレイ	赤セブン	リプレイ	入賞1.2入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
146	リプレイ	白セブン	リプレイ	入賞1.2入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
147	リプレイ	キャラA	リプレイ	入賞1.2入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1

【図 5 6】

148	リプレイ	キャラB	リプレイ	入賞1.2入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
149	ベル	チェリー	キャラA	入賞1.3入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
150	ベル	チェリー	スイカ	入賞1.3入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
151	ベル	チェリー	ブラントB	入賞1.3入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
152	リプレイ	チェリー	リプレイ	入賞1.4入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
153	赤セブン	白セブン	リプレイ	入賞1.5入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
154	赤セブン	白セブン	リプレイ	入賞1.5入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
155	赤セブン	キャラA	リプレイ	入賞1.5入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
156	赤セブン	キャラB	リプレイ	入賞1.5入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
157	リプレイ	赤セブン	赤セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
158	リプレイ	赤セブン	白セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
159	リプレイ	赤セブン	キャラA	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
160	リプレイ	赤セブン	キャラB	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
161	リプレイ	白セブン	赤セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
162	リプレイ	白セブン	白セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
163	リプレイ	白セブン	キャラA	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
164	リプレイ	白セブン	キャラB	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
165	リプレイ	キャラA	赤セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
166	リプレイ	キャラA	白セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
167	リプレイ	キャラA	キャラA	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
168	リプレイ	キャラA	キャラB	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
169	リプレイ	キャラB	赤セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
170	リプレイ	キャラB	白セブン	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
171	リプレイ	キャラB	キャラA	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
172	リプレイ	キャラB	キャラB	入賞1.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
173	ベル	赤セブン	リプレイ	入賞1.7入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
174	ベル	白セブン	リプレイ	入賞1.7入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
175	ベル	キャラA	リプレイ	入賞1.7入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
176	ベル	キャラB	リプレイ	入賞1.7入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
177	ブラントB	ベル	チェリー	入賞1.8入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
178	ブラントB	ベル	ブラントA	入賞1.8入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
179	ベル	ベル	キャラA	入賞1.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
180	ベル	ベル	スイカ	入賞1.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
181	ベル	ベル	ブラントB	入賞1.9入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
182	ベル	リプレイ	スイカ	入賞2.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
183	ベル	リプレイ	ブラントB	入賞2.0入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
184	ブラントB	チェリー	キャラA	入賞2.1入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
185	ブラントB	チェリー	スイカ	入賞2.1入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
186	ブラントB	チェリー	ブラントB	入賞2.1入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1

10

20

【図 5 7】

187	リプレイ	チェリー	キャラA	入賞2.2入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
188	リプレイ	チェリー	スイカ	入賞2.2入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
189	リプレイ	チェリー	ブラントB	入賞2.3入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
190	リプレイ	リプレイ	キャラA	入賞2.4入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
191	リプレイ	リプレイ	スイカ	入賞2.4入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
192	リプレイ	リプレイ	ブラントB	入賞2.4入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
193	ベル	チェリー	リプレイ	入賞2.5入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
194	ベル	ベル	リプレイ	入賞2.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
195	スイカ	ベル	リプレイ	入賞2.6入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1
196	ベル	チェリー	ベル	入賞2.7入賞箇所	1	1	1	1	1	1	1

【図 5 8】

ボーナス条件装置

ボーナス条件装置	条件装置	通称	構成要素
0	なし	ハズレ	ー
1	1種BB-A条件装置	1種BB-A	1種BB0.1
2	1種BB-B条件装置	1種BB-B	1種BB0.2~0.3
3	1種BB-C条件装置	1種BB-C	1種BB0.4
4	1種BB-D条件装置	1種BB-D	1種BB0.5
5	RB-A条件装置	RB-A	RB0.1
6	RB-B条件装置	RB-B	RB0.2
7	RB-C条件装置	RB-C	RB0.3
8	RB-D条件装置	RB-D	RB0.4
9	RB-E条件装置	RB-E	RB0.5
10	RB-F条件装置	RB-F	RB0.6
11	SB-A条件装置	SB	SB0.1
12	SB-B条件装置	SB	SB0.2

ボーナス終了条件

名称	終了条件
1種BB-A	269枚を超える遊技メダルの獲得
1種BB-B	197枚を超える遊技メダルの獲得
1種BB-C	89枚を超える遊技メダルの獲得
1種BB-D	62枚を超える遊技メダルの獲得
RB-A	12回の遊技又は8回の入賞 1種BBの作動終了で終了
RB-B	12回の遊技又は8回の入賞 1種BBの作動終了で終了
RB-C	12回の遊技又は8回の入賞 1種BBの作動終了で終了
RB-D	12回の遊技又は8回の入賞 1種BBの作動終了で終了
RB-E	12回の遊技又は8回の入賞 1種BBの作動終了で終了
RB-F	12回の遊技又は8回の入賞 1種BBの作動終了で終了
SB-A	1回の遊技又は1回の入賞
SB-B	1回の遊技又は1回の入賞

30

40

50

【図 5 9】

入庫 再選別	品名/部数	通称	構成要素
06 G	バネ		
11再選別-A 1条件部数	ラブリイ		再選別01-0 2
2再選別-A 2条件部数	ラブリイ		再選別01-0 3
3再選別-A 3条件部数	ラブリイ		再選別01-0 2, 11-13, 15
4再選別-A 4条件部数	ラブリイ		再選別01-0 2, 10-16
5再選別-B 1条件部数	名高キヤラク		再選別01-0 2, 04, 16
6再選別-B 2条件部数	名高キヤラク		再選別01-0 2, 10, 11-13
7再選別-B 3条件部数	名高キヤラク		再選別01-0 2, 05, 11-13
8再選別-B 4条件部数	名高キヤラク		再選別01-0 2, 05, 10-16
9再選別-B 5条件部数	キャスエック		再選別01-0 2, 05, 11-13, 15
10再選別-C 1条件部数	特特レノ1種B-B-A		再選別01-0 3, 09, 0
11再選別-C 2条件部数	特特レノ1種B-B-A		再選別01-0 3, 10
12再選別-C 3条件部数	特特レノ1種B-B-B		再選別01-0 3, 11
13再選別-C 4条件部数	特特レノ1種B-B-C		再選別01-0 3, 12
14再選別-D 1条件部数	特特レブ		再選別01-0 4
15再選別-D 2条件部数	中役エノブ		再選別01-0 4, 09
16再選別-D 3条件部数	特特レブ1種B-B-A		再選別01-0 4, 10
17再選別-E 1条件部数	特テラ		再選別01-0 3, 05, 10
18再選別-E 2条件部数	特テラ1種B-B-B		再選別01-0 3, 05, 11
19再選別-E 3条件部数	特テラ1種B-B-C		再選別01-0 3, 05, 12
20再選別-F 1条件部数	特テラ		再選別01-0 3, 05-06
21再選別-F 2条件部数	特テラ1種B-B-A		再選別01-0 3, 05-06, 10
22再選別-F 3条件部数	特テラ1種B-B-B		再選別01-0 3, 05-06, 11
23再選別-F 4条件部数	特テラ1種B-B-C		再選別01-0 3, 05-06, 12
24再選別-G 1条件部数	テニスB-B-A		再選別01-0 3, 07
25再選別-G 2条件部数	テニスB-B-A 1種B-B-A		再選別01-0 3, 07, 10
26再選別-G 3条件部数	テニスB-B-A 1種B-B-B		再選別01-0 3, 07, 11
27再選別-G 4条件部数	テニスB-B-A 1種B-B-C		再選別01-0 3, 07, 12
28再選別-H 1条件部数	テニスB-B-B		再選別01-0 3, 08, 12
29再選別-H 2条件部数	テニスB-B-B 1種B-B-A		再選別01-0 3, 08, 12, 17-18
30再選別-H 3条件部数	テニスB-B-B 1種B-B-B		再選別01-0 3, 05, 08, 12, 18
31再選別-H 4条件部数	テニスB-B-B 1種B-B-C		再選別01-0 3, 06, 08, 12, 18
32入庫-A 1条件部数	A群バネ		入庫01-10, 12-15, 18-19, 22-23
33入庫-A 2条件部数	A群バネ		入庫02-10, 12-15, 18-19
34入庫-A 3条件部数	A群バネ		入庫03-10, 12-18
35入庫-A 4条件部数	A群バネ		入庫04-10, 12-18
36入庫-A 5条件部数	A群バネ		入庫05-10, 13, 18-21
37入庫-A 6条件部数	A群バネ		入庫06-10, 13, 18-20
44入庫-B 1条件部数	B群バネ		入庫01-14, 16-21, 23, 25
45入庫-B 2条件部数	C群バネ		入庫02-14, 17-21, 23-25
46入庫-B 3条件部数	C群バネ		入庫03-14, 22-23, 25-26
47入庫-B 4条件部数	C群バネ		入庫04-14, 16-19, 25
48入庫-B 5条件部数	C群バネ		入庫05-14, 21-23, 25
49入庫-B 6条件部数	C群バネ		入庫06-14, 22-26
50入庫-C 1条件部数	B群バネ		入庫01-14, 16, 21, 25
59入庫-C 2条件部数	B群バネ		入庫02-14, 17, 21-23
60入庫-C 3条件部数	B群バネ		入庫03-14, 22-23, 26
61入庫-C 4条件部数	B群バネ		入庫04-14, 16-19, 25
62入庫-C 5条件部数	B群バネ		入庫05-14, 21-23
63入庫-C 6条件部数	B群バネ		入庫06-14, 22-25
50入庫-D 条件部数	共通バネ		入庫02-04
51入庫-E 1条件部数	共通バネ1種B-B-A		入庫02-04, 15
52入庫-F 条件部数	共通バネ1種B-B-B		入庫02-04, 15
53入庫-G 条件部数	共通バネ1種B-B-C		入庫02-04, 25
54入庫-H 条件部数	共通バネ(非入庫)		入庫01-06
55入庫-I 条件部数	共通バネ		入庫15-18, 20, 24-26
56入庫-J 条件部数	スライド		入庫07-09
57入庫-K 条件部数	スライ1種B-A		入庫07-09, 26
58入庫-L 条件部数	スライ1種B-B-B		入庫07-09, 25
59入庫-M 条件部数	受物9号		入庫01-26
60入庫-N 条件部数	受物9号1種		入庫01-26
61入庫-O 条件部数	受物9号1種		入庫08-26

【図 60】

[illegible]

【図 6 1】

[illegible]

【圖 6 2】

[illegible]

【圖 6 2】

【圖 6 3】

[illegible]

【図 6 4】

[illegible]

【図 6 5】

入賞 両競技	ボーナス条件概要	第 R T (連番)別										
		抽せん	規定数 有利回開行倍	3R				消滅状態				過満時
				R1	R2	R3	R4	R5	R6			
—	1 種 B - D	○	×	341	341	341	341	341	341	341	341	
—	R B - A	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
—	R B - B	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
—	R B - C	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
—	R B - D	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
—	R B - E	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
—	R B - F	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
—	S B - A	○	×	11253	11253	11253	11253	11253	11253	11253	11253	
—	S B - B	○	×	11253	11253	11253	11253	11253	11253	11253	11253	
新遊技 - A 1	—	○	×	4099	4099	4099	4099	4099	4099	4043	4043	
新遊技 - A 2	—	○	×	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	
新遊技 - A 3	—	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
新遊技 - A 4	—	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
新遊技 - B 1	—	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
新遊技 - B 2	—	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
新遊技 - B 3	—	○	×	4	4	4	4	4	4	4	20	
新遊技 - B 4	—	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
新遊技 - B 5	—	○	×	20	20	20	20	20	20	20	20	
新遊技 - C 1	—	○	×	1300	1300	1300	1300	1300	1300	1300	1300	
新遊技 - C 2	1 種 B B - A	○	○	4	4	4	4	4	4	4	4	
新遊技 - C 3	1 種 B B - B	○	○	8	8	8	8	8	8	8	8	
新遊技 - C 4	1 種 B B - C	○	○	5	5	5	5	5	5	5	5	
新遊技 - D 1	—	○	×	40	40	40	40	40	40	40	80	
新遊技 - D 2	—	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	
新遊技 - E 1	1 種 B B - B	○	×	4	4	4	4	4	4	4	4	
新遊技 - E 2	1 種 B B - C	○	×	750	750	750	750	750	750	750	750	
新遊技 - E 3	1 種 B B - B	○	○	35	35	35	35	35	35	35	35	
新遊技 - E 4	1 種 B B - C	○	○	23	26	28	31	32	32	32	32	
新遊技 - F 1	—	○	×	220	213	204	197	190	190	183	183	
新遊技 - F 2	1 種 B B - A	○	○	7	7	7	7	7	7	7	7	
新遊技 - F 3	1 種 B B - B	○	○	41	42	46	48	50	50	50	50	
新遊技 - F 4	1 種 B B - C	○	○	30	30	30	30	30	30	30	30	
新遊技 - G 1	—	○	×	500	500	500	500	500	500	500	500	
新遊技 - G 2	1 種 B B - A	○	○	4	4	4	4	4	4	4	4	
新遊技 - G 3	1 種 B B - B	○	○	10	10	10	10	10	10	10	10	
新遊技 - G 4	1 種 B B - C	○	○	26	29	33	35	40	40	40	40	
新遊技 - H 1	—	○	×	250	250	250	250	250	250	250	250	
新遊技 - H 2	1 種 B B - A	○	○	18	18	18	18	18	18	18	18	
新遊技 - H 3	1 種 B B - B	○	○	40	38	36	34	32	24	24	24	
新遊技 - H 4	1 種 B B - C	○	○	40	42	43	45	46	60	60	60	
入賞 - A 1	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	
入賞 - A 2	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	
入賞 - A 3	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	
入賞 - A 4	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	
入賞 - A 5	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	
入賞 - A 6	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	3265	
入賞 - B 1	—	○	○	430	430	430	430	430	430	430	430	
入賞 - B 2	—	○	○	430	430	430	430	430	430	430	430	

【図 6 6】

[illegible]

【図 6 6】

【図 6 7】

入賃再選択	ポータル条件概要	所 T 4 (通算時)					
		指定人	規定数	選択状況			
				R1	R2	R3	R4
—	1種B-D	○	○	341	341	341	341
—	R B-A	×	×	0	0	0	0
—	R B-B	×	×	0	0	0	0
—	R B-C	×	×	0	0	0	0
—	R B-D	×	×	0	0	0	0
—	R B-E	×	×	0	0	0	0
—	R B-F	×	×	0	0	0	0
—	S B-A	○	×	11253	11253	11253	11253
—	S B-B	○	×	11253	11253	11253	11253
再選択-A 1	—	×	×	0	0	0	0
再選択-A 2	—	×	×	0	0	0	0
再選択-A 3	—	○	×	4259	4248	4253	4332
再選択-A 4	—	○	×	580	400	570	300
再選択-B 1	—	○	×	566	566	566	566
再選択-B 2	—	○	×	0	4	4	4
再選択-B 3	—	○	×	2016	2200	2016	2200
再選択-B 4	—	○	×	4	4	4	4
再選択-B 5	—	○	×	1000	1000	1000	1000
再選択-C 1	—	×	×	0	0	0	0
再選択-C 2	1種B-B-A	○	○	4	4	4	4
再選択-C 3	1種B-B-B	○	○	8	8	8	8
再選択-C 4	1種B-B-C	○	○	5	5	5	5
再選択-D 1	—	×	×	0	0	0	0
再選択-D 2	—	×	×	0	0	0	0
再選択-D 3	1種B-B-B	○	○	4	4	4	4
再選択-E 1	—	○	×	78	78	78	78
再選択-E 2	1種B-B-B	○	○	35	35	35	35
再選択-E 3	1種B-B-C	○	○	23	26	28	31
再選択-F 1	—	○	×	78	78	78	78
再選択-F 2	1種B-B-A	○	○	7	7	7	7
再選択-F 3	1種B-B-B	○	○	41	42	46	48
再選択-F 4	1種B-B-C	○	○	30	30	30	30
再選択-G 1	—	×	×	0	0	0	0
再選択-G 2	1種B-B-A	○	○	4	4	4	4
再選択-G 3	1種B-B-B	○	○	10	10	10	10
再選択-G 4	1種B-B-C	○	○	26	29	33	35
再選択-H 1	—	○	×	98	98	98	98
再選択-H 2	1種B-B-A	○	○	18	18	18	18
再選択-H 3	1種B-B-B	○	○	40	38	36	34
再選択-H 4	1種B-B-C	○	○	40	42	43	45
入賃-A 1	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 2	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 3	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 4	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 5	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 6	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-B 1	—	○	○	430	430	430	430
入賃-B 2	—	○	○	430	430	430	430

【図 6 8】

入賃-B 3	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-B 4	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-B 5	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-B 6	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-C 1	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 2	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 3	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 4	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 5	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 6	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-D	—	○	○	177	177	177	177	177
入賃-E	1種B-B-A	○	○	4	4	4	4	4
入賃-F	1種B-B-B	○	○	4	4	4	4	4
入賃-G	1種B-B-C	○	○	4	4	4	4	4
入賃-H	—	○	○	4	40	165	291	440
入賃-I	—	○	○	68	68	68	68	68
入賃-J	—	○	○	668	668	668	668	668
入賃-K	1種B-B-A	○	○	6	6	7	7	8
入賃-L	1種B-B-B	○	○	29	29	29	29	29
入賃-M	—	×	×	0	0	0	0	0
入賃-N	—	×	×	0	0	0	0	0
入賃-O	—	×	×	0	0	0	0	0

10

20

【図 6 9】

入賃再選択	ポータル条件概要	所 T 4 (通算時)					
		指定人	規定数	選択状況			
				R1	R2	R3	R4
—	1種B-D	○	○	341	341	341	341
—	R B-A	×	×	0	0	0	0
—	R B-B	×	×	0	0	0	0
—	R B-C	×	×	0	0	0	0
—	R B-D	×	×	0	0	0	0
—	R B-E	○	×	11426	11426	11426	11426
—	R B-F	○	×	11426	11426	11426	11426
—	×	×	×	0	0	0	0
—	×	×	×	0	0	0	0
再選択-A 1	—	○	×	4099	4099	4099	4099
再選択-A 2	—	○	×	1500	1500	1500	1500
再選択-A 3	—	○	×	0	0	0	0
再選択-A 4	—	○	×	0	0	0	0
再選択-B 1	—	×	×	0	0	0	0
再選択-B 2	—	×	×	0	0	0	0
再選択-B 3	—	○	×	4	4	4	4
再選択-B 4	—	×	×	0	0	0	0
再選択-B 5	—	○	×	20	20	20	20
再選択-C 1	—	○	×	1300	1300	1300	1300
再選択-C 2	—	○	○	4	4	4	4
再選択-C 3	—	○	○	8	8	8	8
再選択-C 4	—	○	○	5	5	5	5
再選択-D 1	—	○	×	40	40	40	40
再選択-D 2	—	×	×	0	0	0	0
再選択-D 3	—	○	○	4	4	4	4
再選択-E 1	—	○	×	750	750	750	750
再選択-E 2	—	○	○	35	35	35	35
再選択-E 3	—	○	○	23	26	28	31
再選択-F 1	—	○	×	220	213	204	197
再選択-F 2	—	○	○	7	7	7	7
再選択-F 3	—	○	○	41	42	46	48
再選択-F 4	—	○	○	30	30	30	30
再選択-G 1	—	○	×	500	500	500	500
再選択-G 2	—	○	○	4	4	4	4
再選択-G 3	—	○	○	10	10	10	10
再選択-G 4	—	○	○	26	29	33	35
再選択-H 1	—	○	×	250	250	250	250
再選択-H 2	—	○	○	18	18	18	18
再選択-H 3	—	○	○	40	38	36	34
再選択-H 4	—	○	○	40	42	43	45
入賃-A 1	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 2	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 3	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 4	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 5	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-A 6	—	○	○	3265	3265	3265	3265
入賃-B 1	—	○	○	430	430	430	430
入賃-B 2	—	○	○	430	430	430	430

【図 7 0】

入賃-B 3	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-B 4	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-B 5	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-B 6	—	○	○	430	430	430	430	430
入賃-C 1	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 2	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 3	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 4	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 5	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-C 6	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賃-D	—	○	○	177	177	177	177	177
入賃-E	—	○	○	4	4	4	4	4
入賃-F	—	○	○	4	4	4	4	4
入賃-G	—	○	○	4	4	4	4	4
入賃-H	—	○	○	4	40	165	291	440
入賃-I	—	○	○	68	68	68	68	68
入賃-J	—	○	○	668	668	668	668	668
入賃-K	—	○	○	6	6	7	7	8
入賃-L	—	○	○	29	29	29	29	29
入賃-M	—	×	×	0	0	0	0	0
入賃-N	—	×	×	0	0	0	0	0
入賃-O	—	×	×	0	0	0	0	0

30

40

50

【図 7 1】

入貨 再遊技	ボーナス条件概要	RT 4 (1種B-B、0作動時再内部)						
		抽せん	有利区戻移行	3枚			遊技収量	
				R1	R2	R3	R4	R5
—	—	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - A	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - B	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - C	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - D	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - E	○	×	11426	11426	11426	11426	11426
—	R B - F	○	×	11426	11426	11426	11426	11426
—	—	×	×	0	0	0	0	0
—	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - A 1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - A 2	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - A 3	—	○	×	4259	4248	4253	4332	4240
再遊技 - A 4	—	○	×	580	400	570	300	560
再遊技 - B 1	—	○	×	566	566	566	566	566
再遊技 - B 2	—	○	×	4	4	4	4	4
再遊技 - B 3	—	○	×	2016	2200	2016	2200	2016
再遊技 - B 4	—	○	×	4	4	4	4	4
再遊技 - B 5	—	○	×	1000	1000	1000	1000	1000
再遊技 - C 1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - C 2	—	○	○	4	4	4	4	4
再遊技 - C 3	—	○	○	8	8	8	8	8
再遊技 - C 4	—	○	○	5	5	5	5	5
再遊技 - D 1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - D 2	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - D 3	—	○	○	4	4	4	4	4
再遊技 - E 1	—	○	×	78	78	78	78	78
再遊技 - E 2	—	○	○	35	35	35	35	35
再遊技 - E 3	—	○	○	23	26	28	31	32
再遊技 - F 1	—	○	×	78	78	78	78	78
再遊技 - F 2	—	○	○	7	7	7	7	7
再遊技 - F 3	—	○	○	41	42	46	48	50
再遊技 - F 4	—	○	○	30	30	30	30	30
再遊技 - G 1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - G 2	—	○	○	4	4	4	4	4
再遊技 - G 3	—	○	○	10	10	10	10	10
再遊技 - G 4	—	○	○	26	29	33	35	40
再遊技 - H 1	—	○	×	98	98	98	98	98
再遊技 - H 2	—	○	○	18	18	18	18	18
再遊技 - H 3	—	○	○	40	38	36	34	32
再遊技 - H 4	—	○	○	45	42	43	45	46
入賞 - A 1	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265
入賞 - A 2	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265
入賞 - A 3	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265
入賞 - A 4	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265
入賞 - A 5	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265
入賞 - A 6	—	○	○	3265	3265	3265	3265	3265
入賞 - B 1	—	○	○	430	430	430	430	430
入賞 - B 2	—	○	○	430	430	430	430	430

【図 7 2】

入賞 - B 3	—	○	○	430	430	430	430	430
入賞 - B 4	—	○	○	430	430	430	430	430
入賞 - B 5	—	○	○	430	430	430	430	430
入賞 - C 1	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賞 - C 2	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賞 - C 3	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賞 - C 4	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賞 - C 5	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賞 - C 6	—	○	○	1762	1756	1735	1714	1689
入賞 - D	—	○	○	177	177	177	177	177
入賞 - E	—	○	○	4	4	4	4	4
入賞 - F	—	○	○	4	4	4	4	4
入賞 - G	—	○	○	4	4	4	4	4
入賞 - H	—	○	○	4	40	165	291	440
入賞 - I	—	○	○	68	68	68	68	68
入賞 - J	—	○	○	668	668	668	668	668
入賞 - K	—	○	○	6	6	7	7	8
入賞 - L	—	○	○	29	29	29	29	29
入賞 - M	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - N	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - O	—	×	×	0	0	0	0	0

10

20

【図 7 3】

入貨 再遊技	ボーナス条件概要	再RT (S B - A、0作動中)						
		抽せん	有利区戻移行	3枚			遊技収量	
				R1	R2	R3	R4	R5
—	1種B B - D	○	○	0	0	0	0	0
—	R B - A	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - B	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - C	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - D	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - E	×	×	0	0	0	0	0
—	R B - F	×	×	0	0	0	0	0
—	S B - A	○	×	0	0	0	0	0
—	S B - B	○	×	0	0	0	0	0
再遊技 - A 1	—	○	×	4099	4099	4099	4099	4043
再遊技 - A 2	—	○	×	1500	1500	1500	1500	1500
再遊技 - A 3	—	○	×	0	0	0	0	0
再遊技 - A 4	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - B 1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - B 2	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - B 3	—	○	×	4	4	4	4	20
再遊技 - B 4	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - B 5	—	○	×	20	20	20	20	20
再遊技 - C 1	—	○	×	1300	1300	1300	1300	1300
再遊技 - C 2	1種B B - A	○	○	4	4	4	4	4
再遊技 - C 3	1種B B - B	○	○	8	8	8	8	8
再遊技 - C 4	1種B B - C	○	○	5	5	5	5	5
再遊技 - D 1	—	○	×	40	40	40	40	80
再遊技 - D 2	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技 - D 3	1種B B - B	○	○	4	4	4	4	4
再遊技 - E 1	—	○	×	750	750	750	750	750
再遊技 - E 2	1種B B - B	○	○	35	35	35	35	35
再遊技 - E 3	1種B B - C	○	○	23	26	28	31	32
再遊技 - F 1	—	○	×	220	213	204	197	193
再遊技 - F 2	1種B B - B	○	○	7	7	7	7	7
再遊技 - F 3	1種B B - B	○	○	41	42	46	48	50
再遊技 - F 4	1種B B - C	○	○	30	30	30	30	30
再遊技 - G 1	—	○	×	500	500	500	500	500
再遊技 - G 2	1種B B - A	○	○	4	4	4	4	4
再遊技 - G 3	1種B B - B	○	○	10	10	10	10	10
再遊技 - G 4	1種B B - C	○	○	26	29	33	35	40
再遊技 - H 1	—	○	×	250	250	250	250	250
再遊技 - H 2	1種B B - A	○	○	18	18	18	18	18
再遊技 - H 3	1種B B - B	○	○	40	38	36	34	32
再遊技 - H 4	1種B B - C	○	○	40	42	43	45	46
入賞 - A 1	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - A 2	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - A 3	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - A 4	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - A 5	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - A 6	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - B 1	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - B 2	—	×	×	0	0	0	0	0

【図 7 4】

入賞 - B 3	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - B 4	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - B 5	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - B 6	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - C 1	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - C 2	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - C 3	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - C 4	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - C 5	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - C 6	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - D	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - E	1種B B - A	○	○	0	0	0	0	0
入賞 - F	1種B B - B	○	○	0	0	0	0	0
入賞 - G	1種B B - C	○	○	0	0	0	0	0
入賞 - H	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - I	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - J	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞 - K	1種B B - A	○	○	0	0	0	0	0
入賞 - L	1種B B - B	○	○	0	0	0	0	0
入賞 - M	—	○	×	5638	5668	5772	5877	6001
入賞 - N	—	○	×	167	167	167	167	167
入賞 - O	—	○	×	27855	27825	27720	27615	27490

30

40

50

【図 7 5】

入賞再選注	ボーナス条件等 抽せん	規定数 有利回線移行	R74(倍率-A、有効動作)					
			R1	R2	R3	R4	R5	R6
—	1種B-B-D	○	0	0	0	0	0	0
—	R-B-A	×	×	0	0	0	0	0
—	R-B-B	×	×	0	0	0	0	0
—	R-B-C	×	×	0	0	0	0	0
—	R-B-D	×	×	0	0	0	0	0
—	R-E-A	×	×	0	0	0	0	0
—	R-E-F	×	×	0	0	0	0	0
—	S-B-A	○	×	0	0	0	0	0
—	S-B-B	○	×	0	0	0	0	0
再遊技-A-1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技-A-2	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技-A-3	—	○	×	4259	4248	4253	4332	4249
再遊技-A-4	—	○	×	580	440	570	300	560
再遊技-B-1	—	○	×	566	566	566	566	566
再遊技-B-2	—	○	×	—	—	—	—	—
再遊技-C-3	—	×	×	2016	2200	2016	2200	2016
再遊技-B-4	—	○	×	4	4	4	4	4
再遊技-B-5	—	○	×	1000	1000	1000	1000	1000
再遊技-C-1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技-C-2	1種B-B-A	○	○	4	4	4	4	4
再遊技-C-3	1種B-B-B	○	○	8	8	8	8	8
再遊技-C-4	1種B-B-C	○	○	5	5	5	5	5
再遊技-D-1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技-D-2	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技-D-3	1種B-B	○	○	4	4	4	4	4
再遊技-E-1	—	○	×	78	78	78	78	78
再遊技-E-2	1種B-B-B	○	○	35	35	35	35	35
再遊技-E-3	1種B-B-C	○	○	23	26	29	31	32
再遊技-F-1	—	○	×	78	78	78	78	78
再遊技-F-2	1種B-B-A	○	○	7	7	7	7	7
再遊技-F-3	1種B-B-B	○	○	41	42	46	48	50
再遊技-F-4	1種B-B-C	○	○	30	30	30	30	30
再遊技-G-1	—	×	×	0	0	0	0	0
再遊技-G-2	1種B-B-A	○	○	4	4	4	4	4
再遊技-G-3	1種B-B-B	○	○	10	10	10	10	10
再遊技-G-4	1種B-B-C	○	○	26	29	33	35	40
再遊技-H-1	—	○	×	98	98	98	98	98
再遊技-H-2	1種B-B-A	○	○	18	18	18	18	18
再遊技-H-3	1種B-B-B	○	○	40	38	36	34	32
再遊技-H-4	1種B-B-C	○	○	40	42	43	45	46
入賞-A-1	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-A-2	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-A-3	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-A-4	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-A-5	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-A-6	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-B-1	—	×	×	0	0	0	0	0
入賞-B-2	—	×	×	0	0	0	0	0

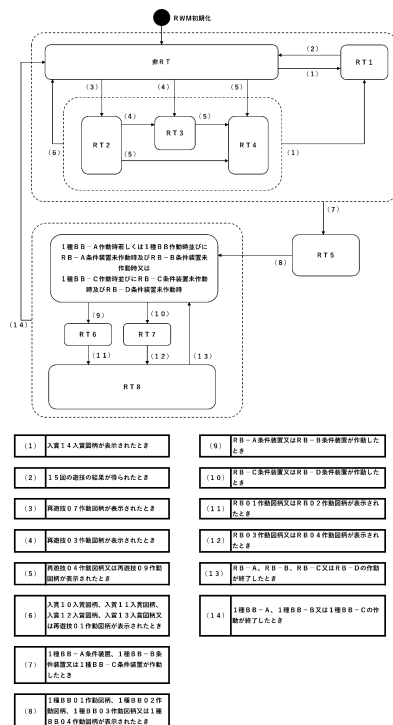
【圖 7 6】

入齊-B-3	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-B-4	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-B-5	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-B-6	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-C-1	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-C-2	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-C-3	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-C-4	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-C-5	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-C-6	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-D	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-E	1個B-B-A	○	○	○	0	0	0	0	0	0
入齊-F	1個B-B-B	○	○	○	0	0	0	0	0	0
入齊-G	1個B-B-C	○	○	○	0	0	0	0	0	0
入齊-H	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-I	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-J	-	-	X	X	0	0	0	0	0	0
入齊-K	1個B-B-A	○	○	○	0	0	0	0	0	0
入齊-L	1個B-B-B	○	○	○	0	0	0	0	0	0
入齊-M	-	○	X	5638	5660	5772	5877	6001	6224	
入齊-N	-	○	X	167	167	167	167	167	167	
入齊-O	-	○	X	21855	27825	27720	27615	27490	27265	

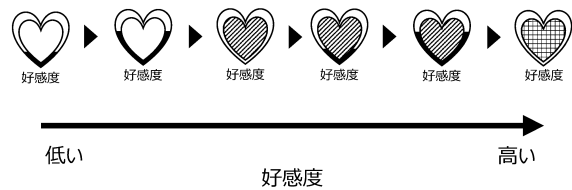
10

20

【図 77】



【圖 7 8】



30

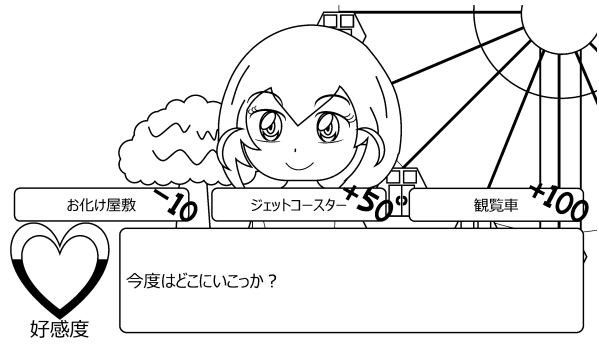
40

50

【図 79】

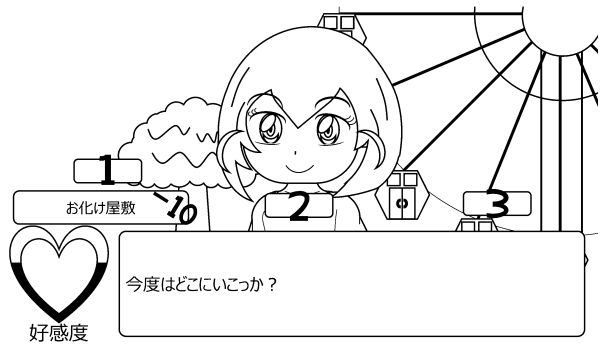


【図 80】

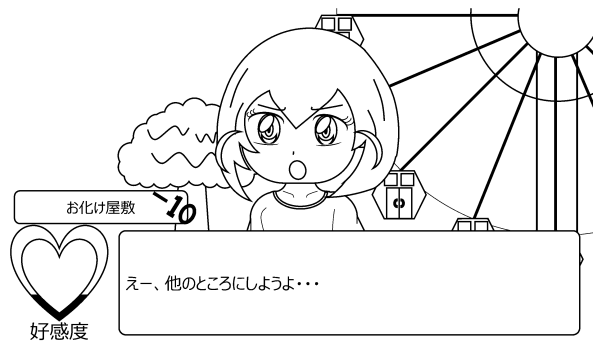


10

【図 81】

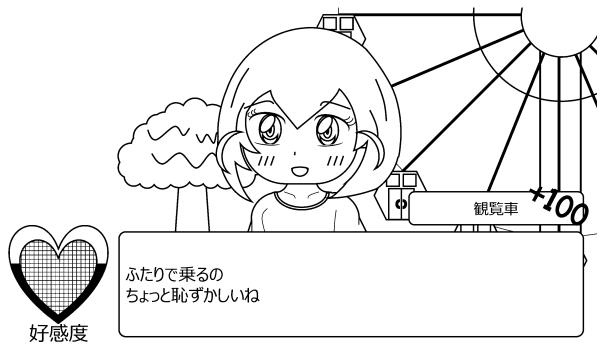


【図 82】

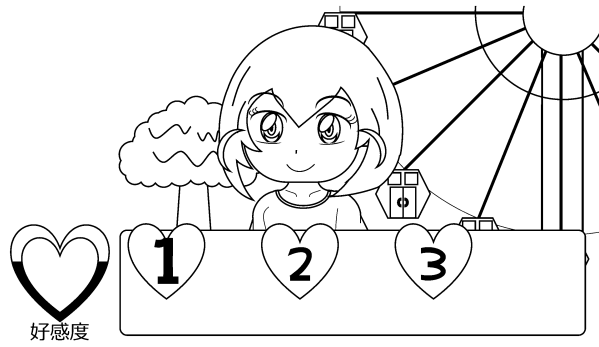


20

【図 83】



【図 84】

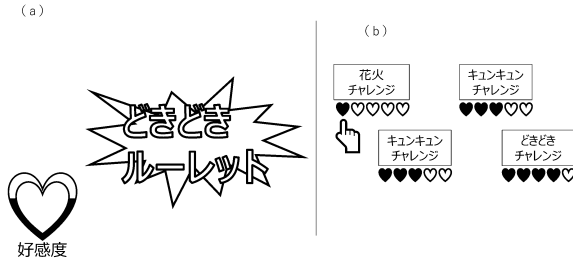


30

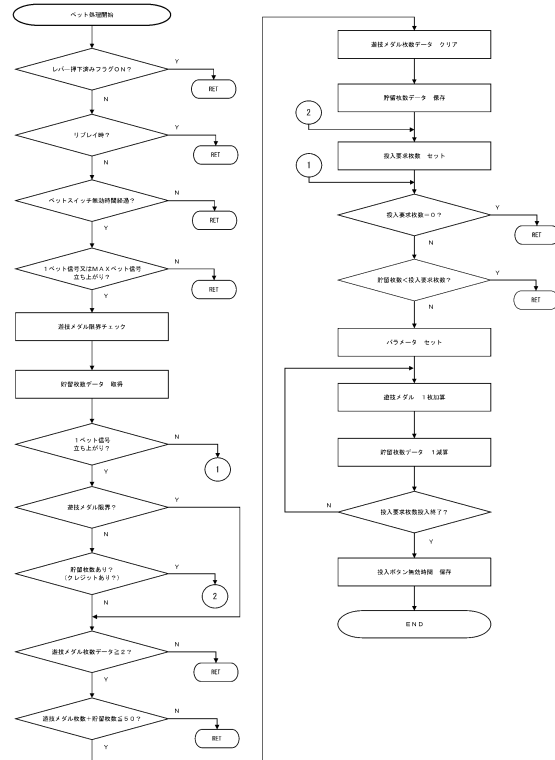
40

50

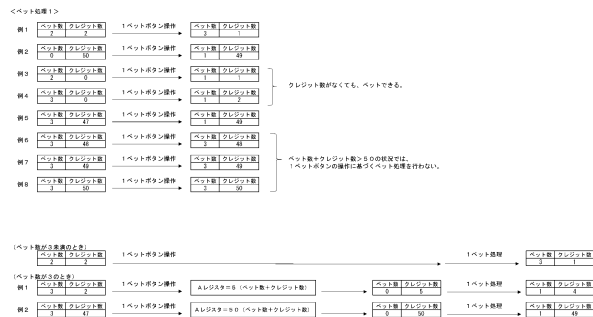
【図 8 5】



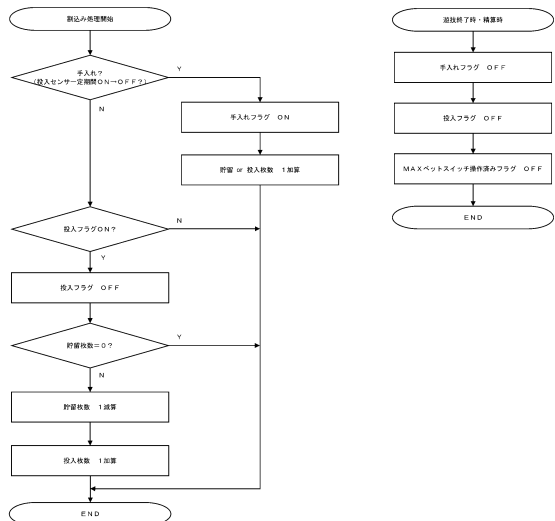
【図 8 6】



【図 8 7】



【図 8 8】



10

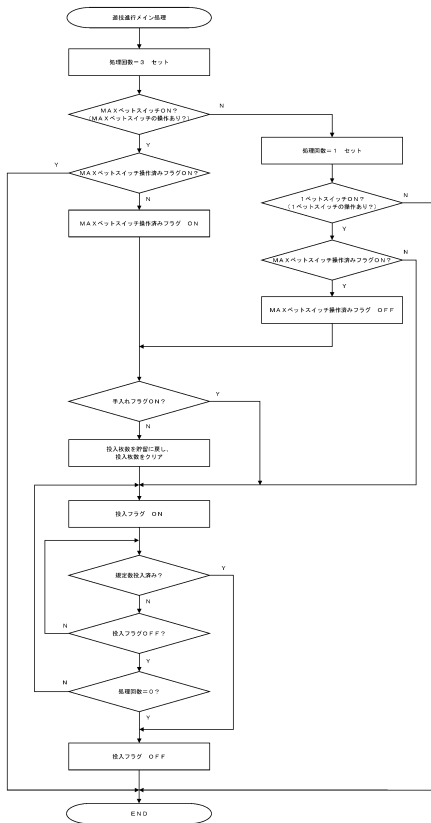
20

30

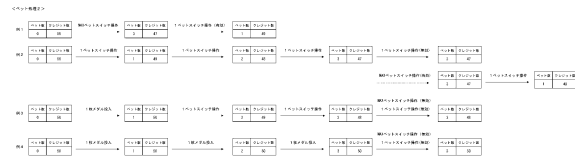
40

50

【図 89】



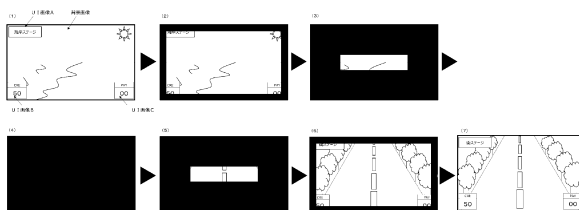
【図 90】



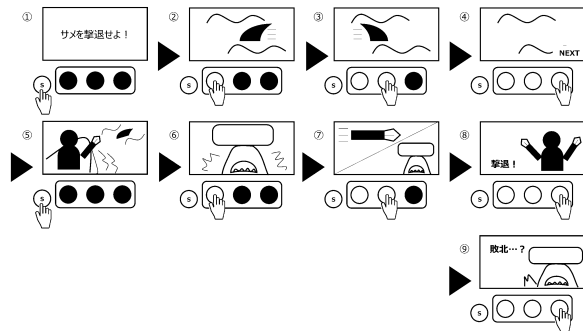
10

20

【圖 9 1】



【図 9 2】

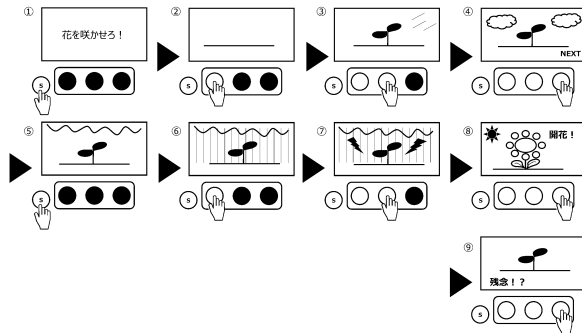


30

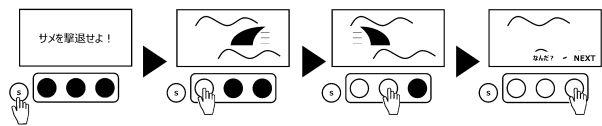
40

50

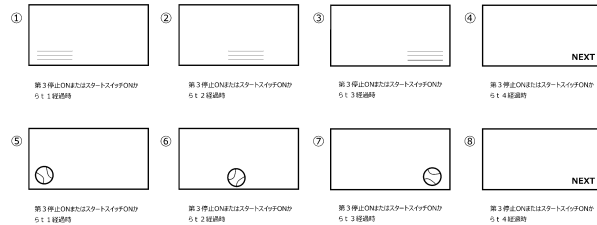
【図 9 3】



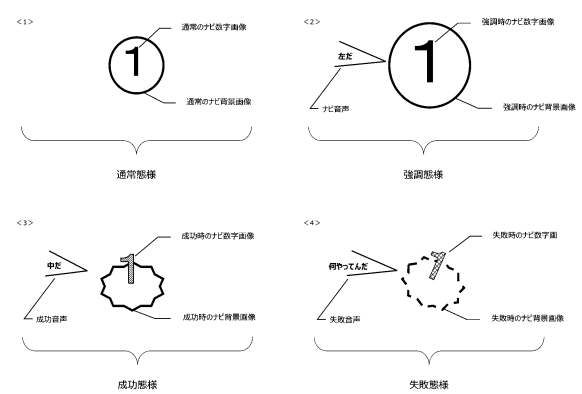
【図 9 4】



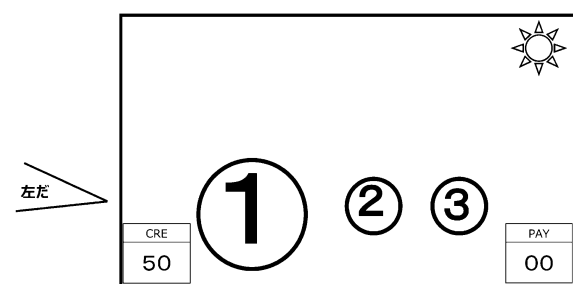
【図 9 5】



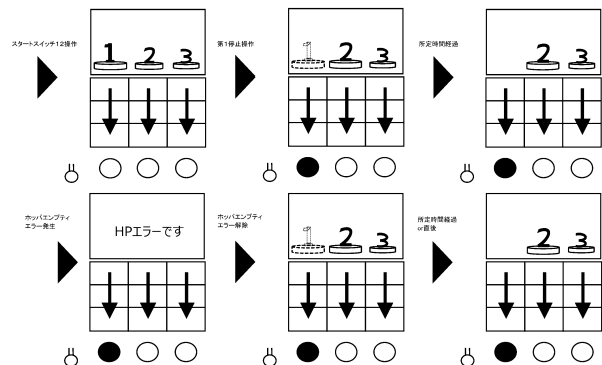
【図 9 6】



【図 9 7】



【図 9 8】



10

20

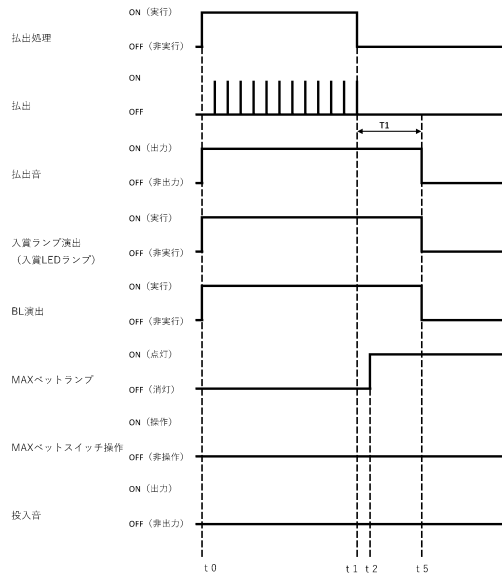
30

40

50

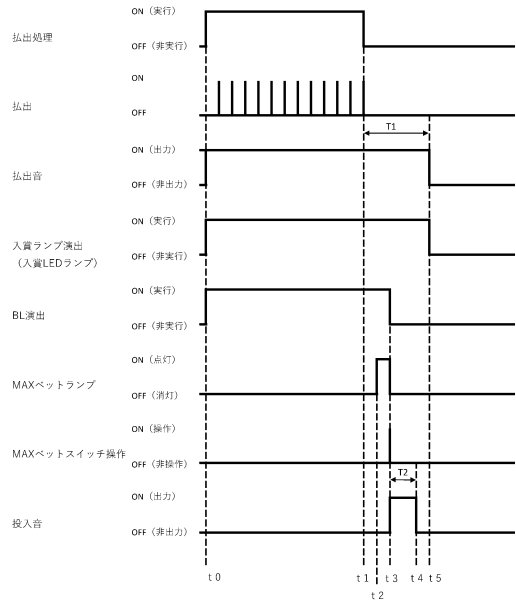
【図 9 9】

<押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合>



【図 1 0 0】

<押し順役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合>

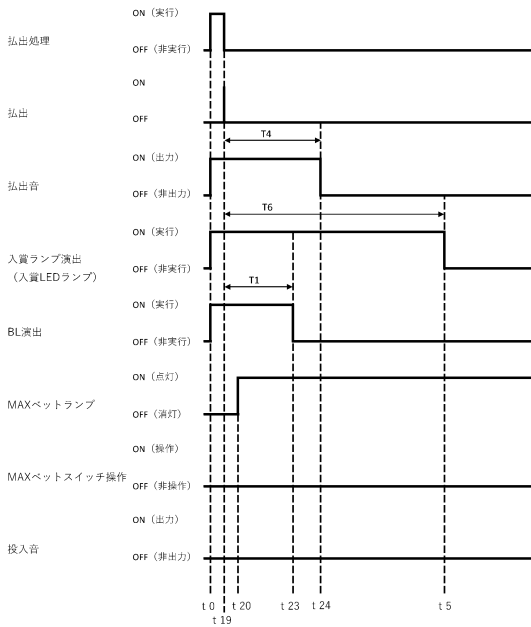


10

20

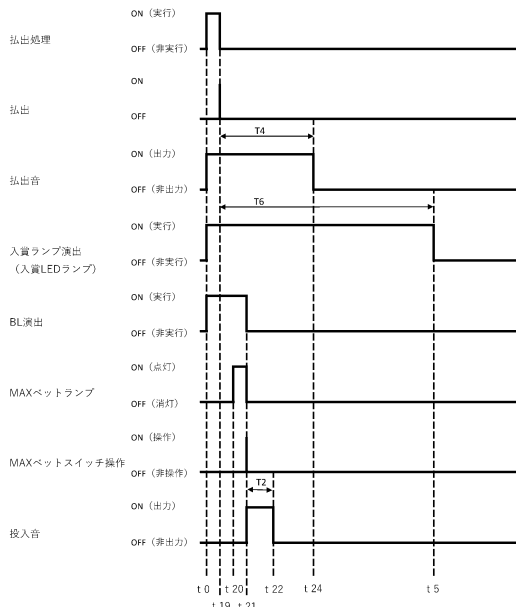
【図 1 0 1】

<チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行わなかった場合>



【図 1 0 2】

<チェリー役の入賞に基づく払出処理終了後にMAXベットスイッチによる投入操作を行った場合>



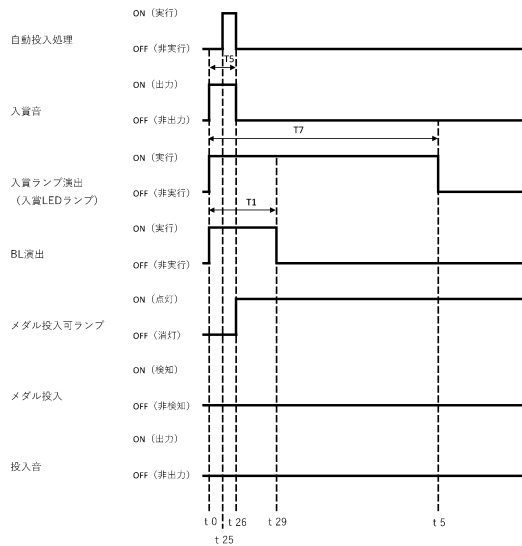
30

40

50

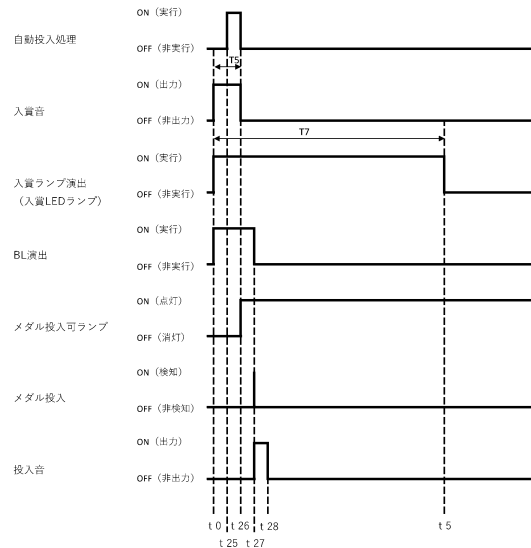
【図 1 0 3】

<リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行わなかった場合>



【図 1 0 4】

<リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に遊技メダルの投入を行った場合>

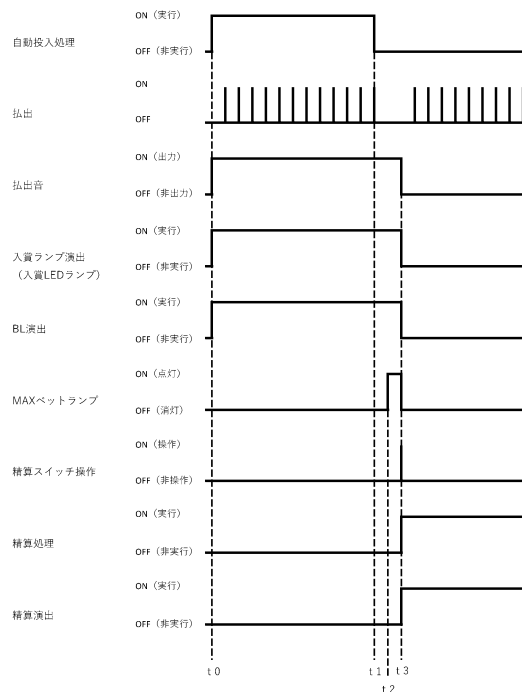


10

20

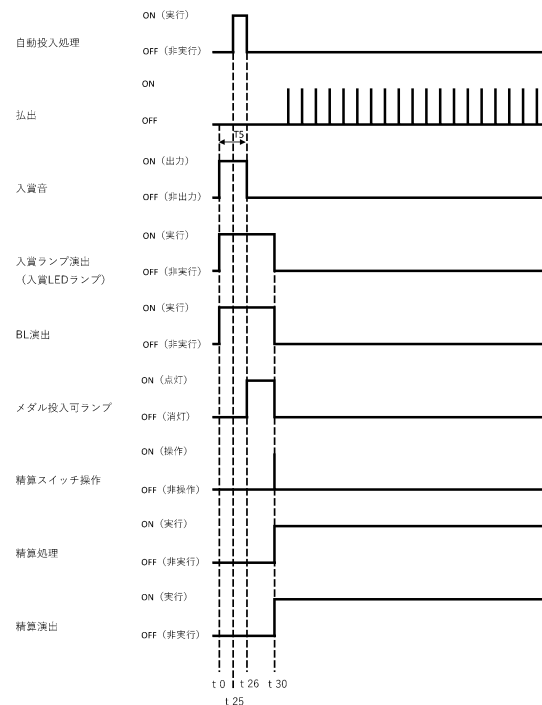
【図 1 0 5】

<押し順役の入賞に基づく払出処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合>



【図 1 0 6】

<リプレイ役の入賞に基づく自動投入処理終了後に精算スイッチによる精算操作を行った場合>

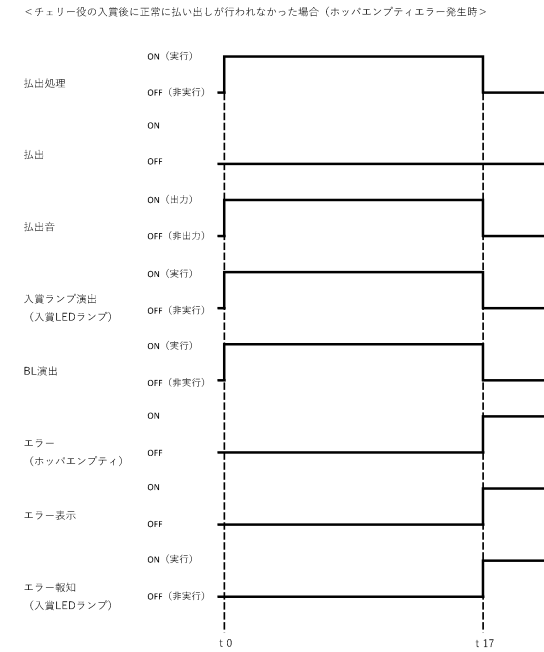


30

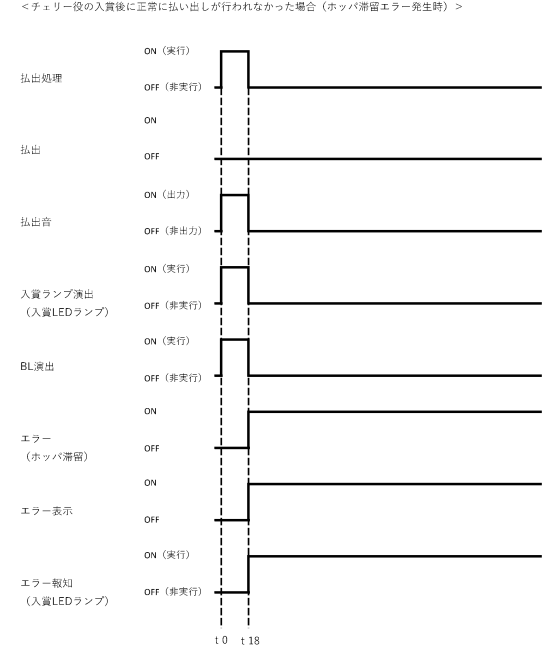
40

50

【図 1 0 7】



【図 1 0 8】



【図 1 0 9】

図柄番号	左リール		中リール		右リール	
	名称	図柄	名称	図柄	名称	図柄
19	黄セブン		黄セブン		黄セブン	
18	チェリー		チェリー		スィカ	
17	スィカ		ベルA		ベルA	
16	リプレイ		リプレイ		リプレイ	
15	ベルA		スィカ		チェリー	
14	赤セブン		赤セブン		赤セブン	
13	チェリー		チェリー		スィカ	
12	スィカ		ベルA		ベルA	
11	リプレイ		リプレイ		リプレイ	
10	ベルA		スィカ		チェリー	
9	バー		バー		バー	
8	チェリー		ブランク		スィカ	
7	スィカ		ベルB		ベルB	
6	リプレイ		リプレイ		リプレイ	
5	ベルB		スィカ		チェリー	
4	白セブン		白セブン		白セブン	
3	チェリー		ブランク		スィカ	
2	スィカ		ベルB		ベルB	
1	リプレイ		リプレイ		リプレイ	
0	ベルB		スィカ		チェリー	

【図 1 1 0】

条件装置一覧表			
ボーナス 条件装置	条件装置	通称	
0	なし	ハズレ	
1	1 種 B B 条件装置	1 種 B B	
2	R B → B 条件装置	S R B	
3	R B → A 条件装置	S R B	

入賞 再遊技	条件装置	通称	備考
0	なし	ハズレ	
1	再遊技 → A 条件装置	リプレイ	
2	入賞 → A 1 条件装置	A 群ベル	6 択押し順ベル
3	入賞 → A 2 条件装置	A 群ベル	6 択押し順ベル
4	入賞 → A 3 条件装置	A 群ベル	6 択押し順ベル
5	入賞 → A 4 条件装置	A 群ベル	6 択押し順ベル
6	入賞 → A 5 条件装置	A 群ベル	6 択押し順ベル
7	入賞 → A 6 条件装置	A 群ベル	6 択押し順ベル
8	入賞 → B 1 条件装置	B 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順ベル
9	入賞 → B 2 条件装置	B 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順ベル
10	入賞 → B 3 条件装置	B 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順ベル
11	入賞 → B 4 条件装置	B 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順ベル
12	入賞 → C 1 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
13	入賞 → C 2 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
14	入賞 → C 3 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
15	入賞 → C 4 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
16	入賞 → C 5 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
17	入賞 → C 6 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
18	入賞 → C 7 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
19	入賞 → C 8 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
20	入賞 → C 9 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
21	入賞 → C 1 0 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
22	入賞 → C 1 1 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
23	入賞 → C 1 2 条件装置	C 群ベル	6 択押し順×2 択目押しベル
24	入賞 → D 1 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
25	入賞 → D 2 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
26	入賞 → D 3 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
27	入賞 → D 4 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
28	入賞 → D 5 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
29	入賞 → D 6 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
30	入賞 → D 7 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル
31	入賞 → D 8 条件装置	D 群ベル	左 1st 低め、4 択押し順×2 択目押しベル

10

20

30

40

50

【図 1 1 1】

図柄名称	図柄組合せ			払出
	左リール	中リール	右リール	
入賞 0 1	ベルA	ベルB	ベルB	8
入賞 0 2	ベルA	ベルB	ベルA	8
入賞 0 3	ベルA	ベルA	ベルB	8
入賞 0 4	ベルA	ベルA	ベルA	8
入賞 0 5	ベルB	ベルB	ベルB	8
入賞 0 6	ベルB	ベルB	ベルA	8
入賞 0 7	ベルB	ベルA	ベルB	8
入賞 0 8	ベルB	ベルA	ベルA	8
入賞 0 9	ベルA	黄セブン	黄セブン	1
入賞 1 0	ベルA	黄セブン	赤セブン	1
入賞 1 1	ベルA	黄セブン	バー	1
入賞 1 2	ベルA	黄セブン	白セブン	1
入賞 1 3	ベルA	赤セブン	黄セブン	1
入賞 1 4	ベルA	赤セブン	赤セブン	1
入賞 1 5	ベルA	赤セブン	バー	1
入賞 1 6	ベルA	赤セブン	白セブン	1
入賞 1 7	ベルA	バー	黄セブン	1
入賞 1 8	ベルA	バー	赤セブン	1
入賞 1 9	ベルA	バー	バー	1
入賞 2 0	ベルA	バー	白セブン	1
入賞 2 1	ベルA	白セブン	黄セブン	1
入賞 2 2	ベルA	白セブン	赤セブン	1
入賞 2 3	ベルA	白セブン	バー	1
入賞 2 4	ベルA	白セブン	白セブン	1
入賞 2 5	ベルB	黄セブン	黄セブン	1
入賞 2 6	ベルB	黄セブン	赤セブン	1
入賞 2 7	ベルB	黄セブン	バー	1
入賞 2 8	ベルB	黄セブン	白セブン	1
入賞 2 9	ベルB	赤セブン	黄セブン	1
入賞 3 0	ベルB	赤セブン	赤セブン	1
入賞 3 1	ベルB	赤セブン	バー	1
入賞 3 2	ベルB	赤セブン	白セブン	1
入賞 3 3	ベルB	バー	黄セブン	1
入賞 3 4	ベルB	バー	赤セブン	1
入賞 3 5	ベルB	バー	バー	1
入賞 3 6	ベルB	バー	白セブン	1
入賞 3 7	ベルB	白セブン	黄セブン	1
入賞 3 8	ベルB	白セブン	赤セブン	1
入賞 3 9	ベルB	白セブン	バー	1
入賞 4 0	ベルB	白セブン	白セブン	1
入賞 4 1	黄セブン	ベルA	黄セブン	1
入賞 4 2	黄セブン	ベルA	赤セブン	1
入賞 4 3	黄セブン	ベルA	バー	1
入賞 4 4	黄セブン	ベルA	白セブン	1
入賞 4 5	赤セブン	ベルA	黄セブン	1
入賞 4 6	赤セブン	ベルA	赤セブン	1
入賞 4 7	赤セブン	ベルA	バー	1
入賞 4 8	赤セブン	ベルA	白セブン	1
入賞 4 9	バー	ベルA	黄セブン	1
入賞 5 0	バー	ベルA	赤セブン	1
入賞 5 1	バー	ベルA	バー	1
入賞 5 2	バー	ベルA	白セブン	1

【図 1 1 2】

図柄名称	図柄組合せ			払出
	左リール	中リール	右リール	
入賞 1 0 5	リプレイ	黄セブン	黄セブン	1
入賞 1 0 6	リプレイ	黄セブン	赤セブン	1
入賞 1 0 7	リプレイ	黄セブン	バー	1
入賞 1 0 8	リプレイ	黄セブン	白セブン	1
入賞 1 0 9	リプレイ	赤セブン	黄セブン	1
入賞 1 1 0	リプレイ	赤セブン	赤セブン	1
入賞 1 1 1	リプレイ	赤セブン	バー	1
入賞 1 1 2	リプレイ	赤セブン	白セブン	1
入賞 1 1 3	リプレイ	バー	黄セブン	1
入賞 1 1 4	リプレイ	バー	赤セブン	1
入賞 1 1 5	リプレイ	バー	バー	1
入賞 1 1 6	リプレイ	バー	白セブン	1
入賞 1 1 7	リプレイ	白セブン	黄セブン	1
入賞 1 1 8	リプレイ	白セブン	赤セブン	1
入賞 1 1 9	リプレイ	白セブン	バー	1
入賞 1 2 0	リプレイ	白セブン	白セブン	1
再遊技 0 1	黄セブン	チェリー	黄セブン	-
再遊技 0 1	黄セブン	チェリー	赤セブン	-
再遊技 0 1	黄セブン	チェリー	バー	-
再遊技 0 1	黄セブン	チェリー	白セブン	-
再遊技 0 1	赤セブン	チェリー	黄セブン	-
再遊技 0 1	赤セブン	チェリー	赤セブン	-
再遊技 0 1	赤セブン	チェリー	バー	-
再遊技 0 1	赤セブン	チェリー	白セブン	-
再遊技 0 1	バー	チェリー	黄セブン	-
再遊技 0 1	バー	チェリー	赤セブン	-
再遊技 0 1	バー	チェリー	バー	-
再遊技 0 1	バー	チェリー	白セブン	-
再遊技 0 1	白セブン	チェリー	黄セブン	-
再遊技 0 1	白セブン	チェリー	赤セブン	-
再遊技 0 1	白セブン	チェリー	バー	-
再遊技 0 1	白セブン	チェリー	白セブン	-
再遊技 0 2	リプレイ	ブランク	スイカ	-
再遊技 0 3	赤セブン	リプレイ	リプレイ	-
再遊技 0 4	リプレイ	リプレイ	リプレイ	-

10

20

【図 1 1 3】

条件装置	図柄名称	備考 1	備考 2
入賞-A 1	入賞 0 1 ~ 4 0 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123: 入賞 0 1 ~ 0 8 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 123, 132以外: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0	
入賞-A 2	入賞 0 1 ~ 4 0 . 1 0 5 ~ 1 2 0	132: 入賞 0 1 ~ 0 8 123: 入賞 0 9 ~ 4 0 123, 132以外: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0	
入賞-A 3	入賞 0 1 ~ 7 2 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 0 1 ~ 0 8 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312, 321: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0	
入賞-A 4	入賞 0 1 ~ 7 2 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 0 1 ~ 0 8 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312, 321: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0	
入賞-A 5	入賞 0 1 ~ 4 0 . 7 3 ~ 1 0 4 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213, 231: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0 312: 入賞 0 1 ~ 0 8 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-A 6	入賞 0 1 ~ 4 0 . 7 3 ~ 1 0 4 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213, 231: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0 312: 入賞 0 1 ~ 0 8 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-B 1	入賞 0 1 ~ 7 2 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 0 1 ~ 0 8 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312, 321: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0	入賞-A 3 と同じ
入賞-B 2	入賞 0 1 ~ 7 2 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 0 1 ~ 0 8 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312, 321: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0	入賞-A 4 と同じ
入賞-B 3	入賞 0 1 ~ 4 0 . 7 3 ~ 1 0 4 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213, 231: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0 312: 入賞 0 1 ~ 0 8 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	入賞-A 5 と同じ
入賞-B 4	入賞 0 1 ~ 4 0 . 7 3 ~ 1 0 4 . 1 0 5 ~ 1 2 0	123, 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213, 231: 入賞 1 0 5 ~ 1 2 0 312: 入賞 0 1 ~ 0 8 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	入賞-A 6 と同じ
入賞-C 1	入賞 0 1 ~ 0 4 . 0 9 ~ 1 0 4	123+赤7: 入賞 0 9 ~ 2 4 123+白7: 入賞 2 5 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 2	入賞 0 5 ~ 0 8 . 0 9 ~ 1 0 4	123+赤7: 入賞 0 9 ~ 2 4 123+白7: 入賞 0 5 ~ 0 8 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 3	入賞 0 1 ~ 0 4 . 0 9 ~ 1 0 4	132+赤7: 入賞 0 1 ~ 0 4 132+白7: 入賞 2 5 ~ 4 0 123: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 4	入賞 0 5 ~ 0 8 . 0 9 ~ 1 0 4	132+赤7: 入賞 0 9 ~ 2 4 132+白7: 入賞 0 5 ~ 0 8 123: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	

【図 1 1 4】

条件装置	図柄名称	備考 1	備考 2
入賞-C 5	入賞 0 3 . 0 4 . 0 7 . 0 8 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213+赤7: 入賞 0 3 . 0 4 . 0 7 . 0 8 213+白7: 入賞 5 7 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 6	入賞 0 1 . 0 2 . 0 5 . 0 6 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213+赤7: 入賞 4 1 ~ 5 6 213+白7: 入賞 0 1 . 0 2 . 0 5 . 0 6 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 7	入賞 0 3 . 0 4 . 0 7 . 0 8 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213+赤7: 入賞 0 3 . 0 4 . 0 7 . 0 8 213+白7: 入賞 5 7 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 8	入賞 0 1 . 0 2 . 0 5 . 0 6 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213+赤7: 入賞 4 1 ~ 5 6 213+白7: 入賞 0 1 . 0 2 . 0 5 . 0 6 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312: 入賞 7 3 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 9	入賞 0 2 . 0 4 . 0 6 . 0 8 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312+赤7: 入賞 0 2 . 0 4 . 0 6 . 0 8 312+白7: 入賞 8 9 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 1 0	入賞 0 1 . 0 3 . 0 5 . 0 7 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312+赤7: 入賞 7 3 ~ 8 8 312+白7: 入賞 0 1 . 0 3 . 0 5 . 0 7 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 1 1	入賞 0 2 . 0 4 . 0 6 . 0 8 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231: 入賞 4 1 ~ 7 2 312+赤7: 入賞 0 2 . 0 4 . 0 6 . 0 8 312+白7: 入賞 8 9 ~ 1 0 4 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	
入賞-C 1 2	入賞 0 1 . 0 3 . 0 5 . 0 7 . 0 9 ~ 1 0 4	123: 入賞 0 9 ~ 4 0 132: 入賞 0 9 ~ 4 0 213: 入賞 4 1 ~ 7 2 231+赤7: 入賞 7 3 ~ 8 8 312+白7: 入賞 0 1 . 0 3 . 0 5 . 0 7 321: 入賞 7 3 ~ 1 0 4	

30

40

50

【図 115】

条件設定	図形名称	備考1	備考2
入翼-D1	入翼03.04.07.08.09~104	123:入翼09~40 123:入翼09~40 213+背7:入翼03.04.07.08 213+背7:入翼57~72 231:入翼41~72 312:入翼73~104 321:入翼73~104	入翼-C5E同C
入翼-D2	入翼01.02.05.06.09~104	123:入翼09~40 123:入翼09~40 213+背7:入翼41~56 213+背7:入翼01.02.05.06 231:入翼41~72 312:入翼73~104 321:入翼73~104	入翼-C6E同C
入翼-D3	入翼03.04.07.08.09~104	123:入翼09~40 123:入翼09~40 231+背7:入翼03.04.07.08 231+背7:入翼57~72 231:入翼41~72 312:入翼73~104 321:入翼73~104	入翼-C7E同C
入翼-D4	入翼01.02.05.06.09~104	123:入翼09~40 123:入翼09~40 231+背7:入翼41~56 231+背7:入翼01.02.05.06 231:入翼41~72 312:入翼73~104 321:入翼73~104	入翼-C8E同C
入翼-D5	入翼02.04.06.08.09~104	123:入翼09~40 132:入翼09~40 213:入翼41~72 231:入翼41~72 312+背7:入翼02.04.06.08 312+背7:入翼89~104 321:入翼73~104	入翼-C9E同C
入翼-D6	入翼01.03.05.07.09~104	123:入翼09~40 132:入翼09~40 213:入翼41~72 231:入翼41~72 312+背7:入翼73~88 312+背7:入翼01.03.05.07 321:入翼73~104	入翼-C10E同C
入翼-D7	入翼02.04.06.08.09~104	123:入翼09~40 132:入翼09~40 213:入翼41~72 321+背7:入翼02.04.06.08 321+背7:入翼89~104 312:入翼73~104	入翼-C11E同C
入翼-D8	入翼01.03.05.07.09~104	123:入翼09~40 132:入翼09~40 213:入翼41~72 231:入翼41~72 321+背7:入翼73~88 321+背7:入翼01.03.05.07 312:入翼73~104	入翼-C12E同C
両面投-A	両面投01~04	中9:机上投送セパシ分岐減速:両面投01 中9:机上投送セパシ分岐減速:両面投04 中9:机上投送セパシ分岐減速:両面投02 中9:机上投送セパシ分岐減速:両面投04 中9:机上投送セパシ分岐減速:両面投03 中9:机上投送セパシ分岐減速:両面投04	

10

20

30

40

50

フロントページの続き

- 会社内
(72)発明者 小野 翔太郎
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
(72)発明者 清水 翔太
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
(72)発明者 梅津 裕和
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
(72)発明者 森下 友貴
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
(72)発明者 菊川 剛
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
(72)発明者 横道 隆太
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
(72)発明者 今村 亮介
東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内
審査官 鶴岡 直樹
(56)参考文献 特許第7343790(JP, B2)
特許第7451059(JP, B2)
特開2018-082847(JP, A)
特開2019-111084(JP, A)
特開2019-063329(JP, A)
特開2017-144026(JP, A)
特開2013-078541(JP, A)
(58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A63F 5/04